Oracle® Fusion Cloud EPM
レポートの設計



F28064-30



Oracle Fusion Cloud EPM レポートの設計、

F28064-30

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 レポートの概要

レポートについて 1
レポート・コンポーネント 3

3 レポートの設計

レポートを設計する前に 1
接続およびデータ・ソースについて 1
　データ・ソース接続の作成と編集 3
レポート・デザイナの操作 7
　レポート・デザイナへのアクセス 8
　レポート・デザイナについて 9
　レポート・デザイナ・ツールバー 10
　レポート・プロパティ 14
レポート・オブジェクトの操作 16
　レポート・オブジェクトの挿入 16
　レポート・オブジェクトのサイズ変更、編集および再配置 17
　シート間でのレポート・オブジェクトのコピー/移動 18
視点について 19
　視点の概要 19
　グローバル視点とローカル視点 20
テキスト関数を使用した情報の表示 21
レポート・エラーの修正 22

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4 グリッドの操作

グリッドについて 1
グリッドの追加 2
- グリッド・デザイナについて 2
- グリッド・プロパティについて 3
  - グリッド・プロパティの概要 3
  - 一般プロパティ 4
  - 列のプロパティ 10
  - 行のプロパティ 11
  - グリッド・セルの書式設定 13
  - ソート 17
- グリッド・ツールバー 18
- 非表示のグリッドの使用 19
- 書式設定のベスト・プラクティス 20

視点の定義 20
- 視点について 21
- 視点の操作 21
- 視点の設定 23
- 出力可能なページ・メンバーの表示 24
- 属性ディメンションおよび視点 28
- 視点の例 29

グリッドの行および列の操作 37
- 行および列の挿入 37
- 行および列のコピー、移動および削除 39
- グリッド・セグメント間でのメンバー選択のコピー 39
- 行または列の非表示 40
- 行または列のマージと分割 40
- 行または列の前への改ページの挿入 42
- 式行および式列の定義 42
  - 式行または式列の挿入 42
  - セル・レベルでの計算 43

算式バーの使用 43
- 算式の作成 44
- 式を使用したレポートの例 44
- 算式バーを使用したメンバー選択の変更 46
- 算式バーでのオートコンプリートの使用 47

条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作 49
- 条件の作成 50
- 条件付き書式設定の例 55

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

条件付きテキストの例 58
条件付き抑制の例 63
条件付き書式設定、テキストおよび抑制のインジケータとツールチップ 65
条件の管理 66
条件付き書式設定、テキストおよび抑制の考慮事項 67
条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータ 69
条件付きテキストでの分析 76
拡張条件の操作 79
グリッドの親メンバーのズーム 83
グリッド・レベルのズーム 85
行/列セグメント・レベルのズーム 87
アドホック・ズーム 89
グループ化の操作 91
グループの概要 91
グループ化とグリッド式 92
グループ化と改ページ 93
グループ化に関する考慮事項 94
グループ化の追加 94
グループ化の除去 96
複数のグループ化を使用したグループ化の例 97
ソートとグループ化 103
式およびテキスト関数のグループへの参照 106
グループでの条件付き書式設定および条件付き抑制 107
例: 複数メンバーの行または列を参照する算式でのグループ化の使用 108
コンテンツへのドリル操作 110
コンテンツへのドリル・リンクの定義 111
コンテンツへのドリル定義の管理 113
ターゲット・レポートへの視点の引渡し 113
グリッド・セルでのコンテンツへのドリルの結果例 114
ドリル・スルーとセル・ファイル添付の操作 115
有効な交差の操作 117
有効な交差について 118
視点からの有効な交差についての理解 119
グリッド・データでの有効な交差についての理解 126
バタフライ・レポートの操作 127
「子の前に祖先」プロパティの操作 129

5 表の操作

表について 1

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表の追加 1
表デザイナについて 2
表プロパティについて 2
表プロパティの概要 3
一般プロパティ 4
列のプロパティ 7
行のプロパティ 9
表セルの書式設定 10
ソート 14
表のツールバー 15
非表示の表の使用 16
基準の操作 17
書式設定のベスト・プラクティス 21
視点の定義 22
視点について 22
視点の操作 22
視点の設定 23
出力可能なページ・メンバーの表示 24
表の行および列の操作 25
行および列の挿入 26
行および列のコピー、移動および削除 27
表セグメント間でのメンバー選択のコピー 27
行または列の非表示 27
列のマージおよび分割 28
行または列の前への改ページの挿入 29
式行および式列の定義 30
式行または式列の挿入 30
セル・レベルでの計算 30
算式バーの使用 31
算式の作成 31
算式バーを使用したメンバー選択の変更 32
算式バーでのオートコンプリートの使用 32
条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作 32
条件の作成 33
条件付き書式設定の例 38
条件付き書式設定、テキストおよび抑制のインジケータとツールチップ 39
条件の管理 40
条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータ 41
条件付きテキストでの分析 45
拡張条件の操作 48

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グループ化の操作 52
グループの概要 52
グループ化と改ページ 53
グループ化に関する考慮事項 53
グループ化の追加 54
グループ化の除去 56
ソートとグループ化 57
式およびテキスト関数のグループへの参照 58
コンテンツへのドリル操作 59
コンテンツへのドリル・リンクの定義 60
コンテンツへのドリル定義の管理 61
ターゲット・レポートへの視点の引渡し 62

6 テキスト・ボックスの操作

テキスト・ボックスの追加 1
テキスト・ボックスの書式設定 2
テキスト文字幅プロパティの使用 8

7 イメージの操作

イメージの挿入 1
イメージの書式設定 1

8 チャートの操作

チャートについて 1
チャートの挿入 2
チャート・デザイナについて 3
チャート・デザイナ・ビュー 4
チャート・プロパティ 4
チャート・データ・ポイントのサイズおよびラベル表示の理解 9
チャートの二重 Y 軸の理解 10
ウォーターフォール・チャートについて 13
散布図およびバブル・チャートについて 16
ツリーマップ・チャートおよびサンバースト・チャートについて 20
例: ツリーマップ・チャートおよびサンバースト・チャート 23
ゲージ・チャートについて 29
ゲージ・チャート・プロパティ 31

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例: ゲージ・チャート 33

9 共有レポートおよびオブジェクトの操作

共有レポートおよびオブジェクトについて 1
共有レポートとしてのレポートの保存 3
レポートへの共有オブジェクトの挿入 5
レポート内の共有オブジェクトのリンク解除 8
共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作 10

10 メンバーの定義

メンバーの定義について 1
メンバーの割当 3
データ行または列へのメンバーの割当 3
関数を使用したメンバーの割当 4
メンバー選択で使用可能な関数 6
例: Intersect 関数と Except 関数の組合せ 9
例: Range 関数を使用したローリング・レポートの作成 10
例: Match 関数と CurrentPOV の使用 17
例: ローリング四半期を返すための PeriodOffset および Parent 関数の使用 19
プロンプトを使用したメンバーの割当 21
代替変数およびユーザー変数の操作 25
データ行またはデータ列の見出しの上書き 26
メンバーの検索 27
選択したメンバーのプレビュー 27
保存されたメンバー選択の操作 28
保存されたメンバー選択の作成、編集、削除、名前変更および複製 28
メンバー選択での保存された選択の使用 29
共有メンバーの抑制 30
サポート詳細の表示 30

11 関数の使用

算術関数 3
算術関数について 4
算術関数の引数 4
式の算術演算子 6
式の算術オペランド 7
式を使用した同じレポート内の別のグリッドの参照 7

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

通常の優先順位 10
Absolute 10
Average 11
AverageA 12
Count 13
CountA 13
Difference 14
Eval 15
IFThen 16
Max 16
Min 16
PercentofTotal 17
Product 18
Rank 18
Round 20
Sum 21
SumV 22
Truncate 23
Variance 24
Essbase を使用した予想される結果 24
Cloud EPM を使用した予想される結果 24
Variance の動作 25
例 25
VariancePercent 25
Essbase を使用した予想される結果 26
Cloud EPM を使用した予想される結果 26
VariancePercent の動作 26
例 26
テキスト関数 27
グリッドのテキスト関数について 28
テキスト関数に関する考慮事項 28
テキスト関数のパラメータ 29
AncestorName / AncestorAlias 30
AutoTextSummary 32
CellText 33
CellValue 34
ColumnNumber/RowNumber 34
ConditionalText 35
DateTime 35
GridNotes 38
HeadingValue 39

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Left/Right/Mid 40
MemberAlias 41
MemberName 41
MemberProperty 42
ノート 46
PageCount 46
PageNumber 46
ReportAuthor 47
ReportCreatedOn 47
ReportDescription 48
ReportLocation 48
ReportModifiedBy 48
ReportModifiedOn 49
ReportName 49
ReportRunBy 49
SummarizeGridNotes 50
表のテキスト関数について 50
AncestorAlias 50
AttributeValue 51
DateOffset 52
条件関数 53
IFThen、If 54
条件演算子 54
複合条件 56

12 ノートの操作

ノートについて 1
ノート・テンプレートの作成 4
ノート・テンプレートの操作 5
レポートへのノート・ボックスの挿入 6
ノート・テンプレートの設定 8
プロパティの設定 11
ノート・テンプレートへのプレースホルダ・テキストの入力 13
ディメンション・レイアウトの設定 15
視点選択内容とオプションの設定 15
ノート・テンプレートの保存 17
ノートのインライン・グリッド・エントリの設定 18
ノート列またはノート行の挿入 20
ノート行またはノート列のメンバーの選択 21
ノート・エントリの許可プロパティの設定 22

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

既存のノート・テンプレートの選択または新規ノート・テンプレートの作成 25
インライン・グリッド・エントリのためのノート・テンプレートの管理 28
ノート・マネージャの使用 29
ノート・マネージャの概要 29
ノート・マネージャの操作 33
ノート・テキスト関数の使用 57
ノート・フォーマットの操作 58
ノート・フォーマットの概要 58
ノート・フォーマット・マネージャへのアクセス 60
ノート・フォーマットの作成 62
ノート・フォーマット・テキスト関数の使用 68
ノート・フォーマットの作成に関する制限事項 69
ノート・フォーマット・テキスト関数の理解 70
レポートでの名前付き POV の操作 72
名前付き POV の概要 72
名前付き POV の作成 72
例: 名前付き POV および POV ディメンション・オプションの使用 79
レポートでのノート・テキスト関数の挿入 84
セキュリティ - ノート・テンプレートとノートのロールおよびアクセス権 88
ベスト・プラクティス 89

13 ブックの操作

ブックについて 1
ブックの作成に関する制限事項 3
ブック作成ウィンドウへのアクセス 4
ブックの作成 7
ブック定義の保存 9
ブック・デザイナについて 9
ブック・デザイナ・ツールバーについて 11
ブック・プロパティについて 12
ブック・デザイナの操作 13
ブック・デザイナの「処理」メニューの操作 13
データ・ソースの追加 18
データ・ソースの並替え 20
データ・ソースの変更 21
ブック内の別名表の管理 23
ブック視点の設定 24
ブックでの文書の管理 24
ブックへのセクションの追加 25

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブック内でのセクションの移動 26
セクションの削除 28
ブック・ノードの下への文書の追加 28
現在の選択の上または下への文書の追加 29
ブックへの複数の文書の追加 30
ブック内での文書の移動 31
文書の削除 32
レポート・プロンプト選択の定義 33
ブック・プロンプトの例 36
レポート、ブックおよびセクションの視点選択の操作 38
レポートまたはブックの視点の設定 41
セクションの視点の設定 44
ブックでの目次の表示 46
Word の目次テンプレートの設定 46
文書またはセクションの目次表示の設定 50
セクションの操作 52
複数のデータ・ソースの操作 53

14 バースティングの操作

バースティングについて 1
前提条件 9
バースティング定義を作成するための簡単なステップ 9
新規バースティング定義の作成 12
バースティング・アーティファクトの選択 14
バースティング視点の設定 15
ターゲット配布ファイルの選択 19
ターゲット配布ファイルの使用 21
レガシー配布ファイルの設定 22
配布形式の選択 23
成功通知の定義 24
失敗通知の定義 25
E メール・チャネルの構成 26
ライブラリ・チャネルの構成 29
ユーザーの管理 31
バースティング定義の保存 32
バースティング定義処理メニューの操作 33
データ・ソースの並替え 35
バースティング定義での別名表の管理 36
バースティング定義の作成に関する制限事項 37

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

バースティング定義でのプロンプトの使用 37
複数のデータ・ソースでのバースティング定義の使用 39
バースティング定義に対するアクセス権限の設定 42

15 レポートでの生成 AI の操作

アーキテクチャの概要 4
Narrative Reporting での生成 AI の有効化 5
ナラティブ・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成 6
ズーム・サマリー・タイプの操作 7
ノート・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成 8
レポートでの生成 AI の操作 11
機械学習プロパティ・ファイルの操作 16
機械学習ファイルのプロパティ・ファイルへのアクセスおよび管理 16
機械学習ファイルのプロパティ・ファイルのカスタマイズ方法 18
生成 AI のガバナーおよび制限事項 19

16 レポートのジョブ・コンソールの操作

A ベスト・プラクティスとトラブルシューティングのトピック

レポート設計の考慮事項 A-1
レポート設計のベスト・プラクティス A-7
FAQ およびトラブルシューティングのトピック A-8

B Financial Reporting からのレポートの移行

Narrative Reporting での Financial Reporting の移行 B-1
Cloud EPM での Financial Reporting の移行 B-4
移行検証エラーの解決 B-8
Financial Reporting とレポートの相違 B-10

C レポートと Excel にインポートされたレポートの相違

D サンプル・レポート・コンテンツの操作

サンプル・レポートのレビュー D-1
サンプル・ブックのレビュー D-4

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての 詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)か、聴覚に障害のあるお客様は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs)を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックは、Oracle Help Center のトピックのページ下部にあるフィードバック・ボタンをクリックして送信してください。epmdoc_ww@oracle.com に E メールを送信することもできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジ対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。EPM CoE はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が Oracle Fusion Cloud EPM の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- EPM 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに EPM を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が EPM CoE からメリットを得られます。

どのように始めたらよいですか。

クリックして、EPM CoE のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: EPM センター・オブ・エクセレンスの概要。

さらに学習する

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス(CoE)の作成および実行
- ビデオを見る: 概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成。
- *EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行*の EPM CoE のビジネス上の利点と価値提案の確認。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2

レポートの概要

次も参照:

- レポートについて
- レポート・コンポーネント
  レポートは、レポート・コンポーネント、レポート・オブジェクトおよびグリッド・コンポーネントを使用することで設計します。

レポートについて

レポートでは、レポート参照者の強化された操作性とともにユーザー・フレンドリで堅牢なレポート開発フレームワークが提供されます。レポートは、Narrative Reporting (Narrative Reporting デプロイメント)に含まれ、複数の Oracle Fusion Cloud EPM ソース、Essbase Cloud および ERP Cloud Financials からチャートおよびグリッドを挿入できるようにします。レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォーム・ビジネス・プロセスおよびアプリケーションにも埋め込まれています: Enterprise Profitability and Cost Management、Planning および Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、および単一インスタンス・レポートのフリーフォーム(Cloud EPM デプロイメント)。

レポートにはブックおよびバースティングも含まれます。ブックを使用すると、1 つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一の PDF または Excel 出力を生成できます。バースティングでは、1 つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数のメンバーに対して単一のレポートまたはブックを実行し、各メンバーの PDF または Excel 出力を公開できます。

レポートを使用して、特に Cloud EPM ビジネス・プロセスおよびコンポーネント(タスク・マネージャ、補足データ、エンタープライズ仕訳など)の Cloud EPM システム・レポートを生成することもできます(エンタープライズ・ライセンスのみ)。必要に応じてレポート内にデータ表を埋め込み、システム・データを含めることができます。このことを行うには、リレーショナル表をレポートに挿入して Cloud EPM ビジネス・プロセス・スキーマに接続し、メンバーを選択した後、Cloud EPM リレーショナル・システム・データに基づいてシステム・レポートを生成します。メンバー・セレクタ、プロンプトと POV、書式設定、ソート、コンテンツへのドリル、条件付き書式設定/抑制、式、グループ化など、一部のグリッド機能を表で使用することもできます。リレーショナル表で使用できるその他のレポート機能は、チャート、テキスト・ボックス、ブック、バースティングおよび Excel 出力(レポートのみ)です。

Narrative Reporting デプロイメントのレポートは、POV ベースのナラティブ・テキストのノートも含み、書式設定されたレポートにグリッドおよびチャートとともに表示されます。レポート構造およびナラティブの要件がエンティティ、部門などの間で統一されている場合、ノートを利用できます。Cloud EPM デプロイメントにはノートが含まれていません。

レポートにはレポートの設計および編集用の使いやすいドラッグ・アンド・ドロップ・インタフェースが備わっています。次のことが可能です。

- レポート・オブジェクト(グリッド、チャート、イメージ、テキストボックス)を作成し、レポートに挿入および配置します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- レポート全体を実行せずに、個々のグリッドまたはチャートを設計し、結果をプレビューします。
- Narrative Reporting デプロイメントでは、共有レポートに含まれているレポート・オブジェクトを挿入して、複数のレポートでレポート・オブジェクトを使用し、共有レポート・オブジェクトを保守する単一ポイントを提供します。
- グリッド値およびテキスト関数を計算するための式を挿入して、レポートおよびグリッド・メタデータを動的に取得します。
- 様々なチャートのタイプおよび機能を持つ強化チャートを利用します。
- 動的メンバー選択関数、代替変数、セル・テキストおよびファイル添付、Financial Intelligence、UDA および属性などのデータ・ソース機能をレポートに使用します。
- 条件付きの書式設定、テキストおよび抑制を適用して、グリッド・セルを書式設定したり、メンバー情報またはデータ値に基づいてデータを抑制します。
- 親メンバーをズームして詳細メンバーを表示し、その他のレポートまたはソース・データにドリルします。

Narrative Reporting デプロイメントでは、次のことが可能です。

- レポートを Narrative Reporting レポート・パッケージ・ドックレットに埋め込んで、コラボレーションによるナラティブ・レポート・プロセスに統合し、集中管理型の視点(POV)コントロールおよび自動ドックレット更新によるサーバー側リフレッシュを実行します。
- クロス・クラウド・コンテンツを単一のレポートに結合します。目的のデータ・ソースをポイントするようにデータ・ソース接続を作成および定義します。
- レポート、セキュリティおよび POV 選択は、Narrative Reporting 内で管理されます。アーティファクトは Narrative Reporting ライブラリ内で保存および管理されます。
- レポート、ブックおよびバースティングの定義は、別の環境にエクスポートおよびインポートできます。
- フォントはアップロードされて Narrative Reporting ライブラリ内で管理されます。
- バースティング定義のスケジュールは、Narrative Reporting のジョブ・コンソールを介して実行されます。
- Financial Reporting (FR)レポート・アーティファクト・エクスポートのライブラリ・インポートを介して、Financial Reporting (FR レポート)をレポートに移行します。
- 生成 AI (GenAI)を利用して、ナラティブ・サマリーをテキスト・ボックスまたはテキスト・セグメントに生成し、ノートを要約します。

Cloud EPM デプロイメントでは:

- レポートにノートまたは生成 AI 機能は含まれません。
- レポートは**リモート・ライブラリ**を介して Narrative Reporting に統合されますが、Cloud EPM デプロイメントのレポートは**レポート・パッケージ**や Narrative Reporting の**ブック**および**バースティング定義**には挿入できません。
- レポートは、単一インスタンス・レポートとともに各ビジネス・プロセスに埋め込まれます。他の Cloud EPM インスタンスをポイントできません。データ・ソースは、インスタンス上にある Cloud EPM アプリケーション・キューブに基づいて自動的に作成されます。
- レポート、セキュリティおよび POV 選択は、Cloud EPM プラットフォームによって管理されます。レポートは Cloud EPM リポジトリに保存されます。
- レポート、ブックおよびバースティング定義は、Cloud EPM ライフサイクル管理を使用して環境間で移動できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Financial Reporting カード/タブを介して、Financial Reporting (FR レポート)をネイティブにレポートに移行します。
- フォントはアップロードされてレポート設定の「アプリケーション設定」で管理されます。
- バースティング定義のスケジュールは、Cloud EPM プラットフォームのジョブ・スケジューラを介して実行されます。

次の概要ビデオを視聴して、レポートのハイライトを理解します。

 -- Cloud EPM Narrative Reporting のレポート.

 -- 新しい Cloud EPM プラットフォームのレポート.

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートを作成する方法を学習します。

 -- Narrative Reporting Cloud でのレポートの作成.

 -- Cloud EPM でのレポートの作成.

レポート・コンポーネント

レポートは、レポート・コンポーネント、レポート・オブジェクトおよびグリッド・コンポーネントを使用することで設計します。

レポート・コンポーネント

- **ヘッダー** - レポートの各ページの上部にあるテキストを表示できる領域。ヘッダーにはイメージも追加できます。
- **レポート本文** - グリッド、チャート、イメージおよびテキスト・ボックスを挿入して表示できるレポートのメイン領域。
- **フッター** - レポートに印刷される各ページの下部にあるテキストを表示できる領域。フッターにはイメージも追加できます。

レポート・オブジェクト

- **グリッド**— Cloud EPM ビジネス・プロセス、Essbase または Fusion ERP のキューブなど、マルチディメンショナル・データ・ソースから行および列のデータを取得するレポート・オブジェクト。
- **表** – Cloud EPM リレーショナル・スキーマからデータを取得するレポート・オブジェクト(エンタープライズ・ライセンスのみ)。
- **チャート** - グリッドからデータを表示するレポート・オブジェクト。チャートはグリッドのデータのグラフィック表現です。
- **テキスト・ボックス** - テキストを入力したり、レポート設定、データ値、視点(POV)値、ディメンション・メンバーなどのデータを取得する関数を挿入できるレポート・オブジェクト。
- **イメージ** - グラフィックまたはイメージ・ファイルを格納するレポート・オブジェクト。イメージは、レポートの本文およびヘッダーまたはフッターに追加できます。
- **ノート** — Narrative Reporting デプロイメントでは、構造化された POV ベースのコメント・エントリのために、**ノート・テンプレート**をレポートに挿入できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **共有済**— Narrative Reporting デプロイメントでは、共有レポートにある共有オブジェクト(グリッド、チャート、テキスト・ボックスおよびイメージ・オブジェクト)を複数のレポートに挿入でき、共有レポート・オブジェクトを保守する単一ポイントを提供します。

グリッド・コンポーネント

- **行** - グリッドの情報の横表示。行には、テキスト、データ、または計算から導出されたデータが含まれます。グリッドの個々の行の書式を設定できます。
- **列** - グリッドの情報の縦表示。列には、テキスト、データ、または計算から導出されたデータが含まれます。グリッドの個々の列の書式を設定できます。
- **セル** - グリッドの行、列、ページおよび視点(POV)の交差。グリッドの個々のセルの書式を設定できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3

レポートの設計

次も参照:

- レポートを設計する前に
  レポートの設計を開始する前に、次の質問に回答してください。
- 接続およびデータ・ソースについて
  データ・ソースでは、レポートのグリッドおよび表でクラウド・データ・ソースに接続する方法を定義します。
- レポート・デザイナの操作
  レポート・デザイナを使用して、レポート・オブジェクトを追加および編集し、レポート・プロパティを表示および編集します。
- レポート・オブジェクトの操作
- 視点について
  視点は、レポートにプルされるデータを識別します。
- テキスト関数を使用した情報の表示
  テキスト関数は、レポート名や摘要などのレポート情報、グリッドまたは表に関連付けられているデータベースに関する情報、またはデータベース接続のデータに関する情報を表示します。
- レポート・エラーの修正
  レポート全体または特定のレポート・オブジェクトでエラーが発生する場合があります。

レポートを設計する前に

レポートの設計を開始する前に、次の質問に回答してください。

レポートを設計する前に次の事項を検討してください。

- レポートの目的は何ですか。
- レポートのエンド・ユーザーは誰ですか。
- レポートの生成頻度と、生成するユーザーの数はどれくらいですか。
- レポートをレポート・パッケージに挿入する場合、そのレポート・パッケージに必要になるのはどのグリッドとチャートですか。
- どのデータ・ソースに接続する必要がありますか。

接続およびデータ・ソースについて

データ・ソースでは、レポートのグリッドおよび表でクラウド・データ・ソースに接続する方法を定義します。

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

レポートを様々なサポートされているデータ・ソースに接続するには、SSO ではなくネイティブ・ユーザーを使用する *サービス管理者* が **「接続」** を定義する必要があります。**データ・ソース**は、接続先の特定のキューブまたはリレーショナル・スキーマを定義します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **接続**によって、レポートのデータ・ソースの作成および保守が効率化され、アプリケーションの複数のキューブに対して資格証明保守の単一領域が提供されます。
- **「接続」**の作成または編集時に、データ・ソースとして追加するキューブを選択できます。キューブへの接続を保守するために、**「ライブラリ」**の**「データ・ソース」**アーティファクトもオプションで使用できますが、これは**「接続」**でも実行できます。データ・ソースによって**「接続」**は親アーティファクト・コンテナとして使用されます。データ・ソースの作成または編集時に、使用する**「接続」**を選択し、その接続からキューブを選択できます。システム・レポートについてサポートされている Cloud EPM ビジネス・プロセスに接続されている場合は、挿入された表を設定するときに該当するリレーショナル・スキーマが表示されます。
- ユーザーが Narrative Reporting でレポートにアクセスすると、ユーザー ID がデータ・ソースに渡されるため、キューブのアクセス権限(データおよびメンバー・セキュリティ)がレポート結果に適用されます。

接続では、同じドメインの Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォーム・インスタンスのレポート・アーティファクトに**リモート・ライブラリ**を介してアクセスすることもできます。Narrative Reporting ライブラリでは、ユーザーはリモート・ライブラリでレポート・アーティファクトを参照し、レポートをオープンしたり、Cloud EPM プラットフォームから Narrative Reporting にコピーすることができます。

> **ⓘ ノート**
>
> **リモート・ライブラリ**は、定期的に使用およびアクセスされており、**接続**で定義された資格証明が常に有効である場合にのみ有効にする必要があります。**「ライブラリ」**および関連カード(たとえば、**「レポート」**、**「ブック」**など)がセッションで初めてアクセスされると、**リモート・ライブラリ**が有効になっているすべての**接続**に対してチェックが実行されます。期限切れの資格証明または使用できないインスタンスのためにリモート接続にアクセスできない場合、**ライブラリ**および関連カードにアクセスするとパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

レポート・アーティファクトへの定期的なアクセスが必要な**接続**に対してのみ**リモート・ライブラリ**を有効にすることをお薦めします。また、**接続**の資格証明を最新の状態に保ち、**「ライブラリの有効化」**が選択された状態で定義された失効した、または未使用の**接続**を残さないでください。

データ・ソースを使用すると、2 つのレベルで接続を保守できます。

- **グローバル変更**: 特定の接続を使用するすべてのレポートを別の接続を使用するように変更します。たとえば、*server1:cubetype1* をポイントするすべてのレポート・グリッドが *server2:cubetype2* をポイントするようになります。
- **選択的変更**: 選択したレポートについて、異なるデータ・ソースをポイントするように接続を変更します。たとえば、2 つのデータ・ソース接続を作成し、レポート・グリッドの半分は *connection1* をポイントし、他の半分は *connection2* をポイントするようにします。connection1 または connection2 に対する接続詳細は、他のグリッドに影響を与えることなく変更できます。

サポートされるデータ・ソースは次のとおりです。

- 次のものに使用する Oracle Fusion Enterprise Performance Management。
  - Enterprise Profitability and Cost Management
  - フリーフォーム

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - Planning および Planning モジュール
  - Financial Consolidation and Close
  - Tax Reporting
- Oracle Essbase
- Oracle Fusion Cloud EPM Profitability and Cost Management
- Oracle Fusion Cloud Essbase
- Oracle Essbase On-premises Deployment

> ⓘ **ノート**
>
> - **接続**を作成している Narrative Reporting にログインした**「ユーザー ID」**と、**接続**の**管理者 ID** は、同じ**「ユーザー ID」**である必要があります。
> - Narrative Reporting および**接続**の**管理者 ID** は、**シングル・サインオン**(SSO)ではなく、**ネイティブ**・ユーザーである必要があります。詳細は、*管理者用スタート・ガイド*の SSO 対応の Cloud EPM および Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のユーザー資格証明の管理を参照してください。
> - Narrative Reporting を Cloud EPM データ・ソースに接続する際、Narrative Reporting のリリース・バージョンは Cloud EPM データ・ソースのリリース・バージョンと同じである必要があります。これは**リモート・ライブラリ**機能、および Narrative Reporting と Cloud EPM プラットフォーム ADM ドライバ(Cloud EPM プラットフォーム・キューブに対するデータおよびメンバー問合せで使用されます)の互換性確保のために必要です。

Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントの場合:

データ・ソースは、インスタンス上にある Cloud EPM アプリケーション・キューブに基づいて自動的に作成され、手動データ・ソース作成/保守は不要です。同じ Cloud EPM インスタンス上のキューブのみを利用できます。

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

 -- 接続およびリモート・ライブラリの操作.

データ・ソース接続の作成と編集

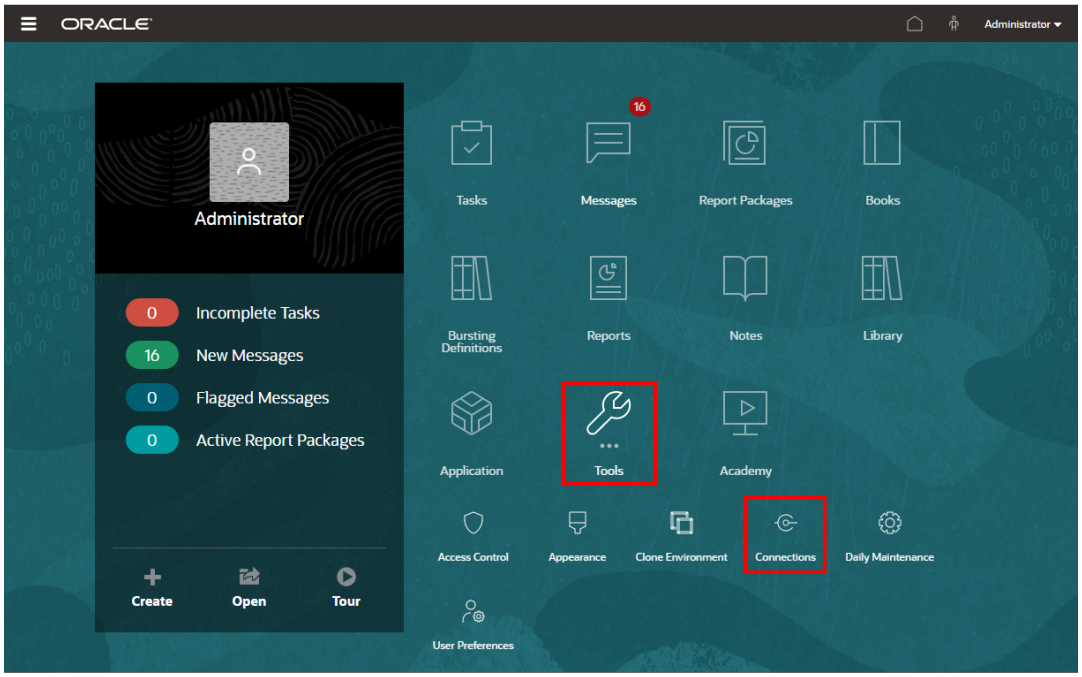
Narrative Reporting デプロイメントの場合:

接続を作成するには:

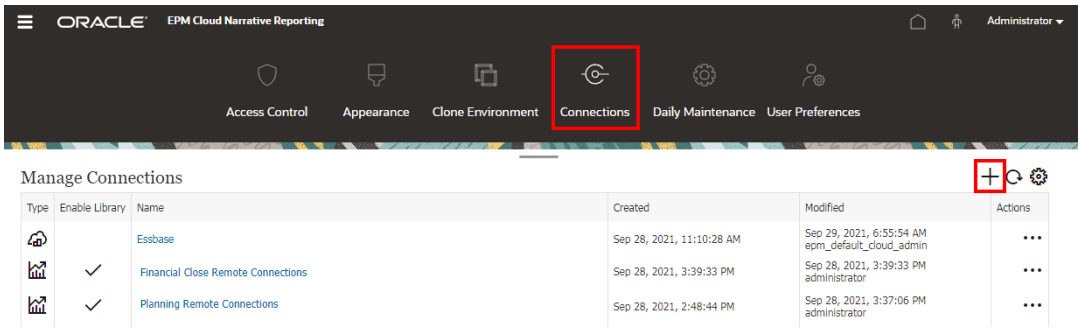
1. Narrative Reporting ホーム・ページで、**「ツール」**アイコンの下の**「接続」**を選択できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> - サービス管理者ロールのみが**接続**を作成および保守できます。
> - Narrative Reporting および**接続**の**管理者 ID** は、**シングル・サインオン**(SSO)ではなく、**ネイティブ**・ユーザーである必要があります。詳細は、*管理者用スタート・ガイド*の SSO 対応の Cloud EPM および Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のユーザー資格証明の管理を参照してください。



2. **「接続の管理」**で、 をクリックして新しい接続を追加します。



3. **「名前」**で、接続のわかりやすい識別子を入力します(データ・ソースとサーバーの組合せなど)。
4. **「タイプ」**でデータ・ソースのタイプを選択します。
   - 次のものに使用する Oracle Fusion Enterprise Performance Management。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - Enterprise Profitability and Cost Management
  - フリーフォーム
  - Planning および Planning モジュール
  - Financial Consolidation and Close
  - Tax Reporting
- Oracle Essbase
- Oracle Fusion Cloud EPM Profitability and Cost Management
- Oracle Fusion Cloud Essbase
- Oracle Essbase On-premises Deployment

5. **「サーバー名」**にプロトコルまたは URL を付けずにデータ・ソースのサーバー名を入力します。たとえば、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の場合、データ・ソース URL が `https://<servername>/HyperionPlanning` であれば、サーバー名は `<servername>`となります。
6. (Oracle Fusion Cloud Essbase および Oracle Essbase On-premises Deployment のみ): **「Essbase サーバー名」**に Essbase サーバーの名前を入力します。デフォルトでは、Fusion Applications のサーバー名は"Essbase_FA_Cluster"、Essbase APS のサーバー名は"EssbaseCluster-1"になります。
7. **「アイデンティティ・ドメイン」**に、データ・ソース・ポッドのアイデンティティ・ドメインを入力します。

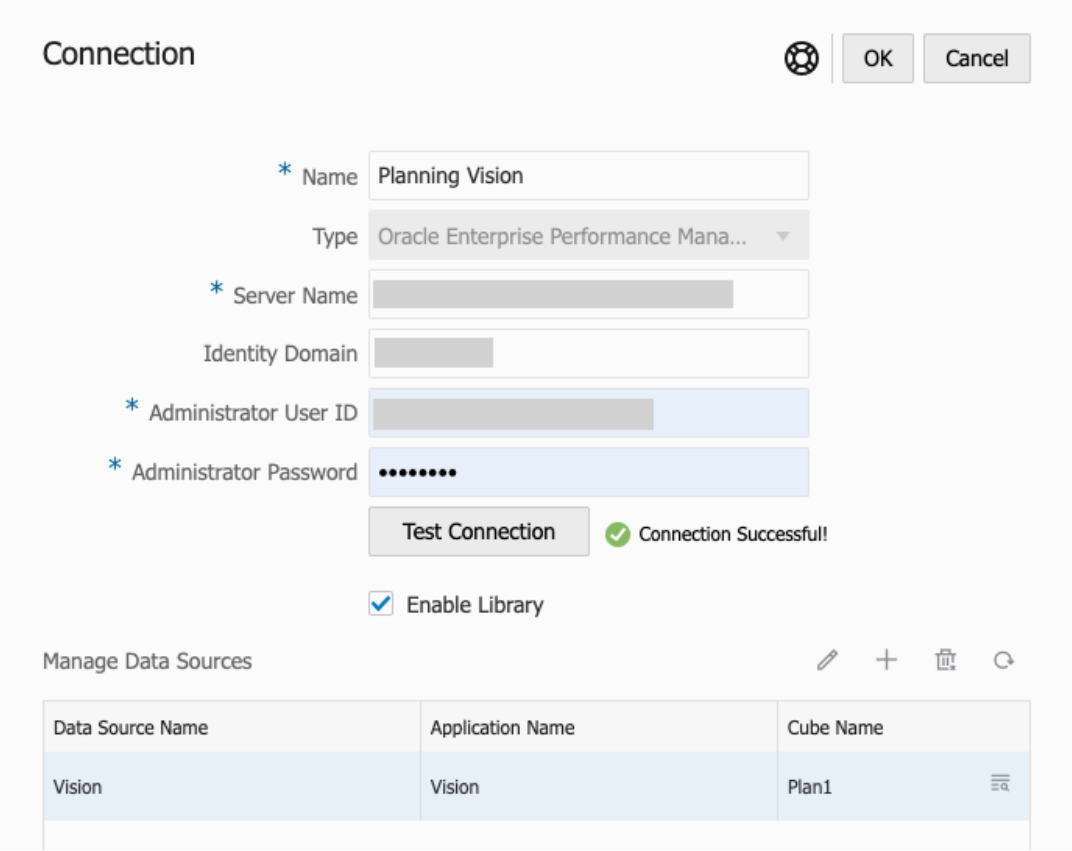
> ⓘ **ノート**
>
> - Oracle Essbase、Oracle Fusion Cloud Essbase または Oracle Essbase On-premises Deployment の場合は不要。
> - Oracle Cloud Infrastructure (OCI)上の Cloud EPM デプロイメントの場合、このフィールドは空白のままにする必要があります。

8. 管理者のユーザー ID とパスワードを入力します。管理者のユーザー ID は、データ・ソース・レベルでのサービス/システム管理者ロール(Fusion Applications では BI 管理者ロール)である必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> - Narrative Reporting および**接続**の**管理者 ID** は、**シングル・サインオン**(SSO)ではなく、ネイティブ・ユーザーである必要があります。詳細は、*管理者用スタート・ガイド*の SSO 対応の Cloud EPM および Oracle Enterprise Data Management Cloud 環境のユーザー資格証明の管理を参照してください。
> - 接続を作成するデータ・ソース用の管理者資格証明を使用して Narrative Reporting にログインする必要があります。たとえば、Planning モジュール管理者が **PlanAdmin** である場合は、Narrative Reporting データ・ソースに対するデータ・ソース接続を作成するために、**PlanAdmin** 資格証明で Planning モジュールにログインする必要があります。ソースでシステム固有の認証に使用するユーザー ID およびパスワード資格証明を入力します。アイデンティティ・アサーション技術を使用したシングル・サインオンは、サポートされていません。

9. **「テスト接続」**をクリックします。

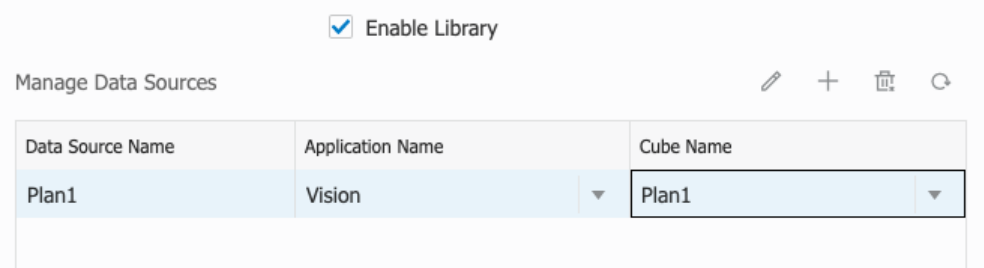


(Oracle Essbase Cloud のみ): 接続を信頼するには、ダイアログ・ボックスで**「はい」**をクリックします。この設定は、質問に再度答える必要がないように格納されます。

10. Cloud EPM の接続の場合、オプションで**「ライブラリの有効化」**を選択してリモート・ライブラリを公開します。
11. データ・ソースとして追加するキューブを選択するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「データ・ソースの管理」**で、 **「データ・ソースの追加」**をクリックして、レポートの接続先のキューブを 1 つ以上追加します。
- キューブごとに、**「データ・ソース名」**を入力し、**「アプリケーション」**および**キューブ**の名前を選択します。



キューブを選択したら、 をクリックして、ディメンション・リストをプレビューできます。

- **「データ・ソースの管理」**ツールバーで、既存のデータ・ソースの**「編集」**、**「新規」**データ・ソースの作成、データ・ソースの**「削除」**およびビューの**「リフレッシュ」**を実行できます。
- **「OK」**をクリックして接続を追加します。接続は**「接続の管理」**の下のリストに表示されます。

接続を**「編集」**するには:

「接続の管理」で、**「接続」**を選択し、**「処理」**メニューから**「編集」**を選択します。接続を編集する場合、**接続名**および**「サーバー」**、さらに**「アプリケーション」**および**キューブ**の名前を変更できます。

> ⓘ **ノート**
>
> - **接続名**を変更しても、その接続を使用しているレポート・オブジェクトには影響しません。
> - **「サーバー」**、**「アプリケーション」**または**キューブ**の名前を変更すると、その接続を使用しているレポート・オブジェクトが新しい宛先をポイントするようになります。
> - セキュリティの目的で、接続の編集時に管理者資格証明を再入力する必要があります。

-- 接続およびリモート・ライブラリの操作.

レポート・デザイナの操作

レポート・デザイナを使用して、レポート・オブジェクトを追加および編集し、レポート・プロパティを表示および編集します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

次も参照:

- レポート・デザイナへのアクセス
- レポート・デザイナについて
- レポート・デザイナ・ツールバー
- レポート・プロパティ

レポート・デザイナへのアクセス

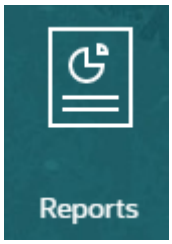
Narrative Reporting デプロイメントの場合:
次の方法でレポート・デザイナにアクセスします。

- ライブラリのシステム以外のフォルダで、 をクリックし、メニューから**「レポート」**を選択します。
- レポート・パネルで、 をクリックします。
- ホーム画面で、**「作成」**をクリックし、**「レポート」**を選択します。

レポート・パネルで、**「最近」**、**「お気に入り」**および**「すべて」**の既存レポートのリストをフィルタできます。

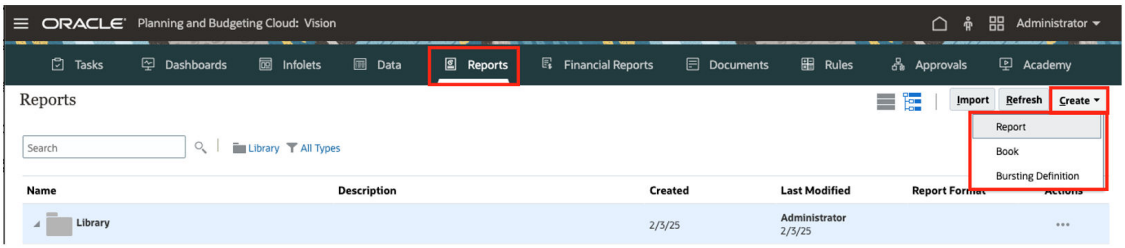
Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントの場合:
レポート・デザイナにアクセスします。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスから、



「レポート」カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択します。

Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから**「レポート」**を選択します。コンテンツ・ペインの上部にある**「作成」**ドロップダウン・メニューをクリックし、**「レポート」**をクリックしてレポート・デザイナを起動します。



次のチュートリアル・ビデオを視聴して、オブジェクトをレポートに追加する方法を学習します。

Narrative Reporting デプロイメントの場合。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

-- レポートへのオブジェクトの追加.

Cloud EPM デプロイメントの場合。

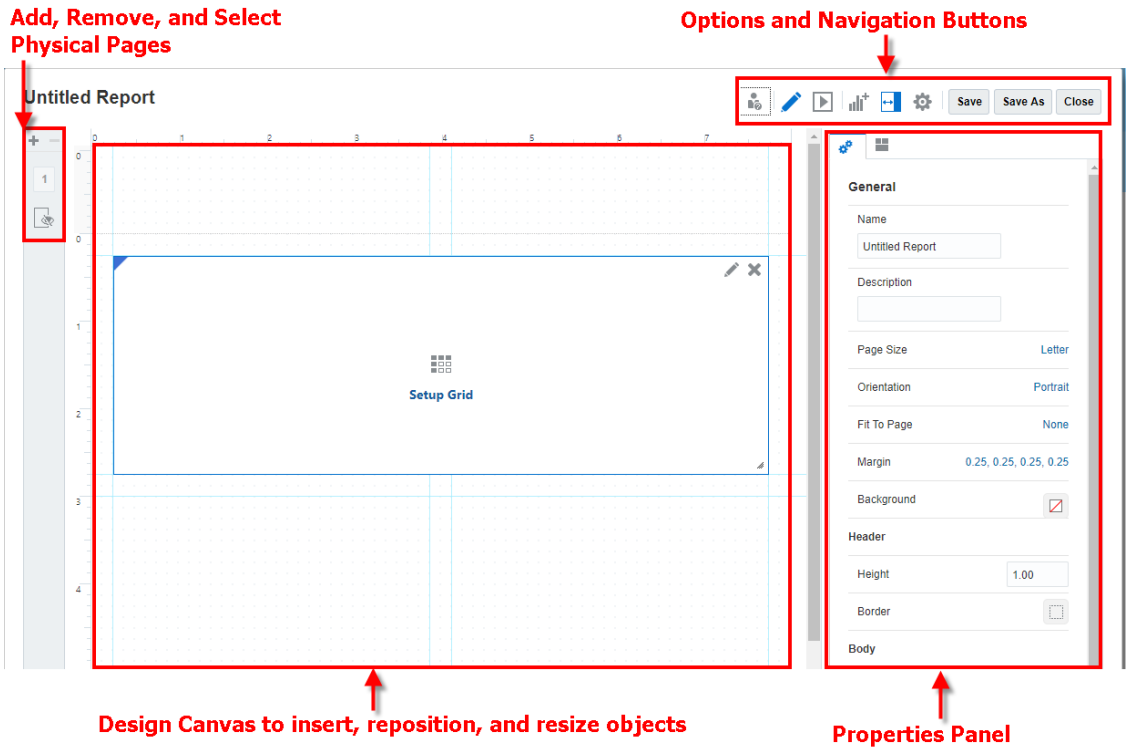
-- Cloud EPM でのレポート・オブジェクトの追加.

詳細は、次のリンクを参照してください。

- レポートを設計する前に
- レポート・デザイナの操作
- レポート・オブジェクトの操作

レポート・デザイナについて

レポート・デザイナには次の領域があります。



- 左側のパネルから、個々の物理ページまたはシートを追加、削除および選択できます。非表示のシートでは、レポート出力に表示されないようにする必要があるグリッドを挿入または貼付けできます。非表示のシートには、チャート定義の一部として作成されたグリッドを含めることができます。
- 設計パネルでは、レポート・オブジェクトを挿入します。レポート・オブジェクトの再配置とサイズ変更ができ、レポート・ヘッダーおよびフッターをドラッグ・アンド・ドロップしてサイズ変更することもできます。レポート・オブジェクトの操作を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> ヘッダーおよびフッターのドラッグ・アンド・ドロップはルーラーからのみ使用できます。

- ツールバーを使用すると、編集モードとプレビュー・モードの切替え、レポート・オブジェクトの挿入と編集、および表示オプションの変更ができます。レポート・デザイナ・ツールバーを参照してください。
- プロパティ・パネルでは、レポート・プロパティを表示および編集できます。レポート・オブジェクトを選択すると、プロパティ・パネルにそのレポート・オブジェクトのプロパティが表示されます。レポート・プロパティを参照してください。
- レポート名はレポート・デザイナの上部に表示されます。レポート・オブジェクトを編集するとき、レポート名とともにオブジェクト名もオブジェクト・デザイナの上部に表示されます。

> **ノート**
>
> レポートおよびオブジェクト名の間で、左から右へのテキスト(英語、スペイン語、韓国語など)が右から左へのテキスト(アラビア語、ヘブライ語など)と混在する場合、現在のユーザー・ロケールが右から左への読取り方向を使用してから、それぞれのタイプのテキストが入力された方向で表示されます。

デフォルト・レポート・レイアウト

時間と労力を節約するために、新規レポートを作成する場合は、次の機能を提供するデフォルト・レポート・レイアウトが提供されます。

- 水平ガイドと垂直ガイドによって、意味のある実用的なレイアウトでオブジェクトを配置できます。
- グリッドが作成されます。**「グリッドの設定」**をクリックして、データ・ソースおよびその他のグリッド・プロパティを設定します。グリッドの操作を参照してください。

レポート・デザイナ・ツールバー

ツールバーでは、次の操作を実行できます。



編集/プレビュー

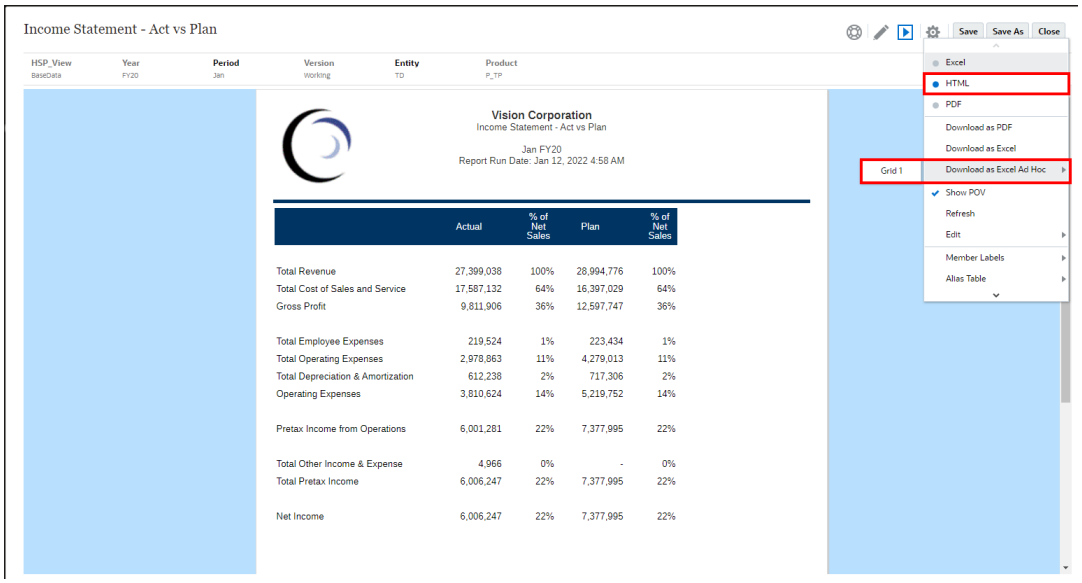
「編集」および**「プレビュー」**を使用して、編集モードとプレビュー・モードを切り替えます。編集モードではレポート、グリッドまたはチャートを変更でき、プレビュー・モードではレポートが公開されたときの表示の様子を確認できます。

プレビュー・モードでは、  - **「処理」**メニューを使用して、次の操作を実行できます。

- **「Excel」**、**「HTML」**または**「PDF」**のいずれかの書式を選択します。
- **PDF としてダウンロード** - レポートを PDF としてダウンロードできます。
- **Excel 形式でダウンロード** - レポートを Excel ワークブックとしてダウンロードできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **Excel アドホックとしてダウンロード** - Oracle Smart View for Office で、レポート・グリッドを Excel アドホックとしてダウンロードした後、使用可能なアドホック操作を実行できます。



> **ⓘ ノート**
>
> Web ブラウザで、Smart View リンク・ファイルがダウンロードされます。ファイルをクリックして、Excel を起動します。それぞれのデータ・ソースのログイン・ページにサインオンするよう求められます。アクティブなデータ・ソース接続がすでに存在する場合、サインオン・ダイアログは表示されません。

レポート・グリッドを Excel アドホックとしてエクスポートする際の制限事項は、次のとおりです。

- **「Excel アドホックとしてダウンロード」**オプションは **HTML** プレビューについてのみ使用可能です。
- レポートの書式設定は、Excel で保持されません。
- 式セル内のデータは、静的情報としてレンダリングされます。
- Excel での出力データは、**Smart View のオプション**に基づきます。**書式設定**に関するすべての設定を確認します。詳細は、*Oracle Smart View for Office の使用 25.100* の Smart View のオプションの設定を参照してください。
- この機能は、非表示のグリッドでは使用できません。

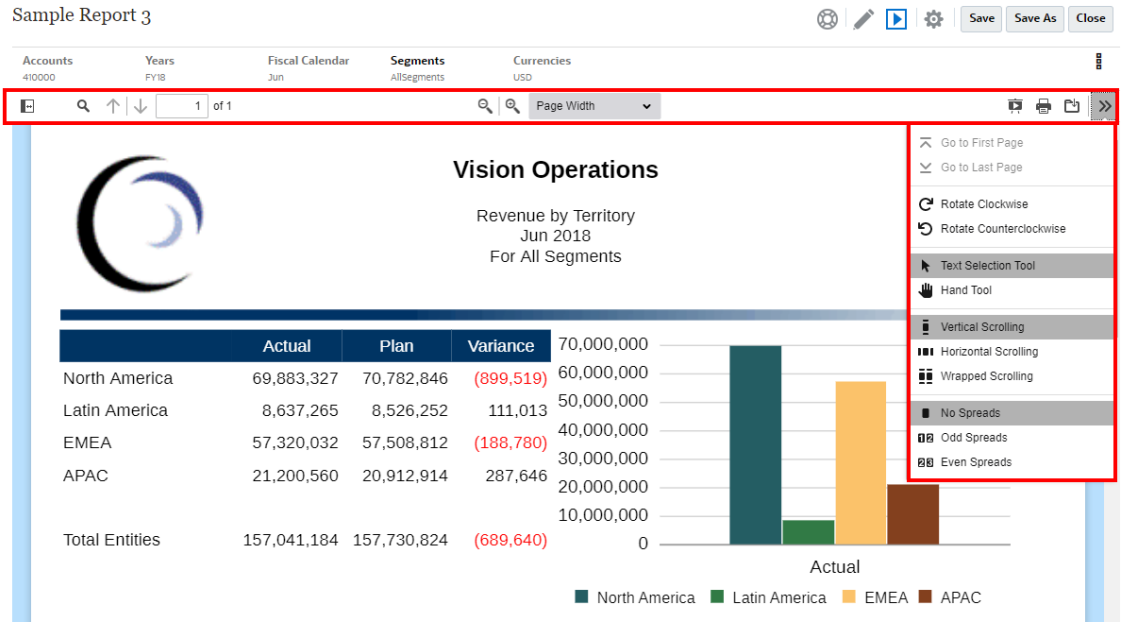
> **ヒント**
>
> ブラウザ設定によっては、大きなグリッドでレポートをプレビューしたり、HTML でチャートをプレビューすると、処理時に JavaScript エラーが表示されることがあります。**今後は確認しない**チェック・ボックスを選択してから、**「続行」**をクリックして HTML プレビューを続行します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> レポート結果が大きすぎてブラウザにレンダリングできない場合は(グリッド・セル数の制限の 180000 がある HTML または PDF サイズ制限の 10MB)、レポートを PDF としてダウンロードするように求めるプロンプトが表示されるため、ダウンロードする場合は OK を選択し、操作を取り消す場合は Cancel を選択します。

レポートの PDF プレビューには次の機能があります。

- サムネイル・サイドバーの切替え
- 文書内のテキストの検索
- 前/次のページへの移動
- 入力されたページ番号への移動
- 「ズーム・イン」/「ズーム・アウト」ボタン
- ズーム・レベルの選択(例: %s、**自動**、**「ページ幅」**など)
- プレゼンテーション・モードに切替え
- 文書の印刷
- 文書のダウンロード
- 他のナビゲーションおよび表示ツール



挿入

「挿入」を使用して、レポート・オブジェクトをレポートに追加します。レポート・オブジェクトの挿入を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

プロパティ

「プロパティ」を使用して、プロパティ・パネルを表示または非表示にします。

処理

「処理」を使用して、レポート・オブジェクトを編集したり、グリッド線、ガイド、定規などの表示オプションを制御します。

サービス管理者は、**「デフォルト・フォントの設定」**を選択してレポートのフォントおよびサイズを選択すると、レポート用のデフォルト・フォントを定義できます。これを設定すると、すべてのユーザーのすべてのレポートにデフォルト・フォントが適用されます。

レポート・デザイナではグリッド・セルの書式設定、チャートのテキストとラベル、個々のテキスト・ボックスのフォントをカスタマイズすることもできます。

> **ノート**
>
> カスタム・フォントがロードされると、これをデフォルト・フォントとして設定できます。追加フォントのアップロードを参照してください。

> **ノート**
>
> 追加フォントを Narrative Reporting にアップロードする際には、フォント・ベンダーからフォントの適切なライセンスを取得する必要があります。たとえば、Microsoft フォントの"Times New Roman"をアップロードする場合、Microsoft からアップロードのライセンスを取得する必要があります。Windows マシンをソースとする Microsoft フォントのアップロードは、一般的に Microsoft による法定使用契約の対象ではありません。

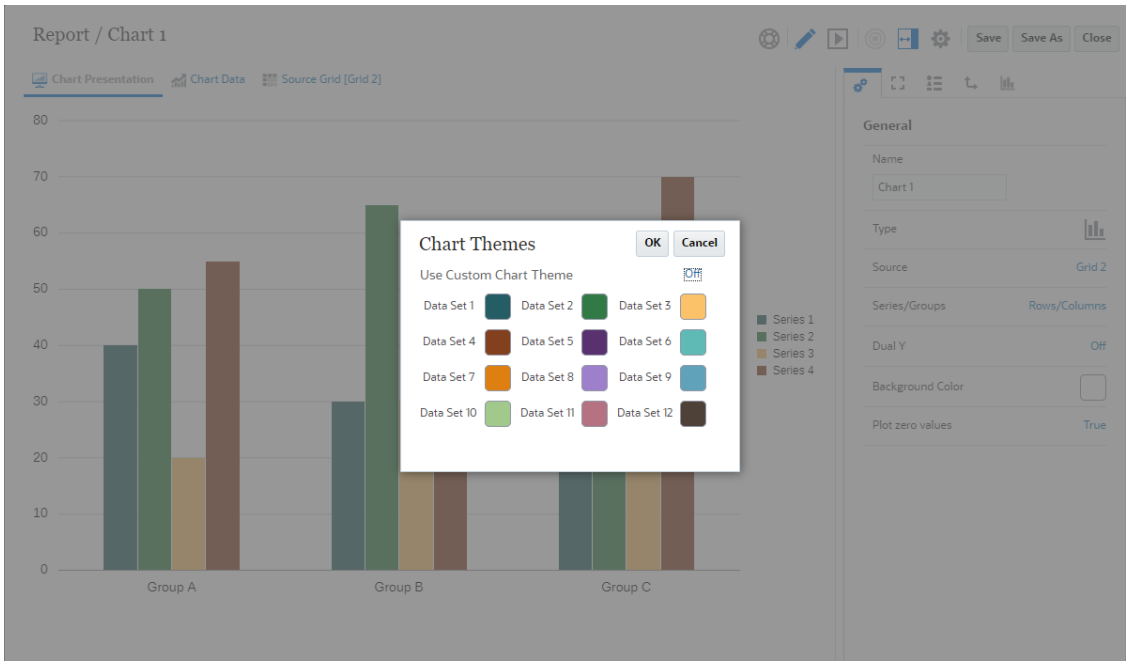
> **ノート**
>
> アラビア語フォントの場合、レポートでは次のみがサポートされています。
>
> - Arial Unicode MS 1.01
> - Lateef 1.0
> - Scheherazade 1.0
> - Simplified Arabic 1.01
> - Simplified Arabic 5.00
> - Simplified Arabic 5.92
> - Traditional Arabic 1.01
> - Traditional Arabic 5.00
> - Traditional Arabic 5.92

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

サービス管理者は、**「チャートのデフォルト色の設定」**を選択してカスタム・チャート・テーマを有効にすることによって、すべてのチャートの最初の 12 個のチャート・データセットに対してチャートのデフォルト色を設定することもできます。この設定により、**「シリーズ」**チャート・プロパティを使用してレポート設計中にチャートで色が変更されていないかぎり、チャートのデフォルト色がすべてのユーザーのすべてのレポートに 適用されます。

> **ⓘ ノート**
>
> Redwood の操作性が Cloud EPM でデフォルト・テーマとして設定されている場合、Redwood テーマの色は既存のレポートのチャートのデフォルト色に影響します。カスタム・チャート・テーマを有効にして定義すると、Redwood の色テーマが上書きされます。

レポート・デザイナでは、チャートの**「シリーズ」**プロパティを使用して、レポート内の個々のチャートのチャート色を調整でき、これは**「処理」**メニューで定義されたデフォルト値を上書きします。



> **ⓘ ノート**
>
> **「処理」**メニューを使用して、**「チャートのデフォルト色の設定」**が可能です。

レポート・プロパティ

プロパティ・パネルを使用して、レポートの 2 つのタイプのプロパティを表示および編集します。

- 一般プロパティ

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- レイアウト・プロパティ

一般プロパティ

一般プロパティは、ページのサイズと向き、マージン、ヘッダーとフッターなど、レポートのページ設定を制御します。一般プロパティに対する変更は、レポートのすべてのページに影響します。**「ページに合せる」**プロパティでは、レポートの PDF 出力を長さ、幅、両方に合せるか、どちらにも合せないことができます。

> **ノート**
>
> **「境界」**フィールドを使用して、レポートのヘッダー、フッターおよび本文の周囲に境界線を配置します。ヘッダーおよびフッターのサイズは、設計キャンバスでヘッダーまたはフッターの線をドラッグすることで調整できます。

レイアウト・プロパティ

レイアウト・プロパティは、水平方向と垂直方向の配置、インデントのサイズなど、選択されたレポート・オブジェクトのサイズと位置に影響します。

「サイズ」フィールドを使用して、レポート・オブジェクトの幅と高さを設定します。テキスト・オブジェクトの場合は、次のいずれかのオプションも選択できます。

- 固定(`AutoSize=Off` に相当): テキスト・オブジェクトの高さは増加も減少もしません。関連するテキストが設計時の高さで固定されない場合は、切り捨てられます。
- 合せる(`AutoSize=On` に相当): テキスト・オブジェクトの高さは、関連するテキストに合せて必要に応じて増加または減少します。高さは、テキストに合せて上または下に必要に応じてサイズ変更されます。
- 最小: テキスト・オブジェクトの高さは、レポート設計で指定された最小の高さに設定されます。関連するテキストのすべてを 表示するためにさらに高さが必要な場合は、必要に応じて増加します。減少することはありません。

「配置」フィールドを使用して、レポート・オブジェクトをその他のレポート・オブジェクトとの関連でどのように印刷するのかを制御します。

- **固定**: レポート・オブジェクトを固定の場所に配置します。
- **相対**: 他のレポート・オブジェクトと比較して、左(横位置)または上(縦位置)の場所にレポート・オブジェクトを配置します。選択されたレポート・オブジェクトの場所は、他のレポート・オブジェクトのサイズが変わると調整されます。

「境界」フィールドを使用して、レポート・オブジェクトの周囲に境界線を配置します。境界線のスタイルと色を選択できます。

レイアウト・プロパティに対する変更は、選択されたレポート・オブジェクトにのみ影響します。レイアウト・プロパティを表示するには、レポート・オブジェクトを選択する必要があります。

イメージ・オブジェクトについては**「ページ幅に合せる」**プロパティがあり、これを有効にすると、イメージ・オブジェクトの幅がレポートの幅に合うように伸縮します。デフォルトではこのプロパティは無効になっています。

ノート:

- イメージの横に別のオブジェクトがある場合、このプロパティは適用されません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- このプロパティはイメージ・オブジェクトの幅にのみ影響を及ぼし、イメージ・オブジェクトの高さへの影響はありません。

> **ⓘ ノート**
>
> レポート・オブジェクトを編集する場合は、プロパティ・パネルにそのオブジェクトの詳細なプロパティが表示されます。詳細は、次のトピックを参照してください。:
>
> - グリッド・プロパティの概要
> - テキスト・ボックスの書式設定
> - イメージの書式設定
> - チャート・プロパティ

レポート・オブジェクトの操作

レポート・オブジェクトには、グリッド、表、テキスト・ボックス、イメージ、チャートなどがあります。Narrative Reporting デプロイメントでは、共有オブジェクトをレポートに挿入でき、構造化された POV ベースのコメント・エントリのための**ノート**(Narrative Reporting のみ)も挿入できます。

レポート・オブジェクトをレポートに追加する場合は、レポートのレイアウトでその位置を定義します。グリッド、表およびチャートの場合は、レポート・オブジェクトのデータ・ソースを選択します。

レポート・オブジェクトをレポートに追加した後は、書式設定オプションなどのプロパティをレポートに割り当てることができます。書式設定オプションには、フォント、位置合せ、間隔、シェード付けおよび配置が含まれます。これはレポート・オブジェクトによります。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、オブジェクトをレポートに追加する方法を学習します。

Narrative Reporting デプロイメントの場合。

 -- レポートへのオブジェクトの追加.

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合。

 -- Cloud EPM でのレポート・オブジェクトの追加.

レポート・オブジェクトの挿入

レポート・オブジェクトの挿入には、複数の方法があります。

- ツールバーで  をクリックし、挿入するオブジェクトを選択します。
- 新しいレポートで左ペインからページを追加し、いずれかのオブジェクト・アイコンをクリックします。
- レポートの本文、ヘッダーまたはフッターで右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**を選択した後、挿入するオブジェクトを選択します。

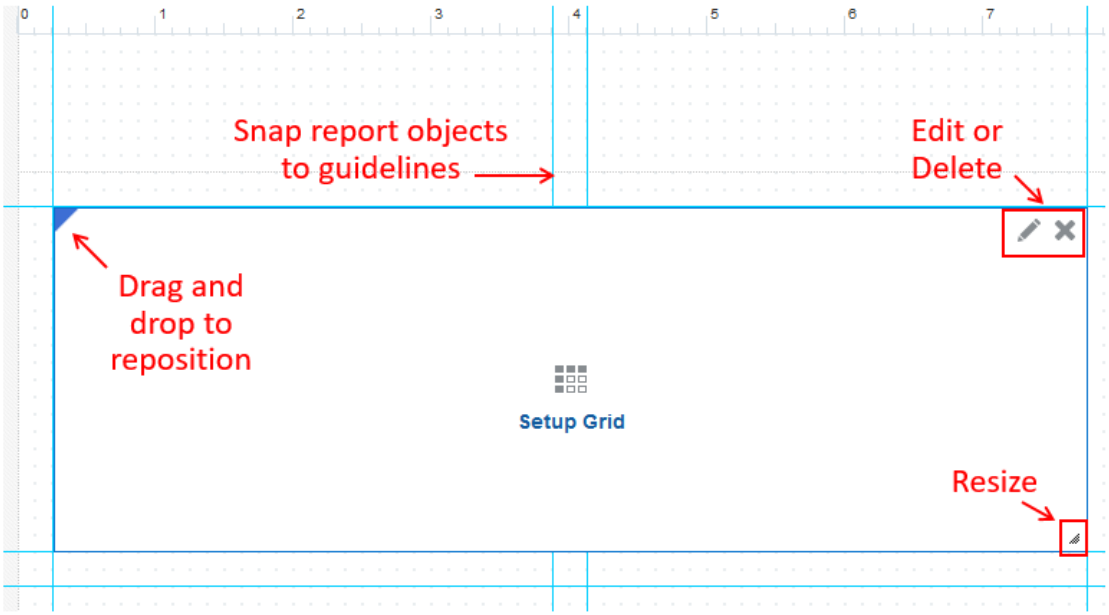
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> レポートのヘッダーとフッターには、テキスト・ボックスおよびイメージのみを挿入できます。

> **ノート**
>
> レポート・オブジェクトを挿入するには、編集モードにする必要があります。プレビュー・モードではオブジェクトを挿入できません。

レポート・オブジェクトのサイズ変更、編集および再配置

レポート・オブジェクトの挿入後、そのオブジェクトを設計キャンバスで直接サイズ変更、編集または再配置できます。



- レポート・オブジェクトのサイズを変更するには、右下隅の矢印をクリックして希望のサイズまでドラッグします。

  > **ヒント**
  >
  > **「ガイドにスナップ」**が有効になっている場合、右の境界線を最も近い垂直のガイドラインに、下の境界線を最も近い水平のガイドラインにドラッグすることもできます。ガイドラインを使用したサイズの変更を参照してください。

- オブジェクトを再配置するには、そのオブジェクトを選択して、設計キャンバス上の希望の位置までドラッグします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> レポート設計キャンバスでは、オブジェクトを重ねることはできません。レポート・エラーの修正を参照してください。

- オブジェクトを削除するには、 をクリックします。
- オブジェクトを編集するには、 または**「(オブジェクト)の設定」**をクリックします。ここで、オブジェクトはオブジェクト・タイプを示します。たとえば、**「グリッドの設定」**などです。

ガイドラインの使用

ガイドラインを使用すると、外観を統一するためにレポート・オブジェクトを水平および垂直に整列できます。デフォルトで、レポート・オブジェクトはこれらのガイドラインにスナップするように設定されています。この機能のオンまたはオフを切り替えるには、 、**ガイドにスナップ**の順にクリックします。設定は将来のセッションのために保存されます。

また、 、**「新規ガイド」**の順にクリックして、ガイドの水平および垂直位置を指定すると、新しいガイドラインを作成することもできます。

最後に、既存のガイドラインをドラッグ・アンド・ドロップすると、レポート内のその位置を変更できます。

ガイドラインを使用したサイズの変更

「ガイドにスナップ」がグリッドの「処理」メニューで有効になっている場合、レポート・オブジェクトは次の処理で最も近いガイドラインにサイズを変更できます。

- オブジェクトの右端をドラッグまたはダブルクリックして、最も近い垂直のガイドラインにオブジェクトのサイズを変更します。
- オブジェクトの下端をドラッグまたはダブルクリックし、最も近い水平のガイドラインに揃うようにオブジェクトのサイズを変更します。
- オブジェクトの右隅をドラッグして、最も近い垂直のガイドラインにオブジェクトのサイズを変更します。

レポート・オブジェクトの操作に関する詳細は、次を参照してください。

- グリッドの操作
- 表の操作
- チャートの操作
- テキスト・ボックスの操作
- イメージの操作

シート間でのレポート・オブジェクトのコピー/移動

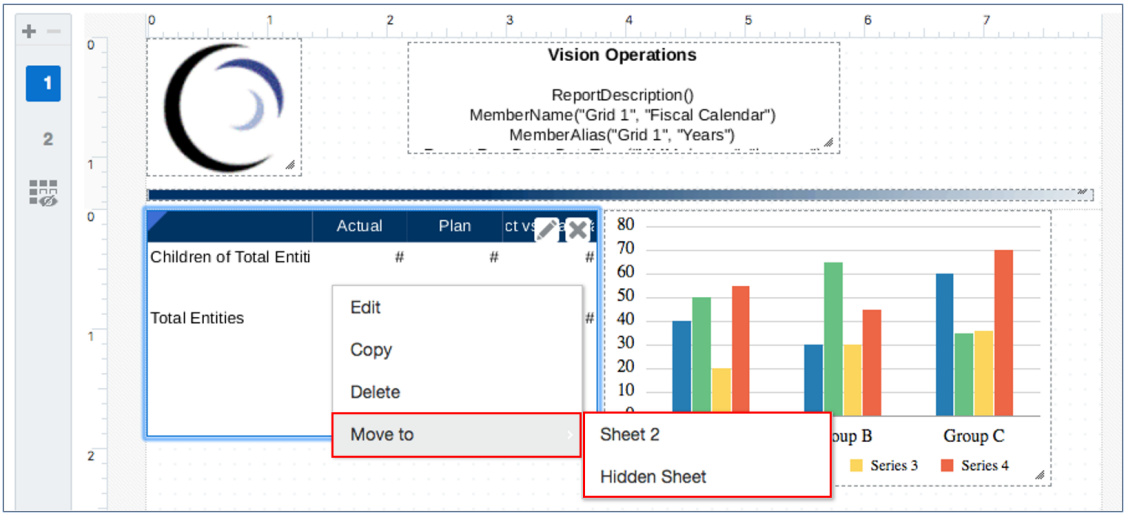
複数のシート(物理的なページ)があるレポートでは、右クリック・メニューを使用してシート間でレポート・オブジェクトをコピーまたは移動できます。さらに、グリッドまたは表を非表示にしてレポート出力に表示されないようにする場合、それを非表示のシートに移動できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポート・オブジェクトをコピーまたは移動するには:

1. レポート・デザイナで、コピーまたは移動するレポート・オブジェクト(グリッド、チャート、イメージまたはテキスト・ボックス)を選択します。
2. 右クリックして、次の処理を実行します。
   - **「コピー」**を選択して、オブジェクトを貼り付けるページに移動し、右クリックして**「貼付け」**を選択します。
   - **「移動先」**を選択し、オブジェクトの移動先のページを選択します。
3. 必要に応じて、レポート・オブジェクトをサイズ変更または再配置します。レポート・オブジェクトのサイズ変更、編集および再配置を参照してください。

> **ノート**
>
> レポート内の共有オブジェクトをコピーする場合、それを**リンク解除済**としてのみ貼り付けることができ、そのソース・レポート内の共有オブジェクトにリンクされません。



視点について

視点は、レポートにプルされるデータを識別します。

次も参照:

- 視点の概要
- グローバル視点とローカル視点

視点の概要

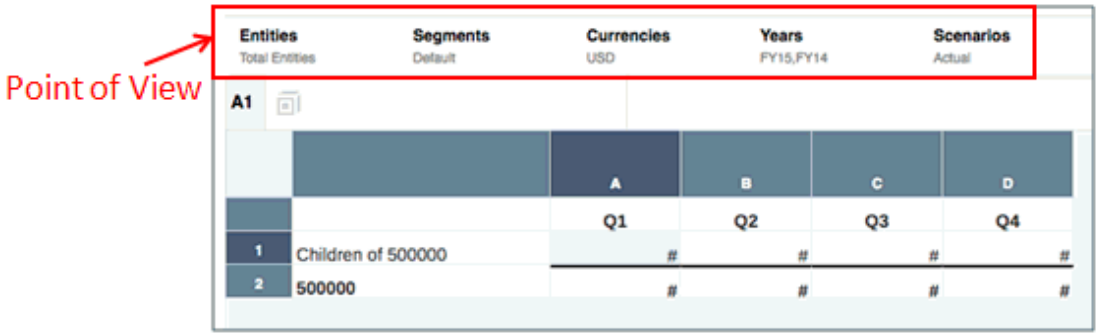
レポートのすべてのデータ値は、データ・ソースの各ディメンションでメンバーが交差する部分から導出されます。視点(POV)は、これらの交差を定義し、レポートに取得するデータを識別します。グリッドからのデータが含まれているレポートには、レポートのすべてのグリッド、表およびチャートに適用されるグローバル POV があります。必要な場合は各グリッド、表お

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

よびチャートに対して、その交差のグローバル設定を上書きするローカル POV を定義することもできます。グローバル視点とローカル視点を参照してください。

レポート管理者として、次のタスクを実行することでレポート参照者に対して POV を設定します。

- レポート参照者が選択するように、各ディメンションに 1 つ以上の POV メンバーを定義します。
- レポート参照者に対して、ディメンションの任意のメンバーの選択を許可します。または
- レポート参照者に対して、ディメンションの選択を単一のメンバーにロックします。
- レポート参照者に対して、1 つ以上のディメンションを非表示にします。



POV オプションを定義した後は、設定した基準に基づいてレポート参照者がレポートの各ディメンションに POV メンバーを選択できます。

詳細は、「視点の操作」を参照してください。

グローバル視点とローカル視点

視点(POV)によって、レポートに取得されるデータが決まります。レポートで使用可能な POV には 2 つのタイプがあります。

- グローバル POV
- ローカル POV

レポート参照者が POV (グローバルおよびローカルの両方)を変更すると、そのユーザーの該当する特定のデータ・ソースにそれらの変更が保存されます。そのユーザーが同じデータ・ソースを使用する別のレポートをオープンすると、POV の変更は保持されます。たとえば、参照者が **Scenario** ディメンションを**実績**から**プラン**に変更し、同じデータ・ソースを使用する新しいレポートをオープンすると、POV は**プラン**に設定されます。一方、別の参照者が同じレポートをオープンすると、**Scenario** の POV 設定は**実績**のままになります。

グローバル POV

グローバル POV は、レポートのすべてのグリッド、表およびチャートに適用されます。可能な場合は、単一の選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体で共通のディメンションが組み合されます。たとえば、Narrative Reporting のデータ・ソースと Planning モジュールのデータ・ソースに共通のディメンション **Entity** があるとします。Entity ディメンションのメンバーを POV に設定すると、両方のデータ・ソースに適用されます。

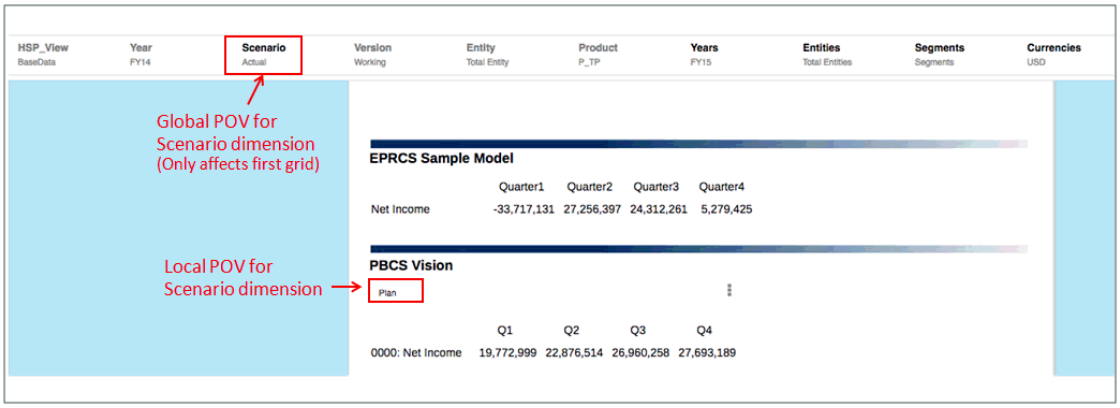
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> レポート参照者がグローバル POV を変更すると、その参照者の該当する特定のデータ・ソースにのみ、それらの変更が保存されます。その参照者が同じデータ・ソースを使用する別のレポートをオープンすると、POV の変更は保持されます。たとえば、参照者が Scenario ディメンションを実績からプランに変更し、同じデータ・ソースを使用する新しいレポートをオープンすると、POV はプランに設定されます。一方、別の参照者が同じレポートをオープンすると、Scenario の POV 設定は実績のままになります。

> **ⓘ ノート**
>
> Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォーム・デプロイメントの場合、レポートのレポート・グローバル POV は Cloud EPM POV で選択されたメンバーと統合されます。レポートをプレビューするとき、レポートは Cloud EPM から POV メンバーを取得し、これらの返されたメンバーをレポート実行のデフォルトのメンバー選択として使用します。それからレポートは、ユーザーがレポート・プレビューで POV メンバー選択を実行すると、Cloud EPM で POV を更新します。

ローカル POV

必要な場合は特定のグリッド、表またはチャートにローカル POV を設定することで、そのディメンションのグローバル POV 設定を上書きできます。たとえば、Scenario ディメンションのプランと実績のメンバーを比較する 2 つのチャートを表示するために、グローバル POV を実績に設定した後、その設定をプラン・メンバーで上書きするように、2 つ目のチャートのローカル POV を変更します。



テキスト関数を使用した情報の表示

テキスト関数は、レポート名や摘要などのレポート情報、グリッドまたは表に関連付けられているデータベースに関する情報、またはデータベース接続のデータに関する情報を表示します。

テキスト関数は、テキスト・ボックス、テキスト行およびテキスト列で使用したり、データおよび式行または式列のカスタム見出しとして使用できます。挿入できるテキスト関数のタイプ

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

はコンテキストに依存します。たとえば、ページ番号は、レポートのヘッダーまたはフッターにのみ挿入できます。テキスト関数に関する詳細は、テキスト関数を参照してください。

テキスト関数を使用してレポートに情報を表示するには:

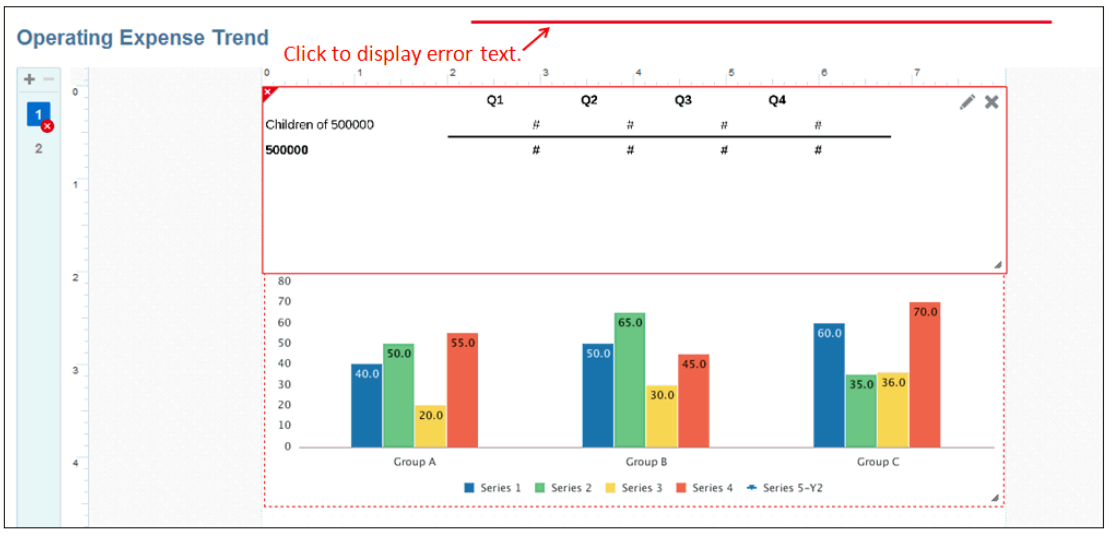
1. 設計ペインで、次のいずれかを実行します。
   - テキスト・ボックスを編集する場合は、 をクリックします。
   - グリッドまたは表の見出しセルで をクリックし、**「カスタム見出し」**を選択して をクリックします。
   - グリッドまたは表のテキスト・セルで、 をクリックします。
   - グリッドまたは表の式セルで をクリックし、**「カスタム見出し」**を選択して をクリックします。
2. **関数の挿入**ダイアログ・ボックスで、関数を選択した後、関数のパラメータを指定します。次に**「選択」**をクリックしてテキスト関数を挿入します。

   テキスト関数に関する詳細は、テキスト関数を参照してください。

レポート・エラーの修正

レポート全体または特定のレポート・オブジェクトでエラーが発生する場合があります。

レポート・エラー

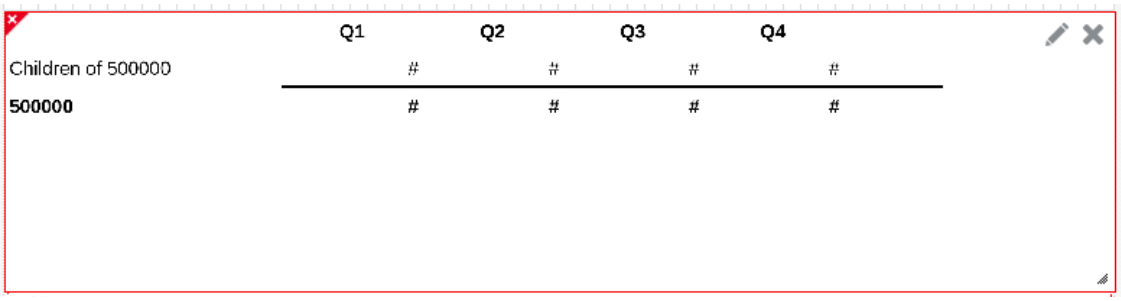


レポート・エラーは、レポート・ヘッダーの上に赤いバーで示されます。バーをクリックするとエラー・テキストが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> レポート・エラーの最も一般的な原因は、2 つの重複するレポート・オブジェクトです。エラーを修正するには、複数のレポート・オブジェクトが互いに重複していないことを確認してください。

レポート・オブジェクト・エラー



レポート・オブジェクト・エラーは、レポート・オブジェクトの左上隅に赤い X で示されます。インディケータにマウス・カーソルを重ねるとエラーの原因が表示されます。考えられる原因は、次のとおりです。

- レポート・オブジェクトのデータ・ソース接続が有効ではなくなっている場合(たとえば、削除されている可能性があります)。
- レポート・オブジェクトが別のレポート・オブジェクトと重なっている場合。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4

グリッドの操作

次も参照:

- グリッドについて
  グリッドには、データベース接続からのデータを含む行および列構造が格納されます。
- グリッドの追加
  グリッドをレポートに追加して、外部データ・ソースのデータを表示します。
- 視点の定義
  視点(POV)によって、グリッドに取得されるデータが決まります。
- グリッドの行および列の操作
  データ、式、テキストおよびセパレータ行および列を追加して、コンテンツを編成し、グリッドに追加します。Narrative Reporting デプロイメントでは、構造化された POV ベースのコメント・エントリのために、**ノート**行またはノート列をグリッドに挿入できます。
- 算式バーの使用
  算式バーは、レポートでグリッドを設定するときに、式の作成やメンバーの選択を行う中心的な場所です。
- 条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作
  条件付き書式設定、テキストおよび抑制では、指定した条件を満たすグリッドとテキストの結果をカスタマイズできます。
- グリッドの親メンバーのズーム
  ズームでは、HTML でレポートをプレビューするときに、行または列の親メンバーを展開して、その子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます。
- グループ化の操作
- コンテンツへのドリル操作
  コンテンツへのドリルでは、エンド・ユーザーがレポート、Narrative Reporting ライブラリのサード・パーティ文書、およびカスタム URL リンクにドリルできるように、管理者は、グリッドのセル、行、列およびメンバーの見出しセルにコンテンツ・リンクを設定できます。
- ドリル・スルーとセル・ファイル添付の操作
  レポートには、HTML プレビューでレポートまたはグリッドを表示しているときに、ソース・システムにドリル・スルーする機能およびセル・ファイル添付にドリルする機能が備えられています。
- 有効な交差の操作
- バタフライ・レポートの操作
- 「子の前に祖先」プロパティの操作

グリッドについて

グリッドには、データベース接続からのデータを含む行および列構造が格納されます。

グリッドをレポートに追加し、そのディメンション・レイアウトを定義し、メンバーを選択してグリッドの書式を設定できます。テキスト、ディメンション、メンバーおよび算式を使用してグリッドのコンテンツを定義できます。グリッドを非表示にし、レポート出力に表示されな

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

いようにすることができます。たとえば、行式または列式を使用して追加データ・ソースから 1 つのグリッドにデータを収集する場合、ソース・データ・グリッドを非表示のシートに配置することで非表示にできます。

グリッドの追加

グリッドをレポートに追加して、外部データ・ソースのデータを表示します。

レポートにグリッドを追加するには:

1. 次のいずれかを実行します。
   - ツールバーで、  をクリックして**「グリッド」**を選択します。
   - 空白のレポートで、  をクリックします。
   - レポート本文で右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**、**「グリッド」**の順に選択します。
2. **「グリッドの設定」**をクリックします。
3. **「ソースの選択」**で、グリッドのデータ・ソースを選択します。

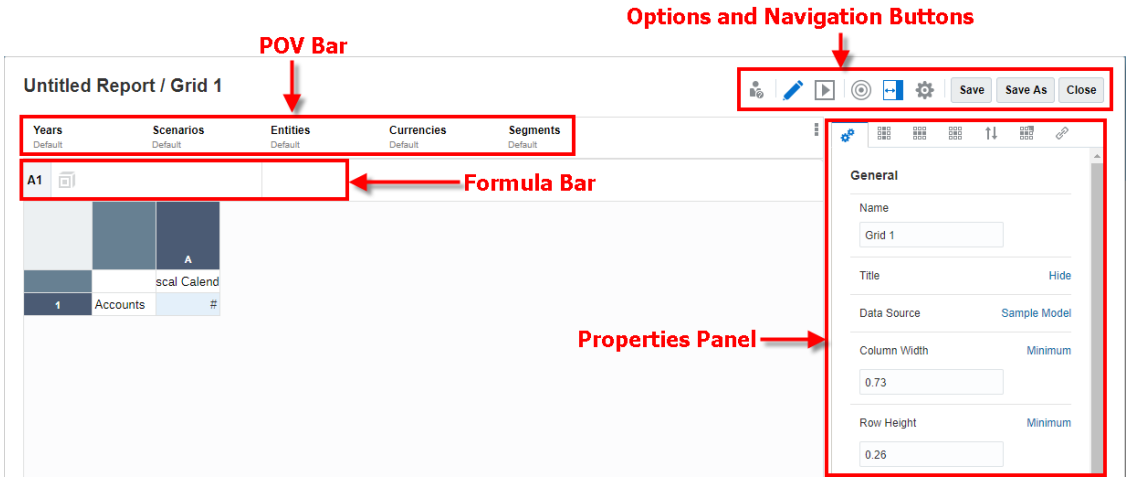
   グリッドは、行と列に対するデフォルトのディメンションが選択された状態でグリッド・デザイナに表示されます。通常、**「時間」**ディメンションが列に、**「勘定科目」**ディメンションが行に配置されます。

   新しいグリッドを追加すると、システムによってグリッドにデフォルト名が割り当てられます。割り当てられるデフォルト名は、「グリッド *n*」で、*n* はシステムによって割り当てられる識別番号です。たとえば、レポートに保存される、システムによって 6 番目に名前が付けられるグリッドを保存する場合、デフォルト名は「グリッド 6」です。グリッド名は**グリッド・プロパティ**で変更できます。

   システムによってグリッド名が使用されるのは、関数またはチャートでグリッドを参照する場合です。たとえば、グリッドのデータをグラフィカルに表示するチャートを設計する場合は、チャートのプロパティでグリッドをその名前で参照する必要があります。

グリッド・デザイナについて

グリッド・デザイナには次の領域があります。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- POV バーでは、グリッドの視点に対するメンバーを選択します。視点の設定を参照してください。
- 算式バーでは、算式と関数の作成、およびメンバーの選択ができます。算式の作成を参照してください。
- プロパティ・パネルには、グリッド、行、列およびセルのプロパティが表示されます。グリッド・プロパティの概要を参照してください。
- ツールバーを使用すると、編集モードとプレビュー・モードの切替え、ディメンション・レイアウトのオーバーレイの表示、および表示オプションの変更ができます。グリッド・ツールバーを参照してください。

グリッド・プロパティについて

Related Topics

- グリッド・プロパティの概要
- 一般プロパティ
- 列のプロパティ
- 行のプロパティ
- グリッド・セルの書式設定
- ソート

グリッド・プロパティの概要

グリッドを編集するとき、プロパティ・パネルで次のグリッド・プロパティを使用できます:

一般プロパティ

一般プロパティはグリッド全体に影響します。一般プロパティを使用して次のタイプのアイテムを編集します:

- グリッドのデータ・ソースを参照または変更します
- グリッドの上に表示されるタイトルを設定します
- 行と列のサイズ設定、行バンディング、ソースのズームとドリルに関するグリッドのデフォルトの動作を定義します。
- メンバーの見出しのプロパティを設定します
- ゼロ、欠落およびエラー・データのセルのテキスト置換ラベルを定義します
- 抑制を有効化します

詳細は、一般プロパティを参照してください。

列のプロパティ

列のプロパティは列全体に影響します。プロパティを表示する列を選択するには、列ヘッダーをクリックする必要があります。列のプロパティを使用して、列の幅、繰返しの見出しおよび抑制設定に対するデフォルトのグリッド設定を上書きします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

詳細は、列のプロパティを参照してください

行のプロパティ

行のプロパティは行全体に影響します。プロパティを表示する行を選択するには、行ヘッダーをクリックする必要があります。行のプロパティを使用して、行の高さ、繰返しの見出しおよび抑制設定に対するデフォルトのグリッド設定を上書きします。

詳細は、行のプロパティを参照してください

セルのプロパティ

セルのプロパティはグリッドで選択されたセルの範囲に影響します。セルのプロパティを使用して、セルのテキストの書式設定方法を変更します。たとえば、セルの数値のプラスおよびマイナスの表示方法を変更したり、セルのテキストのフォント、色およびサイズを変更できます。セルの範囲に境界線またはシェード付けを追加したり、ズームおよびインデント・オプションを指定することができます。また、データ・ソースで添付がある、グリッド内の選択したセルのセルの添付リンクを表示または非表示にできます。グリッド・セルの書式設定を参照してください。

ソート

グリッド内の値をソートできます。複数のソートを追加したり(たとえば、列に基づいてソートした後に行に基づいてソートできます)、複数の行または列をソートに追加できます(たとえば、メンバーの列に基づいて列をソートした後に行 3 に基づいてソートできます)。

詳細は、ソートを参照してください

条件付きプロパティ

条件付き書式設定、テキストおよび抑制では、定義した条件を満たすグリッドのセルに対して書式設定、テキストまたは抑制を定義できます。条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作を参照してください

ドリル・スルー

ドリル・スルー・プロパティでは、グリッド・データのセル、行、列およびメンバー・ヘッダー・セルに、コンテンツ・リンクを設定できます。コンテンツへのドリル操作を参照してください。

一般プロパティ

一般プロパティはグリッド全体に影響します。一般プロパティを使用して次を編集します。

Table 4-1　グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
名前	グリッド名を編集します。ベスト・プラクティスは、レポート内の複数のグリッドをより簡単に識別できるように、グリッドに意味のある名前を付けることです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-1　(Cont.) グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
タイトル	グリッド出力の上部に含めるグリッド・タイトルを指定します(テキストおよびテキスト関数を含めることができ、列ヘッダーにまたがることができます)。グリッド・タイトルには、フォント、境界線およびシェード付けの書式設定も適用できます。関連するグリッド・セルの書式設定を参照してください。グリッド・タイトルに複数の線を追加するには、**[Alt]+[Enter]キー** (Mac では**[Option]+[Enter]**)を使用します。
データ・ソース	グリッドのデータ・ソースを変更します
列幅/行の高さ	デフォルトの列の幅および行の高さを設定します。
行バンディング	グリッドの代替行にシェード付けを適用します。デフォルトのシェード付けの色を選択できます。グリッド内の既存のシェード付けが設定されている列または行は、行バンディングの影響を受けません。
ズーム **前でズーム**	ズームでは、HTML でレポートをプレビューするときに、行または列の親メンバーを展開して、その子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます。 グリッドの親メンバーのズームを参照してください。
子の前に祖先	**Children**、**Descendants** など特定のメンバー選択関数を使用するとき、**「子の前に祖先」**を使用して、子メンバーの後ではなく子メンバーの前に祖先メンバーを表示します。デフォルト設定は **False** です。 「子の前に祖先」プロパティの操作を参照してください。
「サポート詳細」オプション	**「サポート詳細」**をメンバーの前後のどちらに表示するかと、単項演算子を付けるかどうかを選択します。
スマート・リスト・ビュー	スマート・リストの**「名前」**と**「値」**のどちらを表示するかを選択します。
ソースへのドリル・スルー	データ・ソースでセルに Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のセル・ファイル添付や Essbase のリンク・レポート・オブジェクト(LRO)などのファイルが添付されている場合に、グリッド全体で**「ソースへのドリル・スルー」**を有効にするには、**「ソースへのドリル・スルー」**を「表示」に設定します。「非表示」に設定されている場合でも、個々のセルは**セル・プロパティ**で有効にできます。ドリル・スルーとセル・ファイル添付の操作を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-1　(Cont.) グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
費用差異の使用	差異および VariancePercent 数値式関数が、「勘定科目タイプ」勘定科目メンバー・プロパティではなく IsExpense 勘定科目メンバー・プロパティに基づくようにする場合に選択します。
ゼロとの比較: 小数点以下の桁数	**「ゼロとの比較: 小数点以下の桁数」**プロパティでは、ゼロの抑制およびテキスト置換を決定するために使用する小数点以下の桁数を指定します。デフォルトでは、このプロパティは「オフ」で、ゼロとの比較は厳密です(たとえば、**0.0000000001** のデータ値はゼロではありません)。値が「オフ」でない場合、レポートでは、ゼロと比較する際に指定された小数点以下の桁数が使用されます。 例: • プロパティ設定が 1 の場合、0.1 はゼロではなく、**0.01** はゼロです • プロパティ設定が 2 の場合、0.01 はゼロではなく、**0.001** はゼロです • プロパティ設定が 5 の場合、0.00001 はゼロではなく、**0.000001** はゼロです
見出し	
メンバー・ラベル	行および列の見出しの表示方法を変更します。たとえば、メンバー名、別名または両方を表示できます。 **ノート:** これらの設定は、列または行レベルで上書きできます。データ行またはデータ列の見出しの上書きを参照してください。
繰り返しの見出し	繰り返される行または列の見出しを抑制するか、表示するか、マージするかを指定します。
別名表名	デフォルトでは、グリッドではレポートをプレビューしているときにユーザーが選択した別名表が使用されます。ただし、グリッド・レベルで別の別名表を選択できます。グリッドの別名表を設定するには、**「別名表名」**を使用します。
前に行見出し	グリッドの一般プロパティの**「前に行見出し」**を使用して、2 列の間に行見出しを配置した"バタフライ・レポート"を定義できます。バタフライ・レポートの操作を参照してください。
テキスト・オプション • データなし • アクセス権なし • エラー • ゼロ値	式の結果ゼロ、データなし、エラーになったセル、またはセル・レベルのセキュリティを適用したためにアクセス権なしになったセルのテキスト置換オプションを設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-1　(Cont.) グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
テキスト文字幅	このプロパティを使用すると、表テキスト・セル内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。
抑制	**ノート**: グリッドの行または列の抑制が無効になっていて、少なくとも 1 つのデータ・セグメントまたは式セグメント、あるいはテキスト関数 **CellText** または **CellValue** が指定されているテキスト・セグメントをグリッドに表示する必要がある場合は、グリッド全体が抑制されます。 すべてのデータ・セグメントを非表示にして、グリッドにテキストを表示する場合は、次のいずれかのステップを実行します: • データ・セグメントの行の高さまたは列の幅を **1** に設定し、フォントの色を**白**に設定します。 • データ・セグメントを選択し、**「テキストの置換」**を有効にして、テキスト・フィールドに空白の文字列を入力します。
ゼロ値	データ値がゼロの行と列を抑制します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-1　(Cont.) グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
データなし	データが存在しないセルのみを含む行および列を抑制します。 **ノート:** 式セルの結果は、次の理由で、"データなしの抑制" (#missing)を介して抑制されることはありません。 • データなしの抑制はデータ・ソースに渡されます。データ・ソースは、式の評価が実行されるレポート・サーバーに結果を返す前に**#missing** データの抑制を完了します。 • 式はデータ・セル(および他の式セル)を参照する場合があります。**#missing** 値のために抑制されているデータ・セルは、式の評価に含まれません。たとえば、#missing データ値は `Average()`計算の一部として含まれません。 • **#missing** の値は、データ・ソース・レベルで"欠落"になることはないため、式セルに適用されません。値なしまたは無効な値がある式セルは、**#missing** ではなく**#error** の値を持ちます。 式セルのデータ値を抑制するには、条件付き抑制を使用してそれらを評価します。
アクセス権なし	表示するためのセキュリティ・アクセス権をユーザーが持っていないデータを含む行および列を抑制します。
エラー	エラーのために取得または計算できないデータをセル内に含む行および列を抑制します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-1　(Cont.) グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
欠落ブロック	データベースにデータが存在しないセルのブロックを抑制します。これにより、**「欠落データの抑制」**の効率が向上します。ただし、抑制される行が存在しない場合または少ない場合は、このオプションはパフォーマンスを低下させる場合があります。 **ノート**: • Cloud EPM プラットフォームのデータ・ソースに対して**「欠落ブロックの抑制」**が有効な場合は、グリッド結果を受け取ることができます(欠落データを含む行または列のいくつかのセルは抑制されませんでした)。これは、Smart View およびフォームの結果と一致しています。行または列内の欠落データを抑制するには、抑制オプションを**「データなし」**に設定し、**「最適化」**値を **True** に設定する必要があります。プロパティ名**「最適化」**は、**「データなしの抑制」**が有効な場合のみ使用できます。**「データなしの抑制」**が有効で、**「最適化」**も有効な場合は、**「欠落ブロックの抑制」**と**「欠落した行の抑制/欠落した列の抑制」**の両方がデータ・ソースのグリッド取得に適用されます。 • 列セグメントでズームを有効にした**「欠落ブロックの抑制」**はサポートされていません。
ネイティブ(データベース)	ビジネス・プロセスのレベルではなく Oracle Essbase レベルで行の抑制を適用します。これにより、ビジネス・プロセス側のデータ量が削減され、問合せしきい値に対する影響が排除されます。 **ノート:** 抑制される行が存在しない場合または少ない場合は、このオプションはパフォーマンスを低下させる場合があります。この設定を使用している前後でレポートをテストし、パフォーマンスが向上しているかどうかを判定してください。
日付書式	日付を含むグリッド・セルの日付書式は**ユーザー・プリファレンス**の日付書式設定から導出されます。グリッドに固有の書式設定で日付書式を上書きするには、グリッド・プロパティの**「日付書式」**を使用します。この日付書式はグリッド内のすべての日付セル値に適用されます。グリッドの日付書式を指定しない場合、**ユーザー・プリファレンス**の書式設定が使用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-1　(Cont.) グリッド - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
セルのパディング • 水平 • 垂直	垂直および水平のセルのパディングに使用するピクセル数を指定します。デフォルトの数は **5** ピクセルです。 移行された Financial Reporting (セルのパディングがサポートされていない) レポートではこの値がゼロにセットされています。
グループ化 • グループ改ページ • グループ内の改ページなし	PDF 書式でレポートをプレビューするときの改ページの処理方法を定義します。 詳細は、グループ化と改ページを参照してください。
条件式 スケールされた値/丸められた値の使用	条件付き書式設定と抑制、および基本(グリッド、列または行)抑制でグリッド・プロパティ**「スケールされた値/丸められた値の使用」**を使用して、条件内でスケーリング済またはスケーリングされていない raw データ値が使用されるかどうかを指定します。 • デフォルトは**「True」**であり、書式設定済およびスケーリング済データ値が条件内で使用されることを意味します。たとえば、データ値 **125,016,551** を含むセルが千でスケーリングされる場合は **125,016** と表示され、**125,016** の値が条件内で使用されます。 • プロパティが**「False」**に設定されている場合、基礎となるスケーリングされていないデータ値が条件内で使用されます。この設定は、グリッドのすべての条件付き書式設定および抑制に適用されます。

列のプロパティ

列のプロパティ

列のプロパティは列全体に影響します。プロパティを表示する列を選択するには、列ヘッダーをクリックする必要があります。列のプロパティを使用して、列の幅、繰返しの見出しおよび抑制設定に対するデフォルトのグリッド設定を上書きします。グリッド設定はブラケット内に表示されます。たとえば、ゼロに対する抑制設定で、**「グリッド設定(False)」**は、グリッド・レベルではゼロ値が抑制されないことを示します。設定をクリックして、選択されている列の抑制設定を**「True」**(常にゼロを抑制)または**「False」**(ゼロを抑制しない)で上書きするか、グリッドのデフォルトを使用します。

列のプロパティを使用して次を編集します:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-2　列のプロパティの確認

プロパティ名	摘要
幅	列の幅については、次のいずれかを実行できます。 • デフォルトのグリッド列の幅を使用 • 固定の列の幅を指定 • 最小の列の幅を指定(幅はデータ・セルの結果コンテンツにあわせてサイズが自動変更されます)。列見出しの場合、列の最小幅は、見出しセルの必要な幅にあわせてサイズ変更する必要があります。
表示	列を**表示**するか**非表示**にします
前に改ページ	列の前に改ページを挿入します
繰り返しの見出し	**HTML** および **PDF** プレビューの列見出しで、行ヘッダーとデータ列の間にテキストまたはセパレータ列(あるいはその両方)を繰り返し挿入する必要がある場合は、**「繰り返しの見出し」**プロパティを使用できます。有効にした場合(デフォルトで**「繰り返しの見出し」**は**「いいえ」**に設定): • **PDF** プレビューでは、改ページの後、常にこのプロパティが有効化された列が列見出しに含まれます。 • **HTML** プレビューでは、すべての見出し列とともにテキストまたはセパレータ列が常に挿入されます。 **ノート**: このプロパティは、列の先頭に表示されるテキストおよびセパレータ列の**列のプロパティ**にのみ適用されます。このプロパティは、1 つ以上のデータまたは式列の後に表示されるテキストまたはセパレータ列には、一切適用されません。
抑制	行のデータ・セルについて、ゼロ、値がない、エラーおよびアクセス権なしのセルを抑制するかどうかを選択します。
ノート・テンプレート	Narrative Reporting デプロイメントでは、「ノート列」に対して**「ノート・テンプレート」**を選択します。 詳細は、ノート・エントリの許可プロパティの設定を参照してください。

行のプロパティ

行のプロパティ

行のプロパティは行全体に影響します。プロパティを表示する行を選択するには、行ヘッダーをクリックする必要があります。行のプロパティを使用して、行の高さ、繰返しの見出しおよび抑制設定に対するデフォルトのグリッド設定を上書きします。

行のプロパティを使用して次を編集します:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-3　行のプロパティの確認

プロパティ名	摘要
高さ	行の高さについては、次のいずれかを実行できます。 • デフォルトのグリッド行の高さを使用 • 固定の行の高さを指定 • 最小の行の高さを指定(高さは結果コンテンツにあわせてサイズが自動変更されます)
表示	行を**表示**するか**非表示**にします
行バンディング	**「行バンディング」**には、設定可能な 3 つのプロパティ設定(「グリッド設定(オフ)」、「オン」、「オフ」)があります。デフォルトは「グリッド設定(オフ)」です。
前に改ページ	行の前に改ページを挿入します。
繰り返しの見出し	**HTML** および **PDF** プレビューの行見出しで、列ヘッダーとデータ行の間にテキスト行またはセパレータ行(あるいはその両方)を繰り返し挿入する必要がある場合は、**「繰り返しの見出し」**プロパティを使用できます。有効にした場合(デフォルトで**「繰り返しの見出し」**は**「いいえ」**に設定): • **PDF** プレビューでは、改ページの後、常にこのプロパティが有効化された行が行見出しに含まれます。 • **HTML** プレビューでは、すべての見出し行とともにテキスト行またはセパレータ行が常に挿入されます。 **ノート**: このプロパティは、行の先頭に表示されるテキストおよびセパレータ列の**行のプロパティ**にのみ適用されます。このプロパティは、1 つ以上のデータ行または式行の後に表示されるテキスト行またはセパレータ行には、一切適用されません。
末尾文字	データ行および式行については、末尾文字(ドット、破線、アンダースコアまたはカスタム)をヘッダー・ラベルの末尾に表示して行ヘッダーの幅が拡張されるようにできます。末尾文字を有効にして指定するには、1 つ以上のデータ行または式行を選択し、行のプロパティで、**「末尾文字」**プロパティを**「. (ドット)」**、**「- (破線)」**、**「_ (アンダースコア)」**または**「カスタム」**に設定します。デフォルト設定は**「なし」**です。 **ノート**: • 「末尾文字」プロパティはテキスト行やセパレータ行には適用されません。 • 行に複数のディメンションが存在する場合、末尾文字は、最も内側のディメンションにのみ表示されます。 • カスタムの末尾文字の使用は、現在オプションです。レポート・パッケージで使用されるレポートの場合、ユーザーは事前定義済の末尾文字のいずれかを使用する必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 4-3　(Cont.) 行のプロパティの確認

プロパティ名	摘要
ノート・テンプレート	Narrative Reporting デプロイメントでは、「ノート行」に対して**「ノート・テンプレート」**を選択します。 詳細は、「ノート・エントリの許可プロパティの設定」を参照してください。
抑制 • ゼロ値 • データなし • アクセス権なし • エラー	行のデータ・セルについて、ゼロ、値がない、エラーおよびアクセス権なしのセルを抑制するかどうかを選択します。

グリッド・セルの書式設定

セル・プロパティでは、選択したメンバー・ヘッダー・セルおよびデータ・セルの範囲がグリッドに表示される方法を変更できます。

フォントと配置の書式設定

メンバーの見出しとデータ・セルでは、「フォント」および「位置合せ」フィールドを使用して、セル内のテキストのフォント、サイズ、色および配置を変更したり、右から左に記述する言語でテキスト方向を逆にすることができます。また、セルの左側のマージンからのインデントも指定できます。

メンバーの見出しを含む(データは含まない)行および列のセルの場合:

- **「インデント基準」**を使用して、選択したメンバーの各世代またはレベルの行見出しをインデントします。スペースの数を指定して、セルの左側のマージンから値をインデントします。負数を使用すると、逆のインデント(右から左)を指定できます。レベル 0 のメンバーがすべて同じ世代ではない場合、**「世代」**または**「レベル」**別にインデントできます。**「なし」**を選択して、行または列からインデントを削除します。
- **「ズーム」**を使用して、親メンバーのズームを有効にします。グリッドの親メンバーのズームを参照してください。

たとえば、Narrative Reporting のサンプル・モデルを使用すると、`Descendants of Total Entity` で、**「インデント基準」**、**「レベル」**の順に選択し、**「インデント」**を 5 に設定すると、次のようになります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

	Fiscal Calendar
North America Corporate	-35,181,985
MA	28,186,672
NY	40,200,754
PA	-9,451,090
East Sales	58,936,335
CA	36,885,174
CO	2,238,490
WA	7,297,359
West Sales	46,421,024
IL	-2,914,247
MN	7,467,172
North Sales	4,552,925
FL	4,077,962
TX	-3,967,398
South Sales	110,564
USA Sales	110,020,848
Info Technology	-700,715
Human Resources	-700,715
Facilities	-451,365
Admin Serv	-1,852,795
Accounting	-2,267,072
Payroll	-582,250
Corp Finance	-770,256
Finance	-3,619,578
Marketing Admin	-584,919

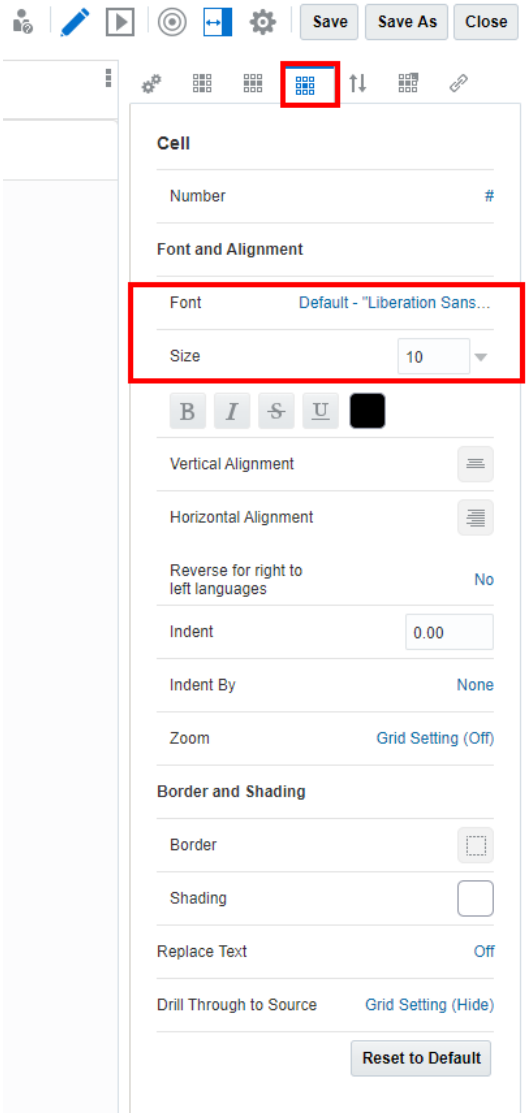
> ⓘ **ノート**
>
> **「インデント基準」**(世代またはレベル)または**「ズーム」**を選択すると、**「相対インデント」**フィールドが表示されます。相対インデントを使用して、行メンバー・ラベルのインデントのサイズを調整します。このフィールドには、ユーザー・プリファレンスに従って、現在のインデントがインチまたはセンチメートルで表示されます。(*Narrative Reporting* についての「書式設定」タブの使用を参照してください)。デフォルト値は**.12** インチです。この値は-1.00 から 1.00 インチまで調整できます。負の値を使用して、行メンバー・ラベルを逆にインデントします。

グリッド・セルのフォントを定義するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> フォントの書式設定はセル全体に適用され、グリッドでは複数のフォント選択および書式は許可されません。

1. グループを編集して、 をクリックします。
2. セル・プロパティ・パネルで、**「フォント」**および**「サイズ」**ドロップダウン・ボックスを使用してフォントを定義します。



次のデフォルト・フォントを使用できます。

- Liberation Sans (Arial)
- Liberation Serif (Times New Roman)
- Liberation Mono (Courier New)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Albany (日本語)
- Albany (韓国語)
- Albany (簡体中国語)
- Albany (繁体中国語)

テキスト・セルについては、ユーザーが**テキスト文字幅**プロパティを使用して、グリッド・テキスト・セル内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。詳細は、テキスト文字幅プロパティの使用を参照してください。

境界線とシェード付けの書式設定

「境界」で、  をクリックして境界線エディタをオープンします。上、下、左、右またはすべてをクリックして境界線を指定し、ドロップダウン矢印をクリックして境界スタイルを指定します。境界線色をクリックして変更します。色ピッカーから色を選択するか、手動で RGB 値を入力できます。スタイルおよび色を指定するには、境界線(「すべて」など)を有効にする必要があります。**「OK」**をクリックして変更を確定します。

下側の境界線が破線であるセルと、上側の境界線が実線であるその下のセルなど、境界線の幅が同じである隣接するセルの重なり合う境界線を書式設定または条件付き書式設定によって指定するときに、レポートでは、重なり合うセル境界線についてブラウザが行うものと同じ動作が使用されます。

この動作は次のとおりです:

- 垂直方向に隣接するセル(上下のセル)については、上のセルの下側の境界線が下のセルの上側の境界線より優先されます。
- 水平方向に隣接するセル(左右のセル)については、左のセルの右側の境界線が右のセルの左側の境界線より優先されます。

「シェード付け」で、  をクリックして、選択したセルの背景色を指定します。色ピッカーから色を選択するか、手動で RGB 値を入力できます。

「テキストの置換」を使用すると、選択されたセルのデータ値をテキスト文字列で置換できます。たとえば、機密の財務情報が含まれるセルには「Confidential」と表示できます。入力したテキストはグリッド・デザイナおよびすべてのレンダリング済出力に表示されます。

> **ⓘ ノート**
>
> ゼロ値を置換する場合、テキストの置換は表示されたゼロ値に基づきます(必ずしも実際のデータ値ではありません)。たとえば、データ値は.001 ですが、小数点以下を表示しないように書式設定されている場合、表示されるデータ値はゼロのため、これは指定したテキストで置換されます。値がゼロであることを判断する際に考慮する精度の小数点以下の追加の桁数を指定できます。

「デフォルトにリセット」をクリックすると、選択したセルのすべてのセル書式設定がデフォルト設定に戻ります。

ノート入力の許可

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

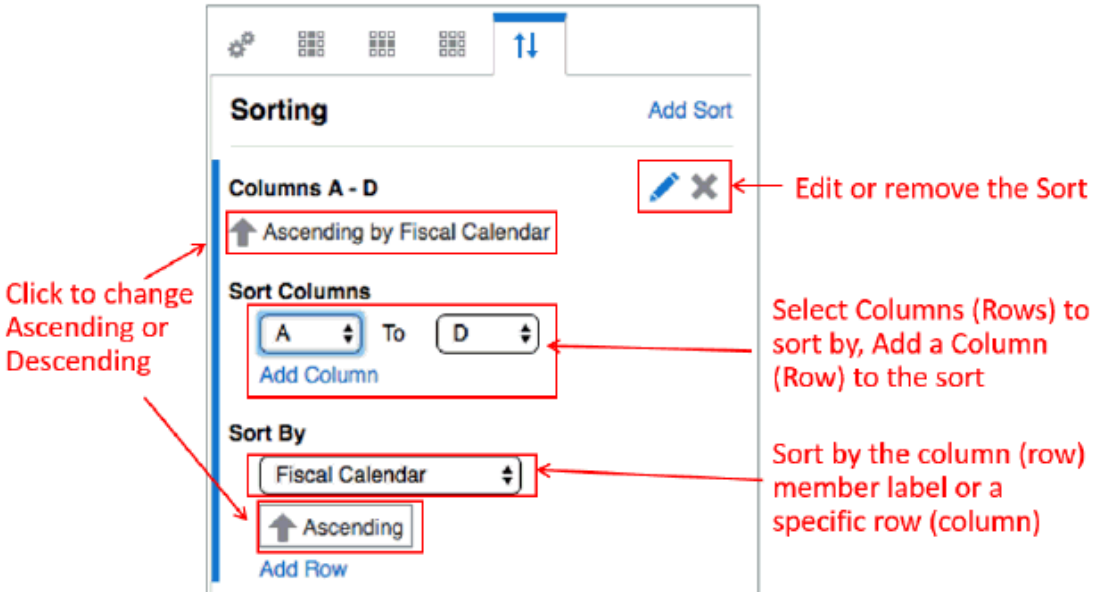
ノート列およびノート行セグメントでの Narrative Reporting デプロイメントの場合、ノート・セグメントの特定のセルの**「ノート入力の許可」**書式設定プロパティによって、ノート・エントリを制限または許可できます。詳細は、ノート・エントリの許可プロパティの設定を参照してください。

ソート

ソート

「ソートの追加」をクリックして行または列のソートを選択し、グリッドの値をソートします。複数のソートを追加したり(たとえば、列に基づいてソートした後に行に基づいてソートできます)、複数の行または列をソートに追加できます(たとえば、メンバーの列に基づいて列をソートした後に行 3 に基づいてソートできます)。

Figure 4-1　ソート・オプション



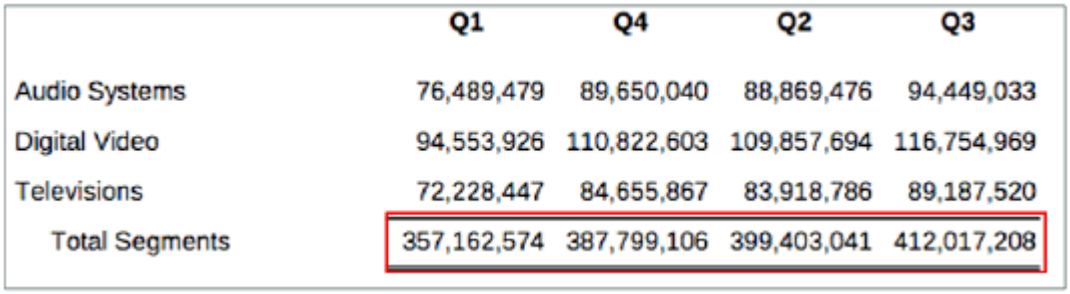
グループ化を使用したソートの詳細は、ソートとグループ化トピックを参照してください。

「ソート」ダイアログ・ボックスには、次のオプションがあります。

- **昇順/降順** - 昇順ソートと降順ソートを切り替えます。
- **編集** - ソートの編集を有効にします。
- **削除** - ソートを削除します。
- **列の追加/行の追加** - 列または行をソートに追加します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Figure 4-2　ソートの例



	Q1	Q4	Q2	Q3
Audio Systems	76,489,479	89,650,040	88,869,476	94,449,033
Digital Video	94,553,926	110,822,603	109,857,694	116,754,969
Televisions	72,228,447	84,655,867	83,918,786	89,187,520
Total Segments	357,162,574	387,799,106	399,403,041	412,017,208

図 2 は、列 A から D を行 4 で昇順にソートする例を示しています。

グリッド・ツールバー

ツールバーでは、次の操作を実行できます。

編集/プレビュー

「編集」および**「プレビュー」**を使用して、編集モードとプレビュー・モードを切り替えます。編集モードではグリッドを変更でき、プレビュー・モードではグリッドが公開されたときの表示の様子を確認できます。プレビュー・モードでは、 を使用して POV の表示を切り替えます。

ディメンション・レイアウト

ディメンション・レイアウトのオーバーレイを切り替え、これによってディメンションをドラッグして並べ替えたり、**視点**、**「行」**、**「列」**からディメンションを移動できます。

行および列には、複数のディメンションを配置できます。行または列に配置されていないディメンションは、グリッド・デザイナの上部にある視点バーに表示されます。

行および列には、複数のディメンションを重ねて配置できます。たとえば、シナリオ・ディメンションと時間ディメンションを同じ軸に配置して、一定期間の実績と予算のデータを表示できます。

> **ⓘ ノート**
>
> データ・ソースに属性ディメンションが含まれている場合は、POV、行または列で+記号をクリックして属性ディメンションを表示して、追加するディメンションを選択します。通常のディメンションと同様に、属性ディメンションを軸間でドラッグ・アンド・ドロップできます。属性ディメンション・ラベルの「X」をクリックすると、属性ディメンションが削除されます。

プロパティ

「プロパティ」を使用して、グリッド・プロパティ・パネルを表示または非表示にします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポート処理

「処理」を使用して、次を行えます:

- 算式バーを表示または非表示にします。
- メンバー・セレクタ表示のメンバー・ラベルに対するデフォルトの表示設定(メンバー名、別名または両方)、およびグローバル POV とローカル POV を設定します。
- すべてのレポートのデフォルト・フォントを選択します。
- チャートのデフォルト色を選択します。
- 名前付き POV を管理します(Narrative Reporting のみ)
- フォーマット・マネージャでノート・テンプレートおよびノートに対する管理機能を表示および実行し、ノート・テキスト関数で使用するノート・フォーマットを作成および保守します(Narrative Reporting のみ)。

非表示のグリッドの使用

グリッドを非表示にし、レポート出力に表示されないようにすることができます。たとえば、行式または列式を使用して追加データ・ソースから 1 つのグリッドにデータを収集する場合、ソース・データ・グリッドを非表示のシートに配置することで非表示にできます。

既存のグリッドを非表示にするには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、非表示にするグリッドを選択します。
2. 右クリックし、**「移動先」**を選択してから、**「非表示のシート」**を選択します。

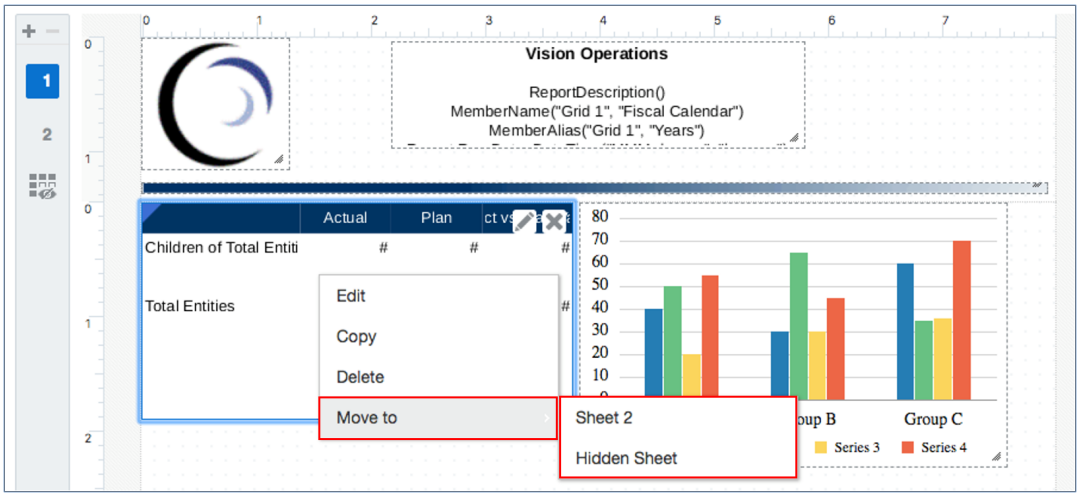
非表示のグリッドを新規作成するには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、シート・パネルから  をクリックします。
2. レポートにグリッドを追加するにはグリッドの追加のトピックを参照して、新規グリッドを挿入します。

非表示のグリッドを再表示するには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、シート・パネルから  をクリックします。
2. **「非表示のシート」**で再表示するグリッドを選択してから、右クリックして**「移動先」**を選択し、グリッドを移動するシートを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



書式設定のベスト・プラクティス

レポートの書式を設定する場合は、次の点に注意してください。

- セルの書式設定は、行と列の書式設定およびグリッドの書式設定より優先されます。
- セルの書式設定を使用して、行と列の書式設定およびグリッドの書式設定に対する例外を適用できます。
- 行/列の書式設定はグリッドの書式設定より優先されます。
- 行/列の書式設定を使用して、グリッドの書式設定に対する例外を適用できます。
- レポートの書式を設定する適切な順序は、次のとおりです。
  1. グリッドの書式を設定します。
  2. 異なる書式設定を行および列に適用します。
  3. 特定のセルに書式設定を適用します。

グリッドのセル、行または列から書式設定をコピーするには:

1. ソースのセル、行または列を選択します。
2. 右クリックして**書式設定のコピー**を選択します。
3. 宛先のセル、行または列を選択します。
4. 右クリックして**書式設定の貼付け**を選択します。

視点の定義

視点(POV)によって、グリッドに取得されるデータが決まります。

次も参照:

- 視点について
- 視点の操作
- 視点の設定
- 出力可能なページ・メンバーの表示

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 属性ディメンションおよび視点
- 視点の例

視点について

グリッドを含むレポートには、データを表示するレポートのすべてのレポート・オブジェクトに適用されるグローバル視点(POV)があります。グリッドにはローカル視点(POV)もあり、これには、グリッドの行または列に表示されていないデータ・ソースのすべてのディメンションが含まれ、グリッドに表示されるデータが決定されます。グローバル POV およびローカル POV の詳細は、視点についてを参照してください。

> **ⓘ ノート**
>
> レポートを作成するとき、グリッドまたはチャートをそのレポートに初めて追加する場合は、そのグリッドまたはチャートの POV がそのレポートのグローバル POV になります。後続のグリッドまたはチャネルをレポートに追加すると、単一の選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体ですべての共通ディメンションが結合されます。任意のディメンションについて、グローバル POV をローカル POV の選択で上書きできます。たとえば、グローバル POV の Scenario ディメンションが **Actual** に設定されている場合は、特定のグリッドまたはチャネルのその選択をローカルの **Budget** の選択で上書きできます。この設定はそのグリッドまたはチャートにのみ影響を与えます。他のすべてのグリッドおよびチャートには、グローバル POV の実績データが表示されます。

視点の操作

デフォルト設定

メンバー選択を作成していない場合または POV ディメンションのオプションを設定していない場合は、レポート編集モードに切り替えると、そのディメンションは**「デフォルト」**に設定されます。

レポートをプレビューする場合は、セキュリティ・アクセス権があるディメンションの任意のメンバーをデータ・ソースで選択できます。より簡便に選択できるように、最近選択したメンバーが表示されます。

複数のメンバーの選択

編集モードでは、レポート参照者が選択するメンバーのリストを定義するために、ディメンションに複数のメンバーを選択したり、関数(たとえば、合計エンティティの子)を使用することもできます。

また、**「提案のみ表示」**を設定し、参照者がメンバー選択リストからのみ選択するように制限できます。このメンバーのリストはプレビュー・モードでプレビューできます。

POV ディメンションに複数のメンバーを選択した場合は、ディメンションを**「すべての選択の印刷」**に設定できます。レポートを PDF または Excel でプレビューすると、各メンバー選択は異なるページまたはシートにレンダリングされます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> **「すべての選択の印刷」**が有効の場合、POV メンバーの固定リストが **PDF** または **Excel** に出力され、これら 2 つの形式のレポート実行時にすべてのメンバーが取得されます。**HTML** プレビューでは、最初の POV 選択のみ取得されます。

> **ヒント**
>
> POV ディメンションで複数のメンバーが選択されていて、**「すべての選択の印刷」**が有効である場合、レポートの PDF プレビューには、POV メンバーごとに個別のページが表示されますが、メンバー名はレポートの PDF 出力に表示されません。メンバー名を表示するには、MemberName または MemberAlias テキスト関数を使用する必要があります。出力可能なページ・メンバーの表示を参照してください。

ユーザー選択のロックまたは制限

POV ディメンションのメンバーを定義する場合は、レポート参照者が選択できる対象を制御します。**「提案のみ表示」**を使用して、レポート参照者が他のメンバーを選択できないように選択肢をロックするか、定義したメンバー以外のメンバーを参照者が選択できるようにします。

また、各ディメンションに単一のメンバーを選択した場合は、レポート参照者に POV が表示されないようにできます。

POV への複数のグリッドからのディメンションの組込み

レポートに同じデータ・ソースを使用する複数のグリッドがある場合は、レポートをプレビューすると、POV ディメンションは POV バーに組み込まれます。たとえば、Scenario ディメンションが 1 つ目のグリッドの列と 2 つ目のグリッドの POV にある場合、Scenario ディメンションは引き続きグローバル POV に表示されます。一方、その選択肢は 2 つ目のグリッドにのみ影響します。

> **ノート**
>
> 共有ディメンションをグローバル POV に組み込んだ場合は、**「提案のみ表示」**を有効にする必要があります。

レポートに異なるデータ・ソースを使用する複数のグリッドがある場合は、レポートをプレビューすると、POV ディメンションは POV バーに組み込まれます。データ・ソースが同じディメンション名を共有する場合は、1 つのディメンションのみが表示され、2 つのデータ・ソースに共通するメンバーのみがリストされます。

> **ノート**
>
> POV の各データ・ソースで共通ディメンションのメンバーをリストする場合は、1 つまたは両方のディメンションをローカル POV に移動します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

視点の設定

視点を設定するには:

1. グリッド・デザイナの編集モードでグリッドをオープンします。
2. グリッドの上部にある POV バーでディメンションのラベルをクリックし、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。
3. メンバー・セレクタで、メンバー名の横にあるチェック・マークをクリックして、ディメンションのメンバーを 1 つ以上選択します。個々のメンバーを選択するか、リストまたはメンバー選択関数を使用して複数のメンバーを選択できます。

> **ⓘ ノート**
>
> ディメンションの選択を定義しなかった場合は、**「デフォルト」**が表示され、レポート参照者は、そのディメンションについて自分にアクセス権があるメンバーを選択できます。

4. ディメンションの POV オプションを設定するには、POV ディメンションの横にある をクリックし、次のいずれかを選択します。
   - **選択のリセット** - ディメンションの選択を**「デフォルト」**にリセットします。
   - **ディメンションの非表示** - プレビュー・モードでディメンションを非表示にします。これは、ディメンションの複数選択が定義されていない場合にのみ使用可能になります。
   - **グローバル・ディメンション** - ディメンションのグローバル POV とローカル POV を切り替えます。

     > **ⓘ ノート**
     >
     > POV ディメンションがローカルとして定義されている場合は、HTML プレビューでレポートをプレビューするときに、レポートの上部にあるグローバル POV バーではなく、グリッドの上でそのディメンションのメンバーを選択します。PDF プレビューでレポートをプレビューするときは、ローカル POV は表示されません。

   - **提案のみ表示** - レポート参照者が選択できるのメンバーを POV に指定されているメンバーのみに制限します。参照者は、このディメンションに他のメンバーを選択できません。
   - **すべての選択の印刷—PDF** または **Excel** に出力する際、複数メンバーのディメンションの各メンバーを独立したページまたはシートにレンダリングします。

     > **ⓘ ノート**
     >
     > このオプションは、複数の POV メンバー選択が定義され、**「提案のみ表示」**が選択されている場合のみ使用可能になります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

5. 残りの POV ディメンションに対して、メンバーの選択と POV オプションの設定を必要に応じて続行します。すべてのディメンションを **「デフォルト」** にリセットするには、POV バーの右端にある をクリックし、**「すべてデフォルトにリセット」** を選択します。

> **ⓘ ノート**
>
> POV ディメンションの提案リストが単一のメンバーに設定されていて、**「提案のみ表示」** プロパティがオフになっている場合、POV ディメンションは常に、別のレポートのディメンションの直近の選択に関係なく、指定された提案リストのメンバーに設定されます。
>
> これは、POV ディメンションのデフォルトのメンバーをレポート・デザイナで適用できるようにするためです。デフォルトのメンバーとは、レポートが最初にプレビューされるときに常に最初に使用されるメンバーです。
>
> **「提案のみ表示」** プロパティがオフになっているときは、ディメンションを任意のメンバーに変更できます。

出力可能なページ・メンバーの表示

POV ディメンションで複数のメンバーが選択されていて、**「すべての選択の印刷」** が有効である場合、レポートの **PDF** または **Excel** 出力には、POV メンバーごとに個別のページが表示されますが、メンバー名はレポートの PDF 出力に表示されません。

レポートに POV ディメンションのメンバー名または別名を表示するには、グリッド・タイトル、テキスト・ボックスまたはグリッド・テキスト・セルで、`MemberName` または `MemberAlias` テキスト関数を使用できます。グリッドの左上のセルは、テキスト関数を含めることができるテキスト・セルです。

グリッド・タイトルへの POV 選択内容の挿入

グリッド・タイトルを有効にし、POV 選択内容を表示するためのテキスト関数を挿入するには:

1. **「グリッド・デザイナ」** から、**「一般プロパティ」** を選択してから、**「タイトル=表示」** を設定します。タイトル・バーはグリッドの上に表示されます。
2. テキスト・ボックスの右上にある  をクリックします。
3. `MemberName` または `MemberAlias` を選択し、必要なディメンション・パラメータを指定します。ディメンション・パラメータは、複数のメンバーが選択され、**「すべての選択の印刷」** が有効化されている POV ディメンションです。
4. **「選択」** をクリックして、テキスト関数をテキスト・ボックスに追加します。必要に応じて、テキスト関数の前または後に Current Month:などの追加テキストを追加できます。
5.  をクリックして、タイトル・バーのテキストを検証します。
6. **オプション**: テキストおよびタイトル・バーの書式(フォント、位置合せ、シェード付けおよび境界線など)を設定するには、**「一般プロパティ」** パネルの下の **「タイトル」** プロパティの横にある書式  をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

7. **「クローズ」**をクリックしてレポート設計に戻ります。HTML または PDF でレポートをプレビューすると、POV ディメンション・メンバーがレポートのページごとにグリッドの上部に表示されます。

グリッド・タイトルでのセグメント POV メンバーの表示は、MemberAlias 関数を使用してグリッド・タイトルにセグメント POV メンバーを表示する例を示し、ヘッダーにおける算式の結果の表示はその算式の結果であり、ページ 1 のヘッダーに All Segments、ページ 2 に Televisions が表示されています。

図 4-3 グリッド・タイトルでのセグメント POV メンバーの表示

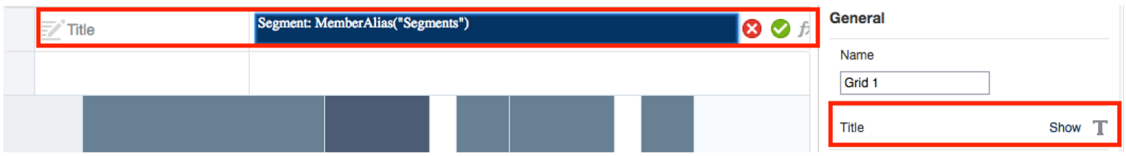


図 4-4 ヘッダーにおける算式の結果の表示

Segment: All Segments

	Actual	% of Net Sales	Plan	% of Net Sales
Net Revenue	157,041,184	100%	157,730,824	100%
Cost of Sales	106,377,180	68%	106,662,144	68%
Gross Profit	50,664,003	32%	51,068,680	32%

Segment: Televisions

	Actual	% of Net Sales	Plan	% of Net Sales
Net Revenue	31,774,728	100%	31,915,657	100%
Cost of Sales	24,992,745	79%	25,059,696	79%
Gross Profit	6,781,982	21%	6,855,961	21%

ヘッダーへの POV 選択内容の挿入

POV 選択内容をヘッダーに表示するためのテキスト関数を挿入するには:

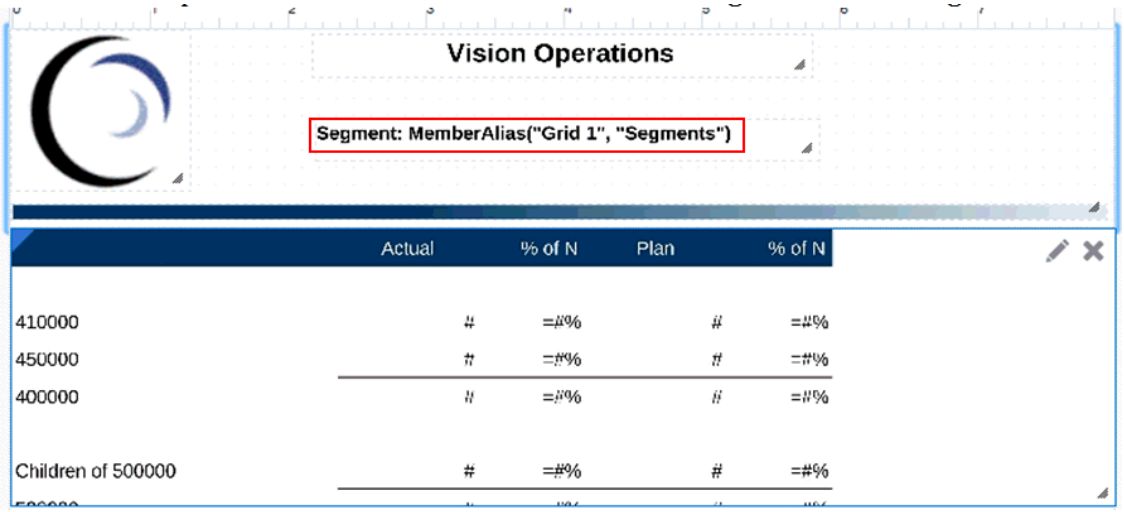
1. レポートのヘッダーまたはフッターで右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**を選択した後、**「テキスト」**を選択します。
2. または**「設定テキスト」**をクリックします。
3. テキスト・ボックスの右上にある fx をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4. MemberName または MemberAlias を選択し、グリッドやディメンションなどの必要なパラメータを指定します。ディメンション・パラメータは、複数のメンバーが選択され、**「すべての選択の印刷」**が有効化されている POV ディメンションです。
5. **「選択」**をクリックして、テキスト関数をテキスト・ボックスに追加します。必要に応じて、テキスト関数の前または後に Current Month:などの追加テキストを追加できます。
6. **オプション:** フォントや配置など、テキストの書式をテキスト・ボックス・プロパティ・パネルで設定します。
7. **「クローズ」**をクリックしてレポート設計に戻ります。PDF でレポートをプレビューすると、POV ディメンション・メンバーがレポートのページごとにページ・ヘッダーに表示されます。

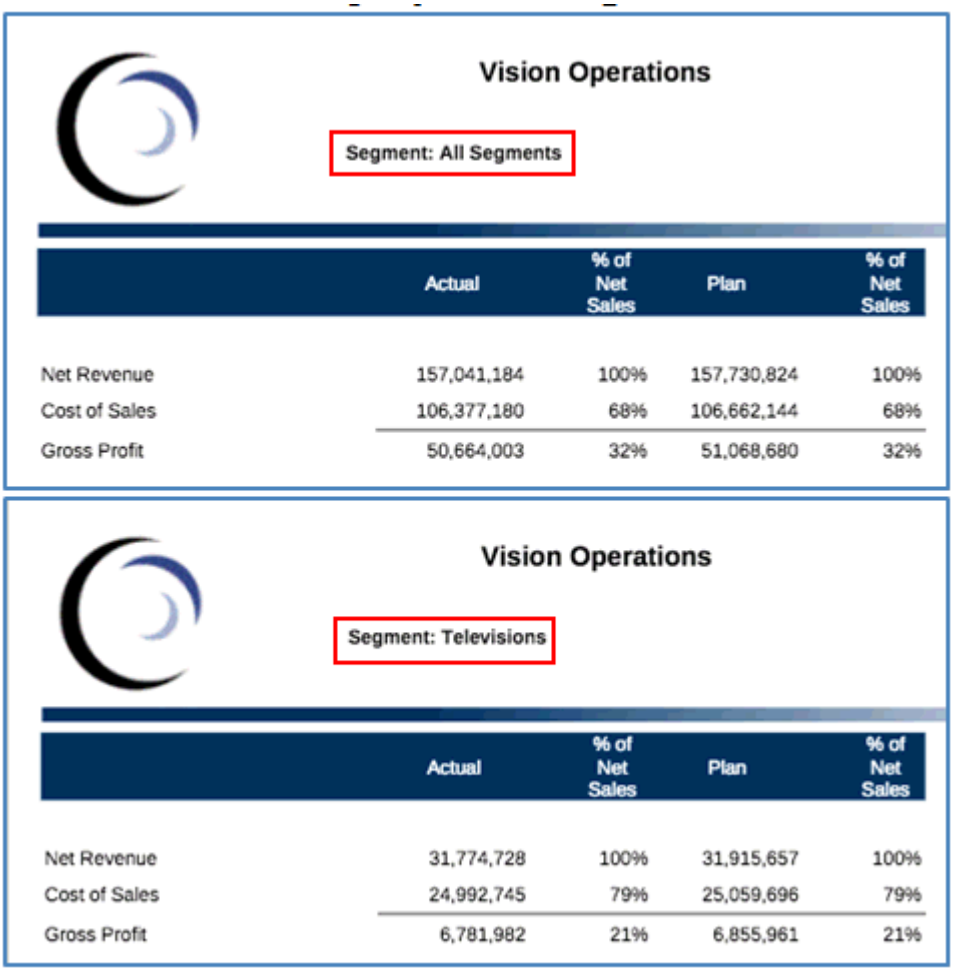
図 3 は、MemberAlias 関数を使用してヘッダーにセグメント POV メンバーを表示する例を示し、図 4 はその算式の結果であり、ページ 1 のヘッダーに All Segments、ページ 2 に Televisions が表示されています。

図 4-5 ヘッダーにセグメント POV を表示する算式



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-6 ヘッダーにセグメント POV を表示する算式の結果



左上グリッド・セルへの POV 選択内容の挿入

POV 選択内容をヘッダーに表示するためのテキスト関数を挿入するには:

1. グリッド・デザイナで、テキスト・セルである、グリッドの左上のセルを選択します。
2. 算式バーの右上にある *fx* をクリックします。
3. `MemberName` または `MemberAlias` を選択し、グリッドやディメンションなどの必要なパラメータを指定します。ディメンション・パラメータは、複数のメンバーが選択され、**「すべての選択の印刷」**が有効化されている POV ディメンションです。
4. **「選択」**をクリックして、テキスト関数をテキスト・ボックスに追加します。必要に応じて、テキスト関数の前または後に Current Month:などの追加テキストを追加できます。
5. をクリックして、算式バーのテキストを検証します。
6. **オプション:** フォントや配置など、テキストの書式をテキスト・ボックス・プロパティ・パネルで設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

7. **「クローズ」**をクリックしてレポート設計に戻ります。PDF でレポートをプレビューすると、POV ディメンション・メンバーがレポートのページごとにグリッドの左上のセルに表示されます。

図 5 は、MemberAlias 関数を使用して左上のセルにセグメント POV メンバーを表示する例を示し、図 6 はその算式であり、ページ 1 の左上のセルに All Segments、ページ 2 に Televisions が表示されています。

図 4-7 左上のセルにセグメント POV を表示する算式



図 4-8 左上のセルにセグメント POV を表示する算式の結果

Segment: All Segments	Actual	% of Net Sales	Plan	% of Net Sales
Net Revenue	157,041,184	100%	157,730,824	100%
Cost of Sales	106,377,180	68%	106,662,144	68%
Gross Profit	50,664,003	32%	51,068,680	32%

Segment: Televisions	Actual	% of Net Sales	Plan	% of Net Sales
Net Revenue	31,774,728	100%	31,915,657	100%
Cost of Sales	24,992,745	79%	25,059,696	79%
Gross Profit	6,781,982	21%	6,855,961	21%

属性ディメンションおよび視点

属性は標準ディメンションと関連付けられているディメンションで、通常は計算済の値を表示するために使用します。これらは取得時に動的に計算されるため、レポートの取得に追加の処理時間がかかることがあります。属性ディメンションが POV にある場合、レポートの設計者は属性ディメンションをユーザーの最初のレポート問合せから除外することを選択できます。これにより、ユーザーが属性メンバーを選択するまで問合せの処理を追加しないで、POV に属性ディメンションを維持できます。

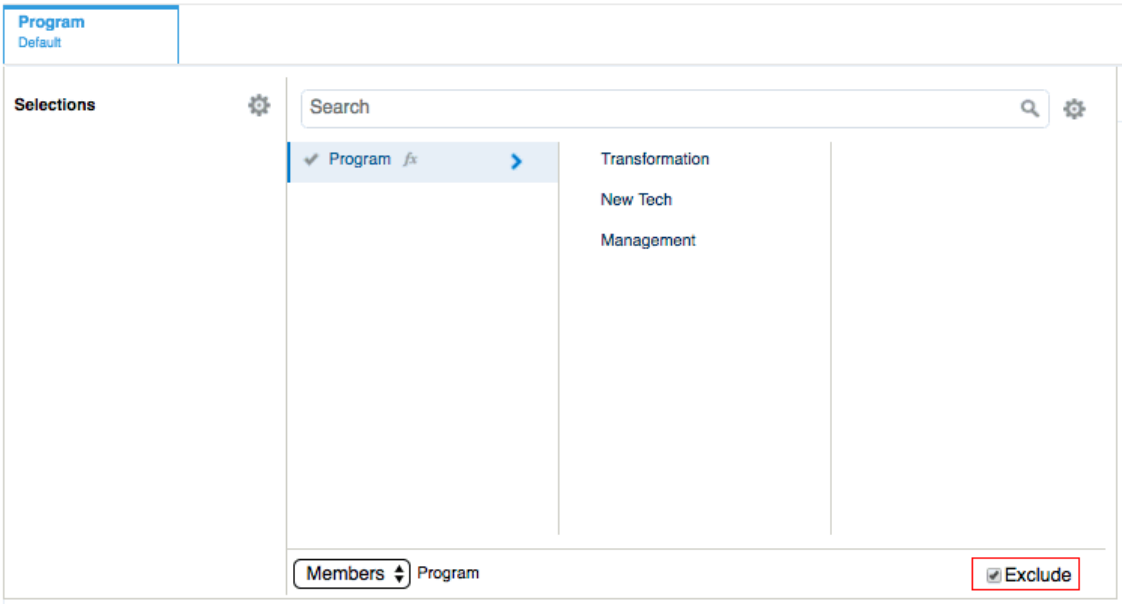
POV の属性ディメンションを除外するには:

1. グリッド・デザイナの編集モードでグリッドをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. グリッドの上部にある POV バーで属性ディメンションのラベルをクリックし、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。
3. メンバー・セレクタの右下部にある**「除外」**チェック・ボックスを選択します。図 1 を参照してください。
4. **オプション**: ディメンションのメンバーを 1 つ以上選択します。
5. **オプション**: POV オプションを 1 つ以上設定します。

図 4-9 属性ディメンションの「除外」チェック・ボックス



レポートまたはグリッドをプレビューするときに、**「除外」**に設定されている POV の属性ディメンションには選択内容として-が表示され、レポート問合せに含まれていないことを示しています。

POV メンバーを選択できます。属性ディメンションはレポート問合せに含まれます。レポート設計者が**「提案のみ表示」**を POV の属性ディメンションに対して有効にしていない場合、ディメンションに**「すべてのメンバー」**を選択し、必要に応じて**「除外」**を有効にできます。それ以外の場合、レポートまたはグリッド・プレビューをクローズするか、再度レポートまたはグリッドをプレビューして POV ディメンションに対して「除外」状態に戻します。「除外」が有効になっているときに、属性ディメンションに対する POV の選択内容は、この後のセッションには保存されていません。プレビューを再実行すると、選択内容は-にリセットされます。

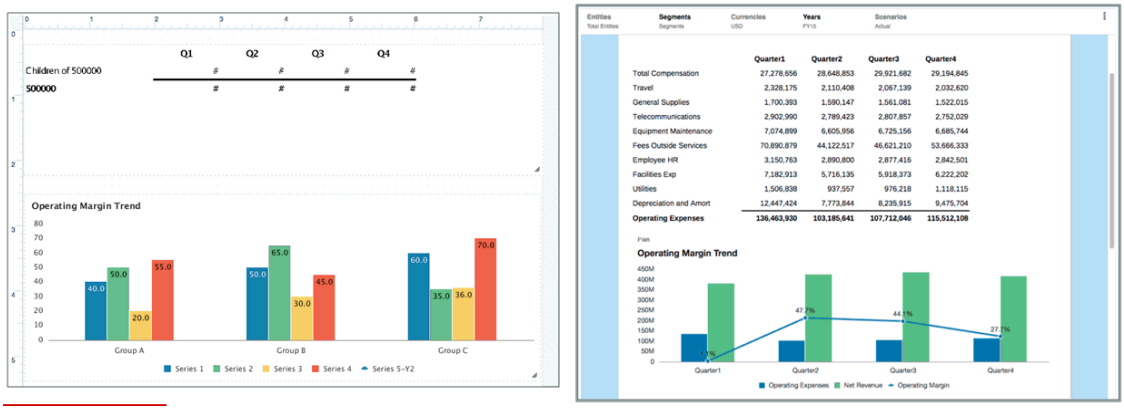
視点の例

次の各例では、グリッドでグローバル POV とローカル POV がどのように機能するか、および POV オプションがグリッドの表示にどのように影響するのかを示しています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例 1: 同じデータ・ソースの 2 つのグリッド

図 4-10 プレビュー: グリッド 1 とチャート 1



この例では、レポートに 1 つのグリッドと 1 つのチャートがあり、そのチャートには 2 つ目の埋込みグリッドが使用されています。図 1 は、グリッドおよびチャートをプレビュー・モードで示しています。

図 4-11 例 1、グリッド 1: 設計モード

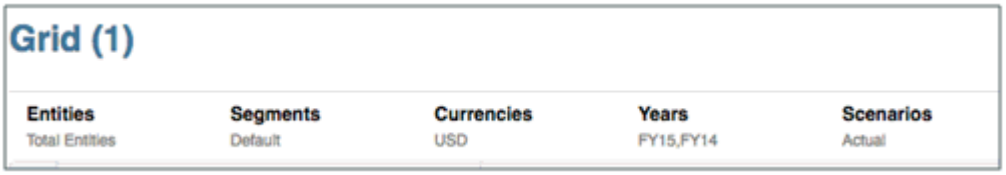
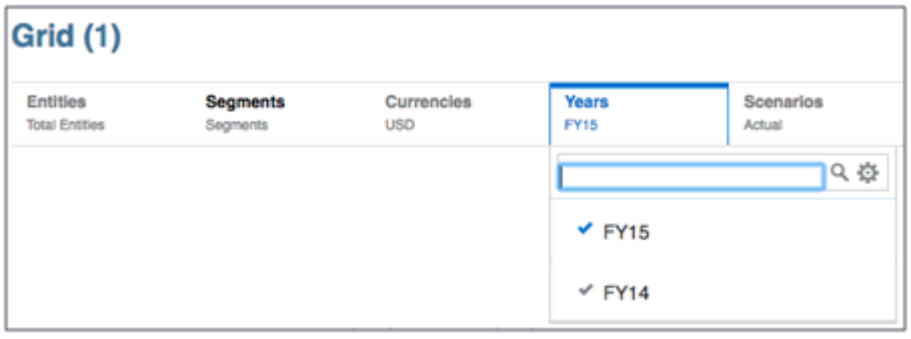


図 2 は、グリッド 1 を設計モードで示しています。次のことに注意してください。

- すべてのディメンションはグローバルです 。
- *Entities*、*Currencies* および *Scenarios* は単一の選択で、**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- *Segments* は Default に設定されています。
- *Years* には複数の選択があり、**「提案のみ表示」**が有効になっています。

図 4-12 例 1、グリッド 1: プレビュー・モード



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 3 は、グリッド 1 をプレビュー・モードで示しています。次のことに注意してください。

- *Entities*、*Currencies* および *Scenarios*: 参照者は選択を変更できません。
- *Segments*: 参照者は任意のメンバーを選択できます。
- *Years*: 参照者は定義されている 2 つのメンバーからのみ選択できます。

図 4-13 例 1、チャート 1: 設計モード

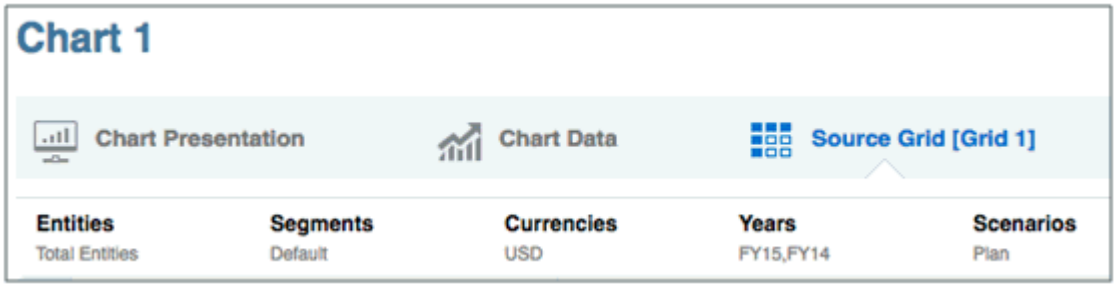


図 4 は、チャート 1 を設計モードで示しています。次のことに注意してください。

- *Scenarios* はローカルに設定され、単一の選択(Plan)のみがあります。**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- 残りの選択はグローバル POV から設定されます。

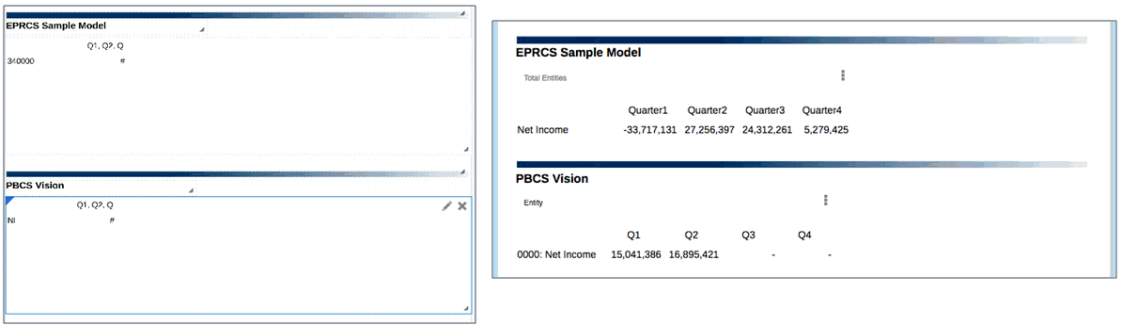
図 4-14 例 1、チャート 1: プレビュー・モード



図 5 は、チャート 1 をプレビュー・モードで示しています。Scenarios はローカル POV に表示され、変更できないことに注意してください。

例 2: 異なるデータ・ソースの 2 つのグリッド

図 4-15 プレビュー: 異なるデータ・ソースの 2 つのグリッド



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

この 2 番目の例では、レポートに異なるデータ・ソースの 2 つのグリッドが含まれています。グリッド 1 には Narrative Reporting のデータ・ソースがあります。グリッド 2 には Planning モジュールのデータ・ソースがあります。

Entity ディメンションと *Scenarios* ディメンションは、両方のデータ・ソースに共通です。

図 4-16 例 2、グリッド 1: 設計モード

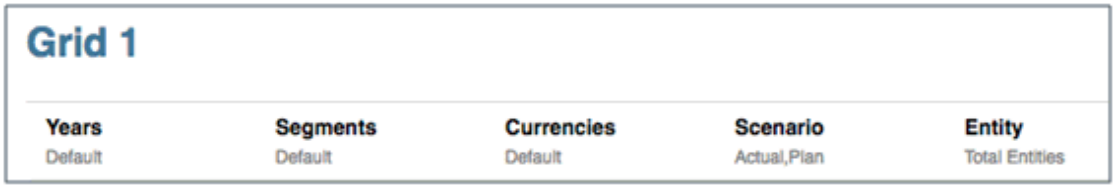


図 7 は、グリッド 1 を設計モードで示しています。次のことに注意してください。

- *Entity* ディメンションはローカルで、他のすべてはグローバルです。
- *Years*、*Segments* および *Currencies* は Default に設定され、**「提案のみ表示」**が無効になっています。
- *Scenario* には複数の選択があり、**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- *Entity* は単一の選択(Total Entities)で、**「提案のみ表示」**が無効になっています。

図 4-17 例 2、グリッド 1: プレビュー・モード

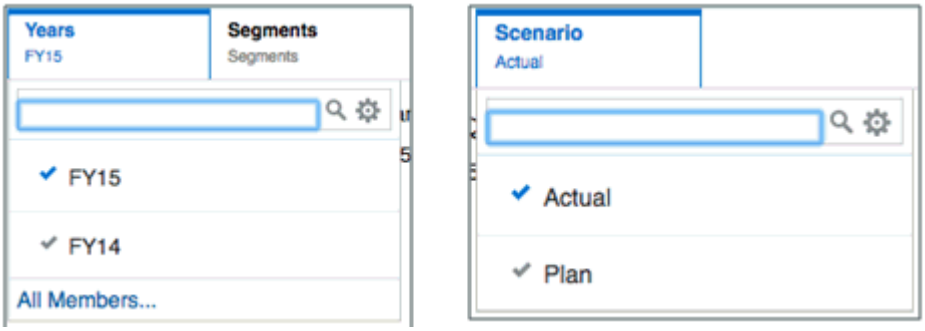


図 8 は、グリッド 1 の要素をプレビュー・モードで示しています。次のことに注意してください。

- *Years*、*Segments* および *Currencies* については、参照者は任意のメンバーを選択できます。最近のメンバーが表示されます。
- *Scenario* については、参照者は定義された 2 つのメンバーからのみ選択できます。
- *Entity* については、参照者は任意のメンバーを選択できます。Total Entities が表示されています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-18 例 2、グリッド 2: 設計モード



図 9 は、グリッド 2 を設計モードで示しています。次のことに注意してください。

- *Entity* ディメンションはローカルで、他のすべてはグローバルです。
- *HSP_View*、*Year*、*Version* および *Product* は、それぞれ単一の選択で、**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- *Scenario* には複数の選択があり、**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- *Entity* には複数の選択があり、**「提案のみ表示」**が無効になっています。

図 4-19 例 2、グリッド 2: プレビュー・モード

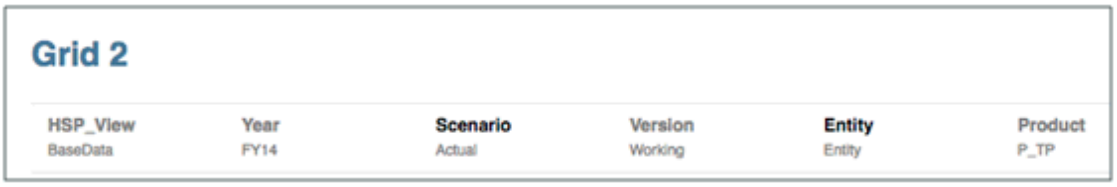
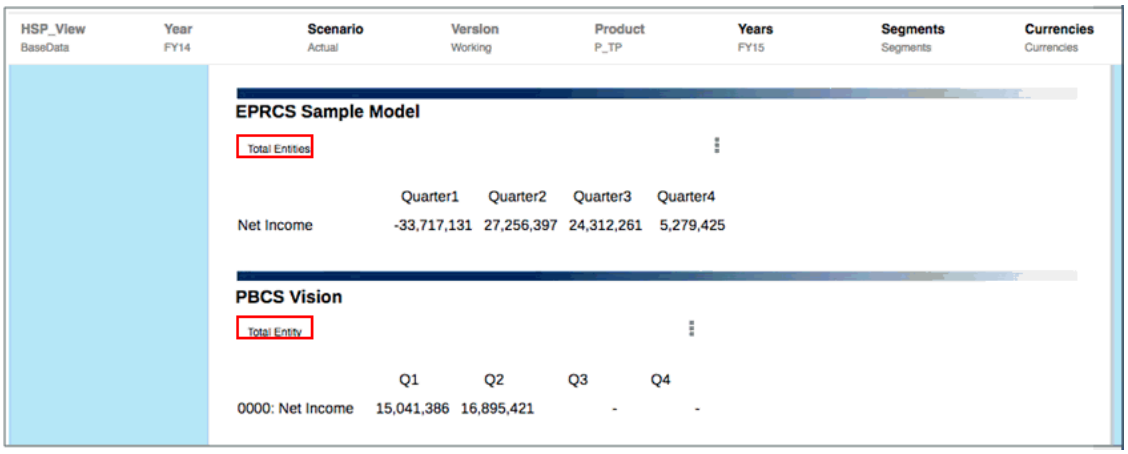


図 10 は、グリッド 2 をプレビュー・モードで示しています。次のことに注意してください。

- *HSP_View*、*Year*、*Version* および *Product* については、参照者は選択を変更できません。
- *Scenario* については、参照者は定義された 2 つのメンバーからのみ選択できます。
- *Entity* については、参照者は任意のメンバーを選択できます。グリッドがプレビューされると、Entity が表示されています。

図 4-20 例 2: レポートのプレビュー



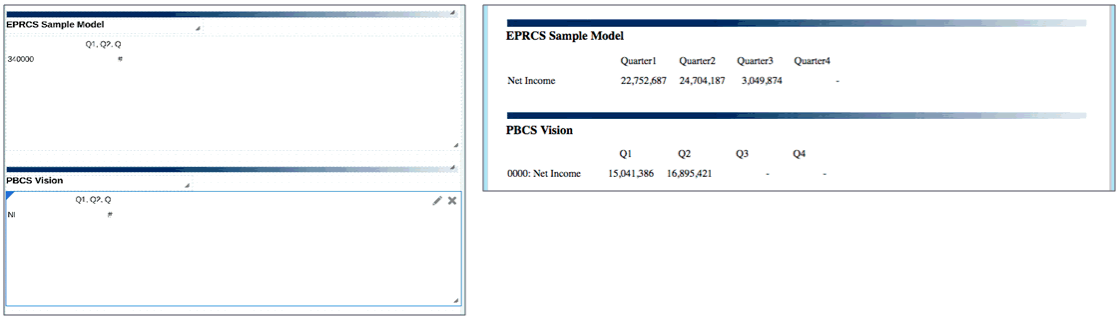
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 11 は、両方のグリッドが表示されているレポートのプレビューを示しています。次のことに注意してください。

- 共通のディメンション名は *Entity* と *Scenario* です。
- プレビューでは、組み合された POV に次のものが含まれます。
  - *Scenario* のグローバル POV は、両方のグリッドに使用されます。
  - 各グリッドの *Entity* のローカル POV には、異なる選択があります。
  - グリッド 1 の *Years*、*Segments* および *Currencies* を変更できます。
  - グリッド 2 の *HSP_View*、*Year*、*Version* および *Product* は変更できません。

例 3: 異なるデータ・ソースの 2 つのグリッドおよび共通ディメンションでの複数の選択

図 4-21 プレビュー: ディメンションに複数の選択がある 2 つのグリッド



この 3 番目の例では、レポートに異なるデータ・ソースの 2 つのグリッドが含まれています。グリッド 1 には Narrative Reporting のデータ・ソースがあります。グリッド 2 には Planning モジュールのデータ・ソースがあります。

Entity ディメンションと *Scenarios* ディメンションは、両方のデータ・ソースに共通です。また、*Scenario* ディメンションは、複数のメンバーを返すためにメンバー選択関数を使用します。

図 4-22 例 3、グリッド 1: 設計モード

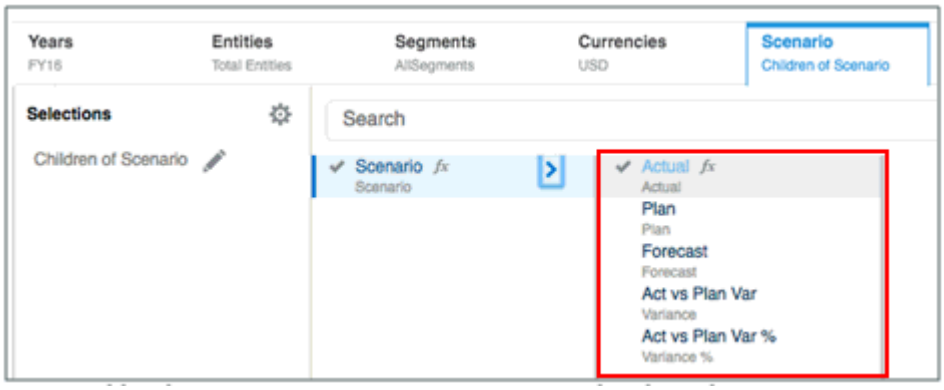


図 13 は、グリッド 1 を設計モードで示しています。次のことに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- すべてのディメンションはグローバルです。
- *Years*、*Segments*、*Currencies* および *Entity* は、それぞれ単一の選択で、**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- *Scenario* にはメンバー選択関数: `Children(Scenario)`があります。**「提案のみ表示」**が有効になっています。

> **ノート**
>
> Scenario に Actual、Plan、Forecast、Act vs Plan Var および Act vs Play Var %の 5 つのメンバーがリストされていることに注意してください。

図 4-23 例 3、グリッド 1: プレビュー・モード



図 14 は、グリッド 1 をプレビュー・モードで示しています。次のことに注意してください。

- *Years*、*Segments*、*Currencies* および *Entity* については、参照者は選択を変更できません。
- *Scenario* には、2 つのデータ・ソース間で共通するメンバーのみがリストされます。このデータ・ソースには使用可能な 5 つのメンバーがありますが、両方のデータ・ソースに共通する Actual、Plan および Forecast の 3 つのメンバーのみを使用できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-24 例 3、グリッド 2: 設計モード

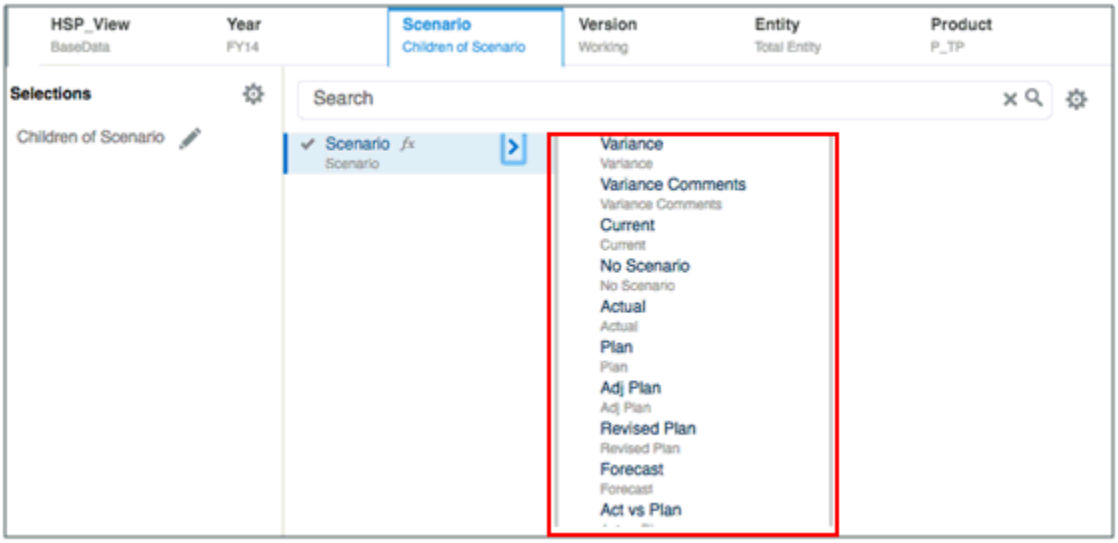


図 15 は、グリッド 2 を設計モードで示しています。次のことに注意してください。

- *HSP_View*、*Year*、*Version*、*Product* および *Entity* は、それぞれ単一の選択で、**「提案のみ表示」**が有効になっています。
- *Scenario* にはメンバー選択関数: `Children(Scenario)`があります。**「提案のみ表示」**が有効になっています。

> **ⓘ ノート**
>
> Scenario に Variance、Variance Comments、Current、No Scenario、Actual、Plan、Adj Plan、Revised Plan、Forecast および Act vs Plan の 10 個のメンバーがリストされていることに注意してください。

図 4-25 例 3、グリッド 2: プレビュー・モード

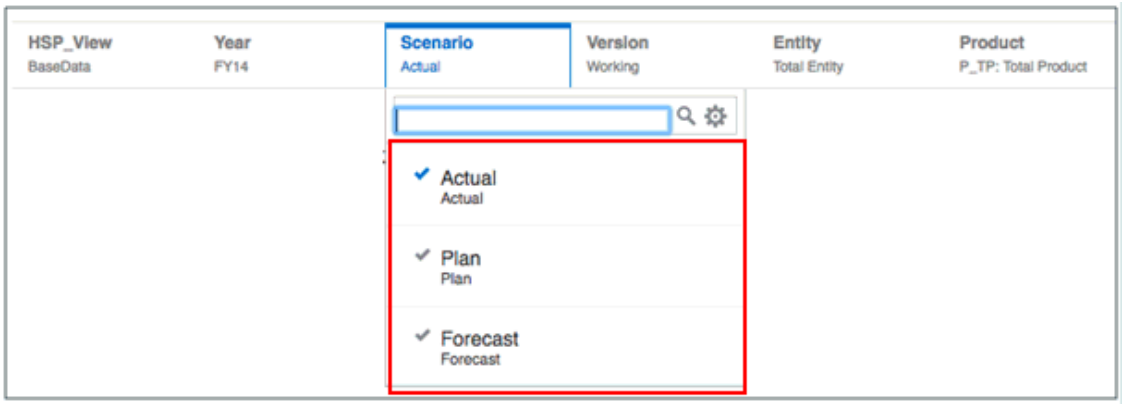


図 16 は、グリッド 2 をプレビュー・モードで示しています。次のことに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- *HSP_View*、*Year*、*Version*、*Product* および *Entity* については、参照者は選択を変更できません。
- *Scenario* には、2 つのデータ・ソース間で共通するメンバーのみがリストされます。このデータ・ソースには使用可能な 10 個のメンバーがありますが、両方のデータ・ソースに共通する Actual、Plan および Forecast の 3 つのメンバーのみを使用できます。

図 4-26 例 3: レポートのプレビュー

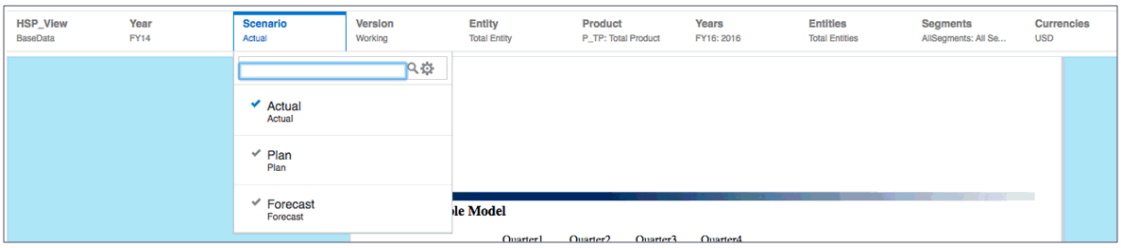


図 17 は、共通の POV が表示されているレポートのプレビューを示しています。次のことに注意してください。

- *Scenario* は、参照者が変更できる唯一のディメンションです。
- 両方のデータ・ソースに共通する Scenario のメンバーである Actual、Plan および Forecast のみを選択できます。

グリッドの行および列の操作

データ、式、テキストおよびセパレータ行および列を追加して、コンテンツを編成し、グリッドに追加します。Narrative Reporting デプロイメントでは、構造化された POV ベースのコメント・エントリのために、**ノート**行またはノート列をグリッドに挿入できます。

次も参照:

- 行および列の挿入
- 行および列のコピー、移動および削除
- グリッド・セグメント間でのメンバー選択のコピー
- 行または列の非表示
- 行または列のマージと分割
- 行または列の前への改ページの挿入
- 式行および式列の定義

行および列の挿入

グリッドにデータ、式、テキスト、ノートなどのコンテンツを追加するために、行または列をグリッドに挿入します。行および列のタイプには、次のものがあります。

- **データ** - データベース接続から取得されるディメンションのメンバー。データ行またはデータ列のメンバーは、ディメンションの最上位メンバーにデフォルト設定されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> データ・セグメントとは、データベースからデータを取得する行または列のことです。展開されるデータ・セグメントとは、展開可能な行または列であるため、結果のグリッドは表示される際に 2 つ以上の行または列に展開されます。通常、展開されるデータ・セグメントでは、*Children Of* または *Descendants Of* などの関数が使用されます。単一のデータ・セグメントとは、ビューアに表示される際に単一の行または列のままである行または列のことです。

セル、行または列の#記号は、それがデータ・セル、データ行またはデータ列であることを示します。

- **式** - 式に基づく値。一般には、データの行または列に対する合計、平均および差異の計算に使用されます。

  セル、行または列の= #記号は、それが式セル、式行または式列であることを示します。

  行番号または列文字を表示する式行または列見出しには、インジケータとして記号  が表示されます。

- **テキスト** - セルに入力されたテキスト、またはテキスト関数を介して動的に返されたテキスト。

  グリッドのテキスト行、テキスト列またはテキスト・セルは、グリッドに追加されるときに記号は挿入されません。テキストが入力されるまで、最初は空白です。

> **ノート**
>
> テキスト・セグメントまたはセルでは、上付き文字や下付き文字などの特殊文字はサポートされません。

行番号または列文字を表示するテキスト行または列見出しには、インジケータとして記号  が表示されます。

- **セパレータ** - 空白の行または列を挿入します。

  セパレータ行にデータまたはテキストは含まれません。グリッド内で行または列の間の視覚的な分割線として機能します。

- **ノート** - Narrative Reporting デプロイメントでは、構造化された POV ベースのコメント・エントリのために、ノート行またはノート列をグリッドに挿入できます。行番号または列文字を表示するノート行または列見出しには、インジケータとして記号  が表示されます。

グリッドに行または列を挿入するには:

1. 既存のグリッドで、行または列のヘッダーを選択します。
2. 列または行のヘッダー・セルの横にある矢印を右クリックまたはクリックし、**「前に挿入」**または**「後に挿入」**を選択してから、**「データ」**、**「式」**、**「テキスト」**、**「セパレータ」**または**「ノート」**(Narrative Reporting デプロイメントのみ)を選択します。
3. 行または列を移入します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- データ行またはデータ列の場合は、行または列の見出しを右クリックするか、列または行のヘッダー・セルの横にある矢印をクリックして、行または列に配置するディメンション・メンバーを選択します。データ行または列へのメンバーの割当を参照してください。
- 式行または式列の場合は、行または列の見出しを選択し、レポート・デザイナの上部にある算式バーで式を作成します。式行および式列の定義を参照してください。
- テキスト行またはテキスト列の場合は、テキストまたはテキスト関数を行、列またはセルに直接入力するか、レポート・デザイナの上部にある算式バーに入力します。テキスト関数を参照してください。
- ノート行またはノート列の場合は、メンバーを選択し、ノート・テンプレートを選択して、その他のプロパティを設定します。ノートのインライン・グリッド・エントリの設定を参照してください

行および列のコピー、移動および削除

行および列のコピー、移動および削除では、次の点に注意してください。

- 行または列を移動すると、コンテンツを新しい位置に貼り付けるときにソース行または列は削除されます。
- 行または列をコピーすると、コンテンツを新しい位置に貼り付けるときにソース行または列は保持されます。
- 行または列をコピーまたは移動する場合は、同じグリッド内にのみ貼り付けることができます。
- 行全体または列全体をコピーまたは移動する必要があります。

グリッド内で行や列をコピーまたは移動するには、目的の行または列を選択し、右クリックするかヘッダーの下矢印をクリックして**「コピー」**または**「移動」**を選択します。次に、行または列の移動先の行または列を選択し、右クリックするかヘッダーの下矢印をクリックして、**前に貼付け**または**後に貼付け**を選択します。

行または列を削除するには、目的の行または列を選択し、右クリックするかヘッダーの下矢印をクリックして**「削除」**を選択します。

グリッド・セグメント間でのメンバー選択のコピー

グリッドの行/列セグメントから別のセグメント(同じディメンションのセグメント)に、メンバー選択をコピーできます。

セグメント間でメンバー選択をコピーおよび貼付けするには:

1. 行/列のヘッダー・セグメントで右クリックして、**「メンバーのコピー」**を選択します。
2. 別のセグメントを選択し、右クリックして**「メンバーの貼付け」**を選択します。
3. オプションで、別のセグメントを選択し、必要に応じて**「メンバーの貼付け」**操作の実行を続行します。

> **Note**
>
> 複数の宛先ヘッダー・セグメントを選択することはできませんが、**「メンバーのコピー」**を実行した後、**「メンバーの貼付け」**操作を複数回実行できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

行または列の非表示

レポートを印刷または表示する場合に値が表示されないように、グリッドで行または列を非表示にできます。

> ⓘ **ノート**
>
> 行または列のデータおよび計算は、適用されている書式設定に関係なく評価されます。

グリッドで行または列を非表示にするには:

1. グリッド・デザイナで、行または列を選択します。
2. プロパティ・パネルで、列の場合は 、行の場合は をクリックします。
3. **「表示」**で、**「表示」**をクリックして**「非表示」**に切り替えます。

行または列のマージと分割

単一のデータ行または列で複数のメンバー選択に分割したり、複数のデータ行または列を単一のデータ行または列に結合できます。

行または列のマージ

行または列をマージするには、複数の行または列を選択して右クリックし、**「行のマージ」**または**「列のマージ」**を選択します。

一例として図 1 に、列 A にシナリオ・ディメンションの実績メンバー、列 B にプラン・メンバーがあるグリッドを示します。

図 4-27 マージ前



両方の列を選択して右クリックし、**「列のマージ」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-28 マージ後

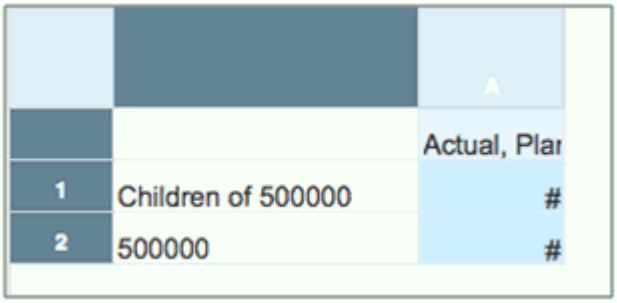


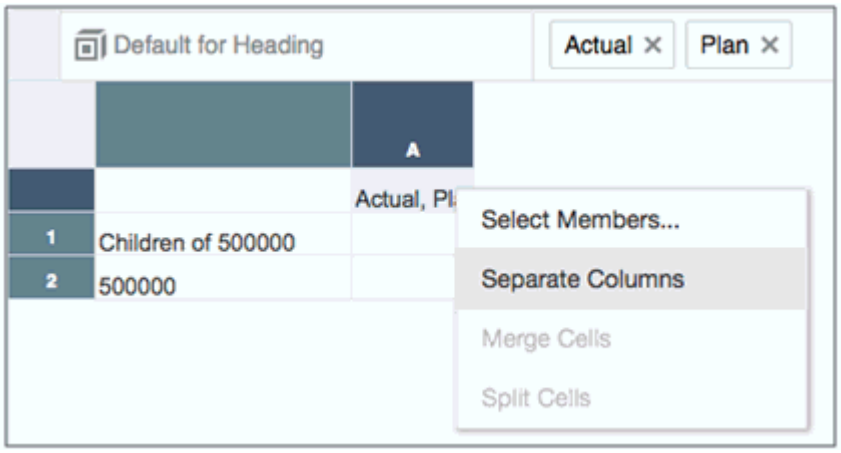
図 2 は、実績メンバーとプラン・メンバーが単一の列にマージされた様子を示しています。

行または列の分割

行または列を分割するには、行または列のヘッダーを右クリックし、**「行の分割」**または**「列の分割」**を選択します。

一例として図 3 に、列 A にシナリオ・ディメンションの実績メンバーとプラン・メンバーがあるグリッドを示します。

図 4-29 分割前



列を選択して右クリックし、**「列の分割」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-30 分割後

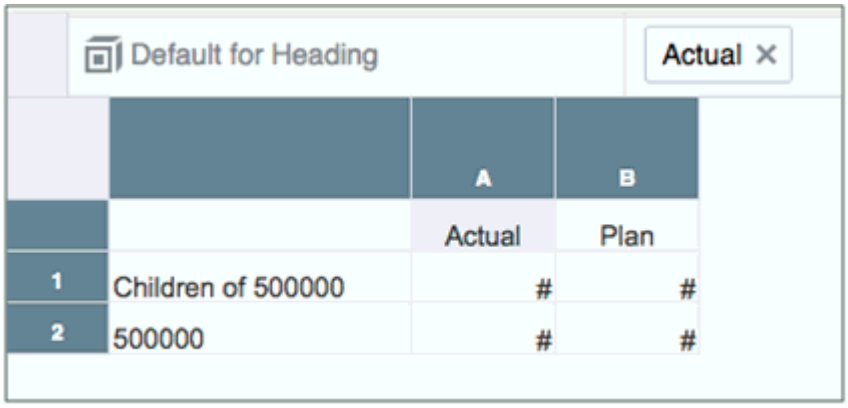


図 4 は、実績メンバーとプラン・メンバーが 2 つの列に分割された様子を示しています。

行または列の前への改ページの挿入

グリッドで行または列の前に改ページを挿入することで、指定の位置でレポート・データを分割し、必要な明細アイテムをまとめることができます。改ページは太い破線で表されます。

グリッドで行または列の前に改ページを挿入するには:

1. レポート・デザイナにグリッドが表示された状態で、行または列を選択します。

   レポートの最初の列の前またはレポートの最初の行の上には、改ページを挿入できません。

2. プロパティ・パネルで、列の場合は 、行の場合は をクリックします。
3. **「前で改ページ」**で、**「いいえ」**をクリックして**「はい」**に切り替えます。

式行および式列の定義

算式は、グリッド参照、算術関数および算術演算子の組合せで構成されます。グリッド参照では、現在のグリッドまたは別のグリッドの値が計算で使用されます。グリッド内の式行、式列、式セル、または式セルの範囲で算術式を定義できます。たとえば、1 つ以上の行を加算する算式を作成できます。または、2 つの行を乗算し、3 番目の行を追加してその結果を表示できます。算式で使用できる算術関数の詳細は、算術関数を参照してください。

式行または式列の定義では、次の点に注意してください。

- 算式の結果は、1 つ以上の指定したセルの基礎となるデータ値に基づいて計算されます。算式で使用されるセルがスケールを使用するように書式設定されている場合、算式では基礎となる書式設定されていないデータ値が使用されるため、算式の結果がセルに対して表示されている値と異なる場合があります。
- デフォルトでは、欠落データ(#MISSING)が含まれているセルは、IfNonNumber プロパティを使用して別に指定されていないかぎり、算式ではゼロ(0)として処理されません。除算を使用する算式では、エラーが返されます。

式行または式列の挿入

式行または式列を挿入するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. 行または列を選択し、**前に挿入**または**後に挿入**を選択した後、**「式」**を選択します。

   式行または式列が= #とともに挿入されます。

2. グリッド・デザイナの上部にある算式バーに式を入力するか、Σをクリックして式のリストから選択します。

   算式バーの使用を参照してください。

セル・レベルでの計算

式行または式列内のセルに、カスタムのセル・レベルの算式を作成できます。

図 4-31 は、%差異を表示するように計算されたセルの例を示しています。セル D4 には、1 月の合計と 2 月の合計の%差異、具体的には((356-350)/350) *100=1.71%が表示されます。カスタム算式をセル D4 に配置すると、セル・レベルの算式によって目的の結果が返されます。正しい結果を取得するために必要な算式は、(([B]-[A])/[A])* 100 です。

図 4-31 セル・レベルの計算を使用する理由

		A	B	C	D
		Jan	Feb	Var	%Var
1	Cola	100	105	5	5.00%
2	Root Beer	200	203	3	3.00%
3	Grape	50	48	(2)	(4.00%)
4	[1].sum	350	356	6	1.71%

セル・レベルで計算するには:

1. 式セルを 1 つまたは複数選択します。

2. レポート・デザイナ上部にある算式バーで、±をクリックして次の処理を実行します。
   - 列または行に対するデフォルトの式を使用するには、**「列式の使用/行式の使用」**を選択します。
   - 独自の算式を作成するには、**「カスタム算式」**を選択します。右側の算式テキスト・ボックスに算式を入力するか、またはΣをクリックして算式のリストから選択します。

   算式バーの使用を参照してください。

算式バーの使用

算式バーは、レポートでグリッドを設定するときに、式の作成やメンバーの選択を行う中心的な場所です。

算式バーでは、行または列のタイプに応じて異なる機能が提供されます。

- 式行および式列には、式を入力し、行または列のヘッダー・ラベルを設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- データ行およびデータ列には、メンバーを選択し、行または列のヘッダー・ラベルを設定します。
- テキスト行およびテキスト列には、グリッドに表示するテキストを入力します。

算式バーは、式の機能に簡単にアクセスできるように、POV バーの下に表示されます。

算式の作成

算式を含むセル、列または行を選択すると、そのセルに一意の算式を適用できます。算式を作成する場合は、次の点に注意してください。

- 最適なパフォーマンスのために、可能な場合は常に、セル式ではなく行式または列式を使用してください。
- 可能な場合は、軸間参照は使用せずに、セル参照の使用を検討してください。

算式を作成するには:

1. グリッドで、式行または式列を挿入し、式セルを選択します。

   算式を列全体または行全体に適用するには、列または行のヘッダー・セルをクリックします。

   行式または列式でセル式を使用する場合、セル式は行および列のみでなく、正確にセル(交差)を参照する必要があります。

   式行および式列の定義を参照してください。

2. 次のいずれかを実行します。
   - 算式を手動で入力します。
   - Σをクリックし、ドロップダウン・リストから関数を選択して算式パラメータを入力します。

   関数の使用を参照してください。

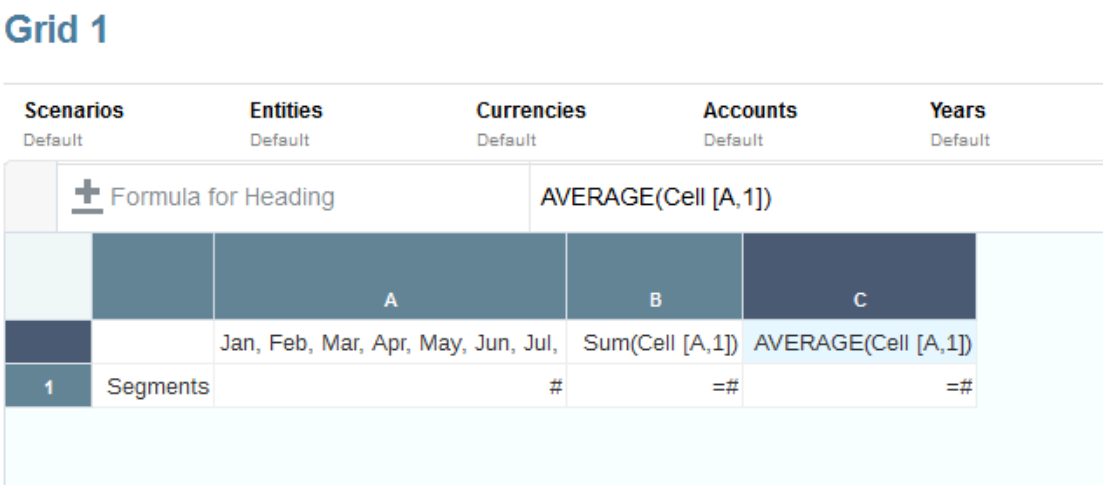
3. をクリックして算式を検証するか、または をクリックして算式バーをクリアしてやり直します。

式を使用したレポートの例

図 1 は、Sum 関数と Average 関数を使用した年のデータの要約を示しています。Narrative Reporting のサンプル・モデルがデータ・ソースとして使用されます。例のステップに従って作業するために、サンプル・アプリケーションを作成する必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-32 年のデータを要約する式



この式によってレポートは次のようになります。

- "Segments"ディメンションの月次合計額
- Sum 関数を使用して計算された、すべての月の合計
- Avg 関数を使用して計算された、1 か月当たりの平均額

レポートを使用してこの例を作成するには:

1. 行に"Segment "、列に"Fiscal Calendar"を割り当てたグリッドを作成します。
2. "Fiscal Calendar"が含まれているセルを選択して をクリックし、メンバーの選択に進みます。
3. 選択されているペインに 12 か月すべてを配置し、"Fiscal Calendar"を削除します。
4. 2 つの式(1 つは年の合計、もう 1 つは月の平均額)の列を挿入します。

この例では、次のようになります。

- "Fiscal Calendar"メンバーの月の外側にある 1 つ目の式列には、各月の数値を加算する Sum 関数があります。すべての月が 1 つのセルに定義されているため、参照先はそのセルの位置になります。

  式は次のとおりです。

  ```
  Sum(Cell [A,1])
  ```

- 2 つ目の式列では、"Fiscal Calendar"メンバーの一連の月の平均を計算します。1 年には 12 か月あるため、Avg 関数は、すべての月次合計を加算して合計を 12 で割ります。

  式は次のとおりです。

  ```
  Average(Cell [A,1])
  ```

一般に、グリッドにデータ式を指定する方法には、行式または列式と、セル式の 2 つがあります。

- **行/列** - 行または列の各セルに対して、その行または列全体に式を適用します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

式を定義するには、式行または式列のヘッダーを選択し、算式バーに式を入力します。行式または列式を適用するとパフォーマンス面でいくつかのメリットがあります。

- **セル** - 式行または式列のセルにのみ式を適用します。

  式を定義するには、セルを選択して  をクリックし、**「カスタム算式」**を選択して算式バーに式を入力します。

  セルが式行と式列と交差している場合は、行式または列式をセル式として使用することを選択できます。詳細は、「セル・レベルでの計算」を参照してください。

式が行または列の各セルを反復する場合は、行式または列式を使用します。各セルで異なる式が実行される場合は、セル式を使用します。

算式バーを使用したメンバー選択の変更

グリッドのメンバーを操作する場合は、算式バーを使用して、メンバー選択を追加および変更できます。メンバー・セレクタを使用するか、メンバーおよび関数を手動で算式バーに入力でき、入力に基づいた一致がオートコンプリートによってリストされます。ドロップダウンに表示された提案のいずれかをクリックして選択できます。

選択をコピーして、同じディメンションの別のヘッダー・セルの算式バーに貼り付けることもできます。パラメータとして"包含"を含む関数(「子」、「子孫」など)の場合、算式バーから**「包含の切替え」**をオンまたはオフにすることもできます。

> **ⓘ ノート**
>
> 算式バーでは、メンバー別名の手動入力はサポートされず、メンバー名のみサポートされます。

算式バーを使用してメンバー選択を変更するには:

1. グリッドで、データ行またはデータ列の見出しセルを選択します。
2. 次の 1 つ以上を実行します。
   - **選択の除去**: グリッドから選択を除去するには、メンバー名の横にある **X** をクリックします。
   - **選択の手動入力**: メンバー名または関数を入力してグリッドに追加します。オートコンプリートを使用して、一致するメンバーまたは関数をリストから選択できます。詳細は算式バーでのオートコンプリートの使用を参照してください。
   - **メンバー・セレクタの使用**: メンバーを選択または削除するには、算式バーの  をクリックし、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスを使用します。
   - **選択のコピーおよび貼付け**: 算式バーの選択で右クリックして、「コピー」を選択します。同じディメンションの別のデータ行または列の見出しセルを選択し、算式バーで右クリックして「貼付け」を選択します。
   - **包含の切替え**: 算式バーのメンバー選択で右クリックし、**「包含の切替え」**を選択して、メンバーを含むかどうかを切り替えます。たとえば、Q1 の子と Q1 の子(包含)です。

   グリッドに新しいメンバーが表示されます。メンバー選択の詳細は、関数を使用したメンバーの割当を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> - レポートでは、メタデータ・キャッシュが利用され、検索や算式バー先行入力などのメンバー問合せおよびメンバー選択操作が迅速になります。キャッシュが生成され、セッション中にレポートが初めてアクセスされたときに、各レポート・デザイナおよびエンドユーザー用に移入されます。キャッシュは、ユーザーの現在のセッション中は有効なままであり、レポートが使用およびアクセスされている Cloud EPM ビジネス・プロセス(たとえば、Narrative Reporting、Planning など)からユーザーがサインアウトするとクリアされます。
> - レポート・ユーザーのアクティブ・セッション中にキューブのディメンションおよびメンバーが更新された場合、メタデータ・キャッシュの更新にディメンションおよびメンバーの変更が反映されない場合があります。メタデータ・キャッシュをリフレッシュして加えられた変更を反映するには、ユーザーは、サインアウトしてから Cloud EPM ビジネス・プロセスにサインインし直す必要があります。
> - メンバー数が 25,000 を超えるディメンションのレポート・パフォーマンスを最適するため、メタデータ・キャッシュは使用されません。これはつまり、算式バー先行入力検索は無効になり、メンバー・セレクタ内の検索はメンバー名のみ(別名ではない)に基づき、「次を含む」ではなく「次で始まる」タイプの検索が実行されることを意味します。

算式バーを使用してメンバー選択を変更する場合は、次の点に注意してください。

- 算式バーではメンバー名の大文字と小文字は区別されません。
- `Sum((Product)`の子(包含))など、数値関数とメンバー関数は組み合せて使用できません。

算式バーでのオートコンプリートの使用

代替変数およびユーザー変数(前にアンパサンド"**&** "が付きます)などのメンバー名、および関数をグリッドの算式バーに手動で入力でき、オートコンプリートによって入力に基づいた一致がリストされます。ドロップダウンに表示された提案のいずれかをクリックして選択できます。

複数のパラメータが必要な関数を除いて、メンバー選択関数のほとんどがサポートされています。無効な選択に対して、オートコンプリートはエラー・メッセージを返します。

> **Note**
>
> メンバー数が 25,000 を超えるディメンションの 場合、算式バー先行入力検索は無効になります。

次の関数がオートコンプリートでサポートされています。

- Ancestors
- Bottom
- Children
- CurrentPOV
- DynamicTimeSeries

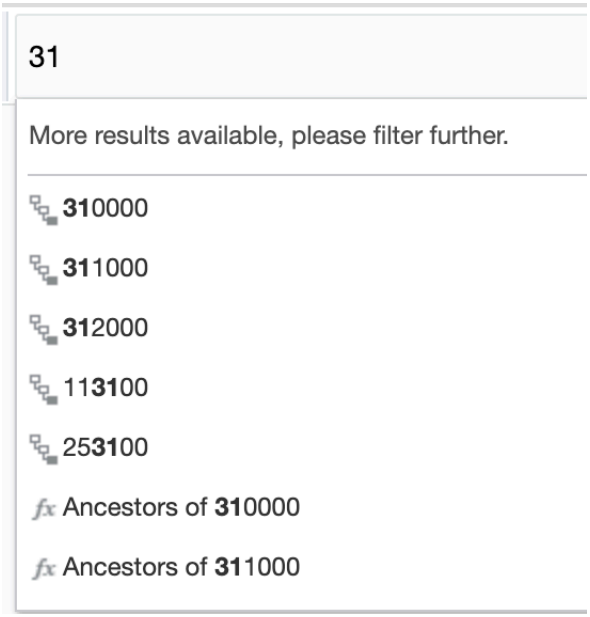
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Descendants
- Generation
- Level
- Parent
- RelativeMembers - (+/-) 15 まで
- SameGeneration
- SameLevel
- Siblings

次の関数および選択は、オートコンプリートでサポートされて**いません**。

- PeriodOffset
- Prompt
- Property
- Range
- 保存済選択
- Except
- Intersect
- Match

たとえば、次のイメージを参照してください。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作

条件付き書式設定、テキストおよび抑制では、指定した条件を満たすグリッドとテキストの結果をカスタマイズできます。

条件付き書式設定では、セルの値が事前定義された条件を満たす場合に、グリッド内のそのセルに書式設定を適用できます。たとえば、データ値がゼロで背景が黄色に設定されている、グリッド内のすべてのセルを強調表示できます。

条件付きテキストでは、事前定義された条件、および静的テキストとテキスト関数の組合せに基づいて動的テキストを生成でき、メンバー・ラベルとデータ値を返して結果テキストを完成します。たとえば、次のテキストとテキスト関数を使用して、10%を超える差異値のテキストを表示できます: `MemberAlias("Entities") revenue value of CellValue("A") was CellValue("C") above Plan`。これによって、テキスト・ボックス、行または列に次のようなテキストが返されます: `"Division ABC revenue of 18,719 was 12% above Plan"` 定義された条件付きテキストは、`ConditionalText` テキスト関数を使用して、テキスト・ボックス、行、列またはセルに挿入されます。ConditionalText を参照してください

条件付き抑制では、指定した属性または値に基づいて、グリッド内の行または列を非表示にできます。たとえば、データ値が `100` 未満のセルがあるすべての行を非表示にできます。

> **ⓘ ノート**
>
> ゼロ、値なし(#missing)またはエラー値を行または列で抑制する場合は、条件付き抑制ではなく、パフォーマンスと効率性に優れる基本抑制を使用することをお薦めします。基本抑制はグリッド全体または特定の行または列に適用できます。

グループでの条件付き書式設定および抑制の使用の詳細は、グループでの条件付き書式設定および条件付き抑制のトピックを参照してください。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートに条件付き書式設定および抑制を適用する方法を学習します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

 - レポートでの条件付き書式設定および抑制の適用.

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートに条件付きテキストを適用する方法を学習します。

 -- レポートへの条件付きテキストの適用.

条件の作成

条件付き書式設定、テキストまたは条件付き抑制(あるいはその組合せ)の使用を開始するには、最初に「条件付きプロパティ」パネルで条件を定義します。各タイプの条件付き書式または抑制で使用可能な基準とパラメータの詳細は、条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータを参照してください。

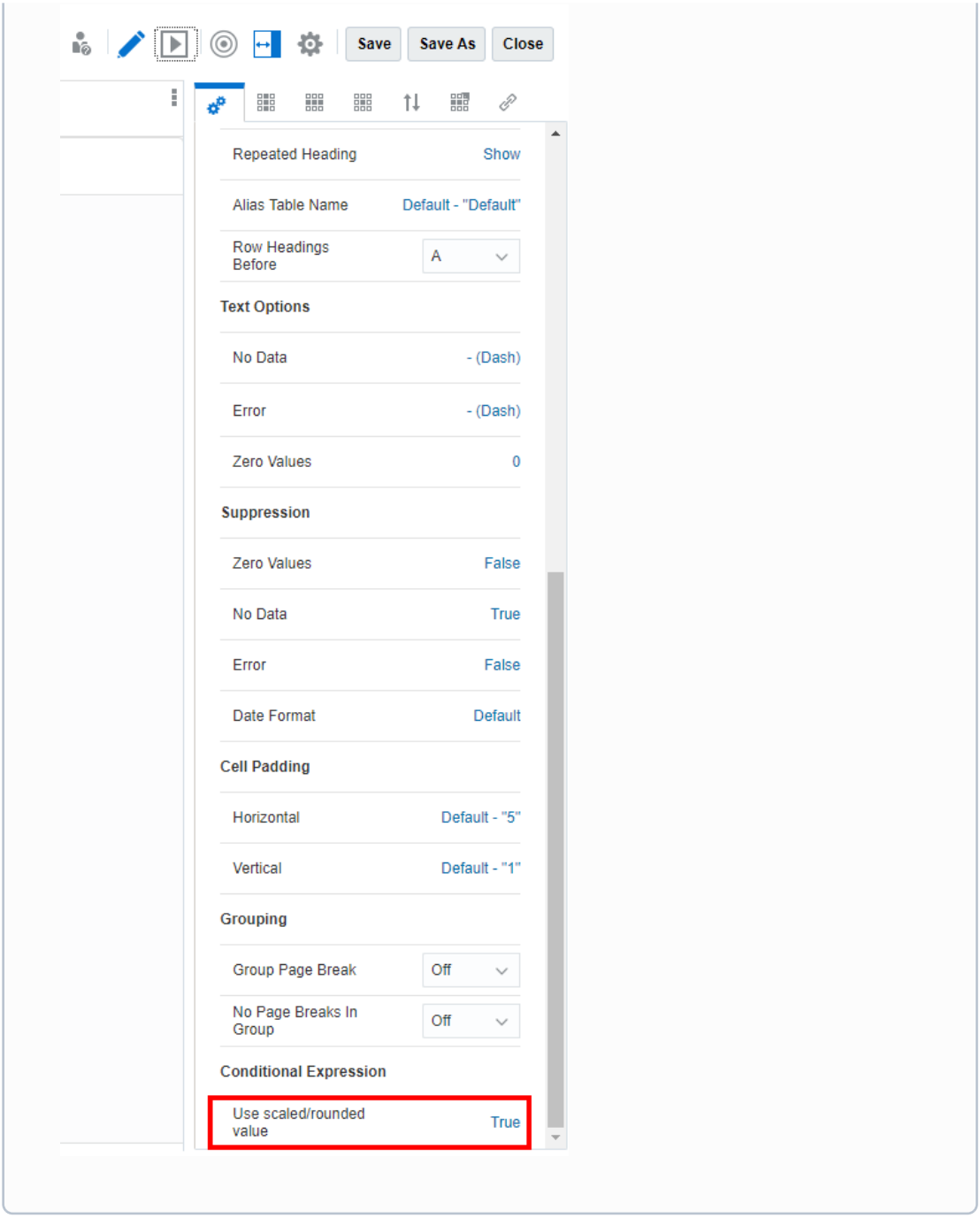
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ⓘ ノート

たとえば、グリッド・プロパティの「セル値」、「行の値」、「列値」または「現在のセルの値」などのデータ値をテストする条件を定義するとき、条件付き書式設定および抑制でグリッド・プロパティ**「スケールされた値/丸められた値の使用」**を使用して、条件内でスケーリング済またはスケーリングされていない raw データ値が使用されるかどうかを指定します。

- デフォルトは**「True」**であり、書式設定済およびスケーリング済データ値が条件内で使用されることを意味します。たとえば、データ値"125,016,551"を含むセルが千でスケーリングされる場合は"125,016"と表示され、"125,016"の値が条件内で使用されます。
- プロパティが**「False」**に設定されている場合、基礎となるスケーリングされていないデータ値が条件内で使用されます。この設定は、グリッドのすべての条件付き書式設定および抑制に適用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



条件を定義するには:

1. 条件付き書式(セル、行または列)または条件付き抑制(行または列)の追加先になるグリッドの範囲を選択します。
2. グリッド・プロパティで、  をクリックします。
3. 次の処理を実行します。
   - 条件付き書式またはテキスト(あるいはその両方)を作成するには、**「書式/テキスト」**をクリックし、  をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 条件付き抑制を作成するには、**「抑制」**をクリックし、 ✚ をクリックします。

> **ノート**
>
> - ゼロ、値なし(#missing)またはエラー値を行または列で抑制する場合は、条件付き抑制ではなく、パフォーマンスと効率性に優れる基本抑制を使用することをお薦めします。基本抑制はグリッド全体または特定の行または列に適用できます。
> - **「現在の行/列のデータ値」** > **1000** などの複数の条件式がある行または列セグメントで**「条件付き抑制」**を使用しており、**「データなしの抑制」**などの**基本抑制**も有効になっている場合、**「条件付き抑制」**定義を変更して、**「現在の行/列のデータ値」** = **「データなし」**などの適用される**基本抑制**の条件式を含める必要があります。これはすべての基本抑制タイプ(**「データなし」**、**「アクセス権がありません」**、**「ゼロ」**および**「エラー」**)に適用されます。
> - **「条件付きプロパティ」**の**「分析ディメンション」**設定は、Narrative Reporting のレポートの生成 AI (GenAI)機能固有の設定です。

4. **「名前」**フィールドに、条件付き書式/テキストまたは抑制のわかりやすい名前を入力します。名前はグリッドで一意である必要があります。

> **ノート**
>
> **「適用先」**フィールドには何も入力する必要はありません。「適用先」フィールドには、条件を作成した後に、ステップ 1 で指定したグリッドの領域がリストされます。「適用先」フィールドの値を変更して、条件の適用先になるグリッドの領域を変更できます。

5. 式ビルダーで**「属性」**をクリックし、テストする属性を選択します。たとえば、現在のセル値やメンバー名をテストできます。

   「属性」を選択すると、使用可能なパラメータが反映されて「修飾子」と「演算子」フィールドが変更されます。

6. 該当する場合は、**修飾子**を指定します。たとえば、タイプとして「メンバー名」を選択した場合は、修飾子としてテストするメンバーの名前を入力します。
7. **演算子**を選択します。
   - 数値条件(データ値)の場合は、数値演算子(次と等しい、次と等しくない、次より大きい、次より小さい、など)を使用します。
   - テキスト条件(例: メンバー名)の場合は、テキスト演算子(次で始まる、次で終わる、など)を使用します。
8. テストする条件となる**右側の修飾子**を選択または入力します。
   - 数値修飾子の場合は、デリミタおよびマイナス記号(-)を使用できます。その他のプリフィクスおよびサフィクスはすべて 無視されます。
   - テキスト修飾子(メンバー名など)の場合は、テストするテキスト文字列を手動で入力します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> メンバー・セレクタは式ビルダーで使用できません。

9. **オプション**: 追加の式条件行を挿入するには、 ✚ をクリックします。

   AND または **OR** を使用して、条件を組み合せたり区別します。たとえば、「100 以上 AND1000 以下」のデータ値をテストする条件を作成できます。

   式条件行を削除するには、 ✖ をクリックします。

10. 書式設定/テキストのみ: 右パネルで:

    - 「書式」タブで、条件の書式(例: フォント・サイズ、境界線、シェード付け)を指定します。**「#」**をクリックして、数値の書式設定メニューをオープンします。グリッド・セルの書式設定の*数値の書式設定*を参照してください。

      > **ノート**
      >
      > 「条件付き書式設定」パネルで書式設定フィールドが変更されていない、または未定義である場合(フォント・スタイル、数値書式設定など)、影響を受けるグリッド・セルでは、それらの未定義フィールドについてグリッド・セルのプロパティで定義されているセル書式設定が使用されます。条件付き書式設定の未定義フィールドは使用されません。たとえば、「条件付き書式設定」の数値書式設定の下で、負数のプリフィクスとサフィクスが変更されていない、または未定義である場合、影響を受けるグリッド・セルでは、グリッド・セルのプロパティで定義されている負数のプリフィクスとサフィクスが使用されます。

      ノート列およびノート行セグメントでの Narrative Reporting デプロイメントの場合、ノート・セグメントの特定のセルの**「ノート入力の許可」**書式設定プロパティによって、ノート・エントリを制限または許可できます。詳細は、ノート・エントリの許可プロパティの設定を参照してください。

    - 「テキスト」タブで、表示するテキストを定義します。手動で静的に入力したり、
      
      ボタンを使用して 1 つ以上のテキスト関数を挿入できます。
      
      を使用して、返されるすべてのテキストに書式を設定することもできます。テキスト・セルには書式設定が混在したコンテンツは表示できないため、すべてのテキストに 1 つの書式のみを適用できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> 条件付きテキストの書式設定について:
>
> `ConditionalText` 関数がグリッド・セルに挿入されている場合は、条件付きテキストに定義された書式設定によって、グリッドまたはレポート出力のセル書式設定が常に上書きされます。
>
> `ConditionalText` 関数がテキスト・ボックスに挿入されている場合は、次のようになります。
>
> - 条件付きテキスト書式ダイアログで、*「デフォルトを使用」*が未選択で、書式が定義されている場合は、テキスト・ボックスの `ConditionalText` 関数で書式設定が定義されていても、レポート出力では、条件付きテキストに定義された書式設定によってテキスト・ボックスの書式設定が上書きされます。
> - 条件付きテキスト書式ダイアログで、*「デフォルトを使用」*が選択されていて、テキスト・ボックスの `ConditionalText` 関数で書式設定が定義されている場合、レポート出力では、テキスト・ボックスの書式設定が使用されます。

条件付き書式/テキスト・パネル上部に、指定した書式またはテキスト(あるいはその両方)のサンプルが表示されます。

11. **オプション**: 式条件行を選択(または複数選択)し、右クリックまたは  を選択して、式条件行をグループ化、削除、複製、または上下に移動します。

    式のグループ化の詳細は、拡張条件の操作を参照してください
12. **「OK」**をクリックして、条件を保存します。

「条件付きプロパティ」パネルに条件が表示されます。書式の場合はサンプルの書式設定が表示され、テキストの場合はテキスト定義の部分が表示されます。

> **ノート**
>
> - 同じ条件付き書式定義が複数回作成される場合は、レポートの保存および再オープン時に、重複する条件付き書式が単一の条件付き書式にマージされます。重複する書式のすべてのセル参照が調整されます。
> - 保存済レポートを編集すると、次の警告メッセージが表示されます。
>
>   *"グリッド 1"から重複する書式ルールを削除しました。重複する書式のセル参照が調整されました。*

条件付き書式設定の例

この例では、交通信号機の実績 vs プランの差異パーセント列において、パーセント値に応じて、緑、黄または赤の背景色でセルが表示されるように条件付き書式を設定します。

- 値が 0%を超えるセルは緑で強調表示されます。
- 値が 0%未満で-10%を超えるセルは黄で強調表示されます。
- 値が-10%以下のセルは赤で強調表示されます。

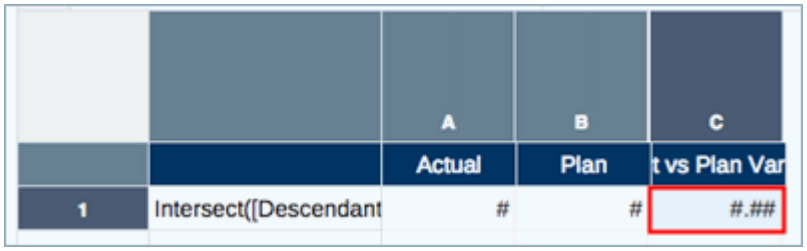
図 1 に、当初のグリッドを示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-33 交通信号機の例、当初のグリッド

	Actual	Plan	Variance %
USA	65,172,091	66,014,146	(127.6)
Canada	3,140,824	3,220,978	(248.9)
Mexico	1,570,412	1,547,722	146.6
Argentina	1,570,412	1,570,633	(1.4)
Brazil	3,140,824	3,066,455	242.5
Colombia	1,570,412	1,580,371	(63.0)
Peru	1,570,412	1,535,119	229.9
Venezuela	785,206	773,675	149.0
Europe	54,179,208	54,343,071	(30.2)

グリッド・エディタで、「差異パーセント」セルを選択し、次に  をクリックして条件付き書式を作成します。条件の作成の詳細は、条件の作成を参照してください。



緑の条件の場合は、「現在のセルの値」が 0 より大きい条件付き書式を作成します。

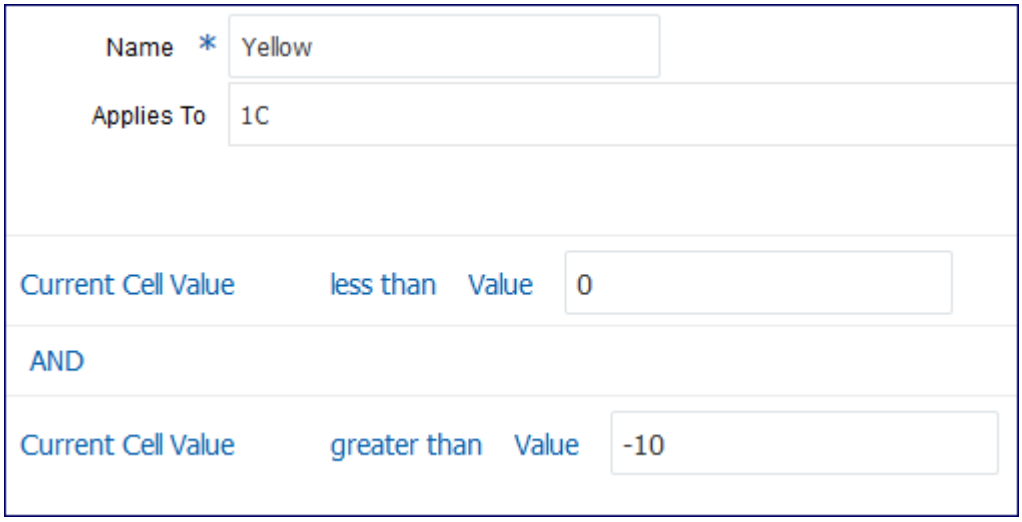


黄の条件の場合は、次の 2 つの式を使用して条件付き書式を作成します。

- 「現在のセルの値」が 0 より小さい、**AND**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 「現在のセルの値」が-10 より大きい



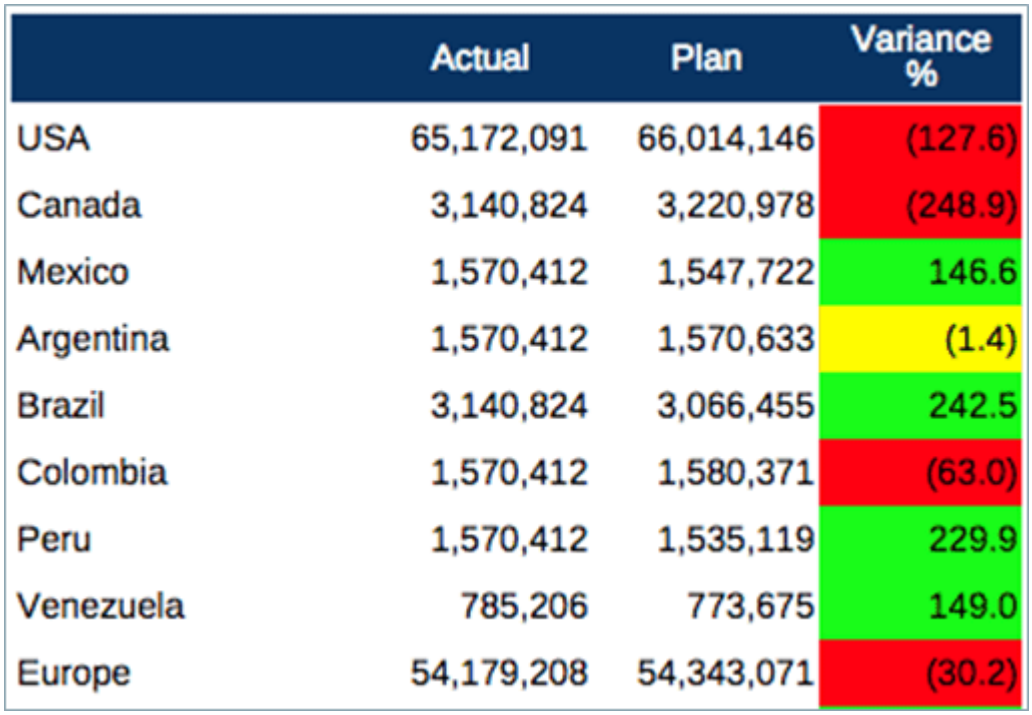
赤の条件の場合は、「現在のセルの値」が-10 より小さい条件付き書式を作成します。



図 2 に、3 つの条件すべてが「差異パーセント」列に適用された最終グリッドを示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-34 交通信号機の条件が適用されたグリッド



	Actual	Plan	Variance %
USA	65,172,091	66,014,146	(127.6)
Canada	3,140,824	3,220,978	(248.9)
Mexico	1,570,412	1,547,722	146.6
Argentina	1,570,412	1,570,633	(1.4)
Brazil	3,140,824	3,066,455	242.5
Colombia	1,570,412	1,580,371	(63.0)
Peru	1,570,412	1,535,119	229.9
Venezuela	785,206	773,675	149.0
Europe	54,179,208	54,343,071	(30.2)

条件付きテキストの例

この例では、グリッド行の各エンティティについて、正数の収益差異に対して特定のテキストを表示し、負数の収益差異に対して別のテキストを表示する、条件付きテキストを設定します。このテキストは、レポートの下部にあるテキスト・ボックスに表示されます。

テキストには、静的なテキストとともに、行メンバー「Entity」の別名、実績収益値、差異パーセント、および合計収益に対する収益のパーセントが表示されます。実績対計画の差異パーセント列に割り当てられた条件および関連テキストは次のようになります。

- **緑**: 0%より大きい値が含まれるセル: `MemberAlias("Entities") Revenue of CellValue(A) was CellValue(C) above Plan, resulting in CellValue(D) of Total Revenue`
- **赤**: 0%より小さい値が含まれるセル: `MemberAlias("Entities") Revenue of CellValue(A) was CellValue(C) below Plan, resulting in CellValue(D) of Total Revenue`

条件付きテキストで使用されるテキスト関数について:

- `CellValue (A)` – 列 A の現在行の実績収益のデータ値を返します
- `CellValue (C)` – 列 C の現在行の実績対計画パーセントのデータ値を返します
- `CellValue(D)` – 列 D の現在行の合計収益のパーセント(非表示のレポート式の列)を返します。この例は、グリッド出力に表示されない非表示の行または列を参照するテキスト関数を示しています。

  グリッド・プレビューが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

	Actual	Plan	Variance %
North America	61,705,569	63,248,355	(2.4%)
Latin America	7,550,266	7,672,372	(1.6%)
EMEA	50,612,433	51,388,138	(1.5%)
APAC	18,719,667	18,687,978	0.2%
Total Entities	138,587,934	140,996,843	(1.7%)

条件付きテキストを作成するには:

1. グリッド・エディタで、「差異パーセント」セルを選択し、次に

をクリックして条件付きテキストを作成します。条件の作成の詳細は、条件の作成を参照してください。

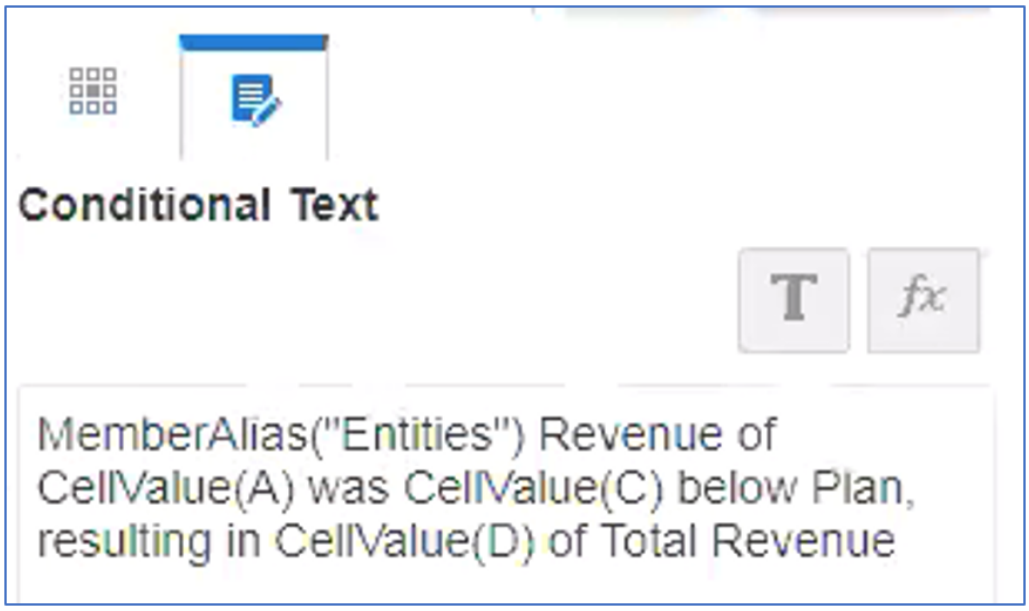
		A	B	C	D
		Actual	Plan	t vs Plan Var	% of Total
1	Children of Total Entiti	#	#	#.#%	=#.#%

2. 条件を次のように設定します。
   - **緑**の条件の場合は、「現在のセルの値」が `0` より大きい条件付き書式を作成します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 条件付きテキスト・タブで、 fx を使用して必要な関数を選択したり、静的なテキストを手動で入力します。

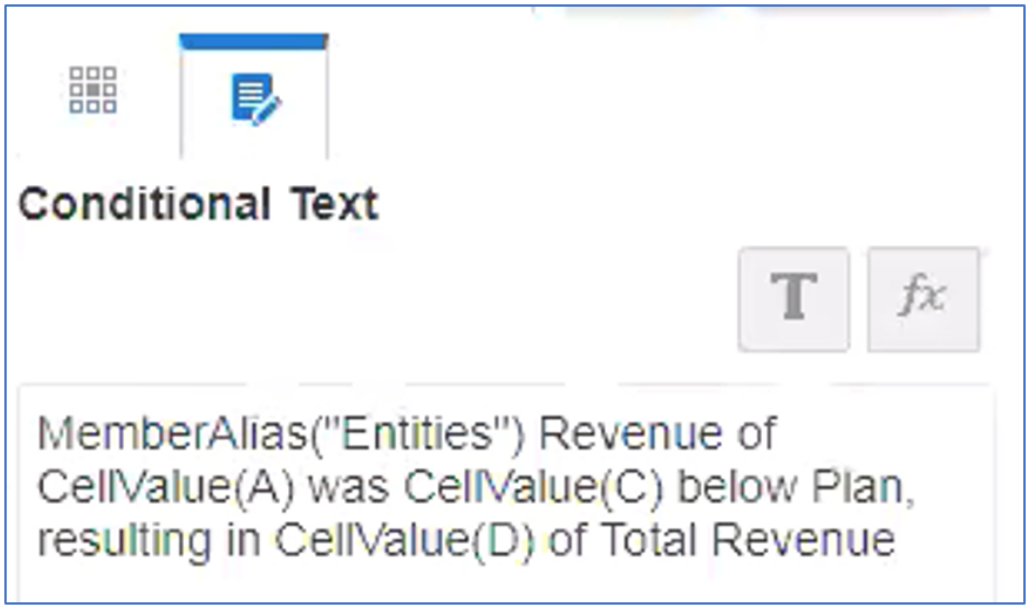


3. 条件を次のように設定します。
   - **赤**の条件の場合は、「現在のセルの値」が `0` より小さい条件付き書式を作成します。

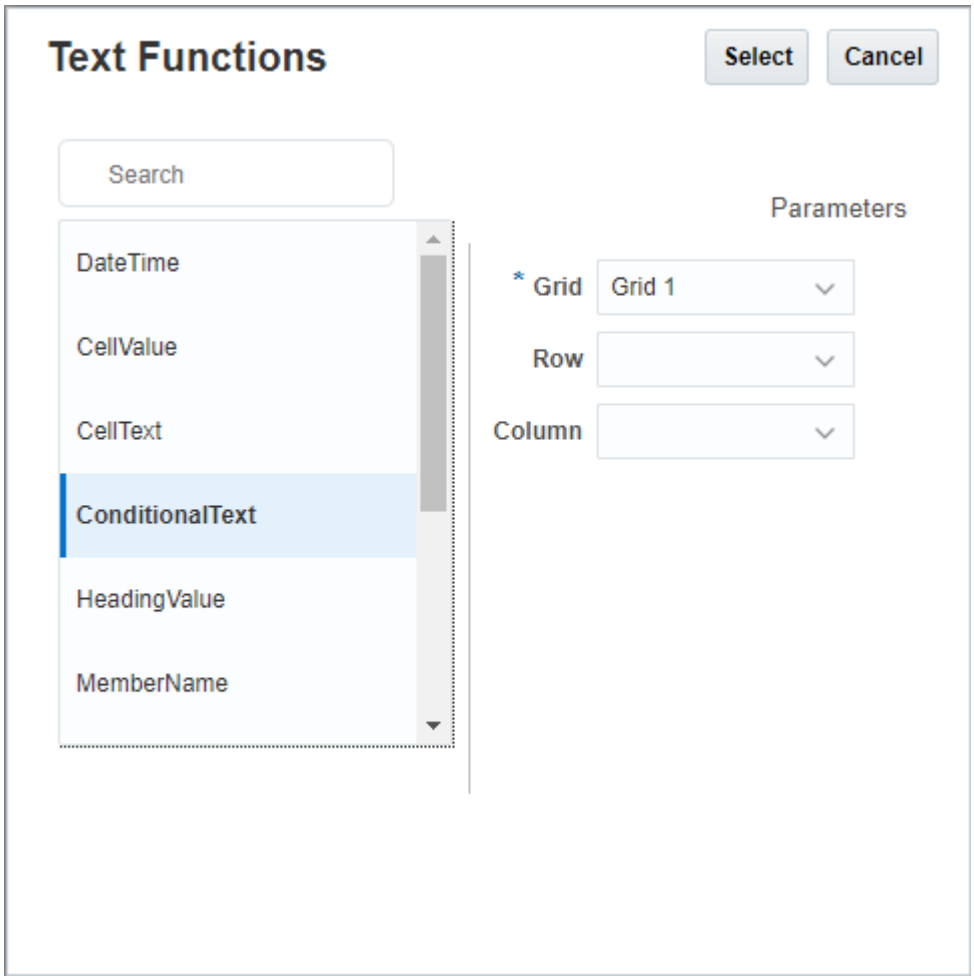


   - 条件付きテキスト・タブで、 fx を使用して必要な関数を選択したり、静的なテキストを手動で入力します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

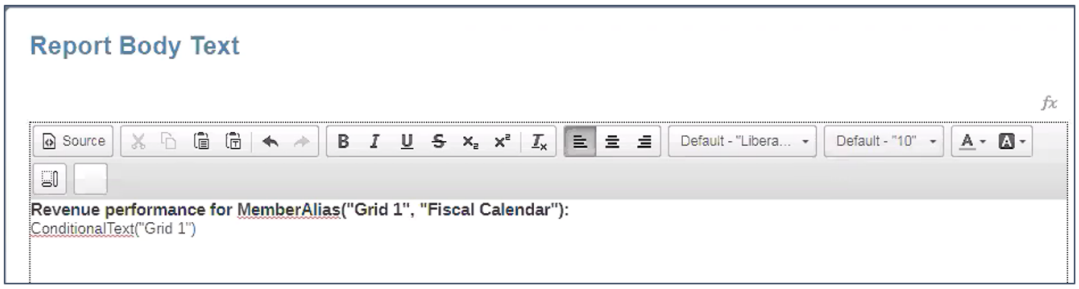


4. レポート内の既存のテキスト・ボックスを編集して、`ConditionalText` テキスト関数を挿入します。

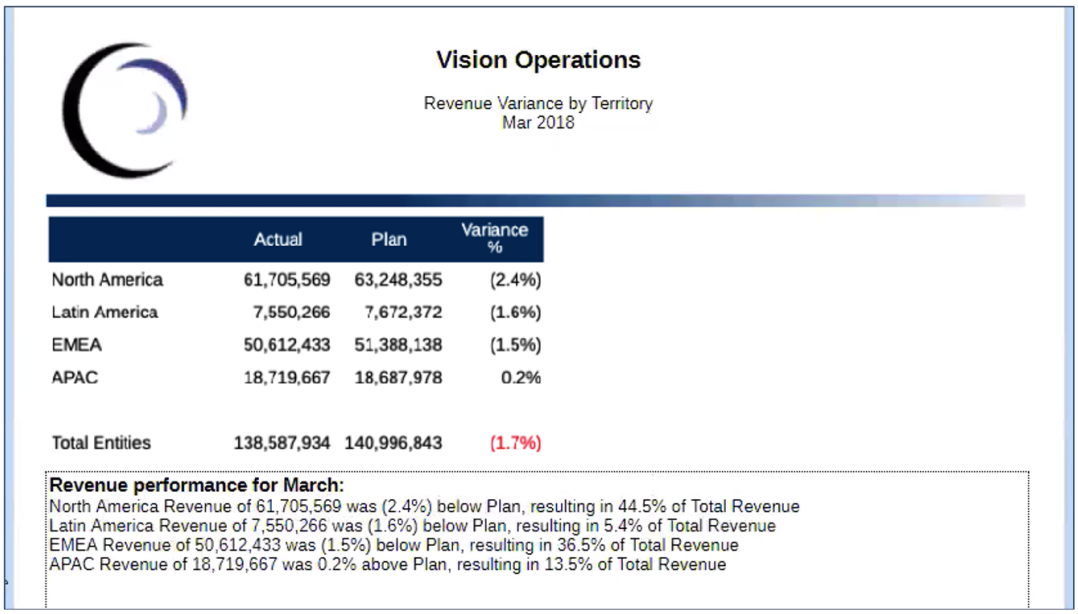


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

すべての条件付きテキストをテキスト・ボックスに表示する必要があるため、追加のパラメータは不要です。



5. 
をクリックして、レポートをテキスト・ボックスの結果とともに表示します。



グリッドでの条件付きテキストの表示

`ConditionalText` をグリッドに表示する別の例では、レポートの下部にあるテキスト・ボックスに条件付きテキストを表示するかわりに、各エンティティ行メンバーのテキスト結果をグリッドのテキスト列に表示します。

> **ⓘ ノート**
>
> 次のグリッド設計を参照してください。列 E がテキスト列で、`ConditionalText` テキスト関数が格納されています。行パラメータが指定されていないため、現在行の列 C(条件が適用されている)に対するテキストを取得します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

		A	B	C	D	E
		Actual	Plan	t vs Plan Var	% of Total	
1	Children of Total Entiti	#	#	#.#%	=#.#%	ConditionalText(C)
2						
3	Total Entities	#	#	#.#%	=#.#%	



をクリックして、グリッドの結果を表示します。テキスト列の各行についてテキスト関数の結果を表示できます。

	Actual	Plan	Variance %	
North America	61,705,569	63,248,355	(2.4%)	North America Revenue of 61,705,569 was (2.4%) below Plan, resulting in 44.5% of Total Revenue
Latin America	7,550,266	7,672,372	(1.6%)	Latin America Revenue of 7,550,266 was (1.6%) below Plan, resulting in 5.4% of Total Revenue
EMEA	50,612,433	51,388,138	(1.5%)	EMEA Revenue of 50,612,433 was (1.5%) below Plan, resulting in 36.5% of Total Revenue
APAC	18,719,667	18,687,978	0.2%	APAC Revenue of 18,719,667 was 0.2% above Plan, resulting in 13.5% of Total Revenue
Total Entities	138,587,934	140,996,843	(1.7%)	

条件付き抑制の例

この例では、実績の収益が$1,000,000 未満の地域列をすべて抑制する条件付き抑制を設定します。

図 1 に、当初のグリッドを示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-35 条件付き抑制の例、当初のグリッド

	Actual	Plan
USA	65,172,091	66,014,146
Canada	3,140,824	3,220,978
Mexico	1,570,412	1,547,722
Argentina	1,570,412	1,570,633
Brazil	3,140,824	3,066,455
Colombia	1,570,412	1,580,371
Peru	1,570,412	1,535,119
Venezuela	785,206	773,675
Europe	54,179,208	54,343,071
Middle East	1,570,412	1,569,958
Africa	1,570,412	1,595,784
Australia	1,570,412	1,558,355
China	6,281,647	6,150,091
Hong Kong	4,711,236	4,668,667
Japan	3,140,824	3,078,852
Phillipines	785,206	796,577
Malaysia	1,570,412	1,578,939
South Korea	1,570,412	1,530,059
Taiwan	1,570,412	1,551,375

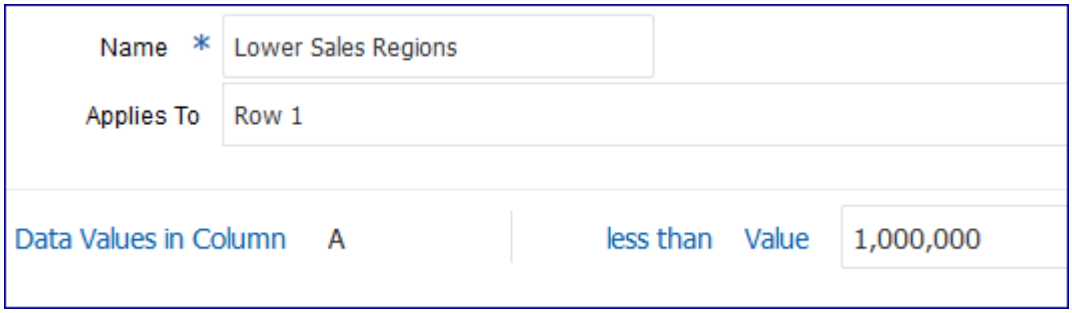
グリッド・エディタで、行 1 を選択し、次に  をクリックして条件付き抑制を作成します。条件の作成の詳細は、条件の作成を参照してください。

		A	B	C
		Actual	Plan	t vs Plan Var
1	Intersect([Descendant	#	#	#.#

図 2 に、作成する条件(列 A のデータ値、1,000,000 未満)を示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 4-36 条件付き抑制の例、条件



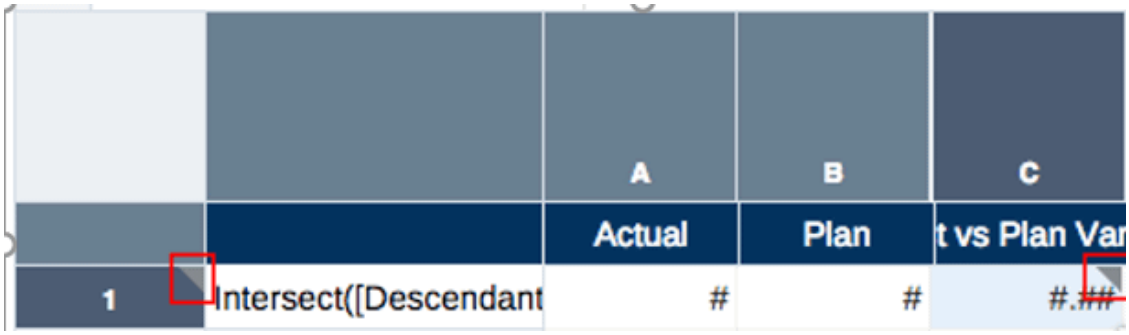
条件付き抑制を適用すると、実績データ値が 1,000,000 未満の行が表示されなくなります。

	Actual	Plan
USA	65,172,091	66,014,146
Canada	3,140,824	3,220,978
Mexico	1,570,412	1,547,722
Argentina	1,570,412	1,570,633
Brazil	3,140,824	3,066,455
Colombia	1,570,412	1,580,371
Peru	1,570,412	1,535,119
Europe	54,179,208	54,343,071
Middle East	1,570,412	1,569,958
Africa	1,570,412	1,595,784
Australia	1,570,412	1,558,355
China	6,281,647	6,150,091
Hong Kong	4,711,236	4,668,667
Japan	3,140,824	3,078,852
Malaysia	1,570,412	1,578,939
South Korea	1,570,412	1,530,059
Taiwan	1,570,412	1,551,375

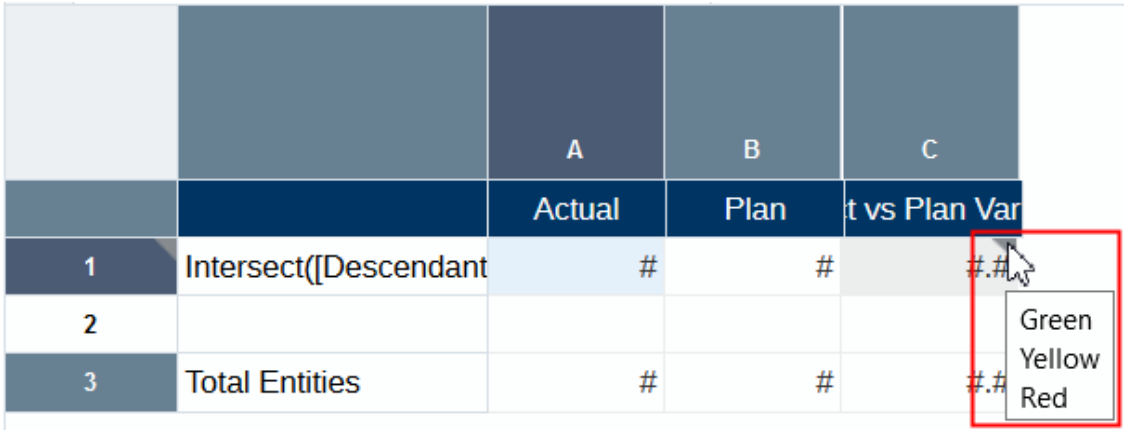
条件付き書式設定、テキストおよび抑制のインジケータとツールチップ

条件付き書式、テキストまたは抑制をセル、行または列に適用すると、行または列ヘッダーあるいはセルの右上隅に灰色の三角形が表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



インジケータの上にマウスを置くと、そのセル、行または列に適用された条件付き書式、テキストまたは抑制のリストがツールチップに表示されます。



条件の管理

条件付き書式設定、テキストまたは抑制を作成した後は、「条件付きプロパティ」パネルで条件を管理します。既存の条件に対して、次の処理を実行できます。

- グリッドの領域を強調表示して、選択または選択を解除する条件の横にあるチェック・ボックスをクリックし、その領域に対して条件を適用または削除します。たとえば、グリッドの別のセルに既存の書式を適用する場合は、グリッドでそのセルを強調表示し、その領域に適用する条件の横にあるチェック・ボックスをクリックします。

> **ⓘ ノート**
>
> グリッドの領域には複数の条件付き書式/テキスト(あるいはその両方)を適用できますが、行または列当たりに適用できる抑制条件は 1 つのみです。領域への複数の書式/テキストの適用を参照してください。

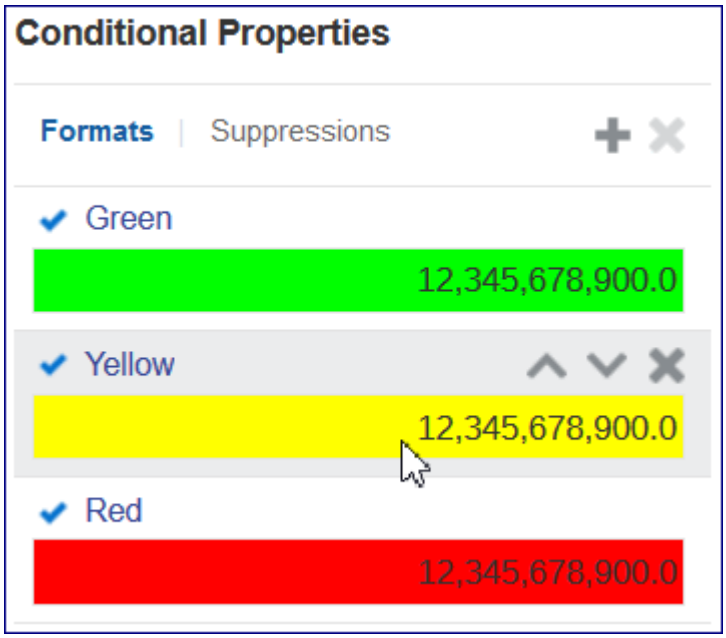
- 条件付き書式、テキストまたは抑制の名前をクリックしてその条件を編集します。
- 条件の上にマウスを置き、 または をクリックしてその条件の優先順序を変更します。領域への複数の書式/テキストの適用を参照してください。
- 条件の上にマウスを置き、 をクリックしてその条件を削除します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

領域への複数の書式/テキストの適用

グリッドの選択されている領域に対して、複数の書式を適用できます。条件が重複する場合は、リストの上から下の順に条件付き書式が適用されます。たとえば、図 1 は、選択された領域に対してアクティブになっている 3 つの条件付き書式を示しています(3 つの書式すべての横にチェック・マークが付いています)。この例では、**緑**の書式が**黄**と**赤**より優先され、**黄**の書式は**赤**より優先されます。

図 4-37 複数の書式の例



優先順序を変更するには、条件付き書式の上にマウスを置き、 または をクリックします。

条件付き書式設定、テキストおよび抑制の考慮事項

パフォーマンスの考慮事項

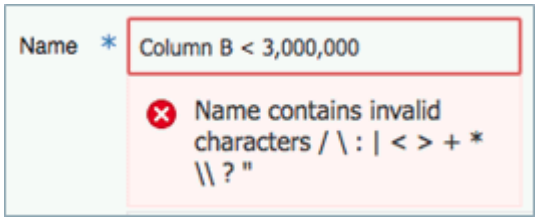
条件付き書式設定、テキストおよび抑制は、レポートのサイズ、使用される基準、および使用頻度(つまり、条件付き書式設定、テキストまたは抑制が適用されるセルの数)に応じて、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。パフォーマンスに関しては、次の点を考慮してください。

- データ値の比較が最速です。
- メンバー名、メンバーの別名/摘要などの基準も、メタデータまたはデータ問合せに含まれるため高速です。
- 世代、レベル、勘定科目タイプなどの基準は、通常のメタデータまたはデータ問合せに含まれず、パフォーマンスが低下するため、可能なかぎり使用しないでください。

エラー処理

通常、構文エラーは条件付き書式/テキストおよび抑制エディタに表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



構文以外のエラーは、レポートまたはグリッドのプレビュー時に表示されます。たとえば、行に対する条件付き抑制が列 B を参照し、この列がグリッドから削除されていた場合は、レポートのプレビュー時にエラーが表示されます。



基本抑制と条件付き抑制

レポートでは、基本抑制(ゼロ、データなし、アクセスなしおよびエラー)が最初に、条件付き抑制とは独立して処理されます。基本抑制を使用して行または列を抑制しない場合は、条件付き抑制が評価されます。

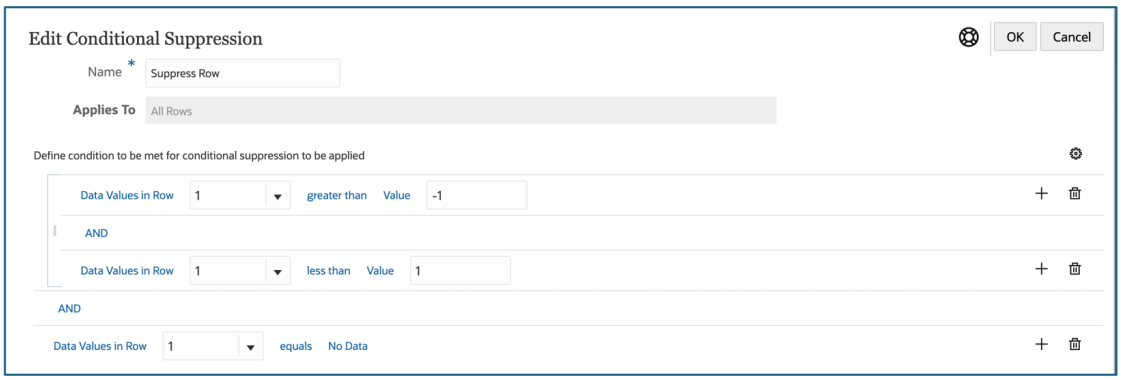
行内の値がデータなしであるか特定の値(または特定の値の範囲内)である場合に行または列を抑制するときは、条件付き抑制に両方の条件を指定し、適切な演算子(AND/OR)および条件式のグループ化を適用する必要があります。

たとえば、データ値が-1 と 1 の間にある場合、またはデータなしの場合に行を抑制するには、条件付き抑制に 2 つのグループ化された式を指定します。

- 現在の行のデータ値> -1 の場合に抑制、AND 現在の行のデータ値< 1 の場合に抑制)

  OR

- 行のデータ値がデータなしである場合に抑制



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

複数の式の論理グループを作成するには、式のグループ化が必要です。式のグループ化の詳細は、拡張条件の操作を参照してください

条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータ

条件付き書式設定/テキストの基準とパラメータ

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
セル値	指定されたセルのデータ値(数値、テキストまたは日付)	列と行で定義されたセル参照を入力します(例: A,1)。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列,行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
行の値	指定された行のデータ値	グリッド内の行リストから行番号を選択します。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列,行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
列値	指定された列のデータ値	グリッド内の列リストから列番号を選択します	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
現在のセルの値	現在のセルのデータ値	該当なし	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
メンバー名	セル、行または列に適用するメンバー名	モデル内のディメンション・リストからメンバー名のディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	メンバー名のテキストを入力します
メンバーの別名	セル、行または列に適用するメンバーの別名	モデル内のディメンション・リストから別名表およびメンバーの別名のディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	メンバーの別名のテキストを入力します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
メンバー名または別名	セル、行または列に適用するメンバー名またはメンバーの別名(両方のフィールドを検索)	モデル内のディメンション・リストから別名表およびメンバー名または別名のディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	属性ディメンションのメンバー名のテキストを入力します
メンバー属性	セル、行または列に適用する関連属性ディメンション・メンバー	属性ディメンションのリストから関連する属性ディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	属性ディメンションのメンバー名のテキストを入力します
世代番号	指定されたディメンションの世代番号	モデル内の世代リストから世代を選択します。	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションの世代番号を選択します
レベル番号	指定されたディメンションのレベル番号	モデル内のレベル・リストからレベルを選択します。	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションのレベル番号を選択します
相対世代	指定されたディメンション内で指定された数隔たった世代 **ノート**: 相対世代は条件付き書式が定義された行または列の軸のすべてのメンバーを考慮して計算されます。	指定されたディメンションでの相対世代数を選択します。	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションから隔たった世代番号を選択します
相対レベル	指定されたディメンション内で指定された数隔たったレベル **ノート**: 相対レベルは条件付き書式が定義された行または列の軸のすべてのメンバーを考慮して計算されます。	指定されたのディメンションでの相対レベル数を選択します。	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションから隔たったレベル番号を選択します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
ズーム・レベル	ズーム・インするディメンション・メンバー。	該当なし	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションを書式設定するズーム・レベルを選択します。
勘定科目タイプ	セル、行または列に適用する勘定科目タイプ	該当なし	次に等しい 次に等しくない	次の勘定科目タイプのいずれかを選択します。 Oracle Fusion Cloud EPM の場合: • 収益 • 費用 • 資産 • 負債 • 資本 • 費用以外 Essbase、Profitability and Cost Management および Narrative Reporting の場合: • 費用 • 費用以外
次の場所での位置	複数のメンバーまたはメンバー関数が含まれるデータ・セグメントの最初または最後の行または列。	行または列を選択します	次に等しい 次に等しくない	先頭の行/列または最下部の行/列を選択します。
UDA	セル、行または列に適用するユーザー定義属性 (UDA)	モデル内のディメンション・リストから UDA を含むディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	UDA 名のテキストを入力します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

条件付き抑制の基準とパラメータ

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
セル値	指定されたセルのデータ型に基づき、次のデータ型が可能です。 • 数値 • Date • スマート・リスト • テキスト	列と行で定義されたセル参照を入力します(例: A,1)。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
行のデータ値	指定された行のデータ値	グリッド内の行リストから行番号を選択します	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
列のデータ値	指定された列のデータ値	グリッド内の列リストから列番号を選択します	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
現在の行/列のデータ値	現在の行または列のデータ値	該当なし	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
メンバー名	セル、行または列に適用するメンバー名	モデル内のディメンション・リストからメンバー名のディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	メンバー名のテキストを入力します
メンバーの別名	セル、行または列に適用するメンバーの別名	モデル内のディメンション・リストから別名表およびメンバーの別名のディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	メンバーのディメンションのテキストを入力します
メンバー名または別名	セル、行または列に適用するメンバー名またはメンバーの別名(両方のフィールドを検索)	モデル内のディメンション・リストから別名表およびメンバー名または別名のディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	メンバー名または別名のテキストを入力します
メンバー属性	セル、行または列に適用する関連属性ディメンション・メンバー	属性ディメンションのリストから関連する属性ディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	属性ディメンションのメンバー名のテキストを入力します
世代番号	指定されたディメンションの世代番号	モデル内の世代リストから世代を選択します。	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションの世代番号を選択します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
レベル番号	指定されたディメンションのレベル番号	モデル内の世代リストからレベルを選択します。	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションのレベル番号を選択します
ズーム・レベル	ズーム・インするディメンション・メンバー。	該当なし	• 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下	指定されたディメンションを抑制するズーム・レベルを選択します
勘定科目タイプ	セル、行または列に適用する勘定科目タイプ	該当なし	次に等しい 次に等しくない	次の勘定科目タイプのいずれかを選択します。 Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の場合: • 収益 • 費用 • 資産 • 負債 • 資本 • 費用以外 Essbase、Profitability and Cost Management および Narrative Reporting の場合: • 費用 • 費用以外
UDA	セル、行または列に適用するユーザー定義属性(UDA)	モデル内のディメンション・リストから UDA を含むディメンションを選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	UDA 名のテキストを入力します

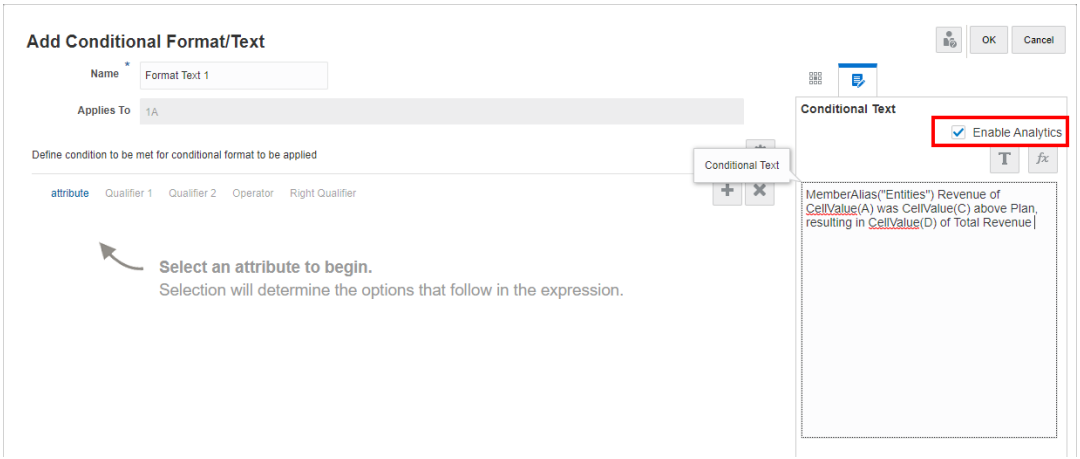
条件付きテキストでの分析

HTML 形式のレポートをプレビューするとき、テキスト・ボックスに条件付きテキストが表示されている場合は、関連するズーム対応グリッドを含む新規ブラウザ・タブにテキストからドリルして、さらに分析を行うことができます。

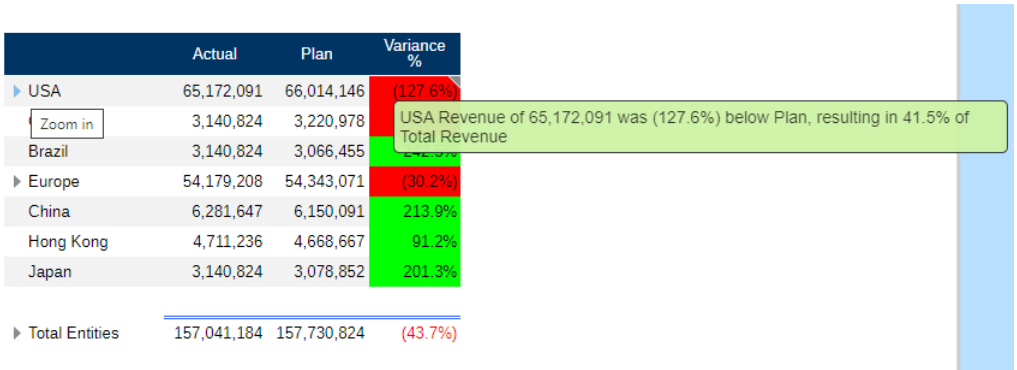
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

追加情報および考慮事項:

- この機能はデフォルトで HTML プレビューで有効です。テキスト・ボックス内のすべての条件付きテキストは、ハイパーリンクとして表示されます。条件付きテキスト定義の 1 つ以上の条件に対してこの機能を無効にする場合は、**「分析の有効化」**の選択をクリアする必要があります。



- 条件付きテキストが定義されているレポート・グリッドであるターゲット・グリッドが、グリッド上のすべての親に対してズーム対応する新規ブラウザにオープンします。式やテキスト関数など別のグリッドに対する依存関係がターゲット・グリッドにないかぎり、他のレポート・コンテンツ(チャート、テキスト・ボックス、イメージ、他のグリッドなど)は表示されません。この場合、依存グリッドはソース・グリッドの下に表示されます。
- ターゲット・グリッドは、条件付きテキストが定義されているセルにインジケータを表示します。ただし、セルの上にマウスを置くと、条件付きテキストに定義されていた元の条件付きテキストが表示されます。



- PDF プレビューでは、ハイパーリンクは表示されず、当初に定義されたテキスト書式が保持されます。
- ソース・レポートのグリッドが非表示の場合でも、ターゲット・グリッドには表示されます。
- グリッドのテキスト・セル内の条件付きテキストではこの機能はサポートされておらず、テキストはハイパーリンクとして表示されません。
- ソース・レポート・グリッドでグループ化が有効な場合、ターゲット・グリッドではズームが有効になりません(1 つのグリッドで両方の機能は有効にできません)。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

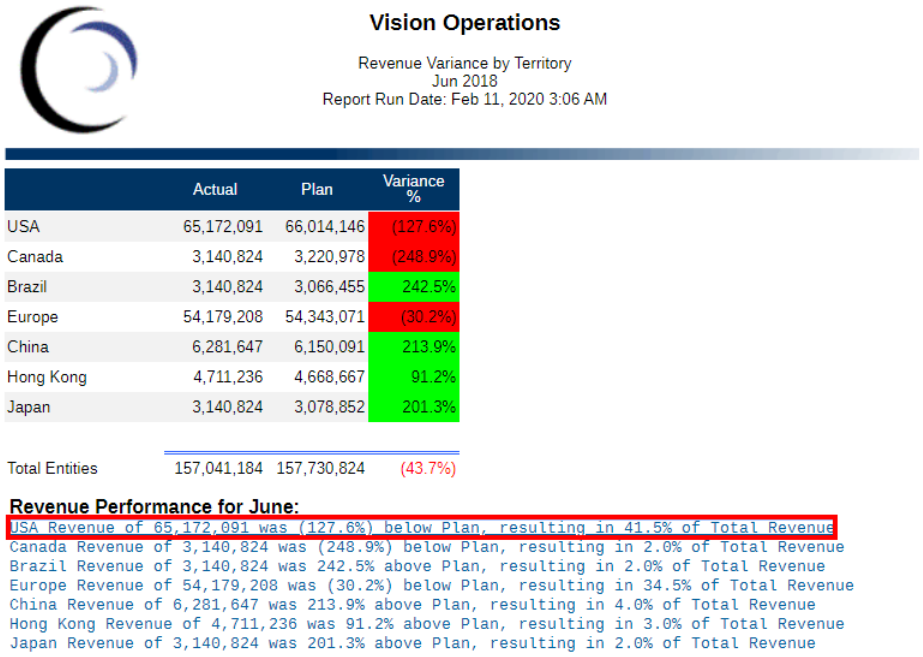
- ターゲット・グリッドは、**「処理」**メニューでいくつかの表示プリファレンスが制限されたシン・レポート・ビューアに表示されます。グリッドを編集する機能、または**「スナップショットとして保存」**は使用できません。

  ヘッダーおよびフッター・セクションはターゲット・グリッドの HTML プレビューでは非表示であるため、高さは **0** に設定されます。

- ソース・レポートのグリッドで非表示の行または列は、ターゲット・グリッドに表示されません。

たとえば、サンプル・レポート 6 (条件付き書式および抑制)を使用すると、テキスト・ボックス内のすべての条件付きテキストはハイパーリンクとして表示されることに注意してください。最初の行のテキスト「**USA Revenue of 65,172,091**」をクリックすると、別のブラウザ・タブにズーム対応グリッドがオープンし、そこで親メンバーをズームして詳細データを表示できます。

ソース・ページ: ハイパーリンクとして表示された条件付きテキスト情報のすべての分析を表示できます。



Vision Operations

Revenue Variance by Territory
Jun 2018
Report Run Date: Feb 11, 2020 3:06 AM

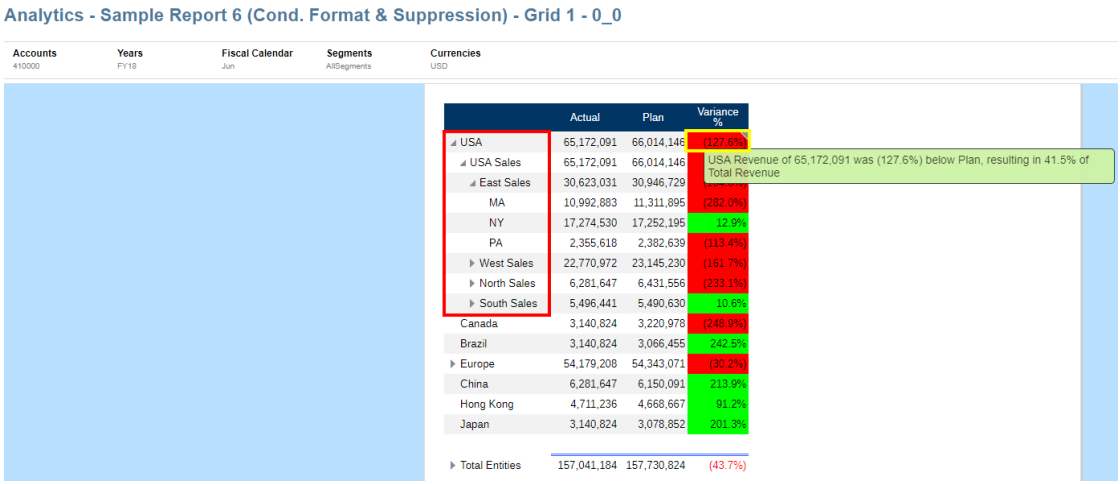
	Actual	Plan	Variance %
USA	65,172,091	66,014,146	(127.6%)
Canada	3,140,824	3,220,978	(248.9%)
Brazil	3,140,824	3,066,455	242.5%
Europe	54,179,208	54,343,071	(30.2%)
China	6,281,647	6,150,091	213.9%
Hong Kong	4,711,236	4,668,667	91.2%
Japan	3,140,824	3,078,852	201.3%
Total Entities	157,041,184	157,730,824	(43.7%)

Revenue Performance for June:

USA Revenue of 65,172,091 was (127.6%) below Plan, resulting in 41.5% of Total Revenue
Canada Revenue of 3,140,824 was (248.9%) below Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue
Brazil Revenue of 3,140,824 was 242.5% above Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue
Europe Revenue of 54,179,208 was (30.2%) below Plan, resulting in 34.5% of Total Revenue
China Revenue of 6,281,647 was 213.9% above Plan, resulting in 4.0% of Total Revenue
Hong Kong Revenue of 4,711,236 was 91.2% above Plan, resulting in 3.0% of Total Revenue
Japan Revenue of 3,140,824 was 201.3% above Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue

ターゲット・ページ: いくつかの行の親メンバーがズームされた状態のターゲット・グリッドを表示できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



拡張条件の操作

条件付き書式/テキストまたは抑制定義に複数の条件式を設定して、必要に応じて式をグループ化できます。

式を追加または除去するには:

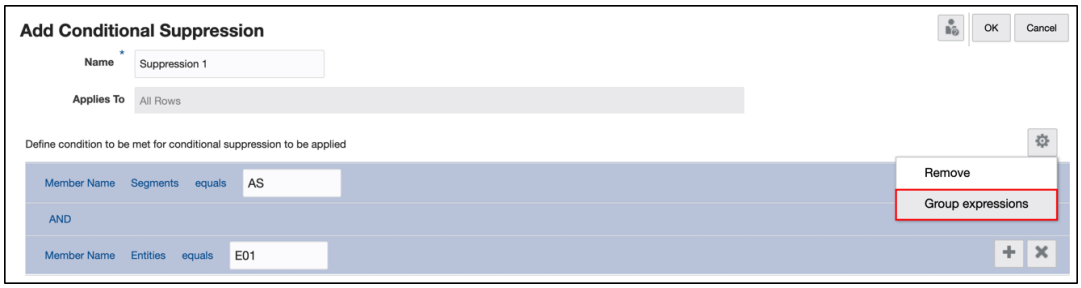
1. 追加の式条件行を挿入するには、  をクリックします。

   AND または **OR** を使用して、条件を組み合せたり区別します。たとえば、「100 以上 AND1000 以下」のデータ値をテストする条件を作成できます。

2. 式条件行を削除するには、  をクリックします。

グループ化を追加するには:

1. [Ctrl]を押しながらクリックを使用して複数の条件および条件演算子(**AND**、**OR**)を選択できます。
2. **「処理」**メニューで、**「式のグループ化」**を選択します。

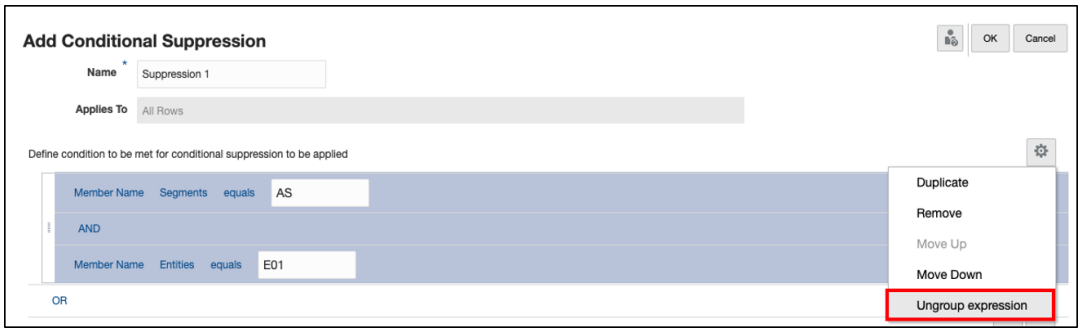


グループ化を除去するには:

1. [Ctrl]を押しながらクリックを使用して複数の条件および条件演算子(**AND**、**OR**)を選択できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. **「処理」**メニューで、**「式のグループ解除」**を選択します。

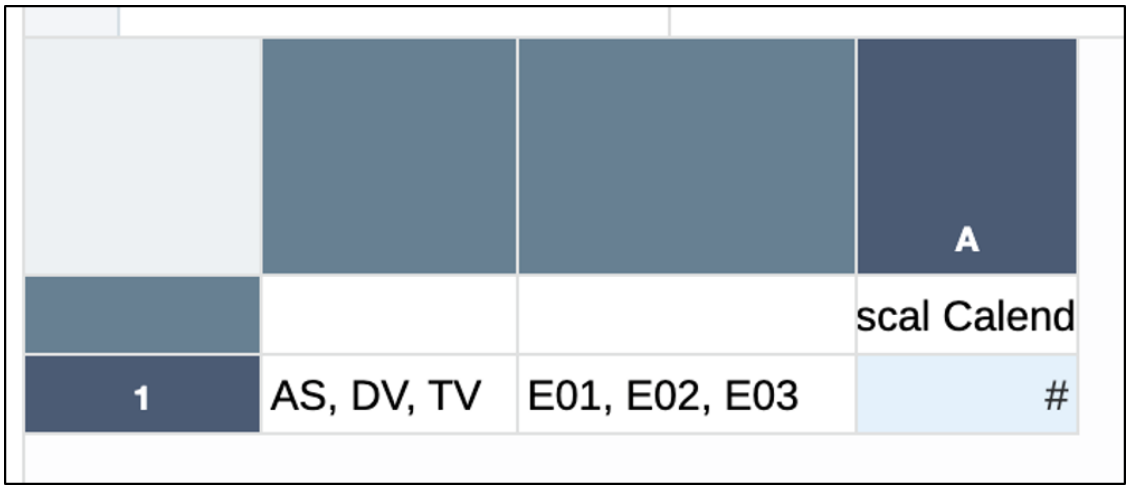


例:

次の例は、複数の式およびグループ化があり、Narrative Reporting サンプル・アプリケーションを使用する拡張条件付き抑制を示しています。

例 4-1 最初のレポート設計およびプレビュー

例のグリッドでは、行にそれぞれ 3 つの選択がある**「Segments」**および**「Entities」**ディメンションがあり、列には**「Fiscal Calendar」**があります。



プレビューした結果は次のとおりであり、3 つの**「Segments」**のそれぞれに対して、3 つの**「Entities」**がすべて表示されています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

		Fiscal Calendar
AS	E01	10,458,462
	E02	106,444
	E03	27,834,681
DV	E01	3,348,439
	E02	715,244
	E03	39,169,044
TV	E01	-7,028,305
	E02	-707,496
	E03	20,923,006

例 4-2 条件付き抑制の設定

条件付き抑制に対して、次のメンバーの組合せを抑制します。

- `AS > E01`
- `DV > E02`

抑制を達成するために必要な条件式は、次のとおりです。

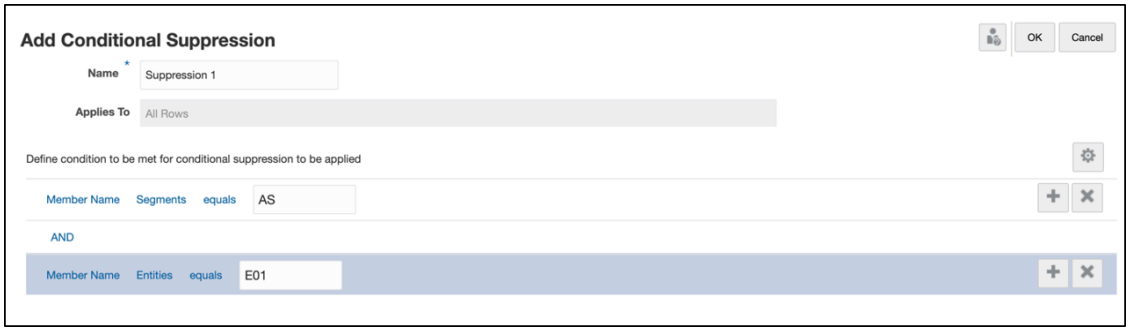
- `("Member Name for Segments = AS" AND "Member Name for Entities = E01")`

  OR

- `("Member Name for Segments = DV" AND "Member Name for Entities = E02")`

行 1 を選択し、条件付き抑制定義を作成した後、最初の 2 つの式(`AS > E01` の組合せを抑制するための)は次のとおりです。条件演算子は **AND** であり、両方の式が true のときに抑制が実行されることに注意してください。

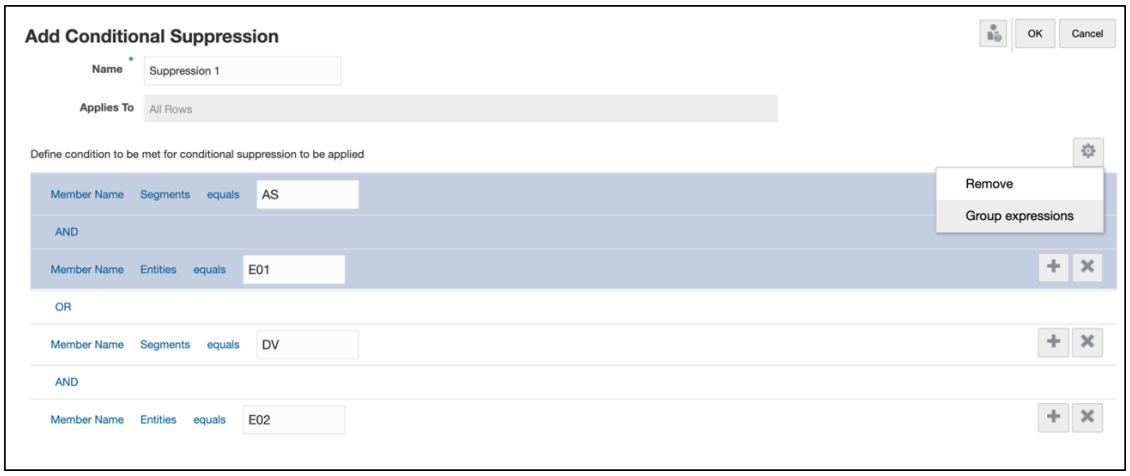
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



次に、2 つの他の式(DV > E02 の組合せを抑制するための)を追加する必要があります。最後の 2 つの式を分割する条件演算子は **AND** であり、最初の 2 つと最後の 2 つの式を分割する条件演算子は **OR** であることに注意してください。

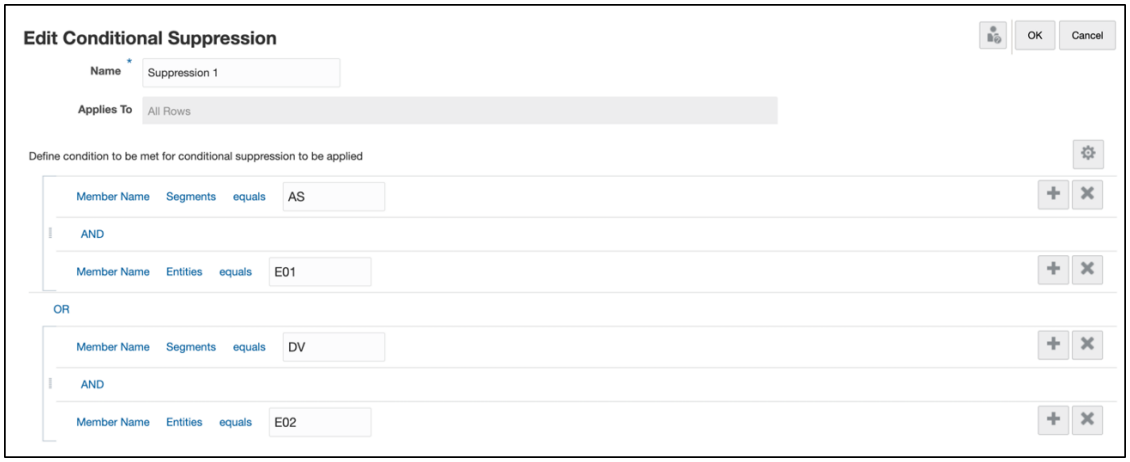


2 組の式をグループ化するために、最初の 2 つの式およびそれらの条件演算子が選択され、**「処理」**メニューから**「式のグループ化」**が選択されます。



2 番目の式のセットおよびそれらの条件演算子が選択され、グループ化されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



グリッドの結果をプレビューできます。2 つのメンバーの組合せ(AS > E01、DV > E02)がグリッド出力で抑制されています。

		Fiscal Calendar
AS	E02	106,444
	E03	27,834,681
DV	E01	3,348,439
	E03	39,169,044
TV	E01	-7,028,305
	E02	-707,496
	E03	20,923,006

グリッドの親メンバーのズーム

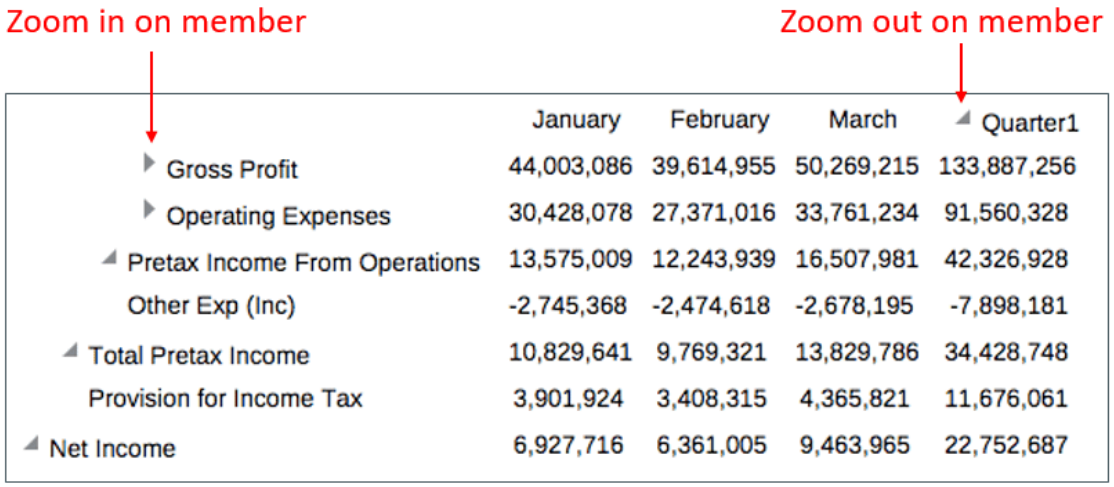
ズームでは、HTML でレポートをプレビューするときに、行または列の親メンバーを展開して、その子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グリッドを設計する場合は、エンド・ユーザーに対して 3 つのタイプのズームを有効にできます。

- グリッド全体のズームを有効にすると、すべての親メンバーのズーム・インが有効になります。
- グリッドの特定の行または列セグメントのズームを有効にできます。
- アドホック・ズームを有効にすると、ズーム・インを可能にするメンバーをエンド・ユーザーが決定できます。

グリッドで親メンバーの前または後のいずれかにズーム・インされたメンバーを表示するには、グリッドの**前にズーム**・プロパティを設定します。グリッド・レベルのズームを参照してください。特定のズーム・レベルに条件付きの書式設定、テキストおよび抑制を設定して、階層の異なるレベルを書式設定または抑制することもできます。たとえば、グリッドの最下部レベルのメンバーを太字テキストで表示できます。条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作を参照してください。



ズームを使用する場合は、いくつかの考慮事項があります。

- ズームが有効になっている行または列の親メンバーのグリッド・ソートを定義すると、各ズーム・レベルのズームされたメンバーにソートが適用されます。
- スナップショットのレポートはズーム・インできません。
- ズームが有効になっているグリッドを含むレポートをレポート・パッケージに挿入すると、リファレンス・ドックレットとして挿入され、ズームは無効になります。ベスト・プラクティスとして、ズームに依存して親の下のメンバーを表示するのではなく、リファレンス・ドックレットのグリッドを設計して、必要なメンバーをレポート・パッケージに表示してください。
- PDF のプレビューにズーム操作は使用できません。ただし、HTML プレビューでグリッドをズームして PDF に切り替えた場合、ズームされたメンバーはそのまま表示されます。
- ズームは、グループ化を使用するレポートでは定義できません。
- 列セグメントでズームを有効にした「欠落ブロックの抑制」はサポートされていません。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、Narrative Reporting でレポート・グリッドの親メンバーにズームする方法を学習します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

 -- グリッドの親メンバーのズーム.

ズームでは、グリッドの行または列の親メンバーを展開して、その子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます。グリッドを設計する際は、エンド・ユーザーに対して 3 つのタイプのズーム: グリッド全体のズーム(すべての親メンバーに対してズームを有効化)、グリッドの特定の行または列セグメントのズーム、およびアドホック・ズーム(エンド・ユーザーがズームする親メンバーを選択可能)を有効にできます。

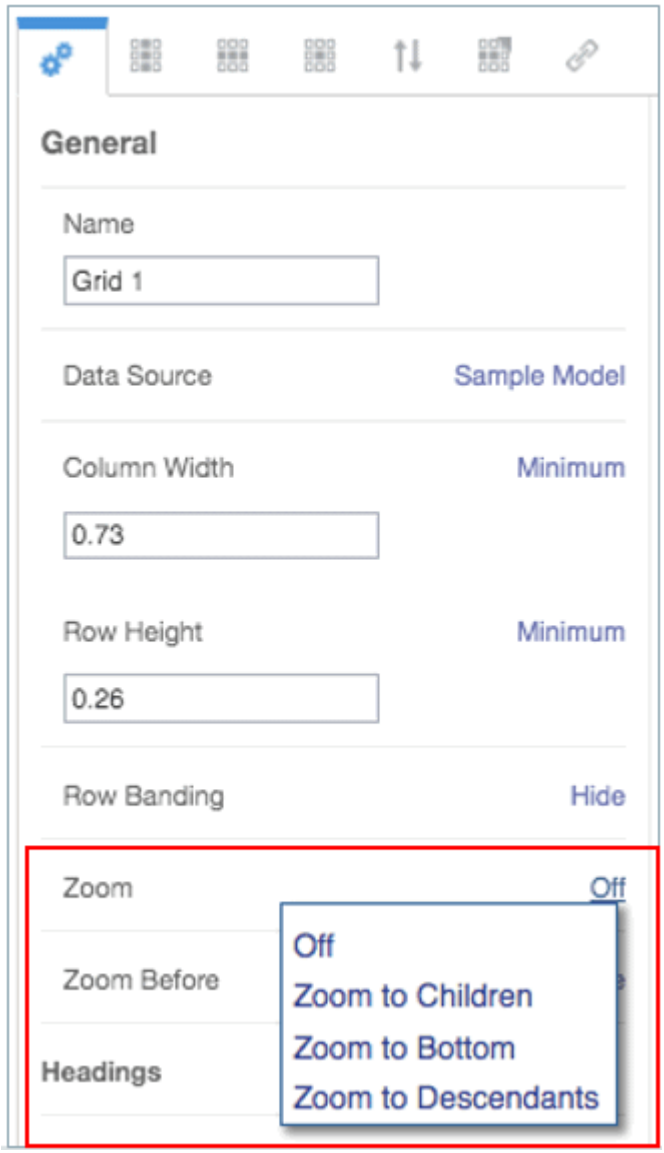
グリッド・レベルのズーム

グリッド全体のズームを有効にすると、ユーザーは、HTML でレポートまたはグリッドをプレビューするときに、親メンバーをズーム・インできます。親メンバーの子、最下部レベルまたは子孫にズームできます。

グリッド・レベルでズームを有効にするには:

1. グリッド・プロパティ・パネルで、「ズーム」の横にある**「オフ」**をクリックします。
2. 有効にするズーム・レベルを選択します。
   - **オフ**(デフォルト)
   - **子にズーム**
   - **最下部にズーム**
   - **子孫にズーム**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



3. **前にズーム**で、クリックして**「False」**(ズーム・インされたメンバーを親メンバーの後に表示)と**「True」**(ズーム・インされたメンバーを親メンバーの前に表示)を切り替えます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Zoom Before = False (Default)

	Quarter1	January	February	March
Net Income	22,752,687	6,927,716	6,361,005	9,463,965

Zoom Before = True

	January	February	March	Quarter1
Net Income	6,927,716	6,361,005	9,463,965	22,752,687

行/列セグメント・レベルのズーム

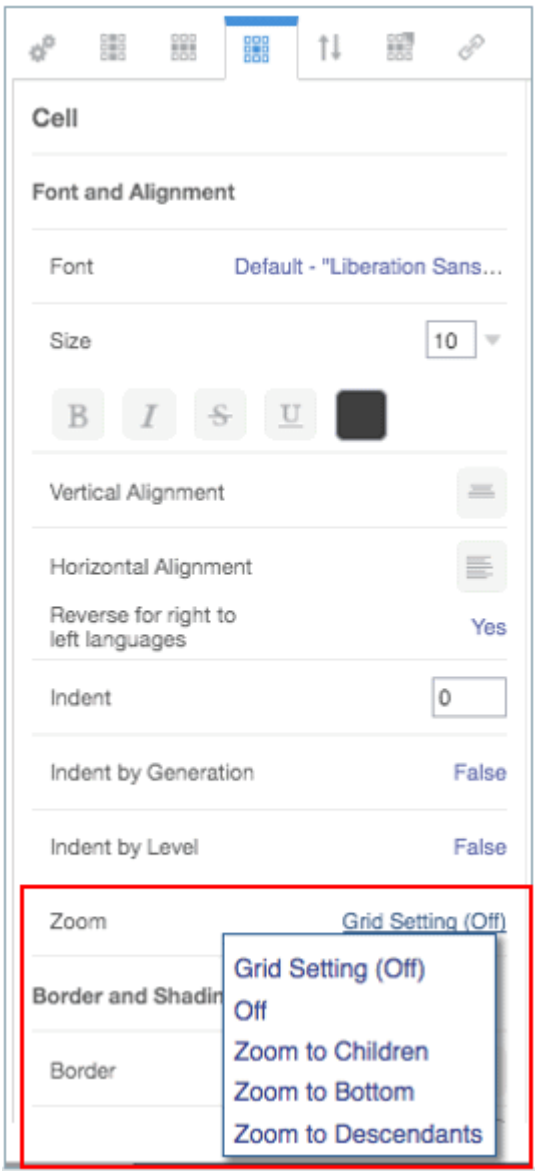
個々の行および列のセグメントにズームを設定できます。これによって、ユーザーは、特定の行および列セグメントの親メンバーのみをズームできます。

> ⓘ **ノート**
>
> ズームされたメンバーは、**前にズーム**・グリッド・レベルのプロパティに従って、親メンバーの前または後に表示されます。グリッド・レベルのズームを参照してください。

特定の行および列セグメントのズームを有効にするには:

1. ズームを有効にする行または列メンバーのヘッダーを選択します。
2. セル・プロパティ・パネルで、「ズーム」の横にある**グリッド設定**をクリックします。
3. 有効にするズーム・レベルを選択します。
   - **グリッド設定(現在のグリッド設定)** (デフォルト)。これによって、グリッド全体の現在の設定にズーム・レベルが設定されます。
   - **オフ**
   - **子にズーム**
   - **最下部にズーム**
   - **子孫にズーム**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



相対インデントとズーム

メンバー・ヘッダー・セルのズームを有効にする場合は、**相対インデント**・フィールドを使用して行メンバー・ラベルのズーム・インデントのサイズを調整できます。このフィールドには、ユーザー・プリファレンスに従って、現在のインデントがインチまたはセンチメートルで表示されます。(「書式設定」タブの使用を参照してください)。デフォルト値は**.12** インチです。この値は-1.00 から 1.00 インチまで調整できます。負の値を使用して、行メンバー・ラベルを逆にインデントします。

> ⓘ **ノート**
>
> セル・プロパティ・パネルの**相対インデント**・フィールドは、メンバー・ヘッダー・セルの**「ズーム」**、**「レベル別にインデント」**または**「世代別にインデント」**のいずれかが有効な場合にのみ表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

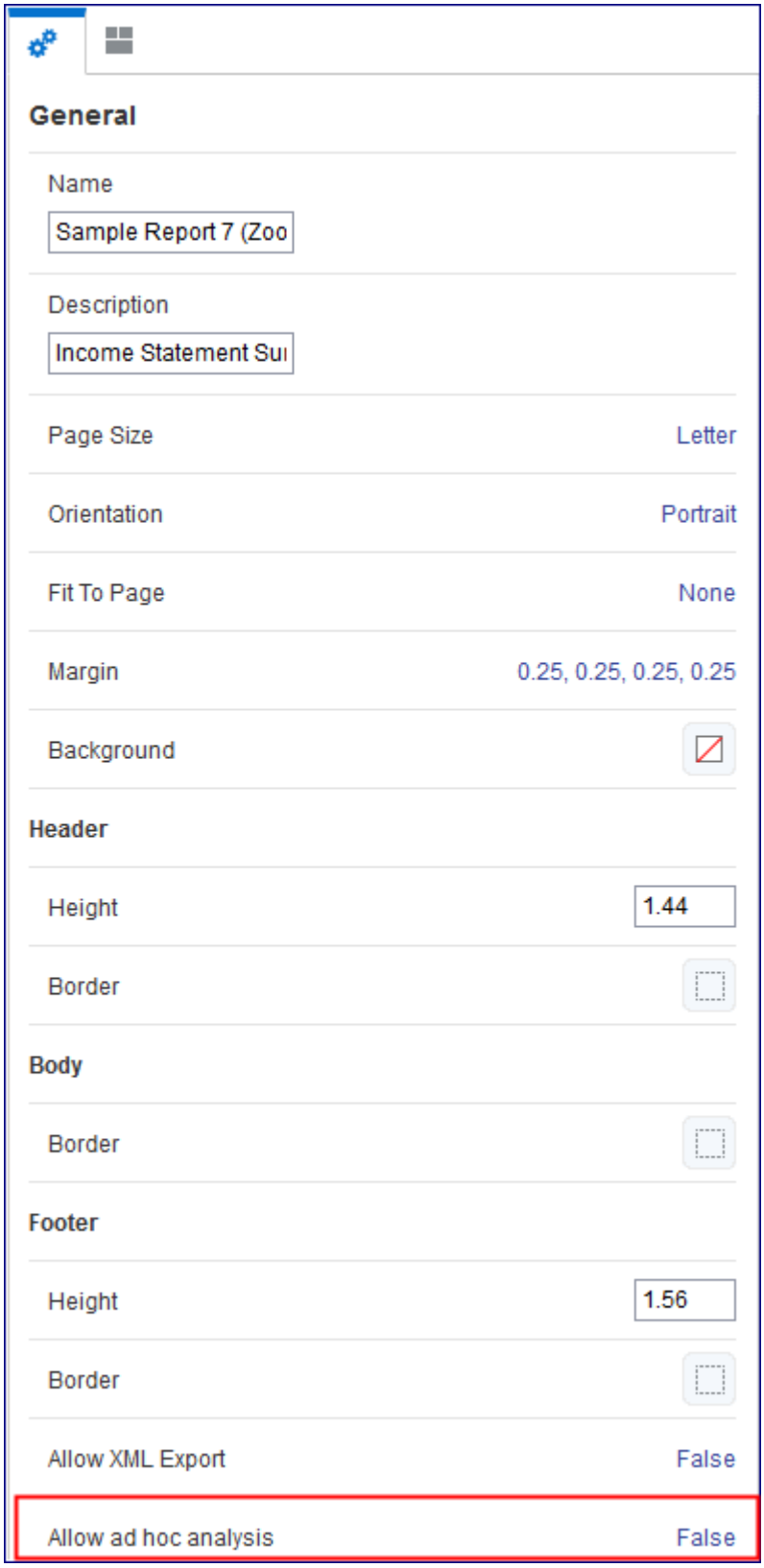
アドホック・ズーム

アドホック・モードでは、レポートをプレビューするユーザーがレポートのすべてのグリッドの親メンバーにズーム・インできます。アドホック・モードは、グリッド・レベルではなくレポート・レベルで有効にします。レポートのアドホック分析を有効にすると、レポートをプレビューするユーザーは、アドホック・モードを使用するために各自のズーム・オプションを設定する必要があります。レポートの表示を参照してください。

レポートのアドホック分析を有効にするには:

1. レポートの一般プロパティ・パネルをオープンします。
2. **アドホック分析の許可**フィールドで、**「False」**をクリックして「False」(デフォルト)と「True」を切り替えます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グループ化の操作

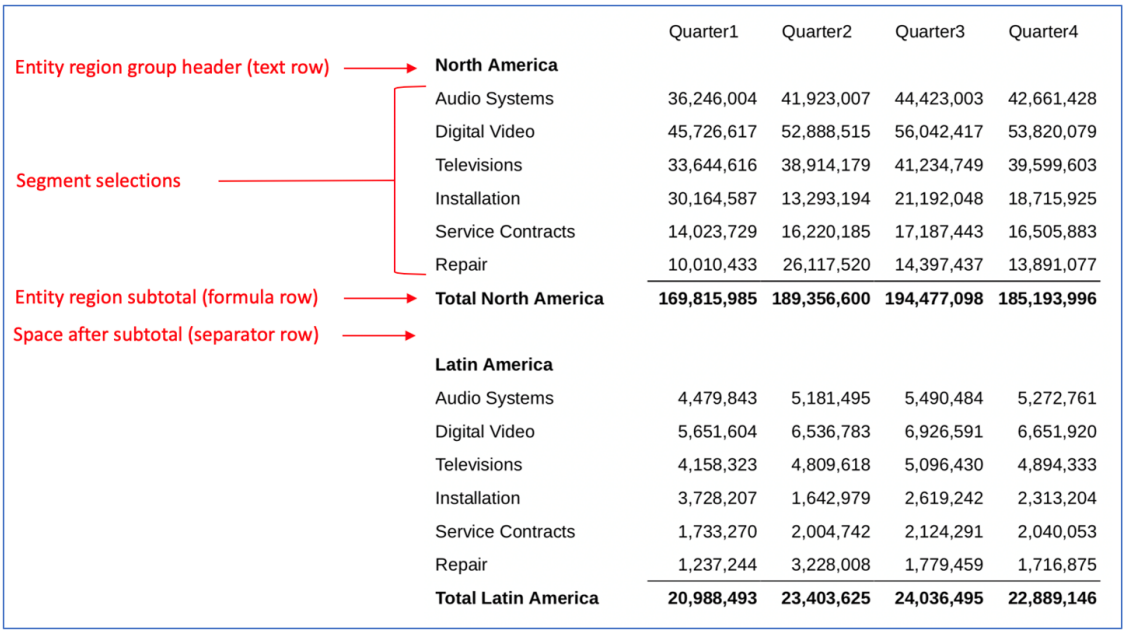
グループの概要

グループを使用すると、行または列のデータ・セグメントのネストされたディメンションを計算、グループ化および書式設定できます。

グループには 1 つのデータ行または列セグメントのみを含めることができますが、オプションで、1 つ以上の式、テキストおよび/またはセパレータ・セグメントを含めることができます。これらの非データ・セグメントは、データ・セグメントの前または後(あるいはその両方)に含めることができます。たとえば、データ・セグメントの後に SUM 式セグメントを追加して、ネストされた各ディメンション組合せの小計を計算したり、データ・セグメントの前にテキスト関数を使用するテキスト・セグメントを追加して、グループ内の現在のメンバーのメンバー名や別名を表示することもできます。

行または列に 2 つ以上のディメンションが存在する場合は、グループを追加できます。追加のディメンションがある場合は、グループを追加できます。

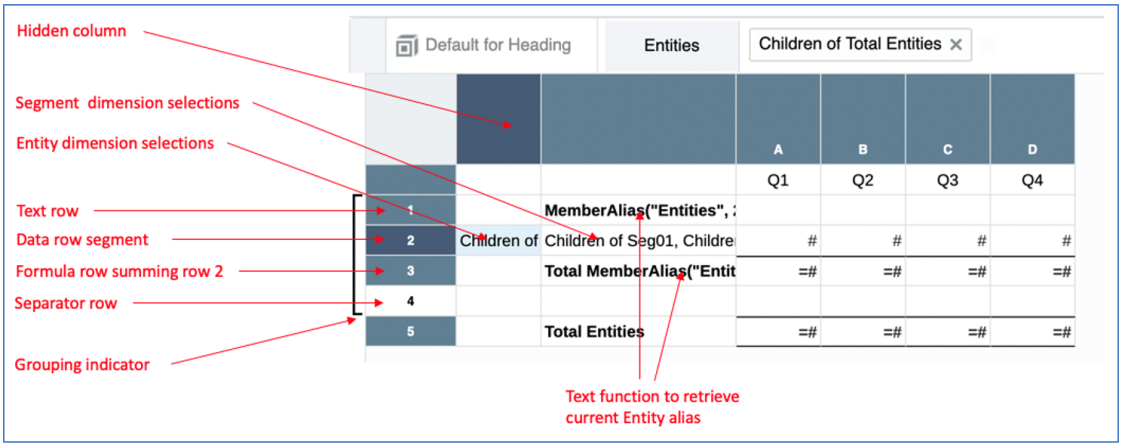
たとえば、次のグリッドは単一行セグメントに**エンティティ**および**セグメント**・ディメンションがあり、各**エンティティ**・リージョン(North America、Latin America)はグループ・ヘッダー(テキスト行)、**セグメント**・メンバー、行式がある**セグメント**選択でグループ化されて、各**エンティティ**の**セグメント**が合計され、各合計の後にセパレータ行があります。



	Quarter1	Quarter2	Quarter3	Quarter4
North America				
Audio Systems	36,246,004	41,923,007	44,423,003	42,661,428
Digital Video	45,726,617	52,888,515	56,042,417	53,820,079
Televisions	33,644,616	38,914,179	41,234,749	39,599,603
Installation	30,164,587	13,293,194	21,192,048	18,715,925
Service Contracts	14,023,729	16,220,185	17,187,443	16,505,883
Repair	10,010,433	26,117,520	14,397,437	13,891,077
Total North America	**169,815,985**	**189,356,600**	**194,477,098**	**185,193,996**
Latin America				
Audio Systems	4,479,843	5,181,495	5,490,484	5,272,761
Digital Video	5,651,604	6,536,783	6,926,591	6,651,920
Televisions	4,158,323	4,809,618	5,096,430	4,894,333
Installation	3,728,207	1,642,979	2,619,242	2,313,204
Service Contracts	1,733,270	2,004,742	2,124,291	2,040,053
Repair	1,237,244	3,228,008	1,779,459	1,716,875
Total Latin America	**20,988,493**	**23,403,625**	**24,036,495**	**22,889,146**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Here is the grid design:



次のチュートリアル・ビデオを視聴して、行または列のデータ・セグメントのネストされたディメンションを計算、グループ化および書式設定するために、グリッドでグループ化を使用する方法を学習します。

-- グリッドでのディメンションのグループ化.

グループ化には、1 つの行または列のデータ・セグメントと、必要に応じて合計および小計を定義する式の行または列、グループ見出しのテキスト行または列、グループ間の空白のセパレータ行または列を含めることができます。

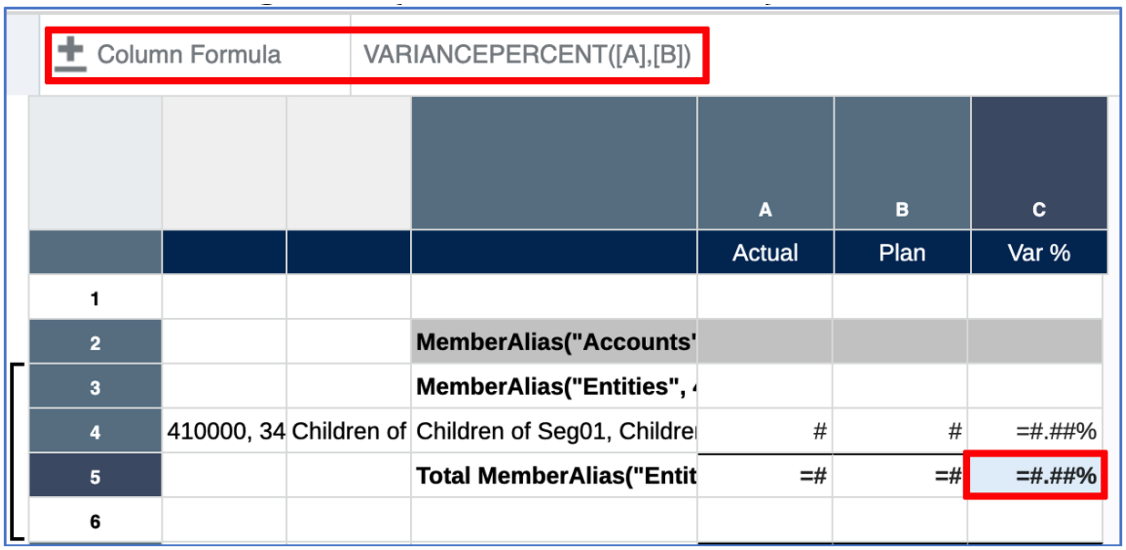
グループ化とグリッド式

行と列の両方に式があるグリッドでは、いずれかの軸にグループ化が適用され、交差する反対の軸の式ではグループ化に関係なく計算が実行されます。

たとえば、セグメント(各エンティティ 内)を合計する行式を使用すると、グループ化が適用され、列式では次の 2 つの列に基づいて差異パーセントが計算されます。

- 行 5 には SUM 式があり、行 4 を合計してグループに含まれます。式はエンティティ ・グループの小計を返します。
- 列 C には差異パーセント式があり、列 A と B の差異が計算されます。交差セル C1 の算式バーでは、列式(行式ではなく)が使用されていることに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



結果のグリッド・プレビューでは、「North America」エンティティの小計が「実績」列と「プラン」列について合計され、差異%列は小計行の差異に基づいて計算され、各セグメントの差異の合計ではないことに注意してください。

	Actual	Plan	Var %
Net Revenue			
North America			
Audio Systems	41,958,340	42,702,892	-1.74%
Digital Video	56,963,458	57,956,313	-1.71%
Televisions	36,518,852	37,175,682	-1.77%
Installation	13,081,407	13,314,733	-1.75%
Service Contracts	17,824,467	18,137,251	-1.72%
Repair	28,881,628	29,311,795	-1.47%
Total North America	**195,228,153**	**198,598,667**	**-1.70%**

グループ化と改ページ

次の 2 つのグリッド一般プロパティを使用して、PDF 形式でレポートをプレビューするときの改ページの処理方法を定義できます。デフォルトでは、**「グループ改ページ」**と**「グループ内の改ページなし」**の両方のプロパティが**「オフ」**に設定されています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **グループ改ページ** -- グループが存在するディメンション名を選択します。このプロパティを設定すると、PDF でのプレビュー時に、選択したディメンションの各グループは新しいページで始まります。HTML プレビューはこのプロパティの影響を受けません。
- **グループ内の改ページなし** -- グループが存在するディメンション名を選択します。このプロパティを設定すると、ディメンション・グループの行または列の範囲内で改ページが自然に発生し、グループが新しいページで始まるように改ページが挿入されます。新しいページで始まった後、すべての行または列が 1 ページに収まらない場合は、さらに改ページが挿入されます。HTML プレビューはこのプロパティの影響を受けません。

グループ化に関する考慮事項

現在のリリースでは、グループ化に関して次の考慮事項があります。

- グループ内でセグメントを挿入または除去すると、グループ化は除去されます。ただし、最も外側のグループ化の前または後にセグメントを挿入または除去すると、既存のグループは変更されずに残ります。
- 同じ軸に複数のグループ化が存在する場合(たとえば、行に勘定科目、エンティティおよびセグメント・ディメンションがある場合)、内部レイヤー・グループ(エンティティ)が除去されると、外部レイヤーのグループ(勘定科目)も除去されます。外部レイヤー・グループ(勘定科目)が除去された場合、内部レイヤーのグループ(エンティティ)は影響を受けません。
- 1 つのディメンションのみの軸はグループ化できません。
- 最も内側のレイヤーはグループ化できません。たとえば、行には**「勘定科目」**、**「エンティティ」**および**「セグメント」**ディメンションがあり、**「勘定科目」**または**「エンティティ」**(あるいはその両方)でのみグループ化でき、**「セグメント」**ではグループ化できません。
- 軸のディメンション・レイアウトを変更し、ディメンションを追加、除去または移動した場合、軸のすべてのグループ化は除去されます。
- グループ化を含むセグメントをコピーした場合、グループ化プロパティはコピーされません。コピーされるソース・セグメントのグループ化プロパティは影響を受けません。
- グループ化に含まれるセグメントを移動すると、移動時にグループ化は除去されます。
- セグメントのグループ内にセグメントを貼り付けると(セグメントのコピーまたは移動処理から発生)、グループ化は除去されます(グループ化内への挿入処理と同様)。
- データ・セグメントは、関連するテキスト/式/セパレータ・セグメントがなくてもグループに存在できます。ただし、これは、PDF 出力の新規印刷ページで各グループが開始できるためにのみ使用されます。
- 「改ページ」プロパティは、グループに含まれる行/列に設定できません。
- グループ化された行/列に対してチャートを作成できません。グループに含まれる行または列への参照がチャートに含まれる場合、検証エラーが発生します。グループ化された行/列に対してチャートが作成されていないかぎり、グループ化があるグリッドへの参照をチャートに含めることができます。

グループ化の追加

グループ化には、1 つのデータ行/列セグメントのみを含めることができます。複数のデータ・セグメントが選択された場合、グループ化およびグループ解除はできません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

データ・セグメント以外に、オプションで、1 つ以上の式、テキストおよび/またはセパレータ・セグメントを含めることができます。これらの非データ・セグメントは、データ・セグメントの前または後(あるいはその両方)に含めることができます。

> **ⓘ ノート**
>
> - データ・セグメントに隣接するテキスト、式およびセパレータ・セグメントは、1 つのグループ化にのみ含めることができます。
> - 親のズーム定義を含むグリッドには、グループ化を追加できません。ズーム定義は、グループ化を追加する前に、グリッドから除去する必要があります。

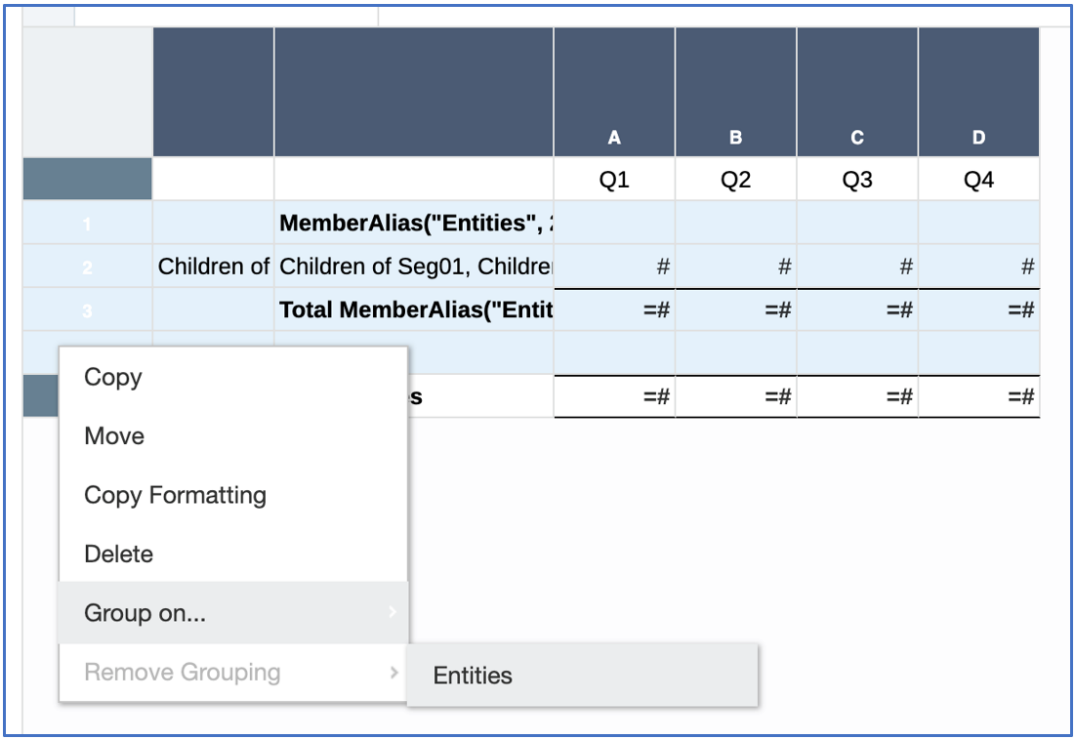
行または列選択にグループ化を追加するには:

1. グリッド・エディタで、目的の行または列データ・セグメントを選択し、オプションで周囲の式、テキストおよび/またはセパレータ・セグメントを選択します。

   > **ⓘ ノート**
   >
   > グループ化を追加するときは、連続するセグメントを選択する必要があります。連続していないセグメントは選択できません。

2. 選択した列または行のヘッダー・セルを右クリックし、**「次のグループ」**を選択して、グループ化するディメンション名を選択します。

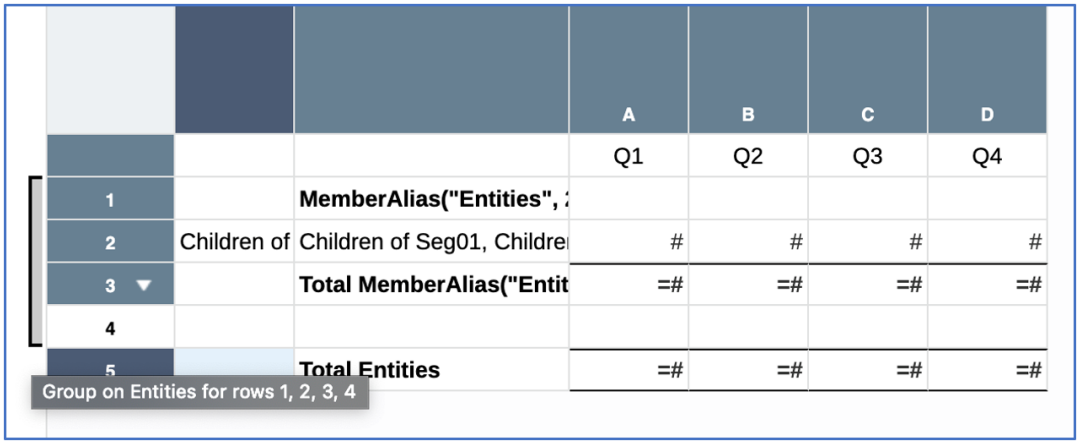
   次の例では、行に**エンティティ**および**セグメント**の 2 つのディメンションがあります。**エンティティ**は行内の 2 つのディメンションの中で最も外側のディメンションであるため、このディメンションのみがグループ化できます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. 選択したセグメントにグループ化が追加されます。

   グループ化された行または列セグメントの横に、グループ化インジケータが表示されます。インジケータの上にマウスを置くと、ディメンション名、グループ化が適用された行または列などのグループ情報がツールチップに表示されます。



グループ化の除去

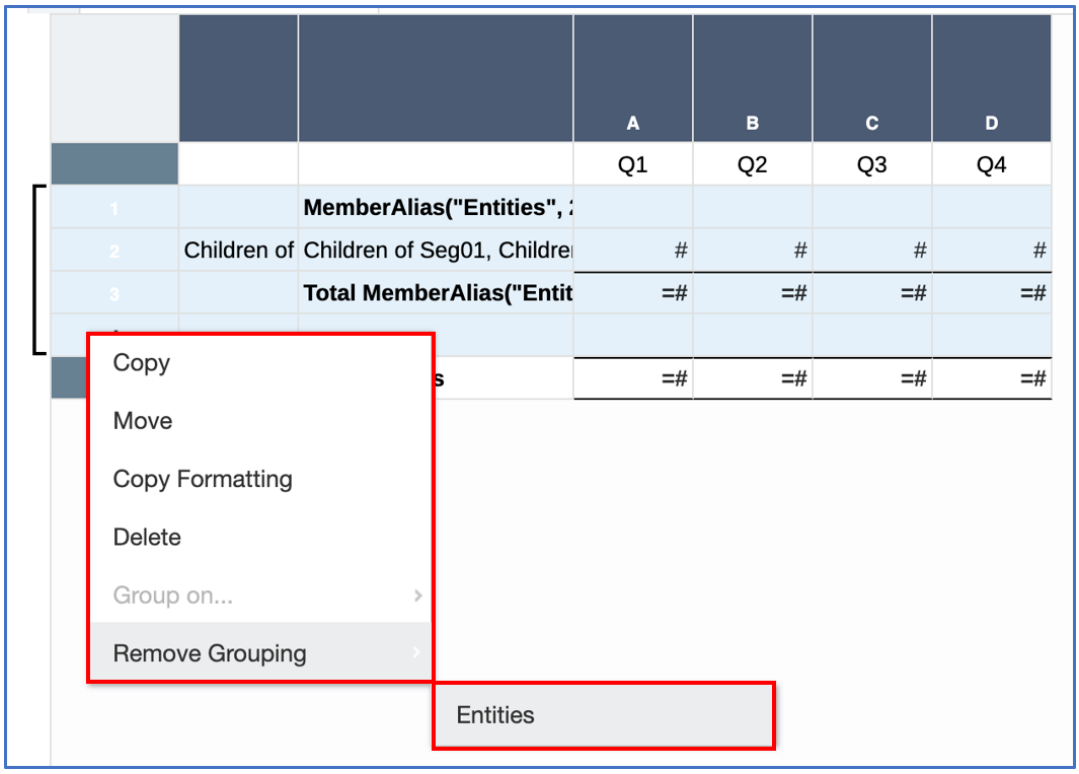
行または列選択からグループ化を除去するには:

1. グリッド・エディタで、グループ化に含まれるすべての行または列セグメントを選択します。

   > ⓘ **ノート**
   >
   > グループ化を除去するときは、連続するセグメントを選択する必要があります。連続していないセグメントは選択できません。

2. 選択した列または行のヘッダー・セルを右クリックし、**「グループ化の除去」**を選択し、グループ化を除去するディメンション名を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

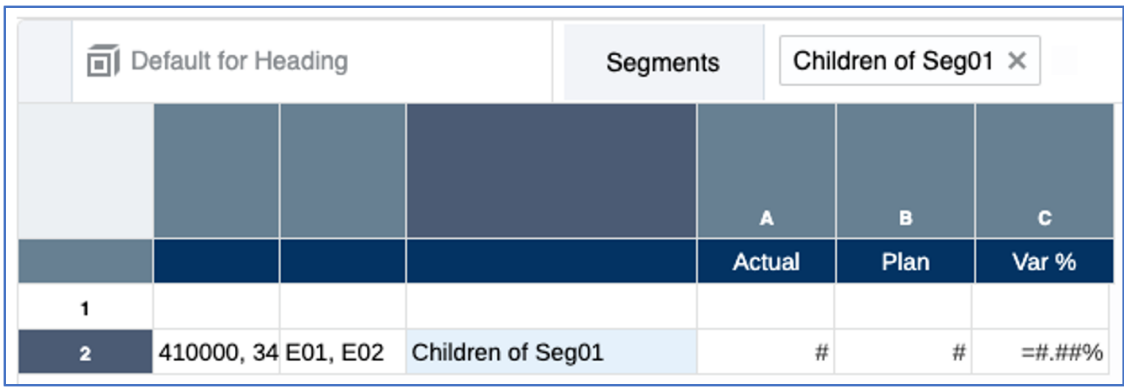


3. グループ化が除去されます。

複数のグループ化を使用したグループ化の例

初期グリッド設計

勘定科目、エンティティおよびセグメント・ディメンションは行軸にあり(各ディメンションに対して複数のメンバー選択あり)、シナリオ・ディメンションは列軸にあります。グリッド・プロパティ「繰返しの抑制」が有効です。行 2 は、グループ化で使用される単一のデータ・セグメントです。



グリッド・プレビューで、各エンティティ・リージョンに対して各セグメントがどのように繰り返されているか、およびエンティティとセグメントの各セットが 2 つの勘定科目に対して繰り返されていることに注意してください。各エンティティのすべてのセグメントの 小計、および各勘定科目に対するすべてのエンティティとセグメントの 合計を確認する必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

			Actual	Plan	Var %
Net Revenue	North America	Audio Systems	41,958,340	42,702,892	-1.74%
		Digital Video	56,963,458	57,956,313	-1.71%
		Televisions	36,518,852	37,175,682	-1.77%
	Latin America	Audio Systems	5,186,773	5,146,156	0.79%
		Digital Video	7,041,605	6,985,567	0.80%
		Televisions	4,514,384	4,479,225	0.78%
Net Income	North America	Audio Systems	-887,573	-577,765	-53.62%
		Digital Video	2,258,868	2,746,299	-17.75%
		Televisions	-3,269,704	-2,984,531	-9.56%
	Latin America	Audio Systems	-24,217	-95,390	74.61%
		Digital Video	417,539	323,020	29.26%
		Televisions	-335,971	-400,308	16.07%

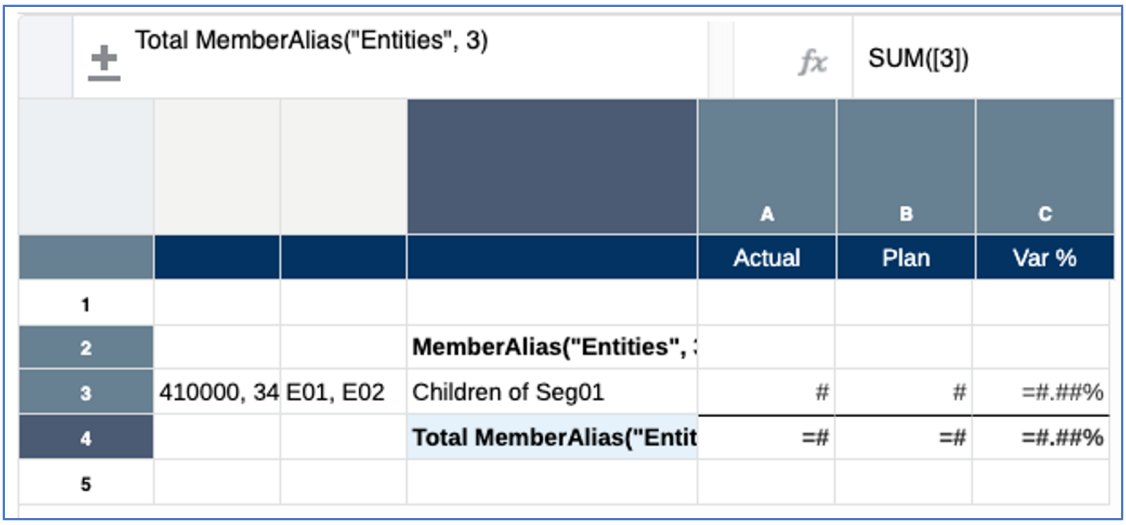
テキスト関数を使用したテキスト、セパレータおよび式の行の挿入

グループ化を挿入する前に、SUM 関数を使用して各エンティティのセグメント行のデータ値を合計するために、式行を作成する必要があります。さらに、各グループのエンティティ別名を表示するために、MemberAlias テキスト関数を使用してテキスト行が挿入されます。また、式行の表示テキストは、各グループのエンティティ別名とともに「合計」という語を表示するようにカスタマイズされます。最後に、各小計の後に空白行が表示されるように、セパレータ行が式行の後に挿入されます。

次のグリッド設計では:

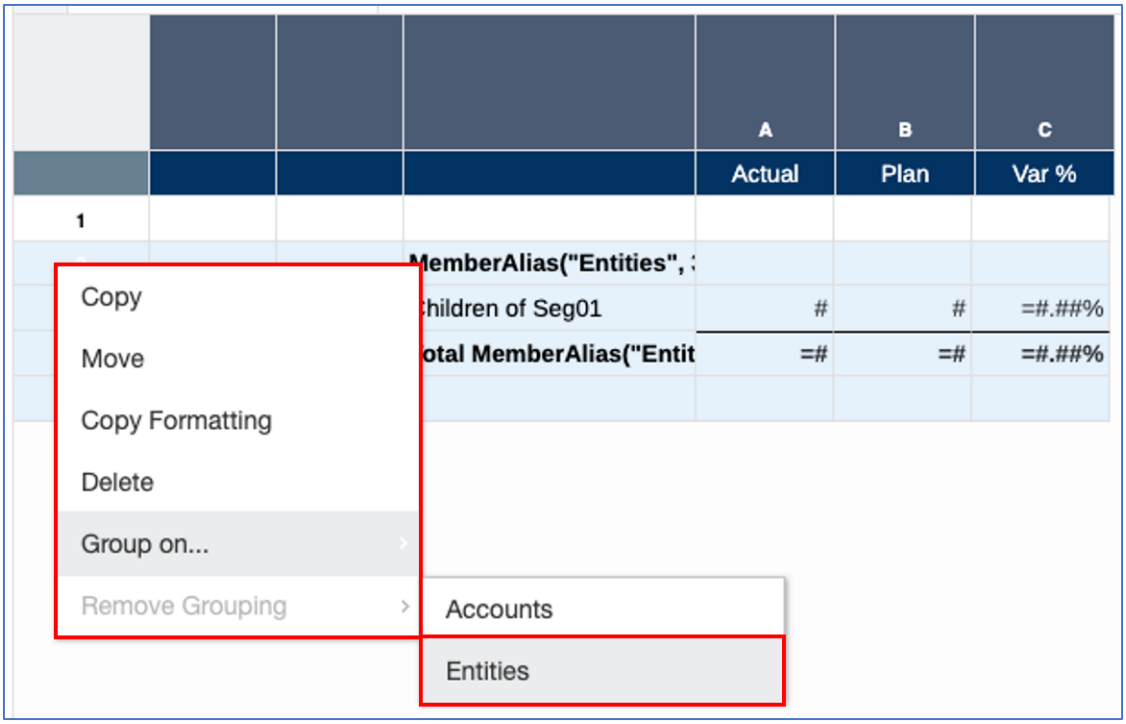
- **行 1**: セパレータ行(グループ化では使用されない)。
- **行 2**: エンティティ・グループ見出し用に MemberAlias テキスト関数を使用するテキスト行。
- **行 3**: 各ディメンションに対して選択が行われたデータ・セグメント。
- **行 4**: 行 3 のデータ・セグメントを合計し、各グループのエンティティ小計を表示する式行。
- **行 5**: エンティティ小計の式行の下に空白を表示するためのセパレータ行。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



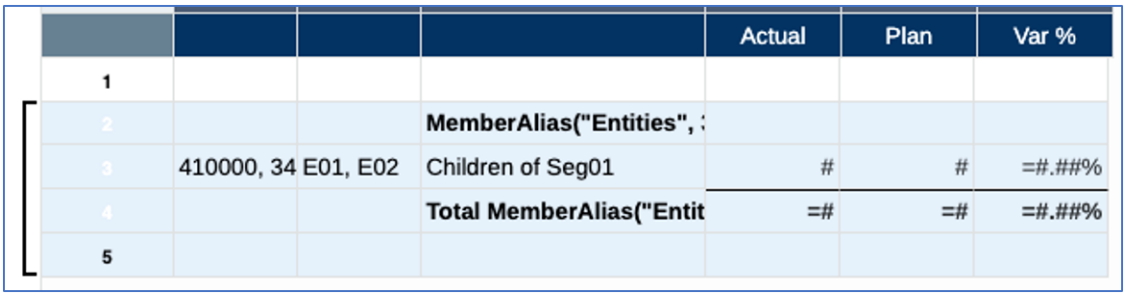
エンティティのグループ化の追加

グループ化を追加するには、行 2 から 5 を選択し、行見出しを右クリックして**「次のグループ」**を選択し、**「エンティティ」**をクリックします。



エンティティ・グループのグループ化インジケータが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



				Actual	Plan	Var %
1						
2			MemberAlias("Entities",			
3	410000, 34	E01, E02	Children of Seg01	#	#	=#.##%
4			Total MemberAlias("Entit	=#	=#	=#.##%
5						

結果のプレビューには、各エンティティ・リージョンの小計とエンティティ別名、グループ見出しとエンティティ別名、および各合計の下に空白行が表示されます。

			Actual	Plan	Var %
		North America			
Net Revenue	North America	Audio Systems	41,958,340	42,702,892	-1.74%
		Digital Video	56,963,458	57,956,313	-1.71%
		Televisions	36,518,852	37,175,682	-1.77%
		Total North America	**135,440,650**	**137,834,887**	**-1.74%**
		Latin America			
Net Revenue	Latin America	Audio Systems	5,186,773	5,146,156	0.79%
		Digital Video	7,041,605	6,985,567	0.80%
		Televisions	4,514,384	4,479,225	0.78%
		Total Latin America	**16,742,762**	**16,610,948**	**0.79%**
		North America			
Net Income	North America	Audio Systems	-887,573	-577,765	-53.62%
		Digital Video	2,258,868	2,746,299	-17.75%
		Televisions	-3,269,704	-2,984,531	-9.56%
		Total North America	**-1,898,410**	**-815,998**	**-132.65%**
		Latin America			
Net Income	Latin America	Audio Systems	-24,217	-95,390	74.61%
		Digital Video	417,539	323,020	29.26%
		Televisions	-335,971	-400,308	16.07%
		Total Latin America	**57,351**	**-172,679**	**133.21%**

勘定科目用の行の追加およびグループ化の定義

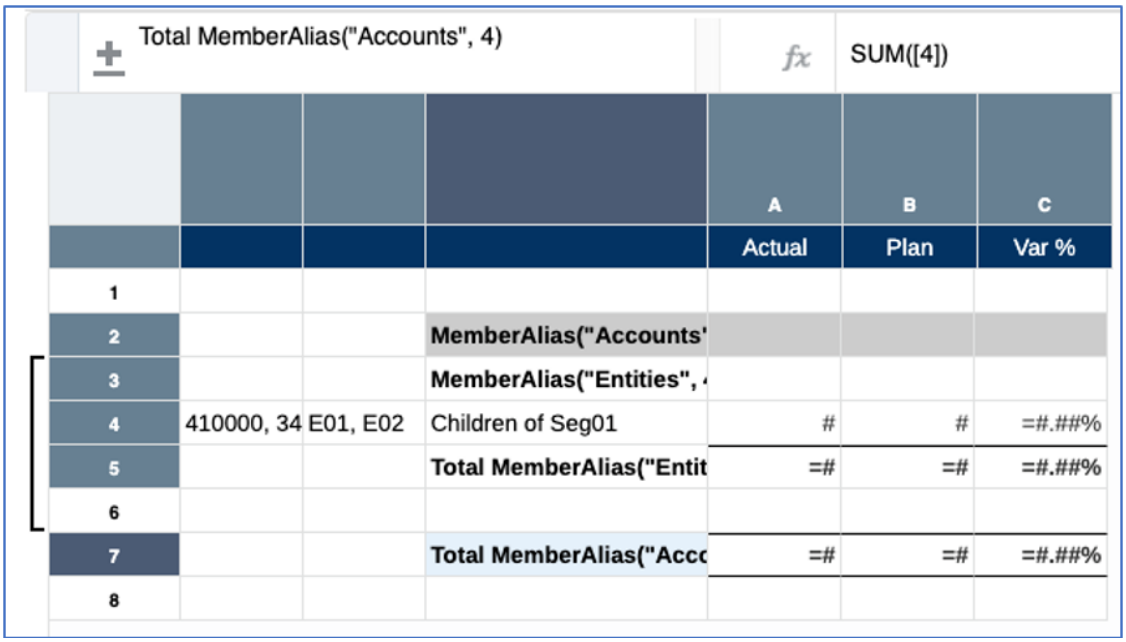
勘定科目合計について、勘定科目別名を表示するためのテキスト行、および新規式行の後のセパレータ行に加えて、合計式行が追加されます。

次のグリッド設計では:

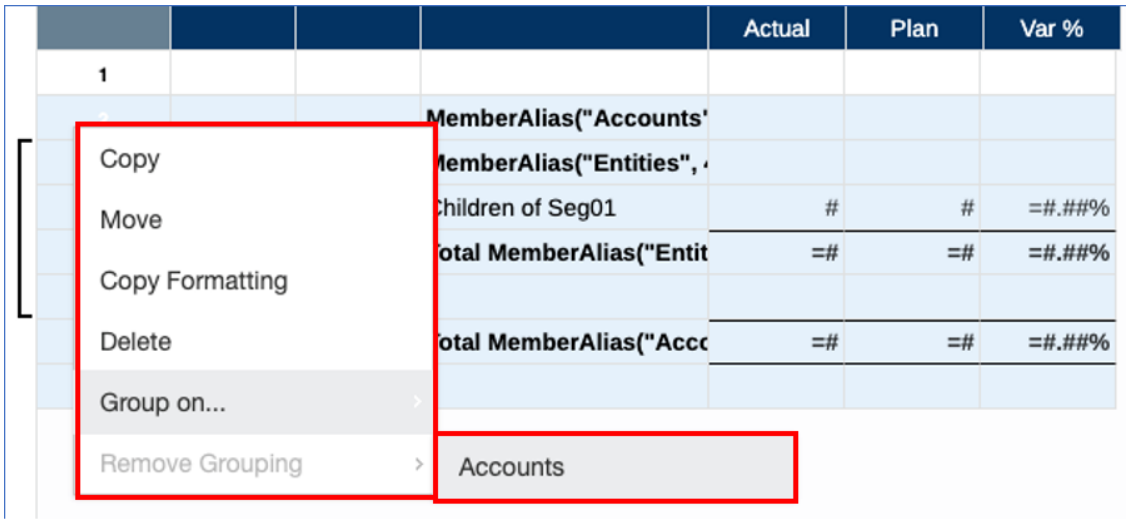
- **行 1**: セパレータ行(グループ化では使用されない)。
- **行 2**: 勘定科目グループ見出し用に MemberAlias テキスト関数を使用する新規テキスト行。シェード付けが行に適用されていることに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **行 3 から 6**: エンティティ・グループに対して以前に定義した既存の行。データ・セグメント(現在は行 4)が含まれます。
- **行 7**: 行 4 のデータ・セグメントを合計し、各グループの勘定科目合計を表示する新規式行。
- **行 8**: 勘定科目合計の式行の下に空白を表示するための新規セパレータ行。

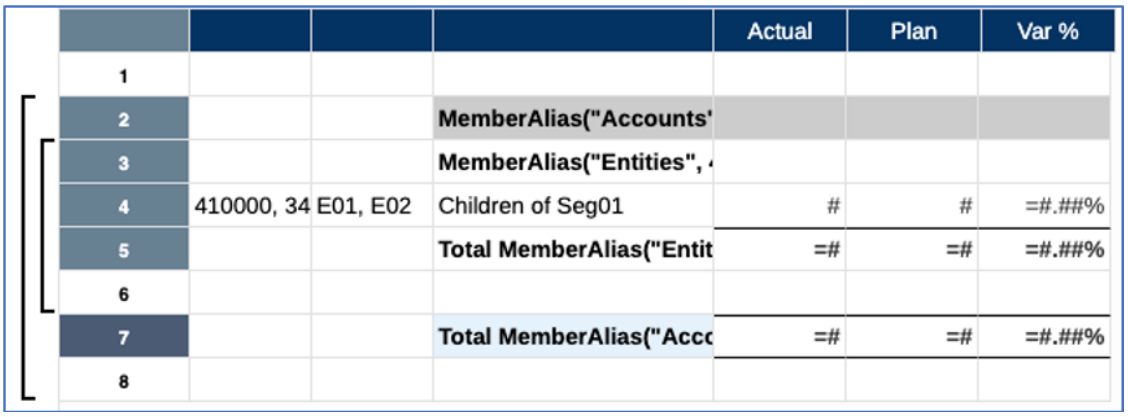


行 2 から 8 を選択した後に、勘定科目のグループ化が追加されます。



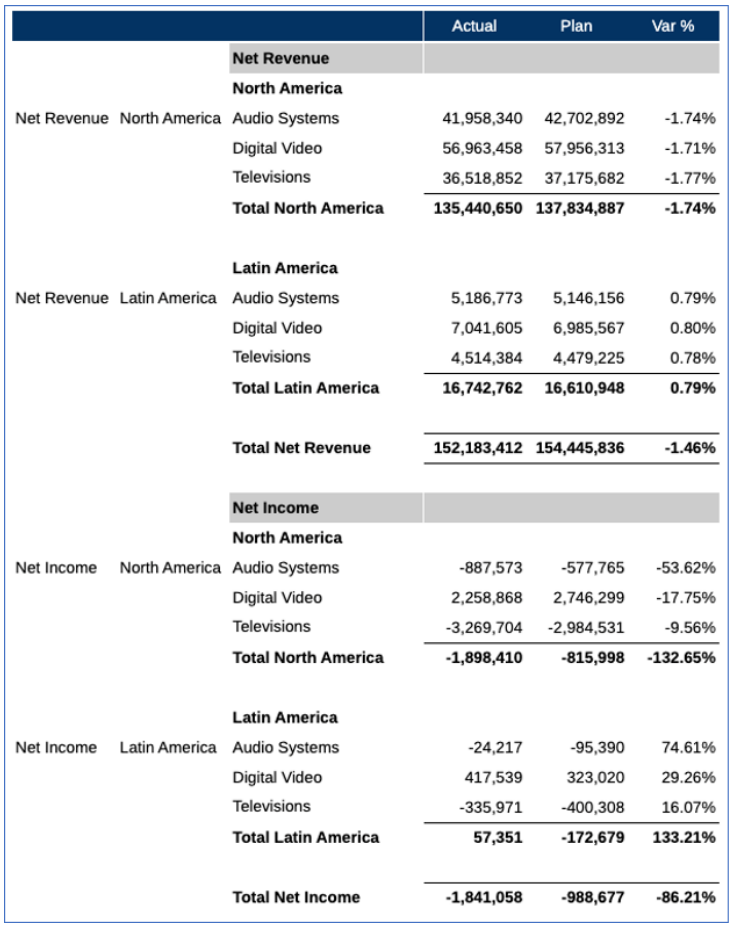
勘定科目グループのグループ化インジケータが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



				Actual	Plan	Var %
1						
2			MemberAlias("Accounts'			
3			MemberAlias("Entities",			
4	410000, 34	E01, E02	Children of Seg01	#	#	=#.##%
5			Total MemberAlias("Entit	=#	=#	=#.##%
6						
7			Total MemberAlias("Acc	=#	=#	=#.##%
8						

プレビューには、エンティティ・グループ化コンテンツに加えて、2 つの勘定科目の合計と勘定科目別名、およびグループ見出しと勘定科目別名が表示されていることに注意してください。



			Actual	Plan	Var %
		Net Revenue			
		North America			
Net Revenue	North America	Audio Systems	41,958,340	42,702,892	-1.74%
		Digital Video	56,963,458	57,956,313	-1.71%
		Televisions	36,518,852	37,175,682	-1.77%
		Total North America	**135,440,650**	**137,834,887**	**-1.74%**
		Latin America			
Net Revenue	Latin America	Audio Systems	5,186,773	5,146,156	0.79%
		Digital Video	7,041,605	6,985,567	0.80%
		Televisions	4,514,384	4,479,225	0.78%
		Total Latin America	**16,742,762**	**16,610,948**	**0.79%**
		Total Net Revenue	**152,183,412**	**154,445,836**	**-1.46%**
		Net Income			
		North America			
Net Income	North America	Audio Systems	-887,573	-577,765	-53.62%
		Digital Video	2,258,868	2,746,299	-17.75%
		Televisions	-3,269,704	-2,984,531	-9.56%
		Total North America	**-1,898,410**	**-815,998**	**-132.65%**
		Latin America			
Net Income	Latin America	Audio Systems	-24,217	-95,390	74.61%
		Digital Video	417,539	323,020	29.26%
		Televisions	-335,971	-400,308	16.07%
		Total Latin America	**57,351**	**-172,679**	**133.21%**
		Total Net Income	**-1,841,058**	**-988,677**	**-86.21%**

完了前の微調整

最後のステップでは、いくつかの微調整を行います。勘定科目およびエンティティ・ディメンションの行見出し列は、ディメンションのメンバー・ラベルがグループ・ヘッダーおよび合計行にすでに表示されているため、列プロパティで非表示になります。また、データ・セグメント行ではバンディングが有効です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

	Actual	Plan	Var %
Net Revenue			
North America			
Audio Systems	41,958,340	42,702,892	-1.74%
Digital Video	56,963,458	57,956,313	-1.71%
Televisions	36,518,852	37,175,682	-1.77%
Total North America	**135,440,650**	**137,834,887**	**-1.74%**
Latin America			
Audio Systems	5,186,773	5,146,156	0.79%
Digital Video	7,041,605	6,985,567	0.80%
Televisions	4,514,384	4,479,225	0.78%
Total Latin America	**16,742,762**	**16,610,948**	**0.79%**
Total Net Revenue	**152,183,412**	**154,445,836**	**-1.46%**
Net Income			
North America			
Audio Systems	-887,573	-577,765	-53.62%
Digital Video	2,258,868	2,746,299	-17.75%
Televisions	-3,269,704	-2,984,531	-9.56%
Total North America	**-1,898,410**	**-815,998**	**-132.65%**
Latin America			
Audio Systems	-24,217	-95,390	74.61%
Digital Video	417,539	323,020	29.26%
Televisions	-335,971	-400,308	16.07%
Total Latin America	**57,351**	**-172,679**	**133.21%**
Total Net Income	**-1,841,058**	**-988,677**	**-86.21%**

ソートとグループ化

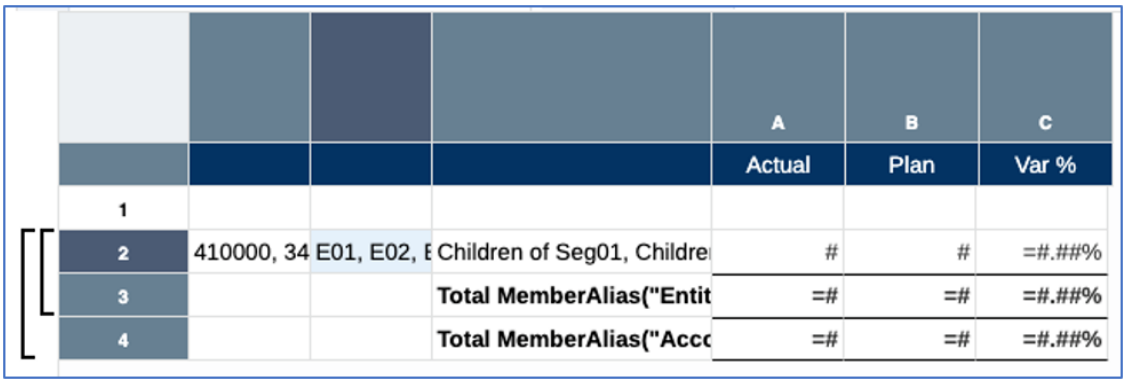
グループ化されたセグメントではソートを使用できます。グループ内のデータ・セグメントを選択して、ソート定義を作成できます。また、グループに 1 つ以上の式/テキスト/セパレータ・セグメントを含めて、それらを 1 つの単位としてソートできます。最後に、グループ内の式/テキスト・セグメントを選択し、それらを個別にソートできます。

これらすべてのケースで、グループ化されたディメンション組合せがソートされるときは、発生したグループ・レベルでソートされます。たとえば、行軸に勘定科目、エンティティおよびセグメントがあり(各ディメンションに対して複数のメンバー選択あり)、勘定科目とエンティティにグループ化されている場合、データ組合せは、各エンティティにソートされた後に各勘定科目にソートされます。

次のグリッドの設計ビューでは、グループ化されたすべてのセグメントが列 A でソートされます。

グリッド設計:

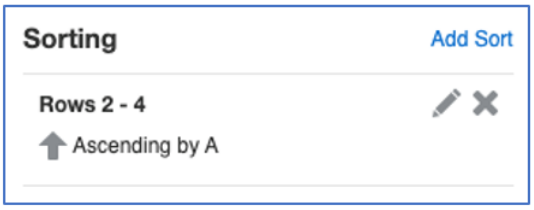
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



				A	B	C
				Actual	Plan	Var %
1						
2	410000, 34	E01, E02, E	Children of Seg01, Childre	#	#	=#.##%
3			Total MemberAlias("Entit	=#	=#	=#.##%
4			Total MemberAlias("Acc	=#	=#	=#.##%

ソート定義:

Sort definition:



次はソートしていない結果で、メンバーは各ディメンションの階層順に表示されます(「Net Income」の結果のみ表示されています)。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

			Actual	Plan	Var %
Net Income	North America	Audio Systems	-887,573	-577,765	-53.62%
Net Income	North America	Digital Video	2,258,868	2,746,299	-17.75%
Net Income	North America	Televisions	-3,269,704	-2,984,531	-9.56%
Net Income	North America	Installation	2,151,883	2,296,250	-6.29%
Net Income	North America	Service Contracts	4,747,368	4,957,110	-4.23%
Net Income	North America	Repair	7,659,903	7,978,099	-3.99%
		Total North America	**12,660,743**	**14,415,461**	**-12.17%**
Net Income	Latin America	Audio Systems	-24,217	-95,390	74.61%
Net Income	Latin America	Digital Video	417,539	323,020	29.26%
Net Income	Latin America	Televisions	-335,971	-400,308	16.07%
Net Income	Latin America	Installation	50,324	33,651	49.55%
Net Income	Latin America	Service Contracts	303,784	281,519	7.91%
Net Income	Latin America	Repair	462,757	425,460	8.77%
		Total Latin America	**874,216**	**567,952**	**53.92%**
Net Income	APAC	Audio Systems	-10,183,101	-10,380,084	1.90%
Net Income	APAC	Digital Video	-11,869,947	-12,131,475	2.16%
Net Income	APAC	Televisions	-10,239,933	-10,418,979	1.72%
Net Income	APAC	Installation	-1,951,976	-2,007,751	2.78%
Net Income	APAC	Service Contracts	-1,797,090	-1,869,197	3.86%
Net Income	APAC	Repair	-3,053,624	-3,161,896	3.42%
		Total APAC	**-39,095,672**	**-39,969,382**	**2.19%**
Net Income	EMEA	Audio Systems	12,375,128	12,498,586	-0.99%
Net Income	EMEA	Digital Video	18,638,078	18,808,167	-0.90%
Net Income	EMEA	Televisions	9,489,758	9,590,323	-1.05%
Net Income	EMEA	Installation	4,279,751	4,336,238	-1.30%
Net Income	EMEA	Service Contracts	6,836,329	6,915,291	-1.14%
Net Income	EMEA	Repair	10,993,402	11,091,473	-0.88%
		Total EMEA	**62,612,446**	**63,240,078**	**-0.99%**

次はソートされた結果です。各エンティティ内(たとえば、APAC、Latin America など)で「実績」値が昇順にソートされ、「Net Income」の各エンティティ合計(たとえば、APAC 合計、Latin America 合計など)では、「実績」値が昇順にソートされています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

			Actual	Plan	Var %
Net Income	APAC	Digital Video	-11,869,947	-12,131,475	2.16%
Net Income	APAC	Televisions	-10,239,933	-10,418,979	1.72%
Net Income	APAC	Audio Systems	-10,183,101	-10,380,084	1.90%
Net Income	APAC	Repair	-3,053,624	-3,161,896	3.42%
Net Income	APAC	Installation	-1,951,976	-2,007,751	2.78%
Net Income	APAC	Service Contracts	-1,797,090	-1,869,197	3.86%
		Total APAC	**-39,095,672**	**-39,969,382**	**2.19%**
Net Income	Latin America	Televisions	-335,971	-400,308	16.07%
Net Income	Latin America	Audio Systems	-24,217	-95,390	74.61%
Net Income	Latin America	Installation	50,324	33,651	49.55%
Net Income	Latin America	Service Contracts	303,784	281,519	7.91%
Net Income	Latin America	Digital Video	417,539	323,020	29.26%
Net Income	Latin America	Repair	462,757	425,460	8.77%
		Total Latin America	**874,216**	**567,952**	**53.92%**
Net Income	North America	Televisions	-3,269,704	-2,984,531	-9.56%
Net Income	North America	Audio Systems	-887,573	-577,765	-53.62%
Net Income	North America	Installation	2,151,883	2,296,250	-6.29%
Net Income	North America	Digital Video	2,258,868	2,746,299	-17.75%
Net Income	North America	Service Contracts	4,747,368	4,957,110	-4.23%
Net Income	North America	Repair	7,659,903	7,978,099	-3.99%
		Total North America	**12,660,743**	**14,415,461**	**-12.17%**
Net Income	EMEA	Installation	4,279,751	4,336,238	-1.30%
Net Income	EMEA	Service Contracts	6,836,329	6,915,291	-1.14%
Net Income	EMEA	Televisions	9,489,758	9,590,323	-1.05%
Net Income	EMEA	Repair	10,993,402	11,091,473	-0.88%
Net Income	EMEA	Audio Systems	12,375,128	12,498,586	-0.99%
Net Income	EMEA	Digital Video	18,638,078	18,808,167	-0.90%
		Total EMEA	**62,612,446**	**63,240,078**	**-0.99%**

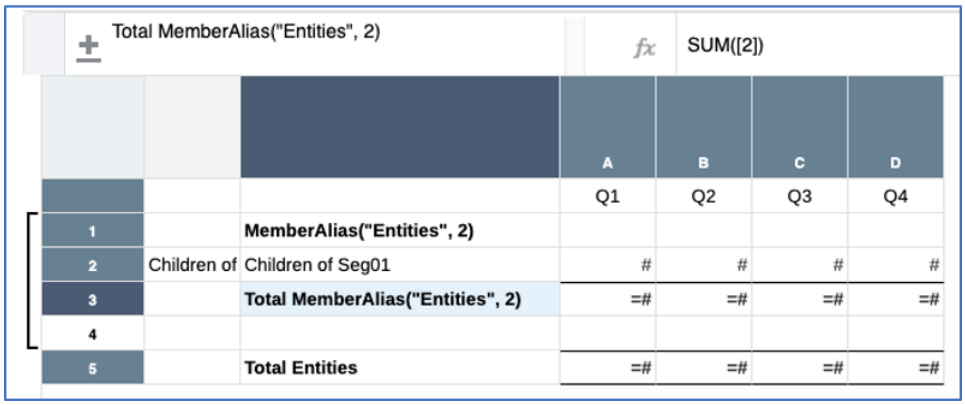
式およびテキスト関数のグループへの参照

グループ内の式/テキスト・セグメントが同じグループ内のデータ・セグメントを参照する場合、参照は、現在のグループ内のディメンション組合せのみを含めるように調整されます。

グループ外の式/テキスト・セグメントがグループ内のデータ・セグメントを参照する場合は、グループに関係なく、データ・セグメントのすべてのディメンション組合せが参照されます。

次のグリッドには、行 1 から 4 にグループがあります。行 3 の式(行 2 の合計)は、グループに含まれるため、グループに適用されます。行 5 の式(行 2 の合計)は、グループに含まれないため、行 2 のすべてのディメンション組合せに適用されます(グループなしと同様)。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



グループ化の結果、行 3 の式行参照では、各グループの行 2 の値が合計されます(Total North America、Total Latin America など)。

グループ外の式で、行 5 の式行参照では、グループの有無に関係なく、行 2 のすべての値が合計されます(エンティティ 合計)。

	Quarter1	Quarter2	Quarter3	Quarter4
North America				
Audio Systems	36,246,004	41,923,007	44,423,003	42,661,428
Digital Video	45,726,617	52,888,515	56,042,417	53,820,079
Televisions	33,644,616	38,914,179	41,234,749	39,599,603
Total North America	**115,617,237**	**133,725,702**	**141,700,170**	**136,081,111**
Latin America				
Audio Systems	4,479,843	5,181,495	5,490,484	5,272,761
Digital Video	5,651,604	6,536,783	6,926,591	6,651,920
Televisions	4,158,323	4,809,618	5,096,430	4,894,333
Total Latin America	**14,289,771**	**16,527,896**	**17,513,504**	**16,819,014**
EMEA				
Audio Systems	29,729,868	34,386,287	36,436,845	34,991,958
Digital Video	37,506,102	43,380,467	45,967,376	44,144,560
Televisions	27,596,146	31,918,372	33,821,761	32,480,574
Total EMEA	**94,832,116**	**109,685,126**	**116,225,982**	**111,617,091**
APAC				
Audio Systems	10,995,979	12,718,216	13,476,641	12,942,231
Digital Video	13,872,120	16,044,830	17,001,632	16,327,440
Televisions	10,206,794	11,805,425	12,509,418	12,013,363
Total APAC	**35,074,892**	**40,568,471**	**42,987,692**	**41,283,034**
Total Entities	**259,814,016**	**300,507,194**	**318,427,348**	**305,800,250**

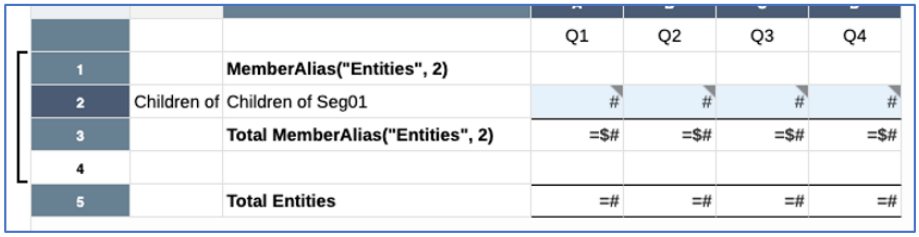
グループでの条件付き書式設定および条件付き抑制

条件付き書式または条件付き抑制式が、グループ化されたセグメントである行または列を参照する場合、条件は、グループ内のタプルのみを含むように評価されます。

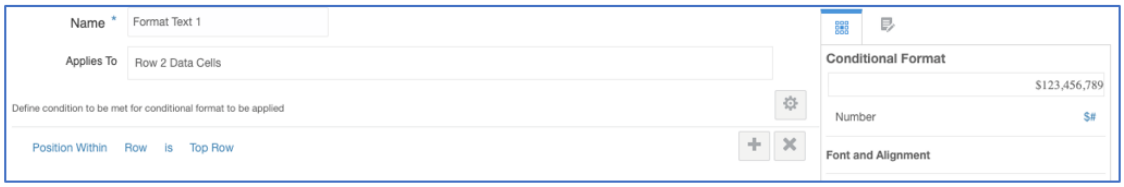
条件付き書式の「行の値」、「列値」および「セル値」条件は、参照される行または列がグループに含まれる場合にグループに適用されます。同様に、条件付き抑制の「行のデータ値」、「列のデータ値」および「セル値」条件に適用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

次の例では、条件付き書式設定が行 2 のデータ・セルに適用されています。条件付き書式によって、行内のメンバー内の位置が「上の行」であるかどうかがテストされ、$記号のプリフィクスが適用されます。



			Q1	Q2	Q3	Q4
1		MemberAlias("Entities", 2)				
2	Children of	Children of Seg01	#	#	#	#
3		Total MemberAlias("Entities", 2)	=$#	=$#	=$#	=$#
4						
5		Total Entities	=#	=#	=#	=#



結果の出力では、グループ内の各「上の行」に$記号のプリフィクスが適用されていることに注意してください。

	Quarter1	Quarter2	Quarter3	Quarter4
North America				
Audio Systems	$36,246,004	$41,923,007	$44,423,003	$42,661,428
Digital Video	45,726,617	52,888,515	56,042,417	53,820,079
Televisions	33,644,616	38,914,179	41,234,749	39,599,603
Total North America	**$115,617,237**	**$133,725,702**	**$141,700,170**	**$136,081,111**
Latin America				
Audio Systems	$4,479,843	$5,181,495	$5,490,484	$5,272,761
Digital Video	5,651,604	6,536,783	6,926,591	6,651,920
Televisions	4,158,323	4,809,618	5,096,430	4,894,333
Total Latin America	**$14,289,771**	**$16,527,896**	**$17,513,504**	**$16,819,014**

例: 複数メンバーの行または列を参照する算式でのグループ化の使用

グループ化を使用して、複数のメンバーを選択した単一の行または列に対して算式を実行し、各メンバー・グループに算式の結果を生成できます。複数のメンバーは、単一の行または列で個別に選択した複数のメンバーであるか、"Children"や"Descendants"などの動的メンバー選択関数で選択したメンバーのいずれかです。この一般的なユース・ケースは、複数のメンバーが選択された別のディメンションがある列での、**「期間」**または**「シナリオ」**の差異式です。

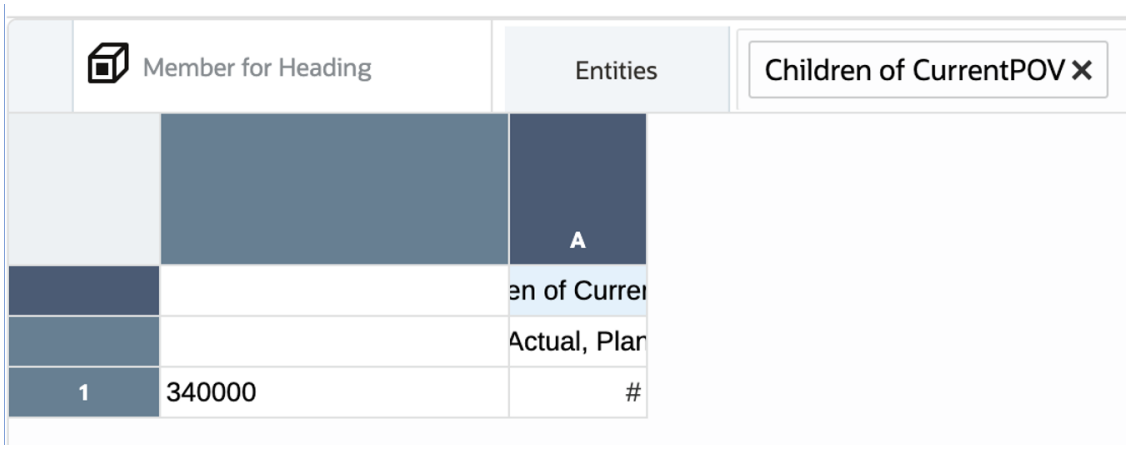
たとえば、単一の列に**「エンティティ」**および**「シナリオ」**ディメンションがあるグリッドでは、**「シナリオ」**ディメンションで「実績」および「プラン」が選択されており、**「エンティテ**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

イ」ディメンションで選択された複数のメンバーを持つことができ、各**「エンティティ」**メンバーのグリッド差異式列を表示することが必要です。

次のグリッド設計では、行で**「勘定科目」**の「Net Income」が選択されており、列に**「シナリオ」**および**「エンティティ」**があり、列 A には次のものがあります。

- **エンティティ**:「Children of Current POV」、これは POV で現在選択されている**エンティティ**・メンバーの子を表示します。これにより、**「エンティティ」**に複数の列が返されます。
- **シナリオ**:「実績」および「プラン」。



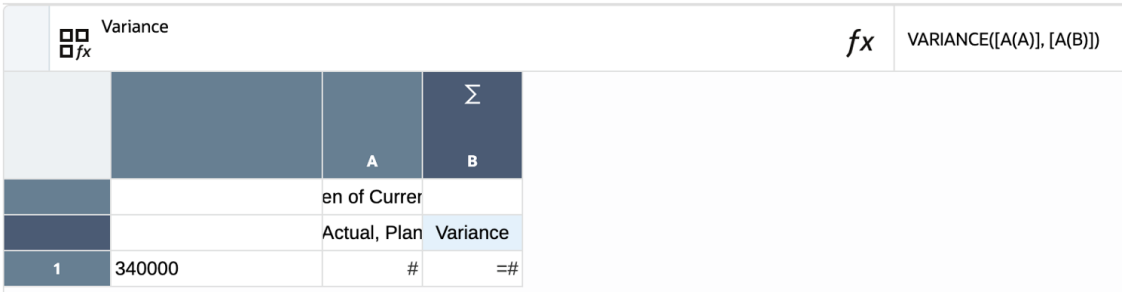
「エンティティ」POV に「Total Entities」を選択したグリッド出力のプレビューは次のとおりです。

Years	Currencies	Segments		Fiscal Calendar		Entities			
FY22	USD	Segments		Feb		Total Entities			
	North America	North America	Latin America	Latin America	EMEA	EMEA	APAC	APAC	Corporate HQ	Corporate HQ
	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan
Net Income	3,213,602	3,436,396	225,374	154,606	15,299,792	14,859,195	-9,331,304	-9,161,633	-3,245,387	-3,155,071

各**「エンティティ」**メンバーの「実績対予算」差異の表示を行うには、展開されたメンバー参照を使用して差異を計算するために式列を挿入し、ともに列 A にある「実績」および「プラン」メンバーを参照します。

VARIANCE ([A(A)], [A(B)])

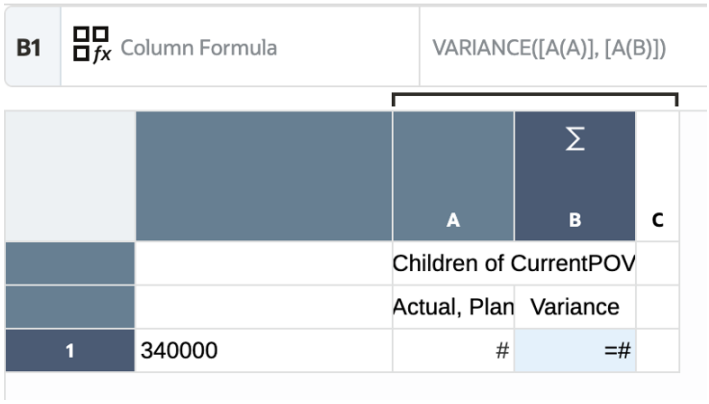
カスタム見出し「差異」も**「シナリオ」**行の式列に追加されました。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グループ化を追加して書式設定を適用するには:

- 各エンティティの**「実績」**、**「プラン」**および**「差異」**列を分割するために、差異式列 B の右に「セパレータ」列が挿入されます。
- **「実績」**、**「プラン」**および**「差異」**列全体で同じ**「エンティティ」**名を表示するには、列 A および B の「エンティティ」セルを選択し、右クリックして**「セルのマージ」**を選択します。
- 列 A、B および C を選択し、**「エンティティ」**ディメンションでグループ化を作成します。



結果のグリッドのプレビューは次のとおりです。

Years	Currencies	Segments	Fiscal Calendar	Entities
FY22	USD	Segments	Feb	Total Entities

	North America			Latin America			EMEA			APAC			Corporate HQ		
	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance
Net Income	3,213,602	3,436,396	-222,794	225,374	154,606	70,769	15,299,792	14,859,195	440,597	-9,331,304	-9,161,633	-169,670	-3,245,387	-3,155,071	-90,316

POV で異なるエンティティ・メンバーが選択されている場合、結果が調整されます。

Years	Currencies	Segments	Fiscal Calendar	Entities
FY22	USD	Segments	Feb	E01

	North America Corporate			USA			Canada			Mexico		
	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance	Actual	Plan	Variance
Net Income	-3,900,424	-3,740,136	-160,287	4,893,891	4,985,309	-91,417	1,621,441	1,624,636	-3,195	598,693	566,587	32,106

コンテンツへのドリル操作

コンテンツへのドリルでは、エンド・ユーザーがレポート、Narrative Reporting ライブラリのサード・パーティ文書、およびカスタム URL リンクにドリルできるように、管理者は、グリッドのセル、行、列およびメンバーの見出しセルにコンテンツ・リンクを設定できます。

エンド・ユーザーが HTML でレポートをプレビューする場合は、コンテンツ・リンクにドリルして、指定のターゲットにリンクされたレポートを実行(適用可能な場合は POV を渡す)、サード・パーティ文書を起動、または URL を起動できます。*レポートの操作*のコンテンツへのドリル、ドリル・スルーおよびセルの添付を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> - ソースまたはターゲットのいずれかのレポートとして使用されるレポート、およびターゲット・レポートとして使用されるスナップショット・レポートには、コンテンツへのドリルがサポートされています。
> - カスタム URL へのドリルでは、ターゲット URL に POV または SSO トークンを渡すことはサポートされていません。

コンテンツ詳細へのドリルは、次の用途には使用できません。

- トランザクション詳細へのドリル
- テキスト・ボックス、イメージ・オブジェクトまたはチャートに対するコンテンツ・リンクの定義
- 条件付き書式設定条件の一部としてのコンテンツ・リンクの定義

別の環境でレポートを使用する場合、コンテンツ・リンクのサーバー参照は維持されます。たとえば、レポートをテストから本番ポッドに移動すると、レポートのコンテンツへのドリル・リンクは本番ポッドのレポートを指すようになります。サーバーへのドリルを変更する必要はありません。

グリッドにレポート・パッケージの参照ドックレットとして使用可能なコンテンツへのドリル・リンクがあるレポートを挿入すると、コンテンツ・リンクは無効になります。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、Narrative Reporting でレポート・グリッドのコンテンツにドリルする方法を学習します。

 -- レポート・グリッドのコンテンツへのドリル.

コンテンツへのドリル・リンクの定義

レポートなどの Narrative Reporting のライブラリ・ファイル、または外部 Web サイトなどの URL リンクにドリルするリンクを定義できます。

コンテンツへのドリル・リンクを定義するには:

1. コンテンツ・リンクの追加先となるグリッドの領域(セル、行、列またはメンバーの見出しセル)を選択します。
2. グリッド・プロパティで、  をクリックします。
3.  をクリックします。
4. 「コンテンツへのドリルの追加」ダイアログ・ボックスに、ドリルのわかりやすい名前を入力し、オプションで摘要も入力します。

   > **ノート**
   >
   > **「適用先」**フィールドに、コンテンツ・リンクの追加先として選択したグリッドの領域が表示されます。これは読取り専用です。

5. **リンク先**フィールドで、次の処理を実行します。

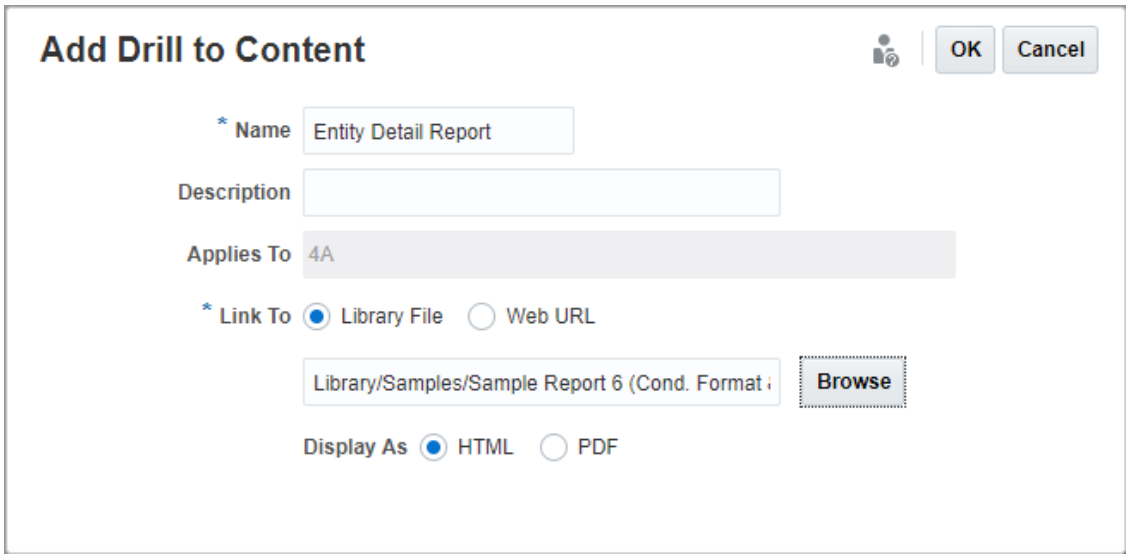
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「ライブラリ・ファイル」**を選択して**「参照」**をクリックし、Narrative Reporting ライブラリでファイルをターゲットとして選択します。レポートを選択した場合は、ターゲットを表示する形式として**「PDF」**または**「HTML」**を指定します。
- **「Web URL」**を選択してターゲット URL を入力した後、**Web URL** で URL パラメータを非表示にするかどうかを指定します。

  ノート: Web URL ではターゲット URL に POV または SSO トークンを渡すことはサポートされていません。

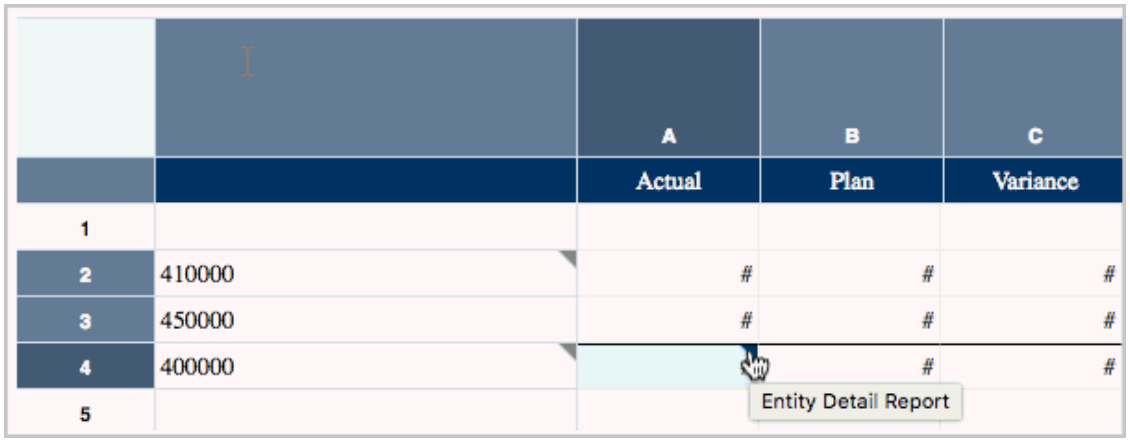
  ターゲット・レポートへの視点の引渡しを参照してください。

  .



ドリル・インジケータとツールチップ

ドリル・リンクをセル、行または列に適用すると、行または列のヘッダーあるいはセルの右上隅に灰色の三角形が表示されます。インジケータの上にマウスを置くと、そのセル、行または列に適用されたドリル・リンクのリストがツールチップに表示されます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

コンテンツへのドリル定義の管理

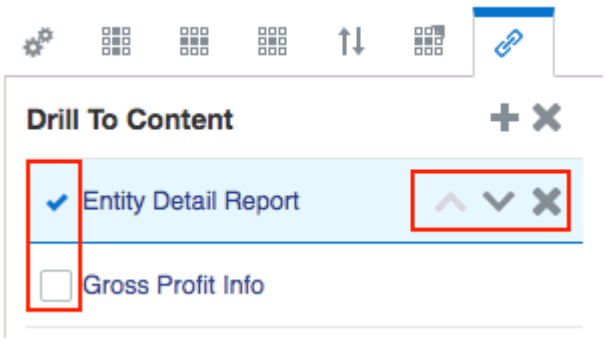
コンテンツへのドリル・リンクを定義した後は、「コンテンツへのドリル」プロパティ・パネルでリンクを管理します。

既存のドリル・リンクに対して、次の処理を実行できます。

- グリッドの領域を強調表示して、ドリル・リンクの横にあるチェック・ボックスをクリックして選択または選択を解除し、その領域に対して条件を適用または削除します。

> **ⓘ ノート**
>
> グリッドのセル、行または列に対して、複数のドリル・リンクを適用できます。ユーザーがドリル・リンクをクリックすると、ターゲット・リンクのリストが表示されます。

- リンク定義の名前をクリックしてその定義を編集します。
- 定義の上にマウスを置き、 または をクリックして定義の表示順序を変更します。
- 定義の上にマウスを置き、 をクリックしてその定義を削除します。



ターゲット・レポートへの視点の引渡し

URL リンクを定義する際は、ソース・レポートの視点(POV)をターゲットに渡すオプションがあります。

POV を渡すように選択すると、次の条件が適用されます。

- POV コンテキストは、ターゲット・レポート・データ・ソース内に存在するディメンションについて、ターゲット・レポートのグローバル POV に渡されます。
  - ソース・レポートの POV コンテキストには、POV およびセル・メンバー選択が含まれます。
  - ターゲット・レポートのローカル POV は、コンテンツへのドリルでは更新されません
- ソースとターゲットのレポート・データ・ソースが異なる場合は、ソースに存在する POV ディメンション(および選択されたメンバー)のみがターゲット・レポートに渡されます。

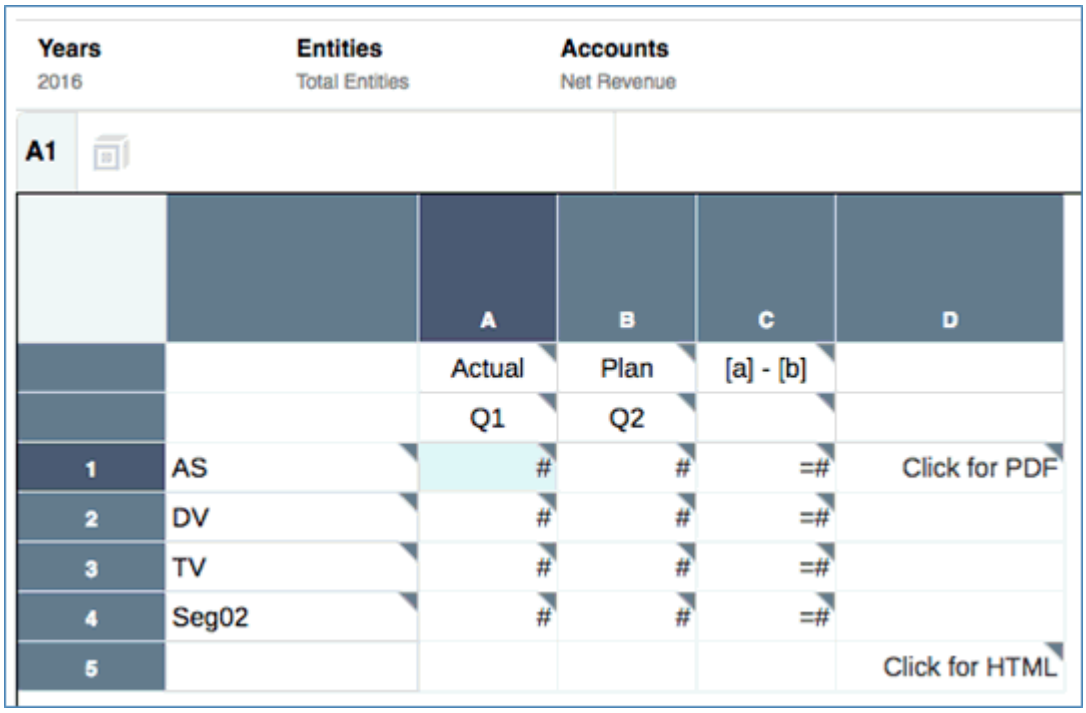
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - ソース・レポートからのディメンションがターゲット・レポートのグローバル POV にない場合、渡された POV 選択は使用されません。
  - ソース・レポート・ディメンションが存在しても、渡された POV メンバーが存在しない場合は、無効なメンバー検証を示すメッセージが表示され、レポート結果は表示されません。
- POV メンバー選択がターゲット・レポート定義に定義されているとおり有効かどうかに関係なく、渡された POV コンテキストはターゲット・レポート POV に適用されます。たとえば、ソース・ターゲットの POV コンテキストに"通貨" = *USD* がある場合は、ターゲット・レポートの定義で *USD* が POV ディメンション通貨の有効な選択でない場合も、ターゲット・レポートの POV 選択として使用されることになります。

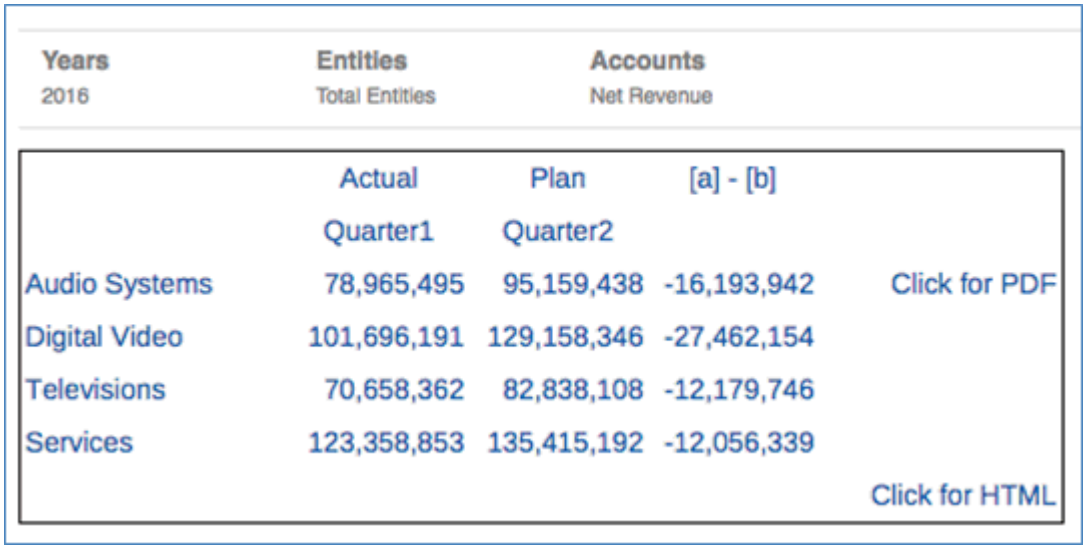
グリッド・セルでのコンテンツへのドリルの結果例

次のレポートは、すべてのセルにコンテンツへのドリルが定義されています。

視点(POV)には年、エンティティおよび勘定科目があり、行 1 から 4 にセグメントがあり、列 A および B に会計カレンダおよびシナリオがあります。列 C は式列で、列 D はテキスト列です。行 5 はテキスト行です。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



次に、コンテンツへのドリルが実行される場所に応じて、ターゲット・レポートに渡される POV コンテキストについて説明します。

- 列 A または B のデータ・セルのいずれかに対してドリルを実行した場合は、すべてのディメンションが含められます。
- 行見出し(Audio Systems、Digital Video、Televisions、Services)でドリルを実行すると、コンテンツへのドリル・リンクに含まれる POV には、会計カレンダおよびシナリオを除くすべてのディメンションが含められます。行見出しをクリックしたときは、対象のメンバーが不明であるため、会計カレンダまたはシナリオ・メンバーを指定できません。
- 式セルでドリルを実行すると、セグメント、勘定科目およびエンティティが含められ、会計カレンダおよびシナリオは含められません。
- 式見出しセル[a] – [b]でドリルを実行すると、POV の年、エンティティおよび勘定科目のみが含められます。
- Click for HTML テキスト・セルでドリルを実行すると、POV の年、エンティティおよび勘定科目のみが含められます。
- Click for PDF テキスト・セルでドリルを実行すると、セグメント、年、エンティティおよび勘定科目が含まれ、会計カレンダおよびシナリオは含められません。

ドリル・スルーとセル・ファイル添付の操作

レポートには、HTML プレビューでレポートまたはグリッドを表示しているときに、ソース・システムにドリル・スルーする機能およびセル・ファイル添付にドリルする機能が備えられています。

レポート設計者による表示が有効化された添付があるデータ・セルにはリンクが表示されます。ユーザーはリンクをクリックして、ソース・システムの詳細データを表示するか、セル・ファイル添付を起動できます。ドリル・スルーまたはファイル添付がレポートで使用可能になるには、次の条件を満たす必要があります。

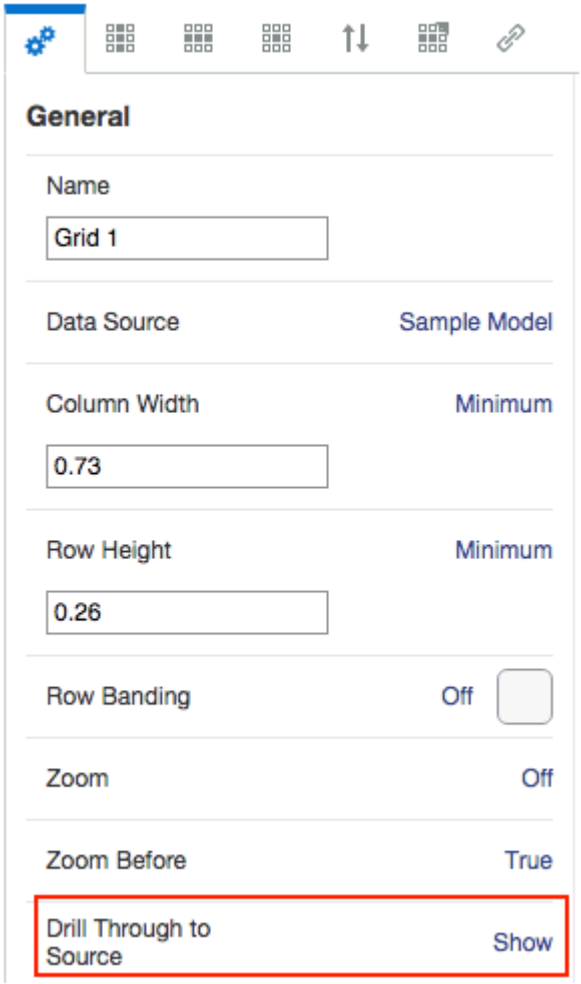
- 基礎となるデータ・ソース(クラウド・データ管理を含む Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ソースまたは Fusion Applications Essbase プロバイダ)でドリル・スルーが定義されている必要があります。
- データ・ソースでセルに Cloud EPM のセル・ファイル添付や Essbase のリンク・レポート・オブジェクト(LRO)などのファイルが添付されている必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> レポート設計者は、グリッド全体または特定のセルに対してドリル・スルーを有効にする必要があります。

グリッドのすべてのセルのドリル・スルー・リンクおよび添付リンクを表示するには(該当する場合):

1. グリッドのプロパティ・パネルの「ソースへのドリル・スルー」の横にある**「表示」**をクリックします
2. これにより、グリッドをプレビューしたとき、または HTML プレビューでレポートをオープンしたときに、ドリル・スルー定義が設定されたグリッド内のすべてのセルの「ソースへのドリル・スルー」リンクが表示されます。

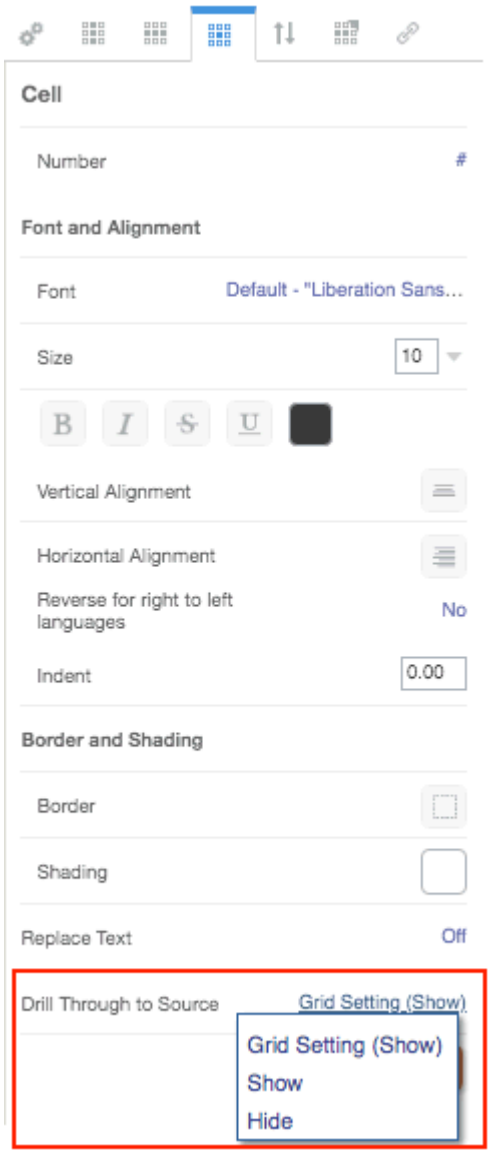


グリッド内の選択したセルのドリル・スルー・リンクおよび添付リンクを表示するには(該当する場合):

1. ドリル・スルーを表示するセルをクリックします。
2. セルのプロパティ・パネルの「ソースへのドリル・スルー」の横にある必要な表示設定を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- グリッド設定(現在のグリッド設定) (デフォルト)。これにより、グリッド全体の現在の設定に表示が設定されます。
- 表示
- 非表示



これにより、グリッドをプレビューしたとき、または HTML プレビューでレポートをオープンしたとき、ドリル・スルーおよび添付が設定されたグリッド内の選択されたセルに「ソースへのドリル・スルー」リンクが表示されます。

有効な交差の操作

次のトピックを参照してください:

- 有効な交差について
- 視点からの有効な交差についての理解

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- グリッド・データでの有効な交差についての理解

有効な交差について

Cloud EPM プラットフォーム・ビジネス・プロセスでは、有効な交差ルールを含めるようアプリケーションを設定できます。たとえば、特定の**製品**が特定の**エンティティ**に対してのみ有効になるよう指定できます。また、有効な交差は、有効な交差ルールが定義されているディメンション間に視点(POV)メンバー・フィルタ処理を提供します。たとえば、**「Entity」**ディメンションでメンバーを選択したときに、**「Product」**ディメンションには、選択した**「Entity」**に対して有効なメンバーしかリストされません。

データ入力フォームで有効な交差を使用すると、ユーザーが表示または入力できるデータを事前定義された有効な交差のデータに限定できます。レポートでは、レポートをプレビューするときに、有効な交差に対して POV メンバー・フィルタ処理が有効になり、グリッド・データには有効な交差のみが表示されます。

> **Note**
>
> - 有効な交差の POV メンバー・フィルタ処理はレポート・グリッドでのみサポートされます。ブックおよびバースティング定義はサポートされていないため、有効な交差の POV メンバーのフィルタ処理は行われません。
> - 有効な交差の POV メンバー・フィルタ処理がサポートされるのは、POV バーでメンバーを選択した場合のみで、プロンプトで POV メンバーを選択した場合はサポートされません。
> - 有効な交差ルール内のメンバー値を持つ**代替変数**および**ユーザー変数**は POV メンバー・フィルタ処理ではサポートされません。

レポートをプレビューするときに POV ディメンションのメンバーを無効なメンバーを含めてすべて表示するには、対象ディメンションの POV ドロップダウン・リストまたは POV メンバー・セレクタで**「無効なメンバーの表示」**を選択します。有効または無効の交差を表示するには、レポート・プレビューでレポートの**「処理」**メニューを使用して、**「有効な交差のみを表示」**プリファレンスを選択または選択解除します。このプリファレンスはデフォルトでは選択されておらず、そのユーザーの同じデータ・ソースに接続するすべてのレポートに適用されます。

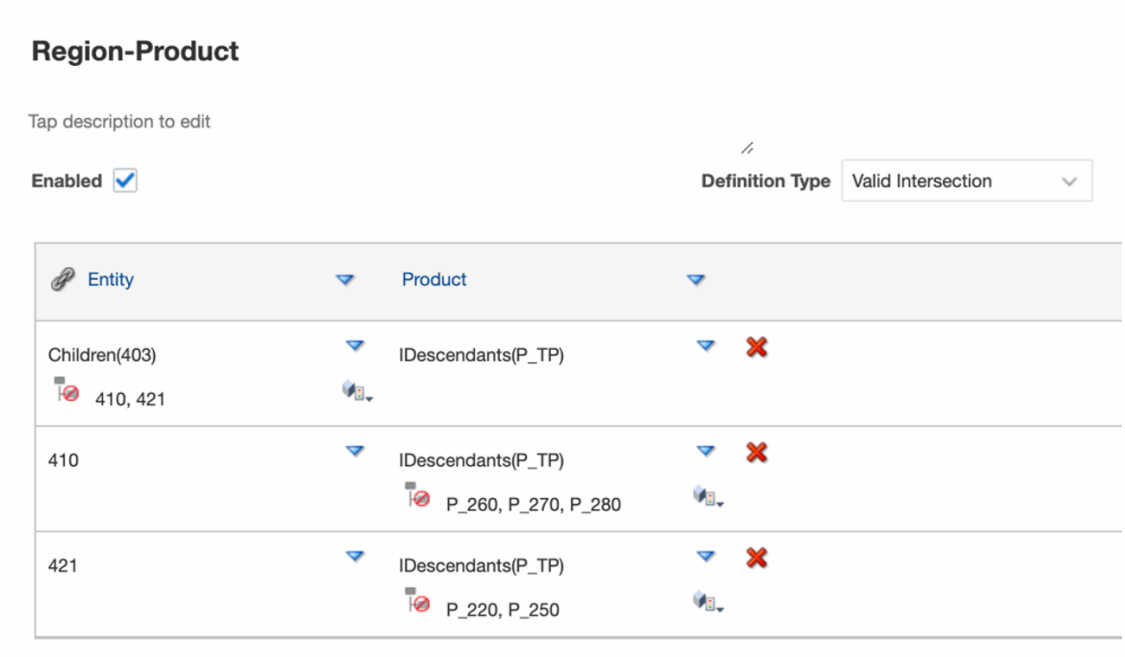
> **Note**
>
> - 有効な交差の POV メンバー・フィルタ処理では追加の処理が発生するため、有効な交差を有効にして POV にアクセスするとパフォーマンスに影響することがあります。有効な交差ルール内のディメンションの数および定義されているルールの数によってはパフォーマンスに影響が生じることがあります。
> - 有効な交差ルールをメンバー数が 25,000 を超える POV ディメンションに対して作成し、**「有効な交差のみを表示」**を有効にした場合、メンバー・セレクタで有効なメンバーが、階層表示ではなくフラット・リストとしてレポートに表示されます。

- 次の 2 つの項では、POV メンバー選択での有効な交差の操作およびレポート内のデータの操作について説明します:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - 視点からの有効な交差についての理解
  - グリッド・データでの有効な交差についての理解
- この例では、Cloud EPM ビジネス・プロセス・アプリケーションに次のように有効な交差ルールが設定されています。有効な交差ルールは有効な交差ルールの例を示しています。
- 「Entity」ディメンションで**「403: Sales」**メンバーが選択されているときに、「Product」ディメンション内のすべての製品が選択可能になります。
- 「Entity」ディメンションで**「410: International Sales」**メンバーが選択されているときに、**「P_260: Game」**、**「P_270: Camera」**および**「P_280: Television」**は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。
- 「Entity」ディメンションで**「421: Sales North East」**メンバーが選択されているときに、メンバー**「P_220: Software Suite」**および**「P_250: Network Card」**は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。

有効な交差ルール



Related Topics

- 視点からの有効な交差についての理解
- グリッド・データでの有効な交差についての理解

視点からの有効な交差についての理解

この例では、**「Entity」**ディメンションと**「Product」**ディメンションのメンバーを選択し、有効な交差ルールの範囲内でレポートの POV を変更します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> この例で使用されている有効な交差ルールは、有効な交差についてを参照してください。

次のグリッド設計には、変更可能な**「Entity」**ディメンションと**「Product」**ディメンションがPOV に含まれており、次が選択されています:

- Entity: **「403: Sales」**、**「410: International Sales」**、**「421: Sales North East」**
- Product:**「Children of P_TP2」**。前述の有効な交差ルールで説明されている **P_2***メンバーが含まれています。

Scenario	Version	Year	HSP_View	Entity	Product
Plan	Working	FY15	BaseData	403,421,410	Children of P_TP2

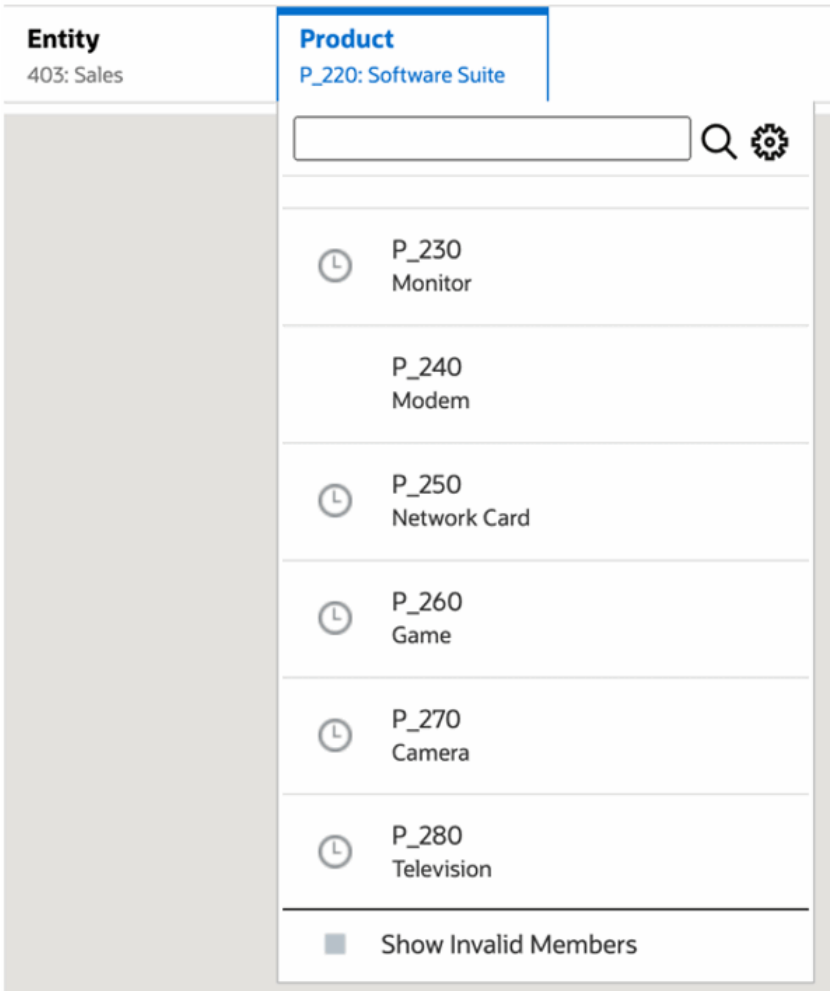
A1

		A	B	C	D
		Q1	Q2	Q3	Q4
1	4001	#	#	#	#
2	5000	#	#	#	#
3	GP	#	#	#	#

有効な交差ルールに従い、次のようになります:

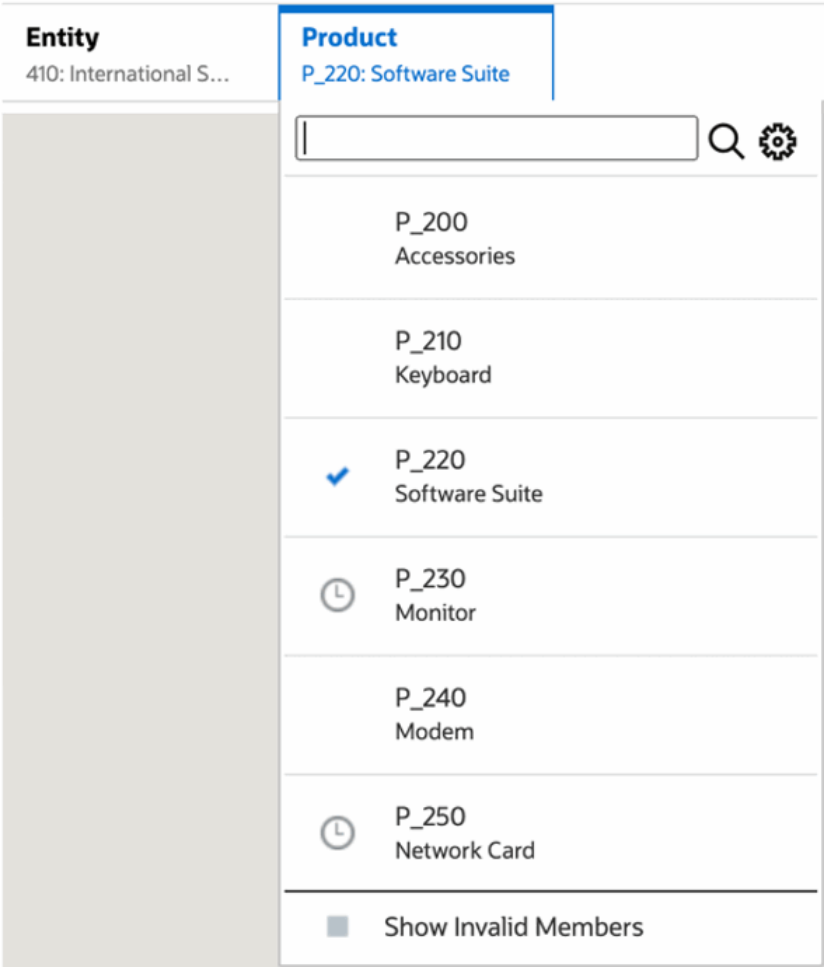
- **「Entity」**ディメンションで**「403: Sales」**メンバーが選択されているときに、**「Product」**ディメンション内のすべての製品が選択可能になります。**「Product」**ディメンションのPOV 選択として**「Children of P_TP2」**が定義されているため、それらのメンバーのみがレポートの実行時に表示されます。例:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



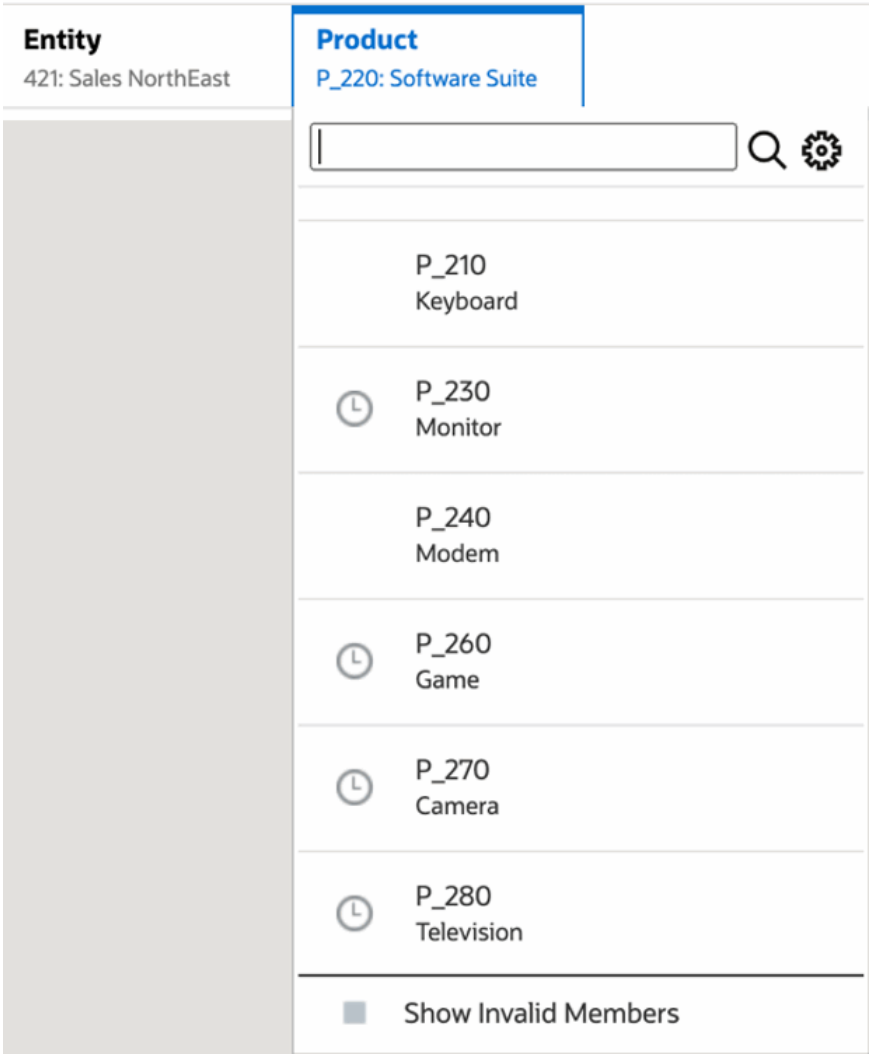
- **「Entity」**ディメンションで**「410: International Sales」**メンバーが選択されているときに、**「P_260: Game」**、**「P_270: Camera」**および**「P_280: Television」**は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。例:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



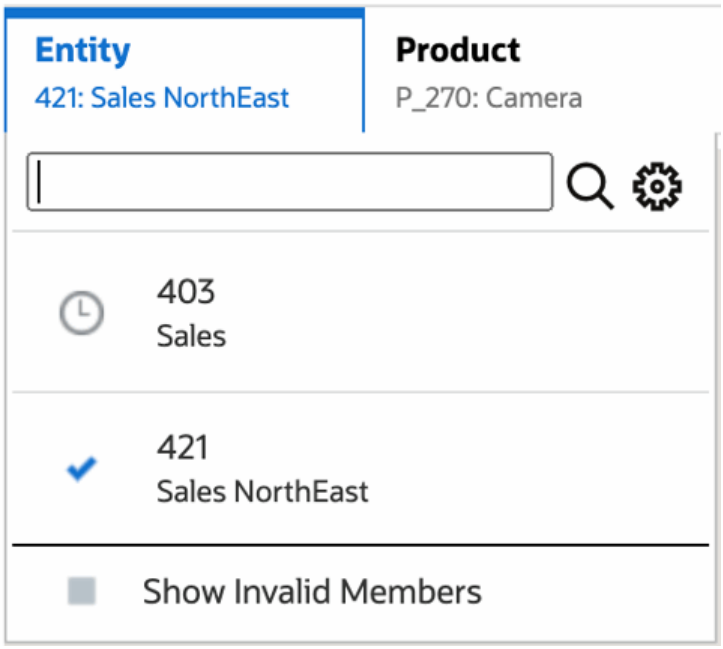
- **「Entity」**ディメンションで**「421: Sales North East」**メンバーが選択されているときに、メンバー**「P_220: Software Suite」**および**「P_250: Network Card」**は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。例:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

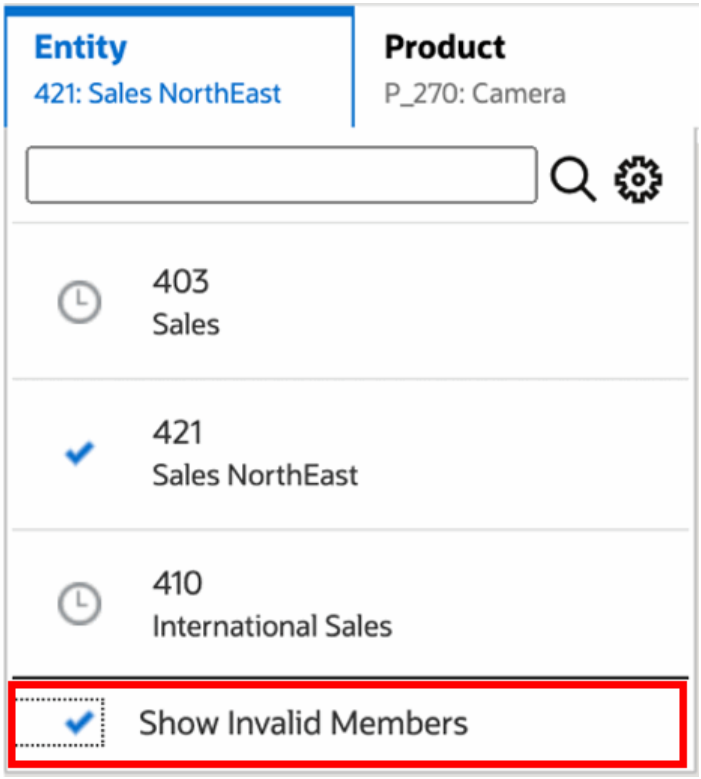


表示中の POV ディメンションでは有効でない別のディメンション内の POV メンバーを選択する際、すべてのメンバーを表示するには、POV リストまたはメンバー・セレクタで**「無効なメンバーの表示」**を選択します。たとえば、**Entity「421: Sales North East」**メンバーと **Product「P_270: Camera」**が選択されているとき、**「Entity」** POV リストに **「410: International Sales」**メンバーは表示されません。同メンバーは **Product「P_270: Camera」**に対して有効ではないためです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

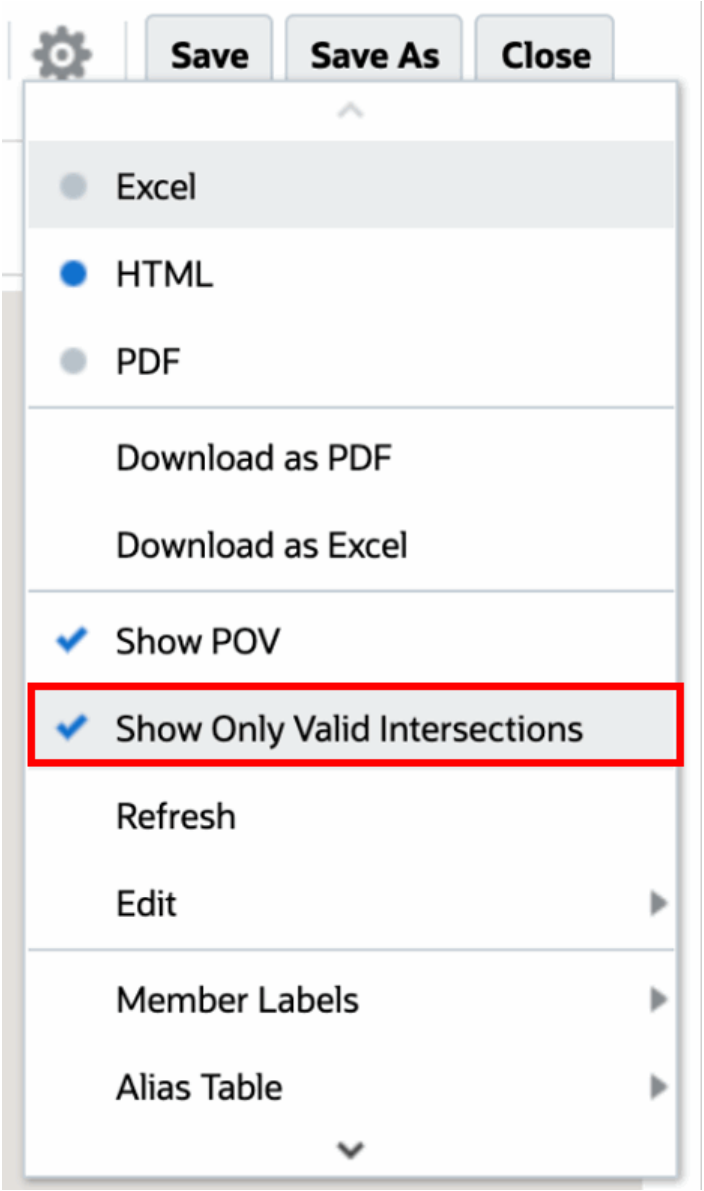


「Entity」リストに**「410: International Sales」**メンバーを表示するには、**「無効なメンバーの表示」**を選択します。



または、**「処理」**メニューを使用してレポートをプレビューしているときに、**「有効な交差のみを表示」**プリファレンスを選択または選択解除して、有効または無効の交差を表示することもできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Note

「**Entity**」ディメンション「**410: International Sales**」と「**Product**」ディメンション「**P_270: Camera**」が選択されている場合、これは無効なデータの組合せであることから、レポートに次のメッセージが表示されます:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



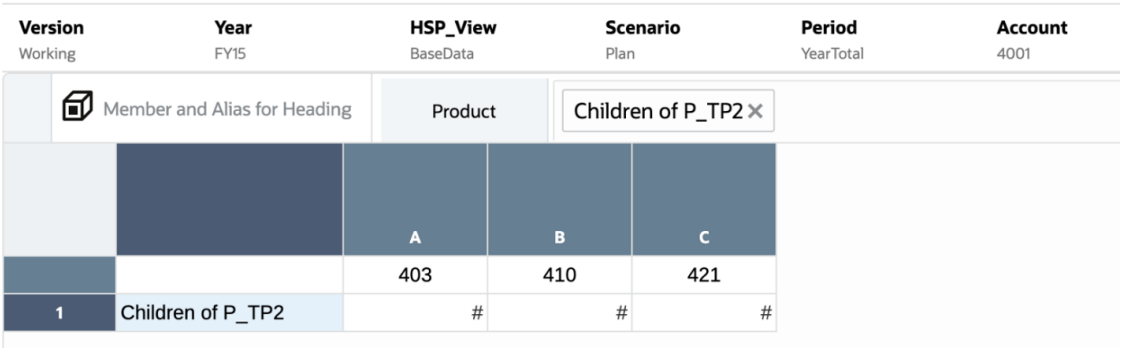
グリッド・データでの有効な交差についての理解

この例は、グリッドに「Entity」および「Product」ディメンションを含むグリッドで、無効なデータの組合せが非表示になる様子を示しています。

> **Note**
>
> この例で使用されている有効な交差ルールは、有効な交差についてを参照してください。

次のグリッド設計の内容は次のとおりです:

- **列**: Entity: **「403: Sales」**、**「410: International Sales」**、**「421: Sales North East」**
- **行**: Product: **「Children of P_TP2」**



グリッドのプレビュー時に無効な交差のデータは#MISSING と表示されます。

- **「403: Sales」**メンバーがある 1 列目では、すべての製品のデータが表示されます。**「403: Sales」**に対してすべての製品が有効であるためです。
- **「410: International Sales」**メンバーがある 2 列目では、一部の製品のデータ(**「P_260: Game」**、**「P_270: Camera」**および**「P_280: Television」**)が#MISSING として表示されます。それらのメンバーは**「410: International Sales」**に対して無効であるためです。
- **「421: Sales North East」**メンバーがある 3 列目では、一部の製品(**「P_220: Software Suite」**および**「P_250: Network Card」**)のデータが#MISSING として表示されます。それらのメンバーは**「421: Sales North East」**に対して無効であるためです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Version	Year	HSP_View	Scenario	Period	Account
Working	FY15	BaseData	Plan	YearTotal	4001

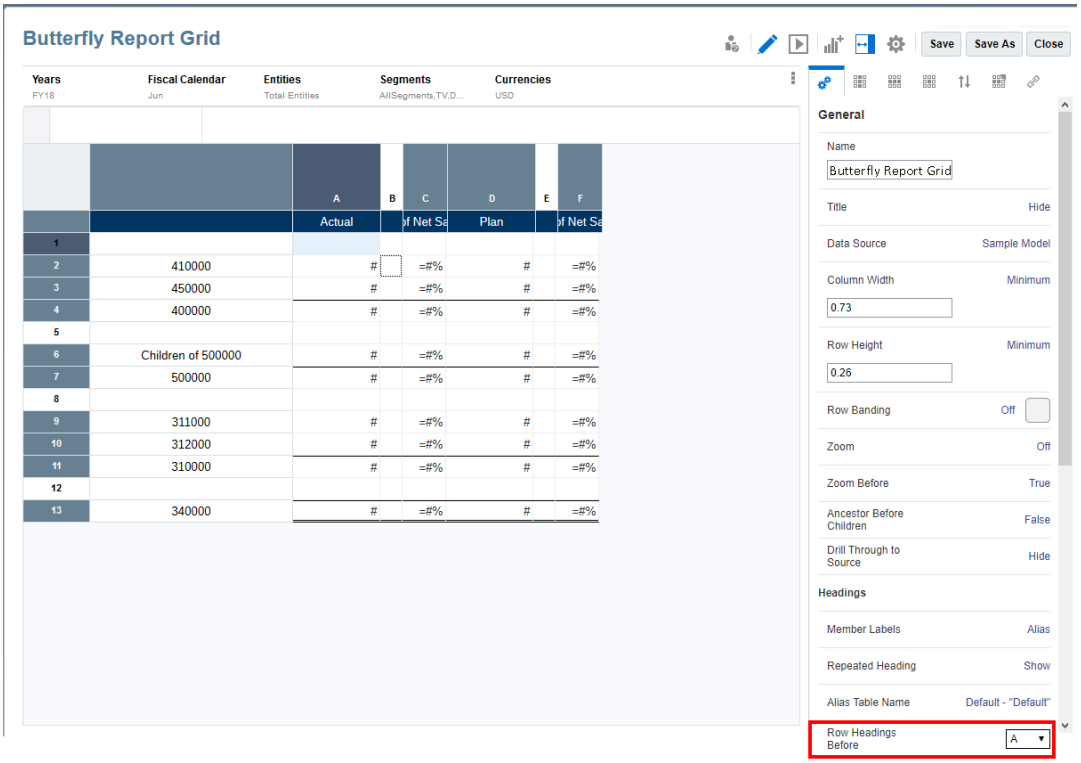
	403: Sales	410: International Sales	421: Sales NorthEast
P_200: Accessories	21,463,426	2,870,809	3,523,947
P_210: Keyboard	13,665,957	2,519,056	1,954,009
P_220: Software Suite	17,865,738	3,016,795	#MISSING
P_230: Monitor	11,902,983	1,991,325	1,735,706
P_240: Modem	27,751,398	2,853,149	5,016,043
P_250: Network Card	6,294,063	1,282,060	#MISSING
P_260: Game	6,943,600	#MISSING	1,534,797
P_270: Camera	3,251,232	#MISSING	462,498
P_280: Television	25,027,563	#MISSING	3,992,870

バタフライ・レポートの操作

グリッドの一般プロパティの**「前に行見出し」**を使用して、2 列の間に行見出しを配置した"バタフライ・レポート"を定義できます。たとえば、4 番目の列(D)を選択して、4 番目の列(D)の前に見出しを配置します。

バタフライ・レポートの書式を表示するには:

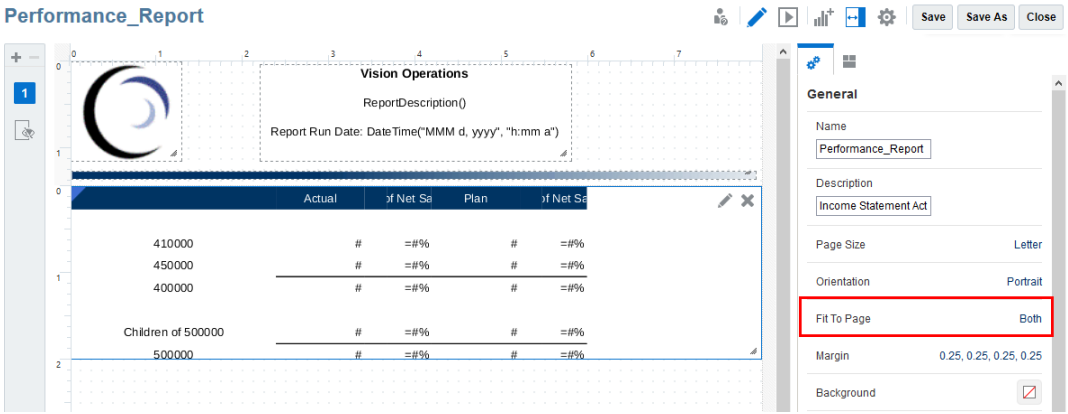
1. **グリッド・デザイナ**で、**「前に行見出し」**オプションを目的の列に設定します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> デフォルトでは、**「前に行見出し」**オプションは**列 A** に設定されます。

2. **レポート・デザイナ**で、レポートの**「ページに合せる」**プロパティを**「幅」**または**「両方」**のいずれかに設定します。



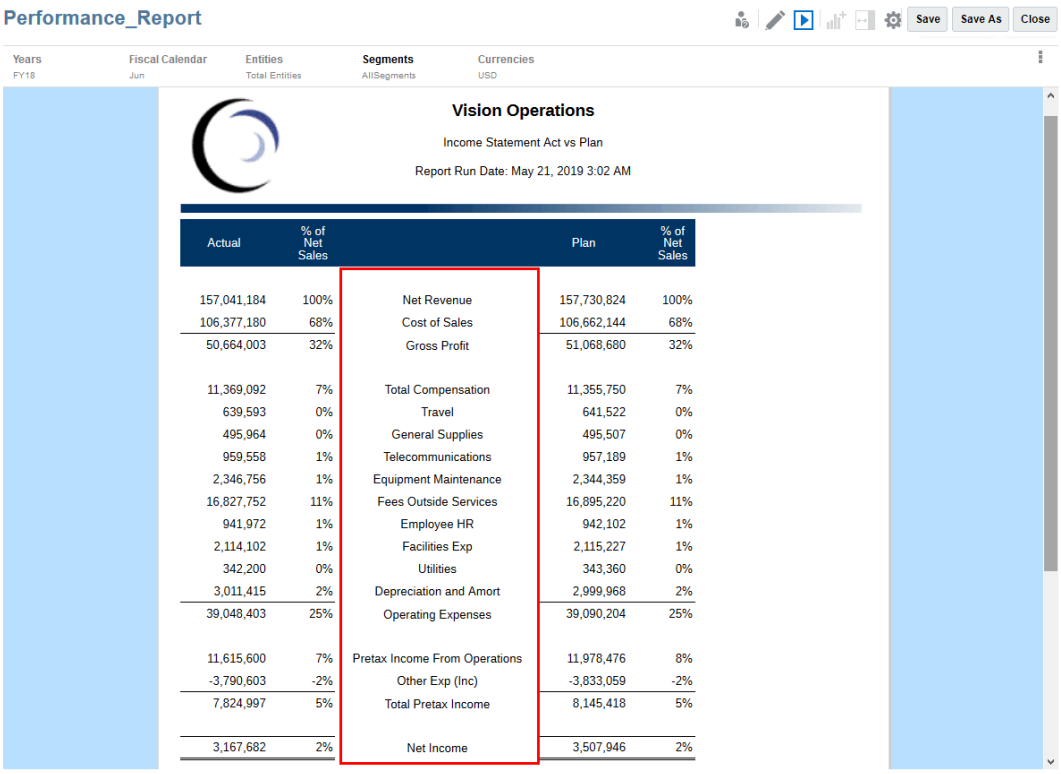
> **ⓘ ノート**
>
> **前に見出し**プロパティが**列 A** 以外に選択されている場合は、レポートの**「ページに合せる」**プロパティを**「幅」**または**「両方」**のいずれかに設定する必要があります。

3. **「レポート・デザイナ」**で、



を選択して"バタフライ・レポート"を表示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Actual	% of Net Sales		Plan	% of Net Sales
157,041,184	100%	Net Revenue	157,730,824	100%
106,377,180	68%	Cost of Sales	106,662,144	68%
50,664,003	32%	Gross Profit	51,068,680	32%
11,369,092	7%	Total Compensation	11,355,750	7%
639,593	0%	Travel	641,522	0%
495,964	0%	General Supplies	495,507	0%
959,558	1%	Telecommunications	957,189	1%
2,346,756	1%	Equipment Maintenance	2,344,359	1%
16,827,752	11%	Fees Outside Services	16,895,220	11%
941,972	1%	Employee HR	942,102	1%
2,114,102	1%	Facilities Exp	2,115,227	1%
342,200	0%	Utilities	343,360	0%
3,011,415	2%	Depreciation and Amort	2,999,968	2%
39,048,403	25%	Operating Expenses	39,090,204	25%
11,615,600	7%	Pretax Income From Operations	11,978,476	8%
-3,790,603	-2%	Other Exp (Inc)	-3,833,059	-2%
7,824,997	5%	Total Pretax Income	8,145,418	5%
3,167,682	2%	Net Income	3,507,946	2%

「子の前に祖先」プロパティの操作

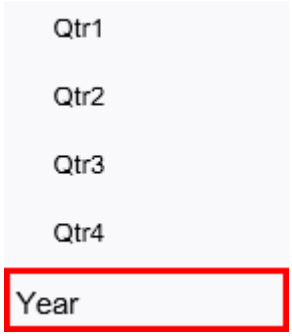
特定のメンバー選択関数を使用するとき、「子の前に祖先」オプションを使用して、子メンバーの後ではなく子メンバーの前に祖先メンバーを表示できます。

たとえば、4 つの四半期(Qtr)メンバーがある「**年**」階層があり、メンバー選択関数は「**Children of Year (Inclusive)**」であるとします。**「子の前に祖先」**を**「True」**に設定すると、グリッドに「**年**」階層は次のように表示されます。



デフォルトでは、**「子の前に祖先」**は**「False」**に設定されています。たとえば、**「子の前に祖先」**を**「False」**に設定すると、グリッドに「**年**」階層は次のように表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



このプロパティでは、次のメンバー選択関数がサポートされています。

- Descendants
- Children
- Bottom
- Ancestors
- Parent
- Match
- Except
- Intersect

ⓘ ノート

- 「**Children**」、「**Descendants**」、「**Bottom**」および「**Parent**」関数の場合: プロパティ設定に応じて、祖先または親メンバーは子の前または後に表示されます。
- 「**Ancestors**」関数の場合: 階層がソートされた状態で表示され、プロパティ設定に応じて、祖先または親メンバーは子の前または後に表示されます。
- 「**Match**」、「**Except**」および「**Intersect**」関数の場合、すべてのメンバーがソートされた状態で表示され、プロパティ設定に応じて、祖先または親メンバーは子の前または後に表示されます。
- このプロパティを「Except」関数または「Intersect」関数とともに使用すると、各関数の最初のプロパティには、個々のメンバー選択ではなく、このプロパティでサポートされている階層ベースのメンバー選択関数(「**Bottom**」、「**Children**」、「**Descendants**」、「**Ancestors**」および「**Parent**」)を含める必要があります。

  例:

  - サポートされる構文: `"Except (Children(Q1), Feb)"`または`"Intersect (Children(Q1), Jan)"`
  - サポートされない構文: `"Intersect (Jan, Feb, Mar, Jan)"`

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

5

表の操作

Related Topics

- 表について
  表は、Cloud EPM システム・レポート用の Cloud EPM ビジネス・プロセス・リレーショナル・スキーマからデータを取得するレポート・オブジェクトです。
- 表の追加
  Cloud EPM リレーショナル・スキーマからデータを取得するには、レポートに表を追加します(エンタープライズ・ライセンスのみ)。
- 視点の定義
  視点(POV)によって、表に取得されるデータが決まります。
- 表の行および列の操作
- 算式バーの使用
- 条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作
- グループ化の操作
- コンテンツへのドリル操作

表について

表は、Cloud EPM システム・レポート用の Cloud EPM ビジネス・プロセス・リレーショナル・スキーマからデータを取得するレポート・オブジェクトです。

表は外部のリレーショナル・データベースに接続できず、レポートは一般的なリレーショナル・レポート・ライターとして機能するものではありません。

レポートに表を追加し、メンバーを選択して、表を書式設定できます。テキスト、ディメンション、メンバーおよび式を使用して表のコンテンツを定義できます。表を非表示にし、レポート出力に表示されないようにできます。たとえば、表をソースとしているチャートを使用し、グリッドに表を表示しない場合は、表を非表示のシートに配置することで非表示にできます。

表の追加

Cloud EPM リレーショナル・スキーマからデータを取得するには、レポートに表を追加します(エンタープライズ・ライセンスのみ)。

レポートに表を追加するには:

1. 次のいずれかを実行します。
   - ツールバーの  をクリックし、**「表」**を選択します。
   - 空白のレポートで、  をクリックします。
2. **「設定表」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. 「ソースの選択」で、表のスキーマを選択します。

> **Note**
>
> 使用可能な表ソースの詳細は、*Cloud EPM システム・レポート・スキーマ・リファレンス・ガイド*の概要を参照してください。

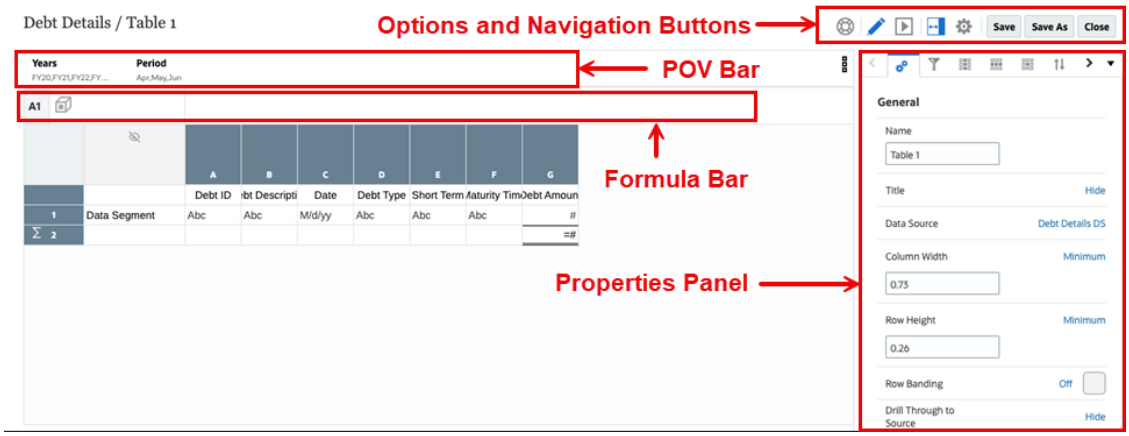
表デザイナに、1 つのデータ行と 1 つの属性列を含む表が表示されます。さらにデータ列、式、テキストおよびセパレータ行を追加できます。表に追加のデータ行は挿入できませんが、追加の式、テキストおよびセパレータ行は追加できます。

新しい表を追加すると、システムによって表にデフォルト名が割り当てられます。割り当てられるデフォルト名は、「表 *n*」で、n はシステムによって割り当てられる識別番号です。たとえば、レポートに保存される、システムによって 6 番目に名前が付けられる表を保存する場合、デフォルト名は「表 6」です。表の名前は、**「表プロパティ」**で変更できます。

システムによって表名が使用されるのは、関数またはチャートで表を参照する場合です。たとえば、表のデータをグラフィカルに表示するチャートを設計する場合は、チャートのプロパティで表をその名前で参照する必要があります。

表デザイナについて

表デザイナには次の領域があります:



- 算式バーでは、算式と関数の作成、およびメンバーの選択ができます。表の式の作成を参照してください。
- プロパティ・パネルには、表、タイトル、フィルタ基準と集約基準、行、列、セルおよびその他のプロパティが表示されます。表プロパティの概要を参照してください。

  ツールバーでは、編集モードとプレビュー・モードの切替えおよび表示オプションの変更ができます。表のツールバーを参照してください。

表プロパティについて

Related Topics

- 表プロパティの概要
  表を編集するとき、プロパティ・パネルで次の表プロパティを使用できます:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 一般プロパティ
- 列のプロパティ
- 行のプロパティ
- 表セルの書式設定
- ソート
- 表のツールバー
- 非表示の表の使用
- 基準の操作
- 書式設定のベスト・プラクティス

表プロパティの概要

表を編集するとき、プロパティ・パネルで次の表プロパティを使用できます:

一般プロパティ

一般プロパティは表全体に影響します。一般プロパティを使用して次のタイプのアイテムを編集します:

- 表のデータ・ソースを参照または変更します
- 表の上に表示されるタイトルを設定します
- 行と列のサイズ設定、行バンディング、ソースのドリルに関する表のデフォルトの動作を定義します。
- メンバーの見出しのプロパティを設定します
- エラー・データのセルのテキスト置換ラベルを定義します

詳細は、表の一般プロパティを参照してください。

フィルタ基準および集約基準プロパティ

基準プロパティは、フィルタ基準と集約基準で構成され、一致した条件、プロンプトまたはPOV選択などに基づいて表データをフィルタできます。詳細は、「基準プロパティ」を参照してください。

列のプロパティ

列のプロパティは列全体に影響します。プロパティを表示する列を選択するには、列ヘッダーをクリックする必要があります。列のプロパティを使用して、列の幅、繰返しの見出しおよびデータ書式設定に対するデフォルトの表設定を上書きします。

詳細は、列のプロパティを参照してください。

行のプロパティ

行のプロパティは行全体に影響します。プロパティを表示する行を選択するには、行ヘッダーをクリックする必要があります。行のプロパティを使用して、行の高さ、繰返しの見出しおよび行バンディングに対するデフォルトの表設定を上書きします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

詳細は、行のプロパティを参照してください。

セルのプロパティ

セルのプロパティは表で選択されたセルの範囲に影響します。セルのプロパティを使用して、セルのテキストの書式設定方法を変更します。たとえば、数値、日時書式を変更したり、セルのテキストのフォント、色およびサイズを変更できます。セルの範囲に境界線またはシェード付けを追加したり、インデント・オプションを指定することができます。また、データ・ソースで添付がある、表内の選択したセルのセルの添付リンクを表示または非表示にできます。表セルの書式設定を参照してください。

ソート

表内の列をソートできます。複数の列のソートを追加し、指定した列のソート順序を変更できます。

詳細は、ソートを参照してください。

条件付きプロパティ

条件付き書式設定、テキストおよび抑制では、定義した条件を満たす表のセルに対して書式設定、テキストまたは抑制を定義できます。条件の操作を参照してください。

コンテンツへのドリル

コンテンツへのドリルでは、エンド・ユーザーがレポート、ライブラリのサード・パーティ文書、およびカスタム URL リンクにドリルできるように、管理者は、グリッドのセル、行、列およびメンバーの見出しセルにコンテンツ・リンクを設定できます。詳細は、コンテンツへのドリルを参照してください

一般プロパティ

一般プロパティは表全体に影響します。一般プロパティを使用して次を編集します。

Table 5-1　表 - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
名前	表名を編集します。ベスト・プラクティスは、レポート内の複数の表をより簡単に識別できるように、表に意味のある名前を付けることです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 5-1　(Cont.) 表 - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
タイトル	表出力の上部に含める表タイトルを指定します(テキストとテキスト関数を含めることができ、列ヘッダーにまたがることができます)。表タイトルには、フォント、境界線およびシェード付けの書式設定も適用できます。関連する書式設定トピックを参照してください。表タイトルに複数の線を追加するには、**[Alt]+[Enter]キー**(Mac では**[Option]+[Enter]**)を使用します。
データ・ソース	表のデータ・ソースを変更します。
列幅/行の高さ	デフォルトの列の幅および行の高さを設定します。
行バンディング	表の代替行にシェード付けを適用します。デフォルトのシェード付けの色を選択できます。表内の既存のシェード付けが設定されている列または行は、行バンディングの影響を受けません。
ソースへのドリル・スルー	ソース・システムにドリル・スルーする機能(ソース・スキーマで定義されている場合)を提供する**「ソースへのドリル・スルー」**を表全体で有効にするには、**「ソースへのドリル・スルー」**を「表示」に設定します。「非表示」に設定されている場合でも、個々のセルは**セル・プロパティ**で有効にできます。
表示オプション	
メンバー・ラベル	行および列の見出しの表示方法を変更します。たとえば、メンバー名、別名または両方を表示できます。 **ノート:** これらの設定は、列または行レベルで上書きできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 5-1　(Cont.) 表 - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
別名表名	デフォルトでは、表ではレポートをプレビューしているときにエンド・ユーザーが選択した別名表が使用されます。ただし、表レベルで別の別名表を選択できます。表の別名表を設定するには、**「別名表名」**を使用します。
テキスト・オプション	
エラー	算式の結果がゼロのセルに対してテキスト置換オプションを設定します。
テキスト文字幅	このプロパティを使用すると、表テキスト・セル内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。
書式	
「日付書式」および「時間書式」	日付を含む表セルの日付および時間書式は**ユーザー・プリファレンス**の日付/時間書式設定から導出されます。日付/時間書式を表に固有の書式で上書きするには、表プロパティの**「日付書式」または「時間書式」**を使用します。この日付/時間書式は、表内のすべての日付/時間セル値に適用されます。表の日付または時間書式を指定しない場合、**ユーザー・プリファレンス**の書式設定が使用されます。
セルのパディング • 水平 • 垂直	垂直および水平のセルのパディングに使用するピクセル数を指定します。デフォルトの数は **5** ピクセルです。 移行された Financial Reporting (セルのパディングがサポートされていない)レポートではこの値がゼロにセットされています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 5-1　(Cont.) 表 - 一般プロパティ

プロパティ名	摘要
グループ化 • グループ改ページ • グループ内の改ページなし	PDF 書式でレポートをプレビューするときの改ページの処理方法を定義します。
条件式 スケールされた値/丸められた値の使用	条件付き書式設定と抑制、および基本(表、列または行)抑制で表プロパティ**「スケールされた値/丸められた値の使用」**を使用して、条件内でスケーリング済またはスケーリングされていない raw データ値が使用されるかどうかを指定します。 • デフォルトは**「True」**であり、書式設定済およびスケーリング済データ値が条件内で使用されることを意味します。たとえば、データ値 **125,016,551** を含むセルが千でスケーリングされる場合は **125,016** と表示され、**125,016** の値が条件内で使用されます。 • プロパティが**「False」**に設定されている場合、基礎となるスケーリングされていないデータ値が条件内で使用されます。この設定は、表のすべての条件付き書式設定および抑制に適用されます。

列のプロパティ

列のプロパティ

列のプロパティは列全体に影響します。プロパティを表示する列を選択するには、列ヘッダーをクリックする必要があります。列のプロパティを使用して、列の幅、繰返しの見出しおよび抑制設定に対するデフォルトの表設定を上書きします。表設定はブラケット内に表示されます。たとえば、ゼロに対する抑制設定で、**表設定(False)**は、表レベルではゼロ値が抑制されないことを示します。設定をクリックして、選択されている列の抑制設定を**「True」**(常にゼロを抑制)または**「False」**(ゼロを抑制しない)で上書きするか、表のデフォルトを使用します。

列のプロパティを使用して次を編集します:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 5-2　列のプロパティの確認

プロパティ名	摘要
幅	列の幅については、次のいずれかを実行できます。 • デフォルトの表列の幅を使用。 • 固定の列の幅を指定 • 最小の列の幅を指定(幅はデータ・セルの結果コンテンツにあわせてサイズが自動変更されます)。列見出しの場合、列の最小幅は、見出しセルの必要な幅にあわせてサイズ変更する必要があります。
表示	列を**表示**するか**非表示**にします
行見出しの繰返し	**HTML** および **PDF** プレビューの列見出しで、行ヘッダーとデータ列の間にテキストまたはセパレータ列(あるいはその両方)を繰り返し挿入する必要がある場合は、**「繰り返しの見出し」** プロパティを使用できます。有効にした場合(デフォルトで **「繰り返しの見出し」** は **「いいえ」** に設定): • **PDF** プレビューでは、改ページの後、常にこのプロパティが有効化された列が列見出しに含まれます。 • **HTML** プレビューでは、すべての見出し列とともにテキスト列またはセパレータ列が常に挿入されます。 **Note** このプロパティは、列の先頭に表示されるテキストおよびセパレータ列の**列のプロパティ**にのみ適用されます。このプロパティは、1つ以上のデータまたは式列の後に表示されるテキストまたはセパレータ列には、一切適用されません。
前に改ページ	列の前に改ページを挿入します
書式	
数	列の数値の書式を指定します
「日付書式」および「時間書式」	日付を含む表セルの日付および時間書式は**ユーザー・プリファレンス**の日付/時間書式設定から導出されます。日付/時間書式を表に固有の書式で上書きするには、表プロパティの **「日付書式」または「時間書式」** を使用します。この日付/時間書式は、表内のすべての日付/時間セル値に適用されます。表の日付または時間書式を指定しない場合、**ユーザー・プリファレンス**の書式設定が使用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

行のプロパティ

行のプロパティ

行のプロパティは行全体に影響します。プロパティを表示する行を選択するには、行ヘッダーをクリックする必要があります。行のプロパティを使用して、行の高さ、繰返しの見出しおよび抑制設定に対するデフォルトのグリッド設定を上書きします。

行のプロパティを使用して次を編集します:

Table 5-3　行のプロパティの確認

プロパティ名	摘要
高さ	行の高さについては、次のいずれかを実行できます。 • デフォルトのグリッド行の高さを使用 • 固定の行の高さを指定 • 最小の行の高さを指定(高さは結果コンテンツにあわせてサイズが自動変更されます)
表示	行を**表示**するか**非表示**にします
行バンディング	**「行バンディング」**には、設定可能な 3 つのプロパティ設定(「グリッド設定(オフ)」、「オン」、「オフ」)があります。デフォルトは「グリッド設定(オフ)」です。
列見出しの繰返し	**HTML** および **PDF** プレビューの行見出しで、列ヘッダーとデータ行の間にテキスト行またはセパレータ行(あるいはその両方)を繰り返し挿入する必要がある場合は、**「繰り返しの見出し」**プロパティを使用できます。有効にした場合(デフォルトで**「繰り返しの見出し」**は**「いいえ」**に設定): • **PDF** プレビューでは、改ページの後、常にこのプロパティが有効化された行が行見出しに含まれます。 • **HTML** プレビューでは、すべての見出し行とともにテキスト行またはセパレータ行が常に挿入されます。 **Note** このプロパティは、行の先頭に表示されるテキストおよびセパレータ列の**行のプロパティ**にのみ適用されます。このプロパティは、1 つ以上のデータ行または式行の後に表示されるテキスト行またはセパレータ行には、一切適用されません。
前に改ページ	行の前に改ページを挿入します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 5-3　(Cont.) 行のプロパティの確認

プロパティ名	摘要
書式	
数	行の数値の書式を指定します
「日付書式」および「時間書式」	日付を含む表セルの日付および時間書式は**ユーザー・プリファレンス**の日付/時間書式設定から導出されます。日付/時間書式を表に固有の書式で上書きするには、表プロパティの**「日付書式」または「時間書式」**を使用します。この日付/時間書式は、表内のすべての 日付/時間セル値に適用されます。表の日付または時間書式を指定しない場合、**ユーザー・プリファレンス**の書式設定が使用されます。

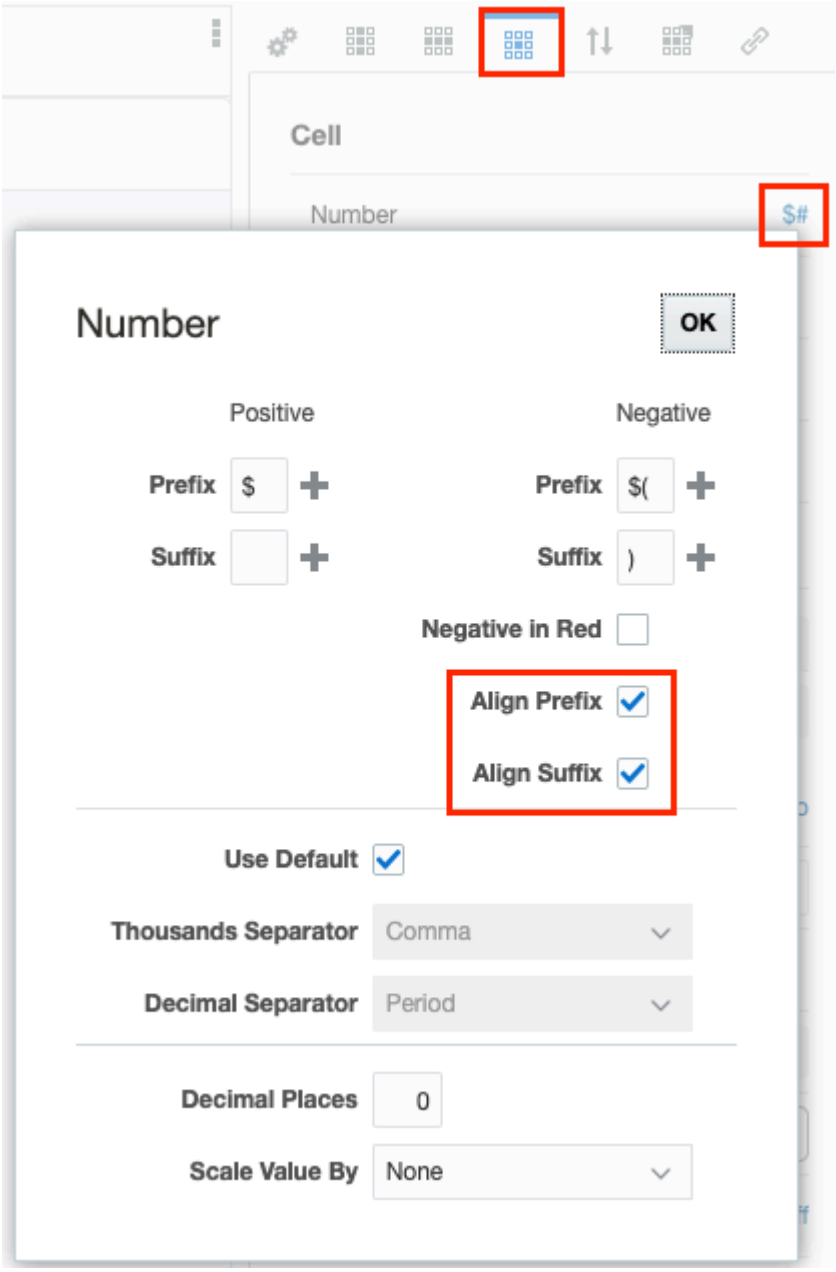
表セルの書式設定

セル・プロパティでは、選択したメンバー・ヘッダー・セルおよびデータ・セルの範囲が表に表示される方法を変更できます。

数値の書式設定

表でデータ・セルを選択すると、プロパティ・パネルに**「数」**プロパティが表示されます。**「#」**をクリックして、数値の書式設定メニューをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



「プリフィクス」および**「サフィクス」**フィールドを使用して、数値の前または後に文字を付加してセルの正数と負数の書式を設定します(通貨記号や負数に対する開きカッコと閉じカッコなど)。数値のプリフィクスまたはサフィクスとなる記号を手動で入力するか、＋をクリックしてリストから通常使用される文字を選択できます。プリフィクスまたはサフィクスとして複数の文字を入力できます(-$など)。また、負数を赤色のテキストで表示することもできます。

「プリフィクスの位置合せ」および**「サフィクスの位置合せ」**チェックボックスを使用して、セルの数値書式設定でプリフィクスおよびサフィクスの記号を位置合せします。これらのプロパティを選択した場合:

- 通貨プリフィクスが各データ・セルの左端に位置合せされます。
- 同じ列の他のセルの数値データ値およびサフィクスが、各データ・セルの右端に位置合せされます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

どちらのプロパティも、デフォルトでは選択解除されています。

「プリフィクスの位置合せ」および「サフィクスの位置合せ」が選択されていない場合:

	Actual	Plan	Variance	Variance %
Net Revenue	$10,506,017	$12,897,445	$(2,391,428)	(19)%
Cost of Sales	7,870,438	9,013,702	1,143,265	13
Gross Profit	$2,635,579	$3,883,742	$(1,248,163)	(32)%

「プリフィクスの位置合せ」および「サフィクスの位置合せ」が選択されている場合:

	Actual	Plan	Variance	Variance %
Net Revenue	$ 10,506,017	$ 12,897,445	$ (2,391,428)	(19)%
Cost of Sales	7,870,438	9,013,702	1,143,265	13
Gross Profit	$ 2,635,579	$ 3,883,742	$ (1,248,163)	(32)%

デフォルトでは、数値セルではユーザー・プリファレンス書式設定の 3 桁区切りおよび小数点記号が使用されます。**「デフォルトを使用」**チェック・ボックスの選択を解除して、3 桁区切りまたは小数点記号を手動で指定します。

> **Note**
>
> 「デフォルトを使用」が選択解除されていて、書式設定の選択が変更されていない場合は、ユーザーの書式設定プリファレンスが引き続き使用されます。

「小数点以下の桁数」および**「スケール値単位」**を使用して、数値のスケールおよび精度を指定します。指定した小数点以下の桁数より桁数が多い数値は、端数処理されて表示されます。

> **Tip**
>
> **「スケール値単位」**では、**「カスタム」**を使用して、リストされていないスケールを指定します。「カスタム」で負の値を追加して、数値の符号を逆にすることもできます。たとえば、正数を負数として表示するには、**「カスタム」**を選択して、スケールに -1 を入力します。**「OK」**をクリックして変更を確定します。

フォントと配置の書式設定

メンバーの見出しとデータ・セルでは、「フォント」および「位置合せ」フィールドを使用して、セル内のテキストのフォント、サイズ、色および配置を変更したり、右から左に記述する言語でテキスト方向を逆にすることができます。また、セルの左側のマージンからのインデントも指定できます。

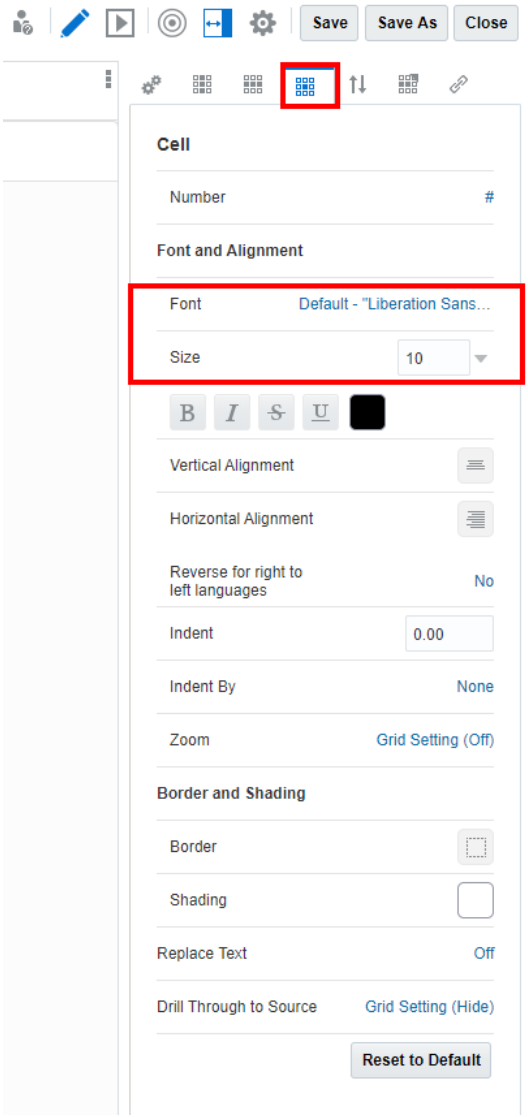
メンバーの見出しを含む(データは含まない)行および列のセルの場合:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「インデント基準」**を使用して、行見出しを 1 単位分インデントします。
- **「相対インデント」**を使用して、メンバー・ラベルのインデントのサイズを調整します。

表セルのフォントを定義するには:

1. 表を編集し、 をクリックします。
2. セル・プロパティ・パネルで、**「フォント」**および**「サイズ」**ドロップダウン・ボックスを使用してフォントを定義します。



次のデフォルト・フォントを使用できます。

- Liberation Sans (Arial)
- Liberation Serif (Times New Roman)
- Liberation Mono (Courier New)
- Albany (日本語)
- Albany (韓国語)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Albany (簡体中国語)
- Albany (繁体中国語)

テキスト・セルについては、ユーザーが**「テキスト文字幅」**プロパティを使用して、表テキスト・セル内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。詳細は、テキスト文字幅プロパティの使用を参照してください。

境界線とシェード付けの書式設定

「境界」で、  をクリックして境界線エディタをオープンします。上、下、左、右またはすべてをクリックして境界線を指定し、ドロップダウン矢印をクリックして境界スタイルを指定します。境界線色をクリックして変更します。色ピッカーから色を選択するか、手動で RGB 値を入力できます。スタイルおよび色を指定するには、境界線(「すべて」など)を有効にする必要があります。**「OK」**をクリックして変更を確定します。

「シェード付け」で、  をクリックして、選択したセルの背景色を指定します。色ピッカーから色を選択するか、手動で RGB 値を入力できます。

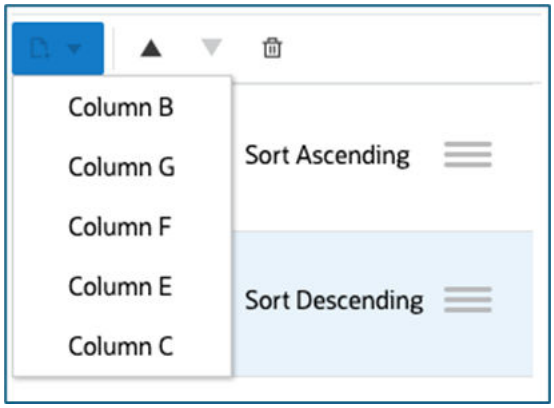
「テキストの置換」を使用すると、選択されたセルのデータ値をテキスト文字列で置換できます。たとえば、機密の財務情報が含まれるセルには「Confidential」と表示できます。入力したテキストは表デザイナおよびすべてのレンダリング済出力に表示されます。

「デフォルトにリセット」をクリックすると、選択したセルのすべてのセル書式設定がデフォルト設定に戻ります。

ソート

ソート

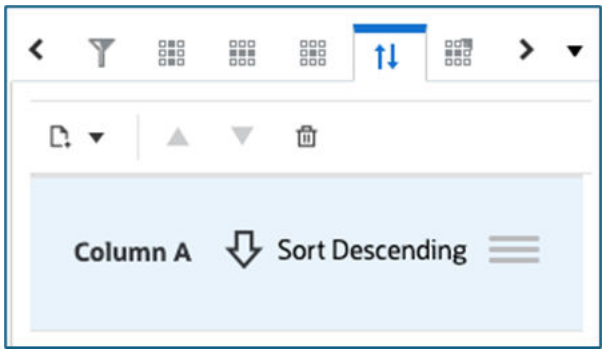
「ソートの追加」をクリックしてソートする列を選択し、表の値をソートします。複数の列のソートを選択できます。上矢印または下矢印をクリックするか、**「ソート順の並替え」** アイコンを上または下にドラッグして、ソート順を並べ替えることもできます。**「削除」** アイコンをクリックして、選択したソートを削除することもできます。最後に、**「昇順ソート」/「降順ソート」**をクリックして、昇順ソートと降順ソートを切り替えることができます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Figure 5-1　ソートの例

次のソート定義では、最初の列(債務 ID)が降順でソートされる方法を確認できます。



Debt ID	Debt Description	Date	Debt Type	Short Term	Maturity Time	Debt Amount
9242902	United Bank short term loan	3/6/23	Intermediate Term Note	Yes	Less than 1 year	190,000
8450333	MKA non secured customized loan	8/14/20	Other Debt	Yes	Less than 1 year	572,500
7938777	Mhele secured special loan	7/9/23	Other Debt	No	Various	15,000
7252340	Paykota speical long term bond	10/21/22	Long Term Bonds	No	Over 5 years	400,000
6229909	Hedge fund non regulated savings bond	4/4/22	Savings Bonds	No	1 to 5 years	25,000
3454440	Janus 505 long term bond	5/12/20	Long Term Bonds	No	Over 5 years	225,000
3452990	Hedge fund non regulated savings bond	12/9/29	Savings Bonds	No	1 to 5 years	2,525,000
3333392	Prudential savings bond	7/9/21	Long Term Bonds	No	1 to 5 years	505,000

表のツールバー

ツールバーでは、次の操作を実行できます。

編集/プレビュー

「編集」および**「プレビュー」**を使用して、編集モードとプレビュー・モードを切り替えます。編集モードでは表を変更でき、プレビュー・モードでは表が公開されたときの表示の様子を確認できます。プレビュー・モードでは、 を使用して POV の表示を切り替えます。

プロパティ

「プロパティ」を使用して、表プロパティ・パネルを表示または非表示にします。

レポート処理

「処理」を使用して、次を行えます:

- 算式バーを表示または非表示にします。
- メンバー・セレクタ表示のメンバー・ラベルに対するデフォルトの表示設定(メンバー名、別名または両方)、およびグローバル POV とローカル POV を設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- すべてのレポートのデフォルト・フォントを選択します。
- チャートのデフォルト色を選択します。
- 名前付き POV を管理します(Narrative Reporting のみ)。
- フォーマット・マネージャでノート・テンプレートおよびノートに対する管理機能を表示および実行し、ノート・テキスト関数で使用するノート・フォーマットを作成および保守します(Narrative Reporting のみ)。

非表示の表の使用

表を非表示にし、レポート出力に表示されないようにできます。たとえば、行式または列式を使用して追加データ・ソースから 1 つの表にデータを収集する場合、ソース・データ表を非表示のシートに配置することで非表示にできます。

既存の表を非表示にするには:

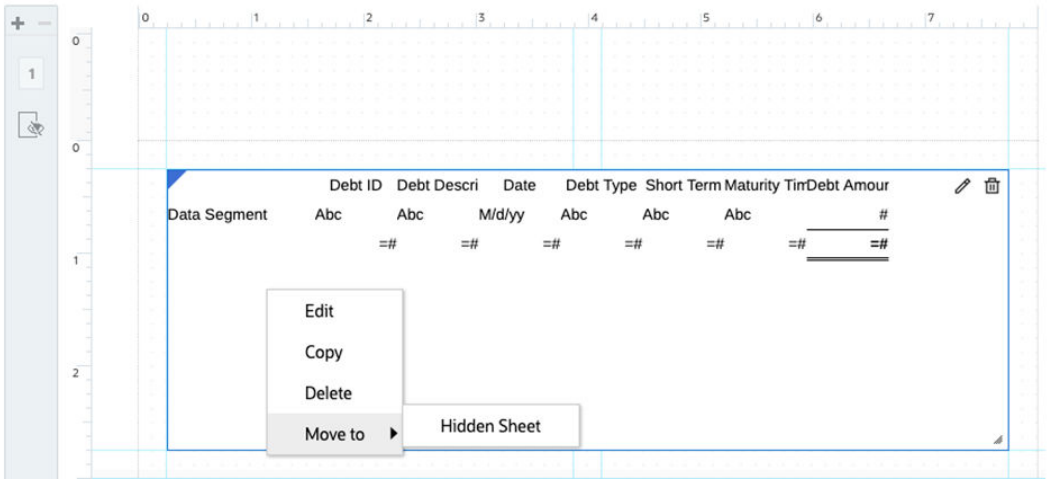
1. **レポート・デザイナ**で、非表示にする表を選択します。
2. 右クリックし、**「移動先」**を選択してから、**「非表示のシート」**を選択します。

非表示の表を新規作成するには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、シート・パネルから  をクリックします。
2. レポートに表を追加するには、「表の追加」のトピックを参照して新しい表を挿入してください。

非表示の表を再表示するには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、シート・パネルから  をクリックします。
2. **「非表示のシート」**で再表示する表を選択してから、右クリックして**「移動先」**を選択し、表を移動するシートを選択します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

基準の操作

Related Topics

- 基準の概要
- 新規基準の作成
- 基準の編集
- 基準の削除
- 表のプロンプトの操作

基準の概要

基準を定義して、結果の表出力をフィルタできます。基準には、次の 2 つのタイプがあります。

- **フィルタ** – SQL WHERE 句に似ています。属性選択でフィルタする場合は、フィルタ基準を使用します。フィルタ基準を使用して、表をフィルタするための POV やプロンプト選択を公開できます。
- **集約** – SQL HAVING 句に似ています。属性の集約(SUM、COUNT、AVG、MAX など)でフィルタする場合は、集約基準を使用します。

新規基準の作成

要件に応じて、行の表示を制御する新しい基準を作成します。

新しい基準を作成するには:

1. ホーム・ページで、**「レポート」**をクリックします。
2. **「新規」**(+)をクリックして新しいレポートを作成します。「無題のレポート」ダイアログが表示されます。
3. 空白のレポートで、  をクリックします。
4. レポート本文で右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**を選択して、**「表」**を選択します。
5. **「設定表」**をクリックします。
6. **「ソースの選択」**で、表のスキーマを選択し、**「OK」**をクリックします。次に、必要な列属性の選択を定義します。
7.  アイコンをクリックし、「フィルタ基準」または「集約基準」を選択します。基準の選択に基づいて、  をクリックします。
8. 「フィルタ基準の編集」または「集約基準の編集」セクションで、データのフィルタに使用する属性および値を選択し、提案された選択リストから複数のグループを指定できます。

   各選択について、次を指定する必要があります:

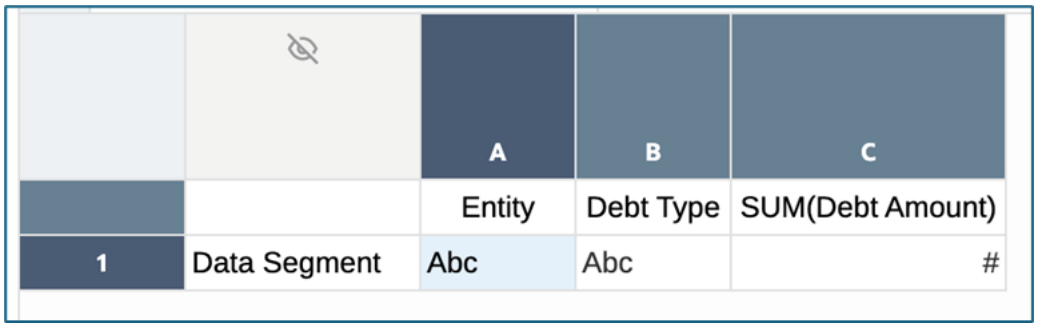
   - 組合せ: 「AND」または「OR」を選択します。これらは、このグループが前の兄弟グループにどのように関連するかを示します。このフィールドは、選択したノードがその親ノードの最初の子でない場合にのみ有効になります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

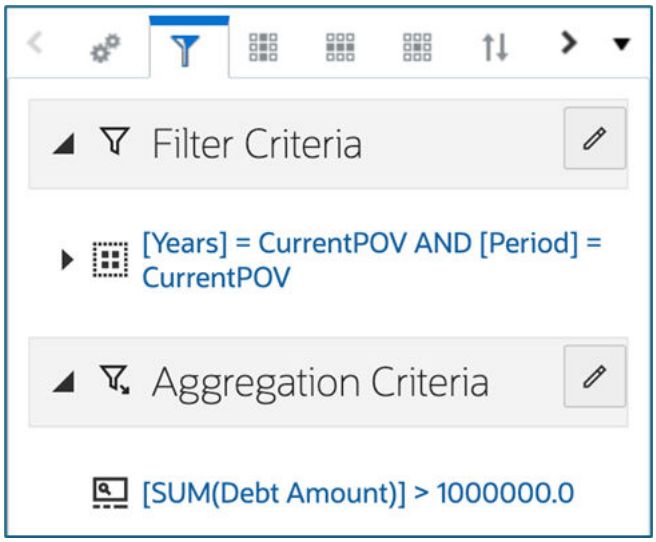
- 属性: 属性は、フィルタがフィルタの結果セットに含める値と比較するフィールドまたは値です。ただし、フィルタの場合、属性はユーザー定義属性のリスト以外のものも示します。
- 演算子: 属性に対して実行する評価の種類を示します。たとえば、「次に含まれる」、「次と等しい」、「次と等しくない」、「次より大きい」、「次より小さい」、「以上」、「次の間にある」、Null である、Null でない、「次と一致する」、次と一致しないなどです。
- 値: 属性と比較する値を指定します。属性のタイプによって、使用できる入力フィールドが決まります。

9. **(オプション)**複数のフィルタ・コンポーネントをリストに追加できます(「子の追加」 、「グループ化を子として追加」 および「兄弟の追加」 など)。
10. **「OK」**をクリックします。基準の詳細が更新されます。

補足データ・マネージャ・スキーマに反して設計された次の表では、次の基準が定義されています:

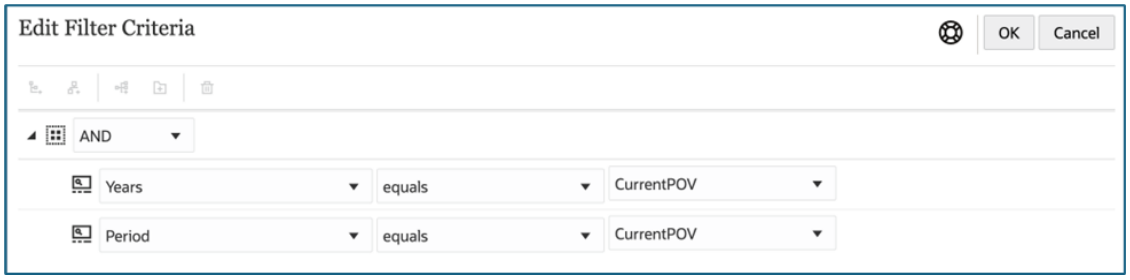


定義されたフィルタ基準および集約基準は次のとおりです:



各基準定義を詳しく見てみましょう:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

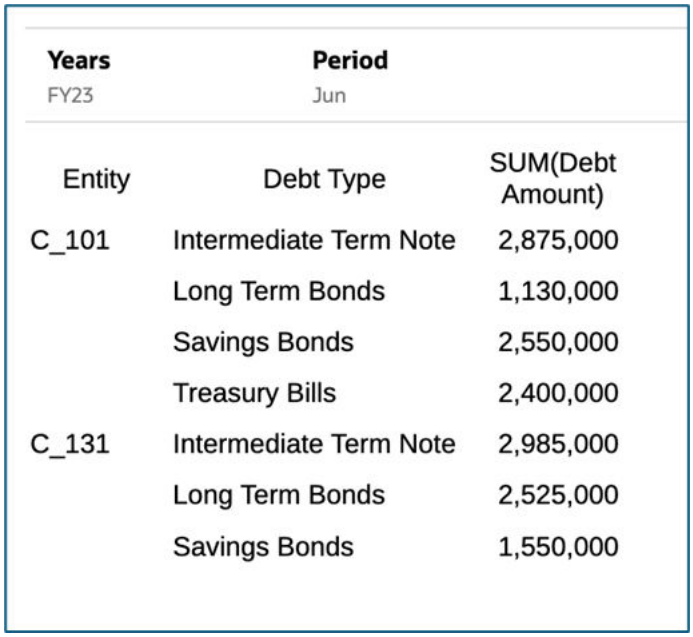


フィルタ基準定義では、**「年」**と**「期間」**の両方が CurrentPOV と等しくなっています。これにより、表が実行されるときにユーザーが選択できるようにこれら 2 つの属性の POV 選択が表示されます。



集約基準は、SUM(借方金額)が 1,000,000 より大きい場合に表をフィルタします。SUM(借方金額)は、表定義の列 C にあります。

結果の表のプレビューは次のとおりです。**「年」**フィルタと**「期間」**フィルタの POV によって表のコンテンツがフィルタされ、SUM(借方金額)には 1,000,000 を超える値のみが表示されることに注意してください。



Years	Period
FY23	Jun

Entity	Debt Type	SUM(Debt Amount)
C_101	Intermediate Term Note	2,875,000
	Long Term Bonds	1,130,000
	Savings Bonds	2,550,000
	Treasury Bills	2,400,000
C_131	Intermediate Term Note	2,985,000
	Long Term Bonds	2,525,000
	Savings Bonds	1,550,000

基準の編集

基準を編集して、その定義を変更します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

フィルタを編集するには:

1. ホーム・ページで、**「レポート」**をクリックします。
2. 編集するレポートを選択し、アイコンをクリックします。**「編集」**を選択します。
3. 「レポート」ページで、編集するフィルタを選択し、  アイコンをクリックします。
4.  アイコンをクリックします。フィルタ基準および集約基準が表示されます。
5. 必要な基準を選択し、  アイコンをクリックします。
6. 必要な情報を更新し、**「OK」**をクリックします。

基準の詳細が更新されます。

基準の削除

基準を削除して、その定義をシステムから除去します。

基準を削除するには:

1. 「フィルタ基準の編集」ページまたは「集約基準の編集」ページで、削除するフィルタを選択します。
2.  アイコンをクリックします。

   基準が削除されます。

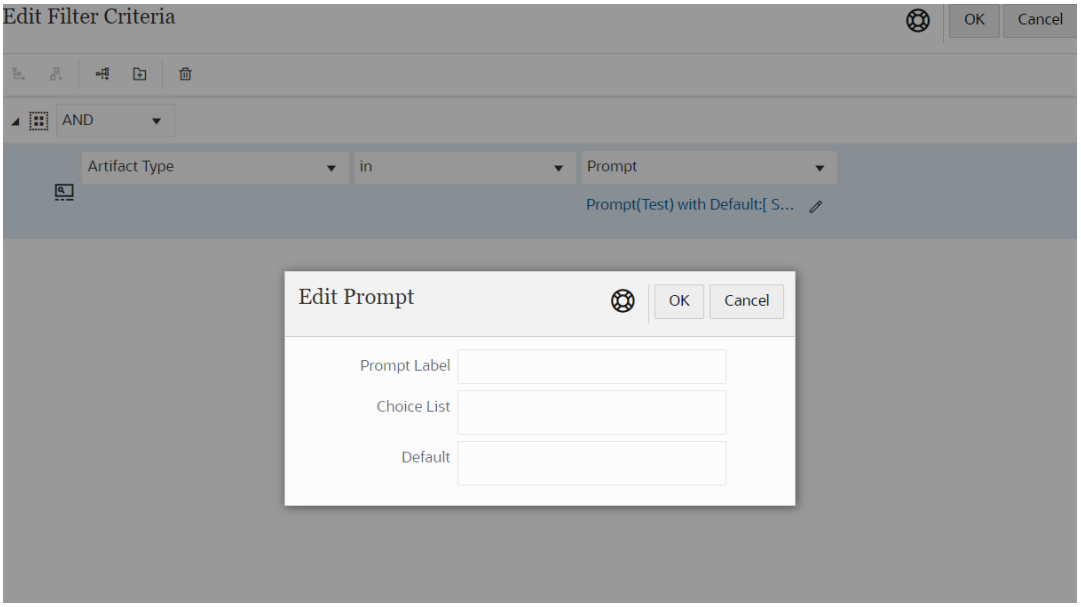
表のプロンプトの操作

プロンプトを使用すると、レポート・ビューアでレポートの実行時に表内のメンバーを選択できます。

プロンプトを定義するには:

1. レポートをオープンし、表を選択します。
2.  アイコンをクリックし、「フィルタ基準」を選択して、  をクリックします。オプションで、表のディメンションを右クリックし、「メンバーの選択」をクリックして、レポートから「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスをオープンすることもできます。
3. 「フィルタ基準の編集」ダイアログ・ボックスで、属性、演算子を選択し、「関数」リストから「プロンプト」を選択します。
4. 提案リストからプロンプトの値を入力するには、  をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



5. プロンプト・ラベルに、ユーザーに対して表示されるプロンプト・テキストを入力します。
6. 「選択リスト」で、ユーザーが選択可能なメンバーを選択します。次の考慮事項があります:
7. (オプション) デフォルト選択で、プロンプトのデフォルトとしてリストされるメンバーを選択します。複数選択を許可が無効になっている場合、デフォルト・メンバーを 1 つのみ選択できます。
8. 「OK」をクリックします。

書式設定のベスト・プラクティス

レポートの書式を設定する場合は、次の点に注意してください。

- セルの書式設定は、行と列の書式設定および表の書式設定より優先されます。
- セルの書式設定を使用して、行と列の書式設定および表の書式設定に対する例外を適用できます。
- 行/列の書式設定は表の書式設定より優先されます。
- 行/列の書式設定を使用して、表の書式設定に対する例外を適用できます。
- レポートの書式を設定する適切な順序は、次のとおりです。
  1. 表の書式を設定します。
  2. 異なる書式設定を行および列に適用します。
  3. 特定のセルに書式設定を適用します。

表のセル、行または列から書式設定をコピーするには:

1. ソースのセル、行または列を選択します。
2. 右クリックして**書式設定のコピー**を選択します。
3. 宛先のセル、行または列を選択します。
4. 右クリックして**書式設定の貼付け**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

視点の定義

視点(POV)によって、表に取得されるデータが決まります。

Related Topics

- 視点について
- 視点の操作
- 視点の設定
- 出力可能なページ・メンバーの表示

視点について

レポートに currentPOV を参照する属性のフィルタ基準を持つ表が含まれている場合は、同じ属性またはディメンション名を持つレポート内のすべてのレポート・オブジェクトに適用されるグローバル視点(POV)が含まれます。また、表には、特定の属性の表固有のローカル視点(POV)を含めることもできます。

詳細は、「新規基準の作成」を参照してください。

視点の操作

デフォルト設定

選択を作成していない場合または POV で属性のオプションを設定していない場合は、レポート編集モードに切り替えると、その属性は**「デフォルト」**に設定されます。

レポートをプレビューするときに、POV に表示される属性を選択できます。より簡便に選択できるように、最近行った選択が表示されます。

複数選択

編集モードでは、属性に対して複数選択を行って、レポート参照者が選択するための選択リストを定義できます。

また、**「提案のみ表示」**を設定し、参照者が選択リストからのみ選択するように制限できます。使用可能な選択のこのリストをプレビュー・モードでプレビューできます。

POV 属性に対して複数の選択が行われた場合は、属性を**「すべての選択の印刷」**に設定できます。レポートを PDF または Excel でプレビューすると、各選択は異なるページまたはシートにレンダリングされます。

> **Note**
>
> **「すべての選択の印刷」**が有効の場合、POV メンバーの固定リストが **PDF** または **Excel** に出力され、これら 2 つの形式のレポート実行時にすべてのメンバーが取得されます。**HTML** プレビューでは、最初の POV 選択のみ取得されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Tip**
>
> POV 属性に複数の選択があり、**「すべての選択の印刷」**が有効である場合、レポートの PDF プレビューには、POV 選択ごとに個別のページが表示されますが、選択名はレポートの PDF 出力に表示されません。属性名を表示するには、AttributeValue または AttributeAlias テキスト関数を使用する必要があります。出力可能なページ・メンバーの表示を参照してください。

ユーザー選択のロックまたは制限

POV 属性の選択を定義する場合は、レポート参照者が選択できる対象を制御します。**「提案のみ表示」**を使用して、レポート参照者が選択できないように選択肢をロックするか、定義した選択肢以外を参照者が選択できるようにします。

POV への複数の表からの属性またはディメンションの組込み

レポート内に同じ属性名またはディメンション名を持つ複数の表がある場合、または表とグリッドの両方がある場合、レポートをプレビューすると、POV 選択が POV バーに組み込まれます。たとえば、最初の表と 2 番目の表に「年」属性に CurrentPOV を含むフィルタ基準がある場合、POV でのユーザーの「年」属性の選択は両方の表に影響します。

> **Note**
>
> 共有属性または共有ディメンション(あるいはその両方)をグローバル POV に組み込んだ場合は、**「提案のみ表示」**を有効にする必要があります。

レポートに異なるデータ・ソースを使用する複数の表がある場合は、レポートをプレビューすると、POV 属性または POV ディメンション(あるいはその両方)は POV バーに組み込まれます。

視点の設定

視点を設定するには:

1. 表デザイナの編集モードで表をオープンします。CurrentPOV を使用して定義されたフィルタ基準を持つ属性が少なくとも 1 つ定義されていることを確認します。詳細は、「新規基準の作成」を参照してください。
2. 表の上部にある POV バーで属性のラベルをクリックし、その属性のセレクタをオープンします。
3. メンバー・セレクタで、属性の横にあるチェック・マークをクリックして、属性の選択を 1 つ以上選択します。

> **Note**
>
> 属性の選択を定義しなかった場合は、**「デフォルト」**が表示され、レポート参照者は、その属性について自分にアクセス権があるメンバーを選択できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4. 属性の POV オプションを設定するには、POV 属性の横にある をクリックし、次のいずれかを選択します。
   - **選択のリセット**—選択を**「デフォルト」**にリセットします。
   - **ディメンションの非表示**—プレビュー・モードで属性を非表示にします。これは、属性の複数選択が定義されていない場合にのみ使用可能になります。
   - **グローバル・ディメンション**—属性をグローバル POV とローカル POV 間で切り替えます。

     > **Note**
     >
     > POV 属性がローカルとして定義されている場合は、HTML プレビューでレポートをプレビューするときに、レポートの上部にあるグローバル POV バーではなく、表の上で POV の選択を行います。PDF プレビューでレポートをプレビューするときは、ローカル POV は表示されません。

   - **提案のみ表示**—レポート参照者が選択できる属性を、POV で指定した属性選択のみに制限します。参照者は、レポート・デザイナによって定義されたもの以外を選択することはできません。
   - **すべての選択の印刷**—**PDF** または **Excel** に出力するときに、属性の各選択を別のページまたはシートにレンダリングします。

     > **Note**
     >
     > このオプションは、複数の POV 選択が定義され、**「提案のみ表示」**が選択されている場合のみ使用可能になります。

5. 残りの POV 属性に対して、選択と POV オプションの設定を必要に応じて続行します。すべての選択を**「デフォルト」**にリセットするには、POV バーの右端にある をクリックし、**「すべてデフォルトにリセット」**を選択します。

出力可能なページ・メンバーの表示

POV ディメンションに複数の選択があり、**「すべての選択の印刷」**が有効である場合、レポートの **PDF** または **Excel** 出力には、POV 選択ごとに個別のページが表示されますが、POV 選択名はレポートの PDF 出力に表示されません。

レポートの POV ディメンションの属性値または別名を表示するには、表タイトル、テキスト・ボックスまたは表テキスト・セルで `AttributeValue` または `AttributeAlias` テキスト関数を使用できます。

表タイトルへの POV 選択の挿入

表タイトルを有効にし、POV 選択を表示するテキスト関数を挿入するには:

1. **表デザイナ**から、**「一般プロパティ」**を選択し、**「タイトル = 表示」**を設定します。タイトル・バーは表の上に表示されます。
2. テキスト・ボックスの右上にある  をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. AttributeValue または AttributeAlias を選択し、必要なパラメータを指定します。パラメータは、複数の選択があり、**「すべての選択の印刷」**が有効になっている POV 属性です。
4. **「選択」**をクリックして、テキスト関数をテキスト・ボックスに追加します。必要に応じて、追加テキストを追加できます。たとえば、"Current Month:"など、テキスト関数の前または後に追加できます。
5.  をクリックして、タイトル・バーのテキストを検証します。
6. **オプション**: テキストおよびタイトル・バーの書式(フォント、位置合せ、シェード付けおよび境界線など)を設定するには、**「一般プロパティ」**パネルの下の**「タイトル」**プロパティの横にある書式  をクリックします。
7. **「クローズ」**をクリックしてレポート設計に戻ります。HTML または PDF でレポートをプレビューすると、POV 選択がレポートのページごとに表の上部に表示されます。

ヘッダーへの POV 選択内容の挿入

POV 選択内容をヘッダーに表示するためのテキスト関数を挿入するには:

1. レポートのヘッダーまたはフッターで右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**を選択した後、**「テキスト」**を選択します。
2.  または**「設定テキスト」**をクリックします。
3. テキスト・ボックスの右上にある  をクリックします。
4. AttributeValue または AttributeAlias を選択し、「表」や「ディメンション」などの必要なパラメータを指定します。ディメンション・パラメータは、複数のメンバーが選択され、**「すべての選択の印刷」**が有効化されている POV ディメンションです。
5. **「選択」**をクリックして、テキスト関数をテキスト・ボックスに追加します。必要に応じて、追加テキストを追加できます。たとえば、"Current Month:"など、テキスト関数の前または後に追加できます。
6. **オプション:** フォントや配置など、テキストの書式をテキスト・ボックス・プロパティ・パネルで設定します。
7. **「クローズ」**をクリックしてレポート設計に戻ります。PDF でレポートをプレビューすると、POV ディメンション・メンバーがレポートのページごとにページ・ヘッダーに表示されます。

表の行および列の操作

様々なタイプの行と列を表に挿入して、コンテンツを編成し、表に追加します:

- 列 - データ、式、テキストおよびセパレータ列を挿入できます。
- 行 – 式、テキストおよびセパレータ行を挿入できます。

> **Note**
>
> 表では追加のデータ行はサポートされていません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

行および列の挿入

データ、式、テキストなどのコンテンツを追加するために、行または列を表に挿入します。行および列のタイプには、次のものがあります。

- **データ**—Cloud EPM リレーショナル・スキーマへのデータベース接続から取得される属性。挿入できるのはデータ列のみで、行は挿入できません。新しいデータ列の属性は、デフォルトで空白選択に設定されます。

  > **Note**
  >
  > データ・セグメントとは、データベースからデータを取得する行または列のことです。展開されるデータ・セグメントとは、展開可能な行または列であるため、結果のグリッドは表示される際に 2 つ以上の行または列に展開されます。

  列の#記号は、それがデータ列であることを示します。

- **式** - 式に基づく値。一般には、データの行または列に対する合計、平均および差異の計算に使用されます。

  セル、行または列の= #記号は、それが式セル、式行または式列であることを示します。

  行番号または列文字を表示する式行または列見出しには、インジケータとして記号  が表示されます。

- **テキスト** - セルに入力されたテキスト、またはテキスト関数を介して動的に返されたテキスト。

  グリッドのテキスト行、テキスト列またはテキスト・セルは、グリッドに追加されるときに記号は挿入されません。テキストが入力されるまで、最初は空白です。

  > **Note**
  >
  > テキスト・セグメントまたはセルでは、上付き文字や下付き文字などの特殊文字はサポートされません。行番号または列文字を表示するテキスト行または列見出しには、インジケータとして記号  が表示されます。

- **セパレータ** - 空白の行または列を挿入します。

  セパレータ行にデータまたはテキストは含まれません。表内で行または列の間の視覚的な分割線として機能します。

表に行または列を挿入するには:

1. 既存の表で、行または列のヘッダーを選択します。
2. 列または行のヘッダー・セルの横にある矢印を右クリックまたはクリックし、**「前に挿入」**または**「後に挿入」**を選択してから、**「データ」**(列のみ)、**「式」**、**「テキスト」**または**「セパレータ」**を選択します。
3. 行または列を移入します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- データ行またはデータ列の場合は、列見出しを右クリックするか、列ヘッダー・セルの横にある矢印をクリックして、列に配置するディメンション・メンバーを選択します。
- 式行または式列の場合は、行または列の見出しを選択し、レポート・デザイナの上部にある算式バーで式を作成します。
- テキスト行またはテキスト列の場合は、テキストまたはテキスト関数を行、列またはセルに直接入力するか、レポート・デザイナの上部にある算式バーに入力します。

行および列のコピー、移動および削除

行および列のコピー、移動および削除では、次の点に注意してください。

- 行または列を移動すると、コンテンツを新しい位置に貼り付けるときにソース行または列は削除されます。
- 行または列をコピーすると、コンテンツを新しい位置に貼り付けるときにソース行または列は保持されます。
- 行または列をコピーまたは移動する場合は、同じ表内にのみ貼り付けることができます。
- 行全体または列全体をコピーまたは移動する必要があります。

> **Note**
>
> 表内のデータ行の削除またはコピーはできず、データ行の移動のみ可能です。

表内で行および列をコピーまたは移動するには、目的の行または列を選択し、右クリックするかヘッダーの下矢印をクリックして、**「コピー」**または**「移動」**を選択します。次に、行または列の移動先の行または列を選択し、右クリックするかヘッダーの下矢印をクリックして、**前に貼付け**または**後に貼付け**を選択します。

行または列を削除するには、目的の行または列を選択し、右クリックするかヘッダーの下矢印をクリックして**「削除」**を選択します。

表セグメント間でのメンバー選択のコピー

表の列セグメントから別のセグメントに、メンバー選択をコピーできます。

セグメント間でメンバー選択をコピーおよび貼付けするには:

1. 列のヘッダー・セグメントを右クリックして、**「コピー」**を選択します。
2. 別のセグメントを選択し、右クリックして**「前に貼付け」**または**「後に貼付け」**を選択します。
3. オプションで、別のセグメントを選択し、必要に応じて**「貼付け」**操作の実行を続行します。

行または列の非表示

レポートを印刷または表示する場合に値が表示されないように、表で行または列を非表示にできます。

ノート:

表のデータおよび計算は、適用されている書式設定に関係なく評価されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表で行または列を非表示にするには:

1. 表デザイナで、行または列を選択します。
2. プロパティ・パネルで、列の場合は 、行の場合は をクリックします。
3. **「表示」**で、**「表示」**をクリックして**「非表示」**に切り替えます。

列のマージおよび分割

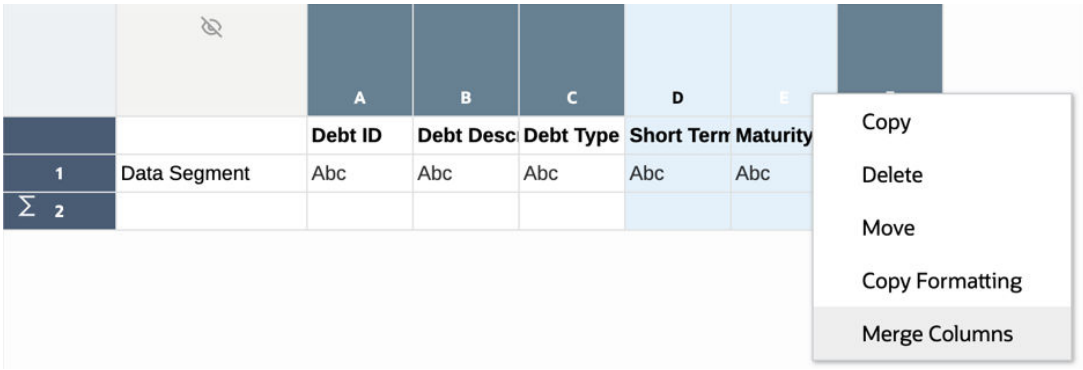
単一のデータ列で複数の選択に分割したり、複数のデータ列を単一のデータ列に結合できます。

列のマージ

列をマージするには、複数の列を選択して右クリックし、**「列のマージ」**を選択します。

たとえば、この図は、列 D に短期属性、列 E に満期時間属性を持つ表を示しています。

Figure 5-2　マージ前



両方の列を選択して右クリックし、**「列のマージ」**を選択します。

Figure 5-3　マージ後

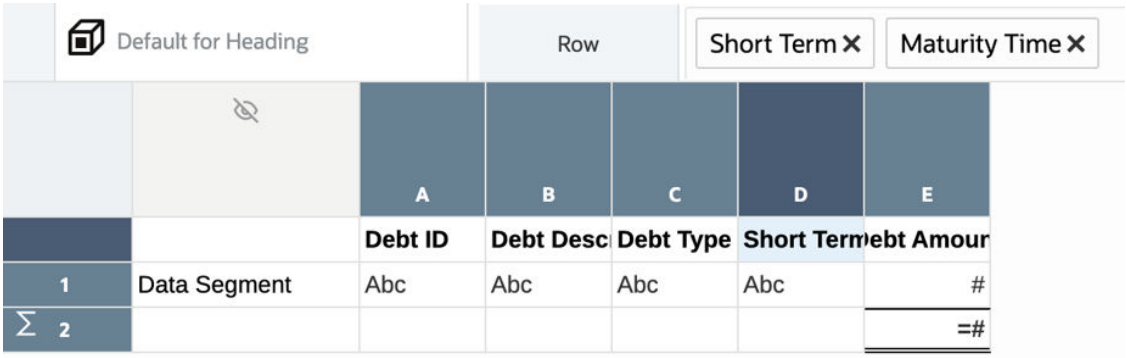


図 4-28 は、短期属性と満期時間属性が単一の列にマージされた様子を示しています。

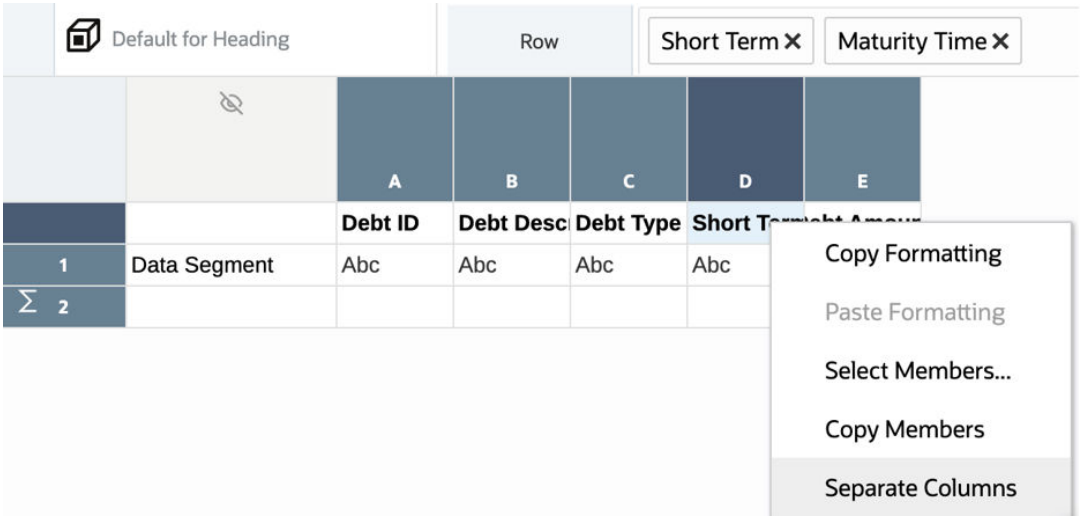
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

列の分割

列を分割するには、列ヘッダーを右クリックし、**「列の分割」**を選択します。

例として、図 4-29 は、短期属性と満期時間属性が単一の列 D にマージされた表を示しています。

Figure 5-4　分割前



列を選択して右クリックし、**「列の分割」**を選択します。

Figure 5-5　分割後

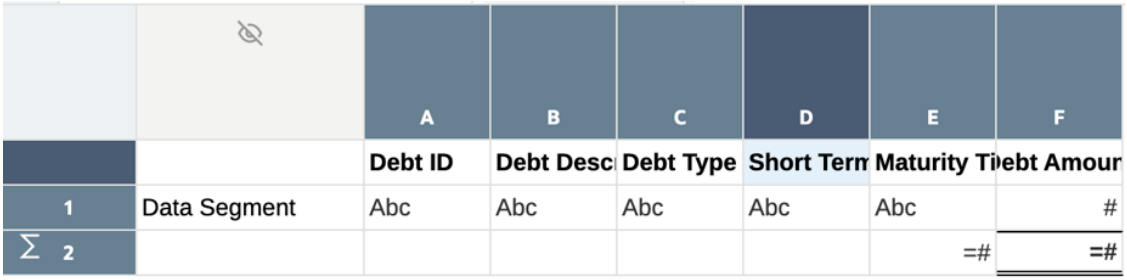


図 4-30 は、短期属性と満期時間属性が 2 つの列に分割された様子を示しています。

行または列の前への改ページの挿入

表で行または列の前に改ページを挿入することで、指定の位置でレポート・データを分割し、必要な明細アイテムをまとめることができます。改ページは太い破線で表されます。

表で行または列の前に改ページを挿入するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. 表デザイナに表が表示された状態で、行または列を選択します。

   レポートの最初の列の前またはレポートの最初の行の上には、改ページを挿入できません。

2. プロパティ・パネルで、列の場合は  、行の場合は  をクリックします。
3. **「前で改ページ」**で、**「いいえ」**をクリックして**「はい」**に切り替えます。

式行および式列の定義

式は、グリッド参照または表参照、算術関数および算術演算子の組合せで構成されます。グリッド参照または表参照では、現在のグリッド/表または別のグリッド/表の値が計算で使用されます。グリッド/表内の式行、式列、式セル、または式セルの範囲で算術式を定義できます。たとえば、1 つ以上の行を加算する算式を作成できます。または、2 つの行を乗算し、3 番目の行を追加してその結果を表示できます。算式で使用できる算術関数の詳細は、算術関数を参照してください。

式行または式列を定義すると、式の結果は 1 つ以上の指定したセルの基礎となるデータ値に基づいて計算されます。算式で使用されるセルがスケールを使用するように書式設定されている場合、算式では基礎となる書式設定されていないデータ値が使用されるため、算式の結果がセルに対して表示されている値と異なる場合があります。

式行または式列の挿入

式行または式列を挿入するには:

1. 行または列を選択し、**前に挿入**または**後に挿入**を選択した後、**「式」**を選択します。

   式行または式列が= #とともに挿入されます。

2. 表デザイナの上部にある算式バーに式を入力するか、  をクリックして算式のリストから選択します。

   算式バーの使用を参照してください。

セル・レベルでの計算

式行または式列内のセルに、カスタムのセル・レベルの算式を作成できます。

図 4-31 は、%差異を表示するように計算されたセルの例を示しています。セル D4 には、1 月の合計と 2 月の合計の%差異、具体的には`((356-350)/350) *100=1.71%`が表示されます。カスタム算式をセル D4 に配置すると、セル・レベルの算式によって目的の結果が返されます。正しい結果を取得するために必要な算式は、`(([B]-[A])/[A])* 100` です。

Figure 5-6　セル・レベルの計算を使用する理由

		A	B	C	D
		Jan	Feb	Var	%Var
1	Cola	100	105	5	5.00%
2	Root Beer	200	203	3	3.00%
3	Grape	50	48	(2)	(4.00%)
4	[1].sum	350	356	6	1.71%

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

セル・レベルで計算するには:

1. 式セルを 1 つまたは複数選択します。
2. レポート・デザイナ上部にある算式バーで、  をクリックして次の処理を実行します。
   - 列または行に対するデフォルトの式を使用するには、**「列式の使用/行式の使用」**を選択します。
   - 独自の算式を作成するには、**「カスタム算式」**を選択します。右側の算式テキスト・ボックスに算式を入力するか、または  をクリックして算式のリストから選択します。

   算式バーの使用を参照してください。

算式バーの使用

算式バーは、レポートで表を設定するときに、式の作成や属性の選択を行う中心的な場所です。

算式バーでは、行または列のタイプに応じて異なる機能が提供されます。

- 式行および式列には、式を入力し、行または列のヘッダー・ラベルを設定します。
- データ列には、メンバーを選択し、行または列のヘッダー・ラベルを設定します。
- テキスト行およびテキスト列には、表に表示するテキストを入力します。

算式バーは、式の機能に簡単にアクセスできるように、POV バーの下に表示されます。

算式の作成

算式を含むセル、列または行を選択すると、そのセルに一意の算式を適用できます。算式を作成する場合は、次の点に注意してください。

- 最適なパフォーマンスのために、可能な場合は常に、セル式ではなく行式または列式を使用してください。
- 可能な場合は、軸間参照は使用せずに、セル参照の使用を検討してください。

算式を作成するには:

1. 表で、式の行または列を挿入し、式セルを選択します。
   算式を列全体または行全体に適用するには、列または行のヘッダー・セルをクリックします。

   行式または列式でセル式を使用する場合、セル式は行および列のみでなく、正確にセル(交差)を参照する必要があります。

   式行または式列の定義を参照してください。
2. 次のいずれかを実行します。
   - 算式を手動で入力します。
   -  をクリックし、ドロップダウン・リストから関数を選択して算式パラメータを入力します。

   関数の使用を参照してください。
3.  をクリックして算式を検証するか、または  をクリックして算式バーをクリアしてやり直します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

算式バーを使用したメンバー選択の変更

表の属性を操作する場合は、算式バーを使用して、属性選択を追加および変更できます。メンバー・セレクタを使用するか、属性を手動で算式バーに入力でき、入力に基づいた一致がオートコンプリートによってリストされます。ドロップダウンに表示された提案のいずれかをクリックして選択できます。

選択をコピーして、同じディメンションの別のヘッダー・セルの算式バーに貼り付けることもできます。

算式バーを使用してメンバー選択を変更するには:

1. 表で、データ列の見出しセルを選択します。
2. 次の 1 つ以上を実行します。
   - **選択の除去**: 表から選択を除去するには、メンバー名の横にある **X** をクリックします。
   - **選択の手動入力**: メンバー名または関数を入力して表に追加します。オートコンプリートを使用して、一致するメンバーまたは関数をリストから選択できます。詳細は算式バーでのオートコンプリートの使用を参照してください。
   - **メンバー・セレクタの使用**: 属性を選択または削除するには、算式バーの  をクリックし、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスを使用します。
   - **選択のコピーおよび貼付け**: 算式バーの選択で右クリックして、「コピー」を選択します。同じディメンションの別のデータ行または列の見出しセルを選択し、算式バーで右クリックして「貼付け」を選択します。

算式バーを使用してメンバー選択を変更する場合、算式バーでは属性の大文字と小文字は区別されません。

算式バーでのオートコンプリートの使用

属性を手動で表の算式バーに入力でき、入力に基づいた一致がオートコンプリートによってリストされます。ドロップダウンに表示された提案のいずれかをクリックして選択できます。

条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作

Related Topics

- 条件の作成
- 条件付き書式設定の例
- 条件付き書式設定、テキストおよび抑制のインジケータとツールチップ
- 条件の管理
- 条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータ
- 条件付きテキストでの分析
- 拡張条件の操作

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

条件の作成

条件付き書式設定、テキストまたは条件付き抑制(あるいはその組合せ)の使用を開始するには、最初に「条件付きプロパティ」パネルで条件を定義します。各タイプの条件付き書式または抑制で使用可能な基準とパラメータの詳細は、条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータを参照してください。

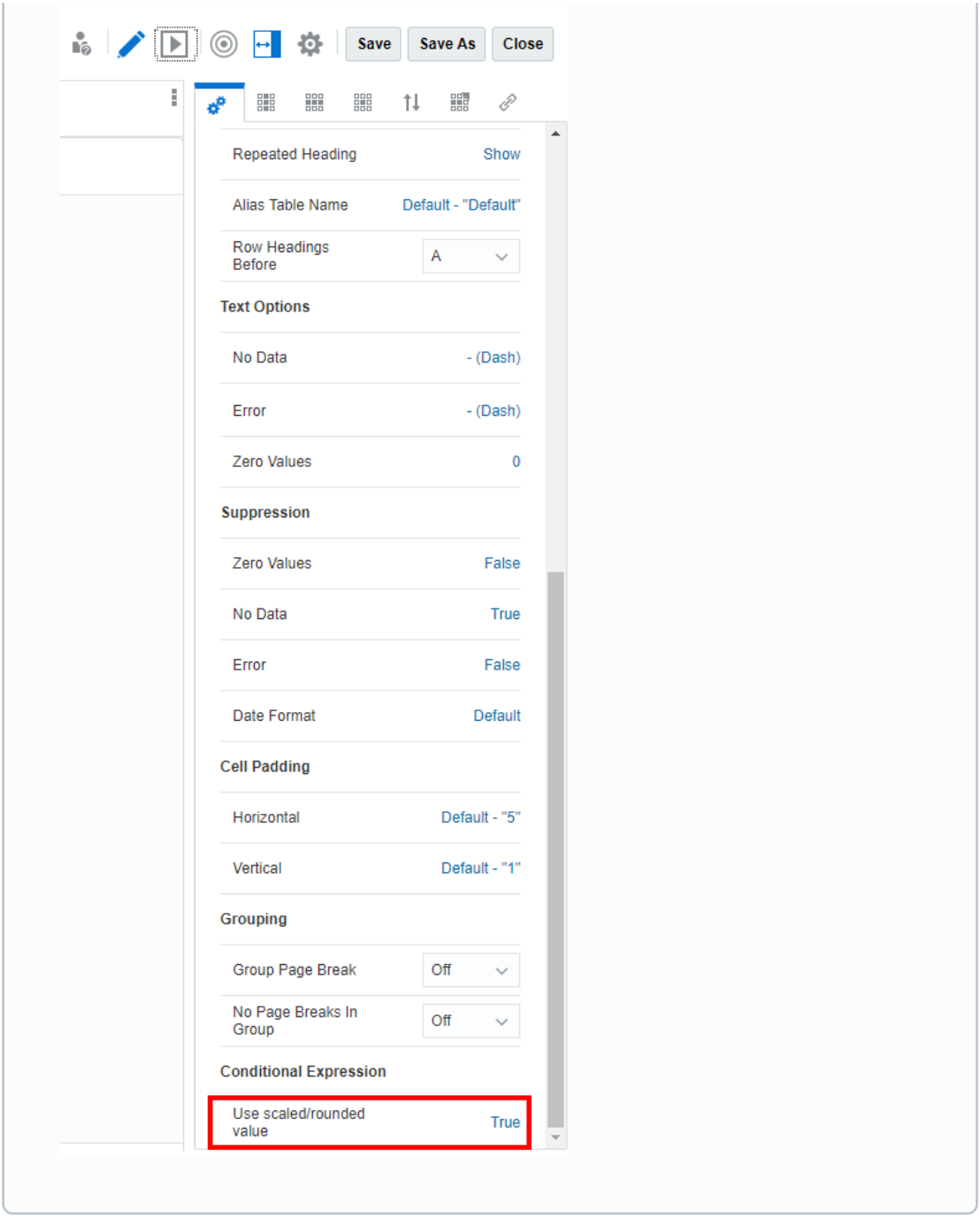
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Note

たとえば、表プロパティの「セル値」、「行の値」、「列値」または「現在のセルの値」などのデータ値をテストする条件を定義するとき、条件付き書式設定および抑制で表プロパティ**「スケールされた値/丸められた値の使用」**を使用して、条件内でスケーリング済またはスケーリングされていない raw データ値が使用されるかどうかを指定します。

- デフォルトは**「True」**であり、書式設定済およびスケーリング済データ値が条件内で使用されることを意味します。たとえば、データ値"125,016,551"を含むセルが千でスケーリングされる場合は"125,016"と表示され、"125,016"の値が条件内で使用されます。
- プロパティが**「False」**に設定されている場合、基礎となるスケーリングされていないデータ値が条件内で使用されます。この設定は、表のすべての条件付き書式設定および抑制に適用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



条件を定義するには:

1. 条件付き書式(セル、行または列)または条件付き抑制(行または列)の追加先になる表の領域を選択します。
2. 表プロパティで、  をクリックします。
3. 次の処理を実行します。
   - 条件付き書式またはテキスト(あるいはその両方)を作成するには、**「書式/テキスト」**をクリックし、  をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 条件付き抑制を作成するには、**「抑制」**をクリックし、 をクリックします。

4. **「名前」**フィールドに、条件付き書式/テキストまたは抑制のわかりやすい名前を入力します。名前は表で一意である必要があります。

> **Note**
>
> **「適用先」**フィールドには何も入力する必要はありません。「適用先」フィールドには、条件を作成した後に、ステップ 1 で指定した表の領域がリストされます。「適用先」フィールドの値を変更して、条件の適用先になる表の領域を変更できます。

5. 式ビルダーで**「属性」**をクリックし、テストする属性を選択します。たとえば、現在のセル値や属性値をテストできます。

   「属性」を選択すると、使用可能なパラメータが反映されて「修飾子」と「演算子」フィールドが変更されます。

6. 該当する場合は、**修飾子**を指定します。たとえば、タイプとして「属性値」を選択した場合は、修飾子としてテストする属性値の名前を入力します。
7. **演算子**を選択します。
   - 数値条件(データ値)の場合は、数値演算子(次と等しい、次と等しくない、次より大きい、次より小さい、など)を使用します。
   - テキスト条件(例: 属性値)の場合は、テキスト演算子(「次で始まる」、「次で終わる」など)を使用します。
8. テストする条件となる**右側の修飾子**を選択または入力します。
   - 数値修飾子の場合は、デリミタおよびマイナス記号(-)を使用できます。その他のプリフィクスおよびサフィクスはすべて 無視されます。
   - テキスト修飾子(属性値など)の場合は、テストするテキスト文字列を手動で入力します。

> **Note**
>
> メンバー・セレクタは式ビルダーで使用できません。

9. **オプション**: 追加の式条件行を挿入するには、 をクリックします。

   AND または **OR** を使用して、条件を組み合せたり区別します。たとえば、「100 以上 AND1000 以下」のデータ値をテストする条件を作成できます。

   式条件行を削除するには、 をクリックします。

10. 書式設定/テキストのみ: 右パネルで:
    - 「書式」タブで、条件の書式(例: フォント・サイズ、境界線、シェード付け)を指定します。**「#」**をクリックして、数値の書式設定メニューをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> 「条件付き書式設定」パネルで書式設定フィールドが変更されていない、または未定義である場合(フォント・スタイル、数値書式設定など)、影響を受ける表セルでは、それらの未定義フィールドについて表セルのプロパティで定義されているセル書式設定が使用されます。条件付き書式設定の未定義フィールドは使用されません。たとえば、「条件付き書式設定」の数値書式設定の下で、負数のプリフィクスとサフィクスが変更されていない、または未定義である場合、影響を受ける表セルでは、表セルのプロパティで定義されている負数のプリフィクスとサフィクスが使用されます。

- 「テキスト」タブで、表示するテキストを定義します。手動で静的に入力したり、

  ボタンを使用して 1 つ以上のテキスト関数を挿入できます。

  を使用して、返されるすべてのテキストに 書式を設定することもできます。テキスト・セルには書式設定が混在したコンテンツは表示できないため、すべてのテキストに 1 つの書式のみを適用できます。

> **Note**
>
> 条件付きテキストの書式設定について:
>
> `ConditionalText` 関数が表セルに挿入されている場合は、条件付きテキストに定義された書式設定によって、表またはレポート出力のセル書式設定が常に上書きされます。
>
> `ConditionalText` 関数がテキスト・ボックスに挿入されている場合は、次のようになります。
>
> - 条件付きテキスト書式ダイアログで、*「デフォルトを使用」*が未選択で、書式が定義されている場合は、テキスト・ボックスの `ConditionalText` 関数で書式設定が定義されていても、レポート出力では、条件付きテキストに定義された書式設定によってテキスト・ボックスの書式設定が上書きされます。
> - 条件付きテキスト書式ダイアログで、*「デフォルトを使用」*が選択されていて、テキスト・ボックスの `ConditionalText` 関数で書式設定が定義されている場合、レポート出力では、テキスト・ボックスの書式設定が使用されます。

条件付き書式/テキスト・パネル上部に、指定した書式またはテキスト(あるいはその両方)のサンプルが表示されます。

11. **オプション**: 式条件行を選択(または複数選択)し、右クリックまたは  を選択して、式条件行をグループ化、削除、複製、または上下に移動します。

    式のグループ化の詳細は、拡張条件の操作を参照してください

12. **「OK」**をクリックして、条件を保存します。

    「条件付きプロパティ」パネルに条件が表示されます。書式の場合はサンプルの書式設定が表示され、テキストの場合はテキスト定義の部分が表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

条件付き書式設定の例

この例では、**「エンタープライズ仕訳リスト」**スキーマに接続された表を使用して、**「ステータス(詳細)」**属性値が**「クローズ済」**の場合は、2 つの列の属性値**「ステータス(詳細)」**および**「策定者」**を強調表示し、10,000,000 以上のデータ値を太字にする条件付き書式を設定します。

図 4-33 に、当初の表を示します。

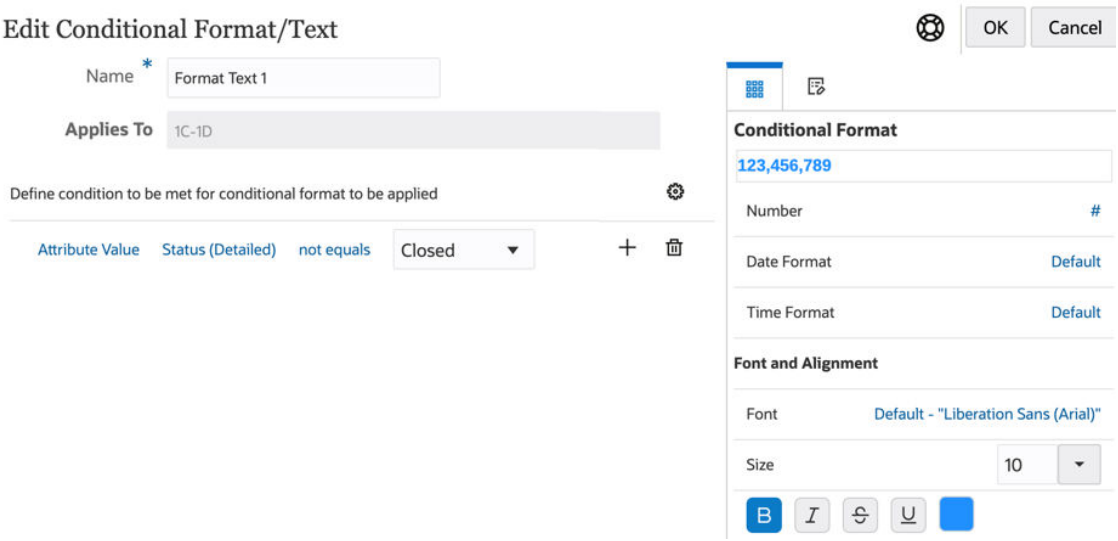
Journal Performance

Journal ID	Journal Name	Status (Detailed)	Preparer	Total Debits	Total Credits
1000000001	MgmtAllocation	With Preparer	Kerry Lane	5,000.00	5,000.00
1000000002	JE_TransferPrice_UK	Closed	Amy Marlin	10,143,852.99	10,143,852.99
1000000003	JE_CommissionsTransfer	Closed	Anita Kennedy	2,500.00	2,500.00
1000000004	TaxProvision	Closed	Kerry Lane	2,212,590.00	2,212,590.00
1000000005	JE_TaxProvision	Closed	Casey Brown	2,212,590.00	2,212,590.00
1000000006	TransferPrice_UK	Closed	Kerry Lane	10,143,852.99	10,143,852.99
			Totals	**24,720,385.98**	**24,720,385.98**

表エディタで、データ行の「ステータス(詳細)」および「策定者」セルを選択し、  をクリックして条件付き書式を作成します。データ行の「借方計」および「貸方計」セルを選択して、このプロセスを繰り返します。

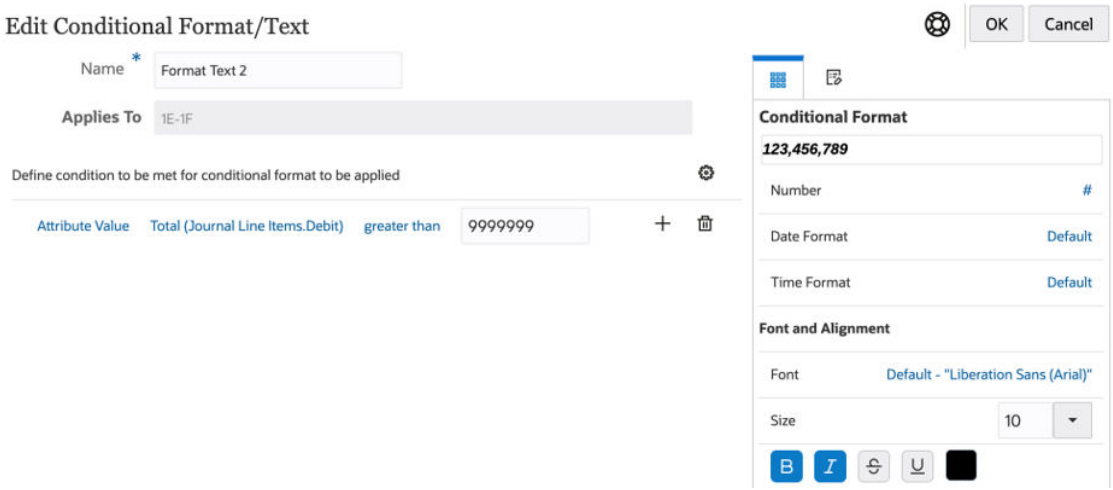
条件の作成の詳細は、条件の作成を参照してください。

「ステータス(詳細)」および「策定者」の条件については、「ステータス(詳細)」の属性値が「クローズ済」と等しくない、およびフォント書式設定が太字でフォント色が青であるという条件付き書式を作成します:



「借方計」および「貸方計」の条件については、合計(仕訳明細アイテム.借方)の属性値が 9999999 より大きい、およびフォント書式設定が太字でイタリックであるという条件付き書式を作成します:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



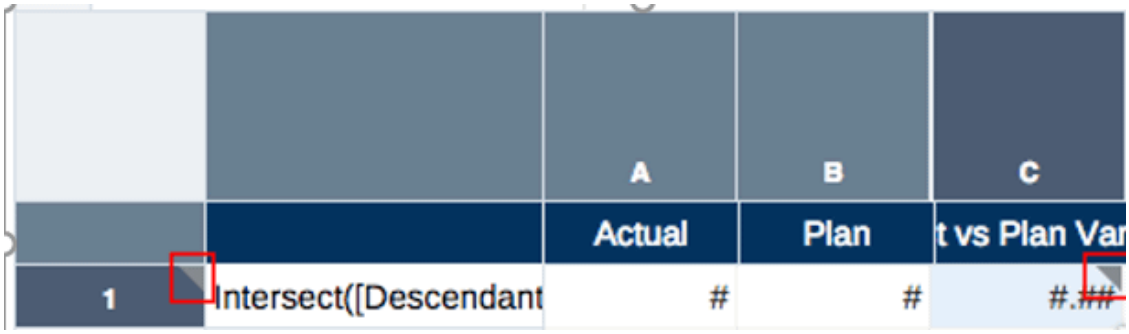
次の図は、両方の条件が適用された最終表を示しています:

Journal Performance

Journal ID	Journal Name	Status (Detailed)	Preparer	Total Debits	Total Credits
1000000001	MgmtAllocation	With Preparer	Kerry Lane	5,000.00	5,000.00
1000000002	JE_TransferPrice_UK	Closed	Amy Marlin	***10,143,852.99***	***10,143,852.99***
1000000003	JE_CommissionsTransfer	Closed	Anita Kennedy	2,500.00	2,500.00
1000000004	TaxProvision	Closed	Kerry Lane	2,212,590.00	2,212,590.00
1000000005	JE_TaxProvision	Closed	Casey Brown	2,212,590.00	2,212,590.00
1000000006	TransferPrice_UK	Closed	Kerry Lane	***10,143,852.99***	***10,143,852.99***
			Totals	**24,720,385.98**	**24,720,385.98**

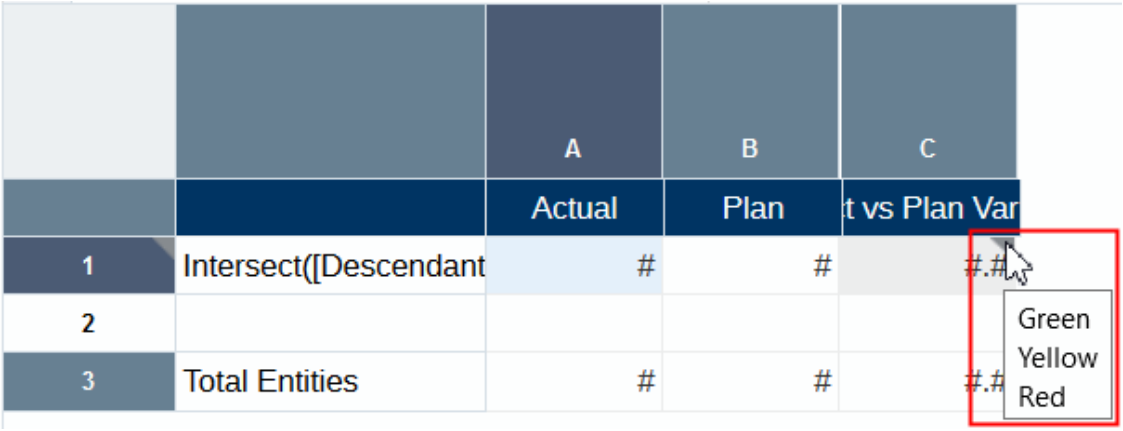
条件付き書式設定、テキストおよび抑制のインジケータとツールチップ

条件付き書式、テキストまたは抑制をセル、行または列に適用すると、行または列ヘッダーあるいはセルの右上隅に灰色の三角形が表示されます。



インジケータの上にマウスを置くと、そのセル、行または列に適用された条件付き書式、テキストまたは抑制のリストがツールチップに表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



条件の管理

条件付き書式設定、テキストまたは抑制を作成した後は、「条件付きプロパティ」パネルで条件を管理します。既存の条件に対して、次の処理を実行できます。

- 表の領域を強調表示して、選択または選択を解除する条件の横にあるチェック・ボックスをクリックし、その領域に対して条件を適用または削除します。たとえば、表の別のセルに既存の書式を適用する場合は、表でそのセルを強調表示し、その領域に適用する条件の横にあるチェック・ボックスをクリックします。

  ノート:

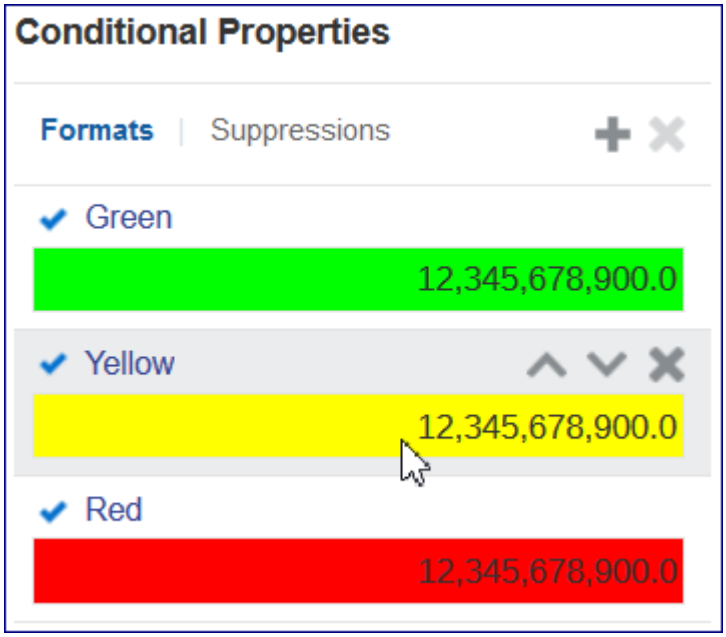
  表の領域には複数の条件付き書式/テキスト(あるいはその両方)を適用できますが、行または列当たりに適用できる抑制条件は 1 つのみです。領域への複数の書式/テキストの適用を参照してください。
- 条件付き書式、テキストまたは抑制の名前をクリックしてその条件を編集します。
- 条件の上にマウスを置き、 または をクリックしてその条件の優先順序を変更します。領域への複数の書式/テキストの適用を参照してください。
- 条件の上にマウスを置き、 をクリックしてその条件を削除します。

領域への複数の書式/テキストの適用

表の選択されている領域に対して、複数の書式を適用できます。条件が重複する場合は、リストの上から下の順に条件付き書式が適用されます。たとえば、図 4-37 は、選択された領域に対してアクティブになっている 3 つの条件付き書式を示しています(3 つの書式すべての 横にチェック・マークが付いています)。この例では、**緑**の書式が**黄**と**赤**より優先され、**黄**の書式は**赤**より優先されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Figure 5-7　複数の書式の例



優先順序を変更するには、条件付き書式の上にマウスを置き、 または をクリックします。

条件付き書式設定、テキストおよび抑制の基準とパラメータ

条件付き書式設定/テキストの基準とパラメータ

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
セル値	指定されたセルのデータ値(数値、テキストまたは日付)	列と行で定義されたセル参照を入力します(例: A,1)。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
行の値	指定された行のデータ値	表内の行リストから行番号を選択します。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
列値	指定された列のデータ値	表内の列リストから列番号を選択します。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
現在のセルの値	現在のセルのデータ値	該当なし	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(データ値を入力) • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
次の場所での位置	複数のメンバーまたはメンバー関数が含まれるデータ・セグメントの最初または最後の行または列。	行または列を選択します	次に等しい 次に等しくない	先頭の行/列または最下部の行/列を選択します。
AttributeValue	セル、行または列に適用する属性値	スキーマの属性リストから属性を選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	スキーマの値リストから属性値を選択します
AttributeAlias	セル、行または列に適用する属性の別名	スキーマの属性リストから属性を選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	属性の別名のテキストを入力します

条件付き抑制の基準とパラメータ

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
セル値	指定されたセルのデータ型に基づき、次のデータ型が可能です。 • 数値 • Date • スマート・リスト • テキスト	列と行で定義されたセル参照を入力します(例: A,1)。	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
行のデータ値	指定された行のデータ値	表内の行リストから行番号を選択します	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
列のデータ値	指定された列のデータ値	表内の列リストから列番号を選択します	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タイプ	定義	参照値	演算子	比較オプション
現在の行/列のデータ値	現在の行または列のデータ値	該当なし	数値および日付型の場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次より大きい • 次より小さい • 次以上 • 次以下 テキスト・タイプの場合: • 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	次のいずれかを選択します。 • 値(数値、テキスト、スマート・リストまたは日付値を入力) **ノート**: テキスト型向けではありません。 • セル値(セル値を入力: 列, 行) • 行の値(行番号を選択) • 列値(列番号を選択) • ゼロ • データなし • エラー • 抑制
AttributeValue	セル、行または列に適用する属性値	スキーマの属性リストから属性を選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	スキーマの値リストから属性値を選択します
AttributeAlias	セル、行または列に適用する属性の別名	スキーマの属性リストから属性を選択します	• 次と等しい • 次と等しくない • 次で始まる • 次で終わる • 次を含む • 次で始まらない • 次で終わらない • 次を含まない	属性ディメンションのテキストを入力します

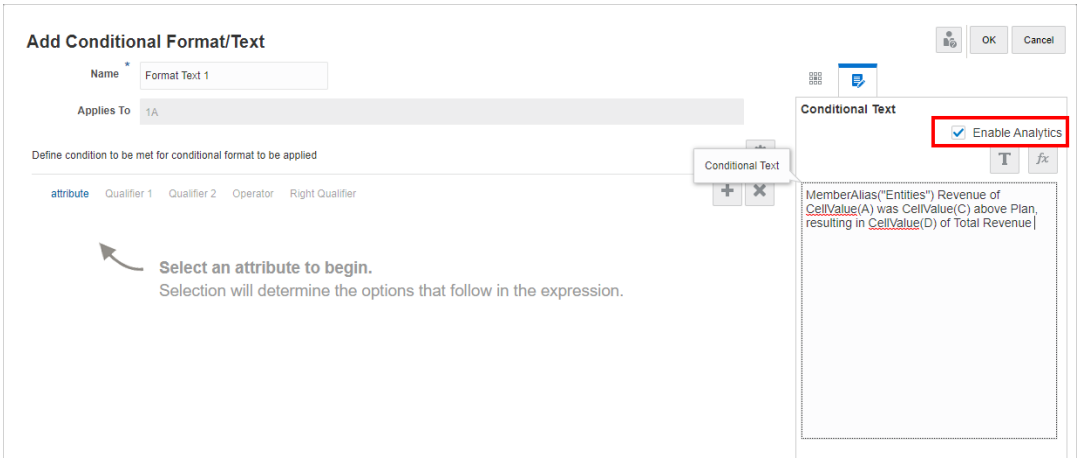
条件付きテキストでの分析

HTML 形式のレポートをプレビューするとき、テキスト・ボックスに条件付きテキストが表示されている場合は、関連するズーム対応表を含む新規ブラウザ・タブにテキストからドリルして、さらに分析を行うことができます。

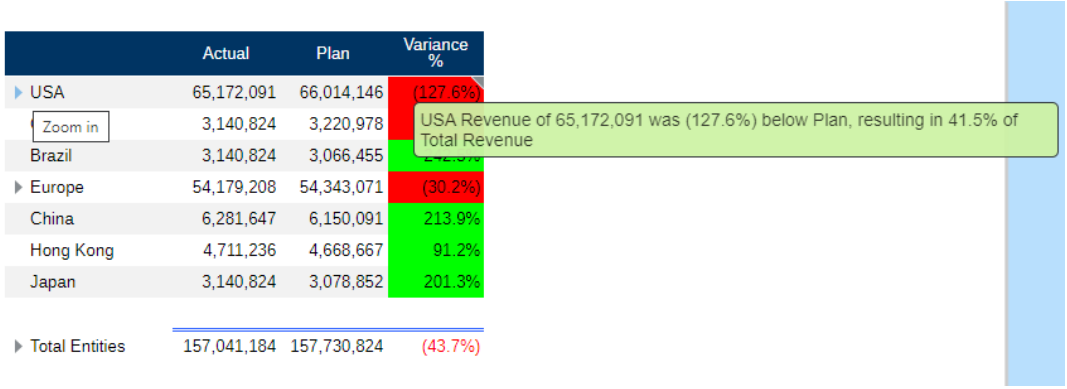
追加情報および考慮事項:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- この機能はデフォルトで HTML プレビューで有効です。テキスト・ボックス内のすべての条件付きテキストは、ハイパーリンクとして表示されます。条件付きテキスト定義の 1 つ以上の条件に対してこの機能を無効にする場合は、**「分析の有効化」**の選択をクリアする必要があります。



- ターゲット表(条件付きテキストが定義されているレポート表)が、表上のすべての親に対してズーム対応する新規ブラウザにオープンします。式やテキスト関数など別の表に対する依存関係がターゲット表にない場合、他のレポート・コンテンツ(チャート、テキスト・ボックス、イメージ、他の表など)は表示されません。この場合、依存表はソース表の下に表示されます。
- ターゲット表では、条件付きテキストが定義されているセルにインジケータが表示されます。ただし、セルの上にマウスを置くと、条件付きテキストに定義されていた元の条件付きテキストが表示されます。



- PDF プレビューでは、ハイパーリンクは表示されず、当初に定義されたテキスト書式が保持されます。
- ソース・レポートの表が非表示の場合でも、ターゲット表には表示されます。
- 表のテキスト・セル内の条件付きテキストではこの機能はサポートされておらず、テキストはハイパーリンクとして表示されません。
- ソース・レポート表でグループ化が有効な場合、ターゲット表ではズームが有効になりません(1 つの表で両方の機能は有効にできません)。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

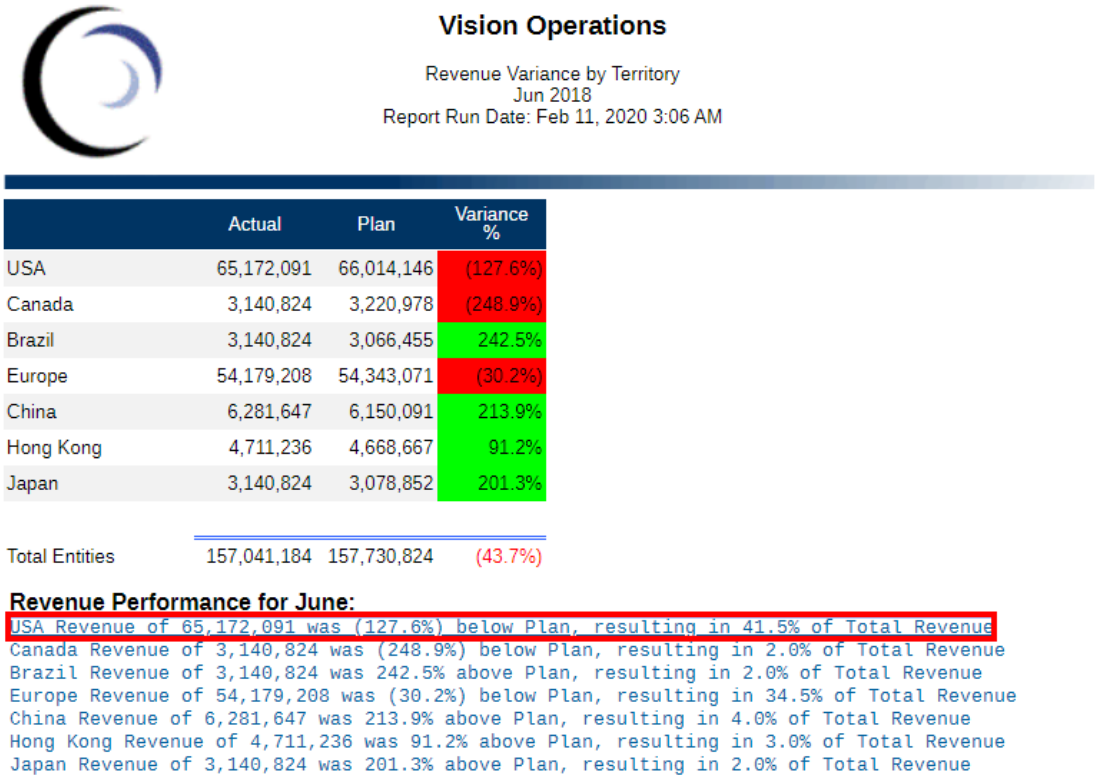
- ターゲット表は、**「処理」**メニューでいくつかの表示プリファレンスが制限されたシン・レポート・ビューアに表示されます。表を編集する機能、または**「スナップショットとして保存」**は使用できません。

  ヘッダーおよびフッター・セクションはターゲット表の HTML プレビューでは非表示であるため、高さは **0** に設定されます。

- ソース・レポートの表で非表示の行または列は、ターゲット表に表示されません。

たとえば、サンプル・レポート 6 (条件付き書式および抑制)を使用すると、テキスト・ボックス内のすべての条件付きテキストはハイパーリンクとして表示されることに注意してください。最初の行のテキスト「**USA Revenue of 65,172,091**」をクリックすると、別のブラウザ・タブにズーム対応表がオープンし、そこで親メンバーをズームして詳細データを表示できます。

ソース・ページ: ハイパーリンクとして表示された条件付きテキスト情報のすべての分析を表示できます。



Vision Operations

Revenue Variance by Territory
Jun 2018
Report Run Date: Feb 11, 2020 3:06 AM

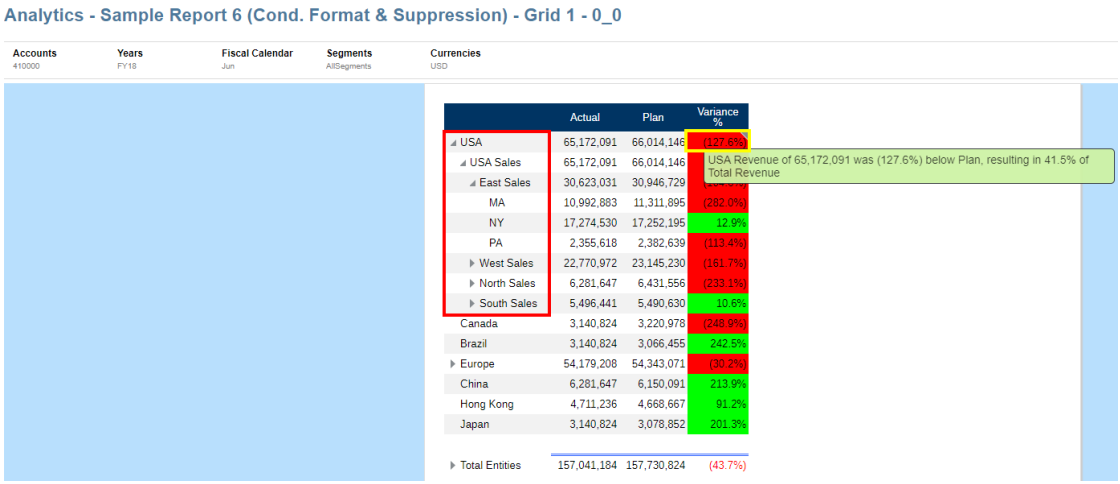
	Actual	Plan	Variance %
USA	65,172,091	66,014,146	(127.6%)
Canada	3,140,824	3,220,978	(248.9%)
Brazil	3,140,824	3,066,455	242.5%
Europe	54,179,208	54,343,071	(30.2%)
China	6,281,647	6,150,091	213.9%
Hong Kong	4,711,236	4,668,667	91.2%
Japan	3,140,824	3,078,852	201.3%
Total Entities	157,041,184	157,730,824	(43.7%)

Revenue Performance for June:

USA Revenue of 65,172,091 was (127.6%) below Plan, resulting in 41.5% of Total Revenue
Canada Revenue of 3,140,824 was (248.9%) below Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue
Brazil Revenue of 3,140,824 was 242.5% above Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue
Europe Revenue of 54,179,208 was (30.2%) below Plan, resulting in 34.5% of Total Revenue
China Revenue of 6,281,647 was 213.9% above Plan, resulting in 4.0% of Total Revenue
Hong Kong Revenue of 4,711,236 was 91.2% above Plan, resulting in 3.0% of Total Revenue
Japan Revenue of 3,140,824 was 201.3% above Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue

ターゲット・ページ: いくつかの行の親メンバーがズームされた状態のターゲット表を表示できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



拡張条件の操作

条件付き書式/テキストまたは抑制定義に複数の条件式を設定して、必要に応じて式をグループ化できます。

式を追加または除去するには:



1. 追加の式条件行を挿入するには、 をクリックします。

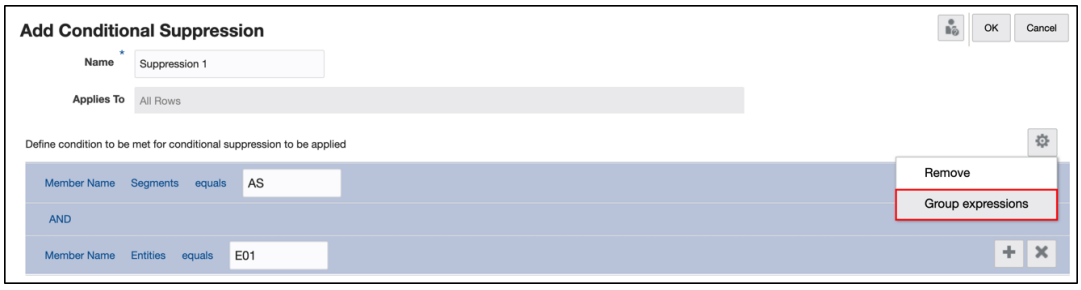
   AND または **OR** を使用して、条件を組み合せたり区別します。たとえば、「100 以上 AND1000 以下」のデータ値をテストする条件を作成できます。



2. 式条件行を削除するには、 をクリックします。

グループ化を追加するには:

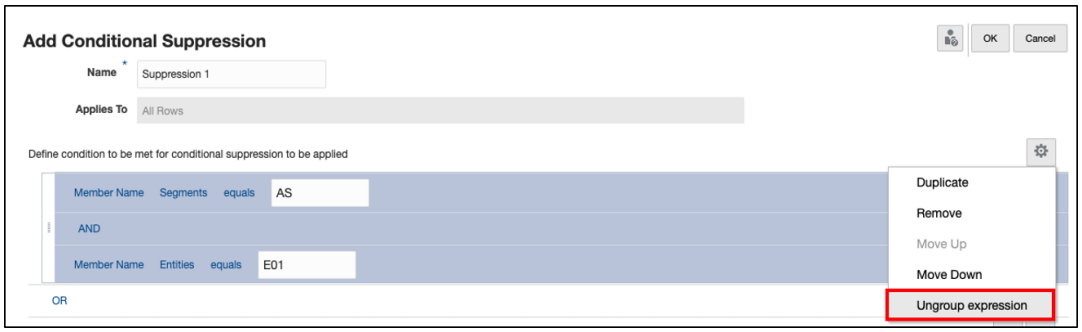
1. [Ctrl]を押しながらクリックを使用して複数の条件および条件演算子(**AND**、**OR**)を選択できます。
2. **「処理」**メニューで、**「式のグループ化」**を選択します。



グループ化を除去するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. [Ctrl]を押しながらクリックを使用して複数の条件および条件演算子(**AND**、**OR**)を選択できます。
2. **「処理」**メニューで、**「式のグループ解除」**を選択します。

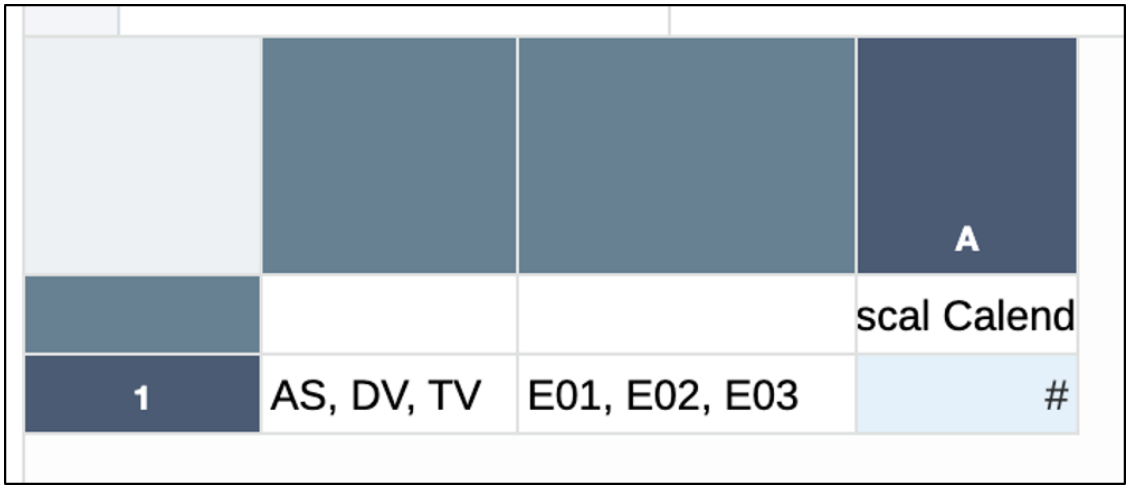


例:

次の例は、複数の式およびグループ化があり、Narrative Reporting サンプル・アプリケーションを使用する拡張条件付き抑制を示しています。

例 4-1 最初のレポート設計およびプレビュー

例の表では、行にそれぞれ 3 つの選択がある **Segments** および **Entities** ディメンションがあり、列には **Fiscal Calendar** があります。



プレビューした結果は次のとおりであり、3 つの**「Segments」**のそれぞれに対して、3 つの**「Entities」**がすべて表示されています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

		Fiscal Calendar
AS	E01	10,458,462
	E02	106,444
	E03	27,834,681
DV	E01	3,348,439
	E02	715,244
	E03	39,169,044
TV	E01	-7,028,305
	E02	-707,496
	E03	20,923,006

例 4-2 条件付き抑制の設定

条件付き抑制に対して、次のメンバーの組合せを抑制します。

- `AS > E01`
- `DV > E02`

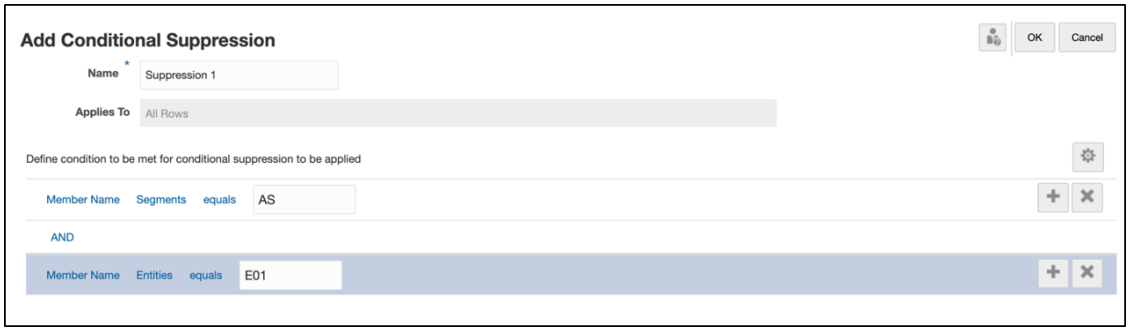
抑制を達成するために必要な条件式は、次のとおりです。

- `("Member Name for Segments = AS" AND "Member Name for Entities = E01")`

  OR

- `("Member Name for Segments = DV" AND "Member Name for Entities = E02")`

行 1 を選択し、条件付き抑制定義を作成した後、最初の 2 つの式(`AS > E01` の組合せを抑制するための)は次のとおりです。条件演算子は **AND** であり、両方の式が true のときに抑制が実行されることに注意してください。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

次に、2 つの他の式(DV > E02 の組合せを抑制するための)を追加する必要があります。最後の 2 つの式を分割する条件演算子は **AND** であり、最初の 2 つと最後の 2 つの式を分割する条件演算子は **OR** であることに注意してください。



2 組の式をグループ化するために、最初の 2 つの式およびそれらの条件演算子が選択され、**「処理」**メニューから**「式のグループ化」**が選択されます。



2 番目の式のセットおよびそれらの条件演算子が選択され、グループ化されます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表の結果をプレビューできます。2 つのメンバーの組合せ(AS > E01、DV > E02)が表出力で抑制されています。

		Fiscal Calendar
AS	E02	106,444
	E03	27,834,681
DV	E01	3,348,439
	E03	39,169,044
TV	E01	-7,028,305
	E02	-707,496
	E03	20,923,006

グループ化の操作

Related Topics

- グループの概要
- グループ化と改ページ
- グループ化に関する考慮事項
- グループ化の追加
- グループ化の除去
- ソートとグループ化
- 式およびテキスト関数のグループへの参照

グループの概要

グループを使用すると、行または列のデータ・セグメント内の属性を計算、グループ化および書式設定できます。

グループには 1 つのデータ行セグメントのみを含めることができますが、オプションで、1 つ以上の式、テキストまたはセパレータ・セグメント(あるいはその組合せ)を含めることができます。これらの非データ・セグメントは、データ・セグメントの前または後(あるいはその両方)に含めることができます。たとえば、データ・セグメントの後に SUM 式セグメントを追加

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

して、各属性組合せの小計を計算したり、データ・セグメントの前にテキスト関数を使用するテキスト・セグメントを追加して、グループ内の属性または現在の属性の別名を表示することもできます。

列に 2 つ以上の属性が存在する場合は、グループを追加できます。

グループ化と改ページ

次の 2 つの表一般プロパティを使用して、PDF 形式でレポートをプレビューするときの改ページの処理方法を定義できます。デフォルトでは、**「グループ改ページ」**と**「グループ内の改ページなし」**の両方のプロパティが**「オフ」**に設定されています。

- **グループ改ページ** -- グループ化が存在する属性名を選択します。このプロパティを設定すると、PDF でのプレビュー時に、選択した属性の各グループ化は新しいページで始まります。HTML プレビューはこのプロパティの影響を受けません。
- **グループ内の改ページなし** -- グループ化が存在する属性名を選択します。このプロパティを設定すると、属性グループ化の行または列の範囲内で改ページが自然に発生し、グループ化が新しいページで始まるように改ページが挿入されます。新しいページで始まった後、すべての行または列が 1 ページに収まらない場合は、さらに改ページが挿入されます。HTML プレビューはこのプロパティの影響を受けません。

グループ化に関する考慮事項

現在のリリースでは、グループ化に関して次の考慮事項があります。

- グループ内でセグメントを挿入または除去すると、グループ化は除去されます。ただし、最も外側のグループ化の前または後にセグメントを挿入または除去すると、既存のグループは変更されずに残ります。
- 行軸に複数のグループ化が存在する場合に、内部レイヤー・グループが除去されると、外部レイヤーのグループ化も除去されます。外部レイヤー・グループ化が除去されても、内部レイヤーのグループ化は影響を受けません。
- 列で 1 つの属性のみが選択された行軸はグループ化できません。
- 列属性の最も内側のレイヤーはグループ化できません。
- 列内の属性を追加、除去または移動すると、行のグループ化はすべて除去されます。
- グループ化の列属性を移動すると、移動中にそのグループ化は除去されます。
- セグメントのグループ内にセグメントを貼り付けると(セグメントのコピーまたは移動処理から発生)、グループ化は除去されます(グループ化内への挿入処理と同様)。
- データ行セグメントは、関連するテキスト/式/セパレータ・セグメントがなくてもグループに存在できます。ただし、これは、PDF 出力の新規印刷ページで各グループが開始できるためにのみ使用されます。
- 「改ページ」プロパティは、グループに含まれる行には設定できません。
- グループ化された行に対してチャートを作成できません。グループに含まれる行への参照がチャートに含まれる場合、検証エラーが発生します。グループ化された行に対してチャートが作成されていないかぎり、グループ化がある表への参照をチャートに含めることができます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グループ化の追加

グループ化には、1 つのデータ行セグメントのみを含めることができます。複数のデータ・セグメントが選択された場合、グループ化およびグループ解除はできません。

データ・セグメント以外に、オプションで、1 つ以上の式、テキストおよび/またはセパレータ・セグメントを含めることができます。これらの非データ・セグメントは、データ・セグメントの前または後(あるいはその両方)に含めることができます。

> **Note**
>
> データ・セグメントに隣接するテキスト、式およびセパレータ・セグメントは、1 つのグループ化にのみ含めることができます。

行選択にグループ化を追加するには:

1. 表エディタで、目的の行データ・セグメントを選択し、オプションで周囲の式、テキストおよび/またはセパレータ・セグメントを選択します。

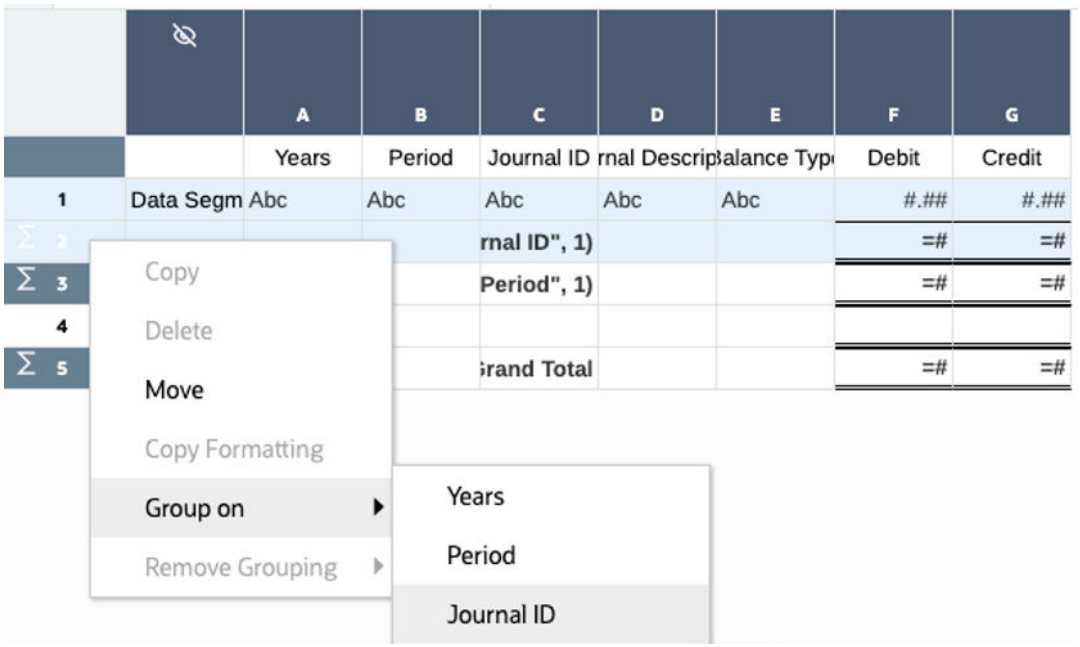
   > **Note**
   >
   > グループ化を追加するときは、連続するセグメントを選択する必要があります。連続していないセグメントは選択できません。

2. 選択した行のヘッダー・セルを右クリックし、**「次のグループ」**を選択して、グループ化する属性名を選択します。
   次の例では、列に 7 つの属性があり、**「Journal ID」**属性、次に**「Period」**属性に基づいてグループ化します。

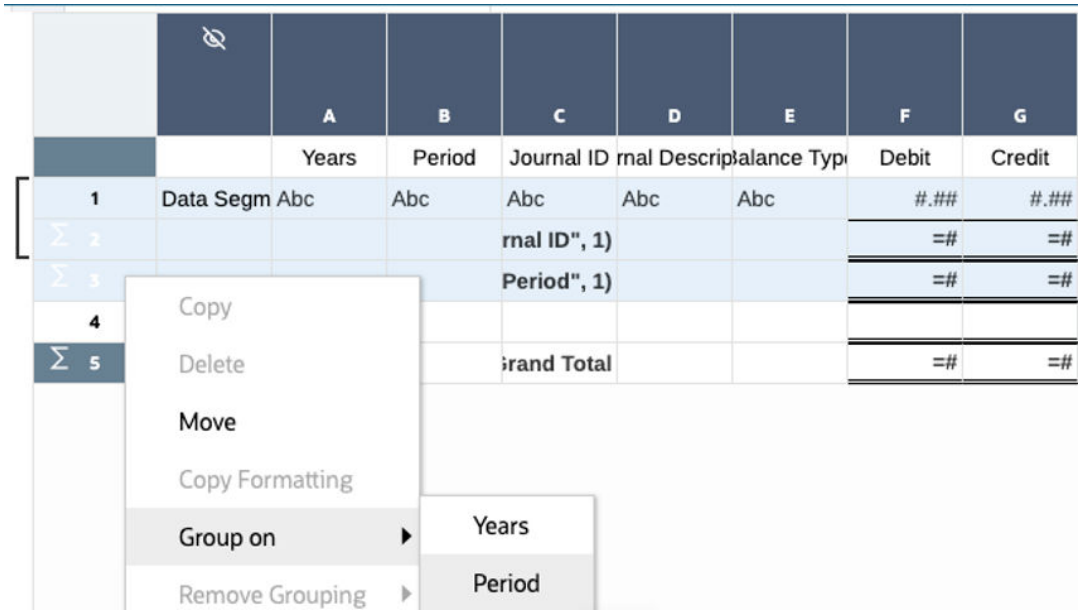
   > **Note**
   >
   > 式行 2 および 3 は、行 5 の総計式とともに、グループ化の小計および合計として機能します。

   まず、行 1 および 2 が選択され、**「Journal ID」**属性のグループ化が追加されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

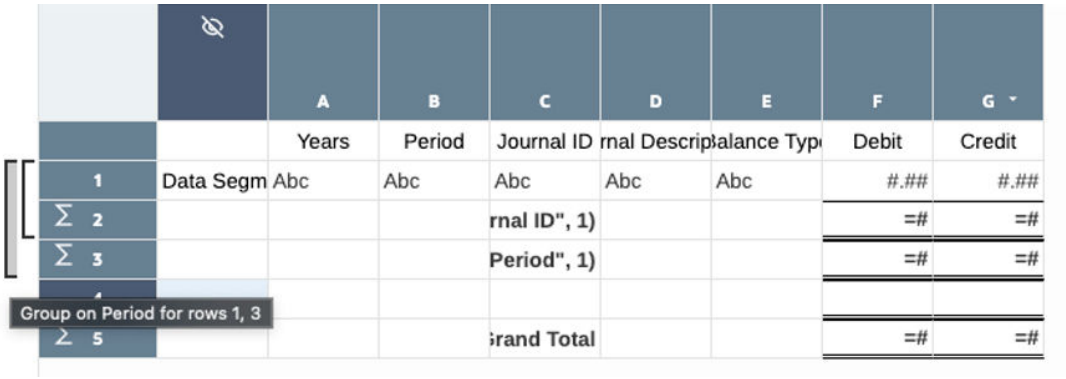


次に、行 1 – 3 が選択され、**「Period」**属性のグループ化が追加されます。



3. 選択したセグメントにグループ化が追加されます。
グループ化された行セグメントの横に、グループ化インジケータが表示されます。インジケータの上にマウスを置くと、属性名、グループ化が適用された行などのグループ情報がツールチップに表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



グリッドの部分プレビューは次のようになります:

Years	Period	Journal ID	Journal Description	Balance Type	Debit	Credit
FY 2023	May	1000000003	Transfer Commissions to Sales South		-	2,500.00
		1000000003	Transfer Commissions to Sales South		2,500.00	-
		Total for 1000000003			**2,500.00**	**2,500.00**
FY 2023	May	1000000001	Management Allocation		-	1,500.00
		1000000001	Management Allocation		-	3,500.00
		1000000001	Management Allocation		5,000.00	-
		Total for 1000000001			**5,000.00**	**5,000.00**
FY 2023	May	1000000004	Year End Tax Provision Entry		498,323.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		-	223,018.00
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		458,849.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		1,255,418.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		-	1,989,572.00
		Total for 1000000004			**2,212,590.00**	**2,212,590.00**
FY 2023	May	1000000005	Year End Tax Provision Entry		-	223,018.00
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		498,323.00	-
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		1,255,418.00	-
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		458,849.00	-
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		-	1,989,572.00
		Total for 1000000005			**2,212,590.00**	**2,212,590.00**

グループ化の除去

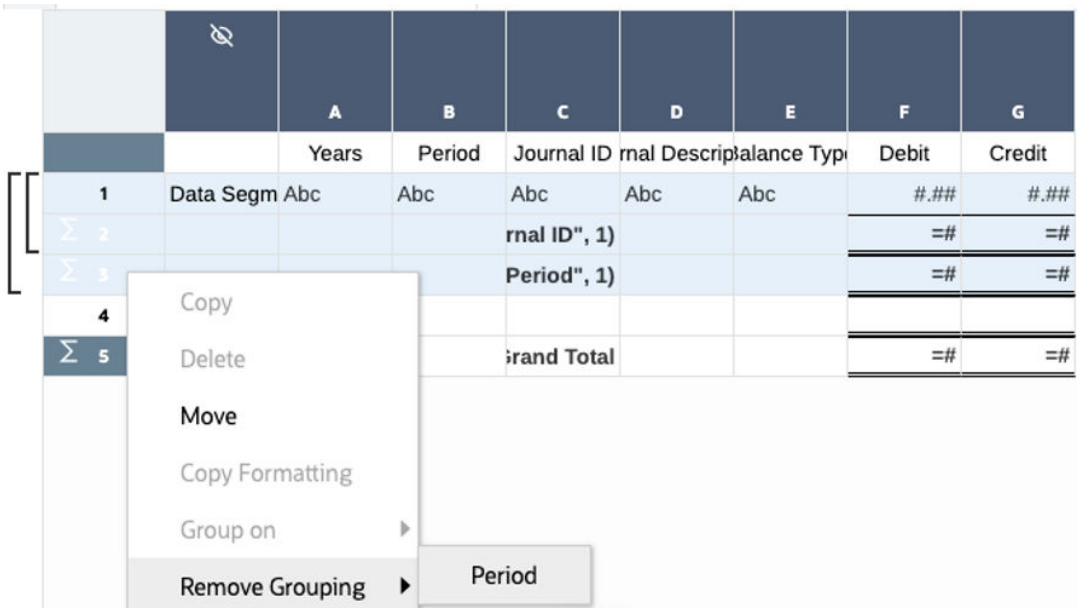
行選択からグループ化を除去するには:

1. 表エディタで、グループ化に含まれるすべての行セグメントを選択します。

> **Note**
>
> グループ化を除去するときは、連続するセグメントを選択する必要があります。連続していないセグメントは選択できません。

2. 選択した行のヘッダー・セルを右クリックし、**「グループ化の除去」**を選択し、グループ化を除去する属性名を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



3. グループ化が除去されます。

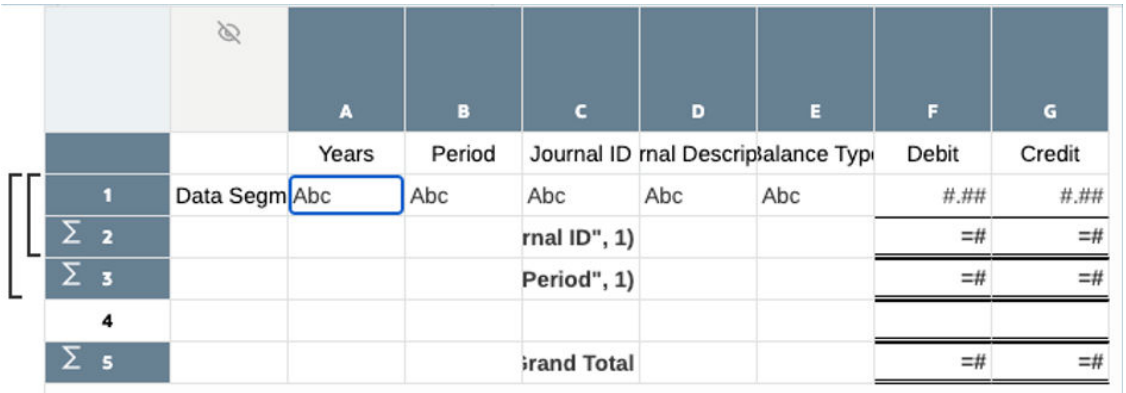
ソートとグループ化

グループ化されたセグメントではソートを使用できます。グループ内のデータ・セグメントを選択して、ソート定義を作成できます。また、グループに 1 つ以上の式/テキスト/セパレータ・セグメントを含めて、それらを 1 つの単位としてソートできます。最後に、グループ内の式/テキスト・セグメントを選択し、それらを個別にソートできます。

これらすべてのケースで、グループ化された属性組合せがソートされるときは、発生したグループ・レベルでソートされます。

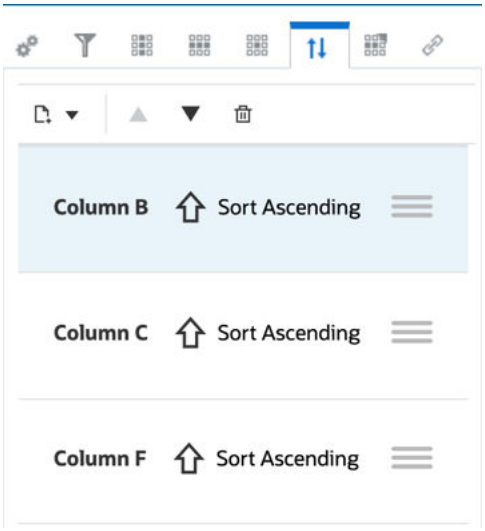
次の表の設計ビューでは、次のソートが定義されています:

表設計:



ソート定義:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



レポートの部分プレビューのソートされた結果は次のとおりです。各グループ内の**「年」**、**「期間」**、**「借方」**列の値が昇順でソートされていることに注意してください。

Years	Period	Journal ID	Journal Description	Balance Type	Debit	Credit
FY 2023	May	1000000001	Management Allocation		5,000.00	-
		1000000001	Management Allocation		-	1,500.00
		1000000001	Management Allocation		-	3,500.00
		Total for 1000000001			**5,000.00**	**5,000.00**
FY 2023	May	1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		483,040.62	-
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		685,202.57	-
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		8,975,609.80	-
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		-	8,975,609.80
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		-	483,040.62
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		-	685,202.57
		Total for 1000000002			**10,143,852.99**	**10,143,852.99**
FY 2023	May	1000000003	Transfer Commissions to Sales South		2,500.00	-
		1000000003	Transfer Commissions to Sales South		-	2,500.00
		Total for 1000000003			**2,500.00**	**2,500.00**
FY 2023	May	1000000004	Year End Tax Provision Entry		458,849.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		498,323.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		1,255,418.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		-	1,989,572.00
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		-	223,018.00
		Total for 1000000004			**2,212,590.00**	**2,212,590.00**

式およびテキスト関数のグループへの参照

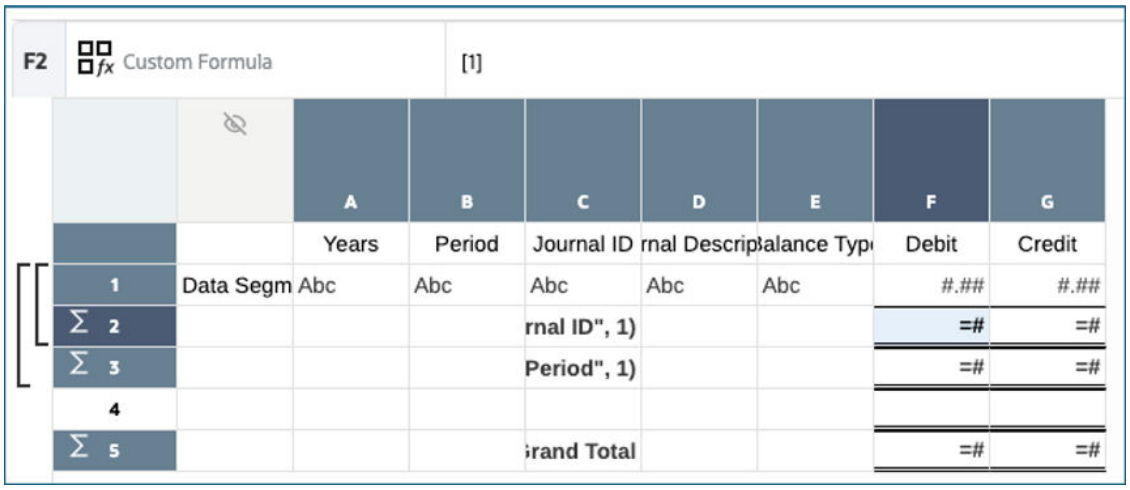
グループ内の式/テキスト・セグメントが同じグループ内のデータ・セグメントを参照する場合、参照は、現在のグループ内の属性組合せのみを含めるように調整されます。

グループ外の式/テキスト・セグメントがグループ内のデータ・セグメントを参照する場合は、グループに関係なく、データ・セグメントのすべての属性組合せが参照されます。

次の表には、行 1 から 2 および行 1 から 3 にグループがあります。行 2 および 3 の式(行 1 の合計)は、グループに含まれるため、2 つのグループに適用されます。行 5 の式(行 1 の合計)は、

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グループに含まれないため、レポートの下部に総計が適用され、行 1 のすべてのデータ組合せが合計されます。



グループ化の結果、行 2 の式行参照では、行 1 の値が**仕訳 ID** 別に合計されます。行 3 の式行参照では、行 1 の値が**期間**別に合計されます。最後に、行 5 の式参照では、すべてのデータ行の総計が合計されます(次のレポート・プレビュー結果には表示されていません)。

Years	Period	Journal ID	Journal Description	Balance Type	Debit	Credit
FY 2023	May	1000000001	Management Allocation		5,000.00	-
		1000000001	Management Allocation		-	1,500.00
		1000000001	Management Allocation		-	3,500.00
		Total for 1000000001			**5,000.00**	**5,000.00**
FY 2023	May	1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		483,040.62	-
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		685,202.57	-
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		8,975,609.80	-
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		-	8,975,609.80
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		-	483,040.62
		1000000002	Transfer Pricing Allocation to UK		-	685,202.57
		Total for 1000000002			**10,143,852.99**	**10,143,852.99**
FY 2023	May	1000000003	Transfer Commissions to Sales South		2,500.00	-
		1000000003	Transfer Commissions to Sales South		-	2,500.00
		Total for 1000000003			**2,500.00**	**2,500.00**
FY 2023	May	1000000004	Year End Tax Provision Entry		458,849.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		498,323.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		1,255,418.00	-
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		-	1,989,572.00
		1000000004	Year End Tax Provision Entry		-	223,018.00
		Total for 1000000004			**2,212,590.00**	**2,212,590.00**
FY 2023	May	1000000005	Year End Tax Provision Entry		458,849.00	-
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		498,323.00	-
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		1,255,418.00	-
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		-	223,018.00
		1000000005	Year End Tax Provision Entry		-	1,989,572.00
		Total for 1000000005			**2,212,590.00**	**2,212,590.00**
FY 2023	May	1000000006	Transfer Pricing Allocation to UK		483,040.62	-
		1000000006	Transfer Pricing Allocation to UK		685,202.57	-
		1000000006	Transfer Pricing Allocation to UK		8,975,609.80	-
		1000000006	Transfer Pricing Allocation to UK		-	483,040.62
		1000000006	Transfer Pricing Allocation to UK		-	685,202.57
		1000000006	Transfer Pricing Allocation to UK		-	8,975,609.80
		Total for 1000000006			**10,143,852.99**	**10,143,852.99**
		Total for May			**24,720,385.98**	**24,720,385.98**

コンテンツへのドリル操作

コンテンツへのドリルでは、エンド・ユーザーがレポート、Narrative Reporting ライブラリのサード・パーティ文書、およびカスタム URL リンクにドリルできるように、管理者は、表のセル、行、列およびメンバーの見出しセルにコンテンツ・リンクを設定できます。

エンド・ユーザーが HTML でレポートをプレビューする場合は、コンテンツ・リンクにドリルして、指定のターゲットにリンクされたレポートを実行(適用可能な場合は POV を渡す)、サード・パーティ文書を起動、または URL を起動できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> - ソースまたはターゲットのいずれかのレポートとして使用されるレポート、およびターゲット・レポートとして使用されるスナップショット・レポートには、コンテンツへのドリルがサポートされています。
> - カスタム URL へのドリルでは、ターゲット URL に POV または SSO トークンを渡すことはサポートされていません。

コンテンツ詳細へのドリルは、次の用途には使用できません。

- トランザクション詳細へのドリル
- テキスト・ボックス、イメージ・オブジェクトまたはチャートに対するコンテンツ・リンクの定義
- 条件付き書式設定条件の一部としてのコンテンツ・リンクの定義

別の環境でレポートを使用する場合、コンテンツ・リンクのサーバー参照は維持されます。たとえば、レポートをテストから本番ポッドに移動すると、レポートのコンテンツへのドリル・リンクは本番ポッドのレポートを指すようになります。サーバーへのドリルを変更する必要はありません。

表にレポート・パッケージのリファレンス・ドックレットとして使用可能なコンテンツへのドリル・リンクがあるレポートを挿入すると、コンテンツ・リンクは無効になります。

コンテンツへのドリル・リンクの定義

レポートなどの Narrative Reporting のライブラリ・ファイル、または外部 Web サイトなどの URL リンクにドリルするリンクを定義できます。

コンテンツへのドリル・リンクを定義するには:

1. コンテンツ・リンクの追加先となるグリッドの領域(セル、行、列またはメンバーの見出しセル)を選択します。
2. グリッド・プロパティで、 をクリックします。
3. をクリックします。
4. 「コンテンツへのドリルの追加」ダイアログ・ボックスに、ドリルのわかりやすい名前を入力し、オプションで摘要も入力します。

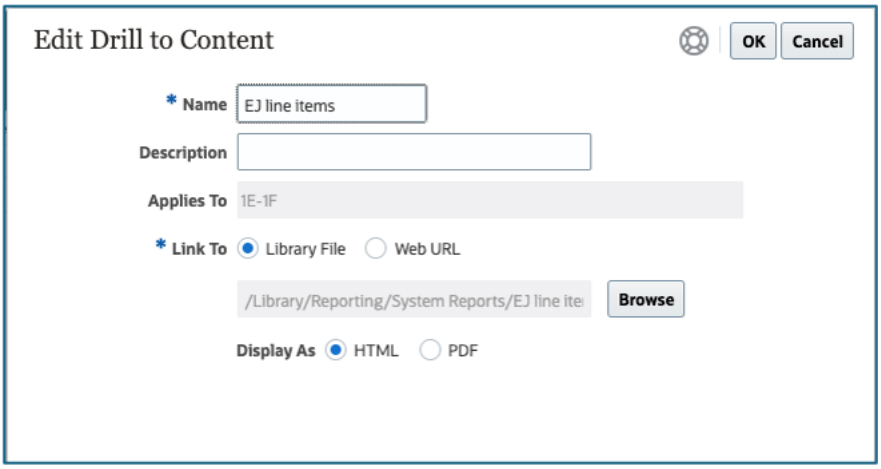
> **Note**
>
> **「適用先」**フィールドに、コンテンツ・リンクの追加先として選択したグリッドの領域が表示されます。これは読取り専用です。

5. **リンク先**フィールドで、次の処理を実行します。
   - **「ライブラリ・ファイル」**を選択して**「参照」**をクリックし、Narrative Reporting ライブラリでファイルをターゲットとして選択します。レポートを選択した場合は、ターゲットを表示する形式として**「PDF」**または**「HTML」**を指定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「Web URL」**を選択してターゲット URL を入力した後、**Web URL** で URL パラメータを非表示にするかどうかを指定します。

  ノート: Web URL ではターゲット URL に POV または SSO トークンを渡すことはサポートされていません。



ドリル・インジケータとツールチップ

ドリル・リンクをセル、行または列に適用すると、行または列のヘッダーあるいはセルの右上隅に灰色の三角形が表示されます。インジケータの上にマウスを置くと、そのセル、行または列に適用されたドリル・リンクのリストがツールチップに表示されます。



コンテンツへのドリル定義の管理

コンテンツへのドリル・リンクを定義した後は、「コンテンツへのドリル」プロパティ・パネルでリンクを管理します。

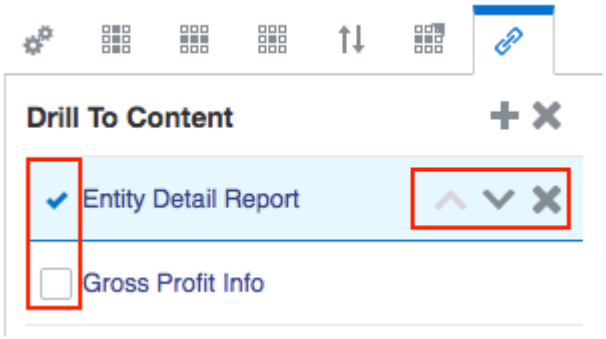
既存のドリル・リンクに対して、次の処理を実行できます。

- 表の領域を強調表示して、ドリル・リンクの横にあるチェック・ボックスをクリックして選択または選択を解除し、その領域に対して条件を適用または削除します。

> **Note**
>
> 表のセル、行または列に対して、複数のドリル・リンクを適用できます。ユーザーがドリル・リンクをクリックすると、ターゲット・リンクのリストが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- リンク定義の名前をクリックしてその定義を編集します。
- 定義の上にマウスを置き、 または をクリックして定義の表示順序を変更します。
- 定義の上にマウスを置き、 をクリックしてその定義を削除します。



ターゲット・レポートへの視点の引渡し

URL リンクを定義する際は、ソース・レポートの視点(POV)をターゲットに渡すオプションがあります。

POV を渡すように選択すると、次の条件が適用されます。

- POV コンテキストは、ターゲット・レポート・データ・ソース内に存在するディメンションについて、ターゲット・レポートのグローバル POV に渡されます。
  - ソース・レポートの POV コンテキストには、POV およびセル・メンバー選択が含まれます。
  - ターゲット・レポートのローカル POV は、コンテンツへのドリルでは更新されません
- ソースとターゲットのレポート・データ・ソースが異なる場合は、ソースに存在する POV ディメンション(および選択されたメンバー)のみがターゲット・レポートに渡されます。
  - ソース・レポートからのディメンションがターゲット・レポートのグローバル POV にない場合、渡された POV 選択は使用されません。
  - ソース・レポート・ディメンションが存在しても、渡された POV メンバーが存在しない場合は、無効なメンバー検証を示すメッセージが表示され、レポート結果は表示されません。
- POV メンバー選択がターゲット・レポート定義に定義されているとおり有効かどうかに関係なく、渡された POV コンテキストはターゲット・レポート POV に適用されます。たとえば、ソース・ターゲットの POV コンテキストに"通貨" = *USD* がある場合は、ターゲット・レポートの定義で *USD* が POV ディメンション通貨の有効な選択でない場合も、ターゲット・レポートの POV 選択として使用されることになります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

6

テキスト・ボックスの操作

次も参照:

- テキスト・ボックスの追加
  テキスト・ボックスは、テキストおよびテキスト関数を含めることができるレポート・オブジェクトです。
- テキスト・ボックスの書式設定
  レポートのテキスト・ボックスのテキスト、場所およびサイズの書式を設定できます。
- テキスト文字幅プロパティの使用
  レポートでは、レポート設計者が**「テキスト文字幅」**プロパティを使用して、グリッドおよびノート・オブジェクトのテキストのサイズ変更オプションを選択できます。

テキスト・ボックスの追加

テキスト・ボックスは、テキストおよびテキスト関数を含めることができるレポート・オブジェクトです。

ラベル、摘要、または現在の日付を取得する関数をテキスト・ボックスに入力できます。また、テキストは複数の段落で入力できます。他のレポート・オブジェクトと同様に、テキストを含む領域を移動、サイズ変更または再配置できます。

新しいテキスト・ボックスを追加するには:

1. 次のいずれかを実行します。
   - ツールバーで、  をクリックして**「テキスト」**を選択します。
   - 空白のレポート・ページで、  をクリックします。
   - レポートのヘッダー、フッターまたは本文で右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**、**「テキスト」**の順に選択します。
2.  または**「設定テキスト」**をクリックします。
3. テキスト・ボックスにテキストを入力します。

   プロパティ・パネルを使用してテキストの書式を設定します。

   ノート・テキスト関数でテキスト・ボックスを使用する場合、データ・ソースを有効にして選択し、テキスト・ボックスの POV コントロールを公開できます。詳細は、次を参照してください。

   - ノート・テキスト関数の使用
   - レポートでのノート・テキスト関数の挿入

   テキスト・ボックスに関数を挿入するには、  をクリックします。テキスト関数を参照してください

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> Microsoft Word または HTML ページからコピーした書式設定済テキストをテキスト・ボックスに貼り付ける際には、レンダリングについていくつか制限事項があります。書式設定済テキストのテキスト・ボックスへの貼付けに関する制限事項を参照してください。

テキスト・ボックスの書式設定

レポートのテキスト・ボックスのテキスト、場所およびサイズの書式を設定できます。

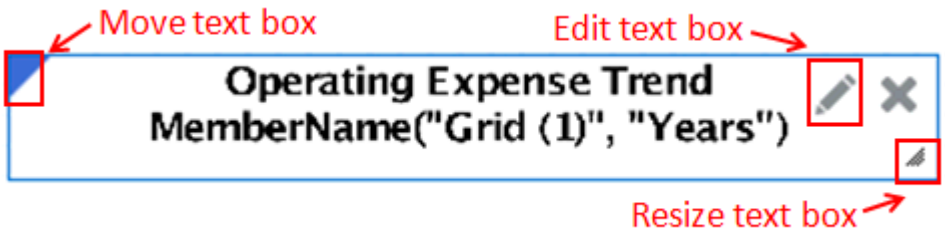
テキスト・ボックスのテキストは 2 つの場所で書式設定します。

- プロパティ・パネルを使用して、名前、背景色、デフォルトのフォントとフォント・サイズ、垂直方向の配置など、テキスト・ボックス全体のプロパティを編集します。書式プロパティを「デフォルト」にリセットして、デフォルトの書式設定に復元することもできます。

  > **ノート**
  >
  > デフォルトのフォントとフォント・サイズはテキスト・オブジェクト全体に適用されて、テキスト・ボックスのデフォルト・フォントを様々なフォントで上書きします。

- テキスト・エディタ・ツールバーを使用して、テキスト・ボックス内のテキストを書式設定します。

レポートのテキスト・ボックスの表示にも書式を設定できます。たとえば、テキスト・ボックスを配置した後に、テキスト・ボックスの移動またはサイズ変更、テキスト・ボックスの横位置と縦位置の指定、テキスト・ボックスの周囲への境界線の追加を実行できます。



テキスト・ボックスを移動するには、テキスト・ボックス・フレームの左上隅にマウス・カーソルを重ね、必要な場所にドラッグします。

テキスト・ボックスのサイズを変更するには、テキスト・ボックスの右下隅にマウス・カーソルを重ね、必要なサイズにドラッグします。

横と縦の位置を指定、またはテキスト・ボックスの周囲線に境界を配置するには、レポートのプロパティ・パネルで をクリックします。境界線の追加とテキストの位置合せを参照してください。

テキスト・ボックスのテキストを編集するには、 をクリックします。テキスト・プロパティの編集を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

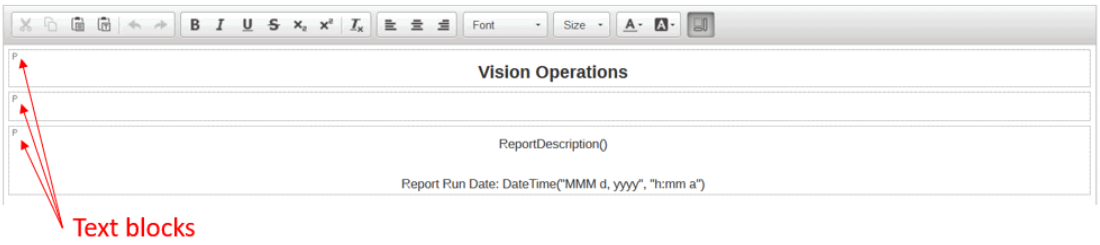
テキスト・プロパティの編集

テキスト・ボックス内のテキストは、テキスト・ブロックに分類されます。テキストを入力して[Enter]を押すたびに、新しいテキスト・ブロックが作成されます。各テキスト・ブロックは異なる書式に設定できます。たとえば、レポートのタイトルを大きいフォント・サイズにして、サブタイトルを少し小さいサイズにできます。テキストの各ブロックに新しいテキスト・ボックスを作成する必要はありません。  をクリックし、テキスト・オブジェクトにテキスト・ブロックを表示します。

図 1 は、3 つのテキスト・ブロックがあるテキスト・ボックスの例を示しています。

- レポート・タイトル
- スペーサとして使用する空のブロック
- レポートの摘要と実行日を示すためのテキスト関数

図 6-1 テキスト・ブロックの例



> **ⓘ ノート**
>
> テキスト・ブロック内で新しいテキスト・ブロックを作成せずに新しい行を挿入するには、[Shift]を押しながら[Enter]を押します。

テキストのフォントを定義するには:

1. テキスト・ボックスを編集します。
2. ツールバーで、**「フォント」**および**「サイズ」**のドロップダウン・ボックスを使用してフォントを定義します。

   次のデフォルト・フォントを使用できます。

   - Liberation Sans (Arial)
   - Liberation Serif (Times New Roman)
   - Liberation Mono (Courier New)
   - Albany (日本語)
   - Albany (韓国語)
   - Albany (簡体中国語)
   - Albany (繁体中国語)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> フォントにはカスタム・サイズを入力できません。使用可能なフォントのリストから選択する必要があります。

「フォント」フォルダにナビゲートして**「作成」**、**「ファイルのアップロード」**の順にクリックすることで、デフォルト・フォントに加えて独自のフォントをアップロードできます。アップロードされたフォントは**「フォント」**ドロップダウン・ボックスに表示されます。


ボタンを使用して、テキストを太字、イタリック、下線、取消し線、下付きまたは上付きに書式設定します。


を使用して、テキストから書式設定を削除します。


を使用して、テキストの色および背景色を選択します。カスタムの色を定義することもできます。

> **ノート**
>
> 色は色パレットから選択する必要があります。色の RGB 値を手動で入力することはできません。


を使用して、切取り、コピー、貼付けまたはテキストとして貼付けを実行します。

> **ノート**
>
> Microsoft Word または HTML ページからコピーした書式設定済テキストをテキスト・ボックスに貼り付ける際には、レンダリングについていくつか制限事項があります。書式設定済テキストのテキスト・ボックスへの貼付けに関する制限事項を参照してください。


を使用して、処理を元に戻したり、処理をやり直します。


を使用して、テキスト・ブロックのテキストをテキスト・ボックスの左、中央または右に位置合せします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

書式設定済テキストのテキスト・ボックスへの貼付けに関する制限事項

Microsoft Word または HTML からコンテンツを貼り付ける場合、テキスト・ボックスで現在サポートされている機能セットに基づいて、できるだけ多くの書式設定情報が保守されます。現在、これらすべての書式設定されたテキストには、太字、イタリック、下線、取消し線、上付き、下付き、前景色、背景色、フォント・ファミリ、フォント・サイズおよび水平方向の配置が含まれます。その他の機能(表、リストおよびイメージなど)はすべて除去されます。

書式設定済テキストをテキスト・ボックスに貼り付ける場合、HTML 変換によってレンダリングの差異がいくつか生じる可能性があります。

1. 変換ではインラインのスタイル設定およびスタイルベース・タグ(例: `<b>`、`<i>`および`<u>`)のみが処理され、他の書式設定済テキストはすべて Cascading Style Sheet (CSS)によって認識されません。
2. フォント・ファミリ・リストが解析され、サポートされている(完全一致の)最初のフォント・ファミリが使用されます。
3. すべてのフォント・サイズが `pt` に変換されて整数に丸められ、絶対単位には既知の変換係数が使用され、相対単位にはデフォルトのフォント・サイズが基準として使用されます(例: `2em = 2 * デフォルトのフォント・サイズ 12pt = 24pt`)

テキスト関数の挿入


をクリックし、テキスト関数をテキスト・オブジェクトに挿入します。たとえば、現在の日付やレポートの摘要を挿入できます。テキスト関数を参照してください。

境界線の追加とテキストの位置合せ

レポート・エディタで、プロパティ・パネルの  をクリックして、レポート内のテキスト・ボックスに境界線を追加し、位置合せします。

テキスト・ボックスに境界線を追加するには:

1. レイアウト・パネルで、  をクリックします。
2. **「境界」**ダイアログ・ボックスから境界線タイプ(上、下、左、右またはすべて)を選択します。
3. **オプション:** 境界線タイプを有効にした後、**線のタイプ**およびその横にある**「色」**のドロップダウン・ボックスをクリックして、その境界線のスタイルと色を変更します。

「水平方向の配置」と**「垂直方向の配置」**を使用して、テキスト・ボックス内でテキストの配置、位置合せおよびインデントを変更します。

グリッド幅を使用してテキスト・ボックスの幅を自動的にサイズ設定

レポートの**「ページに合せる」**プロパティが**「幅」**または**「両方」**に設定されている場合、グリッドの実行時の幅に一致するように、テキスト・ボックスまたはノート・ボックスの幅を自動的にサイズ設定できます。グリッド幅に基づいてテキスト・ボックスを自動的にサイズ設定しない場合は、テキスト・ボックスがページ内に収まらないことがあります。拡張された列により、レンダリングしたグリッドの幅が広くなった場合、このようになる可能性があります。

選択した実行時グリッド幅に基づいて、テキスト・ボックスまたはノート・ボックスの幅を自動的にサイズ設定するには:

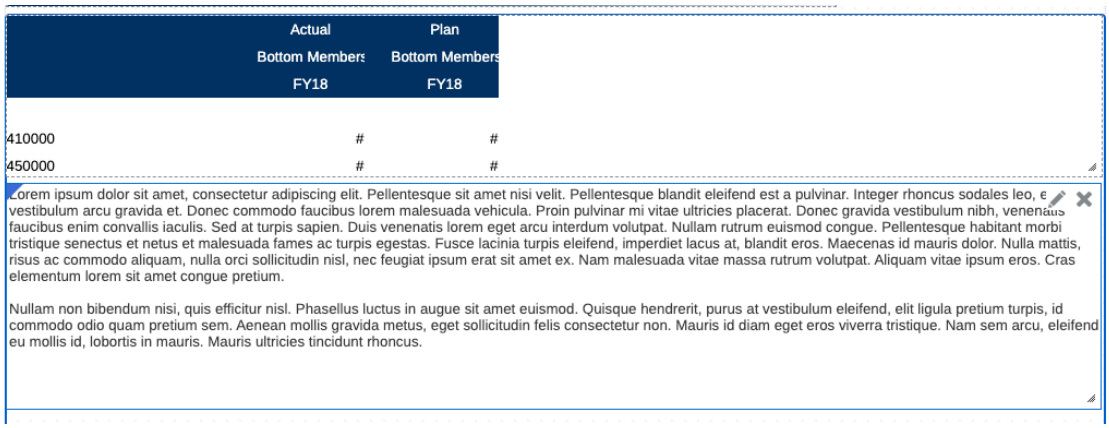
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. レポート・エディタで、テキスト・ボックスまたはノート・ボックスを選択し、プロパティ・パネルの をクリックします。
2. **「幅をグリッド幅にサイズ設定」**でグリッドを選択します。

> **ⓘ ノート**
>
> - テキストまたはノート・オブジェクトおよびグリッド・オブジェクトが同じシートに存在する必要があります。
> - テキストまたはノート・オブジェクトは、レポートのヘッダーまたはフッターではなく本文にある必要があります。
> - デフォルトでは、**「幅をグリッド幅にサイズ設定」**プロパティの値は**「オフ」**になっています。プロパティ値が**「オフ」**の場合、テキストまたはノート・オブジェクトのプレビュー幅は、そのテキストまたはノート・オブジェクトの設計時の幅と同じです。
> - テキストまたはノート・オブジェクトの**「幅をグリッド幅にサイズ設定」**プロパティがグリッドに設定されており、そのグリッドが削除されたか別のシートに移動された場合、**「幅をグリッド幅にサイズ設定」**プロパティは**「オフ」**にリセットされます。
> - グリッド・オブジェクトに**「前に改ページ」**プロパティが有効になった列がある場合、テキストまたはノート・オブジェクトの幅は、PDF プレビューのグリッドの最初のページの幅に一致します。たとえば、グリッドに 12 列あり、7 番目の列の**「前に改ページ」**プロパティが有効になっている場合、グリッドは異なる PDF ページの 2 つの部分に分割されます。最初の部分には列 1 から 6 があり、2 番目には列 7 から 12 があります。**「幅をグリッド幅にサイズ設定」**のテキストまたはノート・オブジェクトは、最初のグリッドの幅にサイズ設定されます(列 1 から 6)。

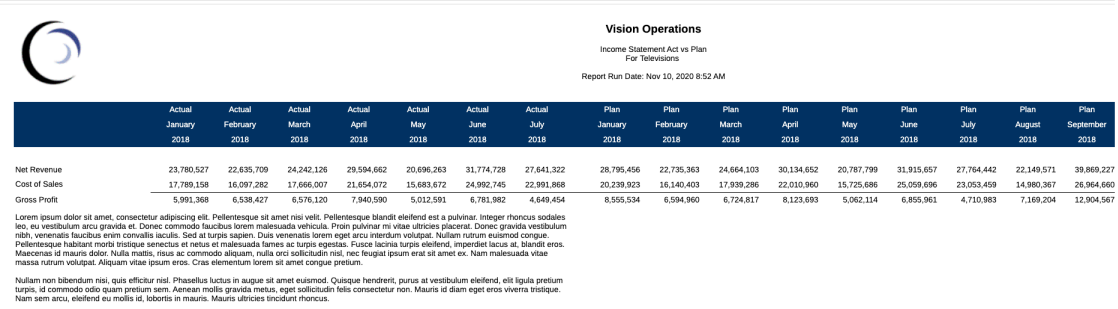
例

次のレポートには 1 つのグリッドおよび 1 つのテキスト・ボックスがあり、レポートの**「ページに合せる」**プロパティが**「両方」**に設定されています。



この最初のレポート・プレビューには、レポート・ページの幅に合せて自動的にサイズ設定されないテキスト・ボックスが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Vision Operations

Income Statement Act vs Plan
For Televisions

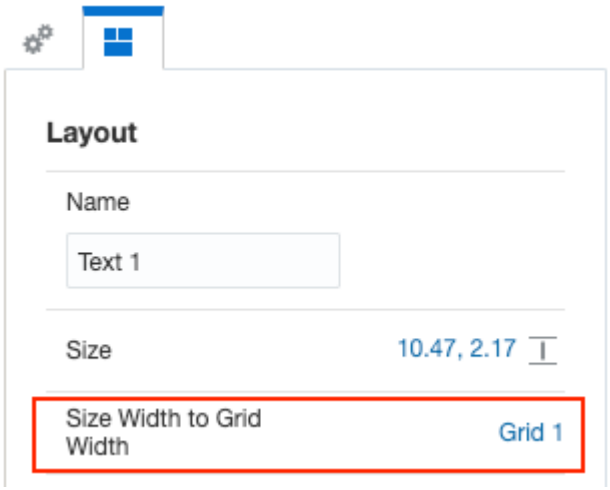
Report Run Date: Nov 10, 2020 8:52 AM

	Actual January 2018	Actual February 2018	Actual March 2018	Actual April 2018	Actual May 2018	Actual June 2018	Actual July 2018	Plan January 2018	Plan February 2018	Plan March 2018	Plan April 2018	Plan May 2018	Plan June 2018	Plan July 2018	Plan August 2018	Plan September 2018
Net Revenue	23,780,527	22,635,709	24,242,126	29,594,662	20,696,263	31,774,728	27,641,322	28,795,456	22,735,363	24,664,103	30,134,652	20,787,799	31,915,657	27,764,442	22,149,571	39,869,227
Cost of Sales	17,789,158	16,097,282	17,666,007	21,654,072	15,683,672	24,992,745	22,991,868	20,239,923	16,140,403	17,939,286	22,010,960	15,725,686	25,059,696	23,053,459	14,980,367	26,964,660
Gross Profit	5,991,368	6,538,427	6,576,120	7,940,590	5,012,591	6,781,982	4,649,454	8,555,534	6,594,960	6,724,817	8,123,693	5,062,114	6,855,961	4,710,983	7,169,204	12,904,567

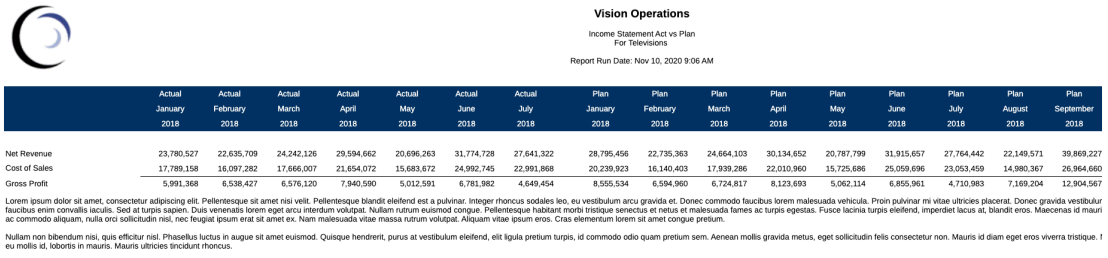
Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Pellentesque sit amet nisi velit. Pellentesque blandit eleifend est a pulvinar. Integer rhoncus sodales leo, eu vestibulum arcu gravida et. Donec commodo faucibus lorem malesuada vehicula. Proin pulvinar mi vitae ultricies placerat. Donec gravida vestibulum nibh, venenatis faucibus enim convallis iaculis. Sed at turpis sapien. Duis venenatis lorem eget arcu interdum volutpat. Nullam rutrum euismod congue. Pellentesque habitant morbi tristique senectus et netus et malesuada fames ac turpis egestas. Fusce lacinia turpis eleifend, imperdiet lacus at, blandit eros. Maecenas id mauris dolor. Nulla mattis, risus ac commodo aliquam, nulla orci sollicitudin nisl, nec feugiat ipsum erat sit amet ex. Nam malesuada vitae massa rutrum volutpat. Aliquam vitae ipsum eros. Cras elementum lorem sit amet congue pretium.

Nullam non bibendum nisi, quis efficitur nisl. Phasellus luctus in augue sit amet euismod. Quisque hendrerit, purus at vestibulum eleifend, elit ligula pretium turpis, id commodo odio quam pretium sem. Aenean mollis gravida metus, eget sollicitudin felis consectetur non. Mauris id diam eget eros viverra tristique. Nam sem arcu, eleifend eu mollis id, lobortis in mauris. Mauris ultricies tincidunt rhoncus.

「幅をグリッド幅にサイズ設定」を設定した後は、テキスト・ボックスの幅がレンダリングされたグリッド幅に一致します。



このレポート・プレビューは、レンダリングされたグリッド幅に一致するテキスト・ボックスの幅を表示しています。



Vision Operations

Income Statement Act vs Plan
For Televisions

Report Run Date: Nov 10, 2020 9:06 AM

	Actual January 2018	Actual February 2018	Actual March 2018	Actual April 2018	Actual May 2018	Actual June 2018	Actual July 2018	Plan January 2018	Plan February 2018	Plan March 2018	Plan April 2018	Plan May 2018	Plan June 2018	Plan July 2018	Plan August 2018	Plan September 2018
Net Revenue	23,780,527	22,635,709	24,242,126	29,594,662	20,696,263	31,774,728	27,641,322	28,795,456	22,735,363	24,664,103	30,134,652	20,787,799	31,915,657	27,764,442	22,149,571	39,869,227
Cost of Sales	17,789,158	16,097,282	17,666,007	21,654,072	15,683,672	24,992,745	22,991,868	20,239,923	16,140,403	17,939,286	22,010,960	15,725,686	25,059,696	23,053,459	14,980,367	26,964,660
Gross Profit	5,991,368	6,538,427	6,576,120	7,940,590	5,012,591	6,781,982	4,649,454	8,555,534	6,594,960	6,724,817	8,123,693	5,062,114	6,855,961	4,710,983	7,169,204	12,904,567

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Pellentesque sit amet nisi velit. Pellentesque blandit eleifend est a pulvinar. Integer rhoncus sodales leo, eu vestibulum arcu gravida et. Donec commodo faucibus lorem malesuada vehicula. Proin pulvinar mi vitae ultricies placerat. Donec gravida vestibulur faucibus enim convallis iaculis. Sed at turpis sapien. Duis venenatis lorem eget arcu interdum volutpat. Nullam rutrum euismod congue. Pellentesque habitant morbi tristique senectus et netus et malesuada fames ac turpis egestas. Fusce lacinia turpis eleifend, imperdiet lacus at, blandit eros. Maecenas id mauri ac commodo aliquam, nulla orci sollicitudin nisl, nec feugiat ipsum erat sit amet ex. Nam malesuada vitae massa rutrum volutpat. Aliquam vitae ipsum eros. Cras elementum lorem sit amet congue pretium.

Nullam non bibendum nisi, quis efficitur nisl. Phasellus luctus in augue sit amet euismod. Quisque hendrerit, purus at vestibulum eleifend, elit ligula pretium turpis, id commodo odio quam pretium sem. Aenean mollis gravida metus, eget sollicitudin felis consectetur non. Mauris id diam eget eros viverra tristique. ! eu mollis id, lobortis in mauris. Mauris ultricies tincidunt rhoncus.

テキスト文字幅の設定

「テキスト文字幅」プロパティを使用して、テキスト・ボックス内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。詳細は、テキスト文字幅プロパティの使用を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

テキスト文字幅プロパティの使用

レポートでは、レポート設計者が**「テキスト文字幅」**プロパティを使用して、グリッドおよびノート・オブジェクトのテキストのサイズ変更オプションを選択できます。

概要

「テキスト文字幅」プロパティは、グリッドのテキスト・セルおよび見出しセルと、テキストまたはノート・オブジェクトで使用できます。グリッドでは、グリッド全体、個別のテキストまたは見出しセルに対してこのプロパティを設定できます。このプロパティはデータまたは式セルには影響を及ぼしません。

このプロパティを使用すると、グリッド・テキスト・セル内のテキストか、テキストまたはノート・オブジェクト内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。

- 値**「大」**は最も融通性の低いテキストのサイズ変更が使用されることを意味します。これにより、テキストを表示するために確保されるスペースが広くなるため、テキスト値のワードラップが必要以上に早く発生したり、空白が余分に発生することがあります。ただし、これにより、テキストが入りきらずに切り捨てられることがなくなります。
- 値**「中」**は比較的融通性の高いテキストのサイズ変更が使用されることを意味します。これにより、テキストを表示するために確保されるスペースが狭くなるため、テキスト値のワードラップの発生が遅くなり、空白が少なくなることがあります。ただし、テキストが切り捨てられる可能性が多少あります。
- 値**「小」**は最も融通性の高いテキストのサイズ変更が使用されることを意味します。これにより、テキストを表示するために確保されるスペースが最も狭くなり、空白が最も少なくなります。ただし、このプロパティ設定を使用すると、テキストが切り捨てられる可能性が高くなります。テキスト関数の評価(**CellText** 関数を使用する場合など)によってテキストの量に大幅な変動が見込まれるテキスト・セルまたはノート列内では、「小」プロパティを慎重に使用する必要があります。

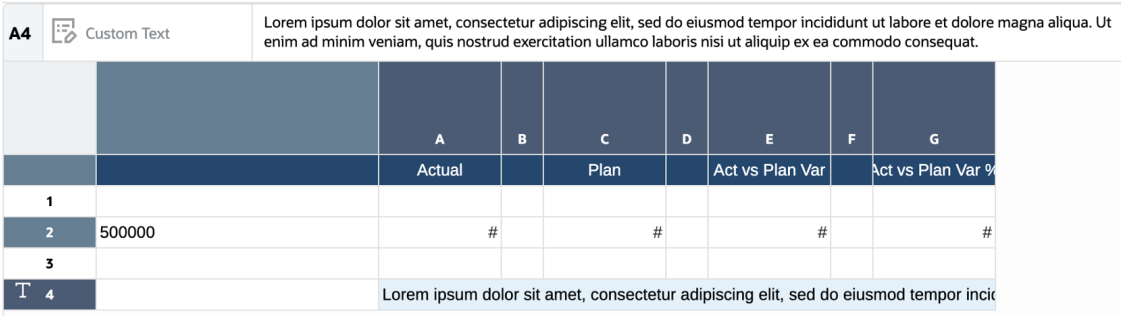
「テキスト文字幅」プロパティの**「中」**または**「小」**設定を使用すると、後でテキスト行にワードラップが発生します。また、**「幅」**プロパティを**「最小」**に設定した列では列幅が狭くなり、**「高さ」**プロパティを**「最小」**に設定した行では行の高さが低くなる可能性もあります。**「サイズ」**プロパティを**「合せる」**または**「最小」**に設定したテキストまたはノート・オブジェクトではテキストまたはノート・オブジェクトの高さが低くなることで、テキストまたはノート・オブジェクトの下部の空白が狭くなる可能性があります(特に、テキストまたはノート・オブジェクトに含まれるテキストの量が多い場合)。

例

例 1: 単一テキスト行、列をまたいでマージ

設計ビュー:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



テキスト文字幅 = 大:

	Actual	Plan	Variance	Variance %
Operating Expenses	30,428,078	34,564,452	4,136,375	12

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed do eiusmod tempor incididunt ut labore et dolore magna aliqua. Ut enim ad minim veniam, quis nostrud exercitation ullamco laboris nisi ut aliquip ex ea commodo consequat.

テキスト文字幅 = 中:

	Actual	Plan	Variance	Variance %
Operating Expenses	30,428,078	34,564,452	4,136,375	12

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed do eiusmod tempor incididunt ut labore et dolore magna aliqua. Ut enim ad minim veniam, quis nostrud exercitation ullamco laboris nisi ut aliquip ex ea commodo consequat.

テキスト文字幅 = 小:

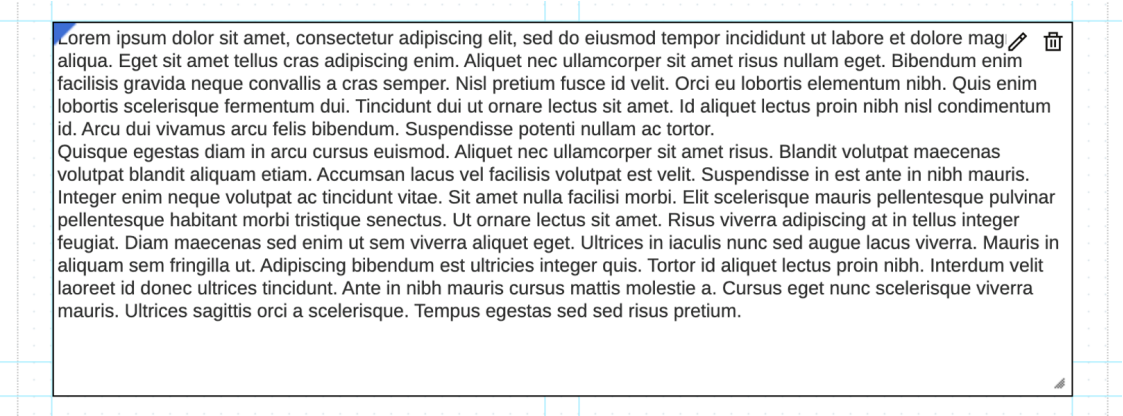
	Actual	Plan	Variance	Variance %
Operating Expenses	30,428,078	34,564,452	4,136,375	12

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed do eiusmod tempor incididunt ut labore et dolore magna aliqua. Ut enim ad minim veniam, quis nostrud exercitation ullamco laboris nisi ut aliquip ex ea commodo consequat.

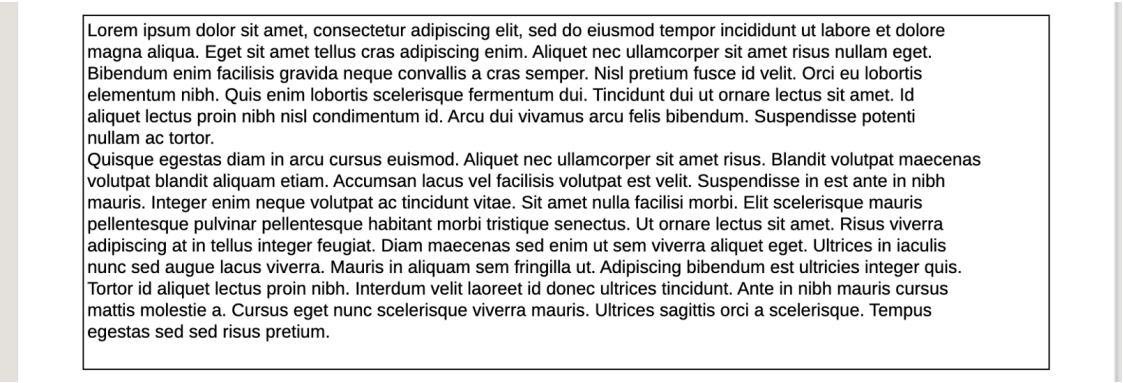
例 2: テキスト・ボックス

設計ビュー:

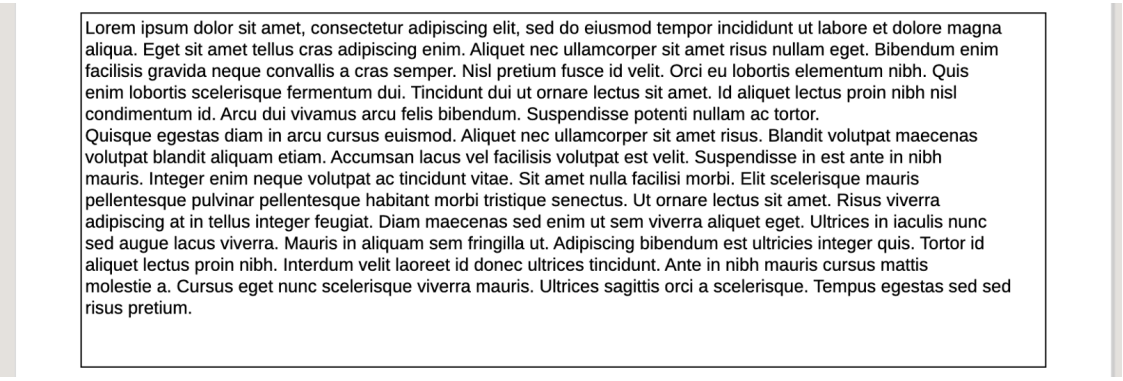
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



テキスト文字幅 = 大:



テキスト文字幅 = 中:



テキスト文字幅 = 小:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit, sed do eiusmod tempor incididunt ut labore et dolore magna aliqua. Eget sit amet tellus cras adipiscing enim. Aliquet nec ullamcorper sit amet risus nullam eget. Bibendum enim facilisis gravida neque convallis a cras semper. Nisl pretium fusce id velit. Orci eu lobortis elementum nibh. Quis enim lobortis scelerisque fermentum dui. Tincidunt dui ut ornare lectus sit amet. Id aliquet lectus proin nibh nisl condimentum id. Arcu dui vivamus arcu felis bibendum. Suspendisse potenti nullam ac tortor.
Quisque egestas diam in arcu cursus euismod. Aliquet nec ullamcorper sit amet risus. Blandit volutpat maecenas volutpat blandit aliquam etiam. Accumsan lacus vel facilisis volutpat est velit. Suspendisse in est ante in nibh mauris. Integer enim neque volutpat ac tincidunt vitae. Sit amet nulla facilisi morbi. Elit scelerisque mauris pellentesque pulvinar pellentesque habitant morbi tristique senectus. Ut ornare lectus sit amet. Risus viverra adipiscing at in tellus integer feugiat. Diam maecenas sed enim ut sem viverra aliquet eget. Ultrices in iaculis nunc sed augue lacus viverra. Mauris in aliquam sem fringilla ut. Adipiscing bibendum est ultricies integer quis. Tortor id aliquet lectus proin nibh. Interdum velit laoreet id donec ultrices tincidunt. Ante in nibh mauris cursus mattis molestie a. Cursus eget nunc scelerisque viverra mauris. Ultrices sagittis orci a scelerisque. Tempus egestas sed sed risus pretium.

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

7

イメージの操作

次も参照:

- イメージの挿入
  レポートのヘッダー、フッターまたは本文には、イメージを追加できます。
- イメージの書式設定
  レポートでのイメージの表示について書式を設定できます。

イメージの挿入

レポートのヘッダー、フッターまたは本文には、イメージを追加できます。

イメージをレポートに追加した後、イメージの書式を設定できます。次のイメージ書式をレポートに挿入できます。

- Portable Network Graphics: `.png`
- Graphics Interchange Format (GIF): `.gif`
- Joint Photographic Experts Group (JPEG): `.jpg`

> **ノート**
>
> イメージはレポートとともに保存されます。結果的に、レポートのレンダリング速度は、イメージのサイズに影響を受ける可能性があります。

イメージを挿入するには:

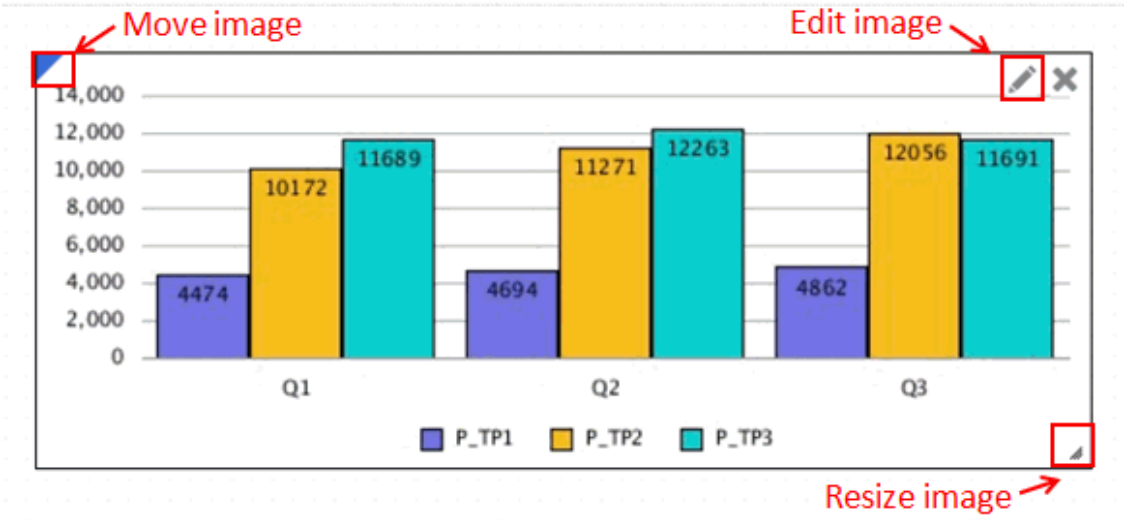
1. 次のいずれかを実行します。
   - ツールバーで、  をクリックして**「イメージ」**を選択します。
   - 空白のレポート・ページで、  をクリックします。
   - レポートのヘッダー、フッターまたは本文で右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**、**「イメージ」**の順に選択します。
2. 参照してイメージを選択し、**「OK」**をクリックしてアップロードします。

イメージの書式設定

レポートでのイメージの表示について書式を設定できます。

イメージをレポートに配置した後に、イメージの移動またはサイズ変更、イメージの横位置と縦位置の指定、イメージの周囲への境界線の追加を実行できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



イメージを移動するには、イメージ・フレームの左上隅にマウス・カーソルを重ね、必要な場所にドラッグします。

イメージのサイズを変更するには、イメージの右下隅にマウス・カーソルを重ね、必要なサイズにドラッグします。イメージは新しいサイズにあわせて自動的に伸縮します。

イメージの横位置と縦位置を指定するには、イメージを選択し、プロパティ・パネルで をクリックします。**「配置」**、**「位置合せ」**および**「インデント」**フィールドを使用して、横位置と縦位置を調整します。

イメージの周囲に境界線を配置するには:

1. イメージの をクリックします。
2. プロパティ・パネルで**「境界」**をクリックし、境界線のオンとオフを切り替えます。
3. **オプション:** 色のドロップダウンをクリックして境界線の色を選択します。デフォルト色から選択するか、カスタム色を選択できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

8

チャートの操作

次も参照:

- チャートについて
  チャートは、レポート上のグリッドのレポート・データのグラフィカルな表現です。
- チャートの挿入
  チャートでは、データがグリッドから動的に取得されるため、グリッドのデータが変更されるとチャートは自動的に更新されます。チャートを作成して、レポートのデータをグラフィカルに表現します。
- チャート・デザイナについて
  チャート・デザイナには、レポートのルック・アンド・フィールに使用する様々な領域があります。
- チャート・デザイナ・ビュー
  チャート・デザイナ・ビューのタブを使用すると、チャートのプレビュー、チャート・データの定義、およびチャートのデータ・ソースの編集ができます。
- チャート・プロパティ
  チャート・デザイナのプロパティ・パネルには、オプションとナビゲーション・ボタンが表示されます。
- チャート・データ・ポイントのサイズおよびラベル表示の理解
- チャートの二重 Y 軸の理解
  チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプが混在する(たとえば、通貨とパーセントなど)場合は、第 2 の垂直軸(セカンダリ Y 軸)に 1 つ以上のデータ系列を表示できます。
- ウォーターフォール・チャートについて
  これらのチャートには、正の値と負の値の現在までの合計が表示され、これは、初期値からどのように正味の値に達したかを表示する際に役立ちます。
- 散布図およびバブル・チャートについて
  バブル・チャートは散布図のバリエーションです。ここではデータ・ポイントがバブルに置き換わっており、バブルのサイズで追加のディメンションを表しています。
- ツリーマップ・チャートおよびサンバースト・チャートについて
  この項では、データ・パターンの検出とデータ量の比較に役立つ、ツリーマップ・チャートとサンバースト・チャートという 2 つの新しいチャート・タイプを紹介します。
- ゲージ・チャートについて
  この項では、指定した範囲内のデータ値を識別できるゲージ・チャート・タイプの使用について説明します。最大または最小範囲に該当するデータ値を比較できます。

チャートについて

チャートは、レポート上のグリッドのレポート・データのグラフィカルな表現です。

様々なチャート・タイプを使用して、トレンドや傾向を示したり、または差異や改善点を強調表示することができます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

チャートのタイプ

表 8-1 サポートされているチャートのタイプ

チャート・タイプ	グリッドでのサポート	表でのサポート
棒: 棒、積上げ棒、横棒、積上げ横棒があります	はい	はい
折れ線: 折れ線、積上げ折れ線、横折れ線、積上げ横折れ線があります	はい	はい
領域: 領域、積上げ領域、横領域、積上げ横領域があります	はい	はい
組合せ: 組合せ、積上げの組合せ、横の組合せ、横積上げの組合せがあります	はい	はい
ウォーターフォール	はい	いいえ
円: 円、ドーナツがあります	はい	はい
ピラミッド	はい	はい
極座標: 極座標、極棒、極折れ線、極塗りつぶしがあります	はい	はい
レーダー: レーダー折れ線、レーダー塗りつぶしがあります	はい	はい
散布	はい	いいえ
バブル	はい	いいえ
ツリーマップ	はい	いいえ
サンバースト	はい	いいえ
ゲージ	はい	はい

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、Narrative Reporting でチャートを作成する方法を学習します。

 -- Narrative Reporting でのチャートの作成.

チャートの挿入

チャートでは、データがグリッドから動的に取得されるため、グリッドのデータが変更されるとチャートは自動的に更新されます。チャートを作成して、レポートのデータをグラフィカルに表現します。

チャートを挿入するには:

1. 次のいずれかを実行します。
   - ツールバーで、  をクリックして**「チャート」**を選択します。
   - 空白のレポートで、  をクリックします。
   - レポートの本文で右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**、**「チャート」**の順に選択します。
2. **「チャートの設定」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

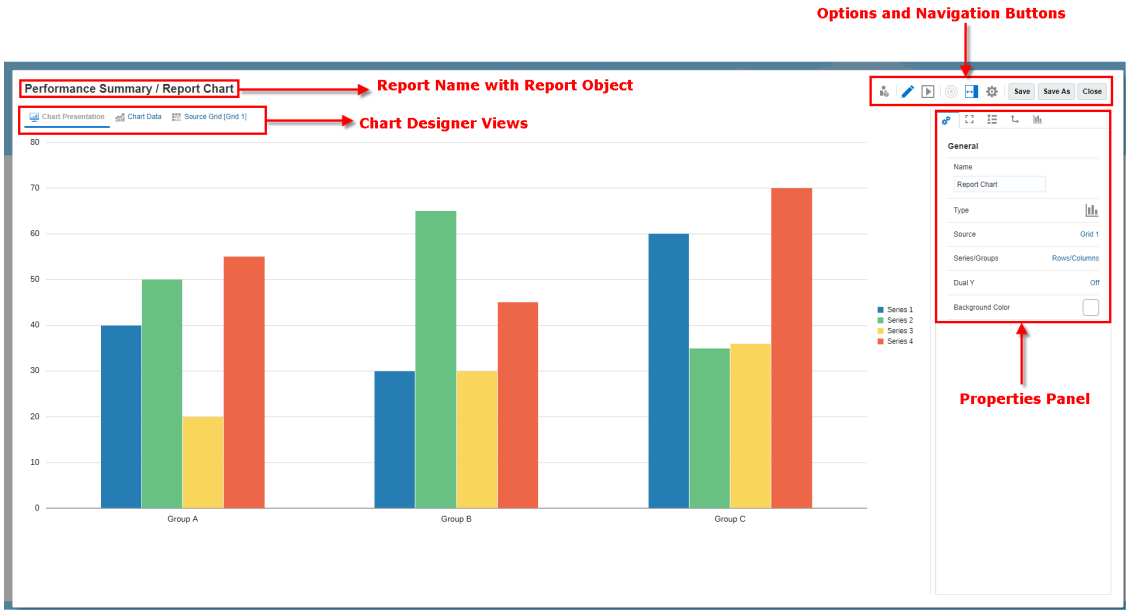
3. **「ソースの選択」**で、次のいずれかの操作を実行します。
   - **「モデル」**をクリックし、**「非表示のシート」**で保存される新しいグリッドを作成するためのデータ・ソースを選択します。
   - **「既存のグリッド」**をクリックし、チャートのデータ・ソースとして使用する、レポートにすでに存在しているグリッドを選択します。
4. **チャート・プロパティ**のオプションを使用して、チャートを変更します。

チャートがチャート・デザイナに表示されます。

チャート・デザイナについて

チャート・デザイナには、レポートのルック・アンド・フィールに使用する様々な領域があります。

チャート・デザイナには次の領域があります。



- ビューのタブを使用すると、チャート・プレゼンテーション、チャート・データおよびソース・グリッドのビューを切り替えることができます。チャート・デザイナ・ビューを参照してください。
- 「プロパティ」パネルには、一般、描画領域、タイトル、軸および凡例のプロパティが表示される他、チャートの各データ・セットに対するオプションも表示されます。チャート・プロパティを参照してください。
- ツールバーを使用すると、編集モードとプレビュー・モードの切替え、プロパティ・パネルの表示または非表示、および編集する様々なレポート・オブジェクトの選択ができます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

チャート・デザイナ・ビュー

チャート・デザイナ・ビューのタブを使用すると、チャートのプレビュー、チャート・データの定義、およびチャートのデータ・ソースの編集ができます。

チャート・プレゼンテーション

チャート・プレゼンテーション・ビューを使用すると、現在のプロパティ設定でチャートがどのように表示されるかを確認できます。チャート・プロパティを調整してチャートをプレビューできます。

チャート・データ

チャート・データ・ビューを使用すると、チャートに含める行と列をグリッドから選択できます。チャート・データの定義時に、表示するデータを含むコントロール・グリッドから行と列を識別します。データ範囲に対して連続または非連続の行および列を選択することによって、データまたは式の行と列を参照できます。

棒グラフ、折れ線グラフまたは組合せチャートを設計している場合は、グリッドの複数の行または列を参照できます。円グラフを設計している場合は、**「シリーズ/グループ」**プロパティの設定内容に応じて、グリッドの単一の行または列を参照できます。**「シリーズ/グループ」**が行/列に設定されている場合は、円グラフに対して単一の列を選択します。**「シリーズ/グループ」**が列/行に設定されている場合は、円グラフに対して単一の行を選択します。組合せチャートを定義する場合は、棒および折れ線に対するデータ行および列を指定します。

チャートには、展開される集計行または集計列が表示されます。たとえば、10 個の子メンバーを取得する関数を含む行を指定した場合、チャートには、10 個のデータ・セット、つまり子メンバーごとに 1 つのデータ・セットが表示されます。

チャート・データを定義するには:

1. **「チャート・データ」**タブをクリックします。
2. チャートに含める行および列のヘッダーをクリックします。

ソース・グリッド

ソース・グリッドを使用すると、チャートの基になるグリッドを編集できます。データ・ソースを別のグリッドに変更するか、またはソース・グリッドのディメンション・レイアウト、メンバー選択およびプロパティを編集できます。また、ソース・グリッドに式行と式列を作成することもできます。

チャート・プロパティ

チャート・デザイナのプロパティ・パネルには、オプションとナビゲーション・ボタンが表示されます。

一般プロパティ

一般プロパティはチャート全体に影響します。一般プロパティを使用して次を編集します。

- チャート名またはデータ・ソースを編集します。
- 棒や散布といったチャート・タイプを編集します。
- **「行/列」**(各行が、棒または折れ線などの異なるチャート要素です)または**「列/行」**(各列が異なるチャート要素です)別に、凡例要素に対するグループ化を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 次のようなチャート・タイプ固有のプロパティを設定します。
  - **「棒」**、**「折れ線」**、**「領域」**および**「組合せ」**チャート・タイプの**「向き」**および**「積上げ」**。
  - **「円」**、**「極座標」**および**「レーダー」**チャート・タイプの**「サブタイプ」**。
- 二重 Y 分割を切り替えます。チャートの二重 Y 軸の理解を参照してください。
- チャートの背景色を設定します。背景色は、境界線から境界線までチャート領域全体に適用されます。
- デフォルトでは、**「ゼロ値のプロット」**は True に設定されています。この設定から、ゼロ・データ値がチャートに描画されるのを表示できます。

描画領域

描画領域プロパティは、チャートのビジュアル表示に影響します。描画領域プロパティを使用して次のことができます。

- チャートのタイトルおよびサブタイトルの表示または非表示。
- チャートのタイトルおよびサブタイトルのスタイル、サイズ、位置合せ(左、中央、右)およびフォントの編集。
- 背景色の調整。
- グリッド線の表示(水平、垂直、またはその両方)。
- グリッド線の色の調整。

凡例

凡例プロパティは、チャートの凡例のビジュアル表示に影響します。凡例の位置の変更の他、凡例のタイトルの表示、背景色および境界線色の変更、チャート・ラベルのフォントと書式の編集ができます。

チャート軸

チャート軸プロパティは、チャートの軸ラベルのビジュアル表示に影響します。X 軸のタイトルとラベル、およびチャートのプライマリ Y 軸とセカンダリ Y 軸を作成できます。Y 軸のテキストと数値の書式の編集、および両方の Y 軸のカスタム範囲の定義もできます。

> **ノート**
>
> Y 軸のカスタム・スケールは、書式設定されていない基礎となるデータ値ではなく、グリッドに表示される、数値書式設定スケールを適用したデータ値に基づきます。

カスタム範囲について

Y 軸があるチャート・タイプの場合、**「固定」**カスタム範囲を定義して、軸の開始番号と終了番号および数値間隔を変更できます。たとえば、「最小」、「最大」および「ステップ」の値として 40、60 および 3 を入力することで、40 から 60 の値を 3 ステップの間隔で表示できます。

レーダー・チャートおよび極チャート以外の Y 軸があるチャート・タイプの場合、カスタム範囲を指定して、最小および最大の描画データ値に適用される、**値**または**パーセント**のいずれかのオフセットを動的に適用できます。ステップは、値またはパーセントによるオフセットのためのユーザー入力ではなく、自動で計算されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

値によるオフセット

「値によるオフセット」の場合、指定した最小が、描画された最小データ値から減算され、指定した最大が、描画された最大データ値に追加されます。最小および最大と同様に、軸ステップ値も切上げまたは切捨てできます。

例:

「値によるオフセット」で、次のように設定します:

最小: 10000

最大: 10000

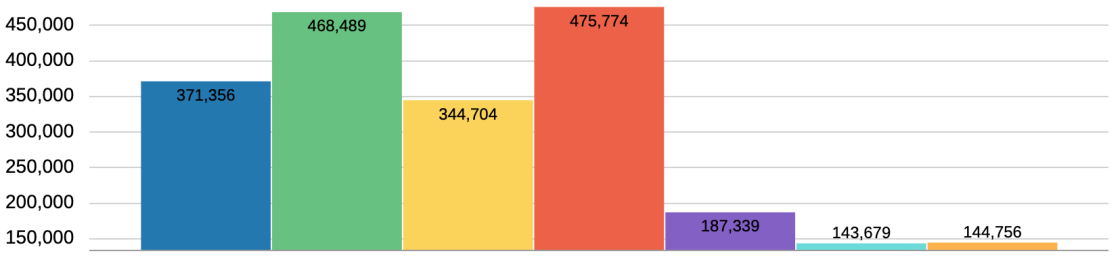
最小描画データ値: 143,679

最大描画データ値: 475,774

最小: 143,679 - 10,000 = 133,679

最大: 475,774 + 10,000 = 485,774

> **ノート**
>
> 最小および最大と同様に、軸ステップ値も切上げまたは切捨てできます。



パーセントによるオフセット

- 指定した最小パーセントは最小と最大の描画データ値の相違に適用され、最小描画データ値から減算されます。
- 指定した最大パーセントは最小と最大の描画データ値の相違に適用され、最大描画データ値に加算されます。

最小および最大と同様に、軸ステップ値も切上げまたは切捨てできます。

例:

パーセントによるオフセットで、次のように設定します:

最小: 20%

最大: 20%

最小描画データ値: 143,679

最大描画データ値: 475,774

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

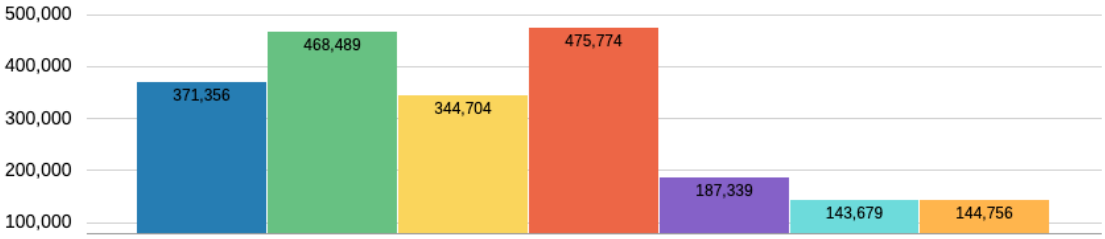
最小と最大の描画データ値の相違:

475,774 – 143,679 = 332,095

最小: 143,679 - (332,095 x 20%) = 77,260

最大: 475,774 + (332,095 x 20%) = 542,193

> **ノート**
>
> 最小および最大と同様に、軸ステップ値も切上げまたは切捨てできます。



オプション

チャート・オプションでは、塗りつぶしのスタイルと色など、チャートの各データ・セットに対するビジュアル・プロパティを設定できます。プロパティは、選択したチャートのタイプに固有です。たとえば、棒グラフの場合、棒の幅、ラベルおよび境界線を設定できます。

> **ノート**
>
> Redwood の操作性が Cloud EPM でデフォルト・テーマとして設定されている場合、Redwood テーマの色は既存のレポートのチャートのデフォルト色に影響します。カスタム・チャート・テーマを有効にして定義すると、Redwood の色テーマが上書きされます。デフォルトのカスタム・チャート・テーマの設定の詳細は、レポート・デザイナ・ツールバーを参照してください。

最大データ・セット

このプロパティを使用して、チャートのデータ・セットの最大数を指定できます。各データ・セットには独自の色と塗りつぶし設定を指定できます。

デフォルトのデータ・セット数は 12 です。

たとえば、**最大データ・セット**・プロパティが 24 に設定されていた場合、チャートの各データ・セットには独自の色と塗りつぶしを定義できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> - 色や塗りつぶしなど、データ・セット固有の選択を設定できるデータ・セットの最大数は、以前は 12 でした。
> - たとえば、チャートに 24 のデータ・セットが表された場合、データ・セット 1 と 13 の色と塗りつぶしは同じになり、2 と 14 なども同様になります。

ラベル位置

このプロパティによって、データ・ラベルがチャート内の要素との関連で表示される方法および場所が定義されます。

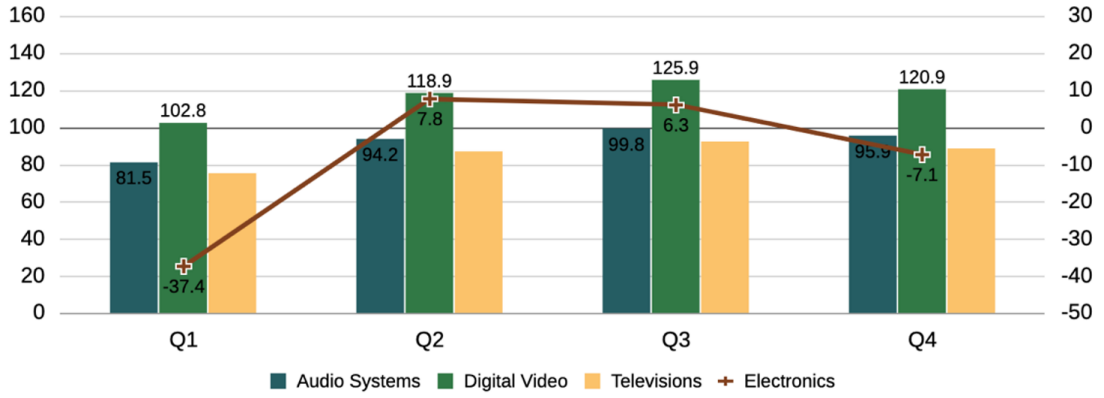
たとえば、棒グラフで使用可能はラベル位置は、**「自動」**、**「なし」**、**「中央」**、**「棒端内側」**および**「棒端外側」**です。

すべてのチャート・タイプに対して、**「オプション」**セクションの**「ラベル位置」**を設定すると、チャート内のすべてのデータ・セット要素に適用されます。

棒グラフ、折れ線グラフおよび組合せチャートの場合、**「シリーズ」**セクションの各データ・セットに**「ラベル位置」**を設定できます。**「自動」**以外の選択は、選択した**「データ・セット」**要素に適用されます。

たとえば、この組合せチャートは、**「シリーズ」**レベルで次の**「ラベル位置」**が設定されています。

- **Audio Systems** (データ・セット 1): **「自動」**(**「自動」**の**「オプション」**ラベル位置設定が使用されます)
- **Digital Video** (データ・セット 2): **「棒端外側」**
- **Televisions** (データ・セット 3): **「なし」**
- **Electronics** (データ・セット 4): **線の下**



Y 軸の組合せ

一部のチャート・タイプでは、プロパティ「Y 軸の組合せ」を使用すると、プライマリおよびセカンダリ Y 軸とデータ・ポイントの描画を組み合せて、プライマリ Y 軸のみの棒および折れ線の両方の描画を反映できます。

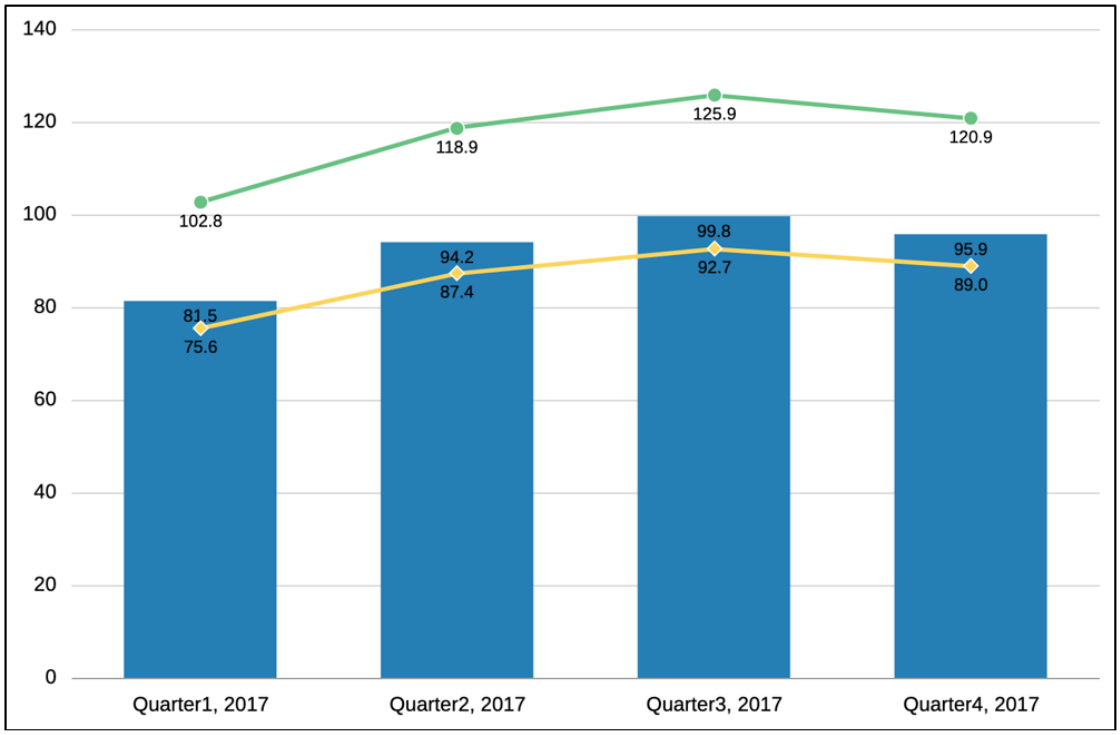
このプロパティは、棒と折れ線のデータ値のスケーリングが同様であり、同じ数値範囲に収まる場合に最も適しています。たとえば、「Y 軸の組合せ」プロパティが有効になっている次の組

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

合せチャートでは、棒および折れ線の両方のデータ値がプライマリ Y 軸に対応し、セカンダリ Y 軸は表示されていないことに注意してください。

プロパティは次のチャート・タイプに適用します。

- **棒**
- **折れ線**
- **領域**
- **組合せ**



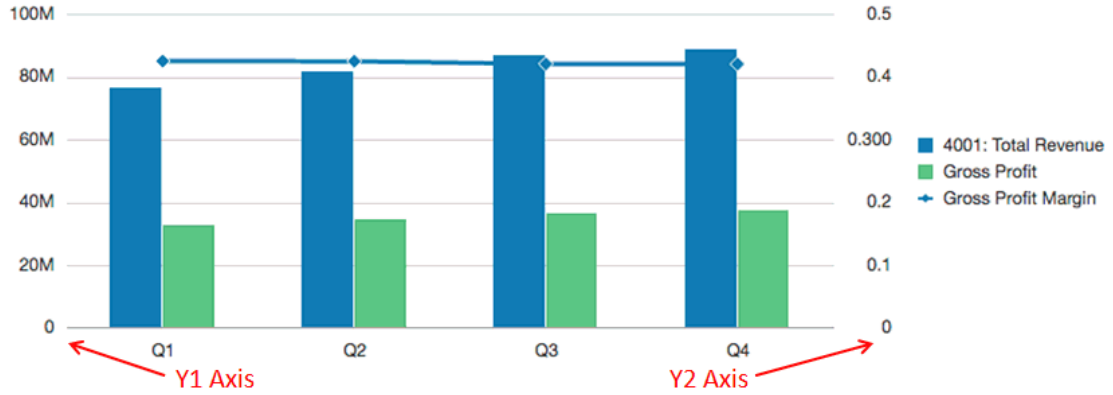
チャート・データ・ポイントのサイズおよびラベル表示の理解

チャート・データ値および X 軸および凡例ラベルの表示は、チャート作成エンジンによる自動サイズ変更のために切り捨てられる場合があります。この動作はチャート・タイプによって異なり、チャート・サイズとフォント・サイズおよびデータ・ポイント値とメンバー・ラベルの長さに依存します。チャート・データ・ポイントおよび長い凡例ラベルがある場合、チャートのサイズ変更またはフォント・サイズの縮小(あるいはその両方)によって適切に表示されるようにする必要があることがあります。数値データ・ポイント値が長い場合、数値の長さを短くするためにスケールの適用が必要になることがあります。また、X 軸および凡例ラベルが長い場合、チャートのソース・グリッドでメンバー名を短縮する必要があることがあります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

チャートの二重 Y 軸の理解

チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプが混在する(たとえば、通貨とパーセントなど)場合は、第 2 の垂直軸(セカンダリ Y 軸)に 1 つ以上のデータ系列を表示できます。



セカンダリ Y 軸のスケールは、関連付けられているデータ系列の値が反映されます。

セカンダリ Y 軸は任意の折れ線および棒のチャート・タイプで使用されますが、最も一般的には組合せチャート・タイプで使用され、セカンダリ Y 軸で表されるデータ系列を区別するのに便利です。たとえば、プライマリ Y 軸は棒グラフ用、セカンダリ Y 軸は折れ線グラフ用にできます。

また、セカンダリ Y 軸を分割二重チャートとして表現し、セカンダリ Y 軸とそのデータ系列を元のチャートの下に表示できます。この場合は、棒または折れ線のチャート・タイプを使用できます。

セカンダリ Y 軸があるチャートを設定するには、2 つの場所に対する変更が必要です。

- チャートの一般プロパティで、**二重 Y 分割の切替え**を次のいずれかに設定します。
  - **オン** - 同じチャートにセカンダリ Y 軸を作成します。
  - **分割二重** - セカンダリ Y 軸をチャートの下に表示します。

> **ⓘ ノート**
>
> 組合せチャート・タイプを使用する場合、「二重 Y」プロパティは「分割二重」(オン/オフ)です。

- チャート・データ・ビューで、セカンダリ Y 軸に含めるデータの行および列を選択します。

セカンダリ Y 軸の使用方法について、いくつかの例を示します。両方の例で、ソース・グリッドでは、パーセントで表示される「Gross Profit Margin」に加え、「Revenue」および「Gross Profit」の行に「Accounts」 があります。図 1 は、次の例で使用するチャートのソース・グリッドを示しています。

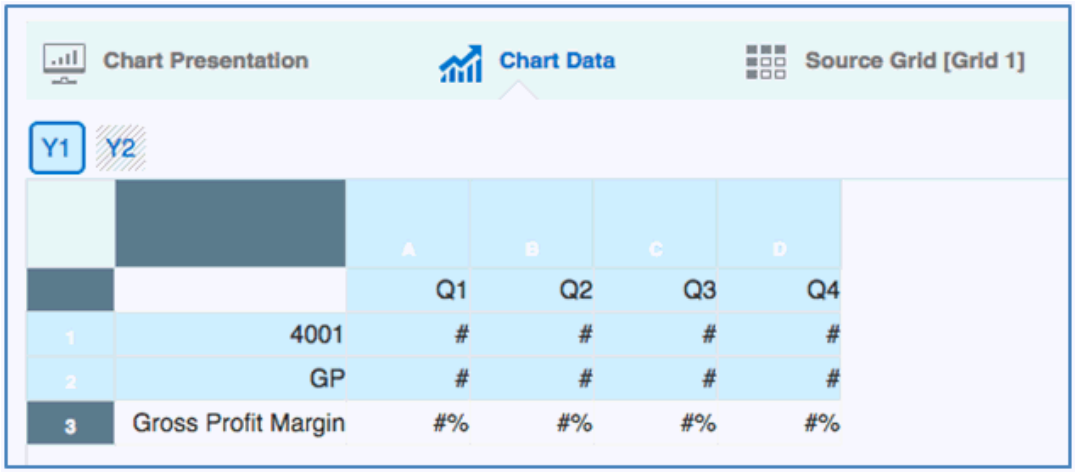
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-1 二重 Y のソース・グリッドの例

	Q1	Q2	Q3	Q4
4001: Total Revenue	76,932,643	82,181,618	87,018,879	89,252,106
Gross Profit	32,825,598	35,039,613	36,737,003	37,656,853
Gross Profit Margin	43%	43%	42%	42%

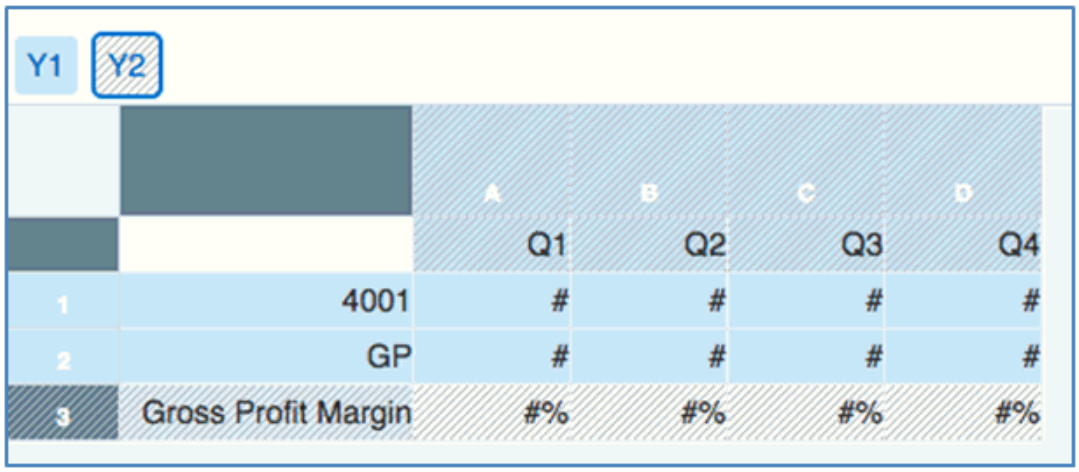
例 1: 「二重 Y」=「オン」(「分割二重」=「オフ」)

1. すべてのデータ系列を同じチャートに表示するため、チャートの一般プロパティで、**チャート・タイプ**を**「組合せ」**に変更します。
2. **「分割二重 Y」**を**「オフ」**に設定します。
3. チャート・データ・ビューで、プライマリ(Y1)軸について行と列を選択します。この例では、行 1 と 2、および列 A から D を選択します。

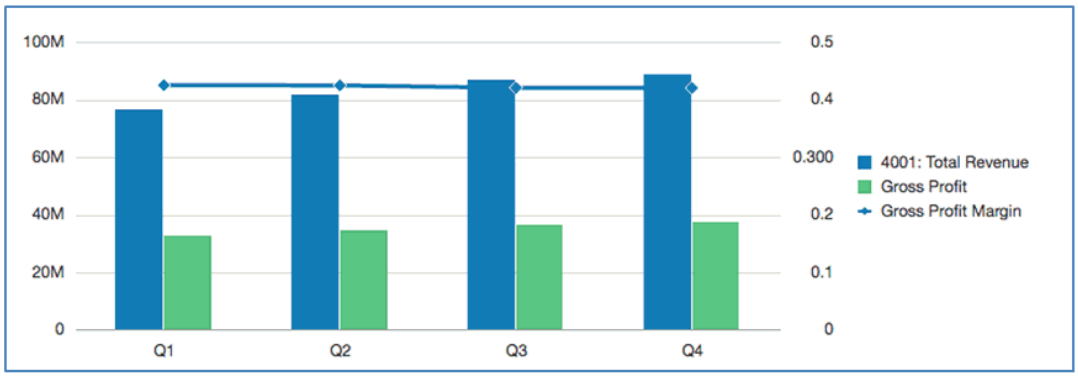


4. **「Y2」**ボタンをクリックし、セカンダリ Y 軸について行と列を選択します。この例では、行 3 および列 A から D を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

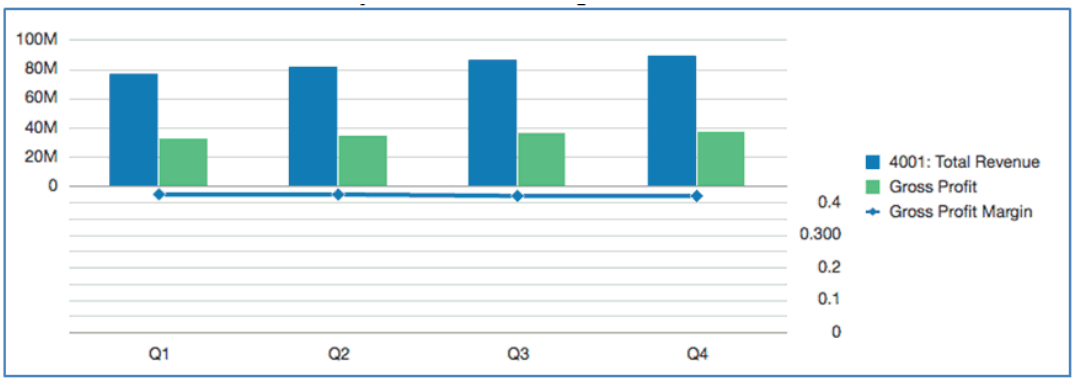


5. チャートをプレビューします。折れ線として表された「Gross Profit Margin」の値が、右側のセカンダリ Y 軸に反映されていることに注意してください。「Total Revenue」および「Gross Margin」の値は、左側のプライマリ Y 軸に反映されています。



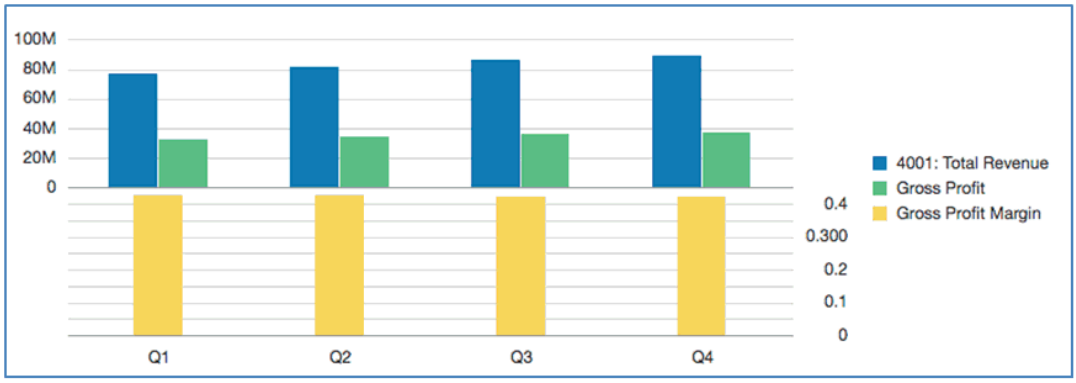
例 2: 「二重 Y」=「分割二重」(「分割二重」=「オン」)

1. 例 1: 「二重 Y」=「オン」(「分割二重」=「オフ」)と同じチャート、データおよび選択を使用して、チャートの一般プロパティで、**「分割二重 Y」**を**「オン」**に設定します。
2. チャートをプレビューします。折れ線として表された「Gross Profit Margin」の値が、棒の系列の下にある右側のセカンダリ Y 軸に反映されていることに注意してください。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. **チャート・タイプ**を**「棒」**に変更し、チャートをプレビューします。チャートにすべてのデータ系列が棒として表示され、「Gross Profit Margin」が下に表されていることに注意してください。

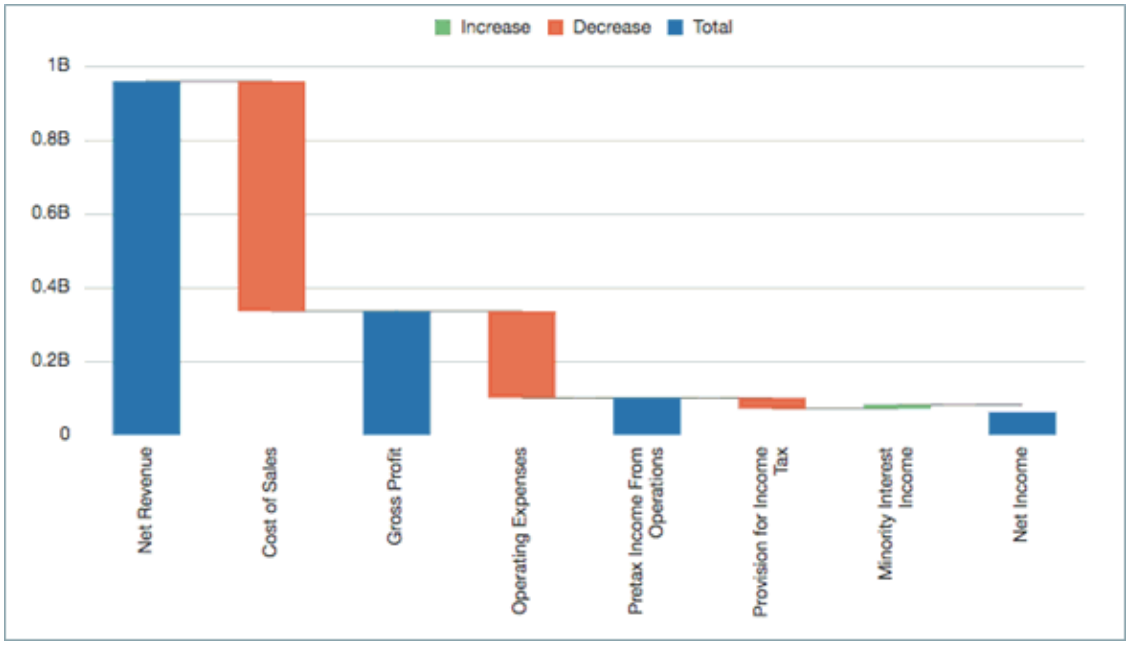


ウォーターフォール・チャートについて

これらのチャートには、正の値と負の値の現在までの合計が表示され、これは、初期値からどのように正味の値に達したかを表示する際に役立ちます。

図 1 は **Net Revenue** から始まり、**Net Income** に達するまでの正および負に寄与する項目を示しています。

図 8-2 ウォーターフォール・チャートの例



ウォーターフォール・チャートのデータは通常、グリッド行データ値に単一の列で描画され、行の要素は X 軸に描画されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「シリーズ/グループ」**のデフォルト設定は、「列/行」です。
- X 軸のデータがグリッド列に表示される場合は、かわりに「行/列」が使用されます。

正の値、負の値および合計

通常、EPM データはグリッドに正の値として表示されます。データ値を、負として(例: Cost of Sales および Operating Expenses)または合計として(例: Gross Profit および Net Income)手動で設定する必要があります。

データ値を負として設定するには:

1. 負として設定するデータ値を含む行または列を選択します。
2. 行ヘッダーで、下矢印をクリックして**「負としてプロット」**を選択します。
   行または列に、負の値であることを示すマイナス記号が表示されます。

図 8-3 ウォーターフォールの負のデータ値

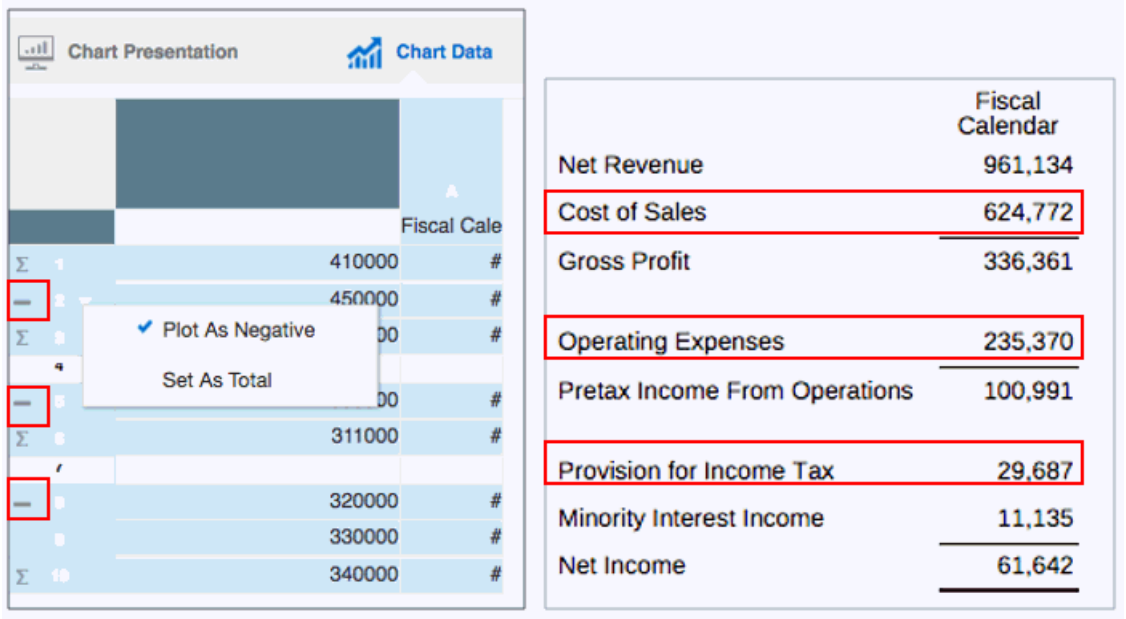


図 2 は、負のデータ値として設定された Cost of Sales、Operating Expenses および Provision for Income Tax の例を示しています。

データ値を合計として設定するには:

1. 合計として設定するデータ値を含む行または列を選択します。
2. 行ヘッダーで、下矢印をクリックして**「合計として設定」**を選択します。
   行または列に、合計の値であることを示す 記号が表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-4 ウォーターフォールの合計のデータ値

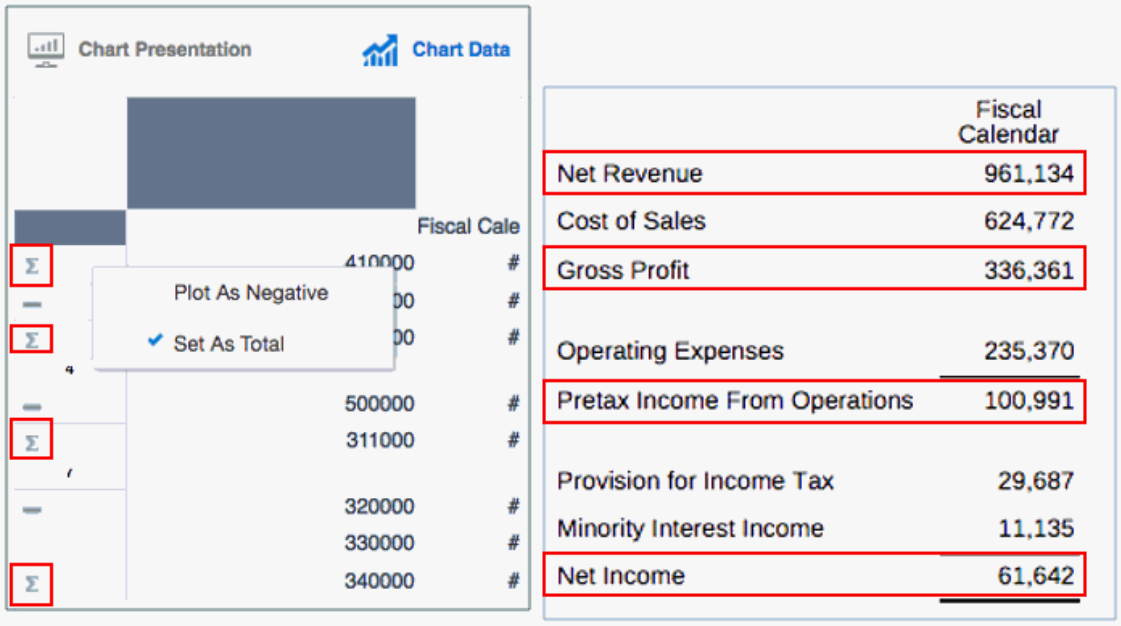


図 3 は、合計のデータ値として設定された Net Revenue、Gross Profit、Pretax Income From Operations および Net Income の例を示しています。

プロパティ

ウォーターフォール・チャートに対して次のプロパティを設定できます。

- 増加、減少および合計の棒の色、および接続線の色とスタイルを設定します。
- ラベル位置を設定し、テキストと数字の書式を設定します。すべての棒に対するラベルを表示するために、**「自動」**または**「中央」**のいずれかの設定を使用します。
- 棒の幅と境界線を設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-5 ウォーターフォール・チャートの最終的な例

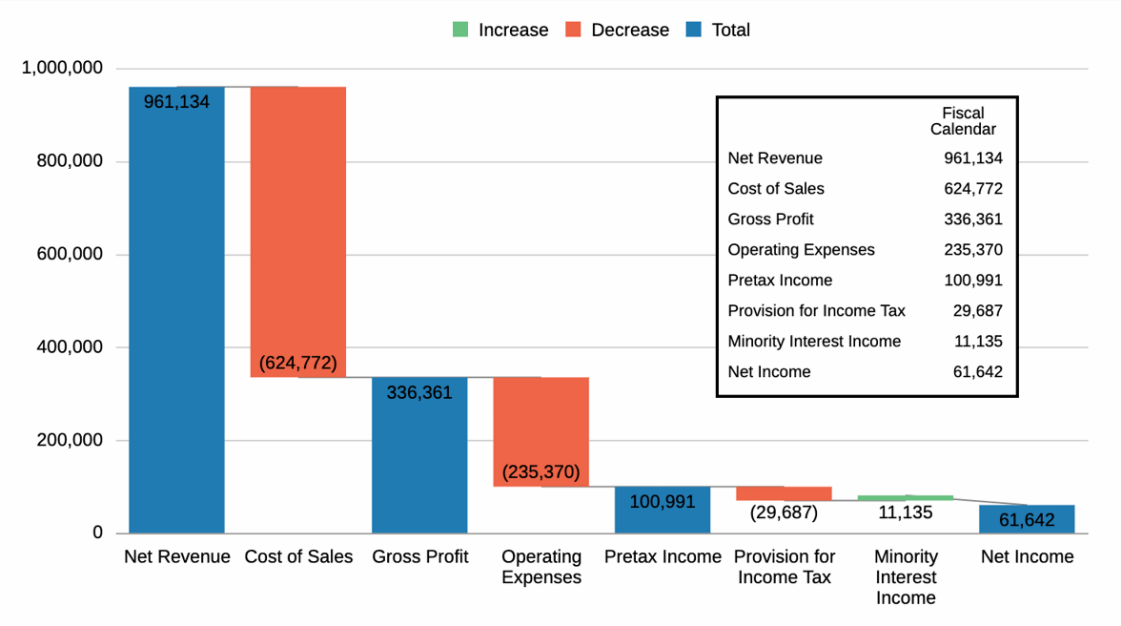


図 4 は、対応するデータ値が挿入されたウォーターフォール・チャートの最終的な例を示しています。

> ⓘ **ノート**
>
> サンプル・レポート 2b (拡張チャート)には、バブル・チャートの例が含まれています。

散布図およびバブル・チャートについて

バブル・チャートは散布図のバリエーションです。ここではデータ・ポイントがバブルに置き換わっており、バブルのサイズで追加のディメンションを表しています。

散布図について

次の 2 つの軸があります。1 つは水平軸に一連の数値データが示され、もう 1 つは垂直軸に 2 番目の一連の数値が示されます。一連の製品およびサービスの実績とプランのデータを比較する散布図の例を見ていきましょう。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-6 散布図およびデータ

	Actual	Plan
Audio Systems	206,879,190	377,699,937
Digital Video	274,429,234	489,043,637
Televisions	180,365,337	339,572,238
Installation	117,737,452	189,850,043
Service Contracts	85,418,722	151,205,801
Repair	96,303,770	154,011,439

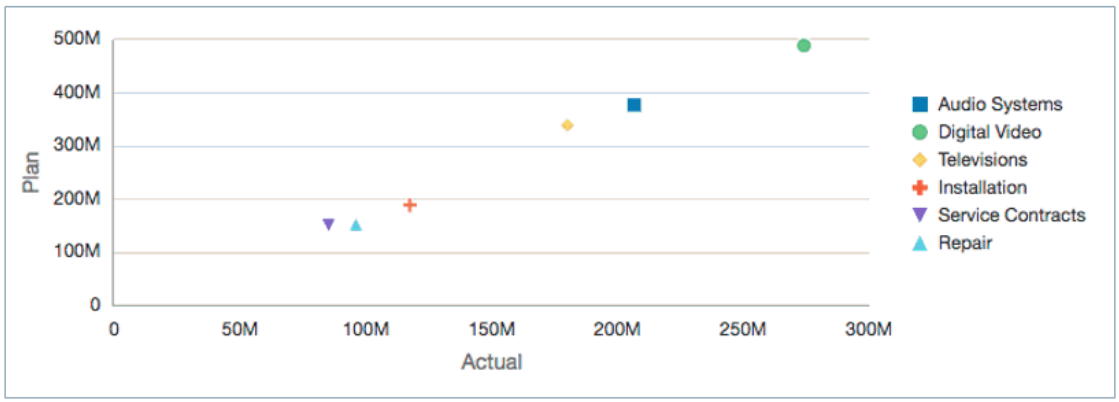


図 1 に、ある電器店の製品およびサービスについての実績とプランのデータ・セットを示しています。その下の散布図では、実績データが水平 X 軸に描画され、プラン・データが垂直 Y 軸に表示されています。

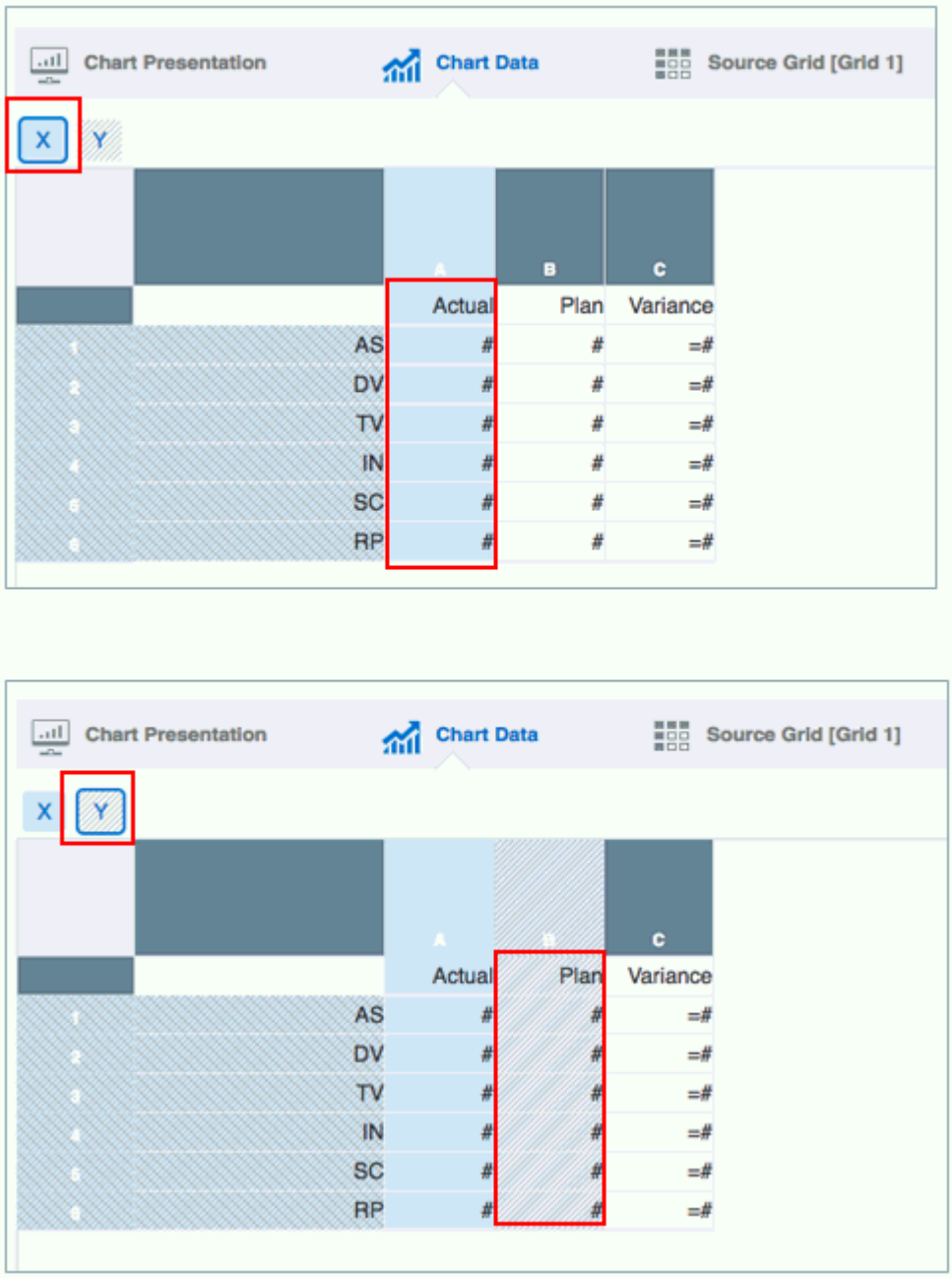
散布図を作成するには:

1. 散布図をレポートに挿入します。
2. **「チャート・データ」**タブで、**「X」**ボタンを選択し、X 軸に描画するデータを強調表示します。
3. **「Y」**ボタンを選択し、Y 軸に描画するデータを強調表示します。
4. オプションで、**軸のプロパティ**で軸のラベルを設定します。
5. オプションで、**散布図のプロパティ**でマーカーの色、スタイルおよびサイズを設定します。

図 2 に、X 軸への実績データと Y 軸へのプラン・データの設定を示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-7 散布図の設定



バブル・チャートについて

バブル・チャートの例を見ていきましょう。ここでは前述の散布図と同じ実績とプランのデータを使用し、2 つのデータ・セットの差を 3 番目のデータ・セットとして追加しています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-8 バブル・チャートおよびデータ

	Actual	Plan	Variance
Audio Systems	206,879,190	377,699,937	170,820,747
Digital Video	274,429,234	489,043,637	214,614,403
Televisions	180,365,337	339,572,238	159,206,901
Installation	117,737,452	189,850,043	72,112,591
Service Contracts	85,418,722	151,205,801	65,787,079
Repair	96,303,770	154,011,439	57,707,669

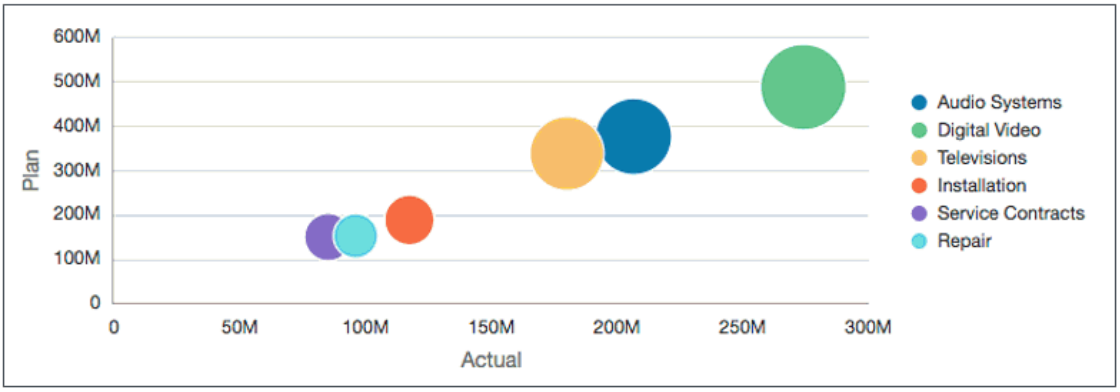


図 3 に、ある電器店の製品およびサービスについての実績とプランのデータ・セットを示し、2 つの差異を 3 番目の列に表示しています。その下のバブル・チャートでは、実績データが水平 X 軸に描画され、プラン・データが垂直 Y 軸に表示され、差異データはバブルのサイズで表されています。

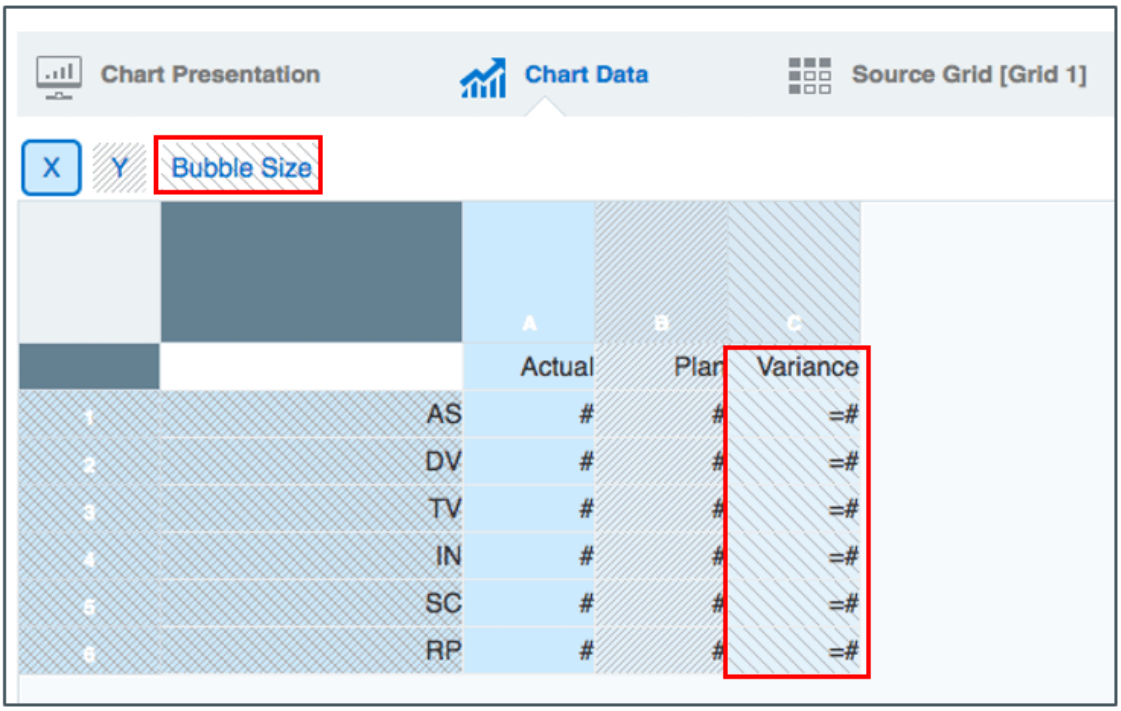
バブル・チャートを作成するには:

1. バブル・チャートをレポートに挿入します。
2. **「チャート・データ」**タブで、**「X」**ボタンを選択し、X 軸に描画するデータを強調表示します。
3. **「Y」**ボタンを選択し、Y 軸に描画するデータを強調表示します。
4. **「バブル・サイズ」**ボタンを選択し、バブル・サイズに使用するデータを強調表示します。
5. オプションで、**軸のプロパティ**で軸のラベルを設定します。
6. オプションで、**バブルのプロパティ**でバブルの色およびマーカーのスタイルを設定します。

図 4 に、バブル・サイズとしての差異の設定を示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 8-9 バブル・チャートの設定



> **ノート**
>
> サンプル・レポート 8 (ウォーターフォールおよびバブル・チャート)には、バブル・チャートの例が含まれています。

ツリーマップ・チャートおよびサンバースト・チャートについて

この項では、データ・パターンの検出とデータ量の比較に役立つ、ツリーマップ・チャートとサンバースト・チャートという 2 つの新しいチャート・タイプを紹介します。

ツリーマップ・チャート

ツリーマップ・チャートは、様々なサイズと色のネストされた長方形を使用して階層データを示すデータ視覚化です。各レベルの階層は長方形(通常はブランチと呼ばれます)として表され、そこに他の長方形(リーフ)が含まれます。ツリーマップを構成する各長方形内の領域は、対応するデータ・ポイントでの定量値に基づいて強調表示されます。

サンバースト・チャート

サンバースト・チャートによっても階層データ構造が視覚化されます。サンバースト・チャートは、内側の円がより深い階層レベルのリングに囲まれた構成となります。各セグメントの角度は、値に比例するか、その内側のセグメントのもとで均等に分割されます。

これらのチャート・タイプのどちらを使用しても、データ・パターンの発見やデータ量の比較が容易になります。レポートでは、メンバーおよび関数を単一ディメンションから選択し、ツ

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

リーマップ・チャートまたはサンバースト・チャートで階層を視覚化します。必要に応じて、チャート・プロパティを設定し、要素の色を定義することもできます。

> **Note**
>
> - 描画される階層要素は、**「チャート・データ」**で選択された単一列を持つグリッド行に存在する必要があります。「チャート・データ」で複数の列が選択された場合、最初の列のみがチャートで値を描画するために使用されます。
> - グリッド行の選択には、1 つのディメンションの個々のメンバーおよびメンバー選択関数を含めることができます。どちらのチャート・タイプでレンダリングされる階層も、定義されたメンバー選択と**「チャート・データ」**で選択された行に基づきます。
> - グリッド行で複数のディメンションが定義されている場合、チャート結果は階層形式で表示されないため、単一ディメンションのみをグリッド行で定義する必要があります。

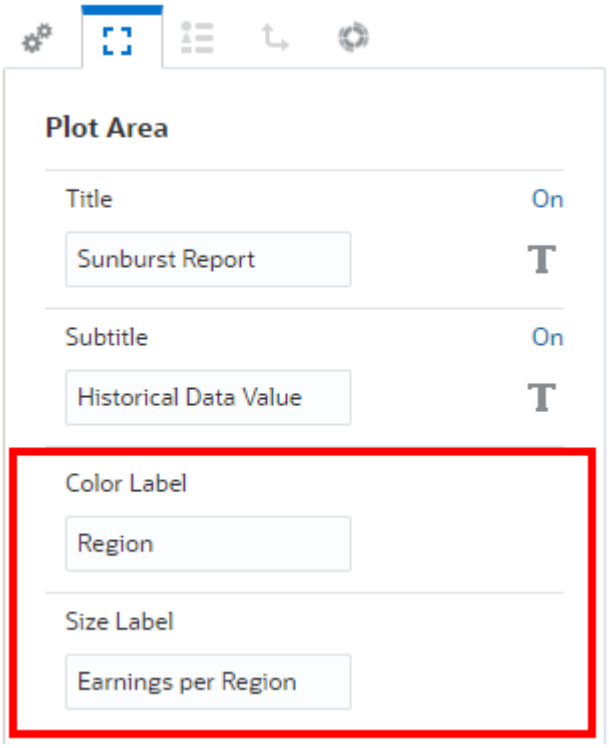
ツリーマップ・チャートとサンバースト・チャートの両方に共通するプロパティ

ツリーマップ・チャートとサンバースト・チャートのどちらにも凡例(メンバー・ラベルは各チャート要素とともに表示されます)および軸がないため、これら 2 つのタブは両方のチャート・タイプで無効になっています。



「描画領域」のプロパティには、ツリーマップ・チャート・タイプおよびサンバースト・チャート・タイプ用に、「色ラベル」と「サイズ・ラベル」という 2 つの追加オプション・ラベル・プロパティがあります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



どちらのプロパティでも、チャートの下部に追加ラベルが表示されます。



チャートの色

データ・セットごとに定義されている色は、**チャートのデフォルト色**または**チャート・シリーズ**・プロパティに表示されます。

- **サンバースト**・チャートの場合:
  - 内側のリング・ノードそれぞれに、**「データ・セット 1」**、**「データ・セット 2」**などに基づいた色セットがあります。
  - 次の外側のリング内にある各親要素の下の各子要素に、**「データ・セット 1」**、**「データ・セット 2」**などに基づいた色セットがあります。
- **ツリーマップ**・チャートの場合:

  各ノードの長方形要素には、親メンバーの下での階層内の各ノードの位置に基づいて描画された色および**「データ・セット 1」**、**「データ・セット 2」**などの色セットがあります。

  例:
  - **「データ・セット 1」**の色 = **青**および**「データ・セット 1」**の色 = **赤**の場合
  - 親 1 には 2 つの子、子 1 および子 2 があります

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- ツリーマップ・チャートで描画した場合、子 1 の色は**青**になり、子 2 の色は**赤**になります。

例: ツリーマップ・チャートおよびサンバースト・チャート

それぞれのチャート・タイプとそれらに関連するプロパティおよび色の例を見てみましょう。両方の例で、**セグメント**・ディメンションの次の行メンバー選択があるグリッド設計を使用します。

Seg01 の子孫(包含)、Gen 6 を除く。Seg02 の子孫(包含)

グリッド・プレビューは次のとおりです。

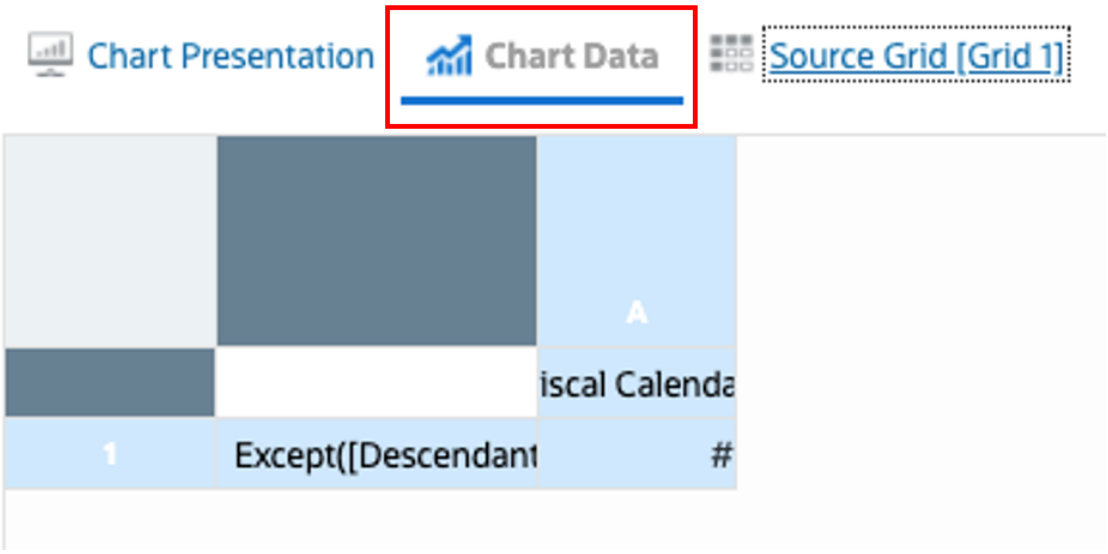
Seg01 および **Seg02** の子孫のインデントされたリストを見てください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

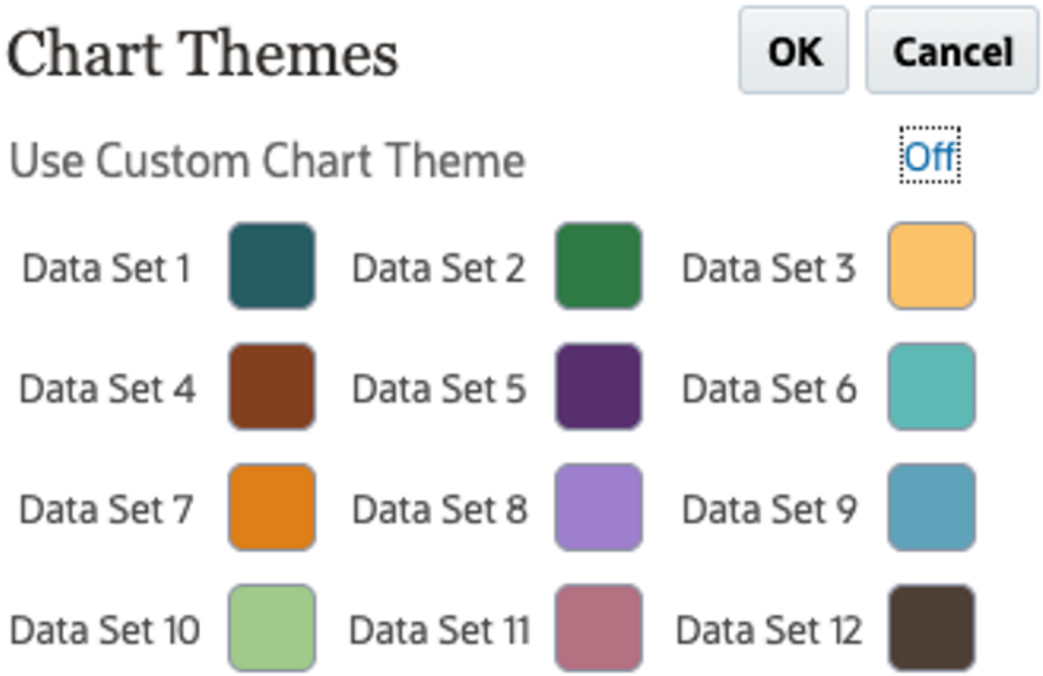
	Fiscal Calendar
HA	88,676,619
AG	141,352,602
AS	230,029,221
DV1000	95,489,669
DV2000	31,899,016
DV3000	81,721,013
DV4000	51,911,291
DV5000	42,805,176
DV	303,826,165
TVHDTV	54,400,764
SmartTV	47,508,995
ProjTV	44,510,558
PLTV	56,446,141
TV	202,866,458
Seg01	736,721,844
IN	130,592,127
SC	94,445,783
RP	106,096,435
Seg02	331,134,344

両方のチャート・タイプの**「チャート・データ」**の選択は次のとおりです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



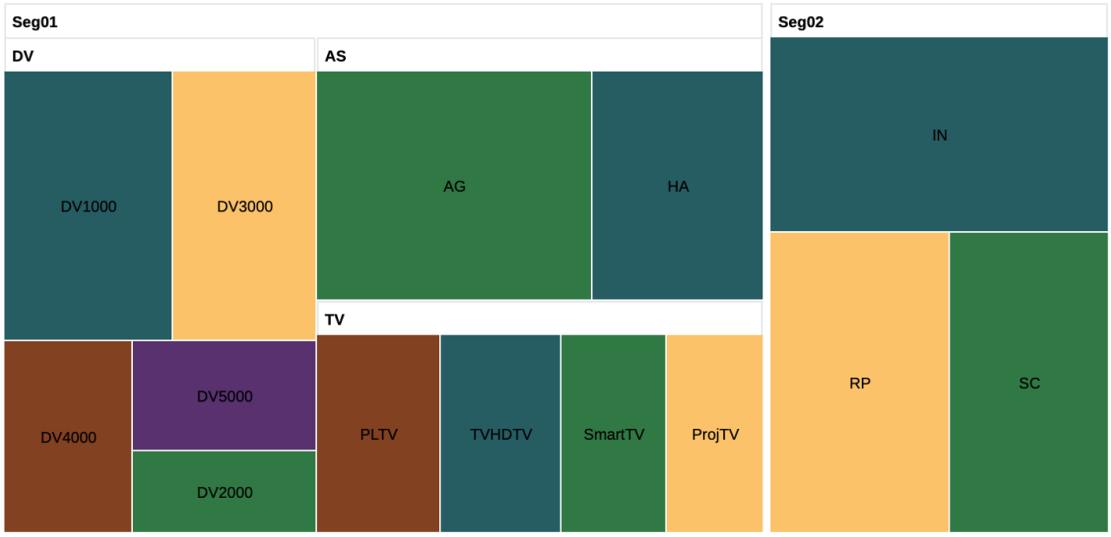
例で表示される**チャートのデフォルト色**は次のとおりです。



ツリーマップ・チャート

前述のグリッド定義および「チャート・データ」の選択に基づいて、ツリーマップ・チャートのプレビューは次のようになります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **Note**
>
> - レベル 0 のすべてのメンバーは長方形として描画され、長方形のサイズは他の要素に比例した各要素のデータ値を反映しています。
> - すべての親メンバーは長方形として表され、その中にすべての子をグループ化しています。
> - リーフ・ノードの長方形には、データ・セット色および階層内での位置に基づいた色があります。**HA** および **AG** は、**AS** の子です。**HA** は最初の子であるため、**「データ・セット 1」**の色になります。**AG** は、**「データ・セット 2」**の色を持つ 2 番目の子(以降も同様)です。

ツリーマップのプロパティ

ツリーマップ・チャートには、次のツリー固有のプロパティがあります。

Table 8-2　ツリー・オプション

フィールド	摘要
レイアウト	• **Squarified**: ノードをできるかぎり正方形にして、ノードのサイズを簡単に比較できるようにします。 • **水平**: ノードを最初に水平方向に、次に垂直方向に分割します。 • **垂直**: ノードを最初に垂直方向に、次に水平方向に分割します。
ラベル位置	**「ノード」**内に表示するか、**「オフ」**(ラベルを表示しない)にします。
書式	ノード・ラベルに対して表示されるテキストを書式設定します。
水平方向の配置	ノード・ラベルの配置:**「中央」**、**「開始」**または**「末尾」**。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 8-2　(Cont.) ツリー・オプション

フィールド	摘要
セパレータ	ノードのボックス間のセパレータ: **「ギャップ」**または**「ベベル」**。
ツールチップ番号	基礎となる数値データ値のツールチップ番号の書式設定。

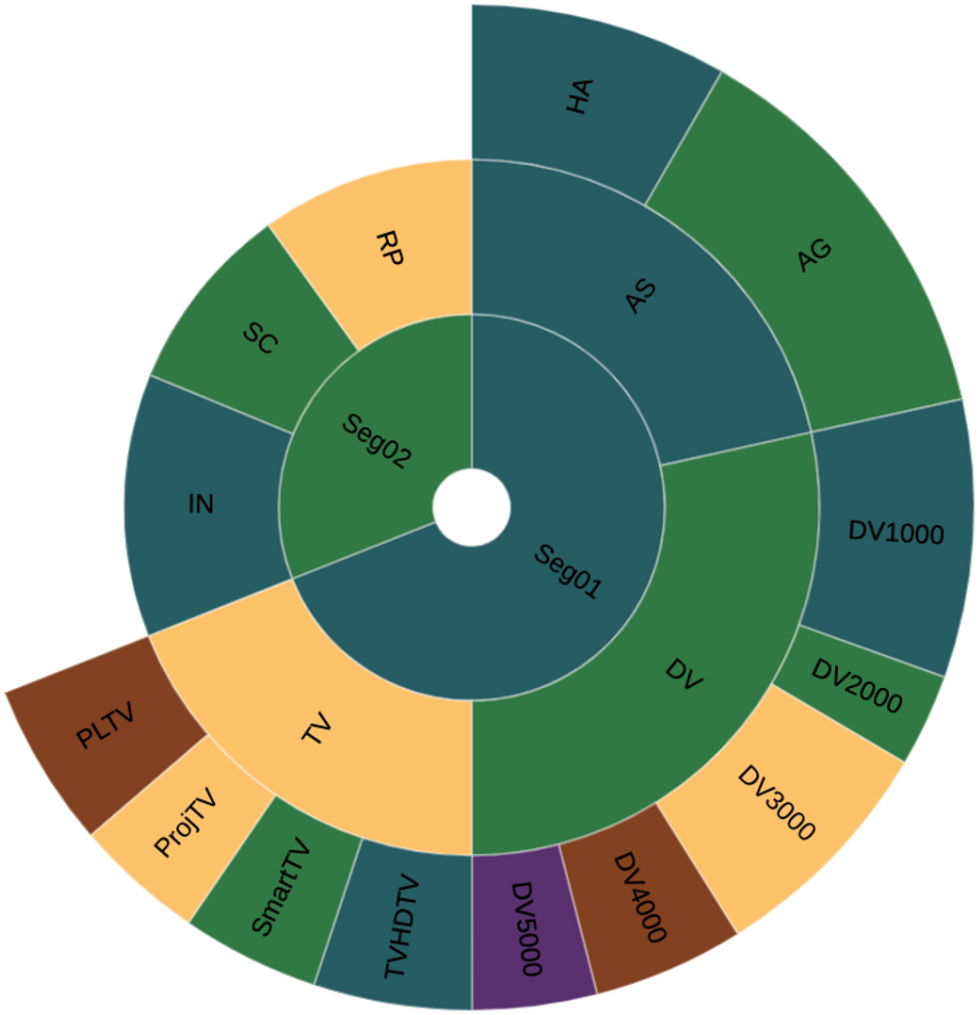
Table 8-3　ヘッダー・オプション

フィールド	摘要
背景色	ヘッダーの長方形の背景色。
境界線色	ヘッダーの長方形の境界線色。
ノードの色を使用	ヘッダーの長方形に対してノードの色を使用します。
書式	ヘッダー・ラベルに対して表示されるテキストを書式設定します。
水平方向の配置	ヘッダー・ラベルの配置: **「中央」**、**「開始」**または**「末尾」**。

サンバースト・チャート

前述のグリッド定義および「チャート・データ」の選択に基づいて、サンバースト・チャートのプレビューは次のようになります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **Note**
>
> - すべてのメンバー要素はスライスとして描画され、スライスのサイズは他の要素に比例した各要素のデータ値を反映しています。
> - 階層の各レベルは円またはリングによって表され、最も内側のリングが階層データの最上部を表し、最も外側のリングが階層のリーフ・ノードを表します。
> - **Seg01** および **Seg02** には、それぞれ**「データ・セット 1」**および**「データ・セット 2」**に基づいたスライス色があります。**AS**、**DV** および **TV** は、**Seg01** の 3 つの子であり、「データ・セット 1」、「データ・セット 2」および「データ・セット 3」に基づいて、それぞれに階層内での位置に基づいた色があります。

サンバーストのプロパティ

サンバースト・チャートには、次のサンバースト固有のプロパティがあります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 8-4　サンバースト・オプション

フィールド	摘要
ソート	サンバースト・ノードは、数値に基づいてソートできます。ソートを**「オン」**または**「オフ」**にすることができます。
開始角	外側のノード要素の描画をどの角度から開始するかを設定します。デフォルトは 90 度です。
ラベル位置	**「自動」**、**「水平」**、**「オフ」**または**「回転」**のいずれかを設定します。
書式	スライス・ラベルに対して表示されるテキストを書式設定します。
境界	各スライド間の境界を有効または無効にし、有効にする場合は境界線色を設定します。
ツールチップ番号	基礎となる数値データ値のツールチップ番号の書式設定。

ツリーマップ・チャートとサンバースト・チャートの両方に関する考慮事項

チャート・サイズ、要素数およびフォント・サイズに基づいて、チャート要素内のメンバー・ラベル表示は、チャート作成エンジンの自動ラベル・サイズ設定によって切り捨てられる場合があります。

切り捨てられたラベルがある場合は、可能であれば、次のうちの 1 つ以上を行うことをお薦めします。

- メンバー・ラベルのかわりにメンバー名またはカスタム・ラベルを使用して、メンバー・ラベルを短くします。
- フォント・サイズを縮小します。
- チャート・サイズを拡大します。

ゲージ・チャートについて

この項では、指定した範囲内のデータ値を識別できるゲージ・チャート・タイプの使用について説明します。最大または最小範囲に該当するデータ値を比較できます。

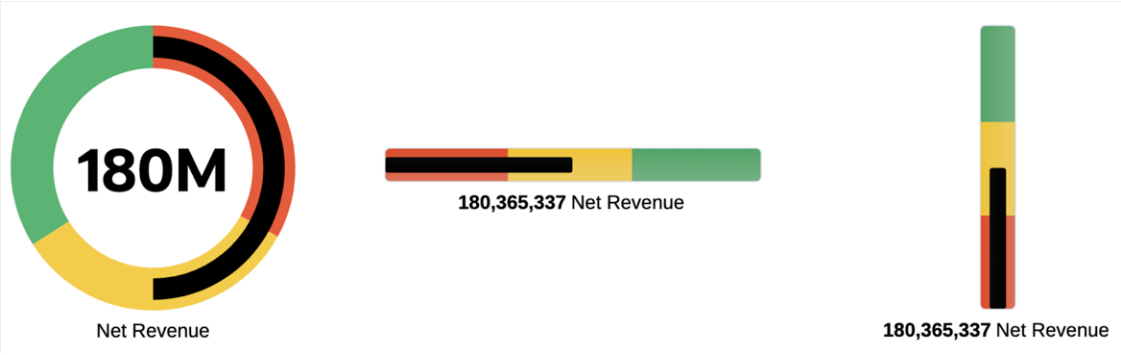
ゲージ・チャート

ゲージ・チャート・タイプでは、データ値が許容範囲内にあるかどうかが示されます。最小値と最大値、範囲の最大値を設定すると、ゲージによって、デフォルトで**赤**、**黄**および**緑**の信号が使用され、迅速に現在の値を評価して重要なデータ・ポイントまたはメジャーの問題を特定するために役立ちます。ゲージ・タイプとして**「円形」**、**「水平」**および**「垂直」**を選択できます。

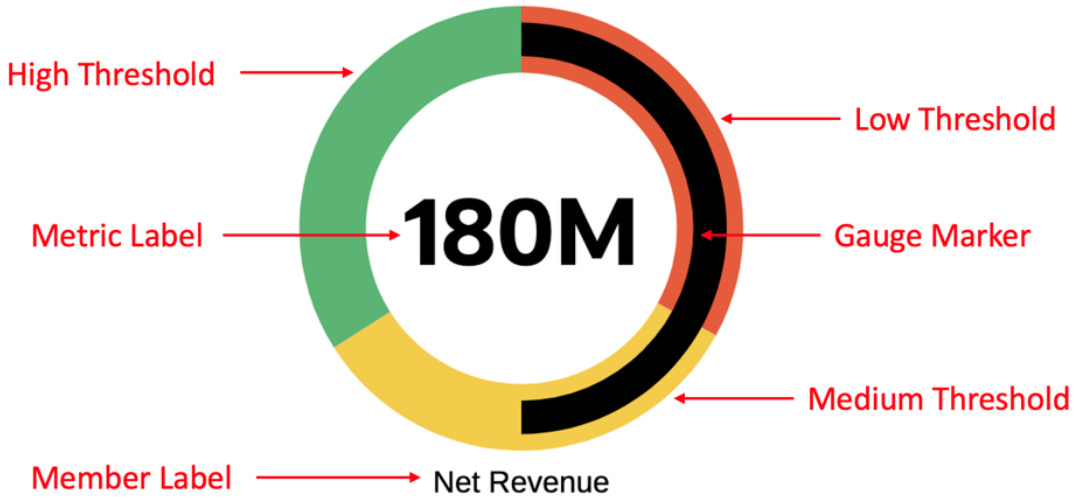
ゲージ・マーカーについては、しきい値または基準線を使用するか、マーカーなしにできます。また、チャート・プロパティで、チャートのしきい値の色、ラベルおよびその他のアイテムをカスタマイズすることもできます。

円形、垂直および水平のゲージ・チャートの例

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ゲージ・チャートのコンポーネント



それぞれのゲージ・チャートには基礎となるレポート・グリッドの単一セルが表示されます。選択されたセルは、チャート・エディタの**「チャート・データ」**で定義されます。**「チャート・データ」**で複数のセルが選択された場合は、最初のセルがチャートで使用されます。複数のゲージで異なるデータのセルが表示されるようにするには、複数のゲージ・チャートを作成し、**「チャート・データ」**でそれぞれに対して異なるセルを選択します。データ交差によって、単一グリッドを使用して複数のゲージ・チャートを操作できます。

「低」、**「中」**および**「高」**のしきい値を指定するための 2 つのオプションがあります。高しきい値は最大の一部として設定されることに注意してください。**パーセント**・タイプがデフォルトとなり、これによって提供されるしきい値の初期自動計算では、エンド・ユーザー POV の変化などのデータ値の変化を反映するしきい値の調整も行われます。**値**タイプではハードコードされたしきい値の数字が使用されます。これらの値はデータ値がどのように変化しても静的に保たれます。

2 つのタイプの間で変更するには、**「ゲージ」**チャート・プロパティの**「最大値」**タイプを設定し、**「しきい値」**チャート・プロパティの**「しきい値タイプ」**プロパティで**「低」**および**「中」**のしきい値タイプを設定します。

- **パーセント**:
  - 最大(高しきい値)はデフォルトで**「メトリック値のパーセント」**が選択され、そのデフォルト値は 200%です。これは**「最大値」**の**「ゲージ」**チャート・プロパティで設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - **「低」**および**「中」**しきい値のデフォルトは**最大値のパーセント**で、そのデフォルト値は低と中でそれぞれ **33%**と **66%**になります。これは**しきい値**チャート・プロパティで設定します。
  - 実行時にメトリック値に基づいて結果のパーセンテージが計算されて適用されます。
- **値**: 最大(高しきい値)、低しきい値および中しきい値を、それぞれの値を入力することによって手動で設定できます。最大は**「ゲージ」**チャート・プロパティ、低しきい値と中しきい値は**「しきい値」**チャート・プロパティで設定します。

ゲージ・チャート・プロパティ

ゲージ・チャートには次のプロパティがあります:

Table 8-5　一般プロパティ

プロパティ名	摘要
向き	次のオプションから選択します。 • **円形** • **水平** • **垂直**

Table 8-6　描画領域

プロパティ名	摘要
ゲージの色	ゲージ・マーカーの色を設定します。デフォルトは黒です。たとえば、ゲージ・チャートについてでは、すべてのチャートのマーカーの色が黒になっています。
背景色	**「ゲージ・マーカー」**プロパティが**「なし」**または**「基準線」**のいずれかに設定されているときに適用されます。ゲージ・プロットの背景色を選択を設定します。デフォルトは薄いグレーです。

Table 8-7　ゲージ・チャート・プロパティ

プロパティ名	摘要
最小値	最小値を指定します。デフォルトはゼロです。
最大値	いずれかを選択します: • **メトリック値のパーセント**(適切なパーセンテージを入力)。デフォルトは 200%です • **値**(適切な値を入力)。値を指定しない場合、自動的にメトリック値より大きい最大値が設定されます。 **ノート**: 計算された**最大値**は**最小値**よりも大きい必要があります。そうでない場合は、ゲージをプロットできるように、**最大値**が**最小値**+1 に設定されます。
メトリック・ラベル	
ラベル表示	ゲージ出力でメトリック・ラベルを**表示**するか**非表示**にします。
書式	メトリック・ラベルのテキスト書式を指定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 8-7　(Cont.) ゲージ・チャート・プロパティ

プロパティ名	摘要
数	メトリック・ラベルの数値の書式を指定します。 • **円形**ゲージで**「デフォルトを使用」**を選択すると、メトリック・ラベルの値が自動的に書式設定されます。 • **水平**および**垂直**ゲージで**「デフォルトを使用」**を選択すると、チャートのソース・グリッドの値が適用されます。 • すべてのゲージ・チャート・タイプについて、**「デフォルトを使用」**を選択**しない**場合は、メトリック・ラベルの数値の書式設定を設定できます。
メンバー・ラベル	
ラベル表示	ゲージ出力でメンバー・ラベルを**表示**するか**非表示**にします。
書式	メンバー・ラベルのテキスト書式を指定します。
上書きテキスト	オプションで、メンバー・ラベルとして使用されるカスタム・テキストを入力できます。
拡張	
開始角	**円形**ゲージに適用されます。ゲージ・マーカーとしきい値の開始角を指定します。デフォルトは **90** で、これにより、ゲージ・マーカーとしきい値がゲージの中心(円の上部)から **90** 度の位置から開始されます。有効な値は、**0** から **360** までです。
角度範囲	**円形**ゲージに適用されます。デフォルトは **360** で、これによりゲージが完全な円になります。**角度範囲**プロパティを使用することで半円の円形ゲージを作成できます。有効な値は、0 から 360 までです。
インジケータ・サイズ	ゲージ・マーカーの太さをゲージの太さに相対的に設定します。デフォルトは **0.5** で、これは、マーカーの太さがゲージの太さの半分になることを意味します。
内部半径	**円形**ゲージに適用されます。円形ゲージの内部半径(ゲージの中心からインジケータと描画領域の最も内側のエッジまでの距離で定義される)を指定します。有効な値はパーセントまたは 0 から 100 までの比率です。デフォルトは 70 で、70%を意味します。
ゲージの太さ	**水平**および**垂直**ゲージに適用されます。 描画領域と比較した、幅(垂直ゲージの場合)または高さ(水平ゲージの場合)の比率を指定します。有効な値はパーセントまたは 0 から 100 までの比率です。デフォルトは 10 で、10%を意味します。

Table 8-8　ゲージのしきい値

プロパティ名	摘要
ゲージ・マーカー	いずれかを選択します: • **しきい値** – チャート内で色付きのしきい値を表示します。**「しきい値」**がデフォルトで選択されます。 • **基準線** – しきい値としてセクションをまたぐ色付きの線を表示します。 • **なし** – ゲージにしきい値が表示されません。**「なし」**を選択すると、残りのしきい値はすべて使用できなくなります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 8-8 (Cont.) ゲージのしきい値

プロパティ名	摘要
しきい値表示	いずれかを選択します: • **すべて** – 3 つのしきい値をすべてチャートに表示します。**「すべて」**がデフォルトです。 • **インジケータ上** – 現在のしきい値をゲージ・マーカーとして表示します。 • **現在** – 現在のしきい値のみを表示します。ゲージ・マーカーは表示されます。
要求される目標	**「高」**と**「低」**のいずれの値が望ましいかを指定します。**「高」**がデフォルトです。
しきい値タイプ	いずれかを選択します: • **最大値のパーセント** – 最大値のパーセント(ゲージのプロパティで設定)を使用し、低と中のデフォルト値はそれぞれ 33%と 66%になります。**「最大値のパーセント」**がデフォルトです。 • **値** – 低と中のしきい値の値を入力できるようにします。
低しきい値	
ラベル	ゲージのしきい値の上にマウスを置いたときに表示される、**「低」**しきい値のラベルを指定します。デフォルトのラベルは**「低」**です。
色	**低**しきい値の色をカスタマイズします。デフォルト色は赤です。
値	**「しきい値タイプ」**プロパティの選択に応じて、**低**しきい値のパーセントまたは値を入力します。
中しきい値	
ラベル	ゲージのしきい値の上にマウスを置いたときに表示される、**「中」**しきい値のラベルを指定します。デフォルトのラベルは**「中」**です。
色	**中**しきい値の色をカスタマイズします。デフォルト色は黄です。
値	**「しきい値タイプ」**プロパティの選択に応じて、**中**しきい値のパーセントまたは値を入力します
高しきい値	
ラベル	ゲージのしきい値の上にマウスを置いたときに表示される、**「高」**しきい値のラベルを指定します。デフォルトのラベルは**「高」**です。
色	**高**しきい値の色をカスタマイズします。デフォルト色は緑です。

例: ゲージ・チャート

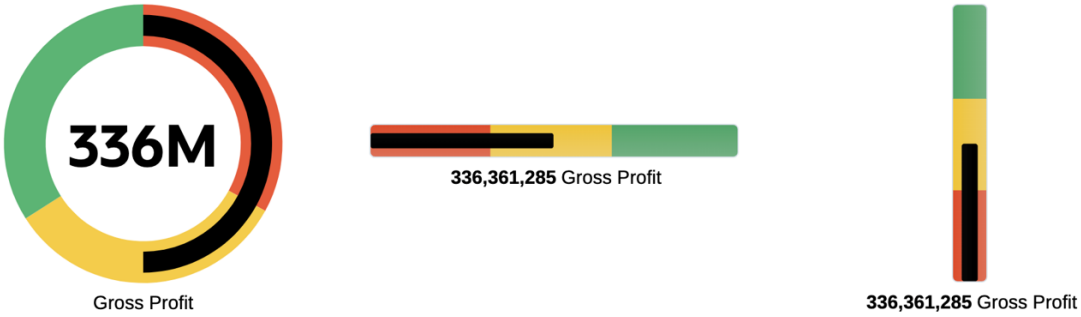
次の各例では、3 つのゲージ・チャート・タイプについて 3 つのしきい値設定、**しきい値**、**基準線**および**なし**のそれぞれを示しています。すべての例は、データ・ポイントが 1 つで、最小、最大、低および中の選択がデフォルト設定の非表示のグリッドに基づいています。

例 1: しきい値

次の例は、しきい値プロパティ設定が**しきい値**である**「円形」**、**「水平」**および**「垂直」**ゲージ・チャート・タイプを示しています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ノート: メトリック値をプロットする黒いゲージ・マーカーとともに、低、中および高しきい値(それぞれ**赤**、**黄**および**緑**)がチャートの本体に表示されています。



例 2: 基準線

次の例は、**しきい値**プロパティ設定が**基準線**である**「円形」**、**「水平」**および**「垂直」**ゲージ・チャート・タイプを示しています。

ノート: メトリック値をプロットする黒いゲージ・マーカーとともに、低、中および高しきい値(それぞれ**赤**、**黄**および**緑**)がチャートの本体に交差する線として表示されています。



例 3: しきい値なし

次の例は、**しきい値**プロパティ設定が**なし**である(つまり、低、中および高しきい値が表示されない)**「円形」**、**「水平」**および**「垂直」**ゲージ・チャート・タイプを示しています。メトリック値をプロットする黒いゲージ・マーカーのみが表示されています。さらに、ゲージ・マーカーをチャート領域全体に表示し、円形ゲージが半円になるようにゲージの表示を変更するために、チャート・プロパティが次のように変更されています:

「円形」ゲージ、**「オプション」**プロパティ・タブ

- 開始角 = **180**
- 角度範囲 = **180**
- インジケータ・サイズ = **1**

「水平」および**「垂直」**ゲージ、**「オプション」**プロパティ・タブ:

インジケータ・サイズ= **1**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

9

共有レポートおよびオブジェクトの操作

Related Topics

- 共有レポートおよびオブジェクトについて
  この項では、すべてのサブスクライブ・レポートのアクセスおよび更新の単一ポイントを提供する共有レポートおよびオブジェクトについて詳しく説明します。
- 共有レポートとしてのレポートの保存
- レポートへの共有オブジェクトの挿入
- レポート内の共有オブジェクトのリンク解除
- 共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作
  この項では、共有レポートおよびオブジェクトで作業する方法について説明します。制限事項および動作のリストをレビューする必要があります。

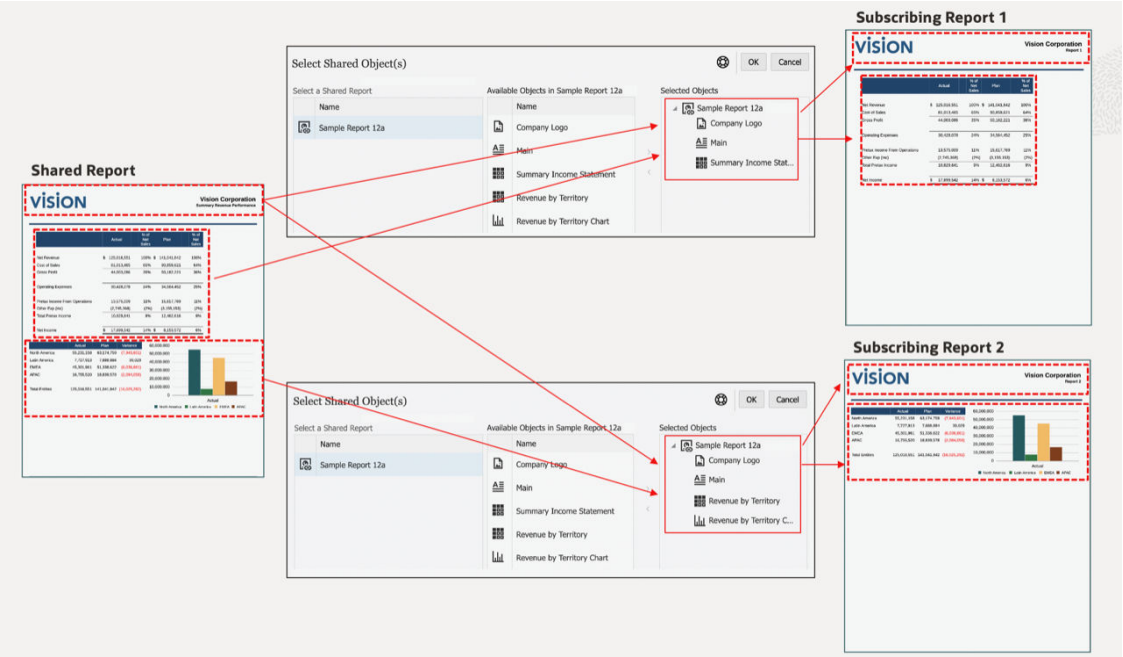
共有レポートおよびオブジェクトについて

この項では、すべてのサブスクライブ・レポートのアクセスおよび更新の単一ポイントを提供する共有レポートおよびオブジェクトについて詳しく説明します。

共有レポートは、共有レポート内のすべてのレポート・オブジェクト(**「グリッド」**、**「チャート」**、**テキスト・ボックス**および**「イメージ」**)を共有オブジェクトとして指定するアーティファクト・タイプです。共有オブジェクトは他のレポートに挿入することができ、共有レポート内の挿入済オブジェクトを保守する単一ポイントを提供します。共有オブジェクトがソース共有レポートで更新された場合、そのオブジェクトが挿入されたすべてのサブスクライブ・レポートが更新されて、オブジェクトの更新が反映されます。

たとえば、共有レポート内のテキスト・ボックスおよびイメージ・オブジェクトが他の 10 個のレポートに挿入されているとき、共有レポートでそのテキスト・ボックスおよびイメージ・オブジェクトが更新された場合、10 個のサブスクライブ・レポートでも変更が反映されます

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



挿入された共有オブジェクトのレイアウト(サイズおよび配置)を変更できます。ソース共有レポートで共有オブジェクトに加えられたレイアウト変更は、サブスクライブ・レポート内の挿入済共有オブジェクトに伝播されません。

サブスクライブ・レポート内のすべてのオブジェクト固有のプロパティは表示専用であるため、挿入済共有オブジェクトは編集できません。ただし、挿入済共有オブジェクトをソース共有オブジェクトから**「リンク解除」**して、レポート内の挿入済共有オブジェクトをソース共有オブジェクトのコピーにして、元の共有オブジェクトにリンクしないようにすることができます。

Financial Reporting 内の保存済オブジェクト(グリッド、テキスト・ボックスおよびイメージ)は、それぞれの移行済 Financial Reporting オブジェクトとして共有レポートに移行されます。Financial Reporting のチャート・オブジェクトにはチャート定義や関連するグリッド情報は含まれないため、これらのレポートへの移行はサポートされません。

> **Note**
>
> Cloud EPM プラットフォーム・デプロイメントで Financial Reporting の保存済オブジェクトを移行した後、オブジェクト挿入エラーを回避するには、移行済共有レポートを編集モードでオープンし、再保存する必要があります。

たとえば、Financial Reporting に保存済グリッドおよび保存済テキスト・ボックス(**MyGrid** および **MyTextBox**)がある場合、オブジェクトを移行するとそれぞれが単一のオブジェクトを含む 2 つの共有レポートが作成されます。共有レポート **MyGrid** は移行済グリッドを含み、共有レポート **MyTextBox** はテキスト・ボックスを含みます。

レポートで**「別名保存」**処理を実行し、**「共有レポートとして保存」**を選択することによって共有レポートを作成します。Narrative Reporting でネイティブ・ライブラリのエクスポート/インポートを介して、共有レポートを環境からエクスポートして別の環境にインポートできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> - 共有レポートを**「レポート・パッケージ」**、**「ブック」**または**「バースティング定義」**に挿入することはできません。
> - **「共有レポート」**を通常の**「レポート」**に戻すプロパティはありません。レポートを**「共有レポート」**として保存すると、**「共有レポートとして保存」**を選択解除して**「別名保存」**処理を実行しないかぎり、レポートに割り当てられた**「共有済」**アーティファクト・タイプを変更または削除することはできません。

いずれかの**「挿入」**メニューから**「共有済」**を選択し、必要な共有レポートを選択してそのレポートに含まれている共有オブジェクトのリストを表示し、挿入する 1 つ以上の共有オブジェクトを選択することによって、共有オブジェクトをレポートに挿入します。

共有オブジェクトをレポートに挿入すると、オブジェクトはソース共有レポート内で含まれていた同じレポート・セクション(ヘッダー、レポート本文、フッター)に自動的に挿入されます。たとえば、テキスト・ボックスおよびイメージがソース共有レポートのヘッダーにある場合、これらのオブジェクトをレポートに挿入すると、レポートのヘッダーに自動的に挿入されます。

共有グリッドをレポートに挿入する場合:

- POV 選択およびオプションは、サブスクライブ・レポートにグリッドがまだない場合は、サブスクライブ・レポートのグリッドに含まれます。すでにある場合は、既存のグリッドの POV 選択およびオプションが使用されます。この場合、共有グリッドの POV ディメンションは、サブスクライブ・レポートにディメンションが存在しない場合のみ使用されます。
- **「保存済選択」**が共有グリッドに存在する場合、同じ名前の**「保存済選択」**がサブスクライブ・レポートにまだ存在しないかぎり、それらはサブスクライブ・レポート内のグリッドに含まれます。

共有チャートをレポートに挿入するとき、チャートのソース・グリッドがレポートにまだ挿入されていない場合は、共有ソース・グリッドが非表示のシートに自動的に挿入されます。チャートのソース・グリッド(またはソース・グリッドと同じ名前のグリッド)がレポートにすでに挿入されている場合、チャートはレポート内の既存のソース・グリッドにリンクされます。

ノート・テキスト・ボックスとして構成されている共有テキスト・ボックスをレポートに挿入する場合、ノート・テキスト・ボックスの名前付き POV もレポートに挿入されます。

共有オブジェクトを含むサブスクライブ・レポートを、リファレンス・ドックレットまたはドックレットのいずれかとしてレポート・パッケージに挿入できます(PDF レポート・パッケージのみ)。サブスクライブ・レポートが(ライブラリ内のレポートに)リンク済としてレポート・パッケージに挿入される場合、共有オブジェクトはソース共有レポートにリンクされたままになります。サブスクライブ・レポートがレポート・パッケージにリンク解除済として挿入されるか、保存される場合、共有オブジェクトはソース共有レポートからリンク解除されます。

共有レポートおよびオブジェクトを使用する場合の制限事項および動作のリストは、共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作を参照してください。

共有レポートとしてのレポートの保存

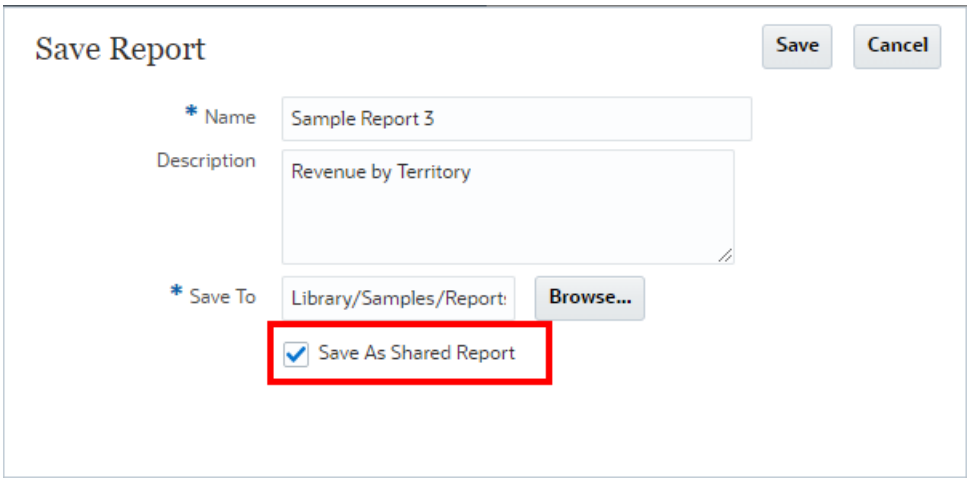
レポートで**「別名保存」**処理を実行し、**「共有レポートとして保存」**を選択することによって共有レポートを作成します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> - 共有レポートを**「レポート・パッケージ」**、**「ブック」**または**「バースティング定義」**に挿入することはできません。
> - **「共有レポート」**を通常の**「レポート」**に戻すプロパティはありません。レポートを**「共有レポート」**として保存すると、**「共有レポートとして保存」**を選択解除して**「別名保存」**処理を実行しないかぎり、レポートに割り当てられた**「共有済」**アーティファクト・タイプを変更または削除することはできません。

共有レポートとしてレポートを保存するには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、**「別名保存」**をクリックします。
2. **「レポートの保存」**ダイアログで、オプションで**「名前」**、**「説明」**および**「保存先」**フィールドを変更し、**「共有レポートとして保存」**を選択できます。

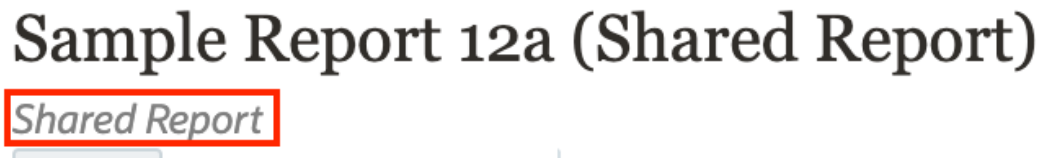


> **Note**
>
> - Narrative Reporting デプロイメントでは、共有レポートを**「マイ・ライブラリ」**フォルダに保存できません。
> - Cloud EPM プラットフォーム・デプロイメントでは、共有レポートを元のレポートと同じ名前で同じフォルダに保存することはできません。Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリでは、同じフォルダの場所にある同じ名前のアーティファクトがサポートされていません。

3. **「保存」**をクリックします。レポートは共有レポートとして**「ライブラリ」**に保存されます。

   「レポート・デザイナ」は、レポート・タイトルの下にサブタイトルを表示し、レポートが共有されていることを指定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



共有レポートおよびオブジェクトを使用する場合の制限事項および動作のリストは、共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作を参照してください。

レポートへの共有オブジェクトの挿入

共有オブジェクトをレポートに挿入すると、オブジェクトはソース共有レポート内で含まれていた同じレポート・セクション(ヘッダー、レポート本文、フッター)に自動的に挿入されます。

たとえば、テキスト・ボックスおよびイメージがソース共有レポートのヘッダーにある場合、これらのオブジェクトをレポートに挿入すると、レポートのヘッダーに自動的に挿入されます。

レポートに最初に挿入したとき、共有オブジェクトはソース共有レポートで定義された配置を保持します。挿入済共有オブジェクトのレイアウト(サイズおよび配置)は変更できますが、編集することはできず、サブスクライブ・レポート内のすべてのオブジェクト固有のプロパティは表示専用です。

次のことが可能です。

- 4 つの共有オブジェクト・タイプ(グリッド、チャート、テキスト・ボックスおよびイメージ)のすべてをレポートの 本文に挿入します。
- 共有テキスト・ボックスおよびイメージをレポートのヘッダーまたはフッターに挿入します。
- グリッドをレポートの非表示のシートに挿入します。

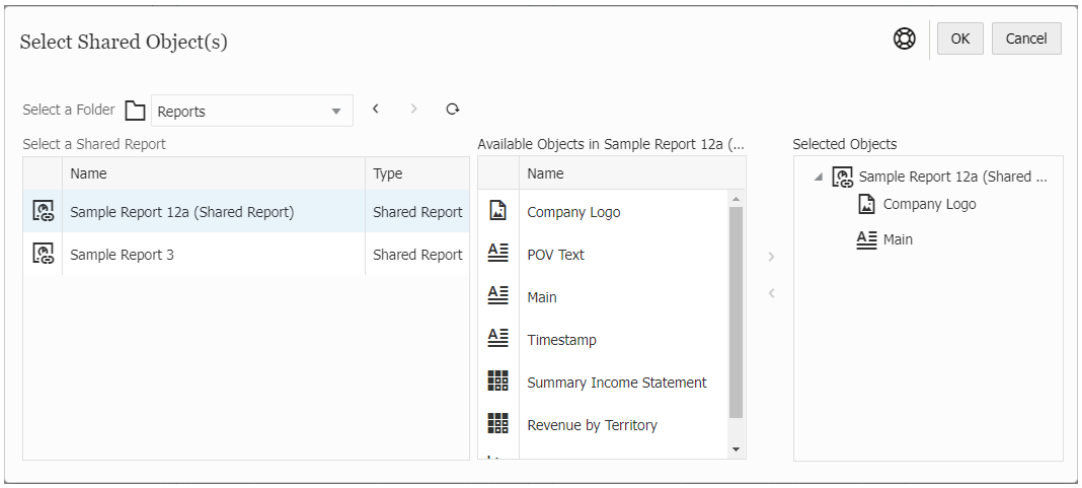
> **Note**
>
> Cloud EPM プラットフォーム・デプロイメントで Financial Reporting の保存済オブジェクトを移行した後、オブジェクト挿入エラーを回避するには、移行済共有レポートを編集モードでオープンし、再保存する必要があります。

レポートに共有オブジェクトを挿入するには:

1. **「レポート・デザイナ」**で、次のいずれかのステップを実行できます
   - ツールバーで、  をクリックして**「共有済」**を選択します。
   - 空白のレポートで、  をクリックします。
   - レポートの本文、ヘッダーまたはフッターで右クリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**を選択した後、**「共有済」**を選択します。
2. **「共有オブジェクトの選択」**ダイアログで、**「フォルダの選択」**の下の必要な**「ライブラリ」**フォルダを選択し、左側の**「共有レポートの選択」**ペインにリストされている共有レポートを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. 中央ペインの**「...の使用可能なオブジェクト」**の下には、選択した共有レポートからのすべての共有オブジェクトのリストが含まれています。**使用可能なオブジェクト...**リストから 1 つ以上のオブジェクトを選択し、**「右へ移動」**ボタン - をクリックして、必要なオブジェクトを右側の**「選択済オブジェクト」**ペインに移動します。



> **Note**
>
> - **「右へ移動」** - および**「左へ移動」** - ボタンを使用して、右側の**「選択済オブジェクト」**ペイン内の文書を追加または削除できます。
> - 同じ共有オブジェクトを 1 つのレポートに複数回挿入することはできません。
> - 挿入する共有オブジェクトと同じ名前のオブジェクトがあるレポートには共有オブジェクトを挿入できません。
>
>   たとえば、サブスクライブ・レポートに **Grid 1** という名前の既存のグリッドがある場合、**Grid 1** という名前の共有グリッドは挿入できません。
> - **「共有オブジェクトの選択」**ダイアログには、レポート・デザイナがアクセスできる共有レポートのみがリストされます。

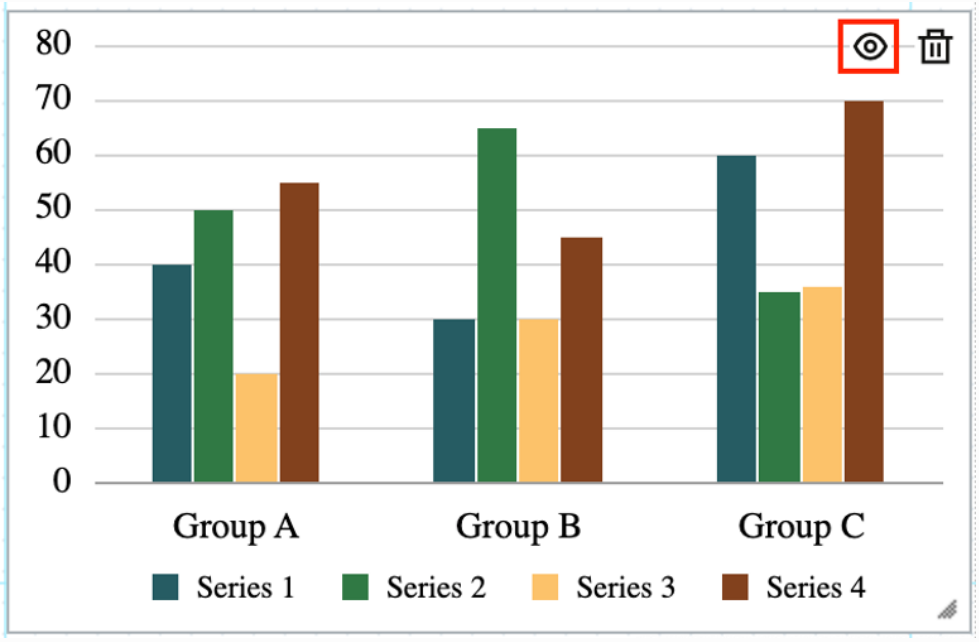
4. **オプション**: 別の共有レポートを参照して選択し、その共有オブジェクトの一部を選択して同時に挿入できます。
5. **「OK」**をクリックして**「レポート・デザイナ」**に戻ります。

   選択した共有オブジェクトがレポートに挿入されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Note

オブジェクトの右上にある**「表示」**アイコンをクリックするか、オブジェクトを右クリックして**「表示」**を選択して、挿入済共有オブジェクトのプロパティを表示できます。



Note

挿入済共有オブジェクトを表示しているとき、そのソース共有レポートへのパスが、レポート・オブジェクト・タイトルの下にサブタイトルとして表示されます。



6. **オプション**: レポート・オブジェクト上で手動でマウスをドラッグするか、レポート・オブジェクトを選択して**「レポート・デザイナ」**プロパティの**「レイアウト」**タブをクリックして、オブジェクトを移動またはサイズ変更できます。
7. 挿入済共有オブジェクトを編集するには、ソース共有オブジェクトから**「リンク解除」**して、サブスクライブ・レポート内の挿入済共有オブジェクトをソース共有オブジェクトのコピーにして、元の共有オブジェクトにリンクしないようにすることができます。

   詳細は、レポート内の共有オブジェクトのリンク解除を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Note

- 共有グリッドをレポートに挿入する場合:
  - POV 選択およびオプションは、レポートにグリッドがまだない場合は、レポートのグリッドに含まれます。すでにある場合は、既存のグリッドの POV 選択およびオプションが使用されます。この場合、共有グリッドの POV ディメンションは、レポートにディメンションが存在しない場合のみ使用されます。
  - **「保存済選択」**が共有グリッドに存在する場合、同じ名前の**「保存済選択」**がレポートにまだ存在しないかぎり、それらはレポート内のグリッドに含まれます。
- 共有チャートをレポートに挿入するとき、チャートのソース・グリッドがレポートにまだ挿入されていない場合は、共有ソース・グリッドが非表示のシートに自動的に挿入されます。チャートのソース・グリッド(またはソース・グリッドと同じ名前のグリッド)がレポートにすでに挿入されている場合、チャートはレポート内の既存のソース・グリッドにリンクされます。
- ノート・テキスト・ボックスとして構成されている共有テキスト・ボックスをレポートに挿入する場合、ノート・テキスト・ボックスの名前付き POV もレポートに挿入されます。

共有レポートおよびオブジェクトを使用する場合の制限事項および動作のリストは、共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作を参照してください。

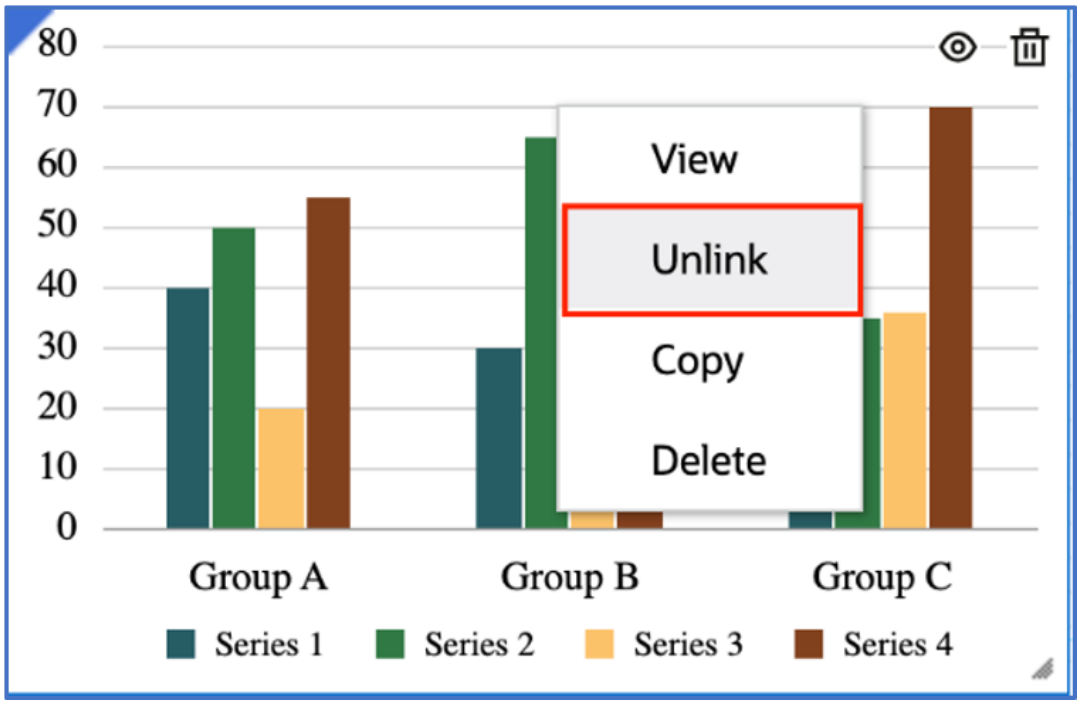
レポート内の共有オブジェクトのリンク解除

挿入済共有オブジェクトをソース共有オブジェクトから**「リンク解除」**して、サブスクライブ・レポート内の挿入済共有オブジェクトをソース共有オブジェクトのコピーにして、元の共有オブジェクトにリンクしないようにすることができます。

レポート内の挿入済共有オブジェクトをリンク解除するには:

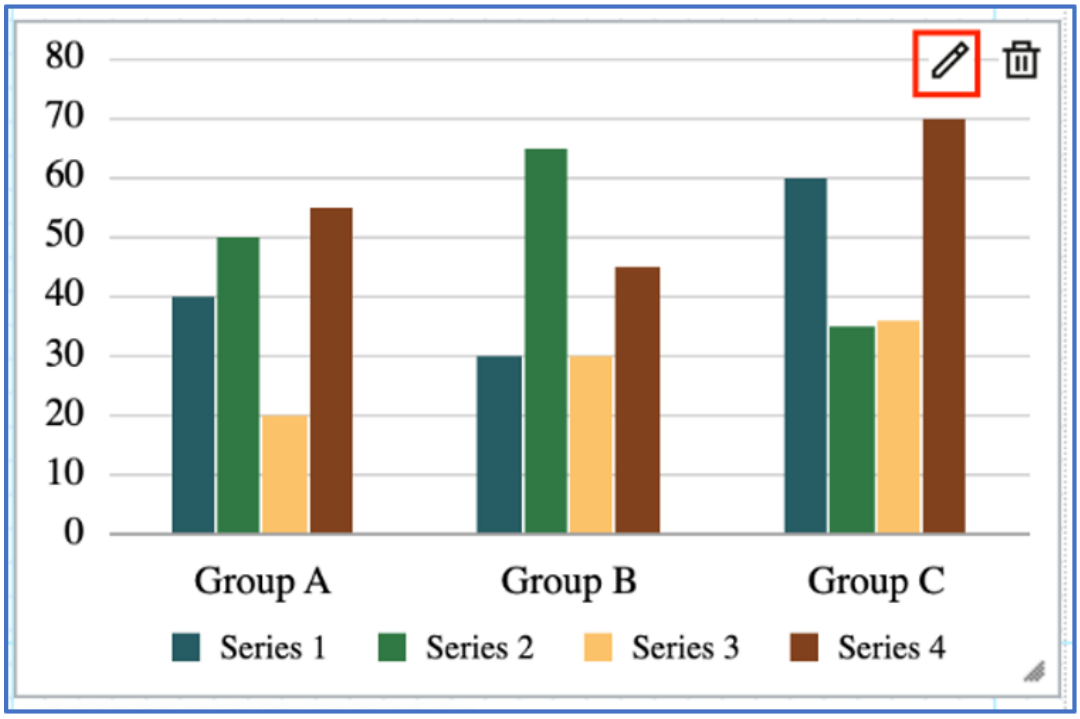
1. **「レポート・デザイナ」**で、挿入済共有オブジェクトを右クリックして**「リンク解除」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



2. リンク解除したオブジェクトは元の共有オブジェクトのコピーであり、元の共有オブジェクトにリンクされていません。

   「編集」ボタンをクリックしてオブジェクトを編集できます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> 挿入済共有オブジェクトをリンク解除すると、ソース共有オブジェクトに再リンクできなくなります。

詳細は、「共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作」を参照してください。

共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作

この項では、共有レポートおよびオブジェクトで作業する方法について説明します。制限事項および動作のリストをレビューする必要があります。

共有レポートおよびオブジェクトで作業する前に、制限事項および動作のリストをレビューする必要があります。

Table 9-1　共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作のリスト:

共有レポートおよびオブジェクト	制限事項および動作
共有レポート	• 共有レポートは別の共有レポートをポイントするリンク済オブジェクトを持つことができません。 • 共有レポートを**「コンテンツへのドリル」**リンクに対するレポートとして選択することはできません。 • 通常のレポートを使用して生成されるスナップショットと同じ方法で、共有レポートのスナップショット・レポートを生成できます。 • 共有レポートが欠落している場合、または共有レポートからの共有オブジェクトが削除された場合、サブスクライブ・レポートの編集時に共有オブジェクトが欠落していることを示す検証エラーが返されます。 • 共有レポートは、名前を変更したり、別の場所に移動することができ、サブスクライブ・レポート内の挿入済共有オブジェクトへのリンクは保持されます。 • Narrative Reporting デプロイメントの場合、共有レポートに**「ノート」**を追加したり含めることができません。 • 共有レポートを**「レポート・パッケージ」**、**「ブック」**または**「バースティング定義」**に挿入することはできません。 • **「リモート・ライブラリ」**から共有レポートを使用して、共有オブジェクトをレポートに挿入することはできません。
オブジェクトの挿入	挿入する共有オブジェクトと同じ名前のオブジェクトがあるレポートには共有オブジェクトを挿入できません。 たとえば、レポートに **Grid 1** という名前の既存のグリッドがある場合、**Grid 1** という名前の共有グリッドは挿入できません。
グリッド	• 共有レポート内の別のグリッドへの参照を持つ共有グリッドを挿入する場合(クロスグリッド式またはテキスト・セグメント内のテキスト関数)、その別のグリッドを同時に挿入する必要があります。別のグリッドが挿入されない場合、無効な式またはテキスト関数の参照について検証エラーを受け取る可能性があります。 **ノート:** 参照されるグリッドと同じ名前の既存のグリッドがレポートにある場合、クロスグリッド式またはテキスト関数によって既存のレポート・グリッドが参照されます。 • 挿入済共有グリッドのデータ・ソースは変更できず、グリッドをリンク解除するか、ソース共有レポートのソース・オブジェクトで変更する必要があります。 • **「コンテンツへのドリル」**リンクとともに保存された共有グリッドでは、レポートへのグリッドの挿入時にリンクが保持されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table 9-1　(Cont.) 共有レポートおよびオブジェクトの制限事項および動作のリスト:

共有レポートおよびオブジェクト	制限事項および動作
視点および共有選択	• POV 選択およびオプションは、サブスクライブ・レポートにグリッドがまだない場合は、サブスクライブ・レポートのグリッドに含まれます。すでにある場合は、既存のグリッドの POV 選択およびオプションが使用されます。この場合、共有グリッドの POV ディメンションは、サブスクライブ・レポートにディメンションが存在しない場合のみ使用されます。 • 共有グリッドの POV ディメンションが POV オプションの「グローバル・ディメンション」に設定されている場合、POV オプションの「グローバル・ディメンション」を無効にすることで、必要に応じて「ローカル」に変更できます。共有グリッドの POV ディメンションが「ローカル」に設定されている場合は変更できず、常に「ローカル」のままです。 • 「保存済選択」が共有グリッドに存在する場合、同じ名前の「保存済選択」がサブスクライブ・レポートにまだ存在しないかぎり、それらはサブスクライブ・レポート内のグリッドに含まれます。 **ノート:「メンバー・セレクタ」**で共有された**「保存済選択」**をリンク解除できます。ローカルの**「保存済選択」**には、ソース共有レポートへのリンクがありません。
チャート	• 共有チャートが共有レポート内の非表示のグリッドをソースとしている場合、非表示のグリッドは非表示としてサブスクライブ・レポートに自動的に挿入されます。 • 異なるグリッドがある挿入済共有チャートをソースとするには、チャートをリンク解除して編集可能にし、ソース・グリッドを変更する必要があります。 • 挿入済共有チャートのソース・グリッドは削除できません。検証エラーが発生します。
テキスト・ボックス	• 未解決のグリッド参照がある挿入済共有テキスト・ボックス内のテキスト関数(たとえば、サブスクライブ・レポートに **Grid 1** が存在しないときにこのグリッドを参照するテキスト関数)は、グリッド参照が解決されるまで検証エラーを返します。 • ノート・テキスト・ボックスとして構成されている共有テキスト・ボックスをレポートに挿入する場合、同じ名前の名前付き POV がサブスクライブ・レポートにまだ存在しないかぎり、ノート・テキスト・ボックスの名前付き POV もサブスクライブ・レポートに挿入されます。 **ノート:** 名前付き POV マネージャを介して、共有名前付き POV をリンク解除できます。これは基本的に、名前付き POV をレポートに複製し、共有名前付き POV を非表示にします。ローカルの名前付き POV には、ソース共有レポートへのリンクがありません。
アクセス権限	• 共有オブジェクトをレポートに挿入するとき、レポート・デザイナがアクセスできる共有レポートのみがリストされます。 • 挿入済共有オブジェクトがあるサブスクライブ・レポートを編集するとき、レポート・デザイナは、ソース共有レポートへのアクセス権を持っていない場合でも、サブスクライブ・レポート内の共有オブジェクトにアクセスできます。さらに、レポート参照者は、サブスクライブ・レポート内の共有オブジェクトにアクセスするためにソース共有レポートにアクセスする必要がありません。
レポート・パッケージとの統合	共有オブジェクトを含むサブスクライブ・レポートを、リファレンス・ドックレットまたはドックレットのいずれかとしてレポート・パッケージに挿入できます(PDF レポート・パッケージのみ)。サブスクライブ・レポートが(ライブラリ内のレポートに)リンク済としてレポート・パッケージに挿入される場合、共有オブジェクトはソース共有レポートにリンクされたままになります。サブスクライブ・レポートがレポート・パッケージにリンク解除済として挿入されるか、保存される場合、共有オブジェクトはソース共有レポートからリンク解除されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

10

メンバーの定義

次も参照:

- メンバーの定義について
  グリッドのデータを指定する場合は、取得するデータを識別する基準を設定します。設定される基準は、メンバー割当てです。
- メンバーの割当
  メンバー、関数、代替変数およびリストを割り当てて、レポートのデータを取得します。
- データ行またはデータ列の見出しの上書き
  デフォルトでは、データ行およびデータ列の見出しのラベルは、メンバー名、別名、両方など、グリッド・プロパティの**「見出し」**セクションから継承されます。
- メンバーの検索
  メンバー名、別名または両方で検索するには、グリッドの「処理」メニューから**「メンバー・ラベル」**設定を使用します。
- 選択したメンバーのプレビュー
  レポートを実行する前に、そのレポートに選択されているメンバー、関数およびリストをプレビューできます。
- 保存されたメンバー選択の操作
  保存されたメンバー選択では、レポート内のメンバー選択として再利用できるメンバーのリストを定義できます。
- 共有メンバーの抑制
  グリッドの共有メンバーの表示を抑制できます。
- サポート詳細の表示
  適切な Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースを使用し、**「勘定科目」**ディメンションがある行を選択すると、メンバーのサポート詳細を表示できます。

メンバーの定義について

グリッドのデータを指定する場合は、取得するデータを識別する基準を設定します。設定される基準は、メンバー割当てです。

基準を設定するには、グリッドの行と列、およびグローバル・グリッドとローカル・グリッドの視点にメンバーを割り当てます。また、関数を使用してメンバーを動的に取得することもできます。

> ⓘ **ノート**
>
> メンバー・セレクタに表示されるメンバーは、データ・ソースで定義されているユーザーのメタデータ・セキュリティによって異なります。

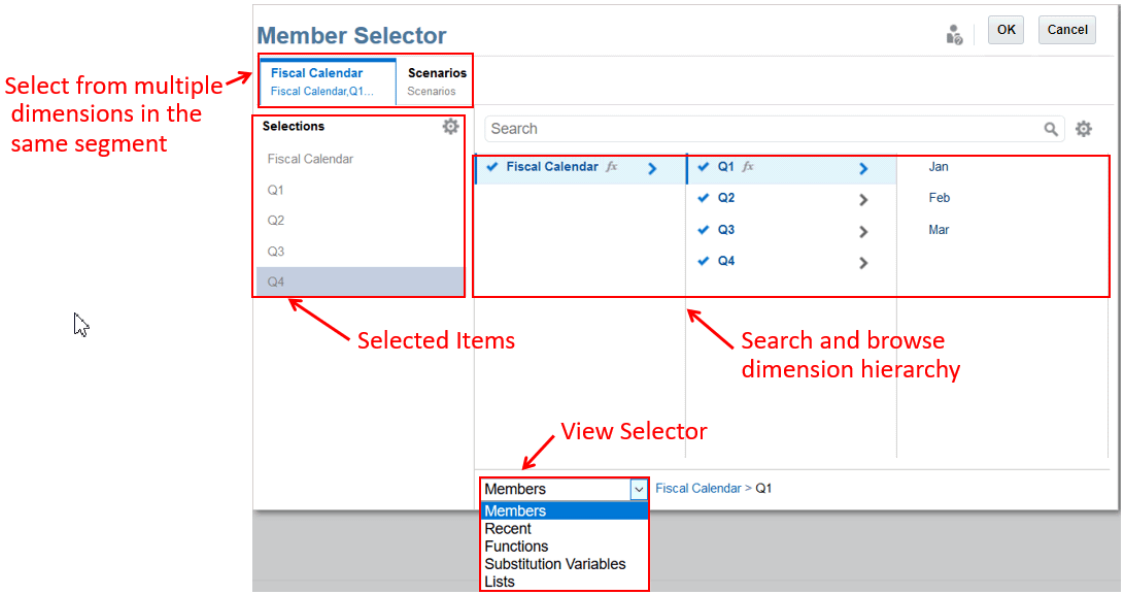
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ⓘ ノート

- レポートでは、メタデータ・キャッシュが利用され、検索や算式バー先行入力などのメンバー問合せおよびメンバー選択操作が迅速になります。キャッシュが生成され、セッション中にレポートが初めてアクセスされたときに、各レポート・デザイナおよびエンドユーザー用に移入されます。キャッシュは、ユーザーの現在のセッション中は有効なままであり、レポートが使用およびアクセスされている Cloud EPM ビジネス・プロセス(たとえば、Narrative Reporting、Planning など)からユーザーがサインアウトするとクリアされます。
- レポート・ユーザーのアクティブ・セッション中にキューブのディメンションおよびメンバーが更新された場合、メタデータ・キャッシュの更新にディメンションおよびメンバーの変更が反映されない場合があります。メタデータ・キャッシュをリフレッシュして加えられた変更を反映するには、ユーザーは、サインアウトしてから Cloud EPM ビジネス・プロセスにサインインし直す必要があります。
- メンバー数が 25,000 を超えるディメンションのレポート・パフォーマンスを最適するため、メタデータ・キャッシュは使用されません。これはつまり、算式バー先行入力検索は無効になり、メンバー・セレクタ内の検索はメンバー名のみ(別名ではない)に基づき、「次を含む」ではなく「次で始まる」タイプの検索が実行されることを意味します。

メンバーを定義する前に、レポートにグリッドを挿入してそのディメンション・レイアウトを定義する必要があります。(グリッドの操作を参照。)

メンバーを定義するにはメンバー・セレクタを使用します。メンバー・セレクタには次の領域があります。



- 上部にあるディメンションのタブを使用すると、同じセグメントの複数のディメンションから選択できます。
- **「選択内容」**パネルには、現在選択しているアイテムが表示されます。
- **表示セレクタ**では、表示を「メンバー」、「最近」、「関数」、代替変数および「リスト」の中で変更します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **セレクタ・ペイン**では、ディメンション階層を検索および参照できます。

> **ノート**
>
> グリッドの  メニューで、メンバーの表示方法(例: メンバー名または別名)を変更できます。

メンバーの割当

メンバー、関数、代替変数およびリストを割り当てて、レポートのデータを取得します。

レポートに表示するメンバーを選択するか、または関数を使用してディメンション・メンバーを動的に選択できます。選択した各メンバーごとに個別の行または列をグリッドに挿入するか、または選択したすべてのメンバーを 1 行または 1 列に配置できます。選択したメンバーに異なる書式設定(例: フォント、境界線など)が必要な場合は、個別の行または列に配置する必要があります。

> **ノート**
>
> - レポートでは、メタデータ・キャッシュが利用され、検索や算式バー先行入力などのメンバー問合せおよびメンバー選択操作が迅速になります。キャッシュが生成され、セッション中にレポートが初めてアクセスされたときに、各レポート・デザイナおよびエンドユーザー用に移入されます。キャッシュは、ユーザーの現在のセッション中は有効なままであり、レポートが使用およびアクセスされている Cloud EPM ビジネス・プロセス(たとえば、Narrative Reporting、Planning など)からユーザーがサインアウトするとクリアされます。
> - レポート・ユーザーのアクティブ・セッション中にキューブのディメンションおよびメンバーが更新された場合、メタデータ・キャッシュの更新にディメンションおよびメンバーの変更が反映されない場合があります。メタデータ・キャッシュをリフレッシュして加えられた変更を反映するには、ユーザーは、サインアウトしてから Cloud EPM ビジネス・プロセスにサインインし直す必要があります。
> - メンバー数が 25,000 を超えるディメンションのレポート・パフォーマンスを最適するため、メタデータ・キャッシュは使用されません。これはつまり、算式バー先行入力検索は無効になり、メンバー・セレクタ内の検索はメンバー名のみ(別名ではない)に基づき、「次を含む」ではなく「次で始まる」タイプの検索が実行されることを意味します。

データ行または列へのメンバーの割当

「メンバーの選択」ダイアログを使用して、メンバーをレポート内のデータ行または列に割り当てることができます。

データ行または列にメンバーを割り当てるには:

1. レポートをオープンし、グリッドを選択します。
2. 次のいずれかを実行して、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- ディメンションを右クリックするか、行または列見出しの横にある下矢印をクリックして、**「メンバーの選択」**をクリックします。
- グリッドのディメンションを選択し、ディメンション名付きの算式バーの  をクリックします。

3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスで、選択したデータ行または列に割り当てるメンバー、メンバー・リスト、代替変数または関数を選択します。

   メンバーを選択するには、次の規則を使用します。

   - 親メンバーにドリルするには、  をクリックします。
   - メンバーを選択および選択解除するには、  をクリックします。

     > **ⓘ ノート**
     >
     > 青色のチェックは、メンバーが現在選択されていることを示します。メンバーの上にマウスを置くと表示されるグレーのチェックは、そのメンバーが現在選択されていないことを示します。

   - 関数を使用してメンバーを選択するには、メンバーの横にある  をクリックします。関数を使用したメンバーの割当を参照してください。
   - メンバーをソートするには、セレクタ・ペインで  をクリックします。

4. **オプション:**「選択内容」リストで選択したメンバーの順序を変更するには、メンバーを選択して希望の位置にドラッグするか、右クリックして**「上に移動」**または**「下に移動」**を選択します。「選択内容」リストからメンバーを削除するには、そのメンバーを右クリックして**「削除」**をクリックします。また、右クリックして**「階層で表示」**を選択すると、そのメンバーの親メンバーを展開してメンバー階層で表示できます。
5. **オプション:** 選択したメンバー関数のパラメータを編集するには、「選択内容」リストでメンバー関数を選択し、  をクリックします。たとえば、関数にそのメンバーを含めるには、メンバー関数で**「包含」**を選択します。
6. **「OK」**をクリックします。

関数を使用したメンバーの割当

関数を使用してメンバーを動的に選択します。

関数の選択後、そのパラメータを編集できます。関数は 2 つの方法で作成します。

- クイック選択関数の使用
- 完全な関数ビルダーを使用した関数の選択とそのパラメータの指定

クイック選択関数を使用したメンバーの割当

クイック選択関数を使用してメンバーを割り当てるには:

1. レポートをオープンし、グリッドを選択します。
2. 次のいずれかを実行して、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- グリッドでディメンションを右クリックし、**「メンバーの選択」**をクリックします。
- グリッドのディメンションを選択し、ディメンション名付きの算式バーの  をクリックします。

3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスで、メンバーの横にある  をクリックして関数ビルダーをオープンします。
4. リストからクイック関数を選択します。次のようなクイック関数があります。
   - Bottom
   - Children
   - Descendants
   - Parent
   - SameGeneration
   - SameLevel
   - Siblings
5. **オプション:** 選択したメンバーを関数で含めるには、  をクリックします。たとえば、`Children of 500000` では勘定科目 500000 の子メンバーのみが取得されますが、`Children of 500000 (Inclusive)`では、勘定科目 500000 のメンバーに加え、勘定科目 500000 自体が返されます。

選択した関数が「選択内容」パネルに追加されます。

完全な関数ビルダーを使用したメンバーの割当

完全な関数ビルダーを使用してメンバーを割り当てるには:

1. レポートをオープンし、グリッドを選択します。
2. 次のいずれかを実行して、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスをオープンします。
   - グリッドでディメンションを右クリックし、**「メンバーの選択」**をクリックします。
   - グリッドのディメンションを選択し、ディメンション名付きの算式バーの  をクリックします。
3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスで、次の処理を実行します。
   - メンバーの横にある  をクリックし、**「すべての関数の表示」**を選択して関数ビルダーをオープンします。
   - ダイアログ・ボックスの下部にある表示セレクタ・ドロップダウン・メニューで、**「関数」**を選択します。
4. リストから関数を選択します。
5. 「パラメータ」ペインに関数のパラメータを入力します。パラメータは、選択した関数のタイプによって異なります。たとえば、**Range** 関数の場合は、「開始」および「終了」のメンバーを指定します。
6. 「パラメータ」ペインで、**「選択」**をクリックして「選択内容」パネルに関数を追加します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ヒント**
>
> 関数に複数のパラメータ・フィールドがある場合は、「選択」ボタンを表示するために下にスクロールする必要がある場合があります。

選択した関数が「選択内容」パネルに追加されます。

メンバー選択で使用可能な関数

関数は、レポートでショートカットとして使用できます。

表 1 にリストされている関数は、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスの**「関数」**タブから選択できます。

表 10-1 メンバー選択で使用可能な関数

関数	必要なパラメータ	摘要
Ancestors	*member* の祖先(包含)	指定のメンバーより上のレベルの全メンバー
Bottom	最下位 *dimension* (包含)	レベル 0 のすべてのメンバー
Children	*member* の子(包含)	指定の親の 1 レベル下のメンバー
CurrentPOV	CurrentPOV	ディメンションの POV から行または列のメンバーを返します。
DynamicTimeSeries	*DTS member* (*Time Dimension member*) これは時間ディメンションにのみ適用されます。 データ・ソースに応じて次の DTS メンバーを使用できます。データ・ソースで有効になっているメンバーのみが表示されます。 • HTD (履歴累計) • YTD (年累計) • STD (当季累計) • PTD (期間累計) • QTD (四半期累計) • MTD (月累計) • WTD (週累計) • DTD (日累計) **ノート**: レベル 0 の時間ディメンション・メンバーまたは CurrentPOV を選択します。メンバー選択関数は動的時系列関数のパラメータとしてサポートされていません。	選択したレベル 0 の時間ディメンション・メンバーおよび選択した DynamicTimeSeries メンバー(たとえば、QTD、YTD など)の期間累計値を返します。 たとえば、**YTD (Apr)**では、1 月から 4 月の合計を返します。
Descendants	*member* の子孫(包含)	指定の親より下のレベルの全メンバー
Except	Except (*member1*, *member2* など) 2 つを選択し、固定のメンバー、CurrentPOV または他のメンバー関数を使用できます。	2 つの選択を評価し、最初の選択の中で 2 番目の選択にも存在する項目を削除します。 たとえば、**Except (Children(Q1), Feb)**は、Jan、Mar を返します。
Generation	Generation *number*	階層内の世代番号に基づくメンバー

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 10-1 (続き) メンバー選択で使用可能な関数

関数	必要なパラメータ	摘要
Intersect	Intersect (*member1*, *member2* など) 2 から 10 までの間でメンバーを選択し、固定のメンバー、CurrentPOV または他のメンバー関数を使用できます。	関数に指定したすべての選択の結果が交差するメンバー。 たとえば、**Intersect (Children(Q1), Jan,)**は Jan を返します。
Level	Level *number*	階層内のレベル番号に基づくメンバー
Match	**CurrentPOV を含める**(*「いいえ」、「プリフィクスとしてのメンバー名」、「サフィクスとしてのメンバー名」*) **次と一致**(*メンバー名、別名または両方*)	指定のパターンまたは一連の文字と一致するメンバー。 **「CurrentPOV を含める」**を**「プリフィクスとしてのメンバー名」**または**「サフィクスとしてのメンバー名」**に設定することで、一致文字列をプリフィクスまたはサフィクスとしての現在の POV 選択とともに追加できます。デフォルト設定は**「いいえ」**です。 **ノート**: この組合せは、**レポート**または**ブック** POV にすでに存在するディメンションのメンバーを選択するときには使用できません。これは、レポートの行および列の選択でのみサポートされ、ブックではレポートまたはセクション POV でのみサポートされます。 詳細は、例: Match 関数と CurrentPOV の使用を参照してください。 **ノート:** 検索で先頭または末尾のワイルドカードを使用する際に、*****や**?**などのワイルドカード文字を使用できます。
Parent	*member* の親(包含)	指定のメンバーの 1 レベル上のメンバー
PeriodOffset	PeriodOffset (*メンバー、オフセット、セカンダリ・ディメンション、メンバーの下の期間*) 時間ディメンションにのみ適用 例: **PeriodOffset (Jan, -2, Years)** は、カレンダ年の前年 11 月を返します。年ディメンションの名前は "Years"です。 ノート: *メンバーの下の期間*はオプションのパラメータで、月以外の追加のレベル 0 の時間ディメンションのメンバー(期首残高など)が存在し、レベル 0 の子孫メンバーの期間オフセットを特定のメンバーの下にのみ配置する場合に使用されます。	指定のメンバーから算術オフセット(プラスまたはマイナス)を適用したメンバーを返します。月から年までの期間/時間のディメンションに適用されます。ここで年のディメンションは関数の一部として選択されます。 **ノート:** 時間と年のディメンションは、相対する軸に存在できません。両方が行または列の軸にある必要があります。 単一行または列セグメントで **PeriodOffset** 関数を使用していて、次の条件が存在する場合、正しい**年**ディメンションが返されません。 • 同じセグメント内の別のディメンションで複数のメンバーが選択されている場合。 • **CurrentPOV** 関数、または期間ディメンションの他のメンバーやメンバー関数が、**PeriodOffset** 関数と同じセグメント内にある場合。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 10-1 (続き) メンバー選択で使用可能な関数

関数	必要なパラメータ	摘要
Property	ユーザー定義属性(UDA)または関連する属性ディメンション。 演算子: 「次と等しい」(=)または「次と等しくない」(<>) **ノート:** Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースでは、UDA について「次と等しくない」(<>)演算子はサポートされていません。 プロパティ値: UDA の場合: ユーザー定義属性を選択します。 関連属性の場合: 必要な属性ディメンション・メンバーを選択します。	指定したユーザー定義属性(UDA)または関連する属性ディメンション・メンバーに基づいてメンバーを返します。
Range	Range (*frommember*, *tomember*) 開始および終了のメンバーは、固定メンバー、CurrentPOV またはプロンプトにすることができます。	メンバーの範囲を定義します。 たとえば、1 月を開始メンバー、3 月を終了メンバーに選択することで、年のディメンションを使用して第 1 四半期のすべての月を指定できます。 Range 関数を RelativeMember または PeriodOffset 関数とともに使用して、現在の月の前後の月(たとえば、現在の月の 3 か月前から 3 か月後まで)を表示するローリング・レポートを生成できます。例: Range 関数を使用したローリング・レポートの作成を参照してください。 **ノート:** 範囲で *frommember* が *tomember* の後である場合(例: 11 月**から** 8 月**まで**)、返されるデータはデータ・ソースによって異なります。 • Narrative Reporting モデルでは、アウトラインの逆順にメンバーを返します(11 月、10 月、9 月、...8 月)。 • その他すべてのクラウド EPM データ・ソースでは、一般的な順序でメンバーを返し、階層の最後のメンバーに達すると折り返します(11 月、12 月、1 月、...8 月)。
RelativeMember	RelativeMember (*メンバー*,*オフセット*, *メンバーの下の階層*) 例: **RelativeMember(Mar,-1)**は 2 月を返します。 **ノート:** メンバーの下の階層はオプションのパラメータで、ディメンションに追加の階層が存在し、かつ特定のメンバーの下にのみレベル 0 の子孫メンバーの RelativeMember を配置する場合に使用されます。	指定のメンバーから算術オフセット(プラスまたはマイナス)を適用したメンバー。任意のディメンションに適用されます。
SameGeneration	*member* と同じ世代	指定のメンバーと同じディメンションと世代のメンバー
SameLevel	*member* と同じレベル	指定のメンバーと同じディメンションで同じレベルからのメンバー
Siblings	*member* の兄弟(包含)	指定のメンバーと親が同じメンバー

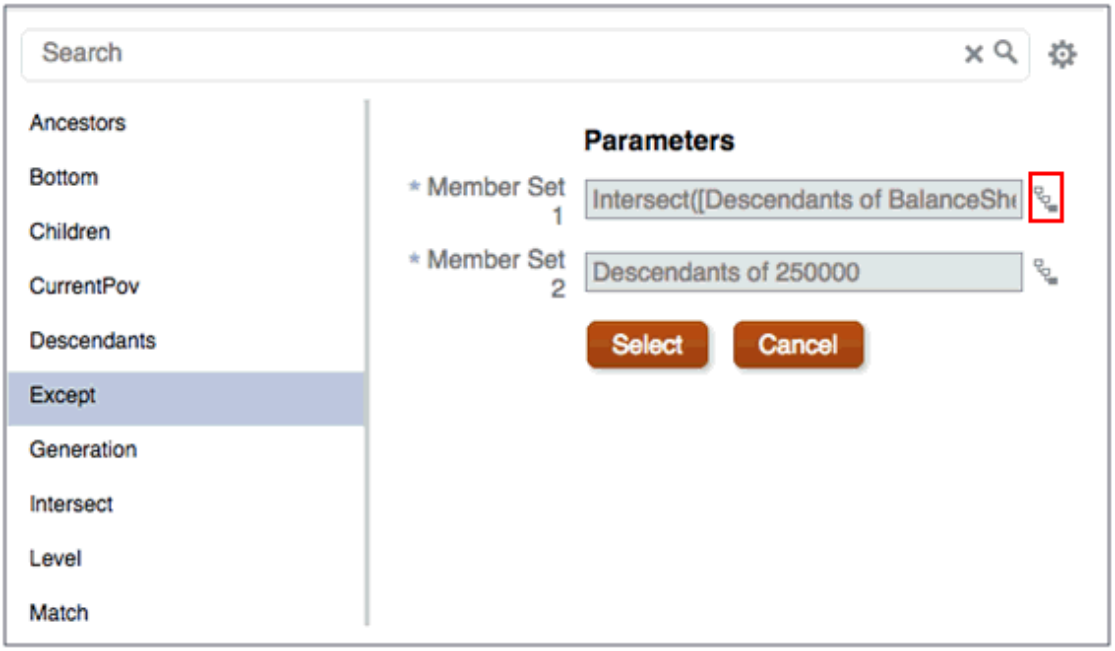
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例: Intersect 関数と Except 関数の組合せ

Intersect 関数は、2 つのメンバーの選択を組み合せます。Exclude 関数は、選択からメンバーを除外します。

これらの関数を組み合せて結果を絞り込むことができます。この例では、*「'Balance Sheet' の子孫」*と *「レベル 1」*の**交差**から、*「'Total Equity' (250000) の子孫」*を**除外**する関数を作成します。

図 10-1 Except 関数

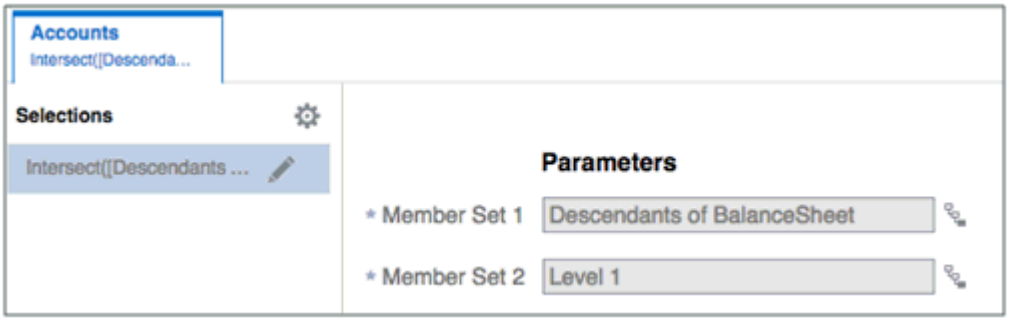


1. メンバーを選択することで開始し、 fx ボタンをクリックして**「すべての関数の表示」**を選択します。
2. **Except** 関数を選択します。
3. 「パラメータ」パネルで、「メンバー・セット 1」の横にある をクリックします。図 1 は、メンバー選択ボタンが強調表示された Except 関数を示しています。

   これにより関数ビルダーの 2 つ目の繰返しがオープンし、Except 関数の内側に Intersect 関数をネストできるようになります。
4. **Intersect** を選択し、「メンバー・セット 1」に「`BalanceSheet` の子孫」、「メンバー・セット 2」に「レベル 1」を入力します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 10-2 Intersect 関数



5. **「選択」**、**「OK」**の順にクリックします。
6. **「メンバー・セット 2」**に、「25000 の子孫」と入力します。

図 10-3 Except 関数と Intersect 関数の結果

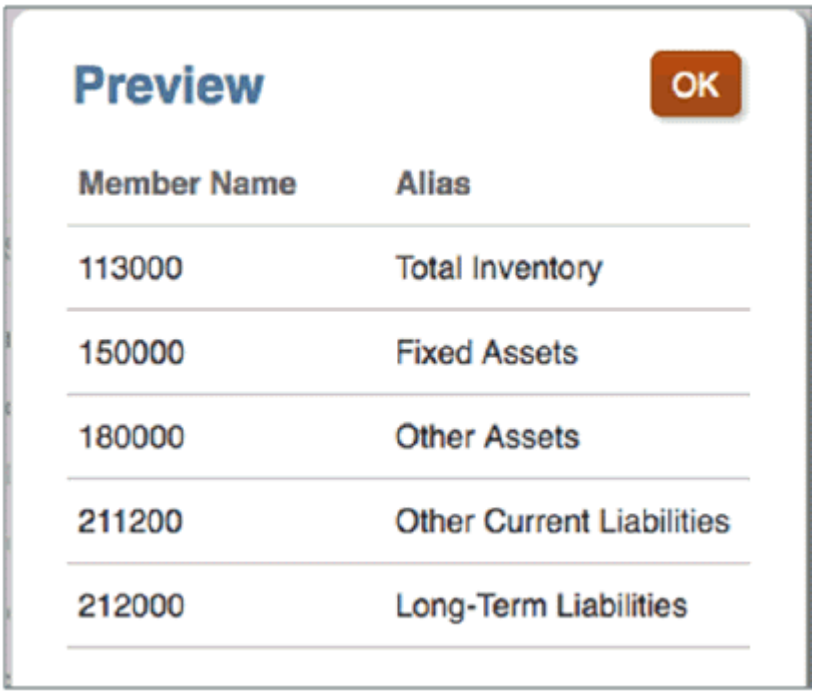


図 3 は、結果を示しています。返された結果には、貸借対照表の資本合計の子孫を除いた貸借対照表のレベル 1 の子孫のすべてが含まれています。

例: Range 関数を使用したローリング・レポートの作成

Range メンバー・セレクタ関数は、指定された開始および終了メンバーに基づいて一定範囲のメンバーを返します。一般的に、現在の月の前後の月(たとえば、現在の月の 3 か月前から 3 か月後まで)を表示するローリング・レポートを生成するために、時間(期間など)ディメンションで CurrentPOV またはプロンプトとともに使用されます。

- **Range** 関数を **RelativeMember** 関数とともに使用すると、年と期間が別個のディメンションにある場合に、オプションで**シナリオ**・ディメンション全体で(たとえば、実績として 1 月から CurrentPOV (期間)、プランとして CurrentPOV +1 (期間)から 12 月)、単一年を対象

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

にできます。また、**Range** および **RelativeMember** 関数は、期間と年が同じディメンションにある Fusion ERP またはカスタム Essbase キューブ・データ・ソースとともに使用して、単一の時間ディメンションを対象にすることもできます。

- Range 関数を **PeriodOffset** 関数とともに使用すると、指定した年および期間ディメンションを対象とするローリング・レポートを生成できます。

  たとえば、メンバー選択関数が次のように定義されているとします。

  範囲開始: 期間が CurrentPOV - 2 の PeriodOffset

  終了: 期間が CurrentPOV + 14 の PeriodOffset

  年と期間の CurrentPOV が 1 月と FY19 の場合、レポートの結果は、開始期間が FY18 の 11 月(Current POV – 2)で、終了期間が FY20 の 3 月(CurrentPOV + 14)です。

例 1: Range および RelativeMember 関数

Narrative Reporting のサンプル・レポート 4 には、シナリオを横断する **1 月**から **12 月**までのローリング・レポートのために **Range** および **RelativeMember** 関数を使用する例が示されています。

これには、行に損益計算書勘定科目、列に**シナリオ**および**会計カレンダ**のディメンションが示されるグリッドが含まれています。

- グリッド列は次のように定義されています。
  - 実績データの POV には、FY17 年 1 月から現在選択されている月(デフォルトでは 6 月)が含まれています。
  - プラン・データには、FY18 年現在の POV + 1 (デフォルトでは 7 月)から 12 月が含まれています。
- POV を変更して異なる月を選択できます。これらの列では、現在の POV、範囲および相対メンバー選択関数を組み合せて使用します。
- POV に 12 月が選択されたときに実際のデータのみを表示するために、列 B および C の条件付き抑制定義に使用される 3 つ目の非表示データ列(C)があり、POV 選択が 12 月の場合にプラン・データが抑制されます。

レポート設計の概要は次のとおりです。

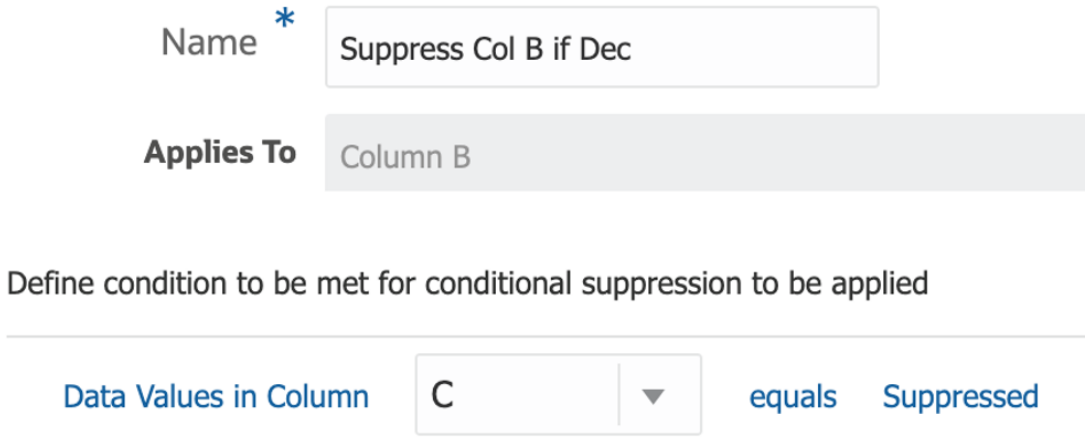
		A	B	C	D
		FY17	FY18	FY18	
		Actual	Plan	Plan	YTD
		n Jan to C	ember of	CurrentPOV	
1	410000	#	#	#	=#
2	450000	#	#	#	=#
3	400000	#	#	#	=#

- 列 A: 1 月から CurrentPOV までの範囲
- 列 B: CurrentPOV + 1 の相対メンバーから 12 月までの範囲

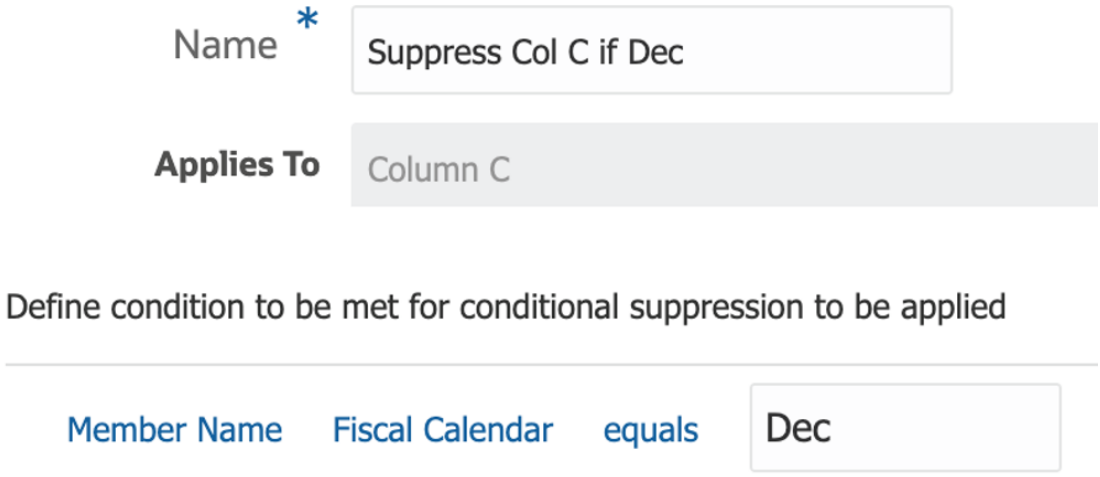
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 列 C (非表示列): CurrentPOV
- 列 D (式列): SUM([A],[B])

列 B の条件付き抑制定義は次のとおりです。



列 C の条件付き抑制定義は次のとおりです。



会計カレンダ・ディメンションに対して 6 月が選択されたレポート・プレビューは次のとおりです。

	Actual						Plan						YTD
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
Net Revenue	138,553	106,518	136,538	135,907	135,399	154,215	148,385	110,093	182,352	142,464	142,627	139,291	1,672,342
Cost of Sales	89,173	68,441	86,047	88,189	84,325	100,588	99,741	70,066	117,467	92,232	91,144	89,085	1,076,498
Gross Profit	49,380	38,077	50,491	47,718	51,073	53,627	48,644	40,027	64,885	50,232	51,483	50,206	595,843

例 2: Range および PeriodOffset 関数

この例で使用されるレポートは、データ・ソースとして Planning Vision Plan1 キューブを利用します。この例では、年と期間を横断するローリング・レポートのために **Range** および

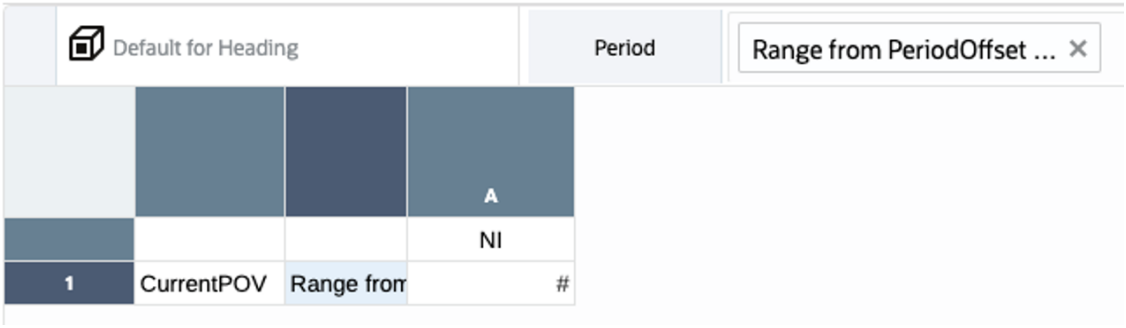
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

PeriodOffset 関数を使用します。グリッドには、時間関連メンバーを簡単に表示するために、列に純利益勘定科目、行に**期間**および**年**ディメンションがあります。

> **Note**
>
> 単一行または列セグメントで **PeriodOffset** 関数を使用していて、次の条件が存在する場合、正しい**年**ディメンションが返されません。
>
> - 同じセグメント内の別のディメンションで複数のメンバーが選択されている場合。
> - **CurrentPOV** 関数、または期間ディメンションの他のメンバーやメンバー関数が、**PeriodOffset** 関数と同じセグメント内にある場合。

POV を変更して異なる月および年を選択できます。

レポート設計の概要は次のとおりです。



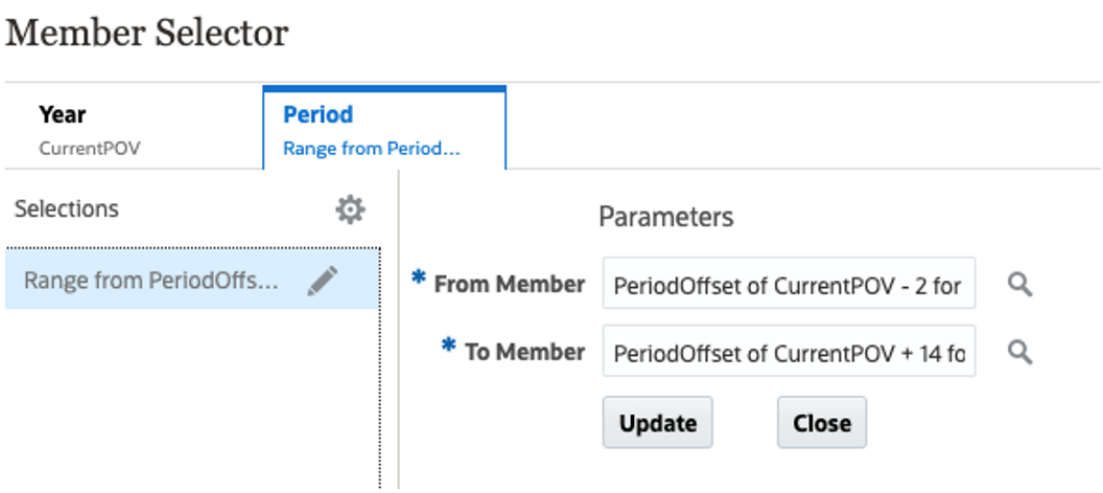
行 1:

- 年ディメンション・メンバーの選択は、CurrentPOV です。
- 期間ディメンション・メンバーの選択は、YearTotal の期間の CurrentPOV - 2 の PeriodOffset から、YearTotal の期間の CurrentPOV + 14 の PeriodOffset までの範囲です。

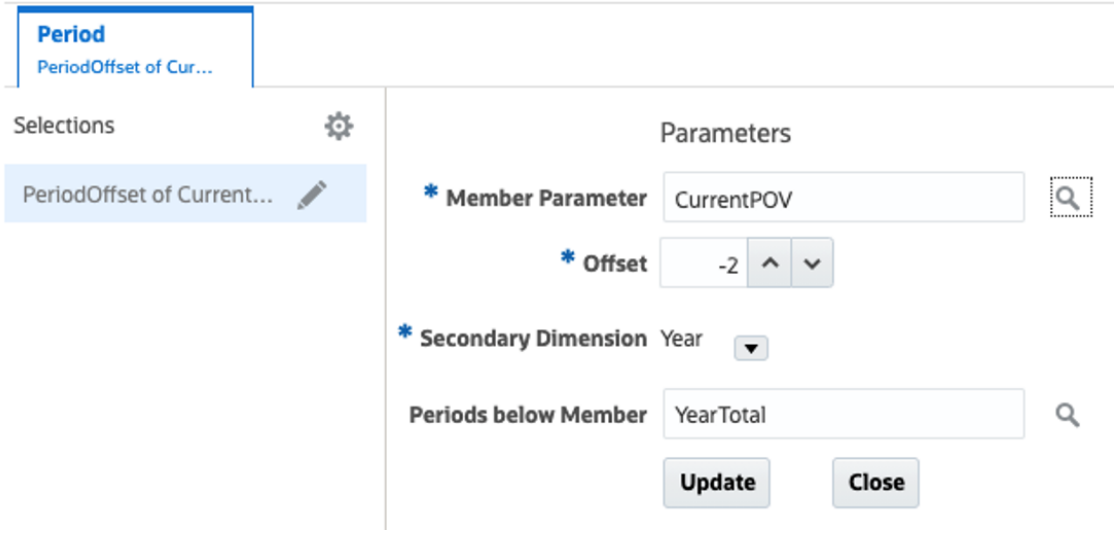
メンバー・セレクタの定義は次のとおりです。

Range 関数:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

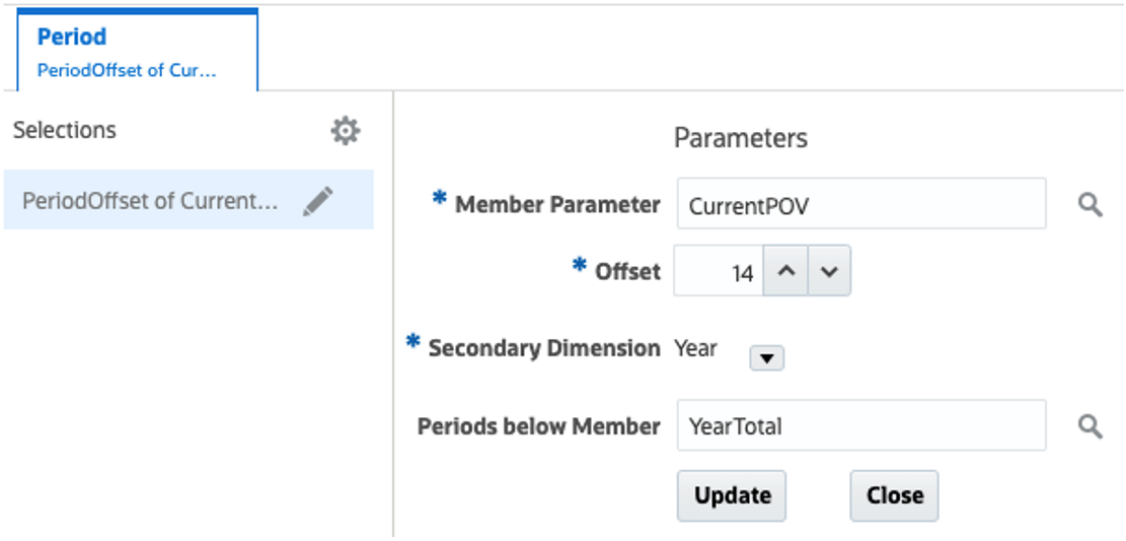


開始メンバー選択:



終了メンバー選択:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



期間ディメンションの POV に対して **1 月**が選択され、年ディメンションの POV に対して **FY19** が選択されたレポート・プレビューは次のとおりです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Period	Year
Jan	FY19

		Net Income
FY18	Nov	-
FY18	Dec	-
FY19	Jan	7,377,995
FY19	Feb	4,711,140
FY19	Mar	7,382,344
FY19	Apr	7,941,803
FY19	May	5,689,966
FY19	Jun	8,941,050
FY19	Jul	8,206,918
FY19	Aug	8,975,042
FY19	Sep	9,474,746
FY19	Oct	7,195,424
FY19	Nov	8,635,875
FY19	Dec	11,558,340
FY20	Jan	-2,775,818
FY20	Feb	426,644
FY20	Mar	2,959,409

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例: Match 関数と CurrentPOV の使用

Match 関数を使用すると、指定のパターンまたは一連の文字と一致するメンバーを選択できます。**CurrentPOV** 関数は、ディメンションの POV から選択されたメンバーを返します。

「CurrentPOV を含める」を**「プリフィクスとしてのメンバー名」**または**「サフィクスとしてのメンバー名」**に設定することで、**一致**文字列をプリフィクスまたはサフィクスとしての現在の POV 選択とともに追加できます。デフォルト設定は**「いいえ」**です。

この例では、**Year** ディメンションの **JanYTD**、**FebYTD**、...**DecYTD** の代替階層を持つ変更済の Oracle Essbase Sample Basic キューブで、**Match** と **CurrentPOV** の組合せを使用する方法を示します。

これを使用すると、**Years** ディメンションの CurrentPOV の月を選択して、それに関連する **YTD** メンバーが選択されるようにできます。たとえば、**「Aug」**を選択して、**「AugYTD」**が返るようにします。

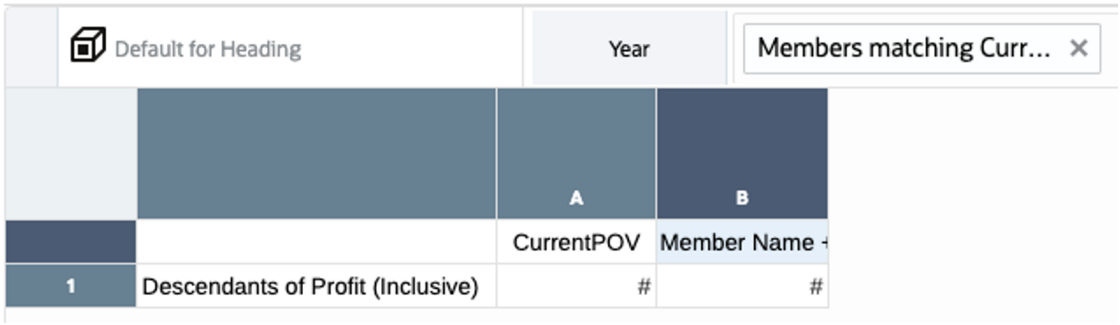
次に、変更済の Essbase Sample Basic キューブの **Year** ディメンションを示します。

Name	CO	Data Storage Type
Year		Dynamic Calculation
Qtr1	+ (Add)	Dynamic Calculation
Qtr2	+ (Add)	Dynamic Calculation
Qtr3	+ (Add)	Dynamic Calculation
Qtr4	+ (Add)	Dynamic Calculation
YTD	~ (Ignore)	Label Only
JanYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
FebYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
Jan	+ (Add)	Shared Member
Feb	+ (Add)	Shared Member
MarYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
AprYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
MayYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
JunYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
JulYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
AugYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
SepYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
OctYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
NovYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation
DecYTD	~ (Ignore)	Dynamic Calculation

次のグリッド設計では、行に **Measures** ディメンションの**「Profit の子孫(包含)」**、列に **Year** があり、次のように設定されています。

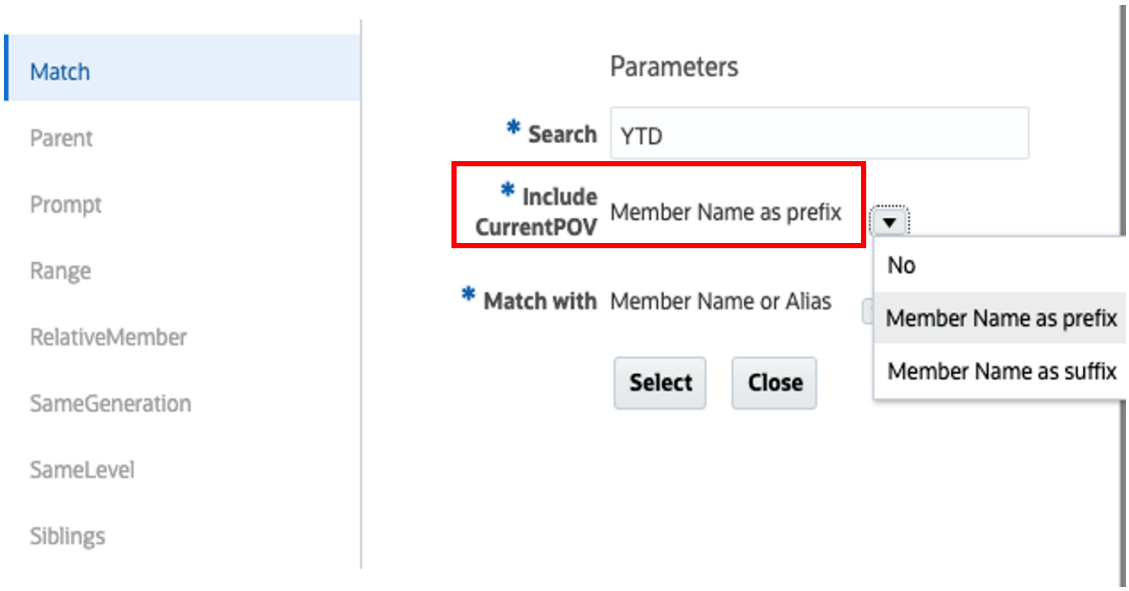
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- CurrentPOV – POV で選択された月を表示。
- プリフィクスとして CurrentPOV を持つ **YTD** に一致するメンバー。



列 B については、メンバー・セレクタの「関数」で **Match** 関数が選択された状態で、次のようにします。

- **YTD** という**検索**文字列を入力します。
- **「CurrentPOV を含める」**を**「プリフィクスとしてのメンバー名」**に設定します。
- **「次と一致」**オプションが**「メンバー名または別名」**に設定されます。



Year の POV 選択として **Aug** を使用したグリッドをプレビューする場合、最初の列に、現在の POV である**「Aug」**が表示され、2 番目の列に、**Aug** という現在の POV と **YTD** に一致する**「AugYTD」**が表示されることに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Year Aug	Aug	AugYTD
Sales	36,008	269,641
COGS	16,272	120,633
Margin	19,736	149,008
Marketing	6,046	44,586
Payroll	4,056	32,523
Misc	89	666
Total Expenses	10,191	77,775
Profit	9,545	71,233

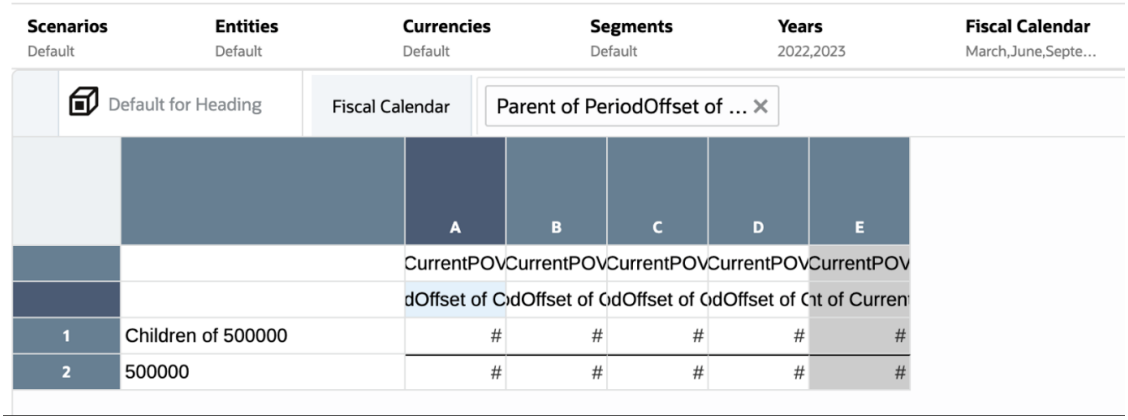
例: ローリング四半期を返すための PeriodOffset および Parent 関数の使用

PeriodOffset 関数を使用すると、期間および年の両方のディメンションを横断して、相対的な期間ディメンションのメンバーを返すことができます。この関数を使用して、月や年をまたぐローリング・レポートを作成できます。

PeriodOffset 関数はレベル 0 の期間のみを返しますが、これを **Parent** 関数と組み合せることで、ローリング・レポートで四半期を返すことができます。たとえば、現在の四半期に対する相対的な前の 4 四半期を表示します。

次の例では、Narrative Reporting サンプル・アプリケーションを利用しています。次のレポート設計をご覧ください:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



グリッド行に、**Operating Expenses** が選択された **Account** ディメンションが示されています。**Years** および **Fiscal Calendar** (期間)ディメンションが列にあります。**Years** ディメンションでは 5 列すべてで CurrentPOV が選択されています。**Fiscal Calendar** ディメンションでは CurrentPOV、Parent および PeriodOffset のメンバーが組み合せて利用されています(後で詳細を説明します)。**Fiscal Calendar** POV メンバーの選択定義は四半期末の 4 つの月(3 月、6 月、9 月および 12 月)のみであることに注意してください。

Table 10-2　ローリング四半期を返すための PeriodOffset および Parent 関数

列	関数	摘要
A	Parent (CurrentPOV-12 の PeriodOffset)	CurrentPOV の月の選択を取得し、年をまたいで 12 か月前の月を返した後、その月の親の四半期メンバーを返します。
B	Parent (CurrentPOV-9 の PeriodOffset)	CurrentPOV の月の選択を取得し、年をまたいで 9 か月前の月を返した後、その月の親の四半期メンバーを返します。
C	Parent (CurrentPOV-6 の PeriodOffset)	CurrentPOV の月の選択を取得し、年をまたいで 6 か月前の月を返した後、その月の親の四半期メンバーを返します。
D	Parent (CurrentPOV-3 の PeriodOffset)	CurrentPOV の月の選択を取得し、年をまたいで 3 か月前の月を返した後、その月の親の四半期メンバーを返します。
E	Current POV の Parent	CurrentPOV の月の選択の親の四半期を返します

Years = 2023 および **Fiscal Calendar** = June に対する次の結果をご覧ください。最後の網掛けの列は、現在選択されている月である June を反映して 2023 年の Quarter2 を返します。その前の 4 列は、**June** の選択に基づき、年をまたいで前の 4 四半期を返します:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Scenarios	Entities	Currencies	Segments	Years	Fiscal Calendar
Scenarios	Entities	Currencies	Total Segments	2023	June

	2022 Quarter2	2022 Quarter3	2022 Quarter4	2023 Quarter1	2023 Quarter2
Total Compensation	28,648,853	29,921,682	29,194,845	24,762,818	29,591,774
Travel	2,110,408	2,067,139	2,032,620	1,976,320	2,153,087
General Supplies	1,590,147	1,561,081	1,522,015	1,495,651	1,639,226
Telecommunications	2,789,423	2,807,857	2,752,029	2,534,584	2,870,942
Equipment Maintenance	6,605,956	6,725,156	6,685,744	5,901,271	6,771,380
Fees Outside Services	44,122,517	46,621,210	53,666,333	39,411,600	45,560,979
Employee HR	2,890,800	2,877,416	2,842,501	2,666,731	2,980,400
Facilities Exp	5,716,135	5,918,373	6,222,202	5,085,534	5,914,723
Utilities	937,557	976,218	1,118,115	846,364	978,499
Depreciation and Amort	7,773,844	8,235,915	9,475,704	6,879,454	8,112,783
Operating Expenses	103,185,641	107,712,046	115,512,108	91,560,328	106,573,793

次の例は **Fiscal Calendar** = March の結果を示し、現在の四半期が最後の網掛けの列に反映され、前の 4 列は、**March** の選択に基づき、年をまたいで前の 4 四半期を返します。

Scenarios	Entities	Currencies	Segments	Years	Fiscal Calendar
Scenarios	Entities	Currencies	Total Segments	2023	March

	2022 Quarter1	2022 Quarter2	2022 Quarter3	2022 Quarter4	2023 Quarter1
Total Compensation	27,278,656	28,648,853	29,921,682	29,194,845	24,762,818
Travel	2,328,175	2,110,408	2,067,139	2,032,620	1,976,320
General Supplies	1,700,393	1,590,147	1,561,081	1,522,015	1,495,651
Telecommunications	2,902,990	2,789,423	2,807,857	2,752,029	2,534,584
Equipment Maintenance	7,074,899	6,605,956	6,725,156	6,685,744	5,901,271
Fees Outside Services	70,890,879	44,122,517	46,621,210	53,666,333	39,411,600
Employee HR	3,150,763	2,890,800	2,877,416	2,842,501	2,666,731
Facilities Exp	7,182,913	5,716,135	5,918,373	6,222,202	5,085,534
Utilities	1,506,838	937,557	976,218	1,118,115	846,364
Depreciation and Amort	12,447,424	7,773,844	8,235,915	9,475,704	6,879,454
Operating Expenses	136,463,930	103,185,641	107,712,046	115,512,108	91,560,328

プロンプトを使用したメンバーの割当

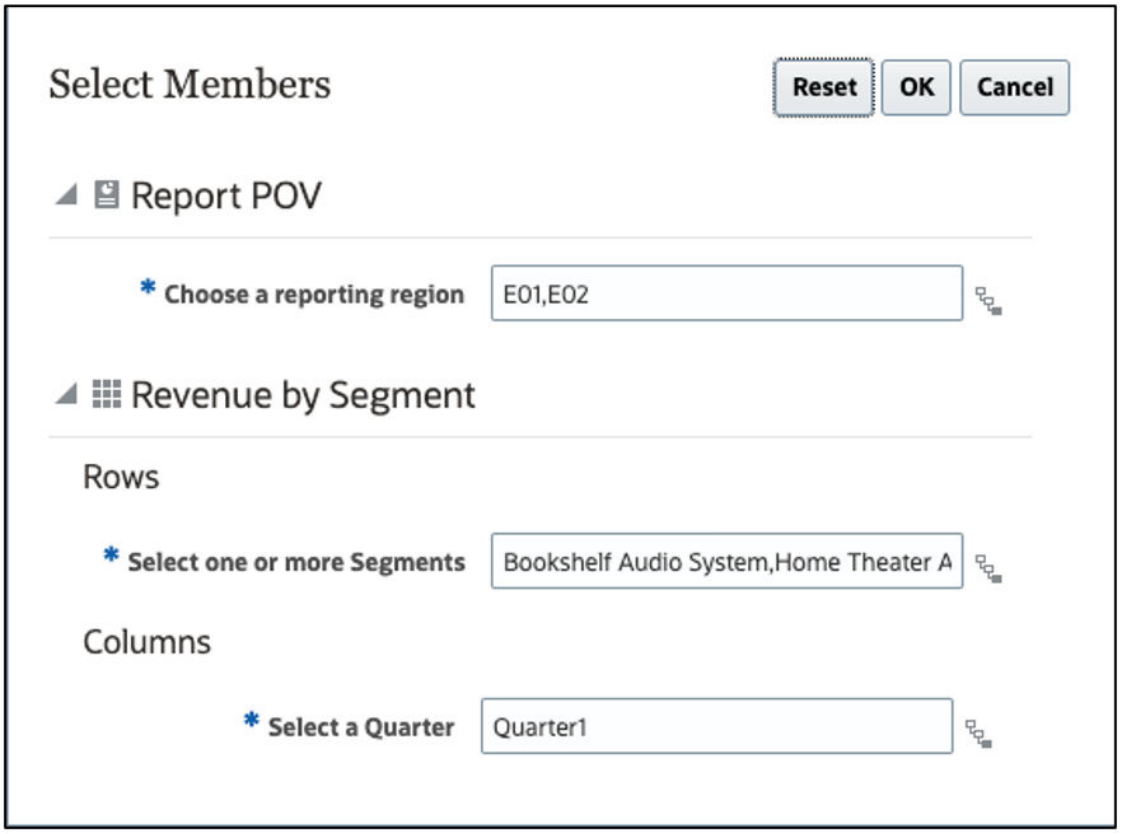
プロンプトを使用すると、レポート・ビューアでレポートの実行時にグリッドの行や列、POV のメンバーを選択できます。

レポートの設計時にプロンプトのメンバー選択を定義しておき、レポートの実行時にレポート・ビューアにより定義済のメンバーから選択されます。プロンプトは、(**「すべての選択の印刷」**が有効化されている)グローバル POV、およびレポートのグリッドの行および列に定義できます。たとえば、図 1 は、グローバル POV で `Products` および `Years` を、グリッド行で `Account` のメンバーを、グリッド列で `Period` のメンバーを選択可能な、レポートの実行時にユーザーに対して表示されるプロンプトを示しています。

 - レポートでのプロンプトの定義を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 10-4 POV およびグリッドのプロンプトの例



プロンプトの使用時の考慮事項は次のとおりです。

- POV ディメンションのプロンプトは**「すべての選択の印刷」**が有効化されているときに選択可能です。これによりユーザーは、レポートの実行時に POV ディメンションのメンバーを 1 つ以上選択できます。
- 他のメンバー選択関数内のグリッド行または列セグメントにプロンプトを定義できます。たとえば、`Range (prompt1, prompt2)`です。
- リファレンス・ドックレットとしてレポート・パッケージに挿入されるレポートでプロンプトを使用できます。

プロンプトの定義

プロンプトを定義するには:

1. レポートをオープンし、グリッドを編集します。
2. 次のいずれかを実行して、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスをオープンします。
   - グリッドでディメンションを右クリックし、**「メンバーの選択」**をクリックします。
   - グリッドのディメンションを選択し、ディメンション名付きの算式バーの をクリックします。
3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスで、次の処理を実行します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- メンバーの横にある fx をクリックし、**「すべての関数の表示」**を選択して関数ビルダーをオープンします。
- ダイアログ・ボックスの下部にある表示セレクタ・ドロップダウン・メニューで、**「関数」**を選択します。

4. 「関数」リストから**プロンプト**を選択します。
5. **プロンプト・ラベル**に、ユーザーに対して表示されるプロンプト・テキストを入力します。たとえば、「Select a Quarter:」とします。
6. **「選択リスト」**で、ユーザーが選択可能なメンバーを選択します。考慮事項:
   - 複数のデータ・ソースがあるレポートのグローバル POV プロンプトでは選択リストは必須です。
   - 他のすべてのプロンプトでは選択リストはオプションです。選択リストを指定しない場合、ユーザーは自分がアクセス権があるディメンションのすべてのメンバーを 選択可能です。
   - **「子孫」**または**「子孫(含む)」**の単一メンバー選択機能を持つ選択リストは、エンド・ユーザーに階層形式でレンダリングされます。
7. **複数選択を許可**を使用すると、ユーザーによる選択を 1 つのみに制限するか、複数のディメンション・メンバーを選択できるようにすることができます。

> ⓘ **ノート**
>
> **「複数選択の許可」**は、**「子」**、**「子孫」**および**下位**メンバー選択関数内でプロンプトをパラメータとして使用する場合に有効にできます。

8. **オプション**: **デフォルト選択**で、プロンプトのデフォルトとしてリストされるメンバーを選択します。**複数選択を許可**が無効になっている場合、デフォルト・メンバーを 1 つのみ選択できます。

> ⓘ **ノート**
>
> 関数をデフォルト・メンバーとして指定することはできません。

POV でのプロンプトの使用

POV でのプロンプトの使用時にはいくつかの考慮事項があります。

- プロンプトはグローバル POV においてのみサポートされています。ローカル POV にプロンプトを定義することはできません。
- **「提案のみ表示」**は常に有効になっています。ユーザーは POV の選択肢を編集することはできず、プロンプトに応答するのみです。
- **「すべての選択の印刷」**は、印刷可能ページの場合は常に有効になっています。
- POV の別のメンバー選択関数のパラメータとして単一選択を含むプロンプトを使用できます。たとえば、期間(時間)ディメンションで選択を子(プロンプト)として定義し、プロンプトにより、ユーザーが Qtr1、Qtr2、Qtr3 または Qtr4 を選択できるようにすることができます。ユーザーがレポートを実行すると、選択した四半期の子が返されます(たとえば、ユーザーが Qtr1 を選択した場合、1 月、2 月、3 月が返されます)。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

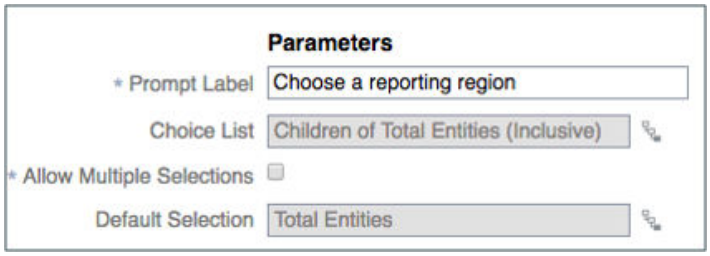
- プロンプトが定義された POV ディメンションには、POV 選択として追加のメンバーまたは関数を含めることはできません(前の箇条書きに記載されているように単一メンバーのプロンプトを除く)。
- グリッドで同じディメンションの `Current POV` が選択されている場合、POV ディメンションでプロンプトを使用することはできません。
- レポートに複数のデータ・ソースがあり、プロンプトがある POV ディメンションが共有されている場合、プロンプトには(現在 POV で行われているように)データ・ソース間の共通メンバーのリストが表示されます。

レポートのリファレンス・ドックレットでのプロンプトの使用

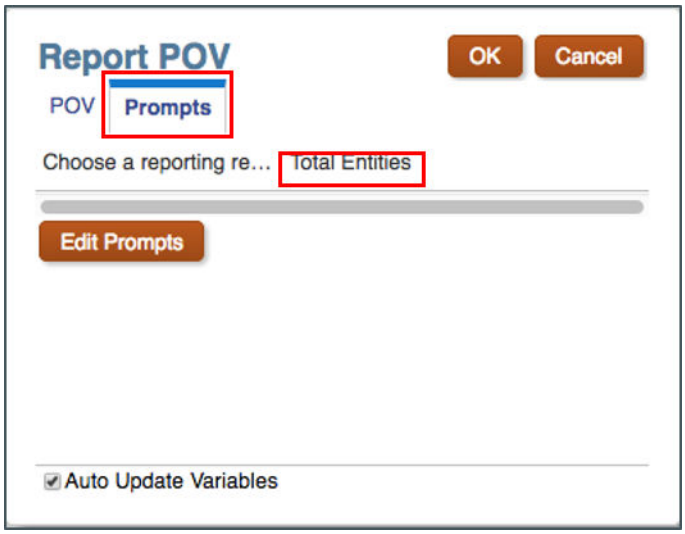
プロンプトのあるレポートをリファレンス・ドックレットとしてレポート・パッケージに挿入できます。レポートを挿入するときおよびスナップショットをリフレッシュするときにプロンプトに応答します。リファレンス・ドックレットをチェック・インすると、そのリファレンス・ドックレットを使用するすべてのドックレットが、プロンプトの選択を反映するように更新されます。

たとえば、図 2 には、デフォルト選択として `Total Entities` が設定された、`Total Entities` の子(包含)のプロンプトが示されています。

図 10-5 リファレンス・ドックレット・プロンプトの例: 定義



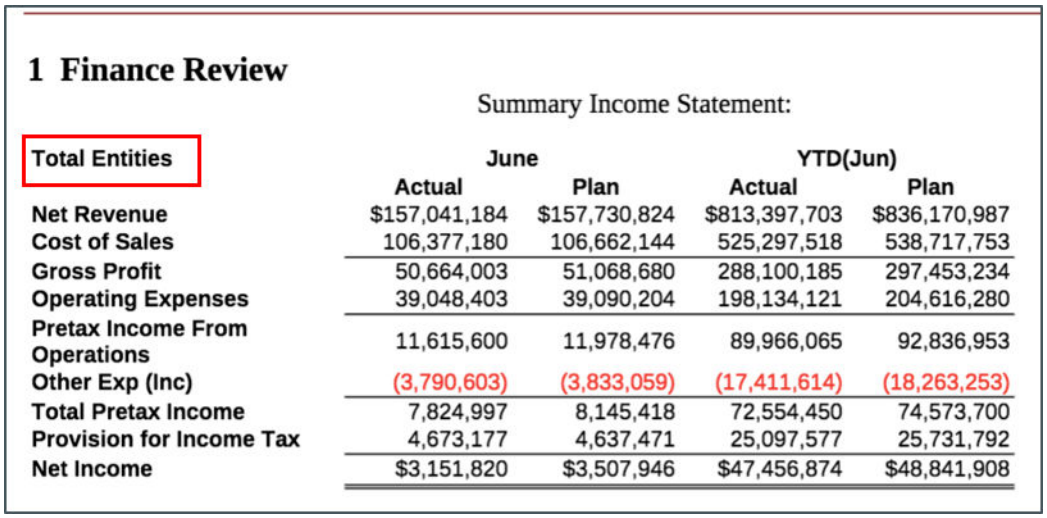
レポートをレポート・パッケージにリファレンス・ドックレットとして挿入すると、「レポート POV」ダイアログ・ボックスのプロンプト・タブが表示されます。プロンプト・タブを選択し、選択を行います。この例では、デフォルト値の `Total Entities` のままにしておきます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

図 3 は、挿入されたリファレンス・ドックレットの出力を示しており、POV に `Total Entities` が表示されています。

図 10-6 リファレンス・ドックレット・プロンプトの例: 出力



1 Finance Review

Summary Income Statement:

Total Entities	June		YTD(Jun)	
	Actual	Plan	Actual	Plan
Net Revenue	$157,041,184	$157,730,824	$813,397,703	$836,170,987
Cost of Sales	106,377,180	106,662,144	525,297,518	538,717,753
Gross Profit	50,664,003	51,068,680	288,100,185	297,453,234
Operating Expenses	39,048,403	39,090,204	198,134,121	204,616,280
Pretax Income From Operations	11,615,600	11,978,476	89,966,065	92,836,953
Other Exp (Inc)	(3,790,603)	(3,833,059)	(17,411,614)	(18,263,253)
Total Pretax Income	7,824,997	8,145,418	72,554,450	74,573,700
Provision for Income Tax	4,673,177	4,637,471	25,097,577	25,731,792
Net Income	$3,151,820	$3,507,946	$47,456,874	$48,841,908

代替変数およびユーザー変数の操作

代替変数は、定期的に変更される特定のメンバーのプレースホルダとして機能する、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management または Essbase データ・ソースで定義される変数です。

Cloud EPM では、ユーザー変数を設定してレポートに表示されるメンバー数を制限でき、ユーザーが特定のメンバーに焦点を当てるのに役立ちます。たとえば、Entity ディメンションに Division というユーザー変数を作成した場合、ユーザーは独自の部門のメンバーを選択できます。

変数 *CurrMonth* を使用して現在の月(1 月)を表し、レポートにメンバー選択として挿入できます。変数および文字列値を作成することで、データ・ソースに変数を作成します。その後、いつでもデータ・ソースの変数の値を変更できます。

グリッドのメンバーを選択すると、メンバー・セレクタには、選択したディメンションで使用可能な代替変数およびユーザー変数が表示されます。変数の名前と値の両方が、グリッドの列、行および視点(POV)に表示されます。変数には&のプリフィクスが付きます(たとえば、*&CurrMonth*)。

代替変数およびユーザー変数を操作する場合は、いくつかの考慮事項があります。

- 通常のメンバーを使用する場合と同様に、変数を他のメンバー選択関数の中でメンバー選択として使用できます。たとえば、Children (*&CurrentQuarter*)などです。
- POV 選択で変数を選択するには、レポート・プレビューアを有効にします。
- 変数の値は、システムが最初にデータ・ソースに接続するときに取得されます。メンバー・セレクタまたは POV(あるいはその両方)に変数の値が表示されます。レポートの実行時に、最新の変数値が取得されます。ただし、ユーザーのセッション中に変数値が変更された場合、ユーザーがログアウトしてから再度ログインして新しいセッションに再接続するまで、変更はメンバー・セレクタまたは POV に表示される変数値に反映されません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- レポート・パッケージ内のレポートのリファレンス・ドックレットの場合は、メンバー選択から変数を選択できます。

> **ⓘ ノート**
>
> - 引用符で囲まれた代替変数の値(例: "Net Income")は、Narrative Reporting ではサポートされていません。Narrative Reporting メンバー・セレクタに表示されるのは、引用符で囲まれていない代替変数の値のみです。
> - データ・ソースにおいて引用符で囲まれた代替変数の名前(例: "Current Month")は、レポートではサポートされていません。レポートでは、引用符で囲まれていない代替変数の名前のみがサポートされています(例: Current Month)。
> - メンバー・セレクタに表示されるのは、メンバー名が指定されている代替変数の値のみです。メンバーの別名が指定されている代替変数の値は表示されません。
> - 変数値に複数のメンバーが定義されたユーザー変数は、メンバー・セレクタに最初の値のみを表示します。

データ行またはデータ列の見出しの上書き

デフォルトでは、データ行およびデータ列の見出しのラベルは、メンバー名、別名、両方など、グリッド・プロパティの**「見出し」**セクションから継承されます。

デフォルト設定は、行または列のレベルで上書きできます。

グリッドで特定のデータ行またはデータ列の見出しを上書きするには:

1. データ行またはデータ列の見出しセルで、  をクリックします。

> **ヒント**
>
> 同じディメンションの複数のヘッダー・セルを選択できます。

2. 表示オプションを選択します。
   - ラベルに対するグリッドのデフォルトを受け入れます。
   - メンバー名のみを表示します。
   - メンバーの別名のみを表示します。
   - メンバー名とその別名を表示します。
   - カスタム・ヘッダーを作成します。

> **ⓘ ノート**
>
> カスタム・ヘッダーについて、ヘッダーに表示するテキスト、テキスト関数またはその両方を入力するか、  をクリックしてテキスト関数を選択します。グリッドのテキスト関数についてを参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

メンバーの検索

メンバー名、別名または両方で検索するには、グリッドの「処理」メニューから**「メンバー・ラベル」**設定を使用します。

編集するメンバーの検索を実行できます。

メンバーを検索するには:

1. レポートをオープンし、グリッドを選択します。
2. 次のいずれかを実行して、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスをオープンします。
   - グリッドでディメンションを右クリックし、**「メンバーの選択」**をクリックします。
   - グリッドのディメンションを選択し、ディメンション名付きの算式バーの  をクリックします。
3. **「メンバー・セレクタ」**ダイアログ・ボックスで、検索するテキストを検索ボックスに入力し、  をクリックします。

   検索結果には、完全修飾されたメンバー名およびその祖先(該当する場合)が表示されます。
4. **オプション:** 検索結果で  をクリックし、そのメンバーの親メンバーを拡張してメンバー階層に表示します。
5. **オプション: 表示セレクタ**・ドロップダウン・メニューを使用して、検索結果の表示をメンバー階層、最近、関数またはリストに変更します。

> **ⓘ ノート**
>
> メンバー数が 25,000 を超えるディメンションでは、メンバー・セレクタ内の検索はメンバー名のみ(別名ではない)に基づき、「次を含む」ではなく「次で始まる」タイプの検索が実行されます。

選択したメンバーのプレビュー

レポートを実行する前に、そのレポートに選択されているメンバー、関数およびリストをプレビューできます。

表示されるメンバーは、評価されたメンバー・リストまたは関数の結果です。

メンバーをプレビューするには:

1. レポートをオープンし、グリッドを選択します。
2. 次のいずれかを実行して、**「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスをオープンします。
   - グリッドでディメンションを右クリックし、**「メンバーの選択」**をクリックします。
   - グリッドのディメンションを選択し、ディメンション名付きの算式バーの  をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスの**「選択内容」**ペインで、  をクリックします。
4. **「プレビュー」**を選択します。

保存されたメンバー選択の操作

保存されたメンバー選択では、レポート内のメンバー選択として再利用できるメンバーのリストを定義できます。

1 つ以上のメンバー、関数またはプロンプトを保存されたメンバー選択として保存し、その選択をレポートの複数のセグメントで使用できます。

保存されたメンバー選択を操作する場合は、いくつかの考慮事項があります。

- 単一のメンバーまたはプロンプト結果が定義されている場合は、保存された選択を関数のメンバー選択パラメータとして使用できます。
- 保存された選択を表示および使用するには、レポート設計者である必要があります。表示専用ユーザーは、保存された選択を表示または使用できません。
- 現在、保存された選択は作成されたレポートでのみ使用できます。保存されたメンバー選択は、ユーザー定義リストなど、レポート全体で使用することはできません。
- 保存された選択があるレポートを参照ドックレットとしてレポート・パッケージに挿入すると、レポートのスナップショットを生成するときに、保存された選択は表示されません。
- レポート・パッケージを操作する場合、保存された選択は、レポート定義を編集する場合にのみ使用できます。

保存されたメンバー選択の作成、編集、削除、名前変更および複製

保存されたメンバー選択の作成

保存されたメンバー選択を作成するには:

1. メンバー・セレクタで、次の 1 つ以上を選択します。
   - メンバー
   - 関数
   - プロンプト
2. 

   メニューから、**選択の保存**を選択します。
3. 保存された選択の名前を入力して、**「OK」**をクリックします。

保存されたメンバー選択の編集、削除、複製または名前変更

保存されたメンバー選択を編集または削除するには:

1. 保存された選択が存在するディメンションの「メンバー・セレクタ」ダイアログをオープンします。
2. **表示セレクタ**・ドロップダウン・メニューから、**保存された選択**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. 次の処理を実行します。
   - 保存された選択を編集するには、保存された選択の横にある**「保存済選択処理」**ドロップダウン・メニューをクリックして、**「編集」**をクリックします。
   - 保存された選択を削除するには、保存された選択の横にある**「保存済選択処理」**ドロップダウン・メニューをクリックして、**「削除」**をクリックします。
   - 保存された選択の横にある**「保存済選択処理」**ドロップダウン・メニューから、**「複製」**をクリックします。
   - 保存された選択の横にある**「保存済選択処理」**ドロップダウン・メニューから、**「名前変更」**をクリックします。

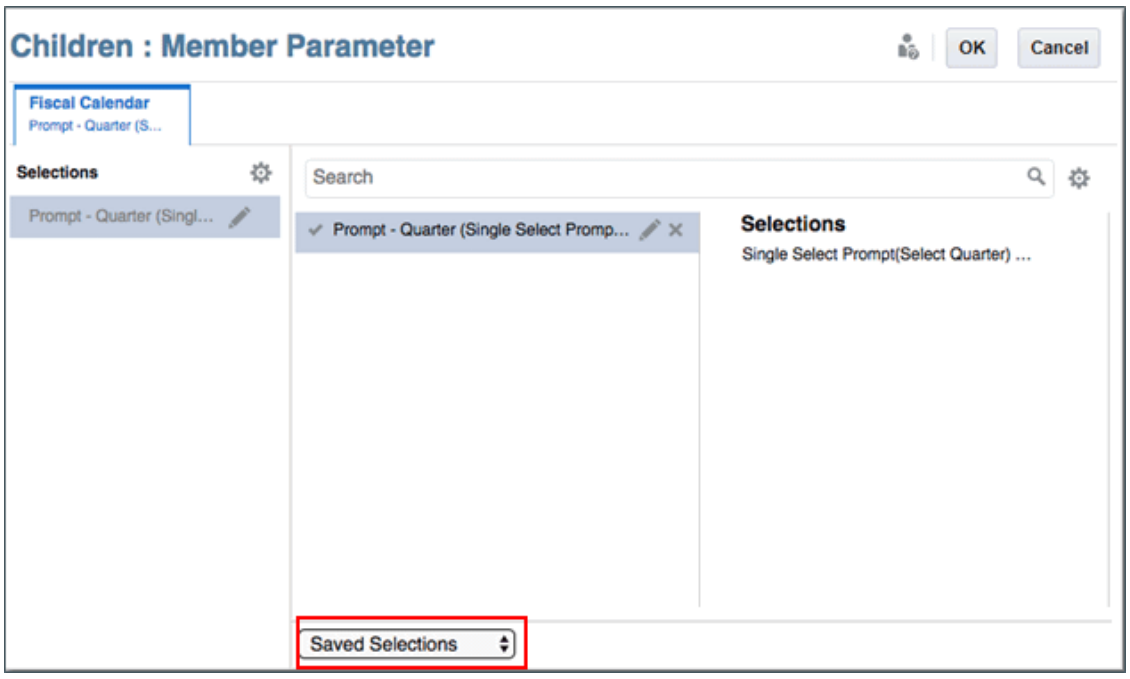
メンバー選択での保存された選択の使用

保存されたメンバー選択を作成(保存されたメンバー選択の作成、編集、削除、名前変更および複製を参照)した後は、その保存された選択をメンバー選択として使用できます。

保存された選択をメンバー選択として使用するには:

1. 保存された選択を使用するメンバーの「メンバー・セレクタ」ダイアログをオープンします。
2. 表示セレクタ・ドロップダウン・メニューから、**保存された選択**を選択します。**「選択の保存」**ダイアログが表示されます。
3. メンバー選択として使用する保存された選択を選択します。

> **ⓘ ノート**
>
> 保存された選択をクリックすると、右側のパネルにその定義が表示されます。保存された選択を検索することもできます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

共有メンバーの抑制

グリッドの共有メンバーの表示を抑制できます。

グリッドの共有メンバーの表示を抑制するには:

1. 「メンバー・セレクタ」をオープンします。
2. 「選択内容」ペインで、 をクリックします。
3. **「共有メンバーの抑制」**の横にある をクリックします。

サポート詳細の表示

適切な Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースを使用し、**「勘定科目」**ディメンションがある行を選択すると、メンバーのサポート詳細を表示できます。

選択した行の 1 つ以上のセルにサポート詳細がある場合は、サポート詳細を表示する追加の行が挿入されます。

サポート詳細を表示するには:

1. グリッドで、サポート詳細が表示される「勘定科目」ディメンションがある行を選択します。
2. 右クリックするか、ヘッダーにある下矢印をクリックし、**「メンバーの選択」**を選択します。
3. **「選択内容」**で をクリックし、次に**「サポート詳細の表示」**の横にあるチェック・マークをクリックします。
4. **「OK」**をクリックします。

   サポート詳細を使用可能なセルが、セルの右上隅の三角形で示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

11

関数の使用

次も参照:

- 算術関数
  次に示す、すべての算術関数がグリッドおよび表に適用されます。表向けに、セルおよび日付差異の 2 つの新しい関数が導入されました。
- 算術関数について
  算術関数は、数値またはグリッドのデータで計算を実行します。算術関数、算式およびそれらの構文では、大文字と小文字は区別されません。
- 算術関数の引数
- 数値引数
- 行、列またはセルの参照の引数
- 引数としての埋込み関数
- 式の算術演算子
- 式の算術オペランド
- 式を使用した同じレポート内の別のグリッドの参照
- 通常の優先順位
- Absolute
- Average
- AverageA
- Count
- CountA
- Difference
- Eval
- IFThen
- Max
- Min
- PercentofTotal
- Product
- Rank
- Round
- Sum
- SumV
- Truncate
- Variance

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Essbase を使用した予想される結果
- Cloud EPM を使用した予想される結果
- Variance の動作
- 例
- VariancePercent
- Essbase を使用した予想される結果
- Cloud EPM を使用した予想される結果
- VariancePercent の動作
- 例
- テキスト関数
- グリッドのテキスト関数について
  グリッドのテキスト関数は、レポート名やレポートの摘要などのレポート情報を返します。
- テキスト関数に関する考慮事項
- テキスト関数のパラメータ
- AncestorName / AncestorAlias
- AutoTextSummary
- CellText
- CellValue
- ColumnNumber/RowNumber
- ConditionalText
- DateTime
- GridNotes
- HeadingValue
- Left/Right/Mid
- MemberAlias
- MemberName
- MemberProperty
- ノート
- PageCount
- PageNumber
- ReportAuthor
- ReportCreatedOn
- ReportDescription
- ReportLocation
- ReportModifiedBy
- ReportModifiedOn
- ReportName

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- ReportRunBy
- SummarizeGridNotes
- 表のテキスト関数について
- AncestorAlias
- AttributeValue
- DateOffset
- 条件関数
- IFThen、If
- 条件演算子
- 複合条件

算術関数

次に示す、すべての算術関数がグリッドおよび表に適用されます。表向けに、セルおよび日付差異の 2 つの新しい関数が導入されました。

次も参照:

- 算術関数について
  算術関数は、数値またはグリッドのデータで計算を実行します。算術関数、算式およびそれらの構文では、大文字と小文字は区別されません。
- Absolute
- Average
- AverageA
- Count
- CountA
- Difference
- Eval
- IFThen
- Max
- Min
- PercentofTotal
- Product
- Rank
- Round
- Sum
- SumV
- Truncate
- Variance
- VariancePercent

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

算術関数について

算術関数は、数値またはグリッドのデータで計算を実行します。算術関数、算式およびそれらの構文では、大文字と小文字は区別されません。

算術関数の構文は次のとおりです。

FunctionName(*arguments*)

ここで:

FunctionName は算術関数の名前です。

arguments は、数値、行、列またはセル参照、あるいは埋込み関数です。

算術関数の引数

次も参照:

- 数値引数
- 行、列またはセルの参照の引数
- 引数としての埋込み関数

数値引数

数値引数の構文は、次のとおりです。

(numeral1, numeral2,...numeraln)

数値 *1* から *n* は実際の数字です。たとえば、式 `Average(10, 20, 30)`は 20 の値を返します。

> **ノート**
>
> 関数コール内の 2 つの数値間のカンマの後にはスペースを 入れることをお薦めします。たとえば、Average (1200, 2400)は、カンマとスペースで区切られた 2 つの数値とみなされます。1 および 2345 などの 2 つの数値がカンマで区切られておりスペースがない場合、1 つの数値として解釈されます。Average (1,2345)は構文エラーを返します。たとえば、`Grid "Grid With Formula Member" formula row 15 has a syntax error at or after" )"`となります。

行、列またはセルの参照の引数

行、列またはセルの引数の構文は、次のとおりです。

> **ノート**
>
> 検証エラーが発生するのは、次のような場合です。列レベルの式に行参照が含まれていたり、行レベルの式に列参照が含まれている場合です。

FunctionName(*GridName.GridElement[segment(range)]*)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 11-1 引数のコンポーネント

引数	摘要
GridName	(オプション)グリッドの名前。 たとえば、`Difference (grid1.row[5], grid2.row[5])`は、grid1 と grid2 の 2 つの行の差異を返します。 *GridName* を指定しなかった場合のデフォルトは、式が入力されている現在のグリッドになります。 *GridName* にスペースが含まれる場合(例: Income Statement)、これを式に使用する際には、引用符で囲む必要があります(例: "Income Statement")。 同じレポート内の別のグリッド行または列を参照するには、行または列参照の前にグリッド名を置きます。たとえば、グリッド 1 の式行では、"Grid 2".[1]によってグリッド 2 の行 1 を参照できます。
GridElement	(オプション) `row`、`col`、`column` または `cell` のいずれかのキーワード。 たとえば、`Max(row[1], row[2], row[3])`は、3 つの行の最大値を返します。(`row` および `column` または `col` のキーワードはオプションです。) 行と列のセグメント ID を指定する必要があります。たとえば、`cell[2, A]`は、行 2 と列 A が交差するセルを参照します。 キーワード `cell` はオプションです。たとえば、`[5,B]`は、行 5 と列 B が交差するセルを参照します。セル参照には、`[row, col]`構文または`[col, row]`構文を使用できます。 **ノート**: • キーワード cell はオプションです。たとえば、[5,B]は、行 5 と列 B が交差するセルを参照します。セル参照には、[row, col]構文または[col, row]構文を使用できます。 • キーワード row および column もオプションです。たとえば、[5]は行 5 を参照し、[C]は列 C を参照します *GridElement* を指定する場合、文字は列を表し、数字は行を表します。例: `Max ([1,A], [2,A], [3,A])`
segment	**(必須)**グリッドの行、列またはセルの参照番号。たとえば、`[2]`は行セグメント 2 を示します。セグメントは大カッコ[ ]で囲みます。
range	**(オプション)**指定したセグメントから拡張された行、列またはセル。*range* を指定すると、指定した範囲のみを使用して式が計算されます。たとえば、`row[2(3:5)]`は拡張されたセグメント 2 の 3 行目から 5 行目のみが使用されます。 *range* を指定しなかった場合は、拡張されたすべてのセルが使用されます。 **ノート**: セグメントの拡張が 1 行または 1 列のみの場合は、*range* 引数を使用しないでください。

引数としての埋込み関数

関数を関数内の引数として埋め込むことができます。次の例では、関数 `Average` は関数 `Sum` に埋め込まれています。

```
sum(row[3:5], avg(row[4:6], 40, 50), row[7; 9], 70, 80)
```

または、オプションの *GridElement* キーワードがない場合:

```
sum([3:5], avg([4:6], 40, 50), [7; 9], 70, 80)
```

- 行セグメント 3、4 および 5

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 行セグメント 4、5、6 に、数値 40 および 50 を加えた値の平均
- 行セグメント 7 および 9
- 数値 70 および 80

式の算術演算子

演算子は、算術的なタスクまたは比較を実行したり、列、行またはセルの範囲を参照する記号です。演算子は、データ行またはデータ列に対して計算を実行する式の中で使用します。

表 11-2 標準的な式の演算子およびコンポーネント

タイプ	演算子またはコンポーネント	摘要	例
算術	+	追加	行 4 と行 5 の値を加算します。 `[4] + [5]` +の後ろにはスペースが必要です。 • 誤: 5+4 • 正: 5+ 4 • 正: 5+ -4
算術	-	減算	行 4 の値から 3 を減算します。 `[4]- 3`。 -の後ろにはスペースが必要です。 • 誤: 5-4 • 正: 5 - 4 • 正: 5 - -4
算術	*	乗算	行 4 の絶対値に 150 を乗算します。 `Abs([4])* 150`
算術	/	除算	行 4 の値を行 5 の値で除算します。 `[4] / [5]`
算術	%	パーセント	行 4 の値を加算し、10%を乗算します。 `row[4].Sum*10%`
算術	^	指数	行 4 の 6 乗を返します。 `[4]^6`
算術	小数	小数	行 4 の値に 5.67 を乗算します。 `[4] * 5.67`
参照	[]	グリッドの行、列またはセルを指定します。行には数字、列には文字を使用します。	行 4 と行 12 の値を加算します。 `Sum ([4],[12])`
単項マイナス	-	値の符号を変更します。	行 4 の値を 12 で除算し、結果の符号を変更します。 *-([4] / 12)*

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ヒント**
>
> Eval 関数を使用して、関数パラメータの一部として算術演算を実行します。Eval を参照してください。

> **ヒント**
>
> 複数の演算子が使用される式では、通常の優先順位によって演算の実行順序が決まります。通常の優先順位を参照してください。

式の算術オペランド

オペランドには、結果を作成するために演算子が使用する値を指定します。

表 11-3 レポートでサポートされているオペランド

オペランド	例
リテラル	3, 0.0, 27.5, 65.334, -841
行または列の参照番号	[1]、[4]、[8]、[A]、[C:D]
セルの参照番号	[2, E]、[E, 2] このセルの参照は、行 2 列 E を示します。
関数	Average、Min、Max
範囲指定	Grid1.row[3]

行 3 の値に 100 を乗算する次の行式では、行の参照[3]と 100 の両方がオペランドです。

```
[3] * 100
```

式を使用した同じレポート内の別のグリッドの参照

式を使用して、別のグリッドの行、列またはセルを参照することで、複数のグリッドのコンテンツを 1 つに結合できます。これは、1 つ以上のグリッドに提供された異なるデータ・ソースからのコンテンツを単一のグリッドにまとめるのに使用できます。式のソース・グリッドは非表示シートに存在できるため、レポート出力には表示されません。

式の構文は次のとおりです。

```
<grid>.<reference>
```

`<grid>` - 参照先のグリッドの名前です。グリッド名に空白が含まれている場合は、グリッド名を引用符で囲みます。例: `"Grid 1"`。

`<reference>` - 大カッコで囲まれた行、列、セルへの参照です。例: `[b] [1] [b,1]`。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> クロスグリッド参照の場合、列または行全体ではなく、特定のセルのみを参照できます。

例:

レポートには 3 つのグリッドが含まれています。"Grid 1"には、他の非表示グリッドである"Grid 2"および"Grid 3"を参照する式が格納されています。

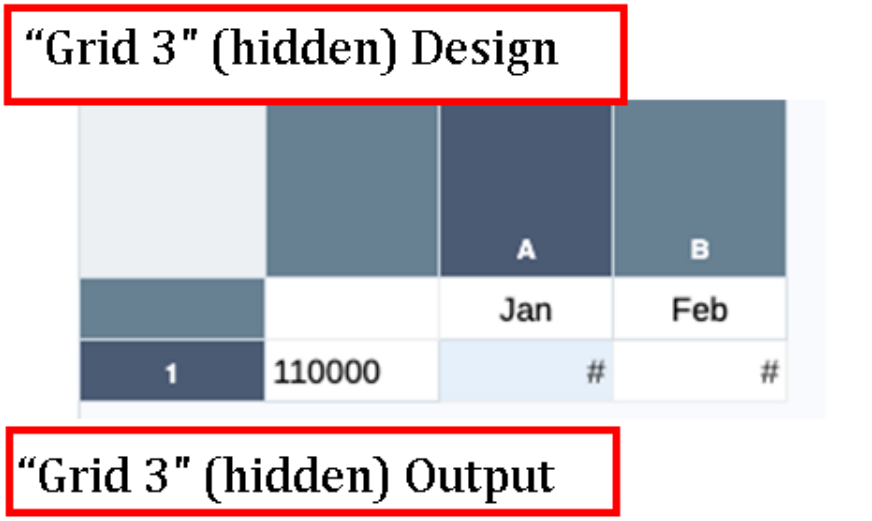
“Grid 2" (hidden) Design

		A
		Q3
1	AS	#
2	DV	#
3	TV	#

“Grid 2" (hidden) Output

	Quarter3
Audio Systems	1,986,838
Digital Video	2,506,521
Televisions	1,844,242

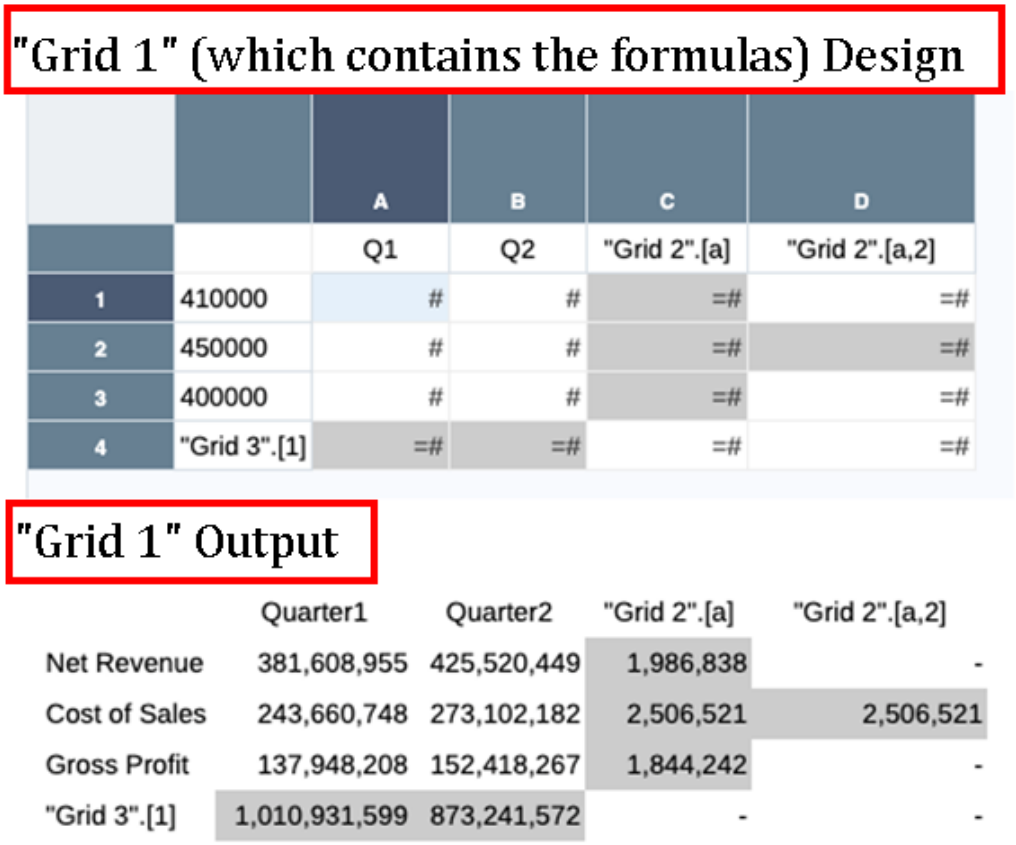
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Grid 1 にはいくつかの式が格納されます。たとえば、行、列およびセルの式がグリッドに格納されます。

- Column C column formula: "Grid 2".[a] refers to Grid 2, column A
- Cell D2 cell formula: "Grid 2".[a,2] refers to Grid 2, cell A2
- Row 4 row formula: "Grid 3".[1] refers to Grid 3, row 1

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



"Grid 1" (which contains the formulas) Design

		A	B	C	D
		Q1	Q2	"Grid 2".[a]	"Grid 2".[a,2]
1	410000	#	#	=#	=#
2	450000	#	#	=#	=#
3	400000	#	#	=#	=#
4	"Grid 3".[1]	=#	=#	=#	=#

"Grid 1" Output

	Quarter1	Quarter2	"Grid 2".[a]	"Grid 2".[a,2]
Net Revenue	381,608,955	425,520,449	1,986,838	-
Cost of Sales	243,660,748	273,102,182	2,506,521	2,506,521
Gross Profit	137,948,208	152,418,267	1,844,242	-
"Grid 3".[1]	1,010,931,599	873,241,572	-	-

通常の優先順位

標準的な式に複数の演算子がある場合は、演算子の通常の優先順序で操作が実行されます。

複数の演算子がある式で操作が実行される通常の優先順序は、次のとおりです。

1. 単項マイナス(-#、#は任意の数値)

   単項マイナス演算子の後ろにはスペースを追加しないでください。
2. 乗算(*)および除算(/)
3. 減算(- #)および加算(+ #、#は任意の数値)

   減算および加算の演算子の後ろにはスペースを追加します。

たとえば、行 10 の値が 8 の場合、次の式は通常の優先順序に従って 3 * 4 + 8 = 20 と計算され、その列の値は 20 になります。

```
3 * 4 + [10]
```

Absolute

`Absolute` は、数値、行、列またはセルの絶対値を返す算術関数です。数字の絶対値とは、その符号を考慮しないゼロからの数字の距離です。正数はそのまま正数である一方で、負数は正数になります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文:

`Absolute(argument)`

argument は、次のいずれかの値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`Absolute(-20)`は値 20 を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

値 30 を返します。

```
Absolute(-30)
```

行 1 の値の絶対値を返します。

```
Absolute(row[1])
```

Grid1 の設計セグメント 3 内の展開される行 1 から 3 をポイントします。

```
Absolute(Grid1.row[3(1:3)])
```

Average

`Average` は、数値、行、列またはセルのグループの平均を返す算術関数です。`Average` では、平均の取得時に#missing および#error のセルが除外されます。

> ⓘ **ノート**
>
> 欠落値は、抑制されているかどうかに関係なく計算には含まれません。

構文:

`Average(arguments)`

または

`Avg(arguments)`

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`Average(10,20,30)`は値 20 を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。たとえば、`Avg(Grid1.row[4(3:5)])`は、grid1、行セグメント 4、範囲 3 から 5 の平均を返します。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

値 20 を返します。

```
Avg(10,30,20)
```

3 つの集計行に含まれるすべての数値の平均を返します。

```
Average([1],[6],[8])
```

集計行 3 の平均を計算し、その平均を 100 で除算します。

```
Avg(row[3])/100
```

AverageA

`AverageA` は、数値、行、列またはセルのグループの平均を返す算術関数です。`AverageA` では、#missing および#error のセルが含まれ、これは平均の取得時にゼロ値として処理されます。

> ⓘ **ノート**
>
> #missing および#error が含まれるのは、抑制されていない行または列の場合のみです。

構文:

`AverageA(`*`arguments`*`)`

または

`AvgA(`*`arguments`*`)`

`arguments` は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`AverageA(10,20,30)`は値 20 を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

引数	摘要
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。 たとえば、AvgA(Grid1.row[4(3:5)]は、grid1、行セグメント 4、範囲 3 から 5 の平均を返します。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

例:

グリッドに値が 10、20、30 および#error の 4 つの行がある場合、5 番目の行の次の算式で値 15 が返されます。

```
AverageA([1:4])
```

Count

Count は、数値、行、列またはセルのグループ内の値の数を返す算術関数です。Count では、取得時に#missing および#error が除外されます。

構文:

Count(*arguments*)

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、Count (10, 20, 30)は値 3 を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

グリッドに値が 10、20、30 および#error の 4 つの行がある場合、5 番目の行の次の算式で 3 つの行の件数が返されます。

```
Count([1:4])
```

3 つの行の件数を返します。

```
Count([1], [6], [8])
```

CountA

CountA は、数値、行、列またはセルのグループ内の値の数を返す算術関数です。CountA では、抑制されていない行または列に対してのみ、件数の取得時に#missing および#error のセルが含まれます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文:

`CountA(arguments)`

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`CountA(10,20,30,50)`は 4 を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

グリッドに値が 10、20、30 および#error の 4 つの行がある場合、5 番目の行の次の算式で 4 つの行の件数が返されます。

```
CountA([1:4])
```

4 つの行の件数を返します。

```
CountA(row[1], row[6], row[8] row[where data yields #error])
```

Difference

`Difference` は、別の数値、行または列から減算された数値、行または列の差異の絶対値を返す算術関数です。

構文:

`Difference(arg1,arg2)`

arg2 は、*arg1* から減算される値であり、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`Difference(3,5)`は絶対値 2 を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列または参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。 次の例は、grid1 と grid2 の 2 つの行の差異を返します。 `Difference(grid1.row[1], grid2.row[6])`
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> `Difference` は、*`arg1`* から *`arg2`* を減算した絶対値を返しますが、減算内のマイナス記号によって数値が負になります。

次に例を示します。

絶対値 8 を返します。

```
Difference(3,-5)
```

2 つの集計列の差異を計算します。

```
Difference([E], [G])
```

異なるグリッドである grid1 および grid2 にある 2 つの列の差異を計算します。

```
Difference(grid1.column[E], grid2.column[E])
```

> **ノート**
>
> テキスト・ラベル Difference または Variance を入力できます。

Eval

`Eval` は式を評価する算術関数です。`Eval` を埋込み関数の引数として使用し、複数の式を 1 つの式に統合します。

構文:

`Eval(`*`expression`*`)`

`expression` は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列または参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。
演算子	サポートされている算術演算子(+、-、*、/、^、%)。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例:

行 1 を行 2 で割り、そのデータを 4 桁に端数処理します。

```
Round(Eval([1]/[2]),4)
```

> **ノート**
>
> この例では、必要な結果を取得するために EVAL を使用する必要があります。Round(([1]/[2]),4)では機能しません。

IFThen

IfThen は、条件が True の場合はある値を返し、条件が False の場合は別の値を返す条件関数です。条件関数の操作に関する詳細は、条件関数を参照してください。

Max

Max は、数値、行、列またはセルの集合内で最大値を返す算術関数です。

構文:

Max(*arguments*)

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、Max(10,20,30)は 30 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

行 1、行 6 および行 8 の値の最大値を返します。

```
Max([1], [6], [8])
```

Min

Min は、数値、行、列またはセルの集合内で最小値を返す算術関数です。

構文:

Min(*arguments*)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`Min(10,20,30)`は 10 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

例:

行 1、行 6 および行 8 の値の最小値を返します。

```
Min ([1], [6], [8])
```

PercentofTotal

`PercentOfTotal` は、ある数値、行、列またはセルを別の数値、行、列またはセルで割って 100 を掛けた結果を返す演算関数です。

構文:

`PercentOfTotal (arg1,arg2)`

ここで:

- *arg1* は、現在までの合計(*arg2*)のコンポーネントで、通常は行または列の参照です。
- *arg2* は、*arg1* に対する現在までの合計で、通常は総計が含まれているセルの参照です。
- *arg1* を *arg2* で割り、その結果に 100 を掛けます。*arg1* と *arg2* は、次の 1 つ以上の値になります。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`PercentofTotal(100,20)`は 500 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

5 の値を返します。

```
PercentofTotal(20,400)
```

列 A の各セルの値をセル A5 の市場の合計値で割り、100 を掛けた結果の PercentOfTotal を列 B に表示します。

```
PercentOfTotal ([A],[A,5])
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

前述の例を使用して、次の表に PercentOfTotal の結果を列 B に示します。

		A	B
1		Sales	% Total
2	Mkt1	60	20%
3	Mkt2	120	40%
4	Mkt3	120	40%
5	Total Mkt	300	100%

ヒント

列 B のヘッダーをクリックし、算式バーを使用して式を入力します。

Product

Product は、すべての数値または参照を乗算し、積を返す算術関数です。

構文:

Product(*arguments*)

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、Product(2,20)は 40 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

例:

40 を返します。

```
Product(2,20)
```

Rank

Rank は、指定された範囲内の値に対するランク値を提供する財務関数です。Rank は Financial Reporting で処理され、データベース接続には依存しません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文:

Rank([*Reference*], *Order*)

Rank([*Reference*], *Order*, *Unique*)

引数	摘要
Reference	列を識別する文字と行を識別する数字を使用して、ランク付けするセル、行または列の範囲。たとえば、列 A の行 1 から行 5 の値をランク付けするには、[A,1:5]と指定します。 セル範囲のある.ifNN プロパティを使用して、値が非数値の任意のセルに数値を割り当てることで、それらのセルをランク付けできます。たとえば、.ifNN(-1)を使用して、値が欠落しているセルのすべてに-1 という値を割り当てることができます。
Order	値をランク付けする順序を示します。昇順でランク付けされた最小値は、ランク付けの結果として 1 を受け取ります。降順でランク付けされた最大値は、ランク付けの結果として 1 を受け取ります。順序は、次のキーワードまたは値のいずれかで指定します。 • Ascending • Descending • Asc • Des • Desc • 1 (数値 1 は Ascending と同じ) • 0 (ゼロは Descending と同じ) キーワードの大文字と小文字は区別されません。 順序を指定する数値やキーワードは引用符で囲まないでください。
Unique	(オプション) Reference パラメータの同等の値について処理方法を示すブール・キーワード。 • **false** (または省略) - 同等の値は同じランクを受け取ります。ランク付けの結果が重複する可能性があります。 • **true** - 同等の値は一意のランクを受け取ります。ランクの重複はありません。Reference パラメータの値は出現順に、最初のランク付けを基準としてランク付けされます。たとえば、行 2 と行 5 の値が等しい場合、行 2 の値が行 5 の値より前にランク付けされます。

次に例を示します。

列 B の式は、列 A の行 1 から行 5 にある値を降順にランク付けします。

```
Rank([A,1:5], descending)
```

次のような結果になります。

	East	Rank
Cola	16	2
Fruit Drinks	23	1
Beer	16	2
Diet	missing	missing
Root Beer	0	4

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2 つの値が同じ場合は、同じランク値を受け取ります。前述の例では、Cola と Beer が同じ値であるため、同じランクが付きます。

この列 B の式は、数値でないものに-1 の値を割り当て、ランク付けできるようにしています。

```
Rank([A,1:5].ifNN(-1), descending)
```

次の結果では、欠落している値に 5 のランクが付いています。

	East	Rank
Cola	16	2
Fruit Drinks	23	1
Beer	16	2
Diet	missing	5
Root Beer	0	4

例:

前述の例を基にした次の例では、新しい unique パラメータが結果に与える影響を示しています。

この列 B の式は、数値でないものに-1 の値を割り当て、ランク付けできるようにし、各ランク付けを一意にすることも指定しています。

```
Rank([A,1:5].ifNN(-1), descending, true)
```

次の結果では、欠落値に 5 のランクが割り当てられ、(Beer は Cola と同じデータ値ですが)Beer に 3 の値が割り当てられています。

	East	Rank
Cola	16	2
Fruit Drinks	23	1
Beer	16	3
Diet	missing	5
Root Beer	0	4

Round

Round は、指定された桁数に従って数値を切り上げまたは切り下げる算術関数です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文:

`Round (arg1,integer)`

arg1 は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`Round(81.3987,3)`は 81.399 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

`Integer` には、数値を端数処理する桁数を指定します。

- *integer* がゼロより大きい場合は、小数点以下の指定した桁数に端数処理されます。
- *integer* がゼロの場合は、最も近い整数に端数処理されます。
- *integer* がゼロより小さい場合は、小数点より左側の桁数に端数処理されます。

次に例を示します。

小数点以下 3 桁に端数処理されます。

```
Round(3594.5567,3)=3594.557
```

最も近い整数に端数処理されます。

```
Round(3594.5567,0)=3595
```

千の桁に端数処理されます(スケールとも呼ばれます)。

```
Round(3594.5567,-3)=4000
```

Sum

`Sum` は、数値、行、列またはセルの集合の合計を返す算術関数です。

構文:

`Sum(arguments)`

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、`Sum(10,20,30)`は 60 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

引数	摘要
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

値 30 を返します。

```
sum(10,20)
```

3 つの行の合計を返します。

```
sum([1], [6], [8])
```

3 つの集計列の合計を計算します。

```
sum([E], [G], [I])
```

異なるグリッドにある 2 つの列の合計を計算します。

```
sum(grid1.col[E],grid2.colmn[E])
```

SumV

SumV は、数値、行、列またはセルの集合の合計を返す算術関数です。

構文:

SumV(*arguments*)

arguments は、次の 1 つ以上の値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、Sum(10,20,30)は 60 の値を返します。 数値には、小数および負の値を含めることができます。数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

次に例を示します。

3 行の合計を返します(行 6 は非表示の行であるため結果に含められません)。

```
SumV([1], [6], [8])
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3 つの集計列の合計を返します(列 G は非表示の列であるため結果に含められません)。

```
SumV([E], [G], [I])
```

Truncate

`Truncate` は、指定した桁で数値を除去する算術関数です。

構文:

`Truncate(arg1,integer)`

arg1 は、次のいずれかの値です。

引数	摘要
数値	数値。たとえば、234.567。 数値引数を参照してください。
行、列またはセルの参照	グリッド内の行、列またはセルへのポインタ。
関数	埋込み関数。 算術関数を参照してください。

Integer には、除去する桁数を指定します。

- 正の *integer* は、小数点の右側の桁数を決定します。
- ゼロ(0)の *integer* は、小数点の左側にある整数を返します。
- 負の *integer* は、小数点の左側の桁数を示します。

次に例を示します。

次の文は、正の整数 3 を使用しています。小数点以下 3 桁が残され、それに続く桁は除去されます。

```
Truncate(3594.5567,3)=3594.556
```

次の文は、ゼロ(0)の整数を使用しています。小数点以下のすべての桁が除去されます。

```
Truncate(3594.5567,0) = 3594
```

次の文は、負の整数-2 を使用しています。小数点以下のすべての桁が除去され、整数の下 2 桁が切捨てされます。

```
Truncate(3594.5567, -2) = 3500
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> セル、列または行に事前に適用されている書式は、`Truncate` 関数を使用した場合も維持されます。次の例は、値を小数点以下 3 桁まで表示するように事前に書式設定されているセルに対する `Truncate` 関数の結果を示しています: `Truncate(234.567, 0) = 234.000`

Variance

`Variance` は、現在の勘定科目の勘定科目タイプに基づいて指定された値の差異を評価する財務関数です。たとえば、費用以外、収益、フロー、資産または残高勘定科目での正の結果は有利差異を表すため、結果は正数として表示されます。費用または負債の勘定科目では、正の結果は不利差異を表すため、負数で表示されます。

構文:

`Variance(`*`reference1, reference2`*`)`

reference1 および *reference2*、差異の結果を計算する勘定科目ディメンションと同じディメンションのメンバーに相当する行、列またはセルへの参照です。

Essbase を使用した予想される結果

表 11-4 Essbase で `Variance` を使用した場合の予想される結果

列 A	列 B	Var ([A] , [B])=0	Var ([A] , [B])>0	Var ([A] , [B])<0
費用以外	費用以外	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
費用	費用	0	マイナスの値を返します	プラスの値を返します

Cloud EPM を使用した予想される結果

表 11-5 Cloud EPM で `Variance` を使用した場合の予想される結果

列 A	列 B	Var ([A] , [B])=0	Var ([A] , [B])>0	Var ([A] , [B])<0
資産	資産	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
負債	負債	0	マイナスの値を返します	プラスの値を返します
資本	資本	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
収益	収益	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
費用	費用	0	マイナスの値を返します	プラスの値を返します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Variance の動作

Variance は、同じ勘定科目タイプの比較が見込まれます。売上と費用など、2 つの異なる勘定科目タイプを比較する場合、Variance は、勘定科目タイプの論理を適用せずに計算を実行します。例:

売上	費用	結果
-400	100	-500

例

Variance では、セル、列または行の参照のみを使用できます。詳細は、「行、列またはセルの参照の引数」を参照してください。

構文	例
列を参照するサンプル構文:	`Var ([A], [B])`
行を参照するサンプル構文:	`Var ([3], [4])`
セルを参照するサンプル構文:	`Var (Cell [3,A], [3,B])`

この例では、次のように列 A **(Actual)**と列 B **(Budget)**との差異が計算されます。

```
Var([A],[B])
```

この例では次のレポートが生成されます。

	Actual	Budget	Variance
Sales (Income)	400,855	373,080	27,775
COGS (Expense)	179,336	158,940	-20,396

VariancePercent

VariancePercent は、現在の勘定科目の勘定科目タイプに基づいて指定された値の差異をパーセントで評価する財務関数です。たとえば、費用以外、収益、フロー、資産または残高勘定科目での正の結果は有利差異を表すため、結果は正数として表示されます。費用または負債の勘定科目では、正の結果は不利差異を表すため、負数で表示されます。

構文:

VariancePercent(*reference1, reference2*)

reference1 および *reference2* は、VariancePercent の結果を計算する勘定科目ディメンションと同じディメンションのメンバーに相当する行、列またはセルへの参照です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Essbase を使用した予想される結果

表 11-6 Essbase で VariancePercent を使用した場合の予想される結果

列 A	列 B	VarPer ([A] , [B])=0	VarPer ([A] , [B])>0	VaPer ([A] , [B])<0
費用以外	費用以外	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
費用	費用	0	マイナスの値を返します	プラスの値を返します

Cloud EPM を使用した予想される結果

表 11-7 Cloud EPM で VariancePercent を使用した場合の予想される結果

列 A	列 B	Var ([A] , [B])=0	Var ([A] , [B])>0	Var ([A] , [B])<0
資産	資産	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
負債	負債	0	マイナスの値を返します	プラスの値を返します
資本	資本	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
収益	収益	0	プラスの値を返します	マイナスの値を返します
費用	費用	0	マイナスの値を返します	プラスの値を返します

VariancePercent の動作

VariancePercent は、同じ勘定科目タイプの比較が見込まれます。売上と費用など、2 つの異なる勘定科目タイプを比較する場合、VariancePercent 関数は、勘定科目タイプの論理を適用せずに単純な計算を実行します。例:

売上	費用	結果
-400	100	-5.

- #missing は、ifnonnumber プロパティを使用して別に指定していないかぎり、ゼロ(0)として扱われます。
- #error は、ifnonnumber プロパティを使用して別に指定していないかぎり、#error で処理されます。

例

VariancePercent では、セル、列または行の参照のみを使用できます。行、列またはセルの参照の引数を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文	例
列を参照するサンプル構文:	`VarPer ([A], [B])`
行を参照するサンプル構文:	`VarPer ([3], [4])`
セルを参照するサンプル構文:	`VarPer (Cell [3,A], [3,B])`

この例では、次のように列 A (Actual)と列 B (Budget)との `VariancePercent` が計算されます。

```
VarPer([A],[B])
```

この例では次のレポートが生成されます。

	Actual	Budget	VariancePercent
Sales (Income)	400,855	373,080	7%
COGS (Expense)	179,336	158,940	-13%

テキスト関数

次も参照:

- グリッドのテキスト関数について
  グリッドのテキスト関数は、レポート名やレポートの摘要などのレポート情報を返します。
- AncestorName / AncestorAlias
- AutoTextSummary
- CellText
- CellValue
- ColumnNumber/RowNumber
- ConditionalText
- DateTime
- GridNotes
- HeadingValue
- Left/Right/Mid
- MemberAlias
- MemberName
- MemberProperty
- ノート
- PageCount

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- PageNumber
- ReportAuthor
- ReportCreatedOn
- ReportDescription
- ReportLocation
- ReportModifiedBy
- ReportModifiedOn
- ReportName
- ReportRunBy
- SummarizeGridNotes
- 表のテキスト関数について

グリッドのテキスト関数について

グリッドのテキスト関数は、レポート名やレポートの摘要などのレポート情報を返します。

次も参照:

- テキスト関数に関する考慮事項
- テキスト関数のパラメータ

テキスト関数に関する考慮事項

> ⓘ **ノート**
>
> 行または列をサポートするテキスト関数に行または列を明示的に指定しない場合は、現在の行または列がデフォルトで使用されます。

- 引数の間にはスペースを 使用できます。
- 数値引数以外のすべての引数は引用符で囲まれます。

  たとえば、`MemberName("Grid1", NYC, New York)`という関数の「NYC, New York」パラメータは、`MemberName("Grid1", "NYC, New York")`と記述する必要があります。
- 日付書式に関連する引数は、大文字と小文字が区別されます。
- テキスト・ボックス、行または列には、テキスト関数を入力できます。
- グリッドにテキスト関数を適用するには、テキスト行、テキスト列または見出しセルを作成してから、テキスト関数を挿入します。
- テキスト関数をテキストの行または列に挿入すると、デフォルトでは、現在のグリッドにテキスト関数が適用されます。したがって、テキスト関数ビルダーには Grid パラメータの選択は含まれません。テキスト関数がレポートの別のグリッドを参照する場合は、関数を挿入した後で Grid パラメータを指定します。

ユーザー・インタフェースの関数のリスト

関数ビルダーを起動すると、その関数のコンテキストに基づいて適切な関数のリストが表示されます。テキスト関数は、テキスト・オブジェクトまたはグリッド・オブジェクトのテキスト

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

または見出しセル(検証エラーに説明されているように RowNumber/ColumnNumber を除く)で使用できますが、関数が所定のコンテキストに最も関係するガイドが提供されるように、フィルタされた次のいずれかのリストが表示されます。

- **グリッドのテキスト・セル**: `CellValue`、`CellText`、`HeadingValue`、`MemberName`、`MemberAlias`、`MemberProperty`、`RowNumber`、`ColumnNumber`
- **レポート本文のテキスト・オブジェクト**: `CellValue`、`CellText`、`DateTime`、`MemberName`、`MemberAlias`、`MemberProperty`
- **ヘッダー/フッターのテキスト・オブジェクト**: `DateTime`、`CellValue`、`CellText`、`MemberName`、`MemberAlias`、`MemberProperty`、`PageNumber`、`PageCount`、`ReportAuthor`、`ReportCreatedOn`、`ReportModifiedBy`、`ReportModifiedOn`、`ReportName`、`ReportDescription`、`ReportLocation`、`ReportRunBy`

テキスト関数のパラメータ

次の表は、テキスト関数に使用可能なパラメータについて説明しています。すべてのパラメータをすべての関数で使用できるわけではありません。特定の関数にどのパラメータが適用されるのかを確認するには、その関数に関する項を参照してください。

表 11-8 テキスト関数のパラメータ

パラメータ	定義
`Grid`	グリッドの名前。関数がグリッド内にある場合、または関数がテキスト・オブジェクト内にあり、レポートにグリッドが 1 つのみの場合、Grid パラメータはオプションです。レポートに複数のグリッドがある場合、Grid パラメータは、関数がテキスト・オブジェクトにあるときは必須で、Grid の指定がないと"current"とみなされるテキスト・セルではオプションです。
`Row/Column`	グリッドの行番号または列参照(文字)のいずれか。関数がグリッド内にある場合、Row/Column パラメータはオプションです。パラメータが指定されていない場合は、所定のディメンションの軸に基づいて"current"の行または列とみなされます。ディメンションが POV にある場合、Row/Column パラメータは無視されます。関数がテキスト・オブジェクトにある場合は、所定のディメンションが POV にないかぎり、Row/Column パラメータは必須です。
`Row`	グリッドの行番号。`CellText` 関数の場合はオプションです。`CellValue` 関数の場合は必須です。`CellText` 関数の場合は、Row を指定しないと、すべての行のセル・テキストが返されます。Row パラメータの値は、1 から行数までの値にする必要があります。
`Column`	グリッドの列番号。`CellText` 関数の場合はオプションです。`CellValue` 関数の場合は必須です。`CellText` 関数の場合は、Column を指定しないと、すべての列のセル・テキストが返されます。Column パラメータの値は、使用可能な列に対応する文字の並びです(例: 29 列あるグリッドには A から AC)。
`Dimension`	ディメンション名。Dimension パラメータは必須です。Dimension が POV にあるディメンションを参照している場合、Row/Column パラメータは無視されます。
`DateFormat`	日付フィールドの書式。日付書式のパラメータはオプションです。書式を指定しなかった場合は、ユーザー・プリファレンスの日付書式が使用されます。
`TimeFormat`	時間フィールドの書式。時間書式のパラメータはオプションです。書式を指定しなかった場合は、ユーザー・プリファレンスの時間書式が使用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 11-8 (続き) テキスト関数のパラメータ

パラメータ	定義
`Property`	Property パラメータの値は、基礎となるデータ・ソースに固有です。Property パラメータは必須です。一般的に使用されるプロパティ値は"Level"、"Gen"または"Generation"、"AccountType"、"IsExpense"、"UDA"です。メンバー属性があるディメンションでは、属性名("Pkg Type"など)をメンバー・プロパティとして使用できます。別名表が複数あるデータ・ソースでは、別名表名をメンバー・プロパティとして使用できます。プロパティ値に別名表名を使用して、ユーザー POV に指定されている名前とは異なる別名を返すこともできます(たとえば、"LongNames"という名前の別名表には"LongNames"プロパティ)。
`SkipEmpty`	オプションの true または false パラメータ。パラメータが true の場合は、指定された行または列番号の中で、テキストまたはセパレータの行または列がスキップされます。たとえば、行 1、3 および 5 がデータ行で、行 2 および 4 がテキストまたはセパレータ行の場合、`RowNumber(SkipEmpty)`関数は、データ行の 1、3 および 5 の値を返し、行 2 および 4 の値は返しません。`RowNumber()`関数(空の行をスキップするパラメータなし)では、対応する各行の 1、2、3、4 および 5 の値が返ります。 このパラメータを指定しなかった場合、デフォルト値は False です。
`Qualified`	オプションの true または false パラメータ。パラメータが true の場合は、表示されるメンバー名が完全修飾されたメンバー名になります。一意でないメンバー名を許可する Oracle Essbase のアウトラインでは、一意でないメンバーには、名前が一意になるのに十分な祖先のメンバーを含めて一意の名前が割り当てられます。たとえば、**Coke** というメンバーが **Colas** というメンバーの子で、**Sodas** というメンバーの子でもある場合、メンバーの一意名は、**Colas.Coke** または**[Sodas].[Coke]**のいずれかになります。 このパラメータを指定しなかった場合、デフォルト値は False です。

AncestorName / AncestorAlias

`AncestorName` および `AncestorAlias` テキスト関数は、指定された行、列または POV メンバーの親および祖先メンバーを返します。

構文

`AncestorName("Grid", "Dimension", Row/Col, (Index))`

`AncestorAlias("Grid", "Dimension", Row/Col, (Index))`

Index の数値は階層でいくつ上の祖先レベルを返すかを示し、(1)では直接の親を返します。

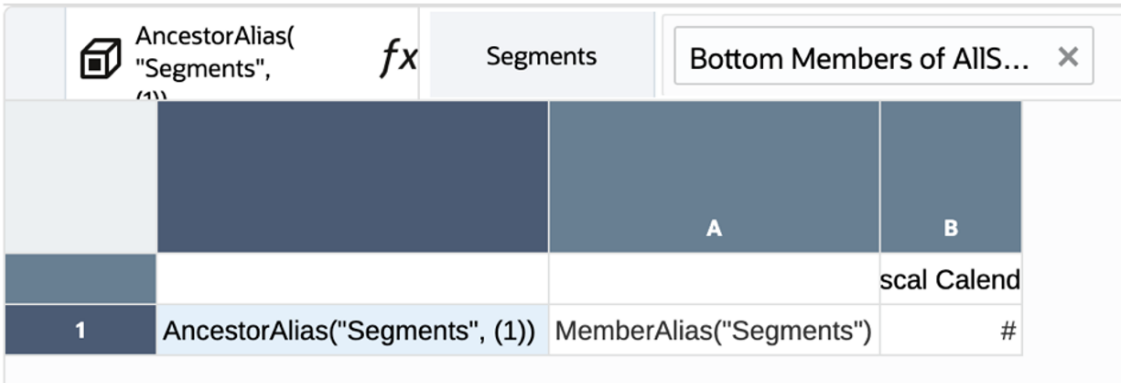
例

次のグリッド設計を見てみましょう。

- 行 1 のメンバー選択: **AllSegments の下位レベル**
- 行 1 のカスタム見出し: **AncestorAlias("Segments", (1))**
- テキスト列 A: **MemberAlias("Segments")**

レポート設計:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



レポート・プレビュー:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

		Fiscal Calendar
Home Audio	Bookshelf Audio System	8,780,320
Home Audio	Home Theater Audio System	1,048,791
Audio on the Go	Boom Box	-3,750,519
Audio on the Go	Personal CD Player	1,067,590
Audio on the Go	MP3 Player	3,618,763
Digital Video	DVD Player	8,590,273
Digital Video	DVD Recorder	1,739,567
Digital Video	Portable DVD	8,750,837
Digital Video	DVD/VCR Combo	2,817,132
Digital Video	Smart Set-Top box	-12,696,802
Televisions	High Definition TV	865,319
Televisions	Smart TV	-16,750,030
Televisions	Projection TV	-46,566
Televisions	Plasma TV	1,092,725
Services	Installation	17,302,717
Services	Service Contracts	18,329,632
Services	Repair	20,881,836

> **Note**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

AutoTextSummary

`AutoTextSummary` はテキスト関数の 1 つで、レポート設計者が定義した条件付きテキストの条件に対して生成 AI (GenAI)サービスによる結果のナラティブ・テキストを返します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文:

```
AutoTextSummary (Summary Type)
```

Summary Type は、GenAI サービスが目的の GenAI ユース・ケースに基づいて返すナラティブのタイプです。

Summary Type には次のいずれかを指定できます:

- GenAI ユース・ケースが"例外の記述"の場合、Summary Type パラメータを空白のままにしておくことができます。
- GenAI ユース・ケースが"比較分析の実行"の場合、Summary Type パラメータを"COMPARE"に設定します。
- GenAI ユース・ケースが"例外の因果関係の記述"の場合、Summary Type パラメータを"ZOOM"に設定します。オプションのパラメータは次のとおりです:

  ```
  AutoTextSummary(ZOOM, Top/Bottom number, Zoom Type, Level/Generation),
  ```

  - Top/Bottom number: 返されるコントリビュータの数を定義します。このフィールドには数値を入力します。このパラメータが定義されていない場合、デフォルトの動作は **3** です。
  - Zoom Type: コントリビュータを返すために **RELATIVEGENERATION** または **LEVEL** を使用するかどうかを選択します。このパラメータが定義されていない場合、デフォルトの動作は **CHILDREN** です。
  - Level/Generation: コントリビュータを返すために使用する **RELATIVEGENERATION** または **LEVEL** 番号を定義します。**RELATIVEGENERATION** は、分析対象のメンバーの世代を基準とする世代番号です。たとえば、分析対象のメンバーが世代 4 で、**RELATIVEGENERATION** に 2 を指定した場合、世代 **6** のコントリビュータが返されます。

詳細は、「レポートでの生成 AI の操作」のトピックを参照してください。

次に例を示します。

次にいくつか例を示します:

- `AutoTextSummary ()`
- `AutoTextSummary (ZOOM)`
- `AutoTextSummary(ZOOM, 5, LEVEL, 0)`
- `AutoTextSummary (COMPARE)`

詳細は、「レポートでの生成 AI の操作」のトピックを参照してください。

CellText

`CellText` は、データ・ソースからセルに添付されたテキスト・コンテンツを取得します。これは、Narrative Reporting モデルを除くすべてのデータ・ソースに適用されます。

行および列の引数は、リンクされたテキストまたはノートを含むグリッド内の交差を示します。

構文:

```
CellText("Grid", Row, Column)
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

行パラメータが含まれていない場合は、すべての行に対するセル・テキストが返されます。列パラメータが含まれていない場合は、すべての列に対するセル・テキストが返されます。行パラメータと列パラメータの両方が含まれていない場合は、グリッド内のすべてのセルに対するセル・テキストが返されます。

例:

グリッドの行 21、列 B のセルにあるリンクされたテキストを含むレポートを作成します。

```
CellText("mygrid",21,B)
```

CellValue

`CellValue` は、グリッドのセルからデータ値を返すテキスト関数です。

構文:

```
CellValue("GridName", Row, Column)
```

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

例:

複数の四半期純利益を示すグリッドを設定し、レポートの事業計画概要が記載されているテキスト・ボックスに、この値を表示します。

期間の総計は、`CellValue("mygrid",21,B)`です。

レポートは、グリッドの行 21、列 B のセルの値を使用して作成されます。

ColumnNumber/RowNumber

`ColumnNumber` または `RowNumber` は、グリッドの列番号または行番号を返す関数です。

構文:

```
ColumnNumber(SkipEmpty)
```

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例:

テキストまたはセパレータ列ではなく、データおよび式列の列番号を返します。

```
ColumnNumber(true)
```

すべての行の行番号を返します(データ、式、テキストおよび/またはセパレータ)。

```
RowNumber()
```

検証エラー

検証エラーは、レポートで次の状況が発生した場合に発生します。

- `RowNumber` および `ColumnNumber` 関数がテキスト・ボックスで使用できない場合。
- `RowNumber` 関数は列見出しのセルで使用できず、`ColumnNumber` 関数は行見出しのセルで使用できません。
- `RowNumber` および `ColumnNumber` 関数は、角のセル(グリッドの左上隅)では使用できません。

ConditionalText

`ConditionalText` は、条件付き書式/テキスト定義の一部として行、列またはセルに定義された条件付きテキストの結果を取得します。

行および列の引数は、リンクされたテキストまたはノートを含むグリッド内の交差を示します。

構文:

```
ConditionalText("Grid", Row, Column)
```

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。
>
> 行パラメータが含まれていない場合は、すべての行に対するセル・テキストが返されます。列パラメータが含まれていない場合は、すべての列に対するセル・テキストが返されます。行パラメータと列パラメータの両方が含まれていない場合は、グリッド内のすべてのセルに対するセル・テキストが返されます。

例:

グリッドの行 21、列 B にあるセルに定義された条件付きテキストのテキストの結果を表示します。

```
ConditionalText("mygrid",21,B)
```

DateTime

`DateTime` は、レポートにデータが移入された日時を返すテキスト関数です。日時は、レポート・サーバーから取得され、レポート・サーバーがある国に対応します。`DateTime` は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

構文:

`DateTime("DateFormat","TimeFormat")`

> **ノート**
>
> DateTime 関数のパラメータを `DateTime ()`のように空白のままにするか、または `DateTime (none, none)`のように両方のパラメータに"none"が使用された場合、**日付**および**時間**の書式は Narrative Reporting のユーザー・プリファレンスが使用されます。

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

別の方法として、short、medium、long および full の書式については、ロケールに依存しない値を指定できます: `DateTime (short|medium|long|full|none, short|medium|long|full|none)`。(これらの値を入力する場合は引用符を使用しないでください。) 例(米国の場合の例):

- `DateTime(short, short)`: **01/03/2017 1:54 PM**
- `DateTime(medium, medium)`: **Jan 03, 2017 1:54:32 PM**
- `DateTime(long, long)`: **January 03, 2017 1:54:32 PM PDT**
- `DateTime(full, none)`: **Tuesday, January 03, 2017** (ノート: 時間は表示されません。)
- `DateTime(none, short)`: **1:54 PM** (ノート: 日付は表示されません。)

表 11-9 日時書式の文字

書式の文字	意味	データ型	例
G	紀元指定子	テキスト	AD
M	月	テキストまたは数値	月が 7 月の場合、M は 7、MM は 07、MMM は Jul、MMMM は July と表示されます。
d	日付(月)	数値	10
h	午前/午後の時(1 から 12)	数値	11
H	時(0 から 23)	数値	22
m	分	数値	30
s	秒	数値	25
S	ミリ秒	数値	978
E	曜日	テキスト	E: Tue EE: Tuesday
D	年間通算日	数値	189
F	月内通算曜日	数値	Date("dd-MMM-yy 'is the' F 'th ' E 'of' 'MMM")は次のように表示されます。 24-Dec-02 is the 4th Tue of Dec

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 11-9 (続き) 日時書式の文字

書式の文字	意味	データ型	例
w	年間通算週	数値	27
W	月内通算週	数値	2
a	午前/午後のマーカー	テキスト	PM
k	時(1 から 24)	数値	23
K	午前/午後の時(0 から 11)	数値	米国では、時間が 3:37 の場合は PM: 3
z	タイム・ゾーン	テキスト	太平洋標準時
y	年	数値	2017,02
'	リテラル・テキスト	テキスト	Date(" D'the day of 'yyyy") は次のように表示されます: 105th day of 2017
''	1 つの一重引用符を生成する 2 つの一重引用符	テキスト	Date("k:mm 'O''Clock' a")は次のように表示されます: 6:15 O'Clock PM 2 つの一重引用符を使用して、O'Clock (O''Clock)のような一重引用符またはアポストロフィを生成します。

*書式*の文字使用時の考慮事項:

- *書式*の文字の数(個数)によって書式が決まります。
  - テキストの場合、4 文字未満のパターン文字は、短縮形または省略形(存在する場合)を使用することを意味します。
  - 4 文字以上のパターン文字は、完全な形式を使用することを意味します。
  - M または MM は月を数字として使用することを意味します。
  - MMM は、月の 3 文字の省略形を使用することを意味します。
  - MMMM は、月の完全な名前を使用することを意味します。

  たとえば、日付が 4 月 24 日の場合は次のようになります。

  `Date("dd-M-yy")`は `24-4-17` と表示されます

  `Date("dd-MM-yy")`は `24-04-17` と表示されます

  `Date("dd-MMM-yy")`は `24-Apr-17` と表示されます

  `Date("dd-MMMM-yy")`は `24-April-17` と表示されます
- 数字の場合、パターン文字の数字は最小桁数です。数字が短い場合はゼロで埋められます。年は特殊なケースです。"yy"を使用すると年の最後の 2 桁が表示されますが、"yyyy"を使用すると 4 桁の年が表示されます。

  たとえば、月が 2 月の場合は次のようになります。

  `Date("MM-yyyy")`は `02-2017` と表示されます
- すべての大文字および小文字のアルファベット文字は、指定された*書式*文字かどうかに関係なくパターンとみなされます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- リテラル・テキストは一重引用符で囲みます。リテラル・テキストで一重引用符を使用するには、そのテキストを一重引用符で囲み、アポストロフィには 2 つの一重引用符を使用します。

  たとえば、4 o'clock と出力するための書式は次のようになります。

  ```
  Date("hh 'o''clock' ")
  ```

次に例を示します。

日付書式	結果
`Date("d/M/yy")`	23/3/17
`Date("d-MMM-yy")`	23-Mar-17
`Date("EEEE, MMMM dd, yyyy")`	Tuesday, March 23, 2017
`Date("h:mm:ss a")`	12:52:05 PM
`Date("h:mm:ss a zzzz")`	12:52:05 PM Eastern Standard Time
`Date("EEEE, MMMM dd, yyyy G 'time:' h:mm:ss a zzzz")`	Tuesday, March 23, 2017 AD time: 12:52:05 PM Eastern Standard Time
`Date("hh 'o''clock' a, zzzz")`	12:00 PM, Eastern Standard Time 書式設定された結果のテキストに 1 つの一重引用符を生成するには、2 つの一重引用符を使用する必要があります。

GridNotes

GridNotes は、選択されたノート・フォーマットおよびノート・テンプレートに基づいて、セルに添付されたノート・テキストを取得します。インスタンスで生成 AI (GenAI)が有効になっている場合は、オプションで返されたノートを要約できます。

行および列の引数は、ノートを含むグリッド内の交差に適用されます。

構文:

```
GridNotes("Grid", Row, Column, Note Format, Note Template, Summarize Notes)
```

- **ノート・フォーマット**は、ノート・マネージャのノート・フォーマット・マネージャで定義されます。詳細は、「ノート・フォーマットの操作」を参照してください。
- **「ノート・テンプレート」**を選択するか、すべてのノート・テンプレートを表示することを選択できます。例および使用情報の詳細は、ノート・テンプレートの作成および管理を参照してください
- **ノートのサマリー** (オプション): `true` または `false` に設定します。

> **Note**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

行パラメータが含まれていない場合は、すべての行に対するセル・テキストが返されます。列パラメータが含まれていない場合は、すべての列に対するセル・テキストが返されます。行パラメータと列パラメータの両方が含まれていない場合は、グリッド内のすべてのセルに対するセル・テキストが返されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例:

グリッドの行 1、列 A のセル内のリンクされたテキストを含むレポートを作成します。**Grid Cell Note Format** は使用される**ノート・フォーマット**に、**Performance Summary** は参照される**ノート・テンプレート**になるよう、レポートを作成します。

```
GridNotes (1, A, "Grid Cell Note Format", "Performance Summary", false)
```

		A	B	T C
		Jun		Comments
1				
2	AS, DV, TV	#		GridNotes (1, A, "Grid Cell Note Format", "Performance Summary", false)

次に、グリッド・ノートのレポート・プレビューを示します。

Accounts	Years	Scenarios	Entities	Currencies
340000	FY18	Actual	E01_101_1110	USD

	January	
Audio Systems	709,688	Egestas congue quisque egestas diam in arcu cursus euismod quis. Egestas sed tempus urna et pharetra pharetra massa massa ultricies. Leo vel orci porta non pulvinar. Netus et malesuada fames ac turpis egestas sed.
Digital Video	997,415	
Televisions	551,363	Tellus pellentesque eu tincidunt tortor aliquam nulla facilisi cras. Blandit volutpat maecenas volutpat blandit aliquam etiam erat. Nunc pulvinar sapien et ligula ullamcorper malesuada proin libero nunc. Sed risus pretium quam vulputate dignissim suspendisse in est. Pharetra convallis posuere morbi leo.

HeadingValue

`HeadingValue` は、行または列の指定されたディメンションの見出しセルの値を返すテキスト関数です。

構文:

`HeadingValue("GridName","Dimension", Row/Column)`

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

次に例を示します。

`HeadingValue` を使用して、次の列および行の見出しを返します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

		A(A)	A(B)	A(C)
		Actual	Actual	Actual
		Jan	Feb	Mar
1(1)	Georgia	112	67	73
1(2)	East	5,864	3,322	3,789
1(3)	Market	15,904	9,277	10,640

次の構文を使用して、前述のサンプル・グリッドのデータを返します。

HeadingValue の例	取得または戻り値
`HeadingValue("Grid1","Month",A)`	1 月
`HeadingValue("Grid1","Month",B)`	2 月
`HeadingValue("Grid1","Market",1)`	Georgia
`HeadingValue("Grid1","Market",2)`	East

Left/Right/Mid

`Left`、`Right` および `Mid` は、MemberAlias や MemberName など、他のテキスト関数の結果からテキストを、左端、右端または中央のテキストのみを保持して削除できます。

構文

`Left (`*`text`*`, `*`[number_of_characters]`*`)`

`Right (`*`text`*`, `*`[number_of_characters]`*`)`

`Mid (`*`text`*`,`*`start_position`*`, `*`[number_of_characters]`*`)`

> ⓘ **ノート**
>
> `Mid` 関数では、*number_of_characters* はオプションです。

例

Accounts (`MemberAlias(Accounts) = "10000 - Net Income"`)が指定されている行セグメントの場合

`Left(MemberAlias(Accounts), 5)`では、*10000* となります。

`Right(MemberAlias(Accounts), 6)`では、*Income* となります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Mid(MemberAlias(Accounts), 9)では、*Net Income* となります。(この例の 9 は、Mid 関数の開始位置です。)

MemberAlias

MemberAlias はテキスト関数です。使用される構文に基づいて、行、列または視点(POV)内のディメンションに割り当てられているメンバーの別名を返します。

構文

MemberAlias("*Grid*", "*Dimension*", *Row/Col*, *Qualified*)

- 次の構文は、行見出しまたは列見出しの別名を返します。この構文は、任意の見出しセル、テキスト・セルまたはテキスト・ボックス・オブジェクトからデプロイしたり、現在のレポートのグリッドを参照できます。

  MemberAlias ("Dimension")

- 次の構文は、POV の別名を返します。この構文は、任意のテキスト・セルまたはテキスト・ボックス・オブジェクトからデプロイしたり、現在のレポートのグリッドおよび対応する POV を参照できます。

  MemberAlias ("Grid", "Dimension")

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

次に例を示します。

Grid1、列 A の Product ディメンションに割り当てられた「Diet Root Beer」という別名を取得します。

MemberAlias("Grid1", "Product", A)

Year ディメンションの別名を取得します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます。

MemberAlias("Year")

Grid1 に関連付けられている POV の Scenario ディメンションの別名を取得します。

MemberAlias("Grid1", "Scenario")

MemberName

MemberName は、グリッドの行または列のディメンションに割り当てられたメンバーの名前を返します。

構文:

MemberName("*Grid*", "*Dimension*", *Row/Col*, Qualified)

- 次の構文は、行見出しまたは列見出しの名前を返します。この構文は、任意の見出しセル、テキスト・セルまたはテキスト・ボックス・オブジェクトからデプロイしたり、現在のレポートのグリッドを参照できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

```
MemberName ("Dimension")
```

- 次の構文は、POV の名前を返します。この構文は、任意のテキスト・セルまたはテキスト・ボックス・オブジェクトからデプロイしたり、現在のレポートのグリッドおよび対応する POV を参照できます。

  ```
  MemberName ("Grid", "Dimension")
  ```

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

次に例を示します。

Grid1、列 A の Product ディメンションに割り当てられた名前を返します。

```
MemberName("Grid1", "Product", A)
```

Year ディメンションの名前を返します。構文は、グリッドのカスタム見出しに配置されます。

```
MemberName("Year")
```

Grid1 に関連付けられている POV の Scenario ディメンションの名前を返します。

```
MemberName("Grid1", "Scenario")
```

MemberProperty

`MemberProperty` は、行、列または視点(POV)内のディメンション・メンバーのメンバー・プロパティ値を返します。この関数を使用して、テキスト行またはテキスト列またはテキスト・ボックスのメンバー・プロパティを表示できます。

構文:

```
MemberProperty("Grid", "Dimension", Row/Col, "Property")
```

プロパティは、次のいずれかになります。

- 属性ディメンション(Pkg Type など) - 関連する属性ディメンション・メンバー

> **ノート**
>
> 索引付けされていない属性ディメンションは、`MemberProperty` テキスト関数では現在サポートされていません。たとえば、**「Accounts」**ディメンションに添付された属性ディメンションです。

- UDA - ユーザー定義属性

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースの場合、メンバーに複数の UDA が関連付けられているときは、オプションの索引パラメータを挿入して特定の UDA を返すことができます。構文は次のとおりです:
> `MemberProperty("Grid", "Dimension", Row/Col, "UDA", (index number))`

- Generation
- Level
- IsExpense - 勘定科目タイプが費用タイプかどうかを示す true/false フィールド
- AccountType - Essbase データ・ソースの場合は「費用」または「費用以外」、他の Cloud EPM データ・ソースの場合は「収益」、「費用」、「資産」、「負債」、「資本」、「費用以外」
- 説明 - Cloud EPM データ・ソースのメンバー説明
- 別名表 – メンバー用に表示される代替別名表の名前
- 基本通貨 - Financial Close and Consolidation データ・ソースの場合、エンティティ 通貨を表示します

> **ノート**
>
> パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

例:

メンバーの関連属性メンバーを返す:

現在の行の Product ディメンション・メンバーの Pkg Type 関連属性メンバーを返します。この構文は、Product メンバーと同じ行のテキスト・セルに配置されます

```
MemberProperty("Product", "Pkg Type")
```

結果は次のようになります。

		Year
Cola	Can	22,777
Diet Cola	Can	5,708
Caffeine Free Cola	Bottle	1,983
Old Fashioned	Bottle	7,201
Diet Root Beer	Bottle	12,025

メンバーのすべての UDA を返す:

現在の行の Market ディメンション・メンバーの UDA を返します。この構文は、Market メンバーと同じ行のテキスト・セルに配置されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

`MemberProperty("Market","UDA")`:
結果は次のようになります。

		Year
New York	Major Market	8,202
Massachusetts	Major Market	6,712
Florida	Major Market	5,029
Connecticut	Small Market	3,093
New Hampshire	Small Market	1,125
California	Major Market	12,964

メンバーの特定の UDA を返す:

現在の行の Product ディメンション・メンバーの特定の UDA を返します。この構文は、Market メンバーと同じ行のテキスト・セルに配置されます。

メンバーに 2 つの UDA が関連付けられている場合("Major Product"および"Market Leader")、次のテキスト関数の構文は最初の UDA ("Major Product")を返します。

`MemberProperty("Product", "UDA", (1) )`
結果は次のようになります。

	YearTotal	
P_100	2,654,913	Major Product

メンバーの他のプロパティを返す:

現在の行の Measures メンバーの Generation、Level および IsExpense プロパティを返します。この構文は、Measures メンバーと同じ行のテキスト・セルに配置されます。

`MemberProperty`("Measures", "Generation")

`MemberProperty`("Measures", "Level")

`MemberProperty`("Measures", "IsExpense")

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

	Generation	Level	IsExpense	Year
Sales	4	0	false	400,855
COGS	4	0	true	179,336
Margin	3	1	false	221,519
Marketing	4	0	true	66,237
Payroll	4	0	true	48,747
Misc	4	0	true	1,013
Total Expenses	3	1	true	115,997
Profit	2	2	false	105,522

> **ノート**
>
> グリッド・セルで `MemberProperty` を使用するが、行または列を指定しない場合は、現在の行または列がデフォルトで使用されます。

メンバーの代替別名を返す:

行内の現在の Product メンバーの代替別名表を使用して、メンバーの別名を返します。

この構文は、Product メンバーと同じ行のテキスト列に配置されます。

```
MemberProperty("Product", "GermanNames")
```

		Year
Colas	Cola Getränke	30,468
Root Beer	Kohlensäurehaltige Getränke	27,954
Cream Soda	Milchgetränke	25,799
Fruit Soda	Fruchtsaftgetränke	21,301
Diet Drinks	Diätgetränke	28,826

> **ノート**
>
> グリッド・セルで **MemberProperty** を使用するが、行または列を指定しない場合は、現在の行または列がデフォルトで使用されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ノート

Notes は、選択したノート・フォーマット、レポートに定義された名前付き POV、および選択したノート・テンプレートに基づいてノート・テキストを返します。ノート・テキスト関数は、テキスト・ボックスにのみ挿入でき、グリッド・テキスト・セルには挿入できません。インスタンスで生成 AI (GenAI)が有効になっている場合は、「ノート」テキスト・ボックスに返されたノートをオプションで要約できます。

構文:

```
Notes (Note Format, Named POV, Note Template, Summarize Notes)
```

- **ノート・フォーマット**は、ノート・マネージャのノート・フォーマット・マネージャで定義されます。詳細は、「ノート・フォーマットの操作」を参照してください。
- **名前付き POV** は、テキスト関数が挿入されるレポートで定義されます。詳細は、レポートでの名前付き POV の操作を参照してください。
- **「ノート・テンプレート」**を選択するか、すべてのノート・テンプレートを表示することを選択できます。
- **ノートのサマリー** (オプション): true または false に設定します。

例および使用情報の詳細は、レポートでのノート・テキスト関数の挿入を参照してください。

PageCount

PageCount は、PDF にプレビューされるレポートの総ページ数を返します。この関数はテキスト・オブジェクトで使用します。

構文:

```
PageCount()
```

例:

現在のページ数が 6 の場合は、「The total number of pages is: 6」という結果になります。

```
The total number of pages is: PageCount().
```

> **ノート**
>
> PageCount は PDF にプレビューされるレポートにのみ機能します。HTML レポートには複数のページがないため、PageCount の戻り値は 1 になります。

PageNumber

PageNumber は、PDF にプレビューされるレポートの現在のページ番号を返します。この関数はテキスト・オブジェクトで使用します。

構文:

```
PageNumber()
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例:

現在のページが 8 の場合は、「Page 8」という結果になります。

```
Page PageNumber()
```

> **ノート**
>
> PageNumber は PDF にプレビューされるレポートにのみ機能します。HTML レポートには複数のページがないため、PageNumber の戻り値は 1 になります。

ReportAuthor

ReportAuthor は、レポートの作成者の My Cloud で定義された「名」および「姓」のユーザー名の値を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
 ReportAuthor()
```

例:

レポートの作成者のユーザー名が Bob Johnson の場合は、**Bob Johnson** を返します。

```
ReportAuthor()
```

ReportCreatedOn

ReportCreatedOn は、レポートが作成された日付を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
ReportCreated("DateFormat","TimeFormat")
```

> **ノート**
>
> 日付と時間の書式は大文字と小文字が区別されます。ReportCreatedOn は、レポートが保存されている場合にのみ値を返します。パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

例:

レポートの本文にレポート作成日を挿入します。

```
ReportName() - 作成日 ReportCreatedOn("d-MM-yy")
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ReportDescription

`ReportDescription` は、現在のレポートの摘要を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
ReportDescription()
```

例:

レポートの本文にレポートの摘要を挿入します。

```
ReportDescription()
```

> **ノート**
>
> レポートの摘要は、レポートを保存する際に定義できます。保存した後は、ライブラリで摘要を変更するか、「別名保存」コマンドを使用してレポートを再度保存するときに変更できます。

ReportLocation

`ReportLocation` はレポートのライブラリ・フォルダの位置を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
  ReportLocation()
```

例:

レポートが配置されているライブラリ・フォルダのパスを挿入します。

```
ReportLocation( )
```

ReportModifiedBy

`ReportModifiedBy` は、レポートを保存するために My Cloud で定義された「名」および「姓」のユーザー名の値を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
ReportModifiedBy()
```

例:

レポートを最後に保存したユーザーの名前を挿入します。

```
ReportModifiedBy()
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ReportModifiedOn

ReportModifiedOn は、現在のレポートが最終変更された日付を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
ReportModifiedOn("DateFormat","TimeFormat")
```

> **ノート**
>
> 日付と時間の書式は大文字と小文字が区別されます。ReportModifiedOn は、レポートが保存されている場合にのみ値を返します。パラメータ定義については、テキスト関数のパラメータを参照してください。

例:

2016 年 12 月 19 日を挿入します。(この日付がレポートの最終更新日です。)

```
Report Modified: ReportModifiedOn("MMM dd, yyyy").
```

ReportName

ReportName は現在のレポートの保存されている名前を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
ReportName()
```

例:

レポート名を挿入します。

```
ReportName( )
```

ReportRunBy

ReportRunBy は、レポートの実行者である My Cloud で定義された「名」および「姓」のユーザー名の値を返します。この関数は、テキスト・ボックス、テキスト・セル、行見出しまたは列見出しで使用します。

構文:

```
ReportRunBy()
```

例:

レポートの実行ユーザー名を挿入します。

```
ReportRunBy()
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

SummarizeGridNotes

SummarizeGridNotes テキスト関数は、テキスト・ボックスに挿入して、グリッド内のノート・セグメントに表示されるノート(インライン・グリッド・ノート・エントリ)を要約するために使用できます。

この関数はテキスト・ボックスでのみ使用でき、テキスト行またはテキスト列では使用できません。また、ノート・セグメント(列または行)を含むグリッドがレポートに存在する必要があります。

構文:

```
SummarizeGridNotes(Note Segment, Use Context)
```

- **ノート・セグメント**: 要約するノート行またはノート列参照です
- **コンテキストの使用**(true または false): ノート・セグメントに関連付けられたメンバーのデータ値を含みます。

例:

ノート列 **F** でノートを要約し、データ・コンテキストを要約に含めます。

```
SummarizeGridNotes(F, true)
```

SummarizeGridNotes テキスト関数の詳細は、ナラティブ・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成を参照してください。

表のテキスト関数について

表固有の 3 つのテキスト関数があります:

- AttributeAlias
- AttributeValue
- DateOffset

AncestorAlias

AncestorAlias ()テキスト関数は、リレーショナル表問合せから返された特定の属性名の値を返すために使用されます。この関数はリレーショナル表に有効です。

構文

AttributeAlias("TableName", "AttributeName", *row-reference*,)

パラメータ

TableName - テキスト関数がリレーショナル表のテキスト・セルで使用されている場合、これはオプションのパラメータです。テキスト関数がテキスト・オブジェクトで使用されている場合、レポート内のリレーショナル表が 1 つのみであれば、表名パラメータはオプションであり、そうでなければ、表名パラメータは必須です。

AttributeName - これは属性名であり、必須パラメータです。この属性名は、リレーショナル表の列軸またはリレーショナル表の POV にある属性名に対応している必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

`row-reference` - これはオプションのパラメータです。row-reference パラメータが指定されておらず、属性値テキスト関数がリレーショナル・グリッドのテキスト・セルに出現する場合は、リレーショナル表の'現在'の行が使用されます。属性値テキスト関数がテキスト・オブジェクトに出現し、属性名が列軸にある場合、row-reference は必須です。row-reference にはオフセットを含めることができます(例: 1(5)という row-reference は、行 1 の 5 番目のタプルの属性値を返します)。

> **Note**
>
> - 属性値関数が表名パラメータを持たず、テキスト・オブジェクトに出現し、リレーショナル表が複数ある場合は、検証エラーが発生します。
> - 属性名パラメータが列軸または POV にない場合、または集約関数(例: Count()、Max()など)内にのみ出現する場合は、検証エラーが発生します。

例

- AttributeValue("Artifact Actions.User"): リレーショナル表の現在の行における指定の属性名の属性値、または POV にある指定の属性名の属性値を返します。
- AttributeValue("Artifact Actions.User", 1(5)): リレーショナル表の 5 番目の行における指定の属性名の属性値を返します。属性名が POV にある場合、この構文は有効ではありません。検証エラーが発生します。リレーショナル表の結果セットに 5 つの行がない場合は、空の文字列が返されます。
- AttributeValue("Table 1", "Artifact Actions.User", 1(5)):
- AttributeValue("Table 1", "Artifact Actions.User", 1(5)): 指定されたリレーショナル表の 5 番目の行における指定の属性名の属性値を返します。属性名が POV にある場合、この構文は有効ではありません。検証エラーが発生します。リレーショナル表の結果セットに 5 つの行がない場合は、空の文字列が返されます。

AttributeValue

`AttributeValue()`テキスト関数は、リレーション表問合せから返された特定の属性名の値を返すために使用されます。この関数はリレーショナル表に有効です。

構文

```
AttributeValue("TableName", "AttributeName", row-reference,)
```

パラメータ

`TableName` - テキスト関数がリレーショナル表のテキスト・セルで使用されている場合、これはオプションのパラメータです。テキスト関数がテキスト・オブジェクトで使用されている場合、レポート内のリレーショナル表が 1 つのみであれば、表名パラメータはオプションであり、そうでなければ、表名パラメータは必須です。

`AttributeName` - これは必須パラメータです。この属性名は、リレーショナル表の列軸またはリレーショナル表の POV にある属性名に対応している必要があります。

`row-reference` - これはオプションのパラメータです。row-reference パラメータが指定されておらず、属性値テキスト関数がリレーショナル・グリッドのテキスト・セルに出現する場合は、リレーショナル表の'現在'の行が使用されます。属性値テキスト関数がテキスト・オブジェクトに出現し、属性名が列軸にある場合、row-reference は必須です。row-reference にはオフ

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

セットを含めることができます(例: 1(5)という row-reference は、行 1 の 5 番目のタプルの属性値を返します)。

> **Note**
>
> - 属性値関数が表名パラメータを持たず、テキスト・オブジェクトに出現し、リレーショナル表が複数ある場合は、検証エラーが発生します。
> - 属性名パラメータが列軸または POV にない場合、または集約関数(例: Count()、Max()など)内にのみ出現する場合は、検証エラーが発生します。

例

- AttributeValue("Artifact Actions.User"): リレーショナル表の現在の行における指定の属性名の属性値、または POV にある指定の属性名の属性値を返します。
- AttributeValue("Artifact Actions.User", 1(5)): リレーショナル表の 5 番目の行における指定の属性名の属性値を返します。属性名が POV にある場合、この構文は有効ではありません。検証エラーが発生します。リレーショナル表の結果セットに 5 つの行がない場合は、空の文字列が返されます。
- AttributeValue("Table 1", "Artifact Actions.User", 1(5)):
- AttributeValue("Table 1", "Artifact Actions.User", 1(5)): 指定されたリレーショナル表の 5 番目の行における指定の属性名の属性値を返します。属性名が POV にある場合、この構文は有効ではありません。検証エラーが発生します。リレーショナル表の結果セットに 5 つの行がない場合は、空の文字列が返されます。

DateOffset

DateOffset()テキスト関数(リレーショナル表と、Planning および Essbase グリッドの日付型の値に有効)は、参照されている日付から指定されたオフセット量の分オフセットして新しい日付を計算します。オフセット量は、指定された単位(日、月または年)に基づきます。テキスト関数がリレーショナル表に出現するか、またはレポート内のリレーショナル表が 1 つのみである場合、表名はオプションとなり、それ以外の場合は表名を指定する必要があります。行参照はオプションとなり、指定されていない場合は現在の行になります。単位パラメータは必須となり、day、month または year を指定する必要があります。

構文

```
DateOffset("Grid/TableName", row-reference,ol-reference, calendar-unit,
offsetAmount)
```

パラメータ

`Grid/TableName` - テキスト関数がグリッド/リレーショナル表のテキスト・セルで使用されている場合、これはオプションのパラメータです。テキスト関数がテキスト・オブジェクトで使用されている場合、レポート内のグリッド/リレーショナル表が 1 つのみであれば、グリッド/表名パラメータはオプションであり、そうでなければ、グリッド/表名パラメータは必須です。

`row-reference` - これはオプションのパラメータです。row-reference パラメータが指定されていない場合は、'現在'の行(テキスト関数が出現する行)が使用されます(これは、CellValue()や CellText()などのテキスト関数の動作と同様です)。日付オフセット・テキスト関数がテキスト・オブジェクトに出現する場合、row-reference は必須です。row-reference にはオフセットを含めることができます(例: 1(5)という row-reference は、行 1 の 5 番目のタプルの属性値を返しま

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

す)。参照列はデータソース内の日付またはタイムスタンプ値を参照している必要があり、そうでない場合は空の文字列が返されます。

`col-reference` - これはオプションのパラメータです。col-reference パラメータが指定されていない場合は、'現在'の列(テキスト関数が出現する列)が使用されます(これは、CellValue()やCellText()などのテキスト関数の動作と同様です)。日付オフセット・テキスト関数がテキスト・オブジェクトに出現する場合、col-reference は必須です。col-reference にはオフセットを含めることができます(例: C(E)は、列 C の 5 番目の属性名を参照します)。参照列はデータソース内の日付またはタイムスタンプ値を参照している必要があり、そうでない場合は空の文字列が返されます。

`calendar-unit` - calendar-unit は必須パラメータです。day、month または year を指定でき、これにより、日付差異オフセットを計算する単位が決まります。

`offsetAmount` - オフセット量は必須であり、正または負の整数(ゼロ以外)である必要があります。**オフセット量が正である場合は、先頭に'+'記号を含める必要があります(例: +3)。**

> **Note**
>
> row-reference または col-reference が日付以外の値を参照している場合、関数は空の文字列を返します。
>
> 日付を含まない列/セルを DateOffset()関数が参照している場合に実行される追加の検証はありません。この場合、関数は空の文字列を返します。
>
> パラメータの説明に明記されているように、offsetAmount が正数である場合は、前にプラス記号'+'を付ける必要があります。プラス記号が欠落し、かつマイナス記号がない場合は、構文エラーが発生します。このことは、テキスト関数文字列を正しく解析するために必要です。
>
> **例**
>
> 参照列 B の日付値が'Jul, 21, 2023'である場合:
>
> - DateOffset(B, day, +4)は Jul 25, 2023 を返します
> - DateOffset(B, day, -4)は Jul 17, 2023 を返します
> - DateOffset(B, month, +1)は Aug 21, 2023 を返します
> - DateOffset(B, month, -1)は Jun 21, 2023 を返します
> - DateOffset(B, year, +2)は Aug 21, 2025 を返します
> - DateOffset(B, year, -2)は Jun 21, 2021 を返します

条件関数

次も参照:

- IFThen、If
- 条件演算子
- 複合条件

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

IFThen、If

IfThen は、条件が True の場合はある値を返し、条件が False の場合は別の値を返す条件関数です。

構文:

IfThen(*Condition*, *TrueParameter*, *FalseParameter*)

- *Condition* は true または false に評価する論理式です。複雑なブール演算子(And、Not および Or)に加えて、完全な条件論理を使用できます。*condition* は、#missing 値と#error 値に対するテストにも使用できます。
- *TrueParameter* および *FalseParameter* は、条件の結果に基づいて評価される式です。

条件演算子

条件演算子を使用する場合は、次の事項を考慮してください。

- *expression* には任意の有効な算式を指定できます。式は、定数(整数または実数)、参照または別の関数の任意の組合せです。
- *reference* には任意の有効な参照を指定できます。したがって、IFNN 参照プロパティを参照の一部として利用できます。
- *condition* には、複合条件 And、Not および Or に適用される任意の有効な条件を指定できます。これらの演算子には埋込み条件を設定できます。(And、Not および Or 演算子はカッコで囲む必要があります。)
- 条件内の任意の *expression* が#error または#missing 値を返した場合、If 関数は#missing または#error を返します。これは、IsMissing、IsError または IsNonNumeric 条件を使用している場合は適用されません。

表 11-10 条件演算子

条件演算子	構文	ロジック
次と等しい	*expression* = *expression*	左の式が右の式と等しいかどうかをテストします。 端数処理が必要な場合は、Round 関数を使用します。 **例:** 1= 4 は false を返します。
次より大きい	*expression* > *expression*	左の式が右の式より大きいかどうかをテストします。 **例:** 1 > 4 は false を返します。
次以上	*expression* >= *expression*	左の式が右の式以上かどうかをテストします。 正しい構文は>=です。構文=>はサポートされていません。 **例:** 1 >= 4 は false を返します。
次より小さい	*expression* < *expression*	左の式が右の式より小さいかどうかをテストします。 **例:** 1 < 4 は true を返します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 11-10 (続き) 条件演算子

条件演算子	構文	ロジック
次より小さいまたは 次と等しい	*expression* <= *expression*	左の式が右の式以下かどうかをテストします。 正しい構文は<=です。構文=<はサポートされていません。 **例:** `1 <= 4` は true を返します。
次と等しくない	*expression* <> *expression* *expression* != *expression*	左の式が右の式と等しくないかどうかをテストします。 端数処理が必要な場合は、Round 関数を使用します。 **例:** `1 <> 4` は true を返します。 `1 != 4` は true を返します。
IsMissing	`IsMissing` (*reference*) `IsMiss` (*reference*)	参照に#missing の結果が含まれているかどうかをテストします。 参照が展開される行または列である場合、条件が true になるには、すべての結果セルが#missing である必要があります。 **例**: `IsMissing([1])`は、行 1 に#missing 値がある場合は true を返します。
IsError	`IsError` (*reference*) `IsErr` (*reference*)	参照に#error の結果が含まれているかどうかをテストします。 参照が展開される行または列である場合、条件が true になるには、すべての結果セルが#error である必要があります。式行および式列のみ#error になる可能性があります。 **例:** `IsError([2])`は、行 2 に#error 値がある場合は true を返します。
IsNonNumeric	`IsNN` (*reference*) `IsNonNumerid` (*reference*) `IfNN` (*reference*) `IfNonNumber` (*reference*)	参照に#missing または#error の結果が含まれているかどうかをテストします。 参照が展開される行または列である場合、条件が true になるには、すべての結果セルが#missing または#error(あるいはその両方)である必要があります。 **例:** `IsNN([3])`は、行 3 に#missing または#error 値がある場合は true を返します。
カッコ	(*condition*)	条件をグループ化します。 **例:** `(1 > 4)`は false を返します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

複合条件

表 11-11 複合条件

複合条件	構文	ロジック
And	(*condition* AND *condition*) (*condition* & *condition)*	2 つの条件を比較します。すべての条件が true の場合に true を返します。 **例:** (1 > 4 AND 5 > 2)は false を返します。
Not	NOT (*condition*) ! (*condition*)	条件の結果を逆にして結果を否定します。 **例:** Not (1 > 4)は true を返します。
Or	(*condition* OR *condition*) (*condition* | *condition*)	2 つの条件を比較します。いずれかの条件が true の場合に true を返します。 **例:** (1 > 4 OR 5 > 2)は true を返します。

複合条件 And、Or および Not は完全にサポートされています。ただし、これらはカッコで囲む必要があります。

有効な例:

```
If ( ([A] > [B] and [A] > 1000), [A], [B])
```

無効な例:

```
If ( [A] > [B] and [A] > 1000, [A], [B])
```


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

12

ノートの操作

次も参照:

- ノートについて
  この機能によって、ノートのレポートの柔軟性、対話性および有用性が向上します。
- ノート・テンプレートの作成
  この章では、ノート・テンプレートの作成方法について説明します。
- ノート・マネージャの使用
- ノート・テキスト関数の使用
- セキュリティ - ノート・テンプレートとノートのロールおよびアクセス権
  この項では、ユーザーまたはグループ・ロールに基づくノート・テンプレートおよびノートに対するアクセス権限の制御について説明します。
- ベスト・プラクティス

ノートについて

この機能によって、ノートのレポートの柔軟性、対話性および有用性が向上します。

ノートを使用すると、ノート・ボックスで、またはノート行やノート列を利用してグリッドにインラインで、レポートに POV ベースのナラティブ・テキストを入力できます。

ノート・ボックスは、グリッドやチャートとともに、書式設定されたレポートに**ノート**を表示します。レポート構造およびナラティブの要件がエンティティ、部門などの間で統一されている場合、ノート・ボックスを利用できます。レポートでは、HTML でレポートをプレビュー中に、レポート設計者によってノート・テンプレートが挿入されたノート・ボックスにノートを入力できます。ノート・ボックスはグリッドまたはチャートに関連付けられず、独自の POV 選択が含まれます。

ノート列またはノート行からのノートのインライン・グリッド・エントリでは、HTML でレポートをプレビューしながら、POV ベースのコメントをグリッドに直接入力および表示できます。セルの書式設定または条件付き書式設定を使用すると、**ノート・エントリの許可**プロパティを使用して、セルでのノート・エントリを制限または許可できます。たとえば、差異パーセントのメンバー選択に関連付けられているノート列では、条件付き書式設定を使用して、差異パーセントが 10%を超えるか-10%未満の行でのみノート・エントリを有効にできます。

ノート・ボックスとインライン・グリッド・ノートでは、データ・ソース、ディメンション・レイアウト、初期 POV、アクセス権限およびその他のプロパティを定義する、ノート・テンプレートを利用します。ノート・テンプレートは、レポート・デザイナでレポートにノート・ボックスを挿入するときか、グリッドにノート行またはノート列を挿入するときに、ノート・テンプレートの行または列のプロパティで作成できます。ノートは、ノート・テンプレート名、データ・ソースおよび POV 別に保存されます。

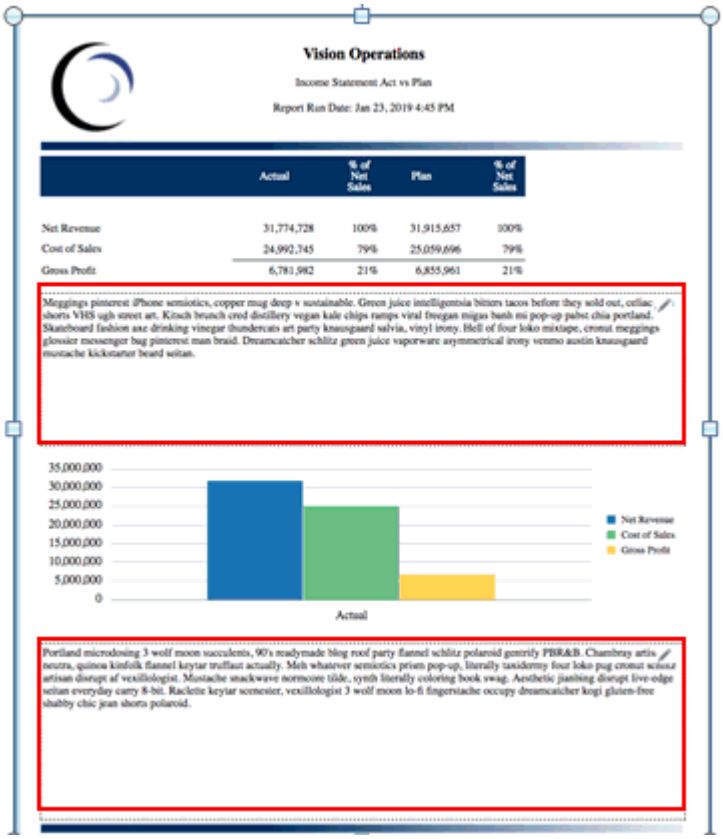
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> ノート機能は、Narrative Reporting デプロイメントでのみ使用可能であり、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントでは使用できません。

ノートは、ノート・テンプレート(ノートおよび POV 選択ごとに 1 つのテンプレート)でレポートに表示するか、ノート・テキスト関数または GridNotes テキスト関数を使用してレポートに表示するか、インラインでノート列またはノート行に表示できます。

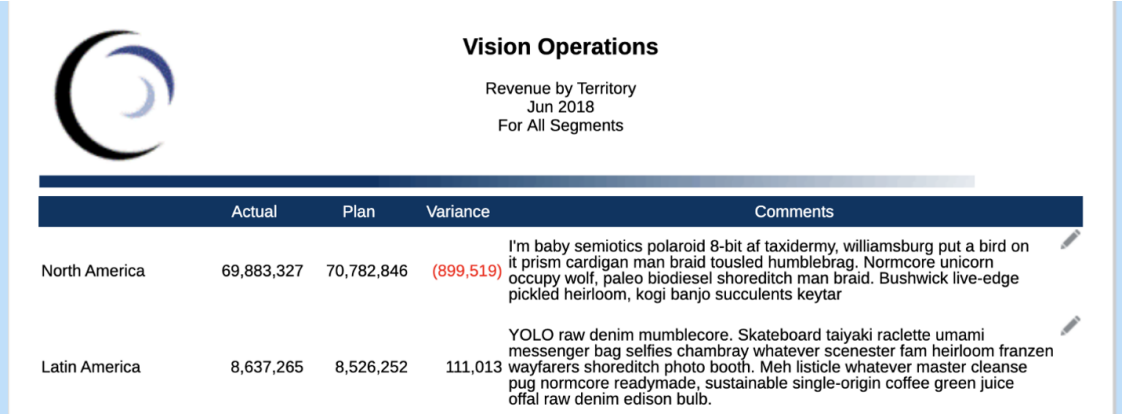
- ノート・テキスト関数は、ノートをテキスト・ボックスでレポートに表示する堅牢かつ柔軟な方法を提供します。テキスト・ボックスがデータ・ソースに対応している場合、ディメンションのセカンダリ POV から選択して、**子**、**子孫**または**最下部**レベルのメンバーをメイン POV 選択に基づいて表示できます。

  たとえば、エンティティ 選択が Division A で、エンティティのテキスト ・ボックスのセカンダリ POV 選択が「子孫」である場合、**ノート**・テキスト関数は、Division A のすべての子孫のノートを返します。
- また、**GridNotes** テキスト関数を使用して、テキスト・ボックス、またはグリッドのテキスト行、テキスト列あるいはテキスト・セルに、グリッドの POV に基づいてノートを表示することもできます。

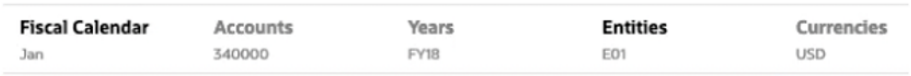


レポートの 2 つのノート・ボックス

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノートのインライン・グリッド・エントリ





ノート・テキスト関数およびセカンダリ POV を使用した、データ・ソース対応のテキスト・ボックス

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Accounts	Years	Scenarios	Entities	Currencies
340000	FY18	Actual	E01_101_1110	USD

	January	
Audio Systems	709,688	Egestas congue quisque egestas diam in arcu cursus euismod quis. Egestas sed tempus urna et pharetra pharetra massa massa ultricies. Leo vel orci porta non pulvinar. Netus et malesuada fames ac turpis egestas sed.
Digital Video	997,415	
Televisions	551,363	Tellus pellentesque eu tincidunt tortor aliquam nulla facilisi cras. Blandit volutpat maecenas volutpat blandit aliquam etiam erat. Nunc pulvinar sapien et ligula ullamcorper malesuada proin libero nunc. Sed risus pretium quam vulputate dignissim suspendisse in est. Pharetra convallis posuere morbi leo.

テキスト列での GridNotes テキスト関数

ノートを操作するには:

1. レポート・デザイナでは、次のいずれかを実行できます。
   - レポートに新規または既存のノート・テンプレートを挿入します
   - グリッドにノート列またはノート行を挿入し、新規または既存のノート・テンプレートを選択します。
2. ノート・テンプレート POV、初期の書式設定およびテキストを設定します。
3. 作成後、**ノート・テンプレート**を他のレポートに挿入して表示したり、エントリ・コンテキストを追加することができます。
4. レポート参照者は POV を選択して、HTML でレポートを実行し、ノート・ボックスで、またはグリッドのノート・セルにインラインで、書式設定されたノート・テキストを入力して**ノート**を作成します。
5. ノート・マネージャを使用して、**ノート・テンプレート**、**ノート**および**ノート・フォーマット**を表示、編集および管理できます。
6. **ノート・テンプレート**、**ノート**・テキスト関数または **GridNotes** テキスト関数を使用して、レポートにノートを表示します。
7. ノート・マネージャを使用してノート・テンプレート、ノートおよびノート書式をある環境から別の環境に移行します。環境間でのノート・アーティファクトの移行を参照してください。

> ⓘ **ノート**
>
> 表示権限を持つユーザーのみが**エクスポート**できます。**インポート**操作を実行することはできません。

ノート・テンプレートの作成

この章では、ノート・テンプレートの作成方法について説明します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Related Topics

- ノート・テンプレートの操作
  この項では、新しいノート・テンプレートを作成および挿入する方法について説明します。
- ノートのインライン・グリッド・エントリの設定
  この項では、ノートのインライン・グリッド・エントリを操作する方法について説明します。

ノート・テンプレートの操作

この項では、新しいノート・テンプレートを作成および挿入する方法について説明します。

レポート・デザイナを使用して、ノート・テンプレート(テキスト・エントリ・オブジェクト)をレポートに挿入できます。新規ノート・テンプレートの作成および挿入、または前に作成したノート・テンプレートの挿入が可能です。

ノート・テンプレートを作成するには:

タスク	実行するサブタスク	詳細
レポートへのノート・ボックスの挿入	ノート・テンプレートを挿入するには、次の処理を実行します。 • ツールバーで、  をクリックして**「ノート」**を選択します。 • ノート・ボックスを挿入できます。レポート・デザイナで、レポートの本文を右クリックして**「レポート・コンテンツの追加」**を選択した後、**「ノート」**を選択します。 • 空白のレポートで、**「ノート」**を選択します。 レポートにノート・ボックスを挿入後、ノート・ボックスを移動またはサイズ変更できます。	レポートへのノート・ボックスの挿入
ノート・テンプレートの設定	ノート・テンプレートを設定するには、次のオプションを選択します。 • 新規**ノート・テンプレート**を作成するには、データ・ソースを選択します。 • **「既存のノート」**を使用するには、既存の**ノート・テンプレート**を選択します。	ノート・テンプレートの設定
プロパティの設定	次のプロパティを設定できます。 **「名前」**、**「説明」**、**「データ・ソース」**、**「文字制限」**および**「書式」**などのプロパティによって、ノート・テンプレートが制御されます。	プロパティの設定

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

タスク	実行するサブタスク	詳細
オプションによるノート・テンプレートへのプレースホルダ・テキストの追加	ノート・テンプレートにオプションのプレースホルダ・テキストを入力できます。 • レポートをプレビューすると、テキストがノート・ボックスに表示されます。 • プレースホルダ・テキストを変更した場合、ノート・テンプレートが挿入されていて、ノートがまだ入力されていない、すべてのレポートに影響します。	ノート・テンプレートへのプレースホルダ・テキストの入力
ディメンション・レイアウトの設定	ディメンション・レイアウトのオーバーレイから、ノート・テンプレートの**「視点」**のディメンションを並べ替え、追加または除去できます。	ディメンション・レイアウトの設定
POV オプションの設定	レポートのノート・テンプレートに必要な POV メンバーを選択し、POV オプションを設定できます。	視点選択内容とオプションの設定
ノート・テンプレートの保存	ノート・テンプレートをリポジトリに保存します。 すべてのノート・テンプレートをレポート間で共有でき、レポートには保存されません。	ノート・テンプレートの保存

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートでノート・テンプレートを作成および管理する方法を学習します。

 -- ノート・テンプレートの作成および管理.

レポートへのノート・ボックスの挿入

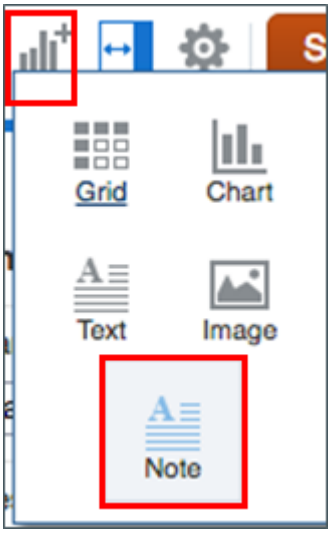
ノート・ボックスを挿入するには:

1. ノート・テンプレートを挿入するには、次の処理を実行します。
   a. ツールバーで、

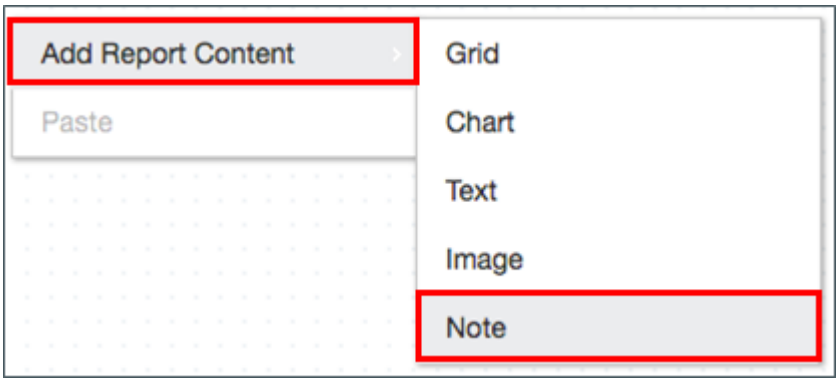
      

      をクリックして**「ノート」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



b. レポートの本文を右クリックして**「レポート・コンテンツの追加」**を選択した後、**「ノート」**を選択します。

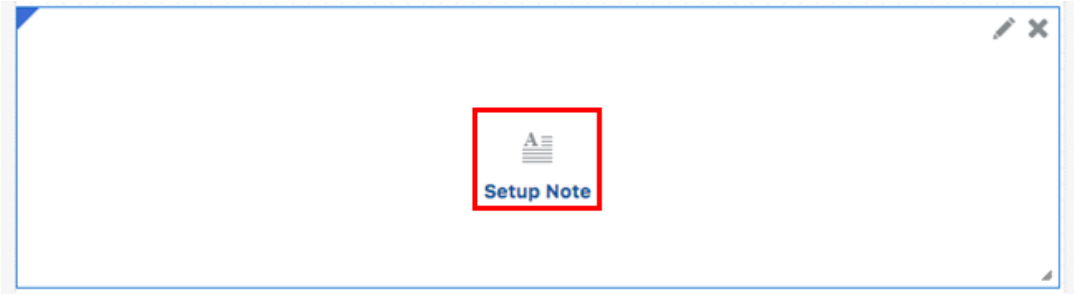


c. 空白のレポートで、**「ノート」**を選択します。



2. レポートにノート・ボックスを挿入後、ノート・ボックスを移動またはサイズ変更でき、その後**「ノートの設定」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

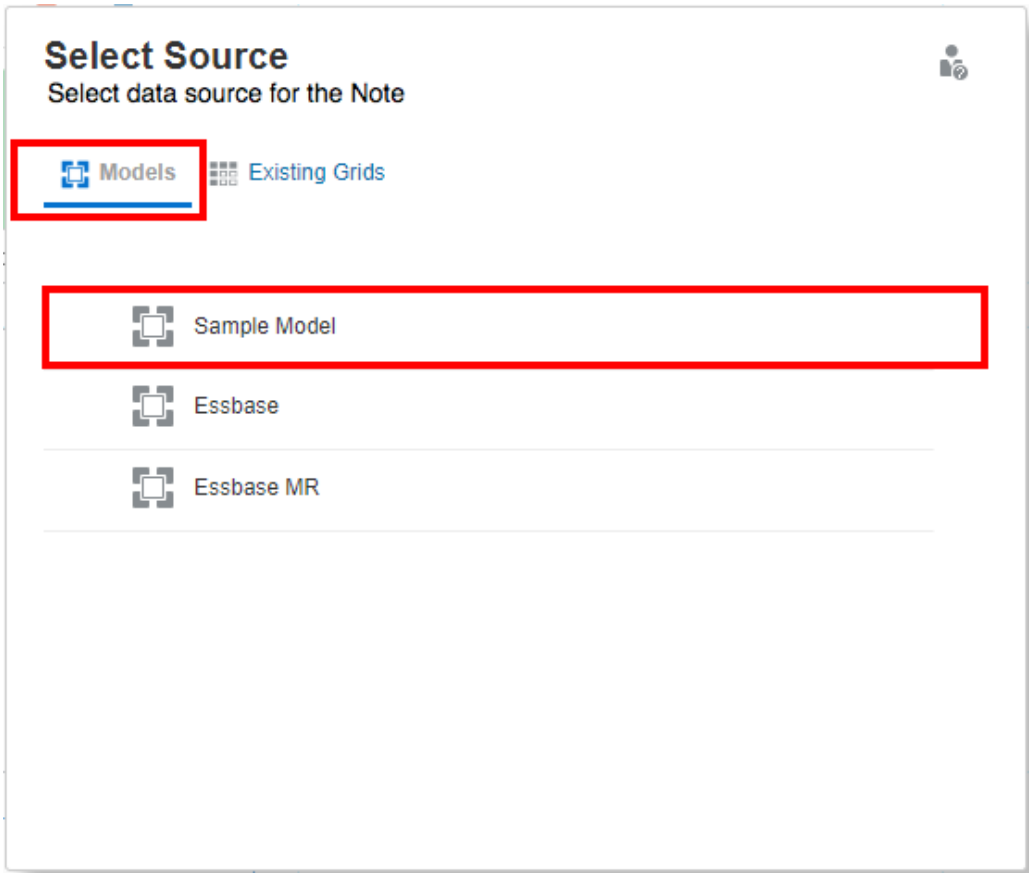


ノート・テンプレートの作成を続行するには、ノート・テンプレートの設定を参照してください。

ノート・テンプレートの設定

ノート・テンプレートを設定するには、これらのステップを実行します。

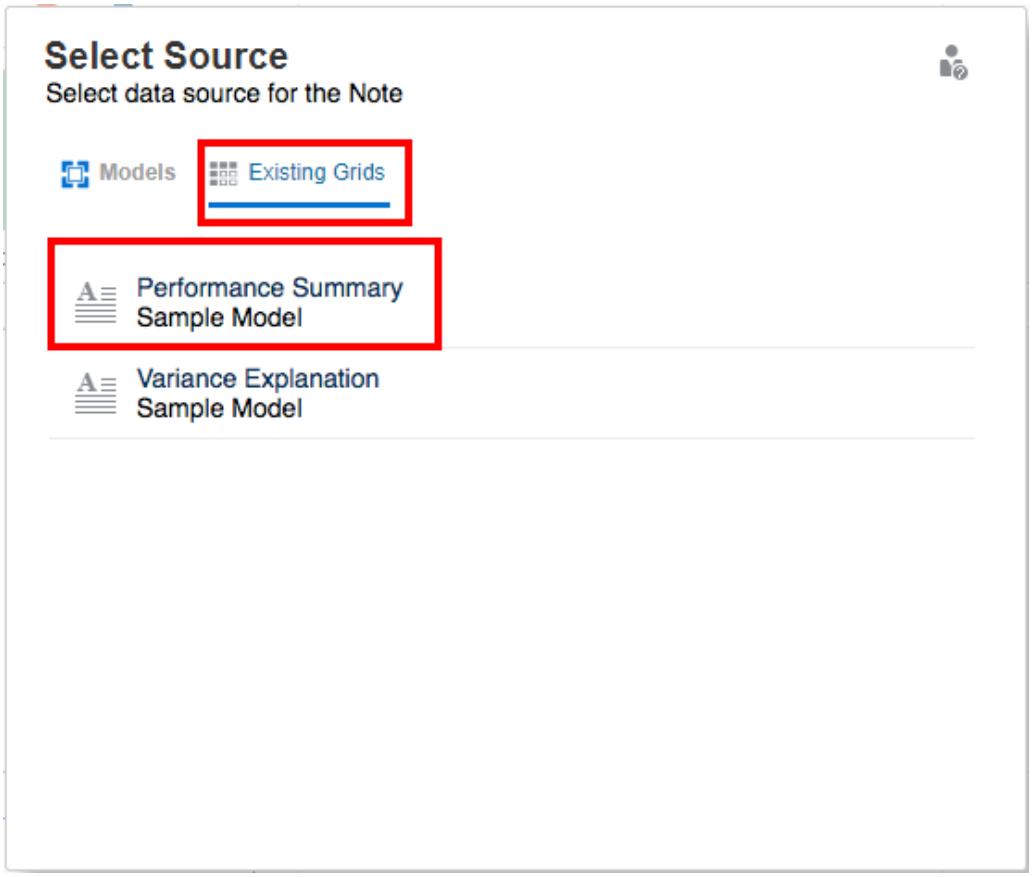
1. レポートにノート・ボックスを挿入後、**「ノートの設定」**オプションをクリックします。ノート・テンプレートを設定するには、次のオプションを選択します。
   a. 新規**ノート・テンプレート**を作成する場合: **「ソースの選択」**ダイアログ・ボックスから**「モデル」**タブを選択し、データ・ソースを選択します。



ノート・テンプレートが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

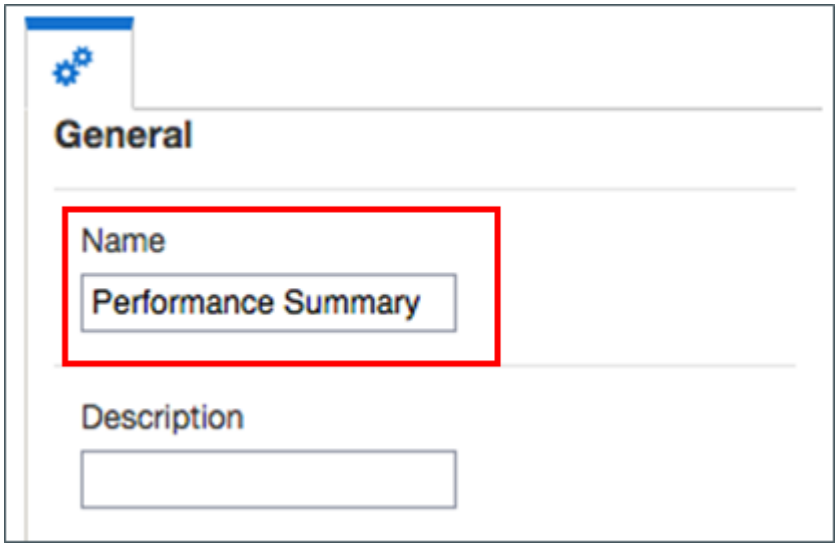
b. 既存の**ノート・テンプレート**を使用する場合: **「ソースの選択」**ダイアログ・ボックスから**「既存のノート」**タブを選択し、リストから既存の**ノート・テンプレート**を選択します。



既存の**ノート・テンプレート**を挿入する場合、レポートの**グローバル POV** が**ノート・テンプレート**に追加されます。ノート・テンプレートの一般プロパティが含められますが、書式設定プロパティはレポートの挿入済ノート・テンプレートに固有のものとなります。

2. **「一般」**プロパティにおいて、ノート・テンプレートの**「名前」**および**「説明」***(オプション)*を入力します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノート・テンプレート名は、すべてのレポートおよびデータ・ソース間で一意である必要があります。たとえば、**「名前」**：**「パフォーマンス・サマリー」**となります。ノート・テンプレートを作成すると、保存されます。ノート名は変更できません。

オプション:**「ノート・テンプレート」**の摘要は、差異サマリーおよびパフォーマンス・トレンドなどのレポートを基に指定できます。

> **ⓘ ノート**
>
> ノート・テンプレート・エディタで、次のいずれかの処理を実行した場合、ノート・テンプレートが保存されます。
>
> - レポートの保存
> - ノート・エディタをクローズしてレポート設計キャンバスに戻る
> - **「処理」**で**「編集」**メニューを選択し、別のレポート・オブジェクトを編集
>
> プロンプトが表示されるため、新規ノート・テンプレートを作成する場合は、ノート・テンプレートの保存を参照してください。

> **ⓘ ノート**
>
> ノート・テンプレートを作成して保存すると、ノート・テンプレート名は変更できなくなります。
>
> ノート・テンプレート POV のディメンションを設定し、テンプレートからノートが作成された後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。
>
> ノート・テンプレートでは、レポートから入力されたすべてのノートに使用可能な元の POV ディメンションが指定されます。

*ノート・テンプレートの作成*を続行するには、プロパティの設定を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

プロパティの設定

「名前」、**「説明」**、**「データ・ソース」**、**「文字制限」**および**「書式」**などの一般プロパティによって、レポートのノート設定が制御されます。一般プロパティに対する変更は、関連付けられたすべてのレポートのノート・テンプレートに影響します。

ノート・テンプレートの**「一般」**プロパティを実行するには:

1. **「一般」**プロパティにおいて、ノート・テンプレートの**「名前」**および**「説明」**を入力します。
2. **「データ・ソース」**リンクをクリックして、ノートの現在のデータ・ソースを変更できます。
3. ***オプション***: **「文字制限」**で、ノートの文字数上限を設定します。

> **ⓘ ノート**
>
> たとえば、ノート・テンプレートの文字制限が `1000` に設定されている場合、ノートを入力するユーザーは、制限を超えた追加文字の入力が制限されます。
>
> ノートが入力された後に「文字制限」オプションを設定した場合、制限は新規ノートにのみ適用されます。

4. **「編集可能」**リンクをクリックして、書式を「読取り専用」に変更できます。たとえば、この値が**「False」**に設定されている場合、ノート・テンプレートから作成されたすべてのノートが「読取り専用」書式になります。これによって、



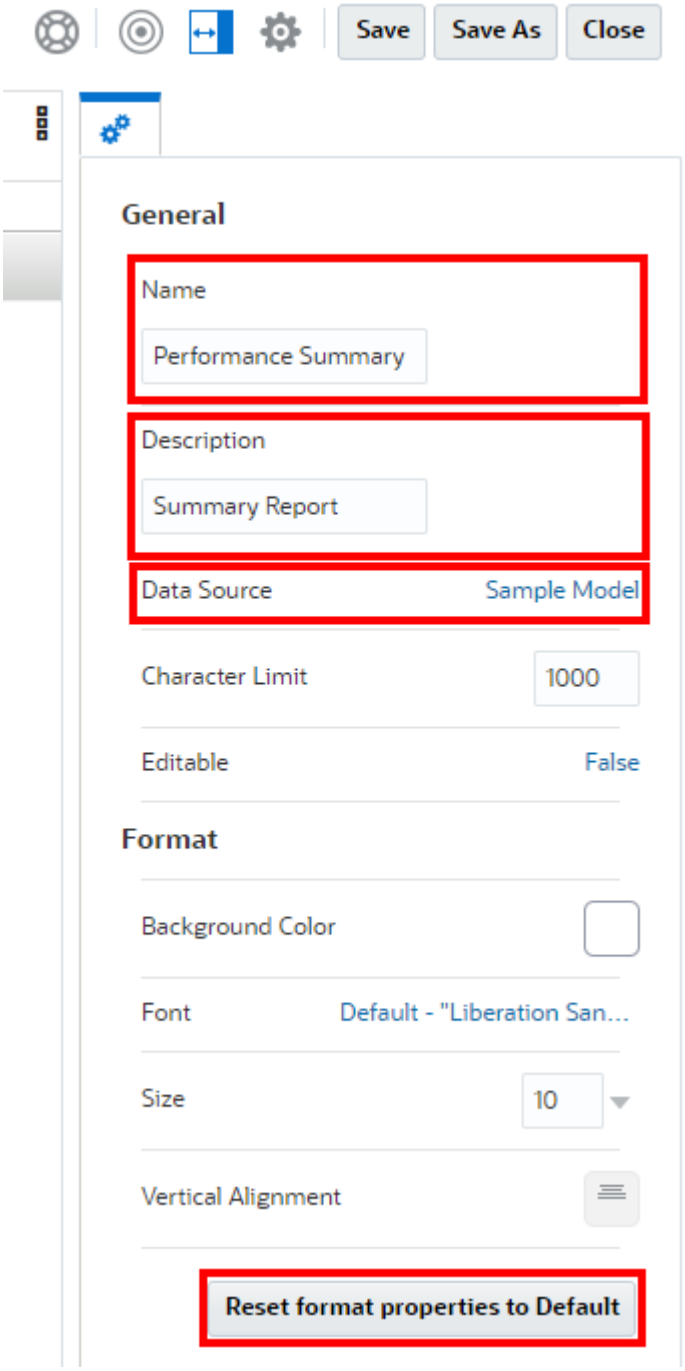
アイコンがノート・ボックスに表示されなくなります。

> **ⓘ ノート**
>
> **「編集可能」**オプションが**「False」**に設定されている場合、HTML でレポートをプレビューする際に、テンプレートから新規ノートを作成できません。

5. **「書式」**プロパティにおいて、テキストの**「背景色」**、デフォルトの**「フォント」**と**「サイズ」**および**「垂直方向の配置」**を設定できます。**書式プロパティを「デフォルト」にリセット**して、デフォルトの書式設定に復元することもできます。

> **ⓘ ノート**
>
> デフォルトの**「フォント」**および**フォント・サイズ**は、**「ノート」**オブジェクト全体に適用され、**「ノート」**オブジェクトのデフォルト・フォントを様々なフォントで上書きします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ⓘ ノート

これらの**「書式」**プロパティは、レポートに挿入されたノート・テンプレートに適用されます。ノート・テンプレートが別のレポートで使用されている場合、「書式」プロパティをリセットする必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> ノート・テンプレート・エディタで、次のいずれかの処理を実行した場合、ノート・テンプレートが保存されます。
>
> - レポートの保存
> - ノート・エディタをクローズしてレポート設計キャンバスに戻る
> - **「処理」**で**「編集」**メニューを選択し、別のレポート・オブジェクトを編集
>
> プロンプトが表示されるため、新規ノート・テンプレートを作成する場合は、ノート・テンプレートの保存を参照してください。

> **ノート**
>
> ノート・テンプレートを作成して保存すると、ノート・テンプレート名は変更できなくなります。
>
> ノート・テンプレート POV のディメンションを設定し、テンプレートからノートが作成された後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。
>
> ノート・テンプレートでは、レポートから入力されたすべてのノートに使用可能な元の POV ディメンションが指定されます。

*ノート・テンプレートの作成*を続行するには、ノート・テンプレートへのプレースホルダ・テキストの入力を参照してください。

テキスト文字幅の設定

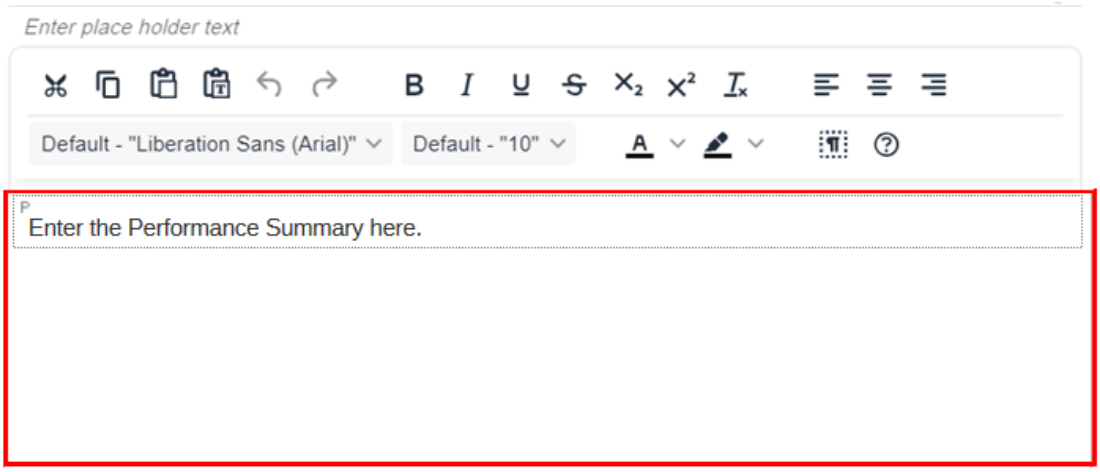
「テキスト文字幅」プロパティを使用して、テキスト・ボックス内のテキストのサイズ変更の融通性の程度を選択できます。プロパティの値は、**「大」**、**「中」**または**「小」**のいずれかにできます。デフォルトではこのプロパティは**「大」**に設定されます。詳細は、「テキスト文字幅プロパティの使用」を参照してください。

ノート・テンプレートへのプレースホルダ・テキストの入力

オプションのプレースホルダ・テキストをノート・テンプレートに入力し、レポートのプレビュー時にこのテキストがノート・ボックスに表示されるようにするには、次のようにします。

「ノート」ボックスで、必要なプレースホルダ・テキストを入力します。ツール・バーのボタンを使用して、テキストを書式設定できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ⓘ ノート

レポートをプレビューすると、テキストがノート・ボックスに表示されます。

プレースホルダ・テキストを変更した場合、ノートがまだ入力されていないノート・テンプレートが挿入されたすべてのレポートに影響します。

ⓘ ノート

ノート・テンプレート・エディタで、次のいずれかの処理を実行した場合、ノート・テンプレートが保存されます。

- レポートの保存
- ノート・エディタをクローズしてレポート設計キャンバスに戻る
- **「処理」**で**「編集」**メニューを選択し、別のレポート・オブジェクトを編集

プロンプトが表示されるため、新規ノート・テンプレートを作成する場合は、ノート・テンプレートの保存を参照してください。

ⓘ ノート

ノート・テンプレートを作成して保存すると、ノート・テンプレート名は変更できなくなります。

ノート・テンプレート POV のディメンションを設定し、テンプレートからノートが作成された後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。

ノート・テンプレートでは、レポートから入力されたすべてのノートに使用可能な元の POV ディメンションが指定されます。

*ノート・テンプレートの作成*を続行するには、ディメンション・レイアウトの設定を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ディメンション・レイアウトの設定

 ディメンション・レイアウトのオーバーレイを切り替え、これによってディメンションをドラッグして並べ替えたり、**「視点」**からディメンションを除去または追加できます。

1 つ以上の POV ディメンションがノート・テンプレートおよびその関連ノートに含めるために必要でない場合、ディメンション・レイアウトによってノート・テンプレートからディメンションを除去できます。

ディメンション・レイアウトを設定するには:

1. **「ディメンション・レイアウトの表示」**をクリックして、ディメンション・レイアウトを表示します。
2. ディメンションをドラッグして並べ替えたり、**「視点」**からディメンションを除去または追加できます。

> **ⓘ ノート**
>
> ノート・テンプレート・エディタで、次のいずれかの処理を実行した場合、ノート・テンプレートが保存されます。
>
> - レポートの保存
> - ノート・エディタをクローズしてレポート設計キャンバスに戻る
> - **「処理」**で**「編集」**メニューを選択し、別のレポート・オブジェクトを編集
>
> プロンプトが表示されるため、新規ノート・テンプレートを作成する場合は、ノート・テンプレートの保存を参照してください。

> **ⓘ ノート**
>
> ノート・テンプレートを作成して保存すると、ノート・テンプレート名は変更できなくなります。
>
> ノート・テンプレート POV のディメンションを設定し、テンプレートからノートが作成された後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。
>
> ノート・テンプレートでは、レポートから入力されたすべてのノートに使用可能な元の POV ディメンションが指定されます。

*ノート・テンプレートの作成*を続行するには、視点選択内容とオプションの設定を参照してください。

視点選択内容とオプションの設定

ノート・テンプレートでは、レポートのグローバル POV が利用されます。新規または既存のノート・テンプレートをレポートに挿入する場合、POV ディメンション・メンバーを選択し、POV ディメンションを非表示にするか、ユーザーによる定義済メンバー以外のメンバーの選択を制限するか、またはすべての選択内容を印刷するかなどの POV オプションを定義する必要があります。

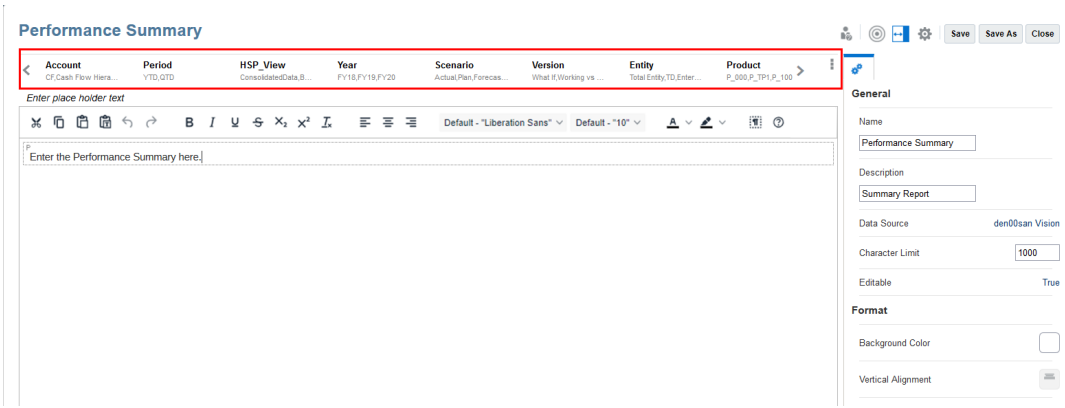
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

行および列にディメンションがあるグリッドまたはチャートとは異なり、データ・ソース内のすべてのディメンションが POV にリストされます。レポートにすでにグリッドまたはチャートが含まれる場合、グリッド行/列ディメンションはノート・テンプレートのグローバル POV にリストされるため、定義する必要があります。レポートにグリッドまたはチャートが含まれない場合、グローバル POV の選択内容および設定はノートに固有のものとなります。

1 つ以上のメンバーを選択できます。複数のプリセット POV メンバー(部門など)のいずれかを選択する場合、複数のメンバーを選択できます。

ノート・テンプレートの視点を設定するには:

1. **「ノート」**の上部にある POV バーでディメンションのラベルをクリックし、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。

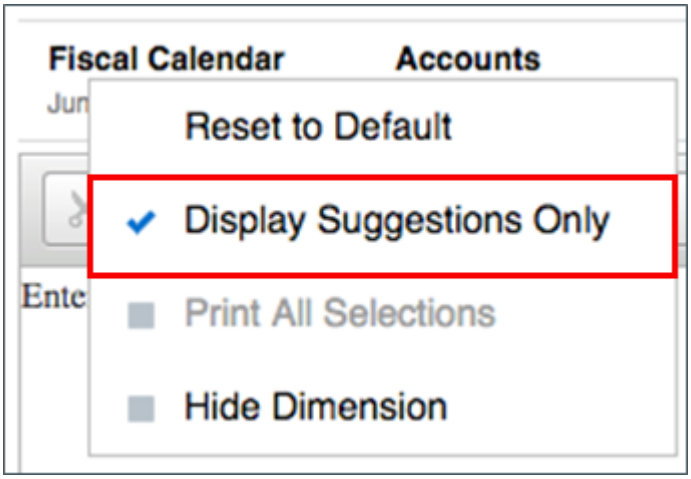


2. メンバー・セレクタで、メンバー名の横にあるチェック・マークをクリックして、ディメンションのメンバーを 1 つ以上選択します。個々のメンバーを選択するか、リストまたはメンバー選択関数を使用して複数のメンバーを選択できます。

> **ⓘ ノート**
>
> ディメンションの選択を定義しなかった場合は、**「デフォルト」**が表示され、レポート参照者は、そのディメンションについて自分にアクセス権があるメンバーを選択できます。

3. ディメンションの「視点」オプションを設定するには、POV ディメンションの横にある をクリックし、次のいずれかを選択します。
   - **デフォルトにリセット** - ディメンションの選択を**「デフォルト」**にリセットします。
   - **ディメンションの非表示** - プレビュー・モードでディメンションを非表示にします。これは、ディメンションの複数選択が定義されていない場合にのみ使用可能になります。
   - **提案のみ表示** - レポート参照者が選択できるのメンバーを POV に指定されているメンバーのみに制限します。参照者は、このディメンションに他のメンバーを選択できません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



- **すべての選択の印刷** - PDF に印刷する際、複数メンバーのディメンションの各メンバーを独立したページにレンダリングします。

4. すべてのディメンションを**「デフォルト」**にリセットするには、POV バーの右端にある をクリックし、**「すべてデフォルトにリセット」**を選択します。

> ⓘ **ノート**
>
> ノート・テンプレートでは、レポートのグローバル POV が利用されます。
>
> ノート・テンプレートに固有のローカル POV は現在使用できません。

*ノート・テンプレートの作成*を続行するには、ノート・テンプレートの保存を参照してください。

視点の操作

次も参照:

- 視点の概要

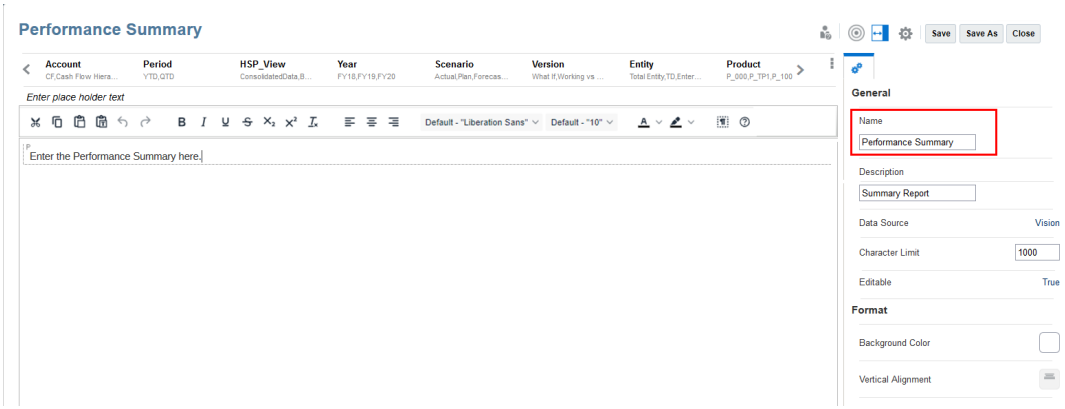
ノート・テンプレートの保存

ノート・テンプレート・エディタでは、レポートの保存、ノート・テンプレートのクローズ、または**「処理」**および**「編集」**メニューの選択による別のレポート・オブジェクトの編集といった処理を実行した場合、ノート・テンプレートが保存されます。この処理はノート・テンプレートの変更時に適用されます。

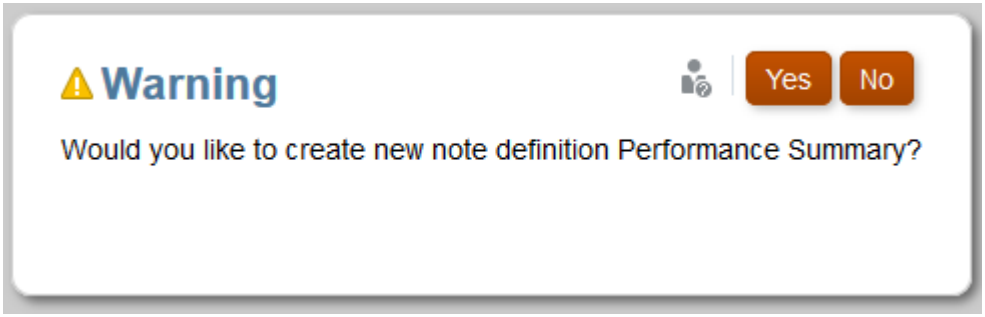
ノート・テンプレートを保存するには:

1. **ノート・テンプレート**・エディタで、希望の**「名前」**が指定されており、必須ディメンションがノート・テンプレートの**「ディメンション・レイアウト」**に存在することを確認する必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



2. **「保存」**をクリックして、レポートおよびノート・テンプレートを保存します。
3. **「警告」**ダイアログ・ボックスで、新規ノート・テンプレートの作成を確認するよう促されるか、ノートが変更されている場合は、**「はい」**をクリックします。



> **ⓘ ノート**
>
> ノート・テンプレートはレポートから除去できますが、レポート間で共有可能であるため、ノート・テンプレートは削除されません。ノート・テンプレートはノート・マネージャから削除できます。

> **ⓘ ノート**
>
> ノート・テンプレートを作成して保存すると、ノート・テンプレート名は変更できなくなります。
>
> ノート・テンプレート POV のディメンションを設定し、テンプレートからノートが作成された後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。
>
> 選択した実行時グリッド幅に基づいて、ノート・テンプレートの幅を自動的にサイズ設定するには、テキスト・ボックスの書式設定を参照してください

ノートのインライン・グリッド・エントリの設定

この項では、ノートのインライン・グリッド・エントリを操作する方法について説明します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポート・デザイナを使用して、ノート列セグメントまたはノート行セグメントをグリッドに挿入し、ノート・セグメントに関連付けるノート・テンプレートを選択できます。ノート・セグメントの列または行のプロパティを設定し、ノート・セグメントが挿入されている軸のディメンションごとに、セグメント・ヘッダーおよびメンバー選択を設定します。

> **Note**
>
> - ノート・セグメントは、データ・セグメントにのみ関連付けることができ、ノート・セグメントを式セグメントに関連付けることはできません。
> - ノート行またはノート列セグメントに**「ノート」**を入力するとき、「ノート」エントリ・ボックスを使用すると、ノート内に入力されたテキストに異なるフォント書式を定義できます(たとえば、フォント・タイプとサイズ、太字、斜体、下線など)。ただし、グリッド・セルでは、ノート・セルの**セルの書式設定**プロパティで定義されている単一のフォント書式のみがサポートされるため、「ノート」エントリ・ボックスに入力した書式は、ノート行または列セグメントに表示されません。

ノート列セグメントまたはノート行セグメントを挿入するには:

Table 12-1　この表では、ノートのインライン・グリッド・エントリの設定に関係するステップを説明します

タスク	実行するサブタスク	詳細
ノート列またはノート行の挿入	グリッドで、**ノート列**または**ノート行**のいずれかのセグメントを挿入できます。	ノート列またはノート行の挿入
ノート行またはノート列のメンバーの選択	ノート・セグメントで、ディメンションごとにメンバーを選択できます。	ノート行またはノート列のメンバーの選択
ノート・エントリの許可プロパティの設定	ノート・セグメントで、**セルの書式設定**または**条件付き書式設定**で**「ノート入力の許可」**プロパティを設定することにより、ノート・エントリを制限または許可できます。	ノート・エントリの許可プロパティの設定
既存のノート・テンプレートの選択または新規ノート・テンプレートの作成	ノート行セグメントまたはノート列セグメントで、既存のノート・テンプレートを選択することも、新規ノート・テンプレートを作成することもできます。	既存のノート・テンプレートの選択または新規ノート・テンプレートの作成
インライン・グリッド・エントリのためのノート・テンプレートの管理	**ノート・テンプレート**にアクセスして、ノート・テンプレート保守を実行できます。	インライン・グリッド・エントリのためのノート・テンプレートの管理

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ノートのインライン・グリッド・エントリを設定する方法を学習します。

 -- ノートのインライン・グリッド・エントリの設定.

Narrative Reporting でノートのインライン・グリッド・エントリを設定する方法を学習します。レポート・デザイナを使用して、ノート列セグメントまたはノート行セグメントをグリッドに挿入し、ノート・セグメントに関連付けるノート・テンプレートを選択できます。これを使用

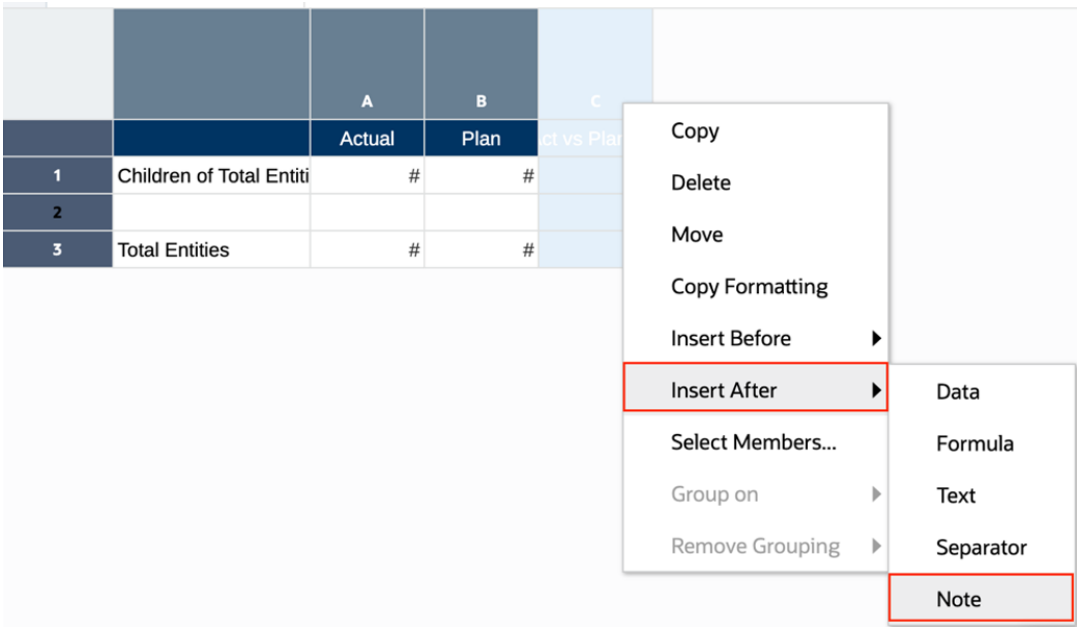
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

すると、ユーザーは、レポートを HTML で表示しているときにグリッド内の行または列セグメントにノートを挿入できます。

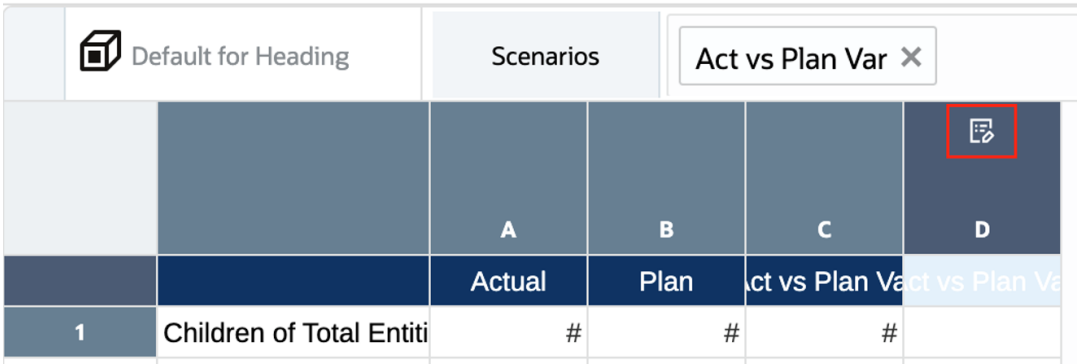
ノート列またはノート行の挿入

新しいノート列セグメントまたはノート行セグメントを挿入するには:

1. 既存のグリッドで、列または行のヘッダーを選択します。
2. 列または行のヘッダー・セルの横にある矢印を右クリックまたはクリックし、**「前に挿入」**または**「後に挿入」**を選択してから、**「ノート」**を選択します。



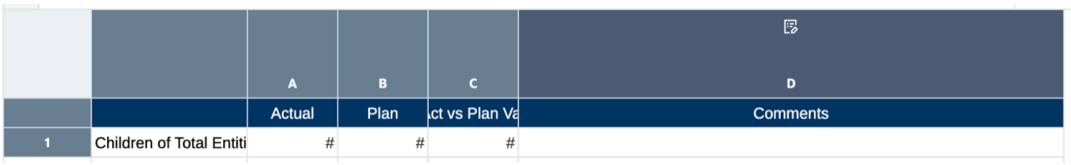
3. ノート・セグメントがグリッドに挿入されます。



- ノート・セグメントがデータ・セグメントの前後に挿入されると、ノート・セグメントの見出しおよびメンバー選択は、そのデータ・セグメントから継承されます。
- ノート・セグメントがテキスト・セグメントまたは式セグメントの前後に挿入されると、ノート・セグメントの見出しおよびメンバー選択は、各ディメンションの最上位親メンバーにデフォルト設定されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4. オプションで、ノート・セグメントの見出しや列または行の幅や高さの設定も変更できます。前述の例を使用すると、ノート列幅が増加され、**「固定」**に設定されています。ノート列ヘッダーは、算式バーを介して「コメント」のカスタム・ヘッダーに設定されています。



> **Note**
>
> - 同じグリッドに、**ノート列**と**ノート行**の両方のセグメントを挿入することはできません。同じグリッドには、**ノート列**または**ノート行**のいずれかのみを挿入できます。
> - ノート・セグメントをグループ化に含めることはできません。
> - ノート・セグメントで**ノート・エントリの許可**が適用されるのは、反対の軸のデータ・セグメントとの交差においてのみとなります。
>
> たとえば、ノート列とデータ行の交差です。式セグメントまたはテキスト・セグメントの交差では、ノート・エントリはサポートされません。

ノート行またはノート列のメンバーの選択

ノート列またはノート行では、同じ軸のディメンションごとにメンバーを選択し、ノートを関連付けるメンバー交差を定義する必要があります。たとえば、グリッド列軸に**シナリオ**、**年**および**期間**の 3 つのディメンションが存在する場合、ノート・セグメントのこれらのディメンションごとにメンバーを選択する必要があります。ノート・セグメントは、通常、別の列または行のデータ・セグメントの選択(**シナリオ**の差異など)に関連付けられています。

前の例を使用すると、この場合、ノートは**シナリオ**の差異を対象としているため、「コメント」のノート列 D には、隣接するデータ列の **Act vs Plan** Var メンバーと同じメンバー選択が含まれます。

> **Note**
>
> - ノート・セグメントは、データ・セグメントにのみ関連付けることができ、ノート・セグメントを式セグメントに関連付けることはできません。
> - ノート・セグメントのディメンションごとに複数のメンバーを選択できますが、入力するすべてのノートが作成され、複数のメンバーに関連付けられます。
>
> ベスト・プラクティスとして、ディメンションごとに 1 つのメンバーにのみ、ノート・セグメントを関連付けることをお薦めします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノート・セグメントのメンバーを選択するには:

1. **ノート**・セグメントが挿入された列軸または行軸のディメンションごとに、ディメンションのヘッダー・セルをクリックします。
2. メンバーを選択するには、**算式バー**に直接メンバー名を入力するか、またはメンバー・セレクタを使用して、**ノート**・セグメントのディメンションごとにメンバーを選択します。

   詳細は、次のトピックを参照してください。:

   - 算式バーを使用したメンバー選択の変更
   - 算式バーでのオートコンプリートの使用
   - データ行または列へのメンバーの割当

ノート・エントリの許可プロパティの設定

セルの書式設定または**条件付き書式設定**を使用すると、ノート・セグメント内の特定のセルについて、**「ノート入力の許可」**書式設定プロパティからノート・エントリを制限または許可できます。**「ノート入力の許可」**のデフォルト設定は**「いいえ」**です。

> **Note**
>
> このステップはオプションであり、特定のノート・セルについてノート・エントリを制限する場合にのみ必要となります。

例:

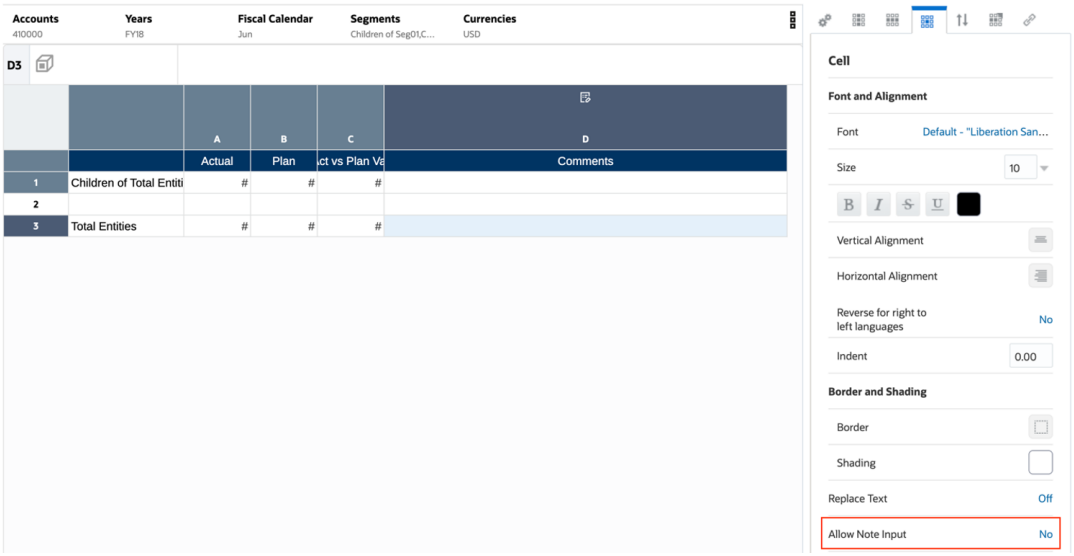
- ノート列セグメントでは、ユーザーが合計行メンバーに差異コメントを入力しないようにする必要があります。

  セルの書式設定を使用すると、合計行メンバーとノート列の交差に対するノート・エントリを無効にできます。
- **差異パーセント**のメンバー選択に関連付けられているノート列セグメントでは、**条件付き書式設定**を使用して、**差異パーセント**が **10%**を超えるか**-10%**未満の行でのみノート・エントリを有効にできます。

セルの書式設定で**ノート・エントリの許可**プロパティを設定し、ノート・エントリで特定のノート・セルを無効にするには:

1. ノート列またはノート行で、1 つ以上のセルを選択します。
2. グリッド・プロパティで、 をクリックします。
3. セルのプロパティで、**「ノート入力の許可」**を**「いいえ」**に設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. HTML でレポートをプレビューする場合、以前選択したノート・セルには、「編集」アイコン が表示されません。

	Actual	Plan	Variance	Comments
North America	7,228,875	7,321,459	(92,584)	
Latin America	893,456	882,051	11,406	
EMEA	5,929,302	5,948,660	(19,358)	
APAC	2,193,029	2,163,463	29,566	
Total Entities	16,244,663	16,315,633	(70,970)	

詳細は、グリッド・セルの書式設定を参照してください。

条件付き書式設定で**ノート・エントリの許可**プロパティを設定し、特定のノート・セルでノート・エントリを有効または無効にするには:

1. ノート列またはノート行で、1 つ以上のセルを選択します。
2. グリッド・プロパティで、 をクリックします。
3. 「書式/テキスト」をクリックしてから、 をクリックします。
4. **「名前」**フィールドで、条件付き書式のわかりやすい名前を入力します。名前はグリッドで一意である必要があります。

> **Note**
>
> - **「適用先」**フィールドには何も入力する必要はありません。**「適用先」**フィールドには、条件を作成した後に、ステップ 1 で指定したグリッドの領域がリストされます。
> - **「適用先」**フィールドの値を変更して、条件の適用先になるグリッドの領域を変更できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

5. 式ビルダーで**「属性」**をクリックし、テストする属性を選択します。

   たとえば、現在のセル値やメンバー名をテストできます。**「属性」**を選択すると、使用可能なパラメータが反映されて**修飾子**および**「演算子」**フィールドが変更されます。

6. 該当する場合は、**修飾子**を指定します。たとえば、タイプとして「メンバー名」を選択した場合は、修飾子としてテストするメンバーの名前を入力します。

7. 演算子を選択します。

   - 数値条件(データ値)の場合は、数値演算子(次と等しい、次と等しくない、次より大きい、次より小さい、など)を使用します。
   - テキスト条件(例: メンバー名)の場合は、テキスト演算子(次で始まる、次で終わる、など)を使用します。

8. テストする条件となる**右側の修飾子**を選択または入力します。

   - 数値修飾子の場合は、デリミタおよびマイナス記号(-)を使用できます。その他のプリフィクスおよびサフィクスはすべて 無視されます。
   - テキスト修飾子(メンバー名など)の場合は、テストするテキスト文字列を手動で入力します。

   > **Note**
   >
   > メンバー・セレクタは式ビルダーで使用できません。

9. **オプション**: 追加の式条件行を挿入するには、 をクリックします。

   - **AND** または **OR** を使用して、条件を組み合せたり区別します。たとえば、**100** 以上 **AND 1000** 以下のデータ値をテストする条件を作成できます。
   - 式条件行を削除するには、 をクリックします。

10. 右パネルの**「書式」**タブで、必要に応じて、**「ノート入力の許可」**を**「いいえ」**または**「はい」**に設定します。

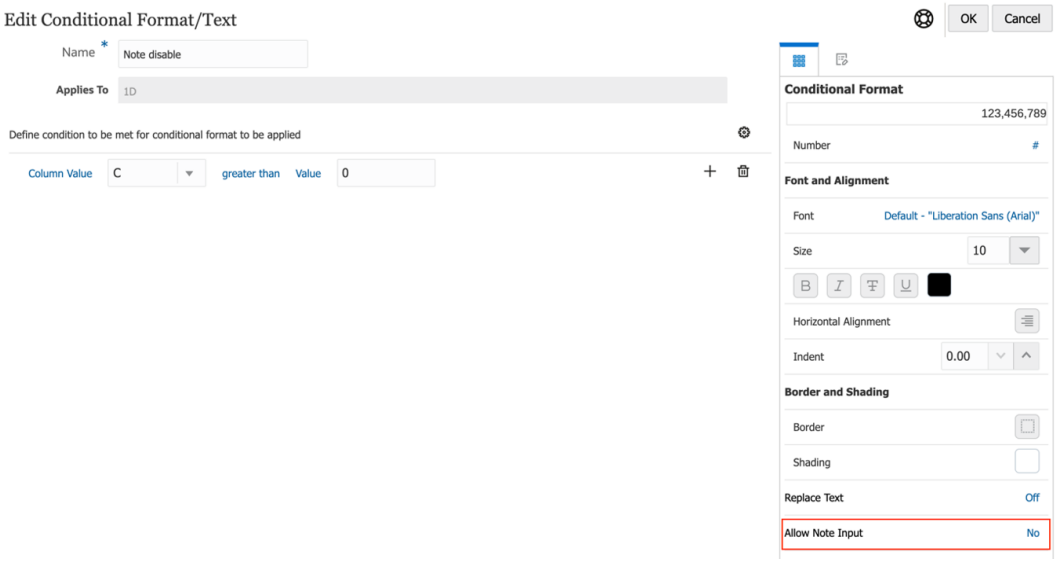
11. **「OK」**をクリックして、条件を保存します。**「条件付きプロパティ」**パネルに、条件が表示されます。

    例: ノート・セル **D1** を選択すると、このユース・ケースでは負の差異の場合にのみコメントが必要となるため、すべての正の差異についてノート・エントリを無効にする条件付き書式が作成されます。

		A	B	C	D
		Actual	Plan	ct vs Plan Va	Comments
1	Children of Total Entiti	#	#	#	
2					
3	Total Entities	#	#	#	

    条件により、列 C の差異金額がゼロを超え、かつ**「ノート入力の許可」**=**「いいえ」**であることがテストされます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



レポート・プレビューでは、負の差異行にのみ、**ノート**・エントリのアイコンが表示されます。

	Actual	Plan	Variance	Comments
North America	7,228,875	7,321,459	(92,584)	
Latin America	893,456	882,051	11,406	
EMEA	5,929,302	5,948,660	(19,358)	
APAC	2,193,029	2,163,463	29,566	

詳細は、条件の作成を参照してください。

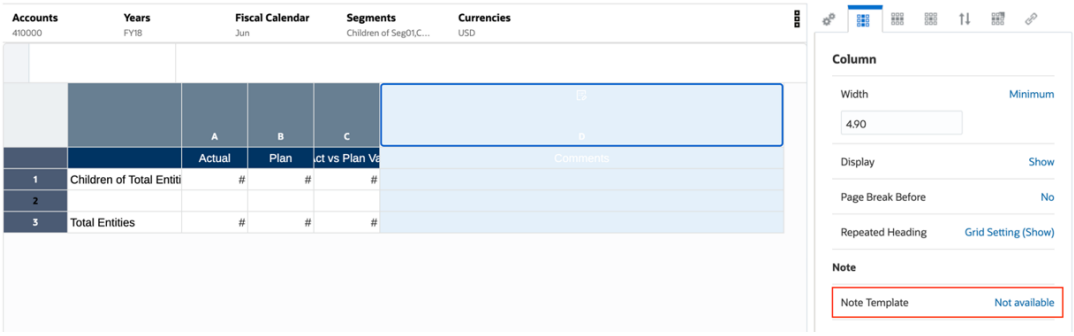
既存のノート・テンプレートの選択または新規ノート・テンプレートの作成

挿入されたノート列またはノート行には、ノート・テンプレートが関連付けられている必要があります。ノート列またはノート行のプロパティでノート・テンプレートを選択します。既存のノート・テンプレートを選択することも、新規ノート・テンプレートを作成することもできます。新規ノート・テンプレートを作成し、ノート列またはノート行のプロパティから直接、そのプロパティ、ディメンション・レイアウトおよびプレースホルダ・テキストを指定します。

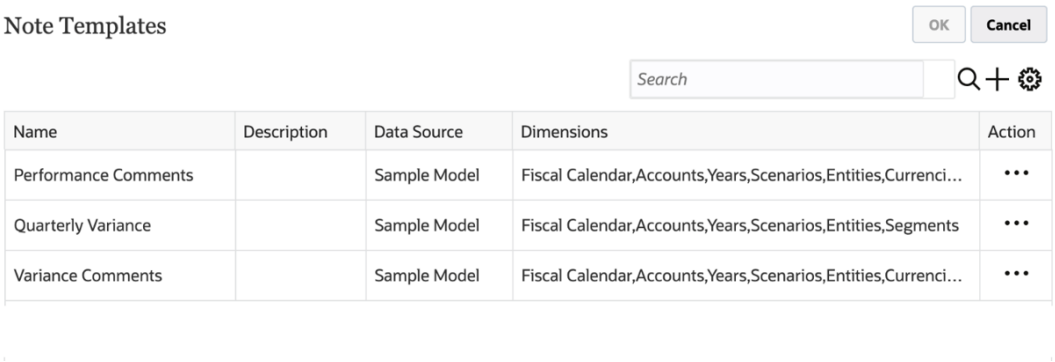
ノート・テンプレートを選択するには:

1. ノート列またはノート行を選択し、列または行のプロパティの または をクリックします。
2. **「ノート」**プロパティで、**「ノート・テンプレート」**を選択し、**「使用不可」**をクリックして**「ノート・テンプレート」**ウィンドウをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



3. **「ノート・テンプレート」**で、既存の**ノート・テンプレート**を選択するか、 をクリックして、新規ノート・テンプレートを作成します。



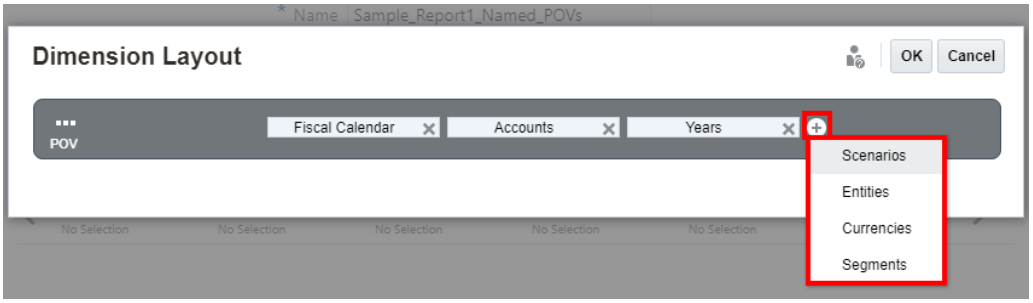
4. **「ノート・テンプレートの作成」**で、次のようにします。
   - ノート・テンプレートの「名前」および「説明」を入力します。
   - **オプション**: **「文字制限」**で、ノートの文字数上限を設定します。

> **Note**
>
> たとえば、ノート・テンプレートの文字制限が **1000** に設定されている場合、ノートを入力するユーザーは、制限を超えた追加文字の入力が制限されます。ノートが入力された後に「文字制限」オプションを設定した場合、制限は新規ノートにのみ適用されます。

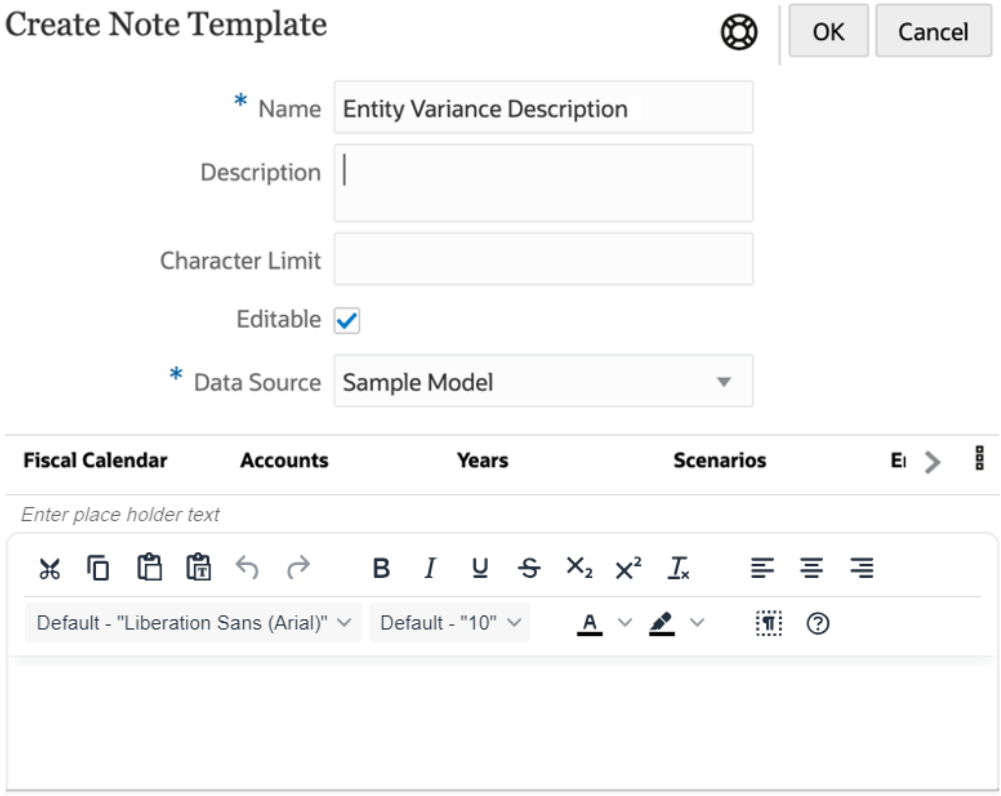
   - **「編集可能」**リンクを選択解除して、書式を読取り専用に変更できます。たとえば、この値が**「False」**に設定されている場合、ノート・テンプレートから作成されたすべてのノートが読取り専用書式になります。これにより、「編集」アイコン はノート・セルに表示されなくなります。
   - **「データ・ソース」**で、**ノート**の現在のデータ・ソースを変更できます。
   - 1 つ以上の POV ディメンションがノート・テンプレートおよびその関連ノートに含めるために必要でない場合、ディメンション・レイアウトによってノート・テンプレートからディメンションを除去できます。 をクリックして、ディメンション・レイア

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ウトを表示します。ディメンションをドラッグして並べ替えたり、視点からディメンションを除去または追加できます。



- レポートをプレビューするときにノート・セルに表示されるオプションの**プレースホルダ・テキスト**をノート・テンプレートに入力するには、**「ノート・テンプレートの作成」**の最下部のセクションに、必要なプレースホルダ・テキストを入力します。ツールバーのボタンを使用して、テキストを書式設定できます。
- **「OK」**をクリックして、**「ノート・テンプレートの作成」**をクローズします。



5. **「OK」**をクリックして、**「ノート・テンプレート」**をクローズします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **Note**
>
> - ノート・テンプレートを作成して保存すると、ノート・テンプレート名は変更できなくなります。
> - ノート・テンプレート POV のディメンションを設定し、テンプレートからノートが作成された後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。
> - ノート・テンプレートでは、レポートから入力されたすべてのノートに使用可能な元の POV ディメンションが指定されます。

インライン・グリッド・エントリのためのノート・テンプレートの管理

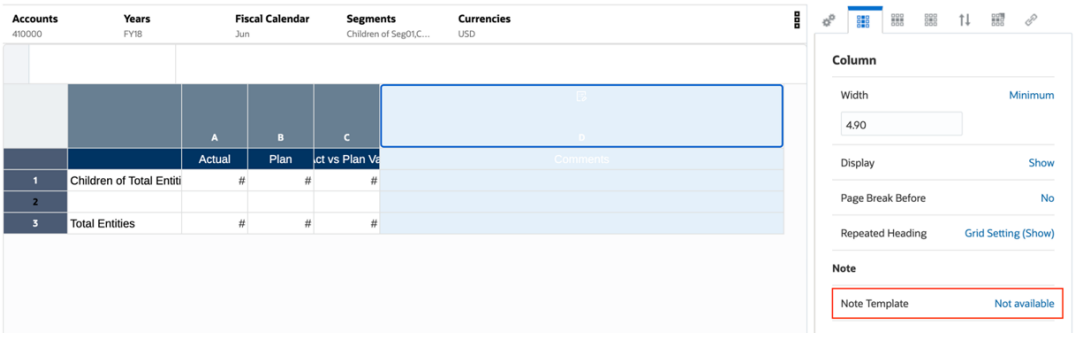
ノート・マネージャを使用して、**ノート・テンプレート**および**ノート**に対する管理機能を表示および実行できます。

詳細は、「ノート・マネージャの概要」を参照してください。

ノート・テンプレートには、ノート行またはノート列のプロパティからアクセスでき、一部の高レベルのノート・テンプレート保守を実行できます。

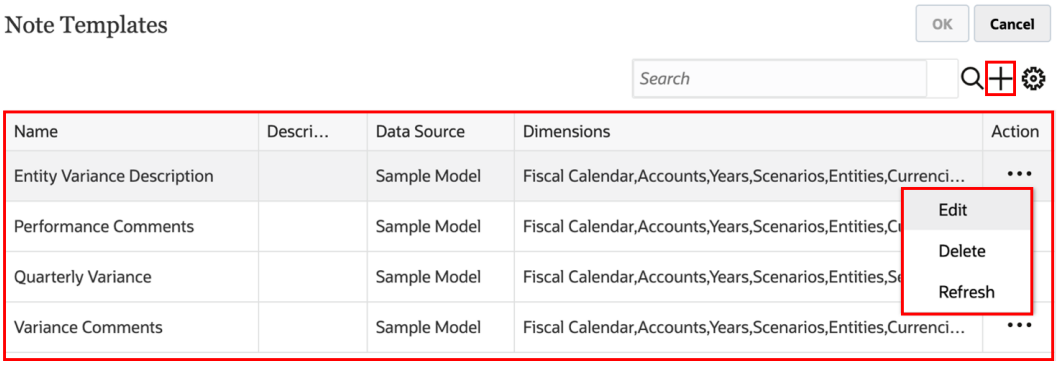
ノート・テンプレートにアクセスして**ノート・テンプレート**保守を実行するには:

1. ノート列またはノート行を選択し、列または行のプロパティの または をクリックします。
2. **「ノート」**プロパティで、**「ノート・テンプレート」**を選択し、**「使用不可」**をクリックして**「ノート・テンプレート」**ウィンドウをオープンします。



3. **「ノート・テンプレート」**で、次のことが可能です。
   - ノート・テンプレートの詳細(**「名前」**、**「説明」**、**「データ・ソース」**および**「ディメンション」**)を**表示**します
   - 新規ノート・テンプレートを**作成**します
   - 選択したノート・テンプレートを**編集**します
   - 表示されたノート・テンプレート情報を**「リフレッシュ」**します
   - 選択したノート・テンプレートおよび関連ノートを**削除**します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノート・マネージャの使用

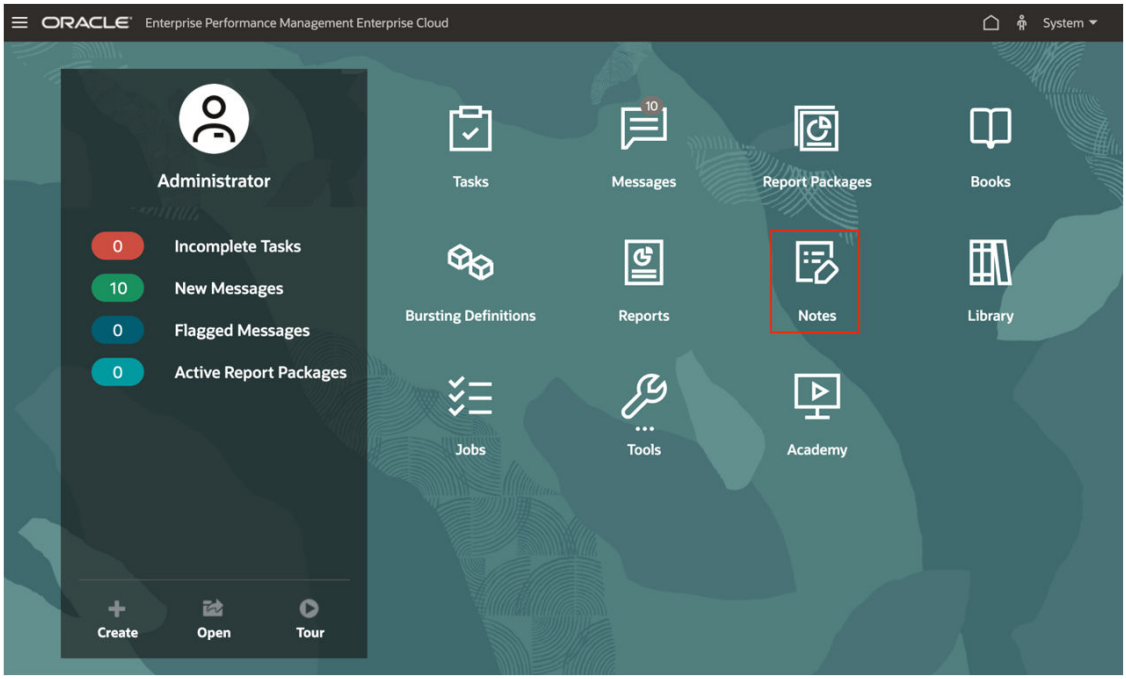
Related Topics

- ノート・マネージャの概要
  この項では、ノート・テキスト関数で使用されるノート・テンプレート、ノートおよびノート・フォーマットを作成、管理および使用する方法について説明します。

ノート・マネージャの概要

この項では、ノート・テキスト関数で使用されるノート・テンプレート、ノートおよびノート・フォーマットを作成、管理および使用する方法について説明します。

ノート・マネージャを使用して、ノート・テンプレートおよびノートに対する管理機能を表示および実行し、ノート・テキスト関数で使用するノート・フォーマットを作成および保守できます。



- **「ノート・テンプレート」**で、次のことが可能です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

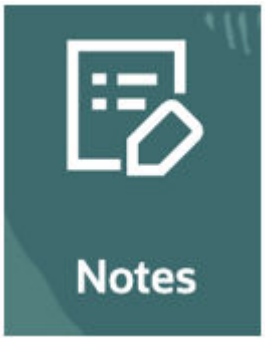
  - データ・ソース、ノート・テンプレートのノートが編集可能かどうか、合計使用(ノート・テンプレートの挿入先レポート数)、テンプレートに入力されたノートの数、作成されたユーザーおよび作成日などのノート・テンプレートに関する情報を表示します。
  - ノート・テンプレートが挿入された**「ソース・レポートの表示」**を実行します。その後、選択したレポートをオープンまたは編集できます。
  - 表示されたノート・テンプレート情報を**「リフレッシュ」**します
  - ノート・テンプレートがポイントする**「データ・ソースの変更」**を実行します。
  - ノート・テンプレートへの**「アクセス」**権限を設定します。
  - ノート・テンプレートを**編集**します
  - ノート・テンプレートのノートの**「編集可能」**を有効または無効にします
  - ノート・テンプレートおよび関連ノートを**「削除」**します
  - Narrative Reporting 環境間でノートを移動するために、ノート・テンプレートとその関連するノートを**エクスポート**します。
- **「ノート」**で、次のことが可能です。
  - ノート・テキストを**「表示」**、**「編集」**または**「クリア」**します
  - ノートへの**「アクセス」**権限を設定します。
  - ノートが挿入された**「ソース・レポートの表示」**を実行します。
  - ノートを**「削除」**します。
  - 指定した POV にノートを**コピー**します。
  - Narrative Reporting 環境間でノートを移動するために、ノートを**エクスポート**します。
- **「ノート・フォーマット・マネージャ」**で、次のことが可能です。
  - 新規ノート・フォーマットを**「作成」**します。
  - 既存のノート・フォーマットを**「編集」**します。
  - ノート・フォーマットを**「削除」**します。
  - Narrative Reporting 環境間でノート・フォーマットを移動するために、ノート・フォーマットを**エクスポート**します。

ノート・マネージャへのアクセス

ノートはすべて、ノート・マネージャで管理、表示および編集されます。

ノート・マネージャにアクセスするには:

1. **ノート・マネージャ**にアクセスするには、Narrative Reporting ホーム・ページで



をクリックします。

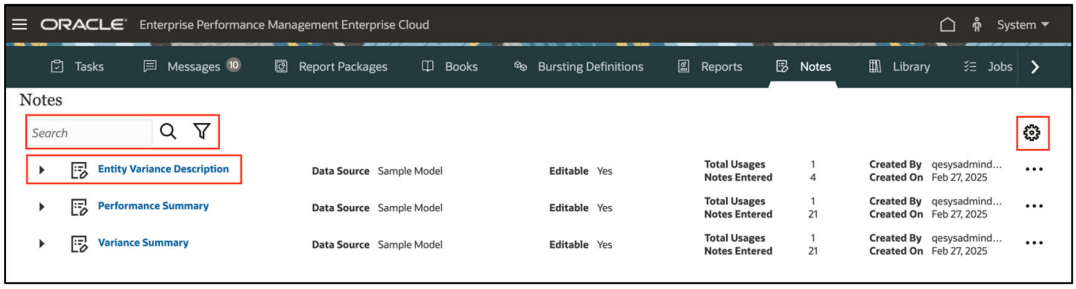
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. **ノート・テンプレート**・ウィンドウが表示されます。

ノート・マネージャのナビゲート

ノート・マネージャにナビゲートするには:

1. **「ノート・テンプレート」**ウィンドウでは、すべてのノート・テンプレートと、**「データ・ソース」**、ノート・テンプレートが**編集可能**かどうか、**「合計使用」**、**「ユーザー情報」**および**「ノート作成日」**などの情報を表示できます。



2. 次のようにして、ノート・テンプレート名で検索し、データ・ソース別にリストをフィルタ処理できます。
   - **「検索」**にノート・テンプレートを入力し、

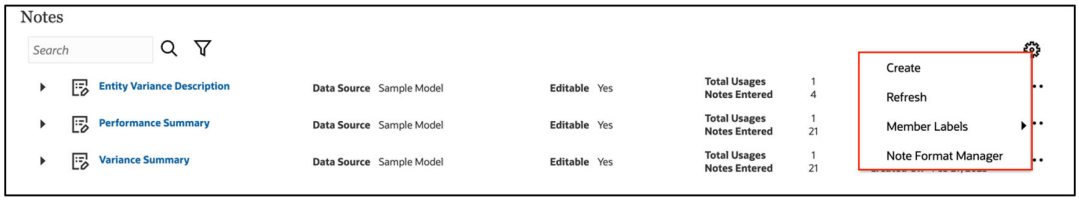
     をクリックします。
   - データ・ソース別にリストをフィルタ処理するには、検索の横にある

     を選択します。
3. **「処理」**

   メニューをクリックして、ビューの**「リフレッシュ」**、別名メンバー名または両方としての**「メンバー・ラベル」**の表示、**「ノート・フォーマット・マネージャ」**のオープンを実行できます。詳細は、ノート・フォーマット・マネージャへのアクセスを参照してください。

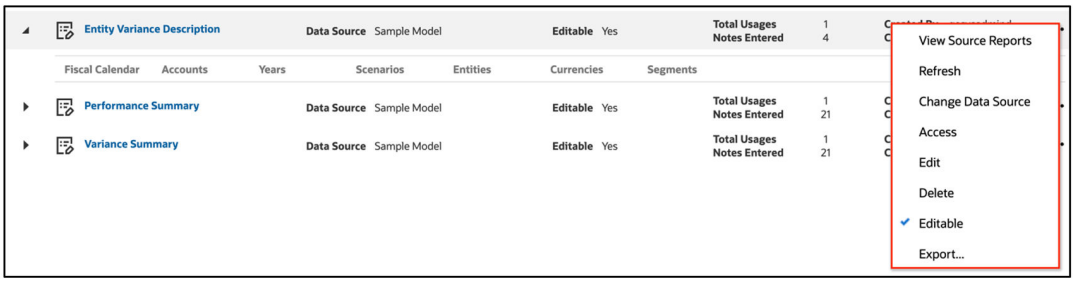


4. **ノート・テンプレート**の**「処理」**

   メニューをクリックするか、複数の**ノート・テンプレート**を選択し、**ノート・マネージャ**の「処理」メニューを選択して、使用可能な**ノート・テンプレート**の処理にアクセスできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

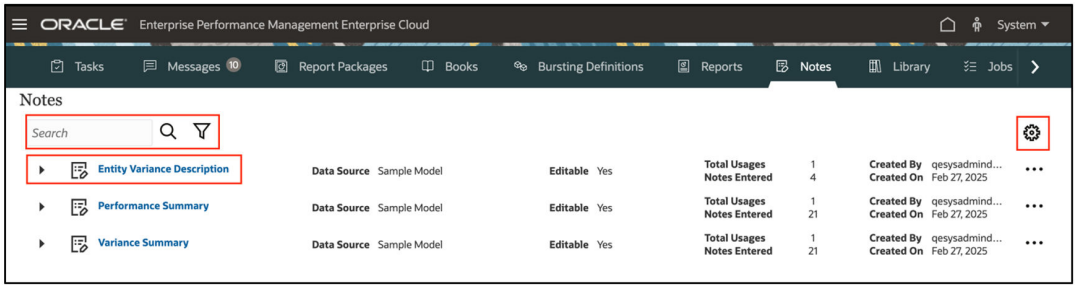


5. **ノート・テンプレート**名の横にある

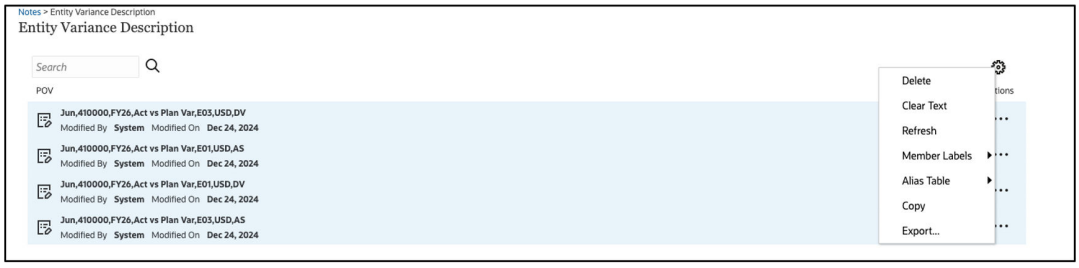


をクリックして、POV ディメンションを表示します。

6. **ノート・テンプレート**の**「ノート」**を表示してアクセスするには、**ノート・テンプレート**名をクリックして**ノート・ビューア**をオープンします。



7. **ノート・ビューア**で、ノートの**「処理」**メニューをクリックするか、複数の**「ノート」**を選択し、**「ノート」**の「処理」メニューを選択して、使用可能な**「ノート」**の処理にアクセスできます。.



8. **ノート・テンプレート**・ウィンドウに戻るには、**「ノート」**リスト上部のブレッドクラムをクリックします。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ノート・マネージャの操作

ノート・マネージャでは、次のタスクを実行できます。

ノート・テンプレートにおけるタスク	実行するサブタスク	詳細
ノート・テンプレートからのソース・レポートの表示	• ノート・テンプレートからのソース・レポートを表示します。 • その後、選択したレポートをオープンまたは編集できます。	ノート・テンプレートからのソース・レポートの表示
データ・ソースの変更	ノート・テンプレートをポイントしているデータ・ソースを変更できます。	ノート・テンプレートのデータ・ソースの変更
ノート・テンプレートへのアクセス権の付与	ノート・テンプレートへのアクセス権を付与できます。	ノート・テンプレートへのアクセス権の付与
ノート・テンプレートの編集	ノート・テンプレートを編集できます	ノート・テンプレートの編集
ノート・テンプレートの削除	ノート・テンプレートおよび関連付けられたノートを削除できます。	ノート・テンプレートの削除
環境間でのノート・アーティファクトの移行	ノート・マネージャを使用してノート・テンプレート、ノートおよびノート書式をある環境から別の環境に移行できるようになりました。	環境間でのノート・アーティファクトの移行

ノートにおけるタスク	実行するサブタスク	詳細
ノートからのソース・レポートの表示	• ノートからのソース・レポートを表示します。 • その後、選択したレポートをオープンまたは編集できます。	ノートからのソース・レポートの表示
ノートへのアクセス権の付与	ノートへのアクセス権を付与できます。	ノートへのアクセス権の付与
ノートの削除	ノートを削除できます。	ノートの削除
ノート・テキストの表示	ノート・テキストを表示できます。	ノート・テキストの表示と編集
ノート・テキストのクリア	ノート・テキストをクリアできます。	ノート・テキストのクリア
ノートのエクスポート	ノートをエクスポートできます。	ノートのエクスポート

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートでノート・テンプレートを作成および管理する方法を学習します。

 -- ノート・テンプレートの作成および管理.

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートでノートを使用する方法を学習します。

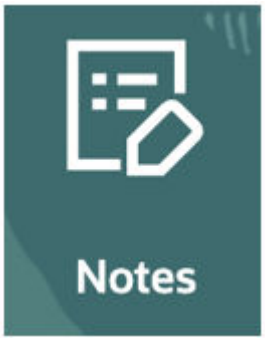
 -- レポートでのノートの作成.

ノート・テンプレートからのソース・レポートの表示

ノート・テンプレートからのソース・レポートを表示するには:

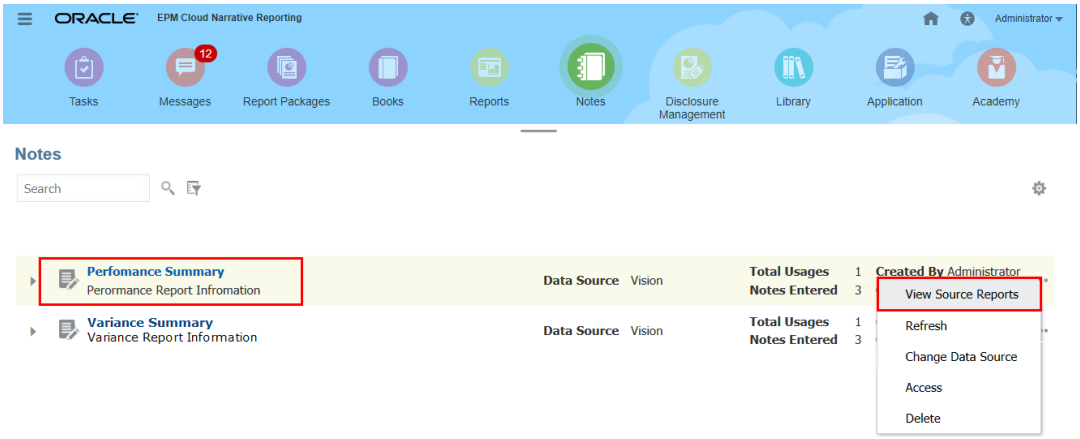
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、

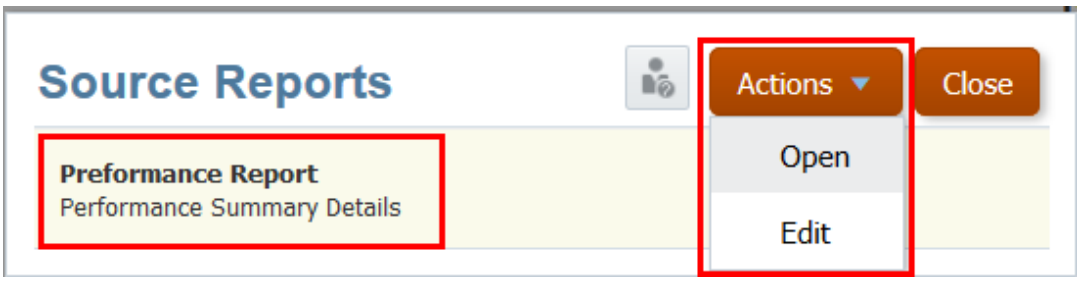


を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「ソース・レポートの表示」**を選択します。



3. ***オプション:*** **「ソース・レポート」**ダイアログで、**ノート・テンプレート**を選択し、**「処理」**を選択してから、**「編集」**をクリックします。
4. ***オプション:*** **「ソース・レポート」**ダイアログで、**ノート・テンプレート**を選択し、**「処理」**を選択してから、**「オープン」**をクリックします。

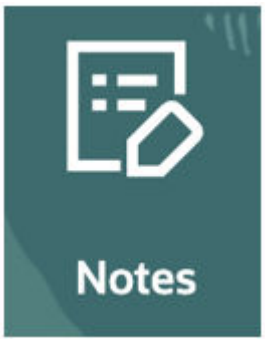


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ノート・テンプレートのデータ・ソースの変更

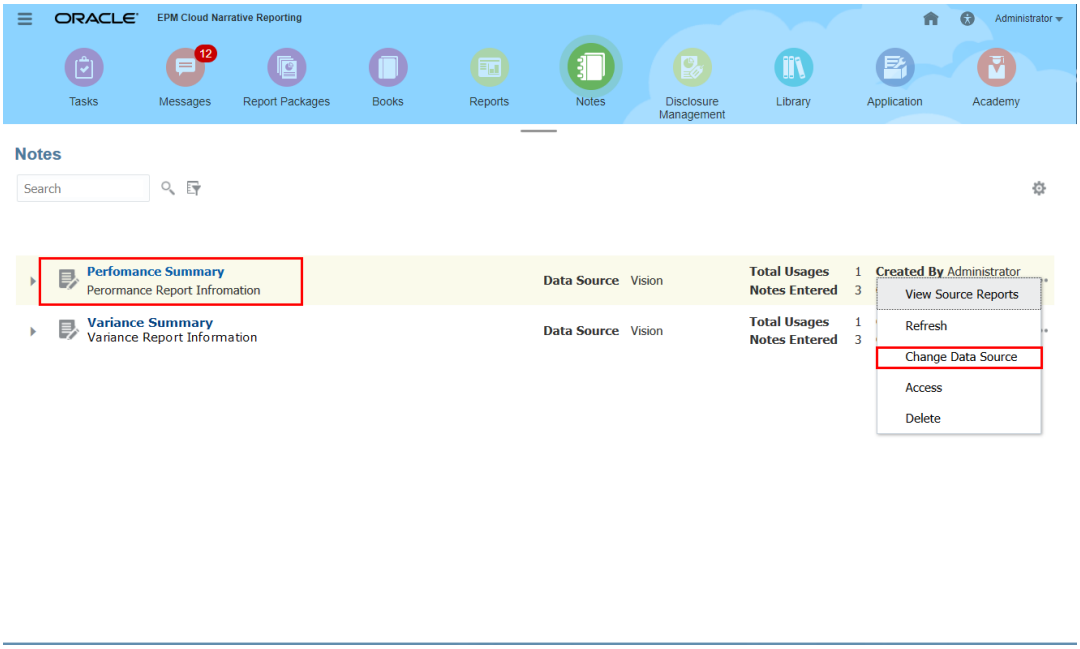
データ・ソースを変更するには:

1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



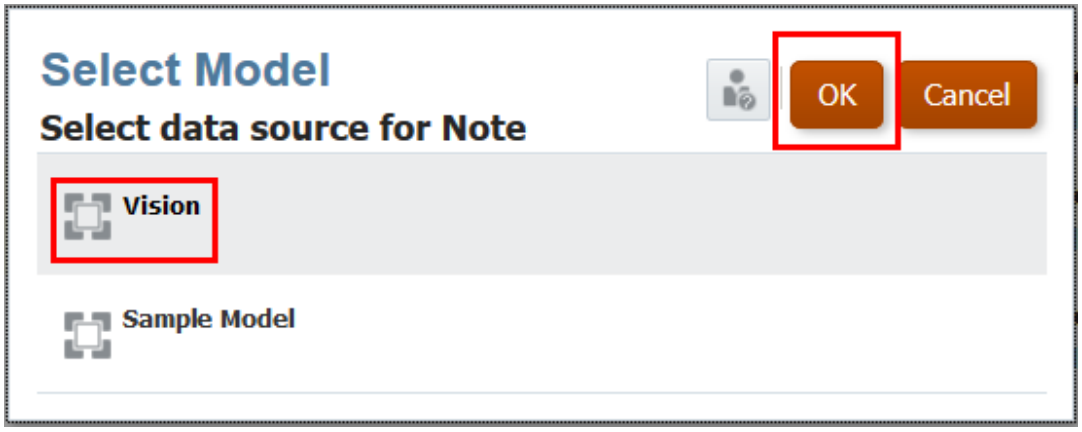
を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「データ・ソースの変更」**を選択します。



3. **「モデルの選択」**ダイアログでデータ・ソースを選択してから、**「OK」**をクリックします。

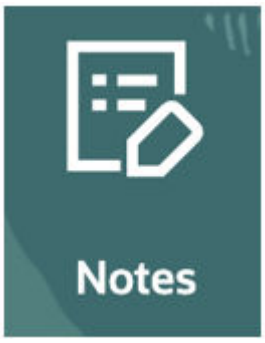
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノート・テンプレートへのアクセス権の付与

ノート・テンプレートへのアクセス権を付与するには:

1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



を選択します。

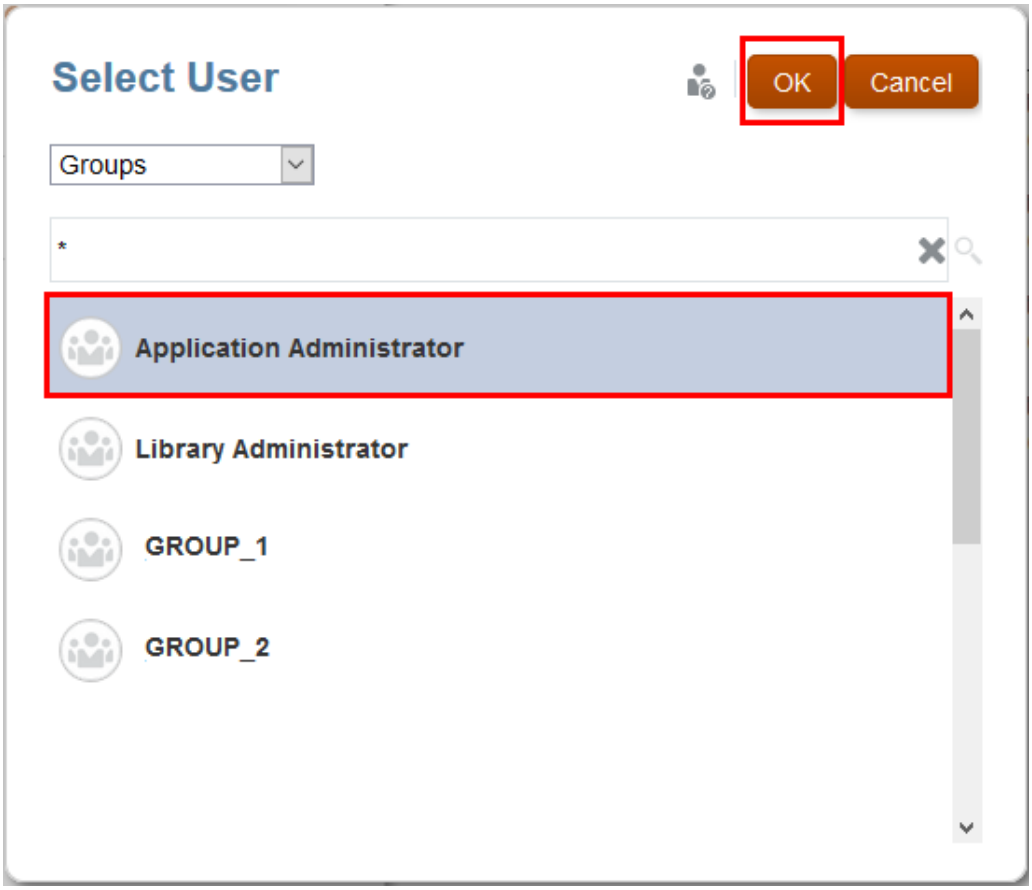
2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**を強調表示してから、 ⋯ をクリックして**「アクセス」**を選択します。
3. **ノート・テンプレート**・アクセス・ウィンドウで、



をクリックし、アクセス権を割り当てるユーザーを次のように選択します。

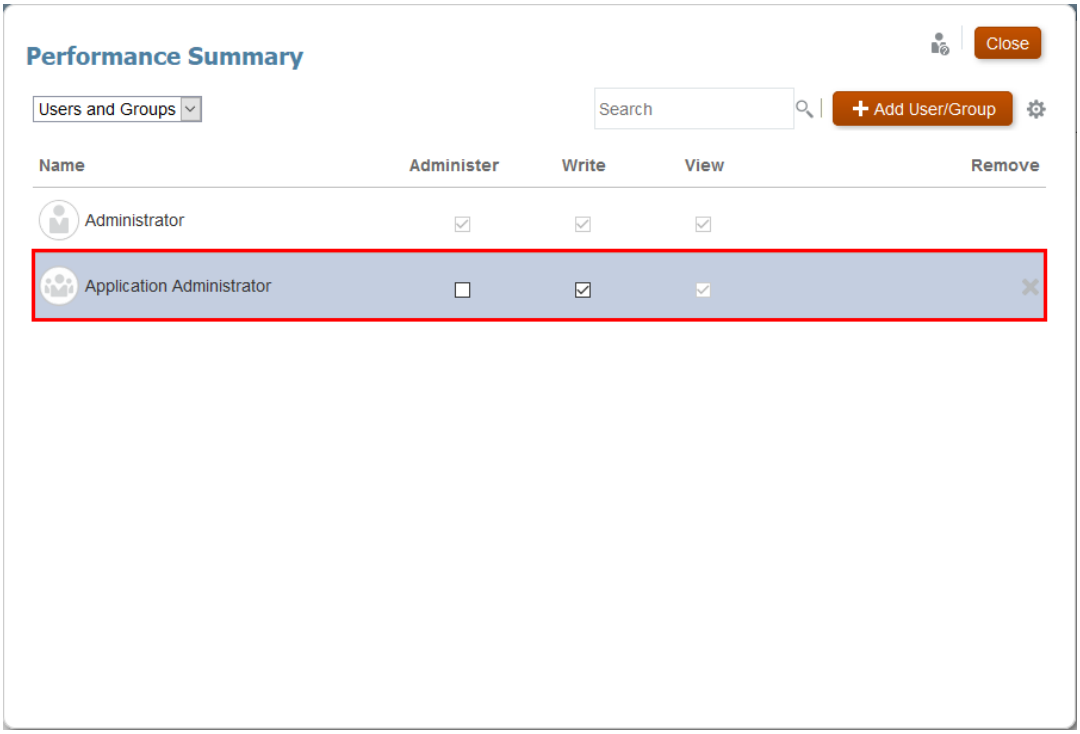
   a. ユーザー・タイプを選択します。
      - ユーザー
      - グループ
      - ユーザーおよびグループ
   b. **「ユーザーの選択」**ダイアログ・ボックスで、テキスト・ボックスにユーザー名の最初の数文字を入力し、「検索」 をクリックして名前のリストを表示します。すべてのユーザーとグループを表示するには、「検索」フィールドにワイルドカードとしてアスタリスク(*)を入力します。
   c. アクセス権を割り当てるユーザーとグループを選択し、**「OK」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. **ノート・テンプレート**・アクセス・ウィンドウで、適切な列のチェック・ボックスをクリックすることによって各ユーザーまたはグループにアクセスのレベルを 割り当てるか、ユーザーまたはグループの「処理」から**「権限の付与」**を選択します。
   - ノートを作成し、ノート・テンプレートおよびノートのユーザー割当を追加、表示、編集、削除するには、**「管理」**を選択します。
   - ノートを作成し、ノート・テンプレートを削除、更新、表示するには、**「書込み」**を選択します。すべてのノートがノート・テンプレートを使用して作成されます。
   - ノート・テンプレートおよびノートを表示するには、**「表示」**を選択します。
5. ***オプション:*** **「除去」**を選択すると、選択したユーザーまたはグループがリストから削除されます。名前をハイライトして**「X」**をクリックすると、名前および関連付けられている権限が削除されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

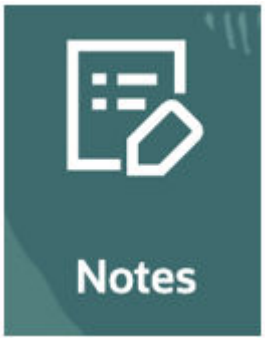


6. **「クローズ」**をクリックします。

ノート・テンプレートの削除

ノート・テンプレートを削除するには、これらのステップを実行します。

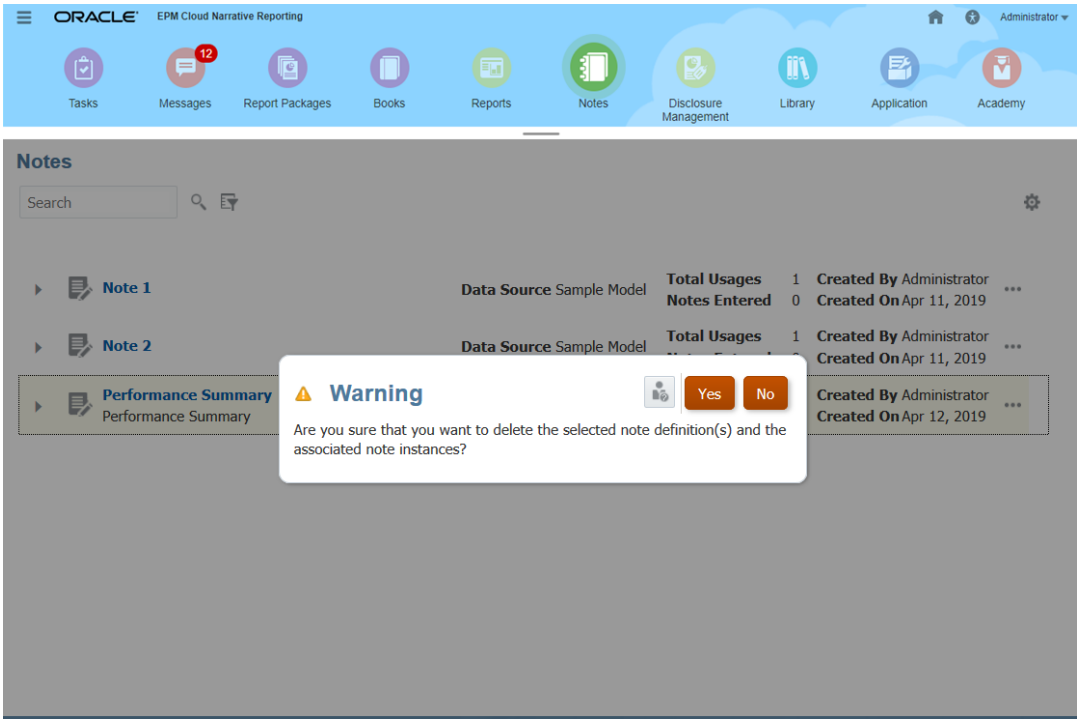
1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「削除」**を選択します。
3. **「警告」**ダイアログ・ボックスで、選択した**「ノート定義」**および関連付けられた**「ノート」**の削除を確認するよう促され、**「はい」**をクリックします。

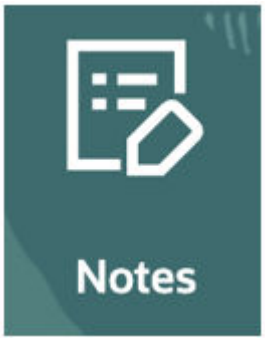
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノートからのソース・レポートの表示

ノートからのソース・レポートを表示するには:

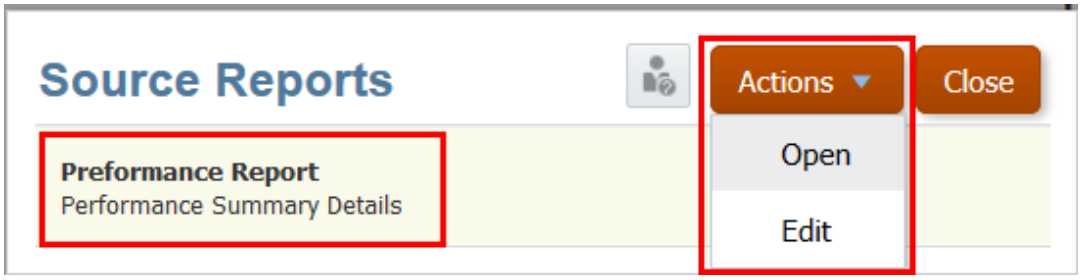
1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**をダブルクリックし、**「ノート」**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「ソース・レポートの表示」**を選択します。
3. ***オプション:*** 「ソース・レポート」ダイアログで、**ノート・テンプレート**を選択し、**「処理」**を選択してから、**「編集」**をクリックします。
4. ***オプション:*** 「ソース・レポート」ダイアログで、**ノート・テンプレート**を選択し、**「処理」**を選択してから、**「オープン」**をクリックします。

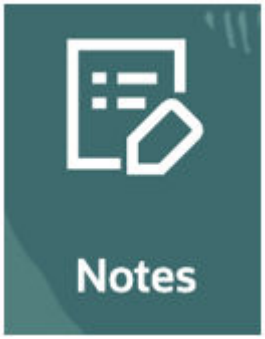
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノートへのアクセス権の付与

ノートへのアクセス権を付与するには:

1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



を選択します。

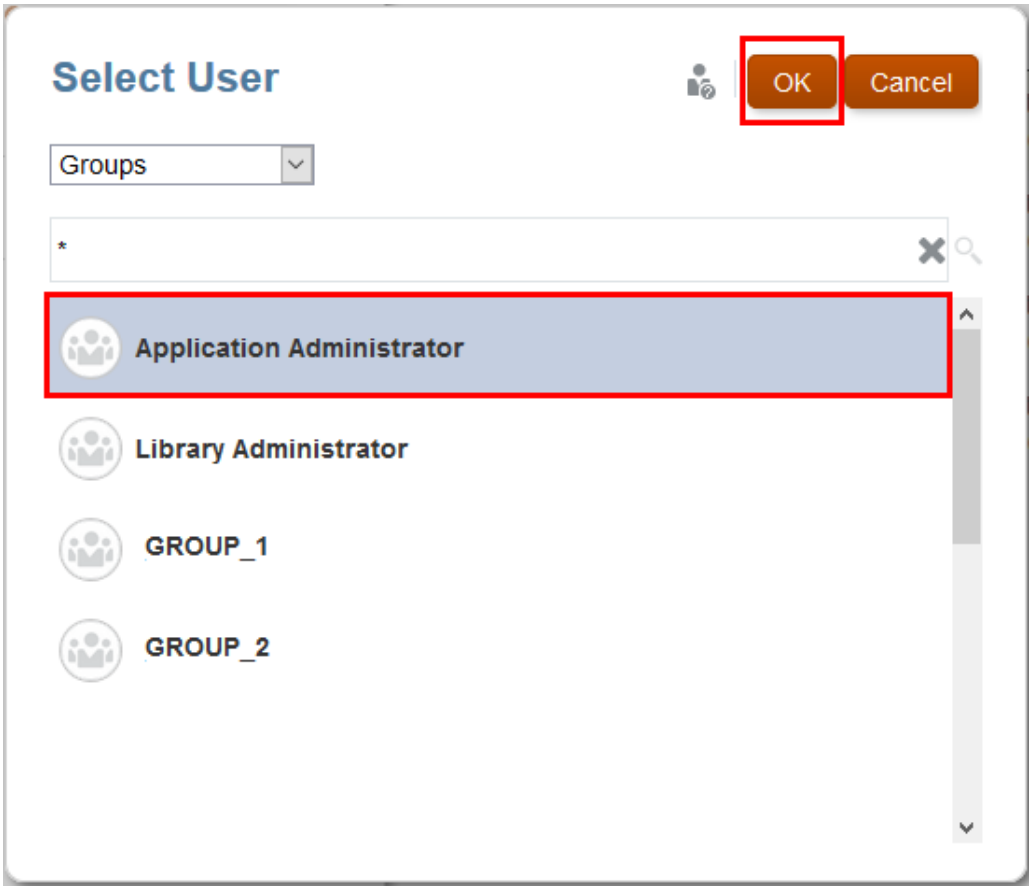
2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**をダブルクリックし、**「ノート」**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「アクセス」**を選択します。
3. **「ノート」**アクセス・ウィンドウで、



をクリックし、アクセス権を割り当てるユーザーを次のように選択します。

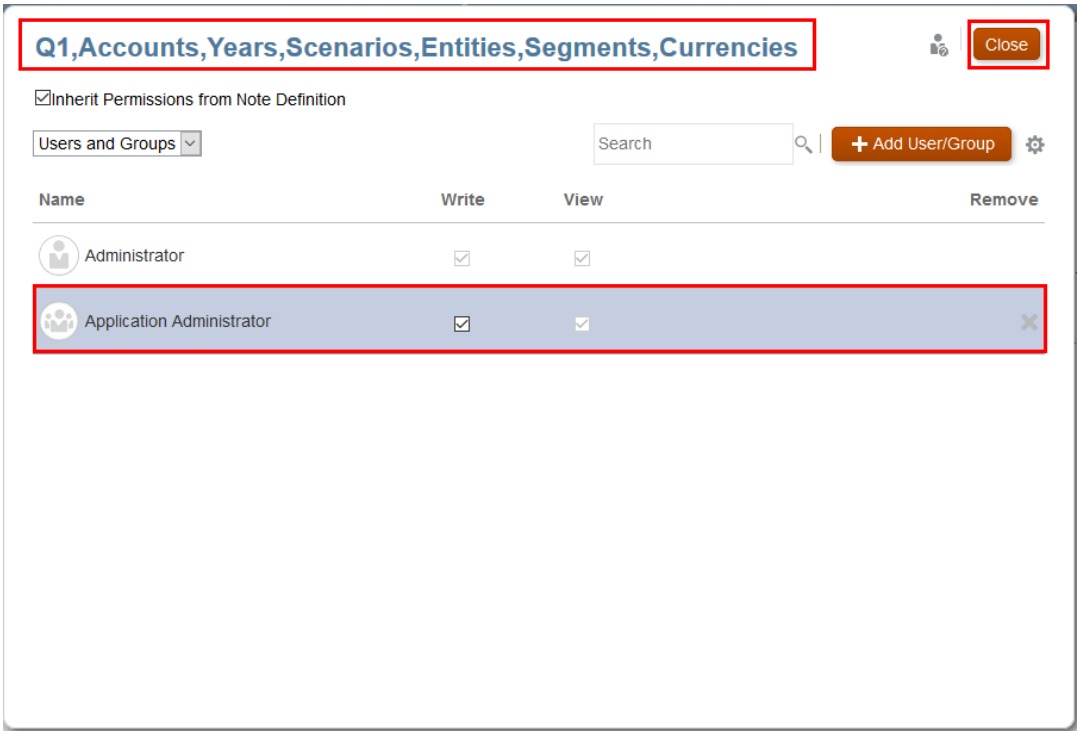
   a. ユーザー・タイプを選択します。
      - ユーザー
      - グループ
      - ユーザーおよびグループ
   b. **「ユーザーの選択」**ダイアログ・ボックスで、テキスト・ボックスにユーザー名の最初の数文字を入力し、「検索」 をクリックして名前のリストを表示します。すべてのユーザーとグループを表示するには、「検索」フィールドにワイルドカードとしてアスタリスク(*)を入力します。
   c. アクセス権を割り当てるユーザーとグループを選択し、**「OK」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. **「ノート」**アクセス・ウィンドウで、適切な列のチェック・ボックスをクリックすることによって各ユーザーまたはグループにアクセスのレベルを割り当てるか、ユーザーまたはグループの「処理」から**「権限の付与」**を選択します。
   - ノートを作成し、ノート・テンプレートを削除、更新、表示するには、**「書込み」**を選択します。すべてのノートがノート・テンプレートを使用して作成されます。
   - ノート・テンプレートおよびノートを表示するには、**「表示」**を選択します。
5. ***オプション:*** **「除去」**を選択すると、選択したユーザーまたはグループがリストから削除されます。名前をハイライトして**「X」**をクリックすると、名前および関連付けられている権限が削除されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

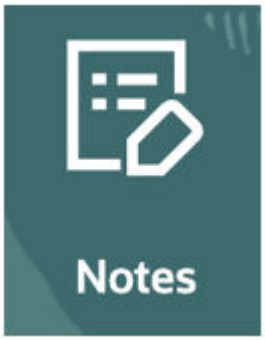


6. **「クローズ」**をクリックします。

ノート・テンプレートの編集

ノート・テンプレートを編集するには、次のステップを実行します。

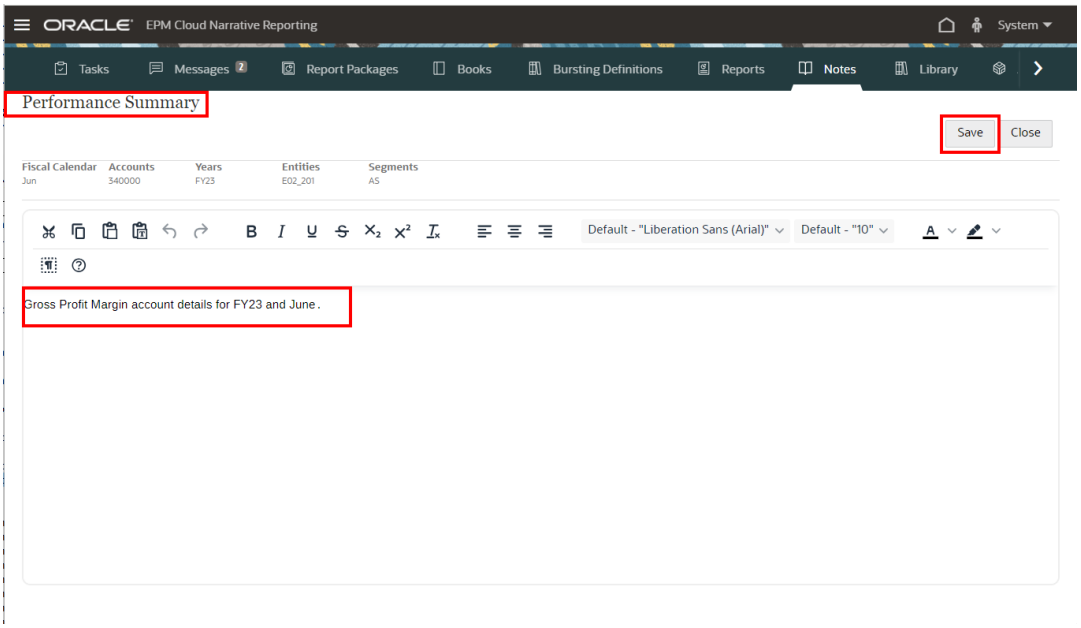
1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



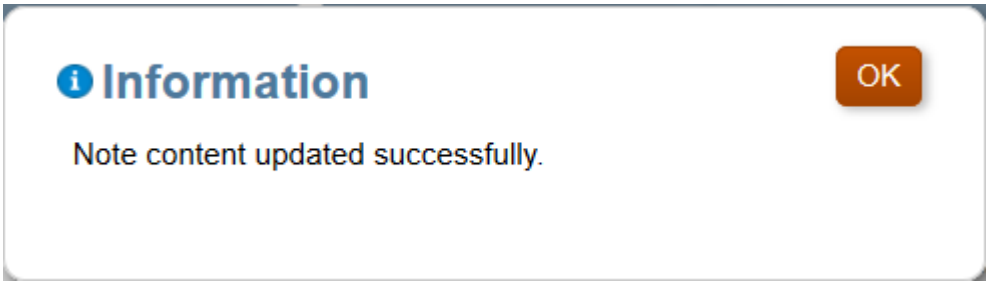
を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**をダブルクリックし、**「ノート」**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「テキストの編集」**を選択します。
3. **ノート・テンプレート**・エディタで、**「ノート」**テキストを表示でき、必要な**「ノート」**テキストを入力し、書式設定を適用してから、**「保存」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. **「情報」**ダイアログ・ボックスで、ノート・テンプレートが正常に更新された旨のメッセージが表示されるため、**「OK」**をクリックします。

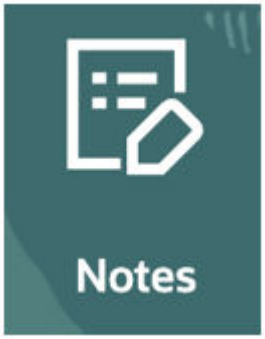


5. **「クローズ」**をクリックします。

ノートの削除

ノートを削除するには、これらのステップを実行します。

1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、

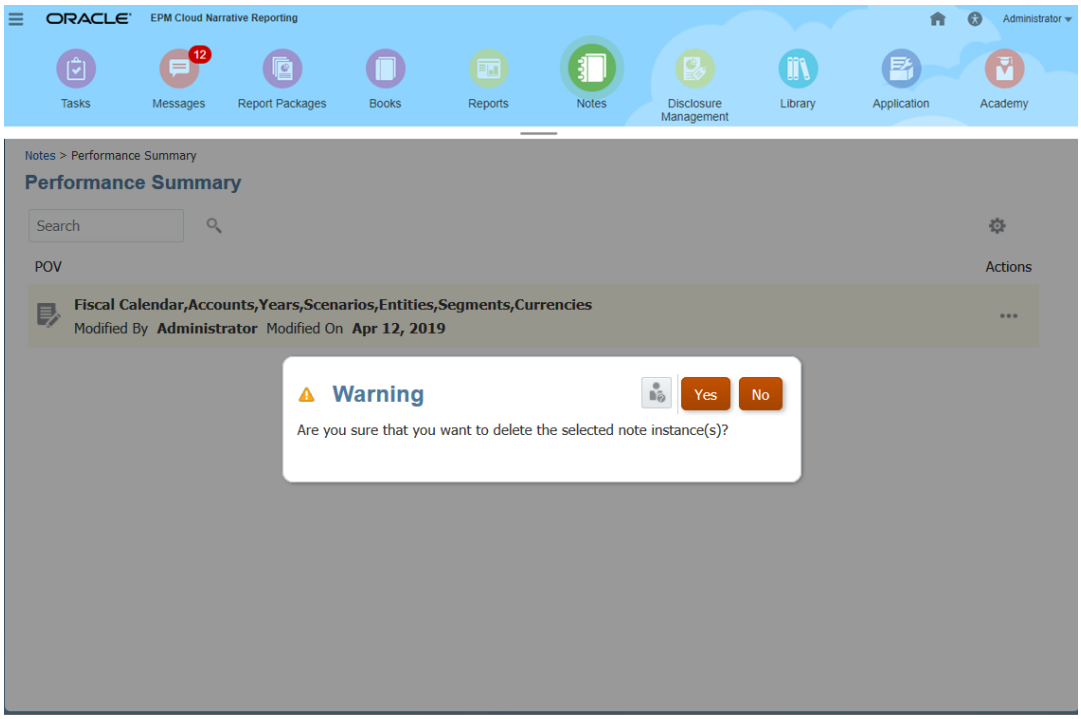


を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**をダブルクリックし、**「ノート」**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「削除」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

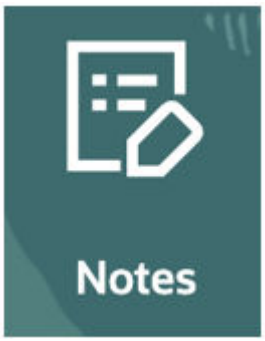
3. **「警告」**ダイアログ・ボックスで、選択したノートの削除を確認するよう促され、**「はい」**をクリックします。



ノート・テキストの表示と編集

ノート・テキストを表示および編集するには、これらのステップを実行します。

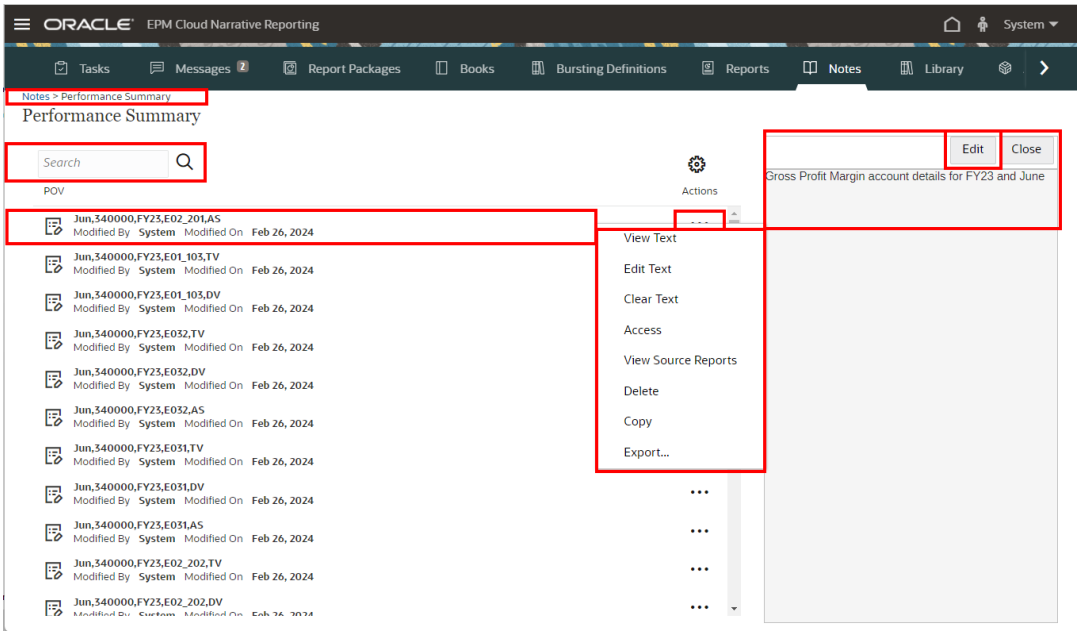
1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



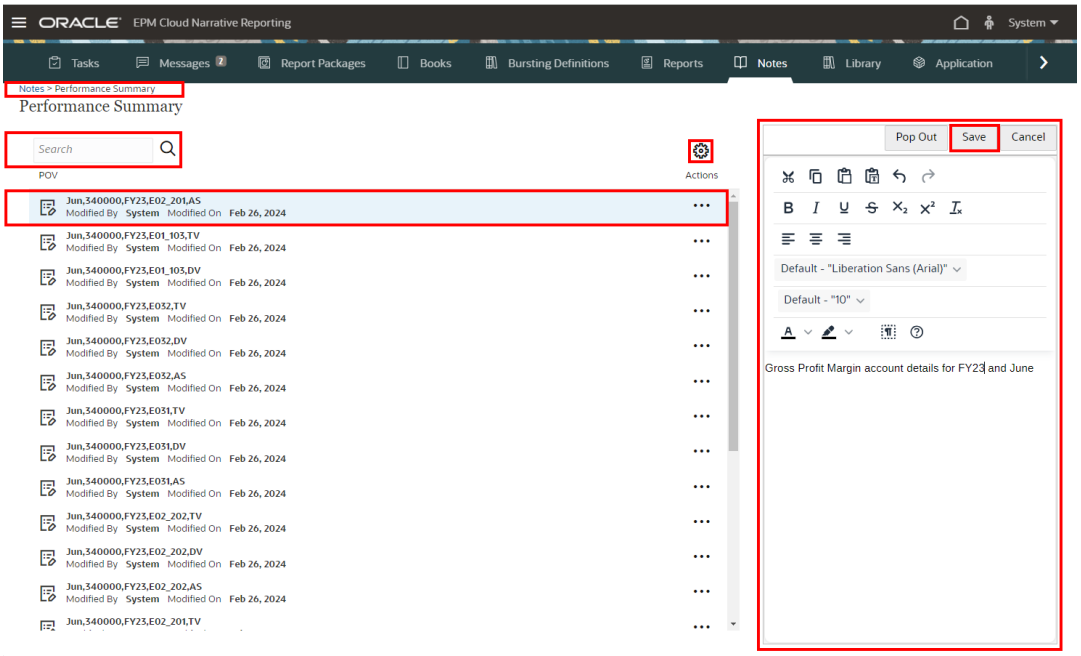
を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**をダブルクリックし、**「ノート」**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「テキストの表示」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

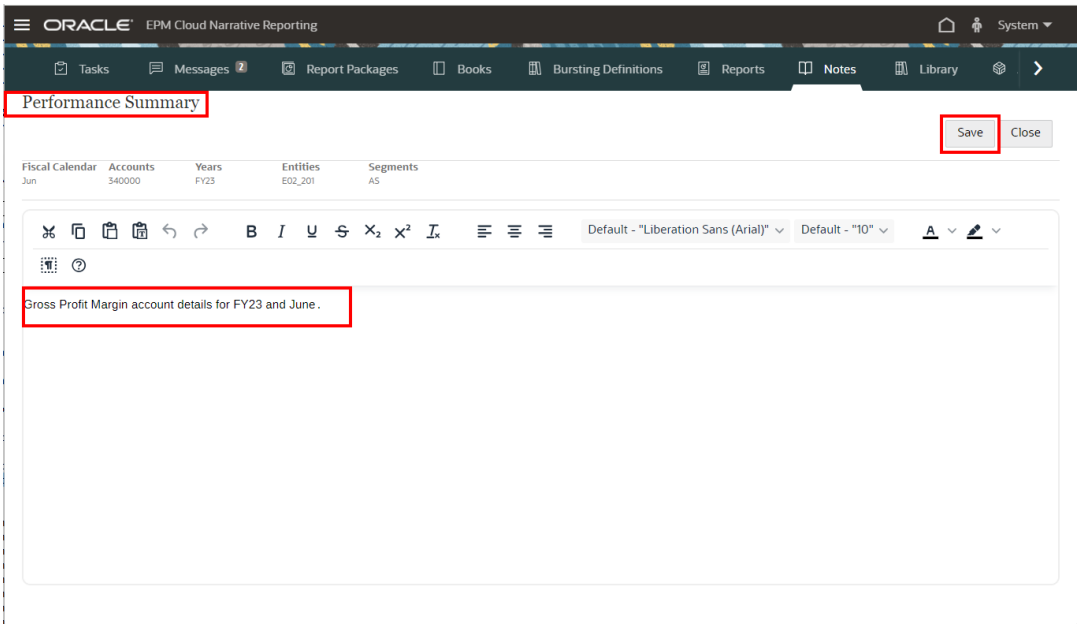


3. **「編集」**をクリックして**「ノート」**のテキストを変更し、書式設定を適用してから、**「保存」**をクリックします。



4. ***オプション*: ノート・テンプレート**エディタ・ウィンドウで**「ノート」**のテキストを表示するには、**「ポップ・アウト」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

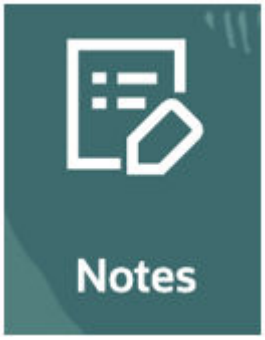


5. ***オプション*: ノート・テンプレート**・エディタで、**「ノート」**のテキストを編集してから**「保存」**をクリックできます。

ノート・テキストのクリア

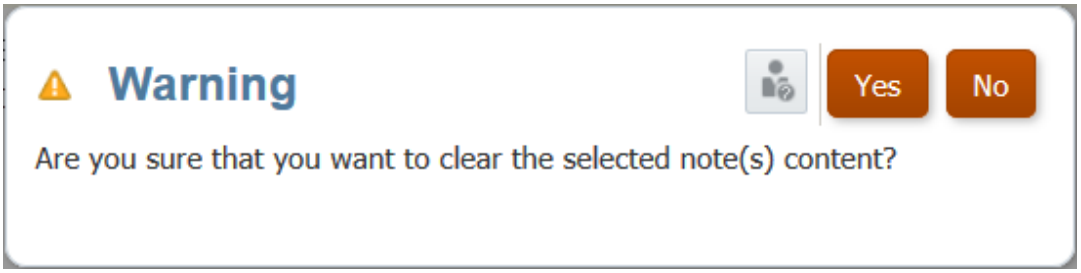
ノート・テキストをクリアするには、これらのステップを実行します。

1. Narrative Reporting にログインします。ホーム・ページで、



を選択します。

2. **ノート・マネージャ**で、**ノート・テンプレート**をダブルクリックし、**「ノート」**を強調表示してから、 ••• をクリックして**「テキストのクリア」**を選択します。
3. **「警告」**ダイアログ・ボックスで、選択した**「ノート」**のコンテンツをクリアするよう促され、**「はい」**をクリックします。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

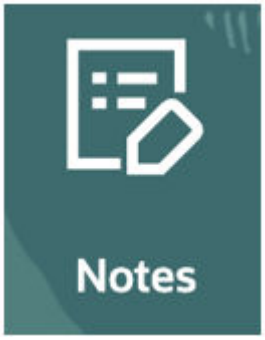
ノートのコピー

ノート・マネージャで、1 つ以上のノートを別の POV ディメンション選択にコピーできます。

たとえば、Q1 にすべての部門に作成したノートを Q2 にコピーし、Q2 でのノートの入力の開始点として使用できます。コピーしたノートの宛先 POV 選択を指定し、宛先 POV の各ディメンションに 1 つ以上のメンバー、代替変数、ユーザー変数、リストおよびメンバー関数を選択できます。

1 つ以上のノートをコピーするには、これらのステップを実行します。

1. Narrative Reporting ホーム・ページから、

   を選択します
2. **ノート・マネージャ**で、**「ノート・テンプレート」**を選択してノートをコピーします。
3. 次のいずれか:
   - 単一の**「ノート」**を選択してから ··· をクリックし、**「コピー」**を選択します。
   - 複数の「ノート」を選択してから ⚙ をクリックし、**「コピー」**を選択します。
4. **「ノートのコピー」**ダイアログで、**「ソース POV」**がコピーする正しいノートを反映していることを確認します。
5. **「ターゲット POV」**で、目的の POV ディメンションをクリックして**「メンバー・セレクタ」**ダイアログをオープンし、ターゲット POV を定義します。1 つ以上のメンバー、**「代替変数」**、**「ユーザー変数」**、**「リスト」**およびメンバー関数を選択します。**「OK」**をクリックして、**「ソース POV」**から**「ターゲット POV」**にノートをコピーします。

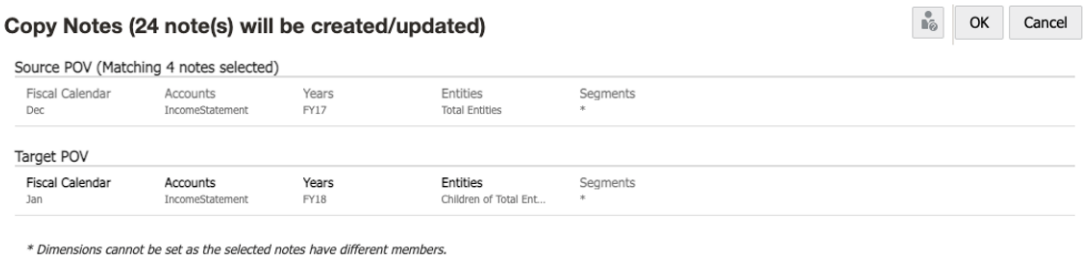
   > ⓘ **ノート**
   >
   > 選択したノートに既存のターゲット POV がすでにある場合、**「スキップ」**または**「上書き」**のいずれかを選択できます。
   > - **「スキップ」**を選択した場合、競合するノートは無視されます。
   > - **「上書き」**を選択した場合、既存のノートは最新に置換されます。
6. **「OK」**をクリックして続行します。

次の例で、選択したノートは選択したソース POV からターゲット POV にコピーされます。残りのディメンション POV は固定されたままです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 12-2 ソース P O V およびターゲット POV

ディメンション	ソース POV	ターゲット POV
Fiscal Calendar	Dec	1 月
年	FY17	FY18
Entities	合計エンティティ	合計エンティティの子(包含)



環境間でのノート・アーティファクトの移行

ノート・マネージャを使用してノート・テンプレート、ノートおよびノート書式をある環境から別の環境に移行できます。1 つ以上のノート・テンプレートをエクスポートでき、必要に応じて、そのテンプレートから作成されたノートを含めるように選択できます。エクスポートする 1 つ以上のノートを選択することもでき、選択したノートとともに関連するノート・テンプレートもエクスポートされます。ノート書式は、ノート・フォーマット・マネージャからエクスポートされます。

関連トピック:

- ノート・テンプレートのエクスポート
- ノートのエクスポート
- ノート書式のエクスポート
- ノートのインポート

ノート・テンプレートのエクスポート

1 つ以上のノート・テンプレートを ZIP ファイルにエクスポートするには:

1. Narrative Reporting のホーム・ページから、**「ノート」**を選択して**ノート・マネージャ**をオープンします。
2. 次のいずれかを実行します。
   - 単一の**「ノート・テンプレート」**を選択してから**「処理」**アイコンをクリックし、**「エクスポート」**を選択します。
   - 複数の**「ノート・テンプレート」**を選択してから**歯車**アイコンをクリックし、**「エクスポート」**を選択します。
3. エクスポート・ファイルの宛先フォルダを選択します。
4. 必要に応じて、**「ノート・テンプレート」**に関連するすべての**「ノート」**を含めるには、**「ノートを含める」**オプションを選択します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

5. **「OK」**をクリックします。

   エクスポート・プロセスは、バックグラウンドで実行されます。エクスポートが完了したら、「メッセージ」をチェックして通知を確認します。

   > **Note**
   >
   > エクスポート後に**「マイ・ライブラリ」**フォルダに生成される"Export Process Status <date/time>.txt"ファイルに、各**「ノート・テンプレート」**および**「ノート」**のエクスポートのステータスがリストされます。

   例:

   管理が開始したエクスポート・プロセスが Jun 11, 2021 9:13:37 AM に開始して Jun 11, 2021 9:13:38 AM に完了しました。

   詳細は次のとおりです。

   タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,TV が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,DV が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,AS が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート・テンプレート」のアーティファクト Performance Summary が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,TV が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,DV が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,AS が正常にエクスポートされました。

   タイプ「ノート・テンプレート」のアーティファクト Variance Summary が正常にエクスポートされました。

6. エクスポート・ファイル名をクリックして、エクスポート・ファイルをライブラリからローカル・ファイル・システムにダウンロードします。

ノートのエクスポート

1 つ以上のノートを ZIP ファイルにエクスポートするには:

1. Narrative Reporting のホーム・ページから、**「ノート」**を選択して**ノート・マネージャ**をオープンします。
2. **「ノート・テンプレート」**をクリックして、関連する**「ノート」**を表示します。
3. 次のいずれかを実行します。
   - 単一の**「ノート」**を選択してから**「処理」**アイコンをクリックし、**「エクスポート」**を選択します。
   - 複数の**「ノート」**を選択してから**歯車**アイコンをクリックし、**「エクスポート」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4. エクスポート・ファイルの宛先フォルダを選択します。
5. **「OK」**をクリックします。

   エクスポート・プロセスは、バックグラウンドで実行されます。エクスポートが完了したら、「メッセージ」をチェックして通知を確認します。

> **Note**
>
> エクスポート後に「マイ・ライブラリ」フォルダに生成される"Export Process Status <date/time>.txt"ファイルに、各**「ノート・テンプレート」**および**「ノート」**のエクスポートのステータスがリストされます。

例:

管理が開始したエクスポート・プロセスが Jun 11, 2021 9:13:37 AM に開始して Jun 11, 2021 9:13:38 AM に完了しました。

詳細は次のとおりです。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,TV が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,DV が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,AS が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート・テンプレート」のアーティファクト Performance Summary が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,TV が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,DV が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,AS が正常にエクスポートされました。

タイプ「ノート・テンプレート」のアーティファクト Variance Summary が正常にエクスポートされました。

6. エクスポート・ファイル名をクリックして、エクスポート・ファイルをライブラリからローカル・ファイル・システムにダウンロードします。

ノート書式のエクスポート

1 つ以上のノート書式を ZIP ファイルにエクスポートするには:

1. ノート・フォーマット・マネージャにアクセスします。ノート・フォーマット・マネージャへのアクセスを参照してください
2. 次のいずれかを実行します。
   - 単一の**「ノート書式」**を選択してから**「処理」**アイコンをクリックし、**「エクスポート」**を選択します。
   - 複数の**「ノート書式」**を選択してから**歯車**アイコンをクリックし、**「エクスポート」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

3. エクスポート・ファイルの宛先フォルダを選択します。
4. **「OK」**をクリックします。

   エクスポート・プロセスは、バックグラウンドで実行されます。エクスポートが完了したら、「メッセージ」をチェックして通知を確認します。

> **Note**
>
> エクスポート後に**「マイ・ライブラリ」**フォルダに生成される"Export Process Status <date/time>.txt"ファイルに、各**「ノート書式」**のエクスポートのステータスがリストされます。

   例:

   管理が開始したエクスポート・プロセスが Jun 11, 2021 9:16:20 AM に開始して Jun 11, 20219:16:20 AM に完了しました。詳細は次のとおりです。タイプ「ノート・フォーマット」のアーティファクト Note Format 1 が正常にエクスポートされました。

5. エクスポート・ファイル名をクリックして、エクスポート・ファイルをライブラリからローカル・ファイル・システムにダウンロードします。

ノートのインポート

ライブラリを使用してノート・テンプレートまたはノート書式をインポートするには:

1. Narrative Reporting のホーム・ページから**「ライブラリ」**を選択します。
2. **「ライブラリ」**の右上隅にある  メニューを選択し、**「インポート」**を選択します。
3. **「インポート」**ダイアログで**「ローカル」**を選択し、インポートするエクスポート ZIP ファイルを参照します。
4. 既存のアーティファクトを、インポートした新しいアーティファクトに置き換えるには、**「既存のオブジェクトの上書き」**を選択します。
5. インポートしたアーティファクトに対してすでに定義済のアクセス権限を既存のものに含めるには、**「アクセス権限を含める」**を選択します。
6. **「OK」**を選択します。

   インポート・プロセスは、バックグラウンドで実行されます。インポートが完了したら、「メッセージ」をチェックして通知を確認します。

> **Note**
>
> インポート後に**「マイ・ライブラリ」**フォルダに生成される"Import Process Status <date/time>.txt"ファイルに、インポートした各アーティファクトのエクスポートのステータスがリストされます。

   例:

   管理が開始したインポート・プロセスが Jun 11, 2021 9:23:59 AM に開始して Jun 11, 2021 9:24:00 AM に完了しました。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

詳細は次のとおりです。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,TV が正常にインポートされました。

タイプ「ノート・テンプレート」のアーティファクト Performance Summary が正常にインポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,DV が正常にインポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,AS が正常にインポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,TV が正常にインポートされました。

タイプ「ノート・テンプレート」のアーティファクト Variance Summary が正常にインポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,DV が正常にインポートされました。

タイプ「ノート」のアーティファクト Jan,340000,FY18,Total Entities,AS が正常にインポートされました。

ノートに対するアクセス権限のレビュー

アクセス権限グループ(APG)を使用して、レポート・ユーザーへのノートおよびノート・テンプレートに対する権限を定義できます。

4 タイプの権限を定義できます:

- ノート読取り
- ノート書込み
- ノート・テンプレート読取り
- ノート・テンプレート書込み

ノート管理者は APG をロックできます。APG がロックされると、ノート書込み権限を持つユーザーは、APG に定義された権限を上書きできません。

> ⓘ **ノート**
>
> - ノート書込み権限はノート読取り権限を継承します
> - ノート・テンプレート読取り権限はノート書込み権限を継承します
> - ノート・テンプレート書込み権限はノート・テンプレート読取り権限を継承します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

シナリオ 1

表 12-3 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**いいえ**
有効	
ノート・テンプレート読取り	**いいえ**
ノート・テンプレート書込み	**いいえ**

上記の権限を持つユーザーは、他のユーザーが作成したノートを**読み取る**ことができます。

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できません。

- 新規ノートの作成
- ノートの編集
- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノート・テンプレートの更新
- APG に定義された権限の更新
- ノートについて APG に定義された権限の上書きまたは更新

シナリオ 2

表 12-4 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**はい**
有効	
ノート・テンプレート読取り	**いいえ**
ノート・テンプレート書込み	**いいえ**

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できます。

- ノートの読込み
- ノートの作成
- ノートの編集

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できません。

- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノート・テンプレートの更新

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- APG に定義された権限の更新
- ノートについて APG に定義された権限の上書きまたは更新

シナリオ 3

表 12-5 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**いいえ**
無効	
ノート・テンプレート読取り	**いいえ**
ノート・テンプレート書込み	**いいえ**

上記の権限を持つユーザーは、他のユーザーが作成したノートを**読み取る**ことができます。

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できません。

- 新規ノートの作成
- ノートの編集
- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノート・テンプレートの更新
- APG に定義された権限の更新
- ノートについて APG に定義された権限の上書きまたは更新

シナリオ 4

表 12-6 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**はい**
無効	
ノート・テンプレート読取り	**いいえ**
ノート・テンプレート書込み	**いいえ**

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できます。

- ノートの読込み
- ノートの作成
- ノートの編集
- ノートについて APG に定義された権限の上書きまたは更新

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できません。

- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノート・テンプレートの更新
- ノート・テンプレートに対して APG に定義された権限の更新

シナリオ 5

表 12-7 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**はい**
有効	
ノート・テンプレート読取り	**はい**
ノート・テンプレート書込み	**いいえ**

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できます。

- ノートの読込み
- ノートの作成
- ノートの編集
- ノート・テンプレートの表示または再利用

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できません。

- ノート・テンプレートの更新
- APG に定義された権限の更新

シナリオ 6

表 12-8 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**はい**
無効	
ノート・テンプレート読取り	**はい**
ノート・テンプレート書込み	**いいえ**

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できます。

- ノートの読込み
- ノートの作成

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- ノートの編集
- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノートについて APG に定義された権限の上書きまたは更新

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できません。

- ノート・テンプレートの更新
- ノート・テンプレートに対して APG に定義された権限の更新

シナリオ 7

表 12-9 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**はい**
有効	
ノート・テンプレート読取り	**はい**
ノート・テンプレート書込み	**はい**

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できます。

- ノートの読込み
- ノートの作成
- ノートの編集
- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノート・テンプレートの更新
- APG に定義された権限の更新

上記の権限を持つユーザーは、ノートについて APG に定義された**上書き**権限を実行できません。

シナリオ 8

表 12-10 ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限。読取りおよび書込み操作の例を示します。

ノートおよびノート・テンプレートに対するアクセス権限	読取りおよび書込み操作
ロック	
ノート読取り	**はい**
ノート書込み	**はい**
無効	
ノート・テンプレート読取り	**はい**
ノート・テンプレート書込み	**はい**

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

上記の権限を持つユーザーは、次のステップを実行できます。

- ノートの読込み
- ノートの作成
- ノートの編集
- ノート・テンプレートの表示または再利用
- ノート・テンプレートの更新
- APG に定義された権限の更新
- ノートについて APG に定義された権限の上書きまたは更新

ノート・テキスト関数の使用

ノート・テキスト関数を使用すると、データ・ソース対応テキスト・ボックスでレポートにノートを表示できます。次のことが可能です。

- **ノート・フォーマット**を作成して、出力コンテンツ、レイアウトおよび書式設定を定義します。ノート・フォーマットは複数のレポート間で使用できます。詳細は、「ノート・フォーマットの操作」を参照してください。
- レポートを作成し、レポート内で**名前付き POV** を作成します。これにより、ノート・テキスト関数で取得するディメンションとメンバー、ノートの取得を操作するレポート POV ディメンション、およびテキスト・ボックスにセカンダリ POV を使用して表示するディメンションを定義します。セカンダリ POV を表示してレポート POV 選択を調整し、子、子孫または最下部レベルのディメンションのレポート POV 選択をユーザー選択に基づいて表示できます。

  名前付き POV は、それが作成されたレポートにのみ適用されます。詳細は、レポートでの名前付き POV の操作を参照してください。
- レポートにテキスト・ボックスを挿入し、データ・ソースに対応するようテキスト・ボックスを設定して、データ・ソースを選択します。これにより、ノート・テキスト関数を使用してノートで集計およびレポートを行う際に、POV を制御できます。レポートには、テキスト・ボックスのみを含めるか(その独自の POV を使用)、またはグリッドおよびチャートを含めることもできます。

  > ⓘ **ノート**
  >
  > ノート・テキストを表示するテキスト・ボックスは、同じレポート内のグリッドを必要としません。

- ノート・テキスト関数をテキスト・ボックスまたはグリッド行、列またはセルに挿入し、ノート・フォーマット、名前付き POV および表示するノートを選択します。詳細は、「レポートでのノート・テキスト関数の挿入」を参照してください。
- オプションで、テキスト関数パラメータを介して生成 AI (GenAI)を使用して、**「ノートのサマリー」**のために **Notes** テキスト関数を構成できます。詳細は、「レポートでの生成 AI の操作」を参照してください

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ノート・テキスト関数を使用する方法を学習します。

 -- ノート・テキスト関数の使用.

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ノート・テキスト関数を使用すると、レポート内のデータ・ソース対応テキスト・ボックスにノートを表示できます。このプロセスには、出力コンテンツ、レイアウトおよび書式設定を定義するノート・フォーマットの作成、ノート・テキスト関数で取得するディメンションおよびメンバーを定義する、レポート内の名前付き POV の作成、およびノート・テキスト関数を含むデータ・ソース対応テキスト・ボックスのレポートへの挿入が含まれます。

ノート・フォーマットの操作

この章では、ノート・フォーマットを作成および管理する方法について説明します。

次も参照:

- ノート・フォーマットの概要
- ノート・フォーマット・マネージャへのアクセス
  この項では、ホーム・ページからノート・フォーマット・マネージャにナビゲートする方法について説明します。
- ノート・フォーマットの作成
  この項では、ノート・フォーマットを作成および保守する方法について説明します。
- ノート・フォーマット・テキスト関数の使用
  この項では、ノート・フォーマット内でノート・テキスト関数の構文を使用する方法について説明します。
- ノート・フォーマットの作成に関する制限事項
  レポートでは、ノート・フォーマットの作成において制限があります。
- ノート・フォーマット・テキスト関数の理解
  このトピックでは、いくつかのノート・フォーマット・テキスト関数の使用方法および対応する結果を示します。

ノート・フォーマットの概要

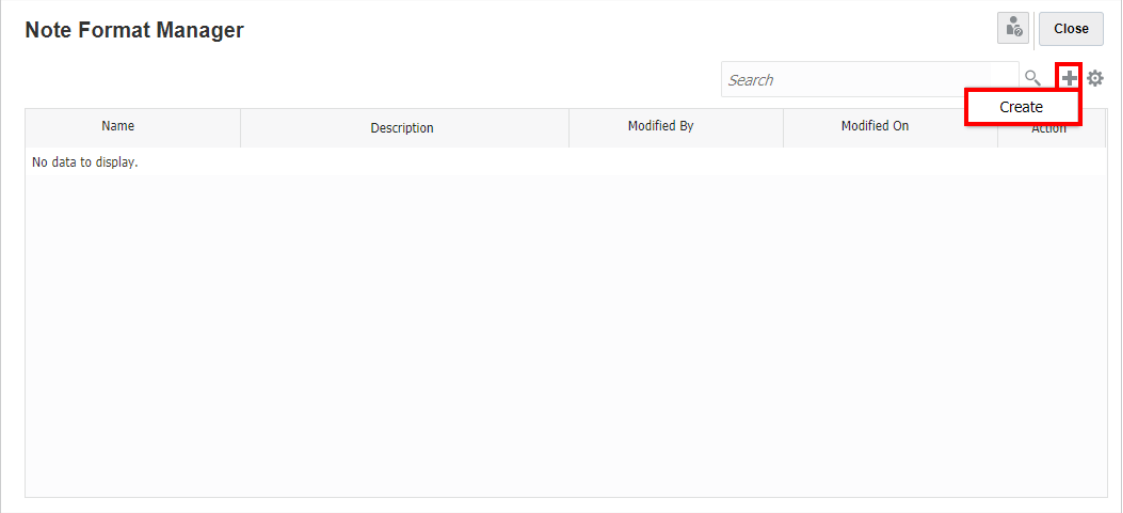
ノート・フォーマットはノート・テキスト関数の出力コンテンツ、レイアウトおよび書式を定義します。ノート・マネージャでノート・フォーマットを作成および保守でき、複数のレポート間でノート・フォーマットを使用できます。

ノート・フォーマットでは、次のことが可能です。

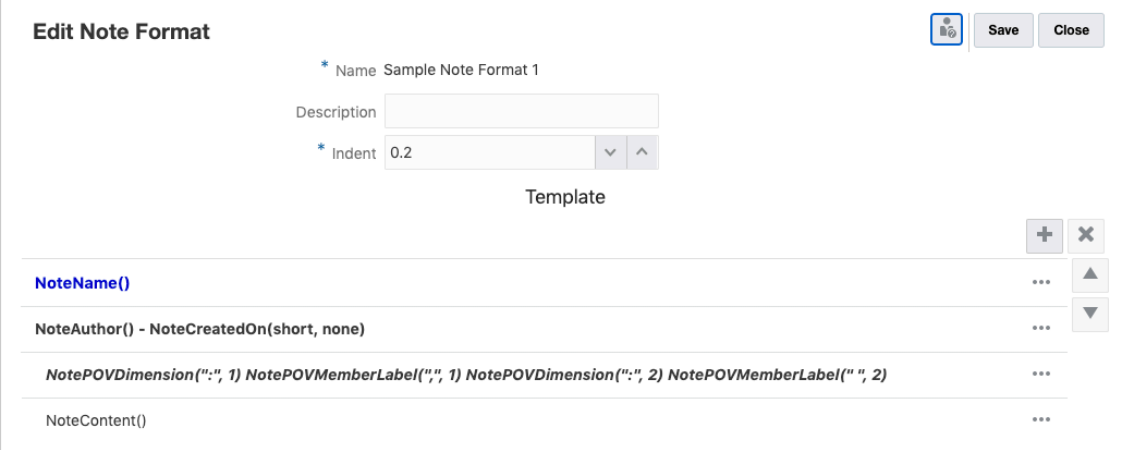
- テキスト関数でセクション(行)を追加して、ノート・コンテンツの上にノート情報およびメタデータを表示します。
- 各関数に適用されるテキスト書式設定を定義します。
- セクションを並替えおよび移動します。
- 出力およびセクション・レベルのインデント・レベルを定義します。

ノート・フォーマット・マネージャでノート・フォーマットを作成します。これには、ノート・マネージャを介してアクセスできます。ノート・フォーマット・マネージャへのアクセスを参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

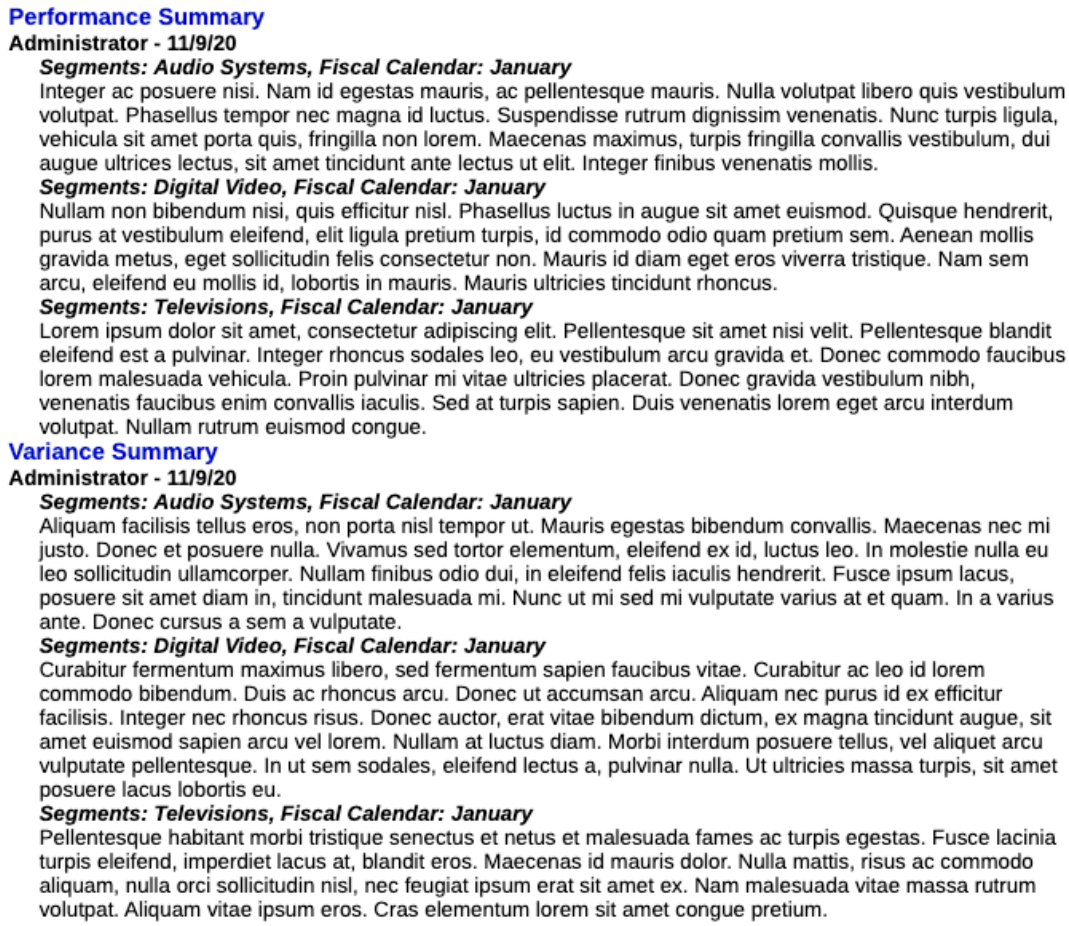


たとえば、このノート・フォーマットには複数のセクションがあり、最後のセクションに定義されているように、ノート・コンテンツを表示する前にノート・メタデータを返すように書式設定されたテキスト関数があります。



3 つのノートが 2 つのノート・テンプレートに入力された、ノート・テキスト関数があるテキスト・ボックスでこのノート・フォーマットを使用した結果。次のイメージを参照してください。Performance Summary および Variance Summary などの 2 つのノート名と、その後に続くそれぞれのノート作成者、ノート POV ディメンション、およびノート・コンテンツをプレビューできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Performance Summary
Administrator - 11/9/20
Segments: Audio Systems, Fiscal Calendar: January
Integer ac posuere nisi. Nam id egestas mauris, ac pellentesque mauris. Nulla volutpat libero quis vestibulum volutpat. Phasellus tempor nec magna id luctus. Suspendisse rutrum dignissim venenatis. Nunc turpis ligula, vehicula sit amet porta quis, fringilla non lorem. Maecenas maximus, turpis fringilla convallis vestibulum, dui augue ultrices lectus, sit amet tincidunt ante lectus ut elit. Integer finibus venenatis mollis.
Segments: Digital Video, Fiscal Calendar: January
Nullam non bibendum nisi, quis efficitur nisl. Phasellus luctus in augue sit amet euismod. Quisque hendrerit, purus at vestibulum eleifend, elit ligula pretium turpis, id commodo odio quam pretium sem. Aenean mollis gravida metus, eget sollicitudin felis consectetur non. Mauris id diam eget eros viverra tristique. Nam sem arcu, eleifend eu mollis id, lobortis in mauris. Mauris ultricies tincidunt rhoncus.
Segments: Televisions, Fiscal Calendar: January
Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Pellentesque sit amet nisi velit. Pellentesque blandit eleifend est a pulvinar. Integer rhoncus sodales leo, eu vestibulum arcu gravida et. Donec commodo faucibus lorem malesuada vehicula. Proin pulvinar mi vitae ultricies placerat. Donec gravida vestibulum nibh, venenatis faucibus enim convallis iaculis. Sed at turpis sapien. Duis venenatis lorem eget arcu interdum volutpat. Nullam rutrum euismod congue.
Variance Summary
Administrator - 11/9/20
Segments: Audio Systems, Fiscal Calendar: January
Aliquam facilisis tellus eros, non porta nisl tempor ut. Mauris egestas bibendum convallis. Maecenas nec mi justo. Donec et posuere nulla. Vivamus sed tortor elementum, eleifend ex id, luctus leo. In molestie nulla eu leo sollicitudin ullamcorper. Nullam finibus odio dui, in eleifend felis iaculis hendrerit. Fusce ipsum lacus, posuere sit amet diam in, tincidunt malesuada mi. Nunc ut mi sed mi vulputate varius at et quam. In a varius ante. Donec cursus a sem a vulputate.
Segments: Digital Video, Fiscal Calendar: January
Curabitur fermentum maximus libero, sed fermentum sapien faucibus vitae. Curabitur ac leo id lorem commodo bibendum. Duis ac rhoncus arcu. Donec ut accumsan arcu. Aliquam nec purus id ex efficitur facilisis. Integer nec rhoncus risus. Donec auctor, erat vitae bibendum dictum, ex magna tincidunt augue, sit amet euismod sapien arcu vel lorem. Nullam at luctus diam. Morbi interdum posuere tellus, vel aliquet arcu vulputate pellentesque. In ut sem sodales, eleifend lectus a, pulvinar nulla. Ut ultricies massa turpis, sit amet posuere lacus lobortis eu.
Segments: Televisions, Fiscal Calendar: January
Pellentesque habitant morbi tristique senectus et netus et malesuada fames ac turpis egestas. Fusce lacinia turpis eleifend, imperdiet lacus at, blandit eros. Maecenas id mauris dolor. Nulla mattis, risus ac commodo aliquam, nulla orci sollicitudin nisl, nec feugiat ipsum erat sit amet ex. Nam malesuada vitae massa rutrum volutpat. Aliquam vitae ipsum eros. Cras elementum lorem sit amet congue pretium.

ⓘ ノート

- すべての Narrative Reporting ユーザーには、すべてのノート・フォーマットに対する表示権限があります。
- レポート管理者ロールを持つユーザーは、ノート・フォーマットを編集できます。

ノート・フォーマット・マネージャへのアクセス

この項では、ホーム・ページからノート・フォーマット・マネージャにナビゲートする方法について説明します。

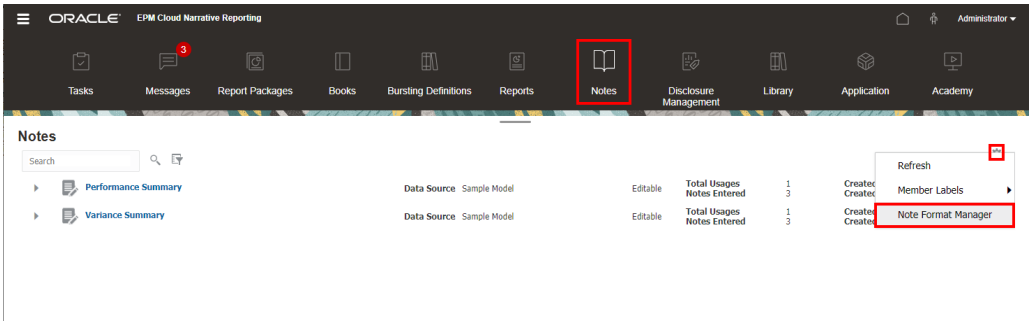
「ノート・フォーマット・マネージャ」にアクセスするには:

1. 次のいずれかのステップを実行します。
   - **ノート・マネージャ**の処理

     メニューで、**「ノート・フォーマット・マネージャ」**.を選択します

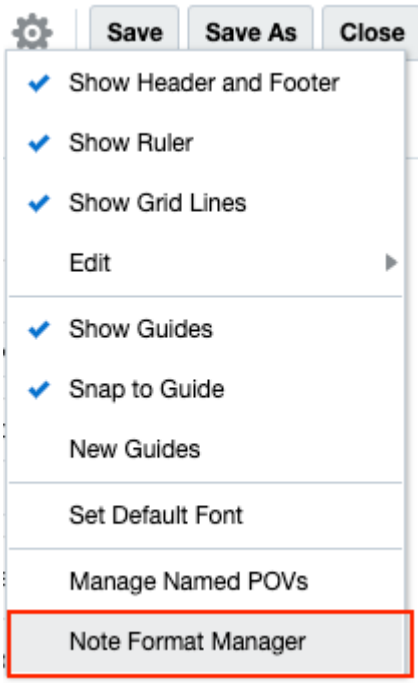
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



- レポートの編集中にレポート・デザイナで、

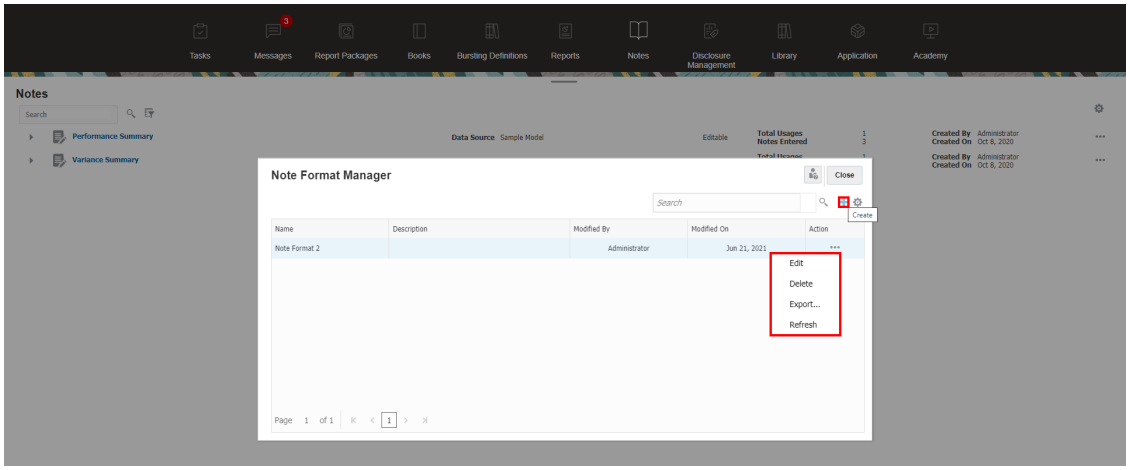
  

  および**「ノート・フォーマット・マネージャ」**を選択します。



2. **「ノート・フォーマット・マネージャ」**ダイアログ・ボックスが表示されます。
   次のことが可能です。
   - 新規ノート・フォーマットを**「作成」**します。
   - 既存のノート・フォーマットを**「編集」**します。
   - 選択したノート・フォーマットを**「削除」**します。
   - ノート・フォーマット・ビューを**「リフレッシュ」**します。
   - ノート書式を**「エクスポート」**します。

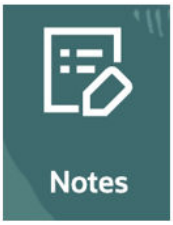
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



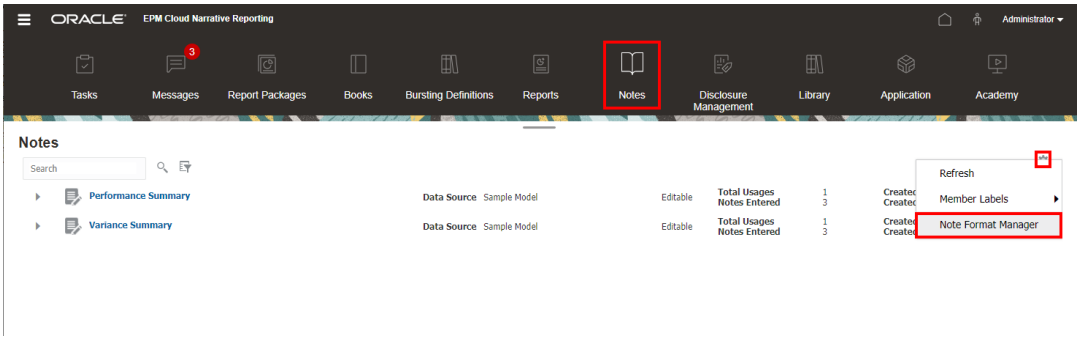
ノート・フォーマットの作成

この項では、ノート・フォーマットを作成および保守する方法について説明します。

ノート・フォーマットを作成するには:

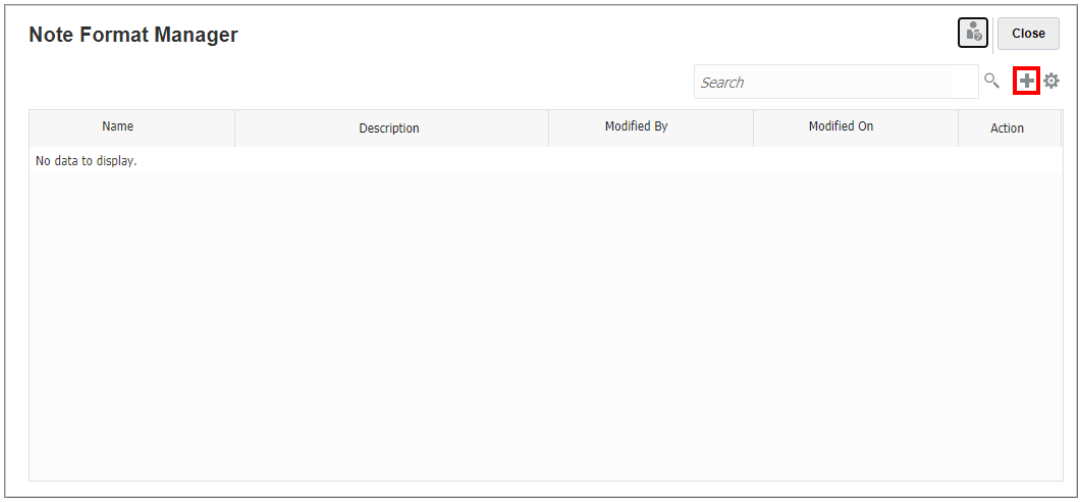
1. Narrative Reporting ホーム・ページから、 

を選択します。
2. **ノート・マネージャ**の処理 メニューで、**「ノート・フォーマット・マネージャ」**を選択します。



3. **「ノート・フォーマット・マネージャ」**で、 をクリックして新規フォーマットを追加します。

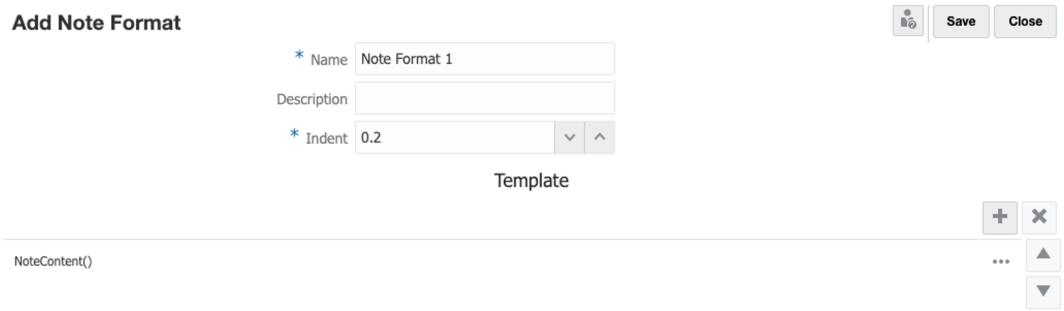
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. **「ノート・フォーマットの追加」**で:
   - ノート・フォーマットの一意の**「名前」**を入力します。

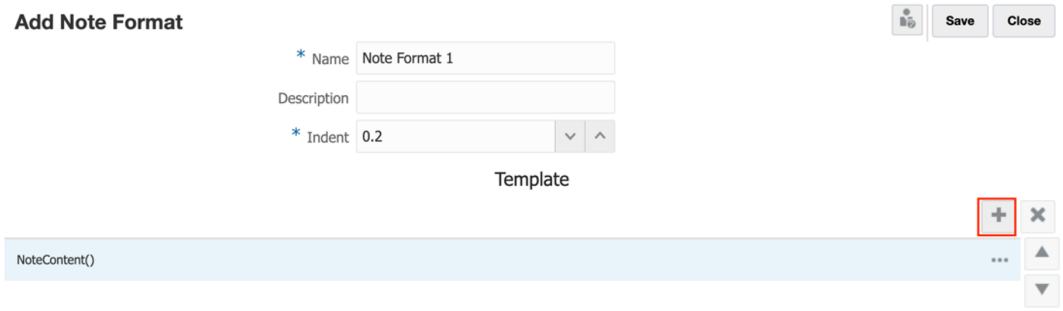
     > **ⓘ ノート**
     >
     > ノート・フォーマットを作成すると、その名前は変更できなくなります。

   - オプションの**「説明」**を入力します。
   - **「インデント」**のサイズを選択します。これは、ノート・フォーマットでセクションをインデントするときに使用されます。

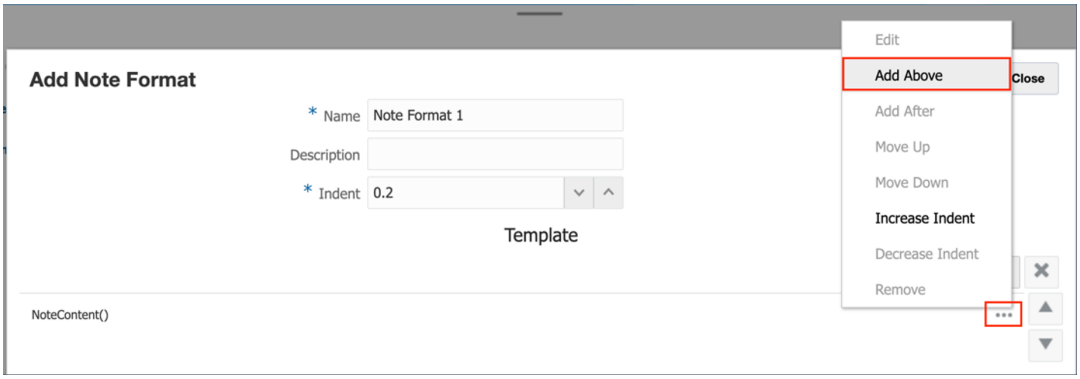


5. ➕ をクリックして、ノート・フォーマットにセクションを追加します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



セクションの**「処理」**メニューをクリックして、該当する場合は**「上に追加」**を選択できます。

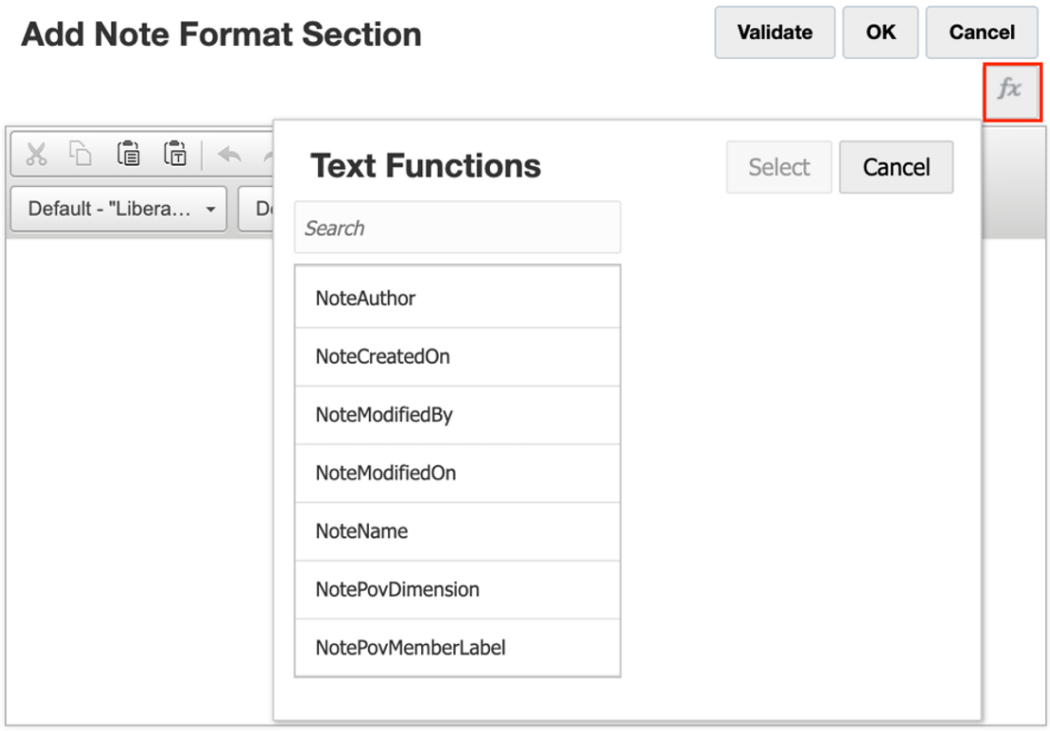


> **ノート**
>
> デフォルトの `NoteContent()`セクションは、**ノート・フォーマット**の最後にのみ表示でき、その後ではなく上にのみセクションを追加できます。

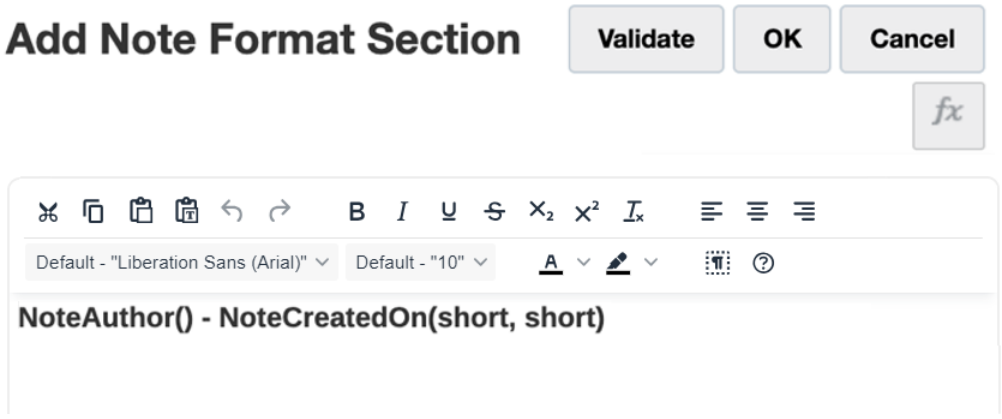
「ノート・フォーマット・セクションの追加」エディタが表示されます。

6. **「ノート・フォーマット・セクションの追加」**エディタで、テキストを手動で入力し、*fx* ボタンをクリックしてテキスト関数を選択することでセクションに含めるテキスト関数を選択できます。選択したテキストに、フォント・タイプ、サイズ、色などの書式設定を適用できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノート・フォーマット・セクションに使用可能なテキスト関数の詳細は、ノート・フォーマット・テキスト関数の使用を参照してください。



7. **「検証」**をクリックして、テキスト関数の構文を確認し、**「OK」**をクリックして**「ノート・フォーマット・セクションの追加」**ダイアログをクローズします。

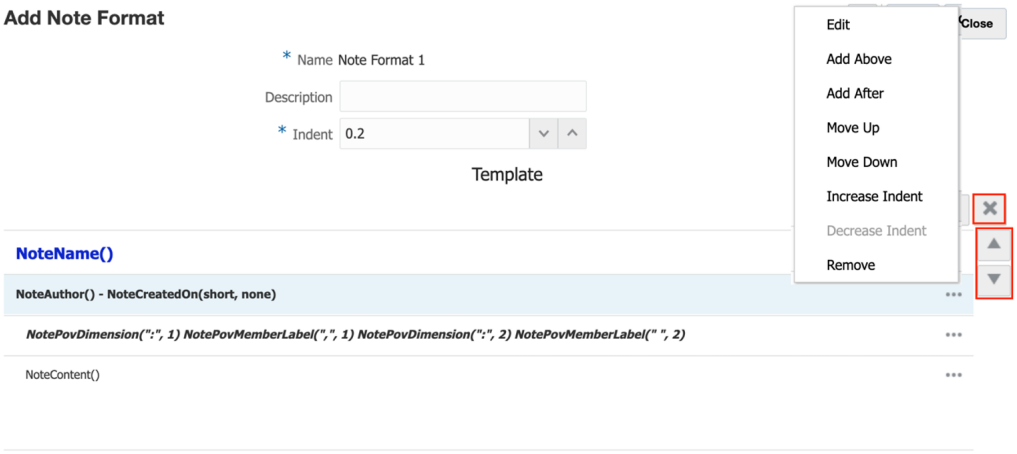
> **ノート**
>
> 必要に応じて、ステップ 5 から 7 を繰り返して他のセクションを追加します。

8. セクションを選択して、次のことが可能です。
   - **「処理」**メニューを使用して、各セクションを**「編集」**します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 「上へ移動」または「下へ移動」ボタンをクリックしてセクションを移動、または**「処理」**メニューを使用して同じ操作を実行できます。
- をクリックするか、**「処理」**メニューを使用して、各セクションを**「除去」**します。
- **「処理」**メニューを使用して、該当する場合は**「インデントの追加」**または**「インデントの削減」**を実行します。

> **ノート**
>
> インデントの量は、**「ノート・フォーマットの追加」**ダイアログで指定されたインデントに基づきます。



9. **「保存」**をクリックし、**「クローズ」**を選択してノート・フォーマットを保存します。

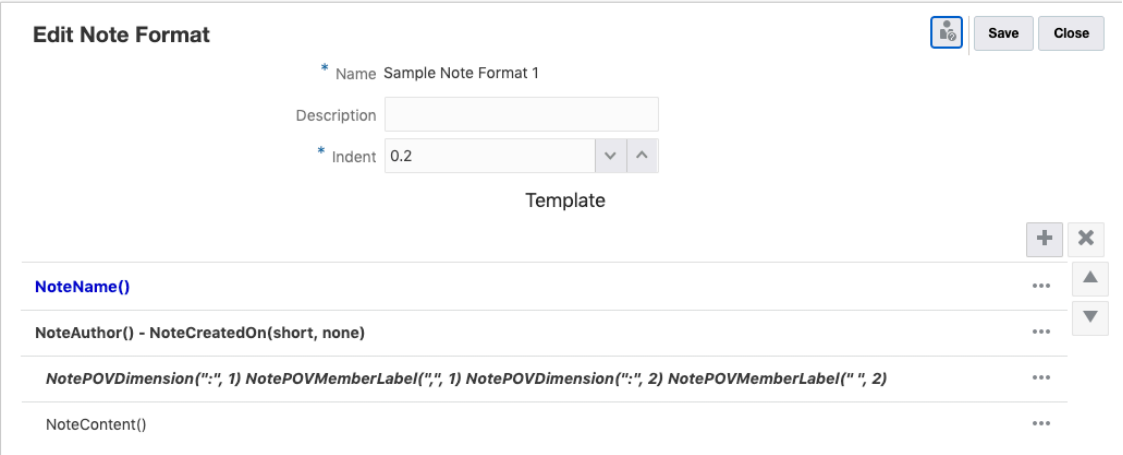
例 12-1 セグメント・メンバー名に基づいたグループ化およびソート

デフォルトでは、ノート・フォーマットに、各ノートのテキストを返す`NoteContent()`テキスト関数のある 1 つのセクションがあります。`NoteContent()`セクションの上に追加のノート・メタデータを表示する追加のセクションを挿入できます。

レポート・プレビューでは、結果のノート出力に基づいて、ノート・フォーマットのセクションの結果が返され、グループ化およびソートされます。特定のセクションの出力は、コンテンツが一意の場合は繰り返されません。

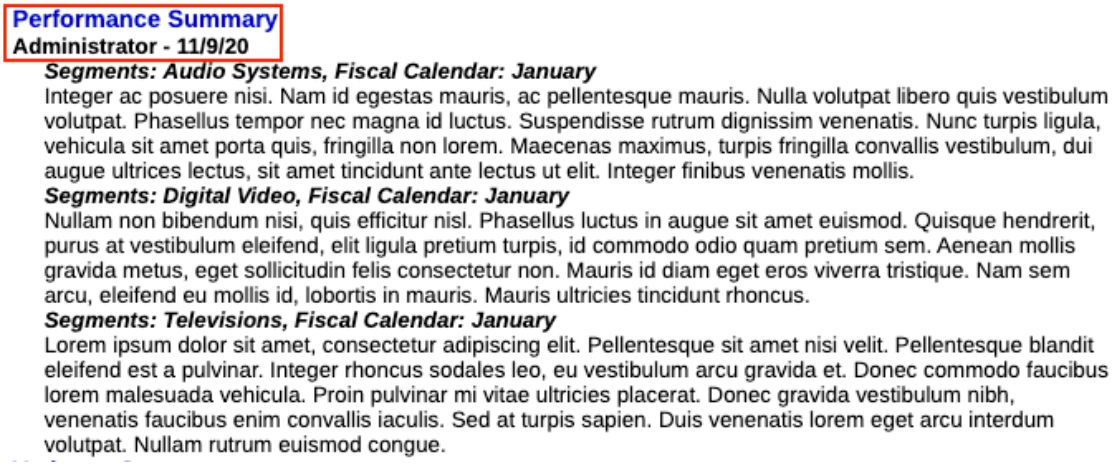
たとえば、次のイメージについて説明します。ここではテキスト関数にタイムスタンプが含まれておらず、その情報はすべてに適用されるため 3 つのノートでは繰り返されません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **ノート**
>
> 3 つのセグメントのすべてのノートは、セグメント・メンバー名に基づいてアルファベット順にソートされます。

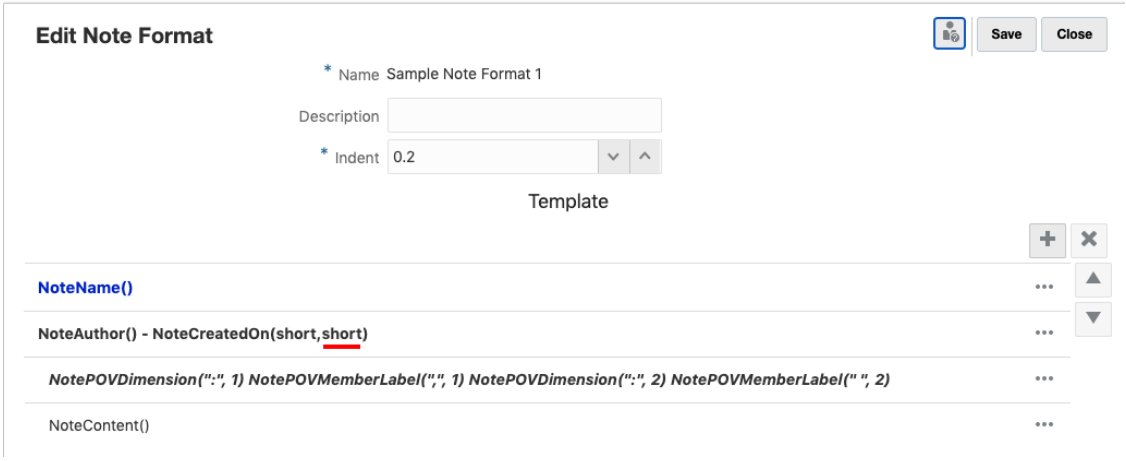
ノート名は"Performance Summary"であり、ユーザー、日付および日付スタンプ詳細は"Administrator on 11/09/20 "です。



例 12-2 一意のタイムスタンプに基づいたグループ化およびソート

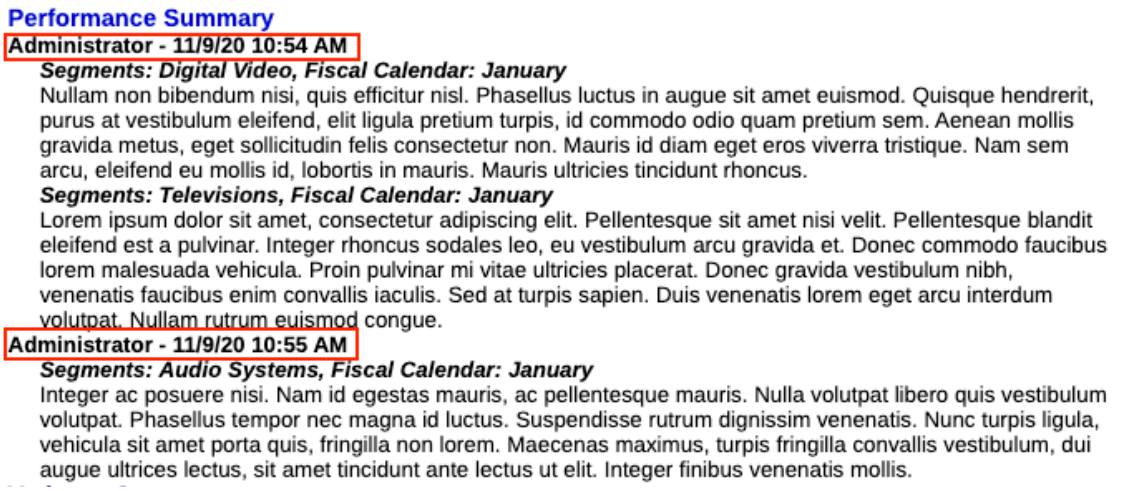
たとえば、次のイメージについて説明します。ここではテキスト関数にタイムスタンプが含まれており、ノートが異なる時間に作成されたため、ユーザー詳細、日付およびタイムスタンプが繰り返されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **ⓘ ノート**
>
> 3 つのセグメントのすべてのノートは、一意のタイムスタンプに基づいてソートされ、セグメント・メンバー名ではソートされません。

ノート名は"Performance Summary"であり、ユーザー、日付およびタイムスタンプ詳細は"Administrator on 11/09/20 10:54 AM "です。



ノート・フォーマット・テキスト関数の使用

この項では、ノート・フォーマット内でノート・テキスト関数の構文を使用する方法について説明します。

このトピックでは、ノート・フォーマットで使用可能なテキスト関数の使用方法および構文に関する情報を示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 12-11 この表は、ノート・フォーマットで使用可能なテキスト関数の使用方法および構文に関する情報を示しています。

関数	必要なパラメータ	摘要
`NoteAuthor`	N/A	ノート作成者のユーザー名を返します。
`NoteCreatedOn`	*日付書式*および*時間書式*。日時に希望の書式を選択します。必要に応じて、いずれかのパラメータに「なし」を選択することもできます。	ノートが作成された日時を返します。
`NoteModifiedBy`	N/A	ノートを最後に変更したユーザーのユーザー名を返します。
`NoteModifiedOn`	*日付書式*および*時間書式*。日時に希望の書式を選択します。 必要に応じて、いずれかのパラメータに「なし」を選択することもできます。	ノートが最後に変更された日時を返します。
`NoteName`	N/A	ノート・テンプレート名を返します。
`NotePOVDimension`	*デリミタ*– テキスト関数の結果の後に表示するデリミタ文字を選択します。 **ノート**: 空白、NewLine または NewLineIndent を選択することもできます。 *序数*– レポートの名前付き POV のディメンション位置を表す数字を選択します。	レポートの名前付き POV のディメンションの位置に基づいて、ノートの指定されたディメンション名を返します。
`NotePOVMemberLabel`	*デリミタ*– テキスト関数の結果の後に表示するデリミタ文字を選択します。 **ノート**: 空白、NewLine または NewLineIndent を選択することもできます。 *序数*– レポートの名前付き POV のディメンション位置を表す数字を選択します。	レポートの名前付き POV のディメンションの位置に基づいて、ノートの指定されたディメンションのメンバー・ラベルを返します。 表示されるラベルは、(**「レポート処理」**メニューから)ユーザーが指定したメンバー・ラベル・プリファレンスによって異なります。これは、**「メンバー名」**、**「別名」**または**「両方」**がノート・テキスト関数の出力に表示されるかどうかを決定します。

ノート・フォーマットの作成に関する制限事項

レポートでは、ノート・フォーマットの作成において制限があります。

ノート・フォーマットの作成に関する次の制限事項に注意してください。

- `NoteContent` 関数は、ノート・フォーマットの同じセクション内の他の関数と一緒に使用できません。
- `NotePOVDimension` および `NotePOVMemberLabel` 関数は、ノート・フォーマットの同じセクション内の他の関数と一緒に使用できません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

これらの関数のいずれかが使用されているセクションには、他のテキストまたは文字を追加できません(スペース以外)。

関数の結果を分割するためにデリミタを選択できます。

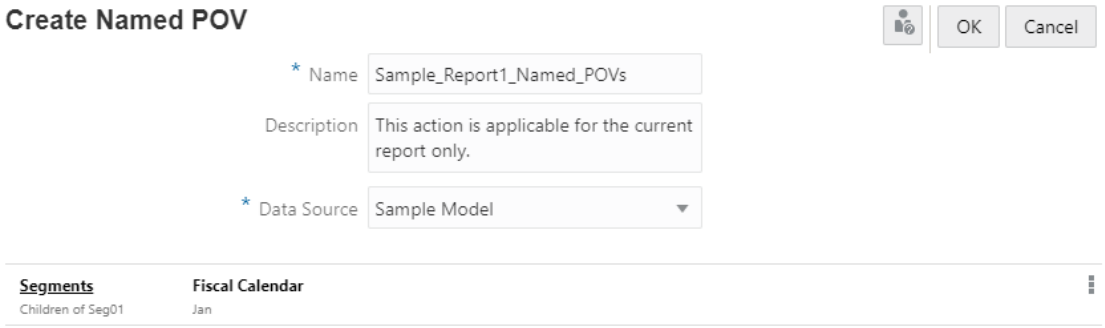
ノート・フォーマット・テキスト関数の理解

このトピックでは、いくつかのノート・フォーマット・テキスト関数の使用方法および対応する結果を示します。

2 つのノート・テンプレート"Performance Summary"および"Variance Summary"があり、それぞれに 3 つのノート(3 つのセグメントのそれぞれに 1 つずつ)があります。

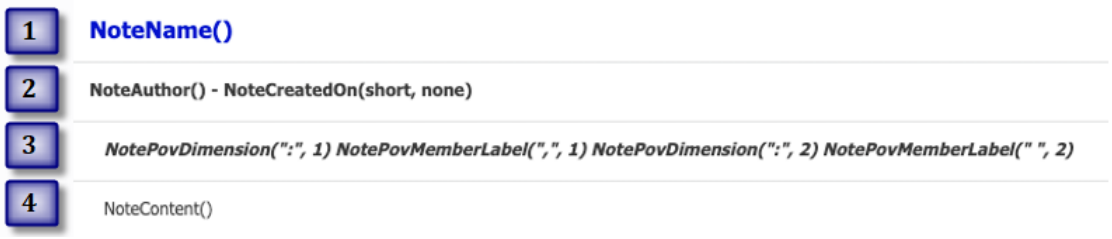
例 12-3 名前付き POV 定義

次の名前付き POV が、ノート・テキスト関数を含むレポートに作成されました。リストされている 2 つのディメンションは**「Segments」**および**「Fiscal Calendar」**です。両方のディメンションに、表示するテキスト関数をフィルタするためのメンバー選択が含まれています。**「Segments」**が最初にリストされているディメンション、**「Fiscal Calendar」**が 2 番目にリストされているディメンションであるため、`NotePOVDimension` および `NotePOVMemberLabel` 関数で使用される序数パラメータは、名前付き POV での順序に基づいて、Segments に対して"1"、Fiscal Calendar に対して"2"となります。



例 12-4 ノート・フォーマット定義

ノート・フォーマットには次のセクションおよびテキスト関数があり、各セクションに異なるフォント書式設定が適用されています。最後の 2 つのセクションはインデントされています。



テキスト関数パラメータについての注意すべき点:

- 2 番目のセクション `Created by NoteAuthor() on NoteCreatedOn(short, none)`で、`NoteCreatedOn` 関数に `short` 日付パラメータがある場合、US ロケールでは書式が

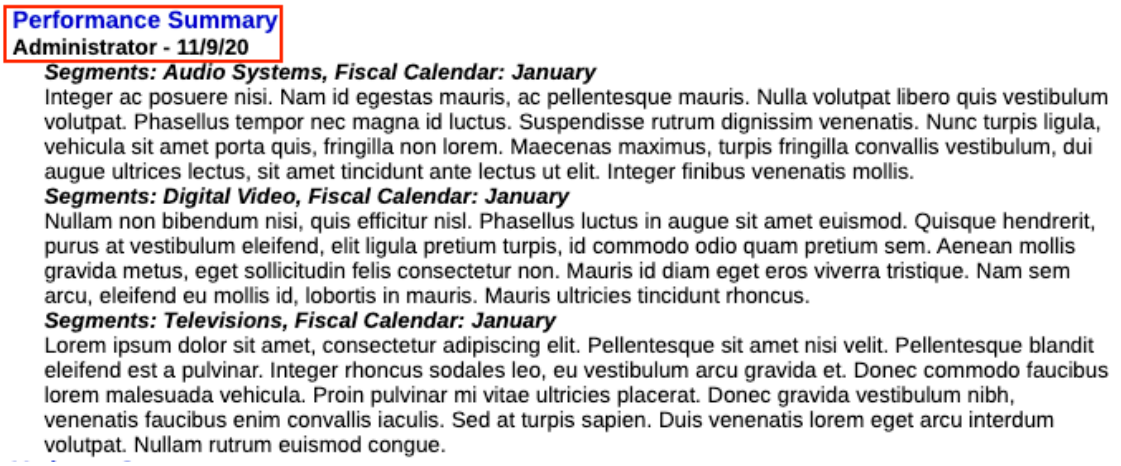
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

MM/DD/YY であることを意味します。時間パラメータは none であり、時間が表示されないことを意味します。

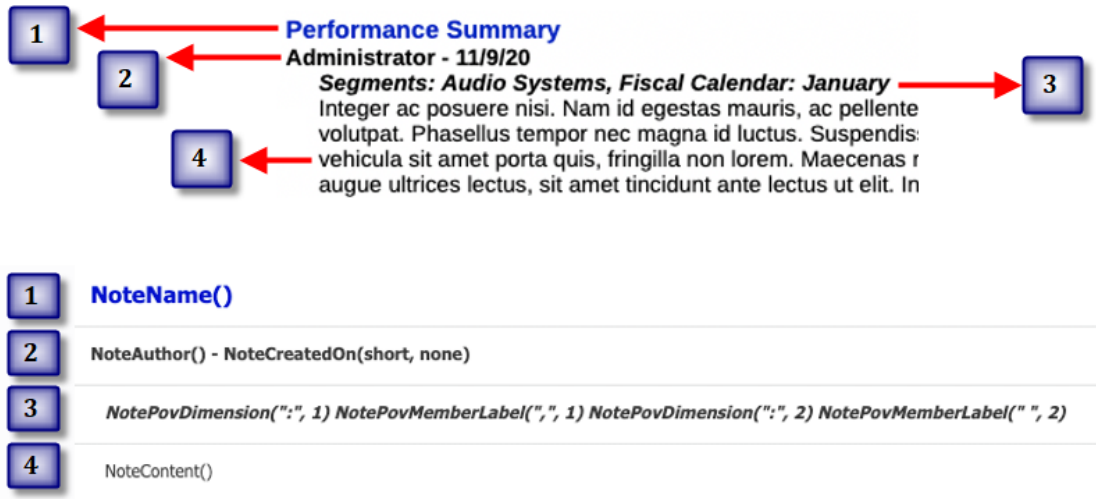
- NotePOVDimension および NotePOVMemberLabel 関数は 4 番目のセクションにあります。
  - 各関数のセットの序数パラメータに注意してください。最初のセットは序数パラメータ"1"を持ち、名前付き POV の最初のディメンション(**「Segments」**)です。2 番目のセットは序数パラメータ"2"を持ち、名前付き POV の 2 番目のディメンション(**「Fiscal Calendar」**)です。
  - 関数の両方のセットに指定されたデリミタ・パラメータの結果、次の表示になります: Dimension1: Member1, Dimension2: Member2

例 12-5 ノート・テキスト・ボックスのあるレポートのプレビュー

前述のセクションに表示された名前付き POV およびノート・フォーマットの例を使用すると、ノート・テキスト関数があるテキスト・ボックスを含むレポートをプレビューできます。



ノート・フォーマットで対応するテキスト関数があるテキスト・ボックス出力の一部を表示できます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポートでの名前付き POV の操作

次も参照:

- 名前付き POV の概要
- 名前付き POV の作成
- 例: 名前付き POV および POV ディメンション・オプションの使用

名前付き POV の概要

名前付き POV により、レポートのノート・テキスト関数で取得するディメンションおよびメンバー、ノートの取得を操作するレポート POV ディメンション、およびテキスト・ボックスにセカンダリ POV を使用して表示するディメンションを定義します。名前付き POV は、名前付き POV マネージャで作成および保守されます。

> **ノート**
>
> レポート・デザイナでは、名前付き POV を作成する場合、その特定のレポートのみに制限されます。名前付き POV はレポート間で共有できません。

名前付き POV の作成

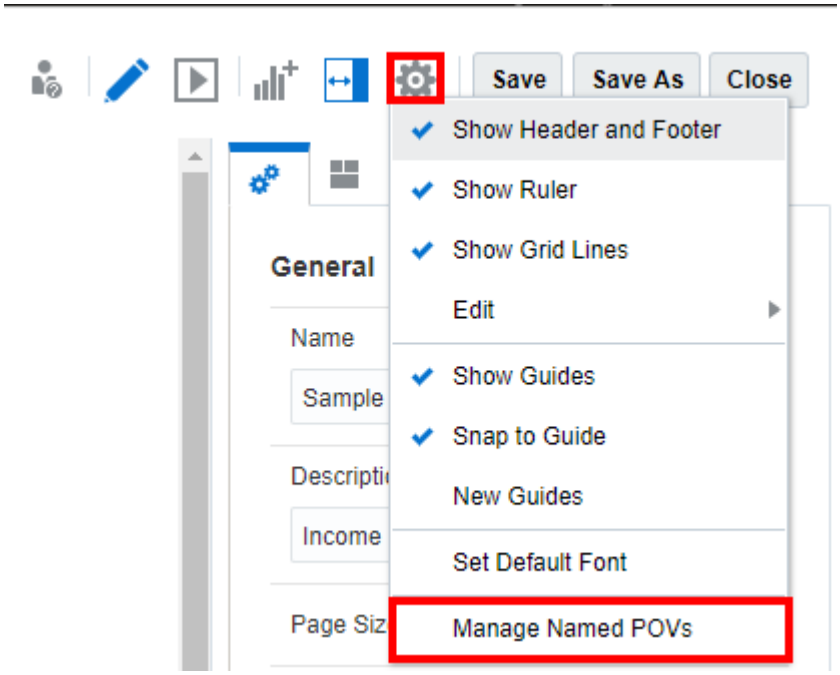
名前付き POV を作成するには:

1. **「ノート」**テキスト関数を挿入する場合、既存の**「レポート」**を選択するか、新しい**「レポート」**を作成します。

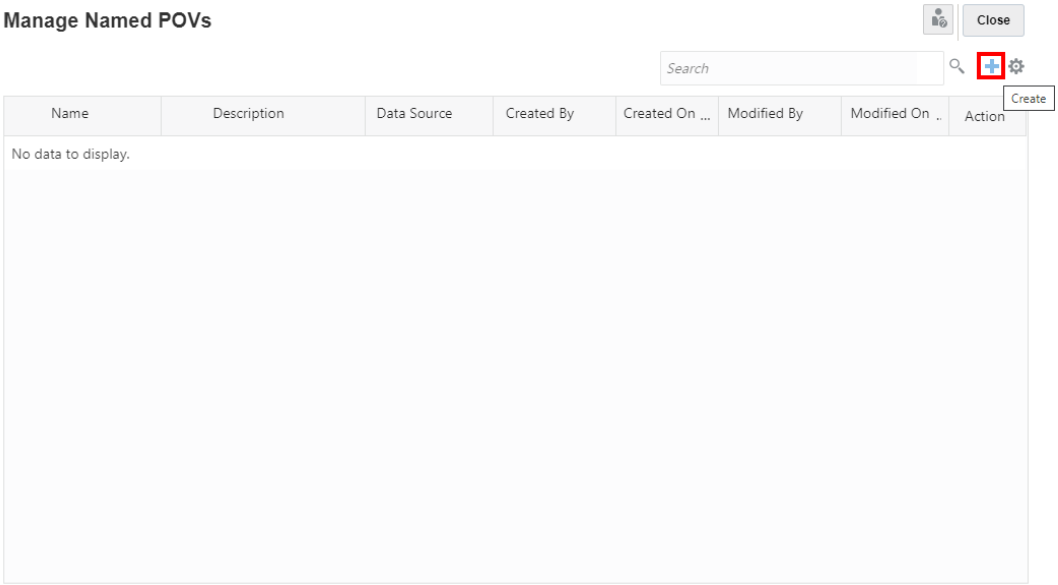
   > **ノート**
   >
   > 名前付き POV を作成するには、レポートに定義済のグリッドは必要はありません。

2. **レポート・デザイナ**で、**「処理」** メニューをクリックし、**「名前付き POV の管理」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



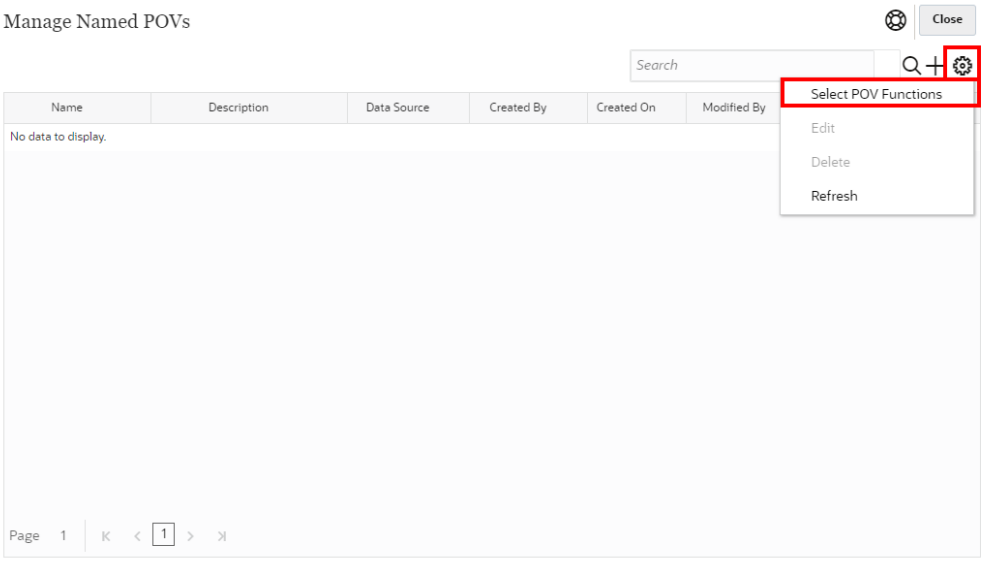
「名前付き POV の管理」ダイアログが表示されます。



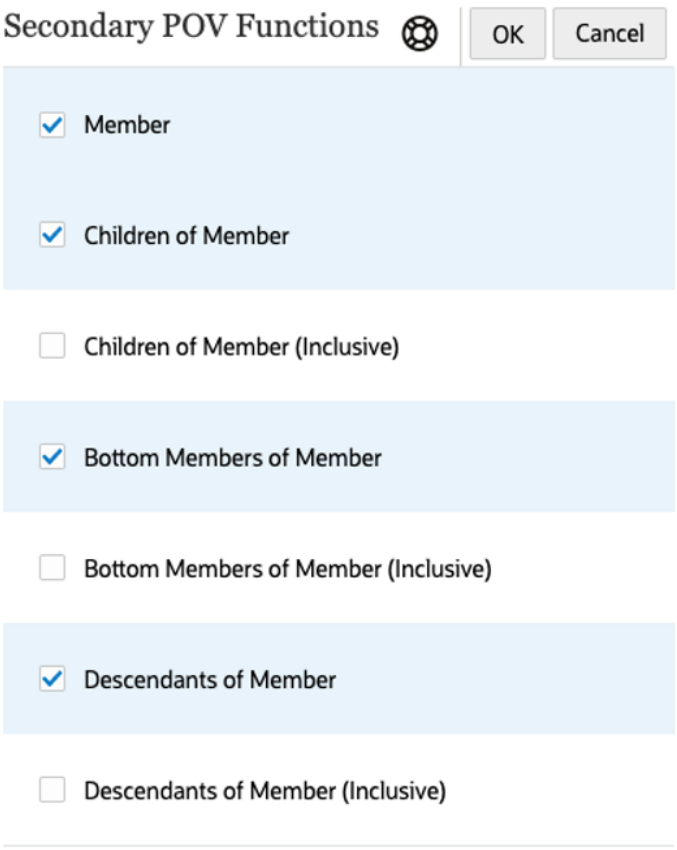
新しい名前付き POV を**「作成」**できます。

3. **「名前付き POV の管理」**の**「処理」** - ⚙ メニューでは、次のことが可能です。
   - **「POV 関数の選択」**を行って、ノート・テキスト・ボックスのセカンダリ POV にこれらのメンバー選択関数を表示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



「セカンダリ POV 関数」ダイアログで、メンバー選択関数を選択または選択解除できます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> これらの選択は、レポートのすべてのディメンションおよびすべての 名前付き POV に適用されます。

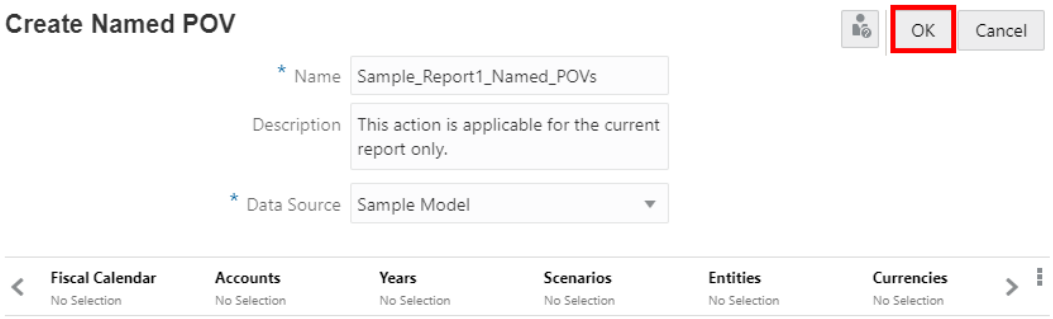
- 既存の名前付き POV を**「編集」**します。
- 選択した名前付き POV を**「削除」**します。
- 「名前付き POV の管理」ビューを**「リフレッシュ」**します。

4. **「名前付き POV の管理」**で、 をクリックして新しい名前付き POV を追加します。
5. **「名前付き POV の作成」**で:
   - 名前付き POV の**「名前」**を入力します。

> **ノート**
>
> 名前付き POV を作成すると、その**「名前」**は変更できなくなります。

   - オプションの**「説明」**を入力します。
   - ドロップダウン・メニューから**「データ・ソース」**を選択します。

     定義済のすべてのレポート・データ・ソースがリストされます。データ・ソース内のすべてのディメンションに対して POV バーが移入されます。



> **ノート**
>
> データ・ソース選択は、レポート内のグリッドまたはチャートに依存しません。

6. デフォルトでは、すべてのディメンションで**「選択なし」**と表示され、これは、メンバーが選択されておらず、そのディメンションのメンバーのすべてのノートが表示されることを意味します。ディメンション・ラベルをクリックして、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、ドロップダウン・リストから**「メンバー」**、**「最近」**、**「代替変数」**、**「関数」**または**「リスト」**を選択して、メンバーを選択されているディメンションに割り当てます。

メンバーを選択するには、次の規則を使用します。

- 親メンバーにドリルするには、**「展開」** をクリックします。
- メンバーを選択および選択解除するには、**「選択」** をクリックします。

> **ノート**
>
> 青色のチェック・マークは、メンバーが現在選択されていることを示します。メンバーの上にマウスを置くと表示されるグレーのチェック・マークは、そのメンバーが現在選択されていないことを示します。

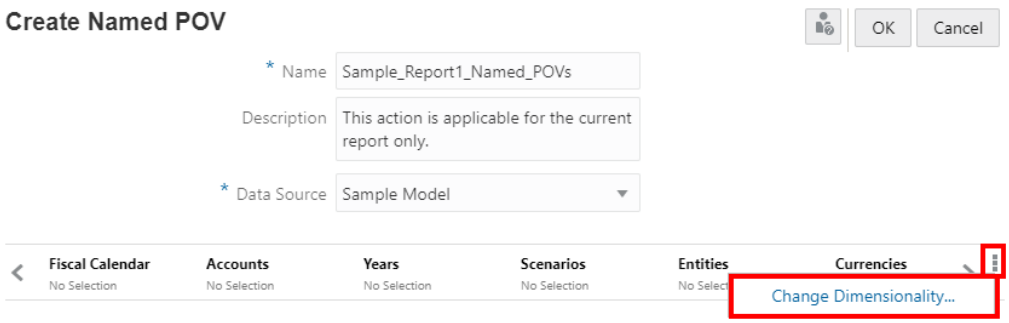
- 関数を使用してメンバーを選択するには、メンバーの横にある**「関数」** をクリックします。関数を使用したメンバーの割当を参照してください。
- メンバーをソートするには、セレクタ・ペインで**「処理」** をクリックします。
- **「OK」**をクリックします。

> **ノート**
>
> 追加のディメンションに対して前述のステップを繰り返します。

7. メンバーのフィルタに使用しないディメンションについては、選択を**「選択なし」**のままにするか、ディメンションをディメンション・レイアウトから除去できます。

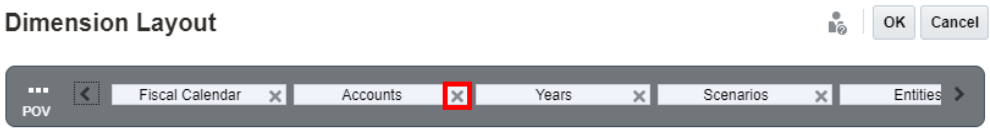
   ディメンションを除去するには:

   - **「名前付き POV の作成」**で、**「POV 処理」**メニューをクリックし、**「ディメンションの変更」**を選択します。



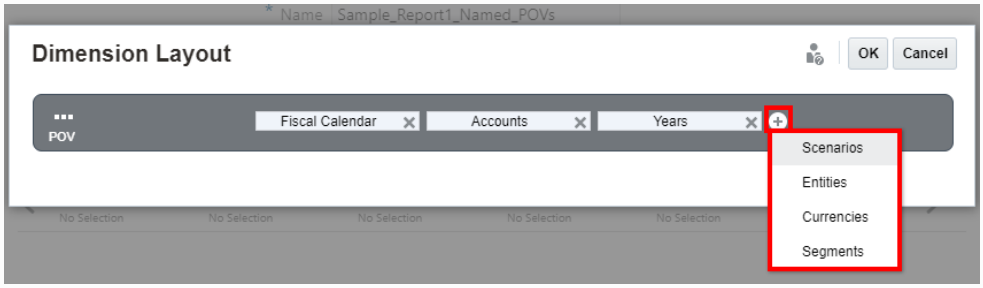
   - **「ディメンション・レイアウト」**で、ディメンションの横にある をクリックします。必要に応じて、他のディメンションについて繰り返します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



- **「OK」**をクリックして**「ディメンション・レイアウト」**をクローズし、**「名前付き POV の作成」**に戻ります。

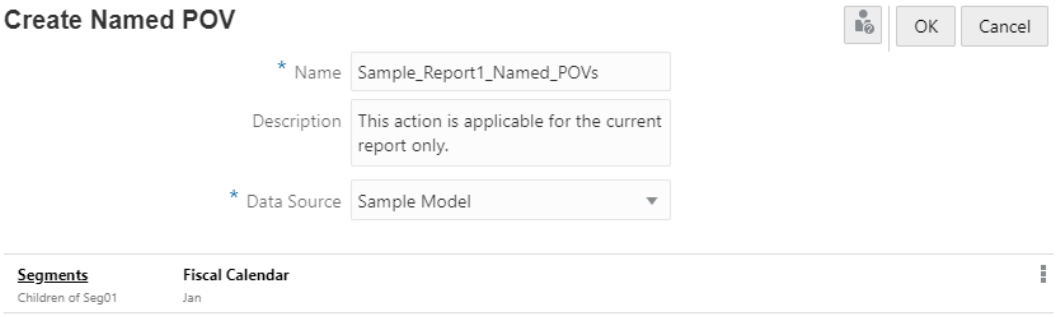
> **ノート**
>
> 選択しない不要なディメンションをディメンション・レイアウトから除去することをお薦めします。
>
> これにより、`NotePOVDimension` および `NotePOVMemberLabel` 関数の序数パラメータの指定が簡単になります。詳細は、「ノート・フォーマット・テキスト関数の使用」を参照してください。

> **ノート**
>
> 「ディメンションの追加」ボタンを使用して、ディメンションをいつでも追加して戻せます。
>
> 
>

8. `NotePOVDimension` および `NotePOVMemberLabel` 関数で序数パラメータを使用すると、ディメンションを並べ替えて参照を容易にすることもできます。

   たとえば、名前付き POV で、**「Segments」**が最初のディメンション、**「Fiscal Calendar」**が 2 番目のディメンションである場合、序数パラメータの"1"は最初のディメンション(Segments)を参照し、序数パラメータの"2"は 2 番目のディメンション(Fiscal Calendar)を参照します。

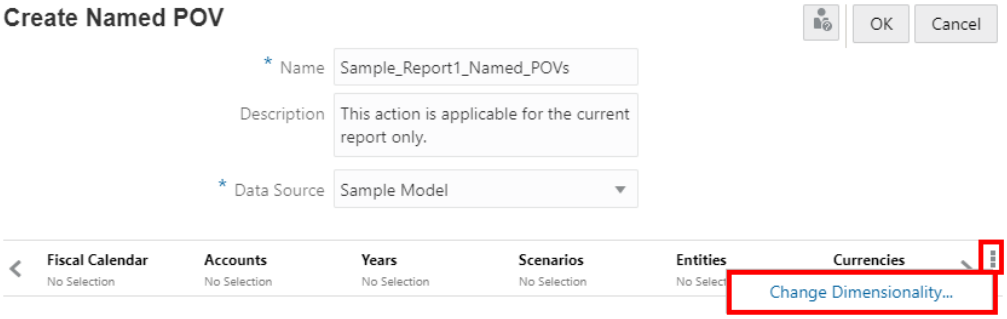
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



詳細は、「ノート・フォーマット・テキスト関数の使用」を参照してください。

名前付き POV のディメンションを並べ替えるには:

- **「名前付き POV の作成」**で、**「POV 処理」**メニューをクリックし、**「ディメンションの変更」**を選択します。



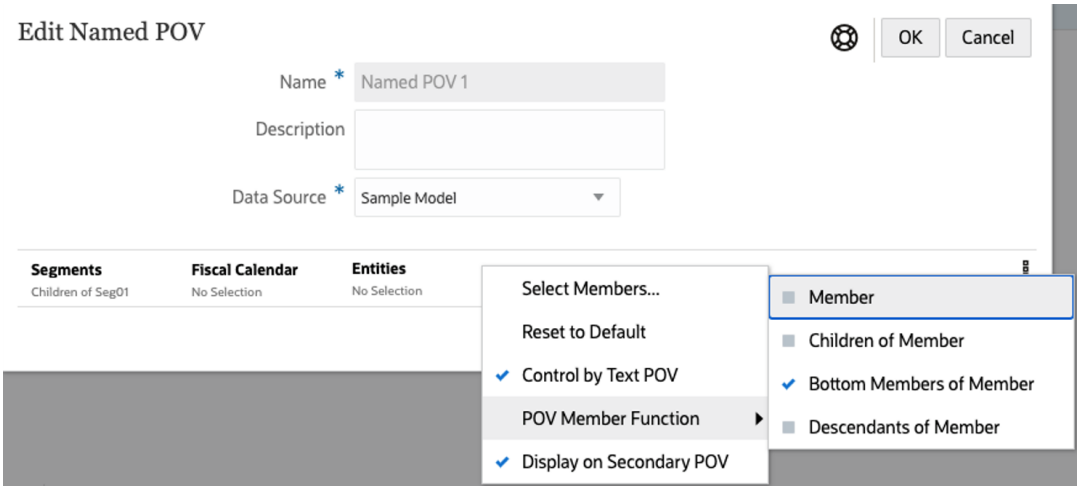
- **「ディメンション・レイアウト」**で、ディメンションをクリックして必要な場所までドラッグ・アンド・ドロップします。必要に応じて、他のディメンションについて繰り返します。
- **「OK」**をクリックして**「ディメンション・レイアウト」**をクローズし、**「名前付き POV の作成」**に戻ります。

9. オプションでテキスト・ボックスのセカンダリ POV を使用して、ノート・テキスト関数の表示を制御する 1 つ以上のレポート POV ディメンションを指定するには:

   ディメンションの**「POV ディメンション処理」** をクリックします。

   - **「テキスト POV による制御」**を選択します。これにより、ディメンションのレポート POV でノート・テキスト関数の表示を制御できます。
   - テキスト・ボックスのセカンダリ POV にディメンションを表示するには、**「セカンダリ POV に表示」**を選択します。
   - オプションで、ユーザーがレポートをプレビューしたときに表示されるデフォルトのメンバー選択オプションを設定するには、**「POV メンバー関数」**を選択し、使用可能なメンバー選択オプションのいずれかを選択します。**「セカンダリ POV 関数」**ダイアログでの選択に応じて、ユーザーはその他のメンバー選択オプションを引き続き使用でき、レポートのプレビュー時にデフォルト・オプションが表示されます。

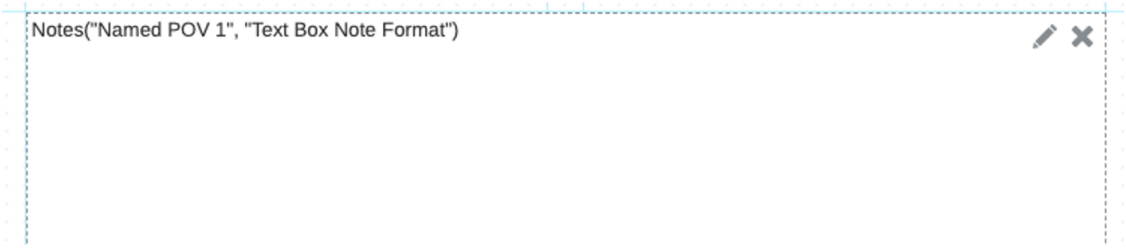
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



10. 名前付き POV の定義が終わったら、**「OK」**をクリックして変更内容を保存します。

例: 名前付き POV および POV ディメンション・オプションの使用

この例では、データ・ソースに対応した**テキスト**・ボックスとそこに挿入された**ノート**・テキスト関数を含むレポートを使用します。

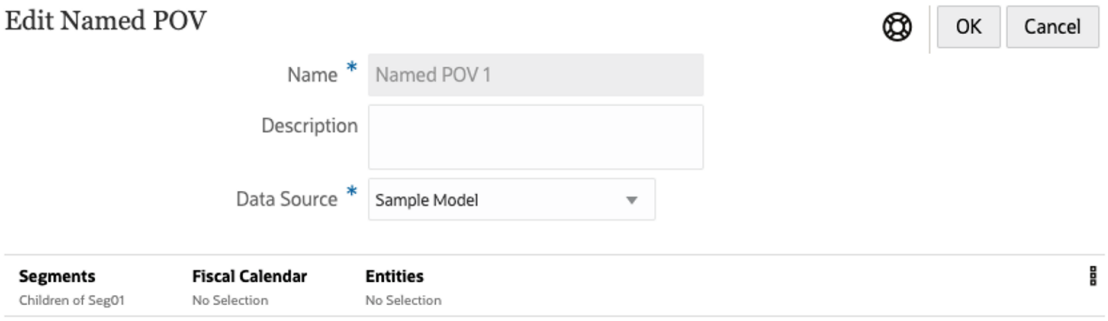


名前付き POV の設計設定

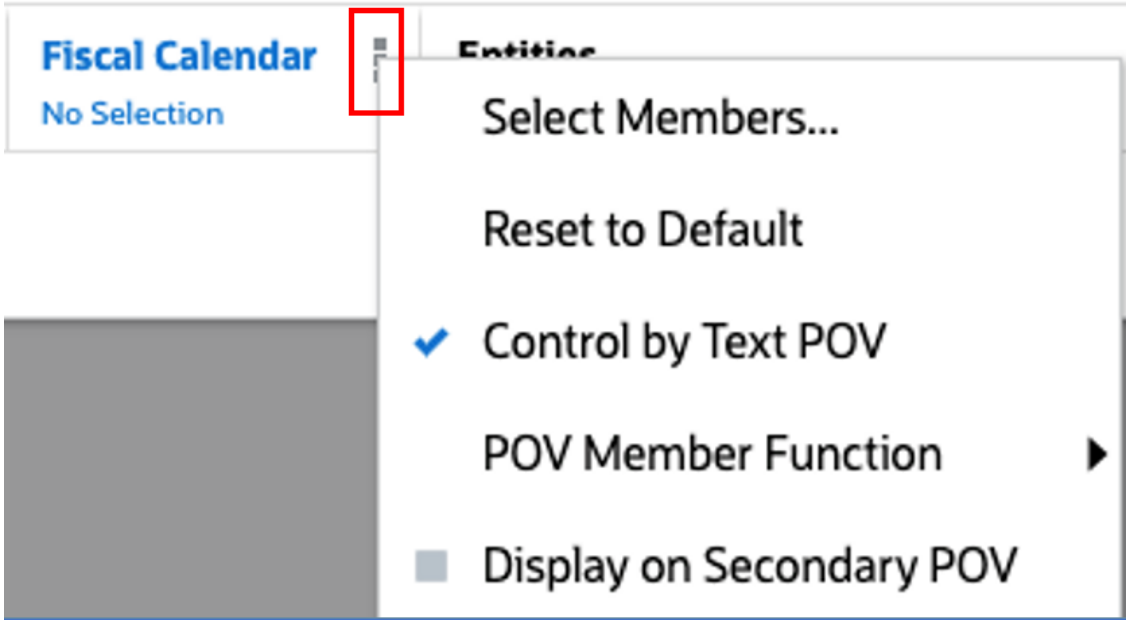
レポートに次のような名前付き POV があります。

- **「Segments」**ディメンションには**「Children of Seg01」**のメンバー選択があります。これは、ノート・テキスト関数を含むテキスト・ボックスに表示される**ノート**が、常に選択された**「Segments」**メンバーのみを含むことを意味します。
- **「Fiscal Calendar」**ディメンションには、定義済のメンバー選択はありません(**「選択なし」**が表示されます)。ディメンション POV オプションでは、**「テキスト POV による制御」**が選択されています。これは、このディメンションのレポート POV 選択が、テキスト・ボックスに表示されるノートを制御することを意味します。
- **「Entities」**ディメンションには、定義済のメンバー選択はありません(**「選択なし」**が表示されます)。ディメンション POV オプションでは、**「テキスト POV による制御」**が選択されています。これは、このディメンションのレポート POV 選択が、テキスト・ボックスに表示されるノートを制御することを意味します。また、POV オプション**「セカンダリ POV に表示」**も有効な場合、セカンダリ POV がテキスト・ボックスの上に表示され、**「Entities」**の**ノート**を制御します。
- 残りのディメンションは、ノートのフィルタリングに使用されなかったため、**名前付き POV** から削除されています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

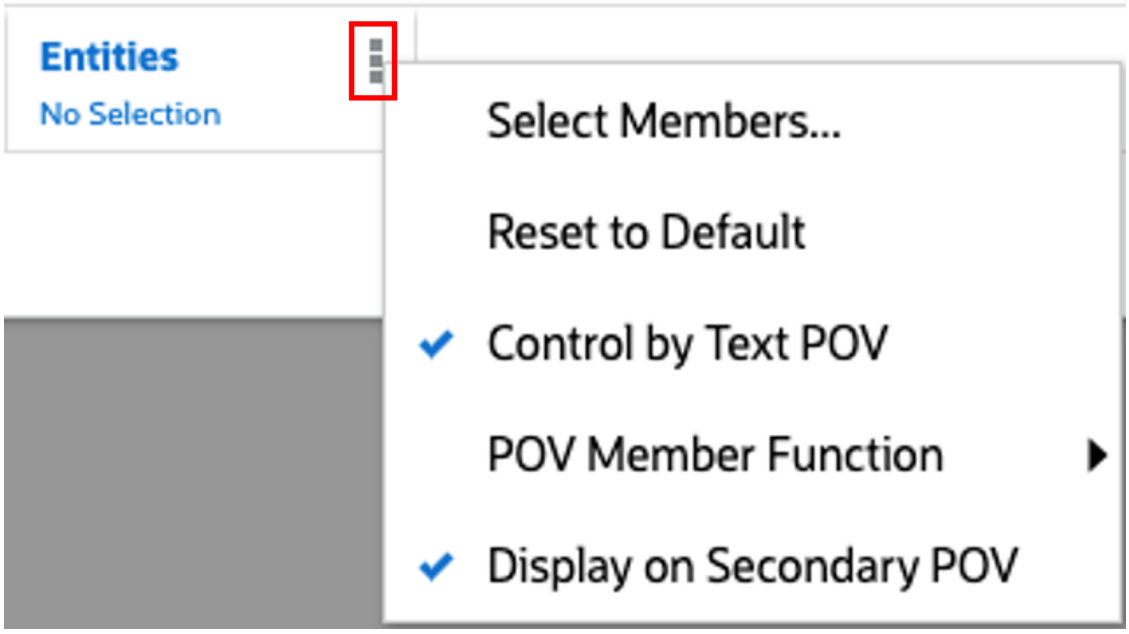


「Fiscal Calendar」の POV ディメンション・オプション

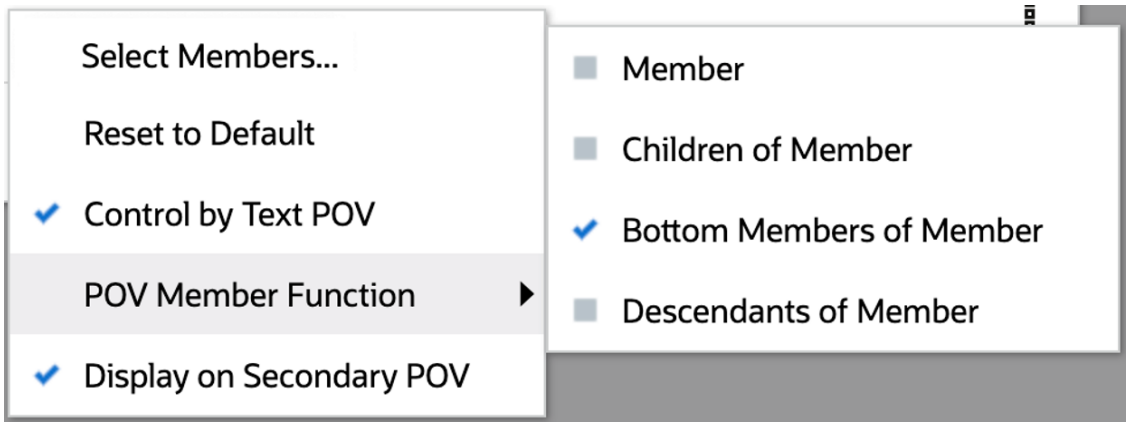


「Entities」の POV ディメンション・オプション

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



「Entities」の POV ディメンション・オプションの**「POV メンバー関数」**で、**「メンバーの下位メンバー」**が選択されています。これは、セカンダリ POV のデフォルト選択です。

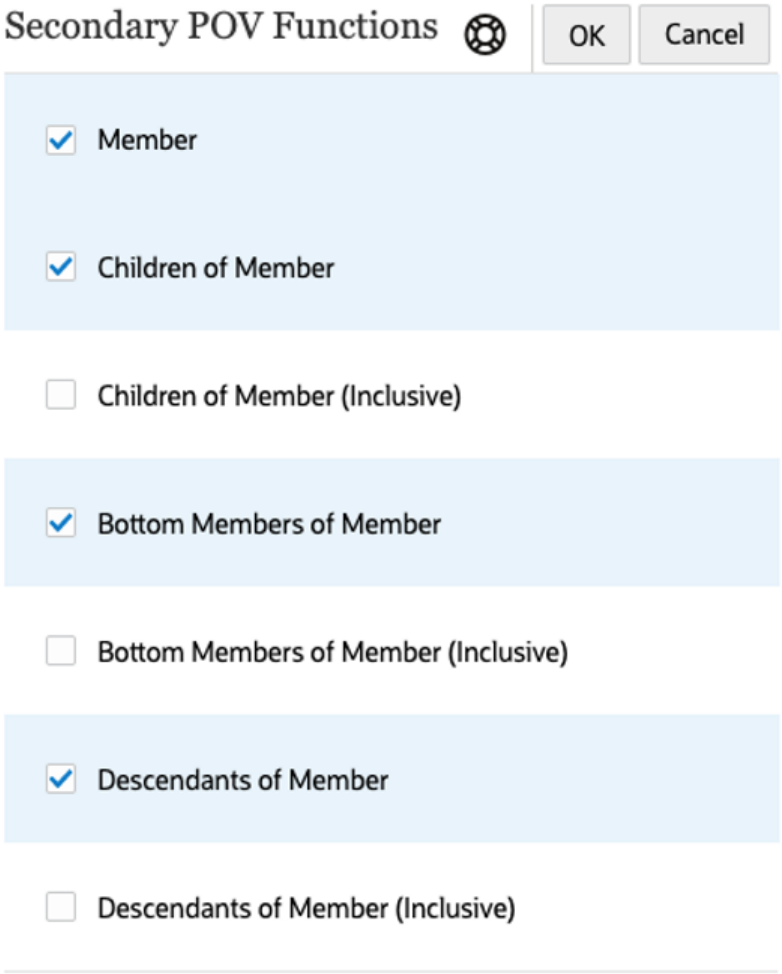


「名前付き POV の管理」の**「処理」** - ⚙ メニューにある**「POV 関数の選択」**を使用して、ノート・テキスト・ボックスのセカンダリ POV にリストされるメンバー選択関数を選択できます。

> ⓘ **Note**
>
> これらの選択は、レポートのすべてのディメンションおよびすべての 名前付き POV に適用されます。

たとえば、セカンダリ POV に表示されるメンバー選択関数のリストから 4 つのみ選択済です。

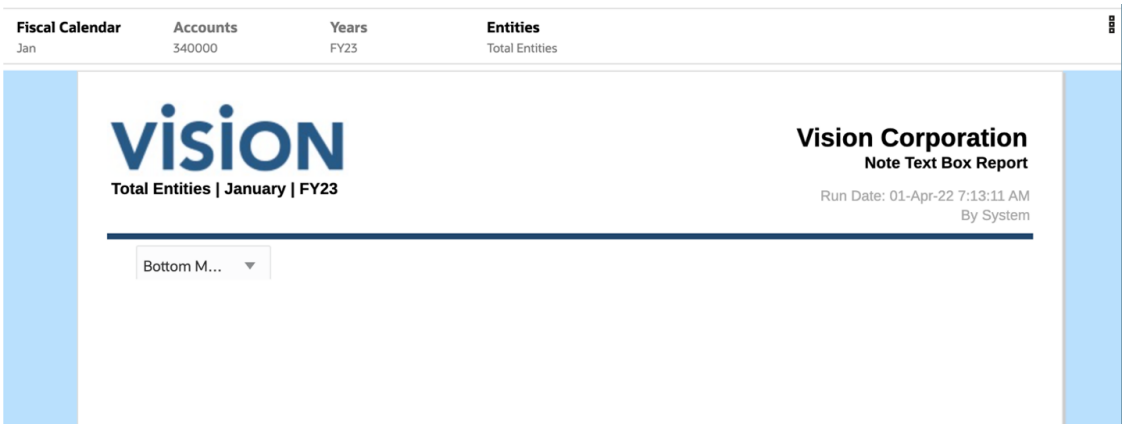
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ノート・テキスト関数があるテキスト・ボックスのレポート出力

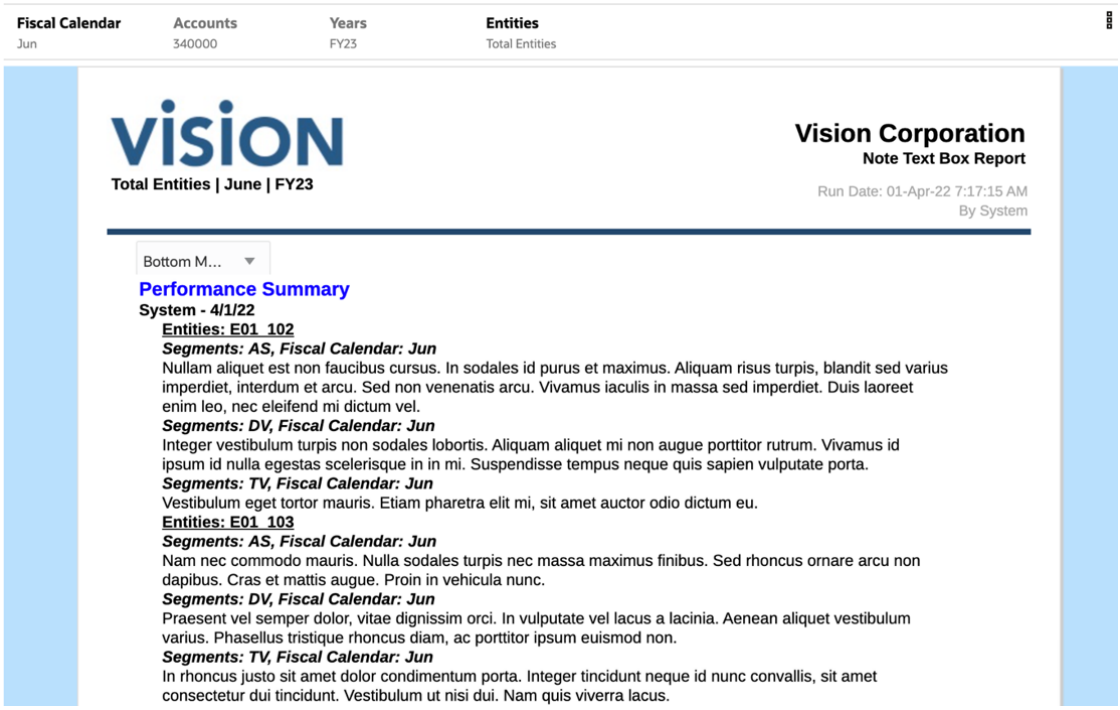
異なる POV 選択でのレポート出力を見てみましょう。ノートは、**6 月**に対してのみ存在しています。他の月には、ノートは入力されていません。

1 月が選択された最初のレポート・プレビューでは、ノートはテキスト・ボックスに表示されません。

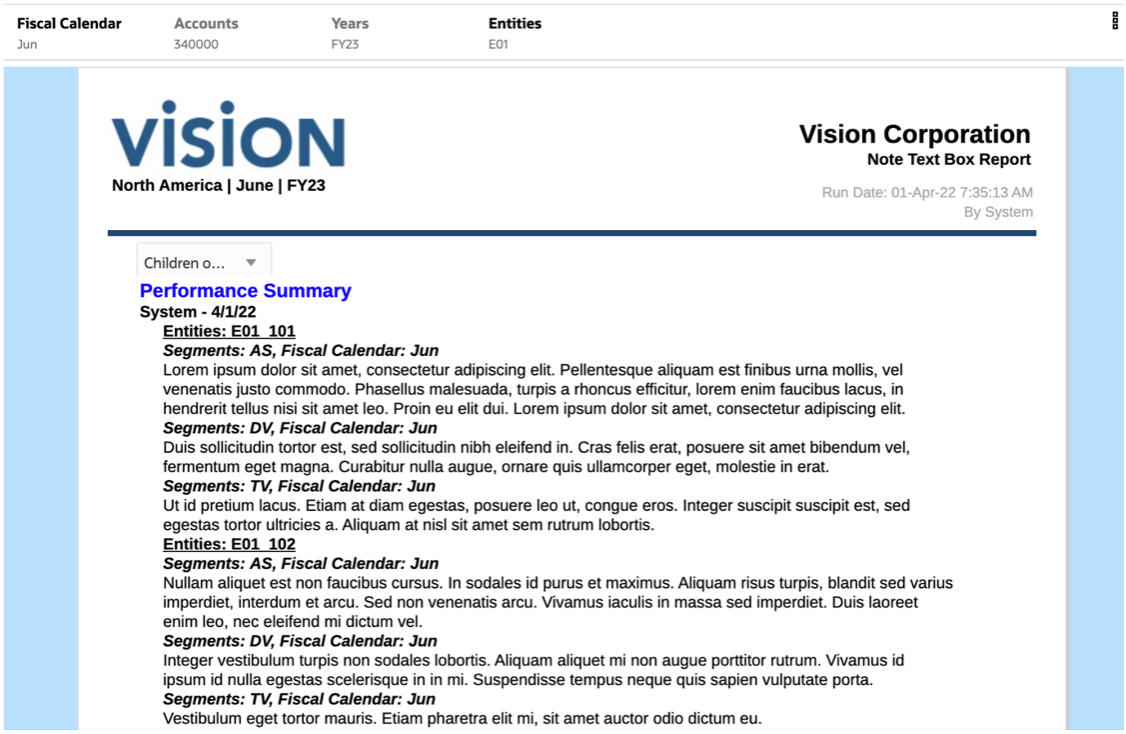


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポート POV で **6 月**が選択されているレポート・プレビュー。**「Total Entities の下位メンバー」**のノートが表示されています。これは、レポート POV で**「Total Entities」**が選択され、かつ**下位メンバー**がセカンダリ POV のデフォルト選択であるためです。



レポート POV で Entities **E01** が選択され、セカンダリ POV で**「Entities の子」**が選択されているレポート・プレビュー。表示される結果が前述のレポート・プレビューの例と部分的に重複していることに注意してください。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポートでのノート・テキスト関数の挿入

ノート・マネージャでノート・フォーマットを作成し、レポートで名前付き POV を作成した後、テキスト・ボックスまたはテキスト行、列あるいはセルにノート・テキスト関数も挿入できます。条件付きテキスト定義でノート・テキスト関数を挿入することもできます。

ノート・フォーマットおよび名前付き POV の詳細は、ノート・フォーマットの操作およびレポートでの名前付き POV の操作を参照してください。

オプションで、テキスト関数パラメータを介して生成 AI (GenAI)を使用して、**「ノートのサマリー」**のために **Notes** テキスト関数を構成できます。詳細は、レポートでの生成 AI の操作を参照してください。

テキスト・ボックス、グリッド・テキスト行、列およびセル、および条件付きテキストの操作の詳細は、次のリンクを参照してください。

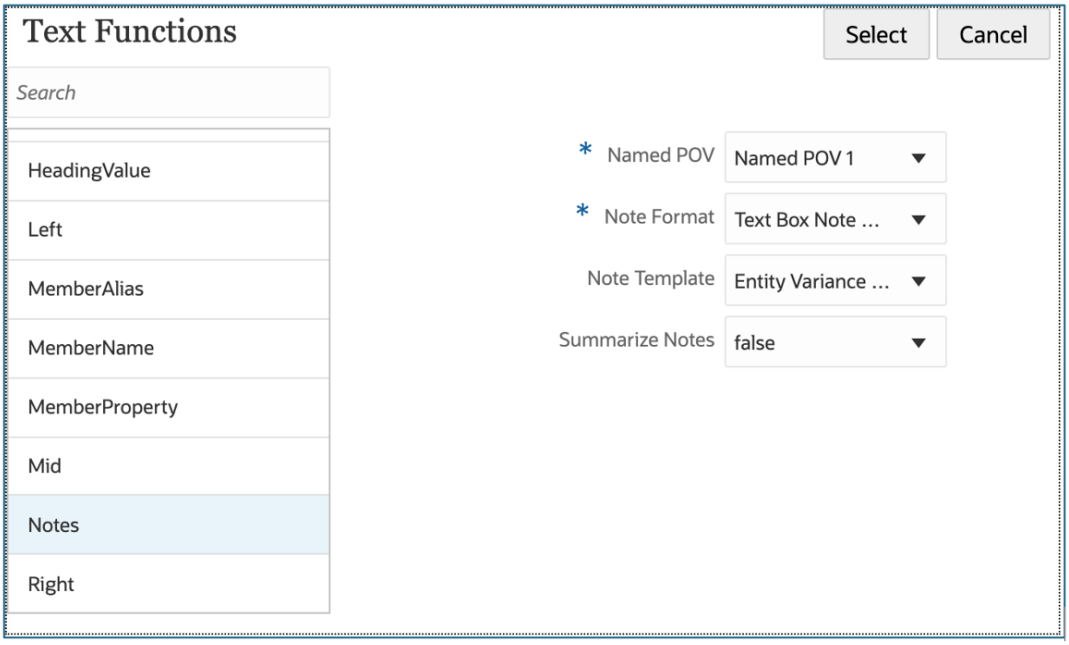
- テキスト・ボックスの追加
- 行および列の挿入
- 条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作

ノート・テキスト関数を挿入するには:

1. テキスト・ボックス、テキスト・セルまたは条件付きテキスト定義のいずれかで
   
   を選択します。
2. **「テキスト関数」**で、**「関数」**ドロップダウン・メニューの**「ノート」**を選択します。
3. 必要な名前付き POV およびノート・フォーマットを選択し、テキスト関数で使用するノート・テンプレートを選択します。

   「ノート・テンプレート」フィールドを空白のままにして、すべてのノート・テンプレートを使用できます。オプションで、「ノートのサマリー」(true または false)を選択することもできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ⓘ ノート

- ノート・フォーマットがリストされていない場合、ノート・マネージャのノート・フォーマット・マネージャで作成する必要があります。詳細は、ノート・フォーマットの操作を参照してください。
- 名前付き POV がリストされていない場合、レポートの名前付き POV マネージャで作成する必要があります。詳細は、レポートでの名前付き POV の操作を参照してください。
- レポートの編集中にノート・フォーマット・マネージャに簡単にアクセスするには、

  および**「ノート・フォーマット・マネージャ」**を選択します。

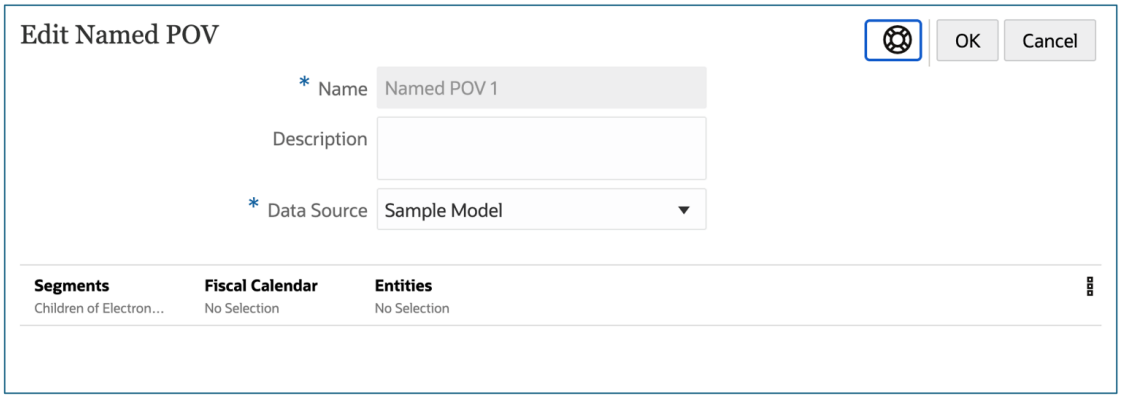
4. **「選択」**をクリックして**「ノート」**テキスト関数を挿入します。

例 12-6 テキスト・ボックスのノート・テキスト関数のレビュー

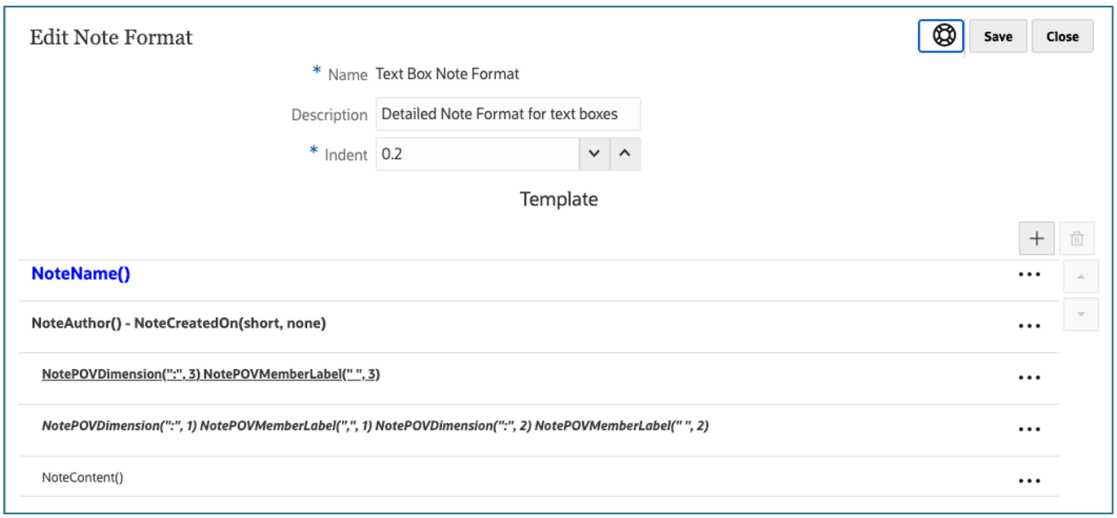
次の例は、レポートのテキスト・ボックスに挿入される名前付き POV、ノート・フォーマットおよびテキスト関数を示しています。

「Segments」、**「Fiscal Calendar」**および**「Entities」**ディメンション、およびそれぞれのメンバー選択がある Named_POVs。残りのディメンションは、選択が必要ではないためディメンション・レイアウトから除去されました。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

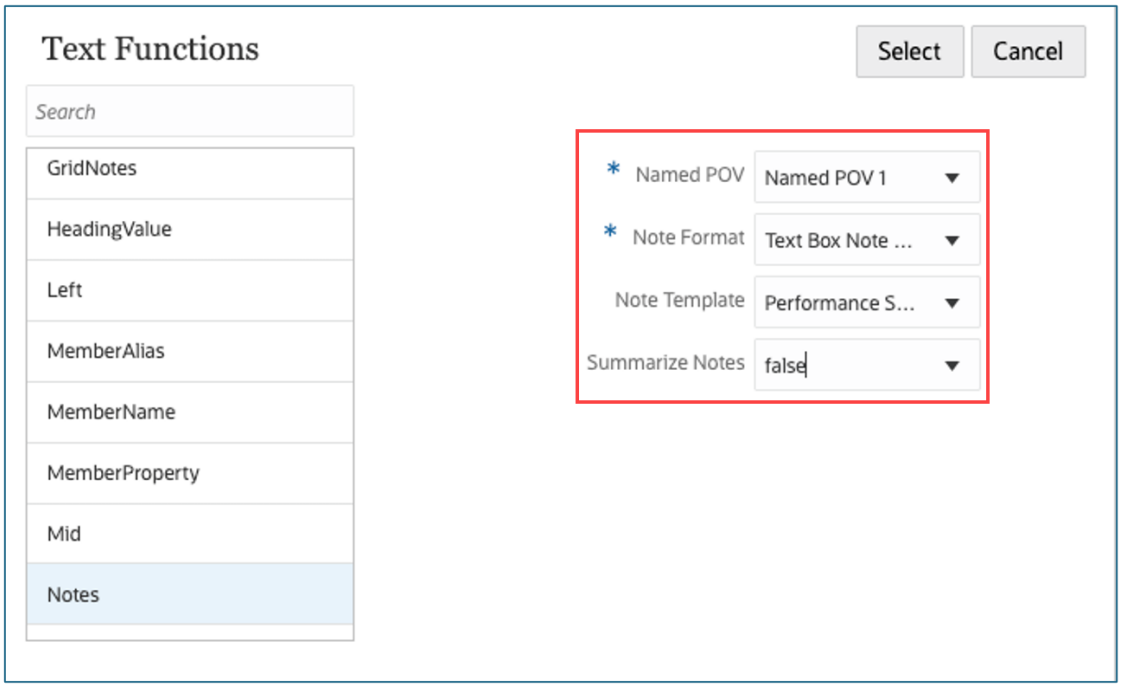


それぞれ**「Segments」**、**「Fiscal Calendar」**および**「Entities」**ディメンションを参照する序数パラメータ`"1"`、`"2"`および`"3"`を持つ`NotePOVDimension`および`NotePOVMemberLabel`テキスト関数がある Text Box Note Format。



Named_POV1、**Text Box Note Format**および**Performance Summary**ノート・テンプレート、および**「ノートのサマリー」** = `false`が選択されたテキスト関数セレクタ。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



テキスト・ボックスに挿入されたノート・テキスト関数:

```
Notes("Named POV 1", "Text Box Note Format", "Performance Summary", false)
```

結果のレポート・プレビューは、ユーザーの**「メンバー・ラベル」**プリファレンスが**「別名」**に設定されているので、`NotePOVMemberLabel` 関数が**「Segments」**、**「Fiscal Calendar」**および**「Entity」**メンバーのメンバー別名を返します。

Performance Summary
System - 7/8/25
Entities: Canada
Segments: Audio Systems, Fiscal Calendar: June
Nullam aliquet est non faucibus cursus. In sodales id purus et maximus. Aliquam risus turpis, blandit sed varius imperdiet, interdum et arcu. Sed non venenatis arcu. Vivamus iaculis in massa sed imperdiet. Duis laoreet enim leo, nec eleifend mi dictum vel.
Segments: Digital Video, Fiscal Calendar: June
Integer vestibulum turpis non sodales lobortis. Aliquam aliquet mi non augue porttitor rutrum. Vivamus id ipsum id nulla egestas scelerisque in in mi. Suspendisse tempus neque quis sapien vulputate porta.
Segments: Televisions, Fiscal Calendar: June
Vestibulum eget tortor mauris. Etiam pharetra elit mi, sit amet auctor odio dictum eu.
Entities: Mexico
Segments: Audio Systems, Fiscal Calendar: June
Nam nec commodo mauris. Nulla sodales turpis nec massa maximus finibus. Sed rhoncus ornare arcu non dapibus. Cras et mattis augue. Proin in vehicula nunc.
Segments: Digital Video, Fiscal Calendar: June
Praesent vel semper dolor, vitae dignissim orci. In vulputate vel lacus a lacinia. Aenean aliquet vestibulum

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

セキュリティ - ノート・テンプレートとノートのロールおよびアクセス権

この項では、ユーザーまたはグループ・ロールに基づくノート・テンプレートおよびノートに対するアクセス権限の制御について説明します。

一般に、システム管理者ロールではすべてのノート・テンプレートおよびノートを参照および保守できます。ノート・テンプレートおよびノートへのアクセス権限はノート・マネージャで設定されます。ノート・テンプレートに割り当てることができる 3 つのタイプの権限に基づきます：

表 12-12 ノート・テンプレートに対するユーザー・ロールとそのタスクの定義

ユーザー・ロール	ユーザー・タスク
管理	• ノートの作成 • ノート・テンプレート、ならびにノート・テンプレートを使用して作成されたすべてのノートの削除、更新および表示 • ノート・テンプレートおよびノートに対するユーザー割当の追加、表示、編集、削除 • デフォルトにより、ノート・テンプレートの作成者にはノート・テンプレートに対する *管理* 権限があります。
書込み	• ノートの作成 • ノート・テンプレート、ならびにノート・テンプレートを使用して作成されたすべてのノートの削除、更新、表示
表示	• ノート・テンプレートの表示 • ノートの表示

レポート管理者ロールまたはシステム管理者ロールでは、レポート・デザイナで新規ノート・テンプレートを作成できますが、ノート・マネージャでは作成できません。

- レポートに対するユーザー・ロールおよびレポート管理者権限では、新規ノート・テンプレートを作成できませんが、作成した既存のノート・テンプレートを挿入できます。
- レポートの設計中、レポート管理者ロールを持つユーザーは、ノート・テンプレートに対して「表示」権限を持つ場合、ノート・テンプレートの表示およびレポートへの挿入のみ可能です。ただし、ノート・テンプレートに対して「管理」または「書込み」権限を持つ場合は、ノート・テンプレートの挿入および編集が可能です。

ノート

ノートに割り当てることができる権限には、次の 2 つのタイプがあります。

表 12-13 ノートに対するユーザー・ロールとそのタスクの定義

ユーザー・ロール	ユーザー・タスク
書込み	ノートにテキストを送信できます。デフォルトにより、ノートの作成者にはノートに対する書込み権限があります。
表示	テキストの表示のみ可能であり、ノートへのテキストの送信はできません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ユーザーにノートに対する最低限の表示アクセス権限しかない場合、ノートはレポート・プレビューでのみ表示可能です。ユーザーがノートの更新を許可されるのは、ノートへの書込み権限がある場合のみです。ノートでは、**「権限をノート・テンプレートから継承」**がデフォルトで設定されています。ノートに対する書込み権限を持つユーザーのみがこの設定を変更できます。

表 12-14 「権限をノート・テンプレートから継承」に対するユーザー・ロールとそのタスクの定義

ユーザー・ロール	ユーザー・タスク
「権限をノート・テンプレートから継承」が有効	テンプレートに対するユーザーの権限はノートにも適用されます
「権限をノート・テンプレートから継承」が無効	ノートには権限が個別に格納され、ノートはノート・テンプレート権限にリンクされません

ベスト・プラクティス

全般:

- ノート・テンプレートの作成後は名前を変更できません。
- ノート・テンプレートの「編集可能」プロパティを使用して、1 つのテンプレートに基づいたすべてのノートの編集をロックダウンできます。

レポートで**「ノート」**ボックスを挿入して**ノート・テンプレート**を使用する場合:

- すべてのノートおよびその他のレポート・オブジェクト・コンテンツを 1 つのページに保持するには、ノート・テンプレートのサイズを「固定」に設定し、文字制限を設定します。
- 個別のノート・テンプレートを作成するケースは次のとおりです。
  - レポートに表示される様々なタイプのナラティブについて、特にグリッドおよびチャートなどのその他レポート・オブジェクトで分割されている場合は、個別のノート・テンプレートを作成する必要があります。
  - 可能な場合は、異なる POV を使用して、ノート・テンプレートを別のレポートでナラティブ収集のために再利用できます。

POV の使用方法:

- ノート・エントリまたはノート・テンプレート・ディメンション・レイアウトによるレポートに使用されない POV ディメンションは除外できます。
- ただし、ノート・テンプレートからノートを作成した後は、ディメンション・レイアウトを変更できません。

レポートで**「ノート」**ボックスを挿入して**ノート・テンプレート**を使用する場合:

- POV 選択を使用して、期間ごとに特定の期間およびその他のディメンションへのエントリを制限または許可します。
- 1 つのディメンションに対して複数のメンバーを選択し、ユーザーはメンバーを選択してそれぞれにノートを入力できます(例: エンティティ・ディメンション、部門ディメンション)。
  - ユーザーがリストにあるメンバー以外のメンバーを選択できないよう、POV ディメンションで「提案のみ表示」を使用できます。
  - ロールフォワード時に、ユーザーが現在のレポート期間のノートのみ入力するよう、時間関連ディメンションの POV 選択を変更できます

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

13

ブックの操作

次も参照:

- ブックについて
  ブックを使用すると、Narrative Reporting のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、カスタマイズ可能な目次と共通のマージンを持つ単一の PDF 出力を生成できます。
- ブックの作成に関する制限事項
  この項には、ブックの作成方法とその制限事項が記載されています。
- ブック作成ウィンドウへのアクセス
- ブックの作成
- ブック定義の保存
  ブックのメタデータをそのまま保持するには、ブック定義を保存する必要があります。
- ブック・デザイナについて
- ブック視点の設定
- ブックでの文書の管理
- レポート・プロンプト選択の定義
- レポート、ブックおよびセクションの視点選択の操作
- ブックでの目次の表示
- セクションの操作
- 複数のデータ・ソースの操作

ブックについて

ブックを使用すると、Narrative Reporting のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、カスタマイズ可能な目次と共通のマージンを持つ単一の PDF 出力を生成できます。

ブックを使用すると、1 つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一の PDF または Excel 出力を生成できます。オプションで、目次(TOC)定義を挿入した Word 文書、共通マージン、ページ・ヘッダーとフッターを使用して、カスタマイズされた目次を含めることができます。

レポートは、複数メンバー選択に対して実行できます。たとえば、複数の**部門**または**エンティティ**に対して 1 つ以上のレポートを実行できます。**セクション**を挿入して、複数のレポートおよびメンバー選択をループできます。また、**セクション**を使用して、目次表示用に複数のレポートを 1 レベルにグループ化できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> 抑制されたグリッドがあるレポートは、ブックの PDF または Excel 出力に含まれません。レポートでは、レポートの本文のテキスト・ボックスやイメージなど、他のレポート・オブジェクトがないグリッド全体に対して抑制が有効化されている必要があります。

次の高レベル機能を備えています。

- Narrative Reporting で、レポート、他のブック、Word 文書および PDF 文書をブックに挿入できます。Word 文書および PDF 文書はライブラリにアップロードする必要があります。

  Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントでは、文書を**「文書」**タブからアップロードし、**「レポート」**カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択できます。
- ローカル・ファイル・システムからは挿入できません。
- 目次の書式設定とレイアウトに加えて、ブック内の文書ごとに表示される情報もカスタマイズできます。
- レポートまたはセクションごとにカスケードする視点(POV)メンバーを選択できます。
- ブックの実行時に POV を選択できます。
- 階層レベルおよびディメンション・セクションを編成するためにカスケードする、複数レベルのセクションを作成できます。
- **「ページ設定」**を使用して、ページ番号、マージンおよびヘッダーとフッターを定義できます。
- 複数のデータ・ソースを持つブックをプレビューするとき、単一の POV ディメンション選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体で共通のディメンションが組み合されます。

次の概要ビデオを視聴して、ブックの詳細を学習します。

 -- 概要: Narrative Reporting のブック.

このビデオでは、ブックを作成および管理する方法について説明します。ブックを使用して、レポート、その他のブックおよび文書を 1 つの Excel または PDF 提出物(すべての部門の財務レポートの会計帳簿など)にコンパイルし、レポートや分析をより適切に編成および合理化します。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ブックを作成する方法を学習します。

 -- Narrative Reporting でのブックの作成.

ブックを使用すると、1 つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一の Excel または PDF 出力を生成できます。このビデオでは、Narrative Reporting でブックを作成する方法を学習します。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ブック・セクションを操作する方法を学習します。

 -- Narrative Reporting でのブック・セクションの操作.

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブックのセクションを使用して、複数のレポートおよびメンバー選択をループし、目次表示用にレポートを 1 レベルでグループ化できます。このビデオでは、Narrative Reporting でブック・セクションを操作する方法を学習します。

ブックの作成に関する制限事項

この項には、ブックの作成方法とその制限事項が記載されています。

現在のリリースでは、ブックには次の制限があります。

- ブック・デザイナの"ツリー"で許可されるノードの最大数は **50** です。

  > **ⓘ ノート**
  >
  > 許容されるノードの最大数を超える多数のアーティファクトを追加すると、エラーを受信し、選択したアーティファクトの一部は最大許可数まで追加されます。

- 許可されるカスケード展開の最大数は **600** です。これは、ブックの実行の開始時に生成されるアイテム(展開)の最大数を表します。これは、顧客が設計時に定義したすべての問合せをブックがカスケードするときに生成される Word、PDF、レポート、ブックおよびセクションのすべてを含みます。

  たとえば、目次(TOC)および 2 つのレポートがあるセクションを含むブックの場合は次のようになります: **「Report#1」**および**「Report#2」**は**「Section#1」**の下にあり、**「Period」**ディメンションの**「CurrentPOV」**選択を持つため、両方のレポートは**「Q1」**および**「Q2」**に対して実行されることに注意してください。

  - 目次
  - Section#1 {Period: Q1, Q2}
    - Report#1 {Period: CurrentPov}
    - Report#2 {Period: CurrentPov}

  7 個の展開アイテムが生成されます(TOC に 1 つ、Section#1 に 2 つ、Report#1 に 2 つ、Report#2 に 2 つ)。

- 実行可能な CascadeExpansion (レポートまたはブック)の許可されている最大数は、**425** です。これは、データ・ソースに対して実行する必要がある展開アイテム(レポートまたは挿入されるブック)の合計数を表します。

  前述の同じ例には、**7** 個の展開アイテムがありますが、それらの 4 個のみが実行可能です。Word、PDF またはセクションに関連付けられて実行するものはないため、それらはこのガバナーから独立しており、考慮されません。

  4 個の実行可能展開アイテムが生成されます(Report#1 に 2 つ、Report#2 に 2 つ)

- 許可されている最大文書(Word または PDF)サイズは、**5 MB** です。

- 1 つ以上のブック(**ブック 1**、**ブック 2** など)を別のブック("メイン・ブック"と呼ぶ)に挿入した場合、"メイン・ブック"の目次には、挿入したブックの TOC は表示されません。そのかわり、"メイン・ブック"の TOC には、挿入したブックが 1 つの TOC エントリとして表示され、挿入したブックの TOC の詳細は表示されません。ただし、ブックを実行したときに、挿入したブックの TOC は更新されず、"メイン・ブック"の TOC のみが更新されます。

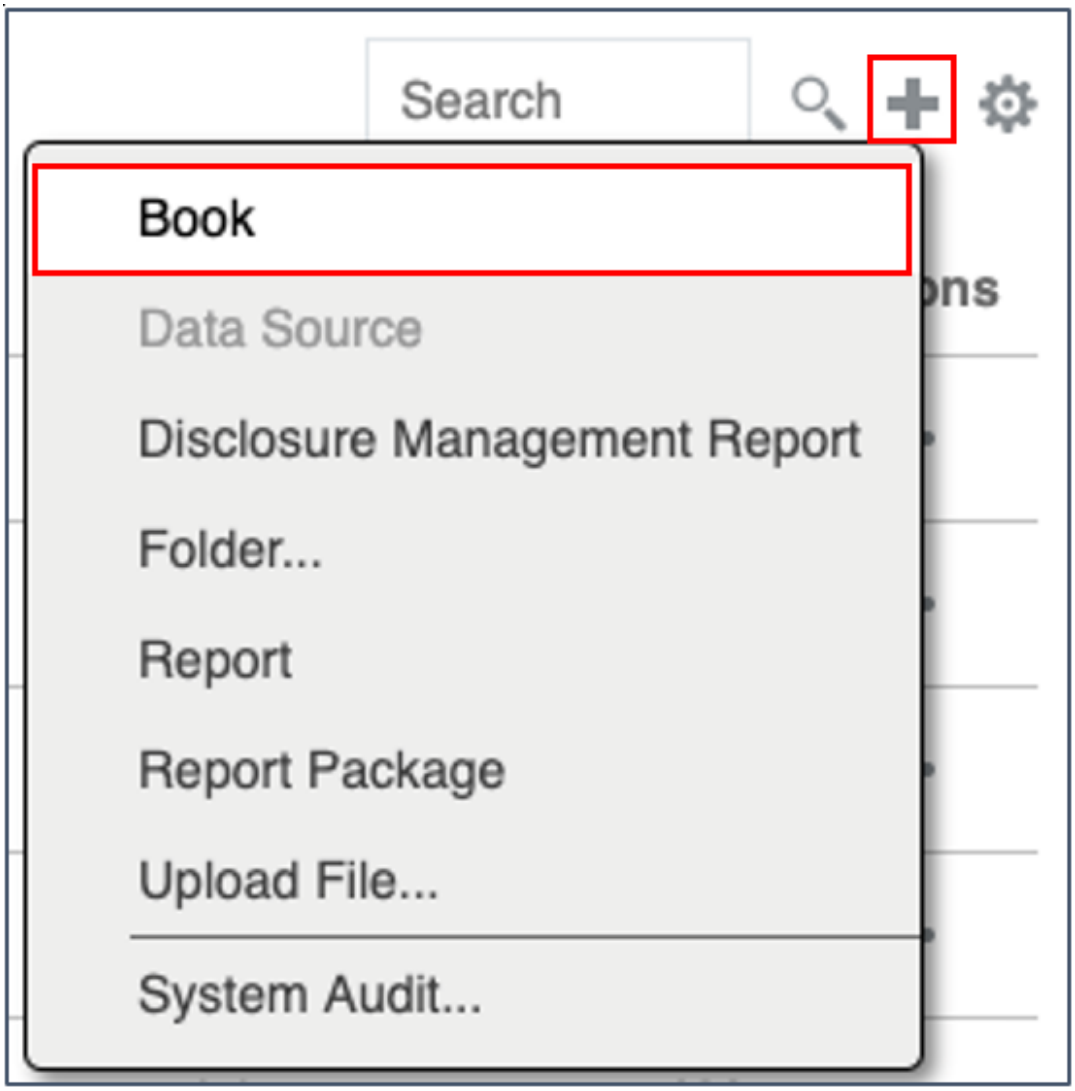
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブック作成ウィンドウへのアクセス

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

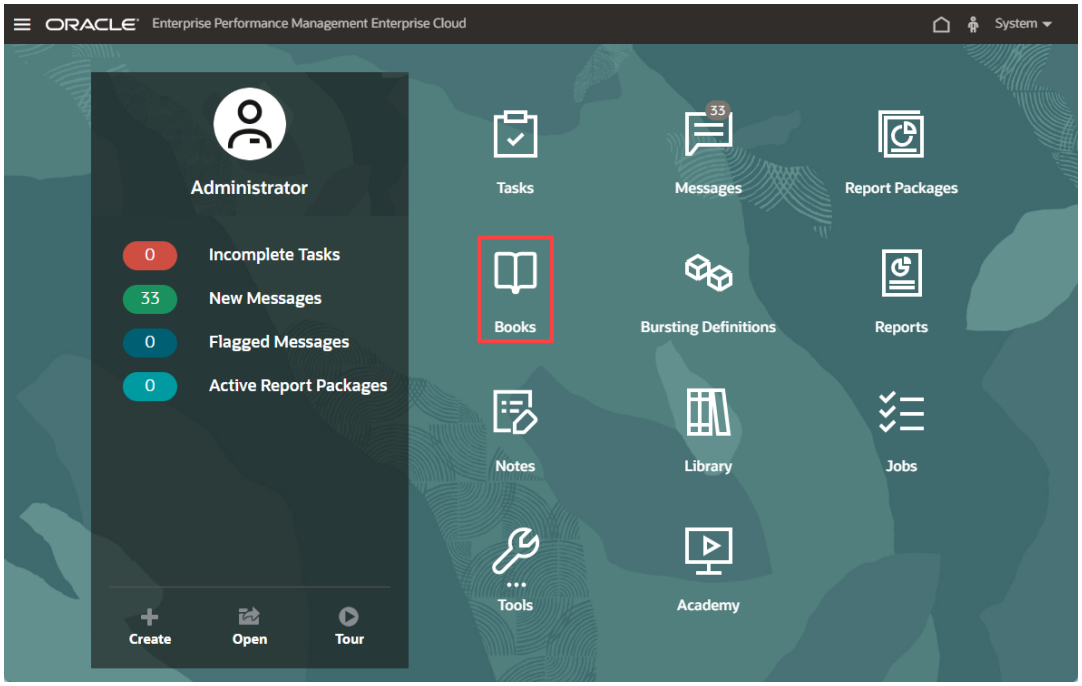
次の方法でブック作成ウィンドウにアクセスします。

1. 「ブック」システム・フォルダまたはシステム以外のフォルダから、**「追加」** - をクリックし、メニューから**「ブック」**を選択してブックを作成できます。

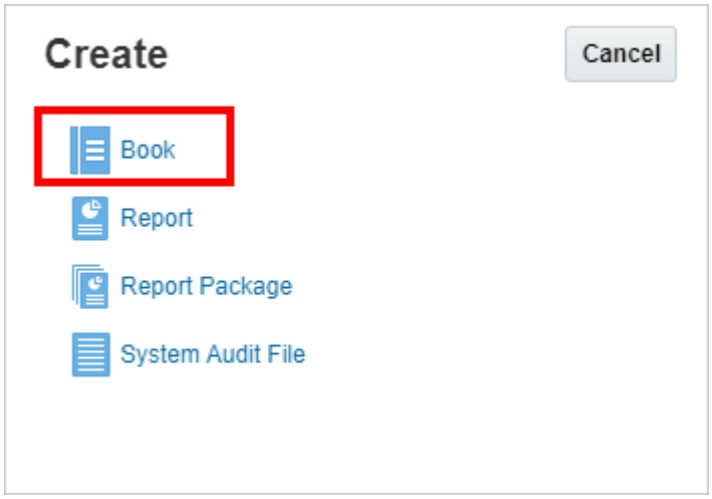


2. **「ブック」**ペインから**「追加」** - をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



3. ホーム・ページから、**「作成」**をクリックし、**「ブック」**を選択します。



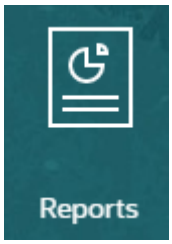
> ⓘ **ノート**
>
> 「ブック」ペインで、既存のブックのリストを「最近」、「お気に入り」および「すべて」でフィルタ処理できます。

Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントの場合:

ブック作成ウィンドウにアクセスします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

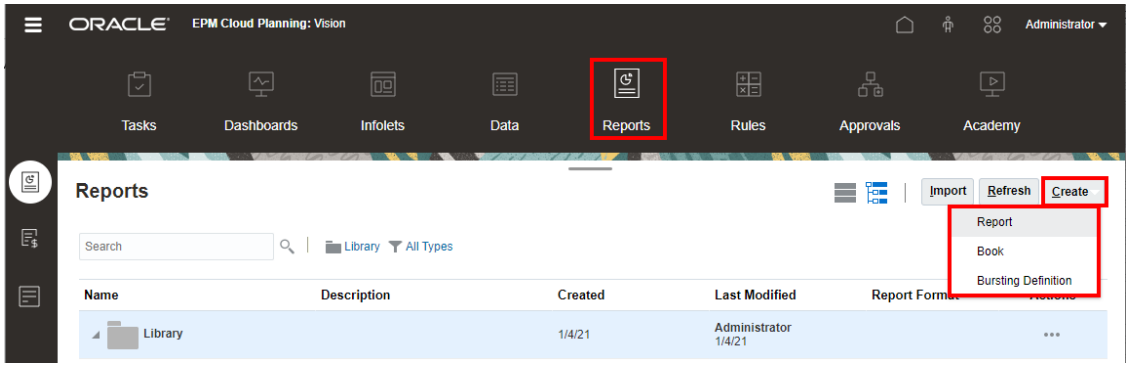
Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスから、



「レポート」カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択します。

Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Planning および Planning モジュールで、左ペインから**「レポート」**アイコンを選択します。

Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから**「レポート」**を選択します。コンテンツ・ペインの上部にある**「作成」**ドロップダウン・メニューをクリックし、**「ブック」**をクリックしてブック作成ウィンドウを起動します。



詳細は、次のリンクを参照してください。

- 次の概要ビデオを視聴して、ブックの詳細を学習します。

  -- ブックの概要.

  このビデオでは、ブックを作成および使用する方法について説明します。ブックを使用して、管理レポート、その他のブックおよび文書を 1 つの PDF 提出物(すべての部門の財務レポートの会計帳簿など)にコンパイルし、レポートや分析がより適切に編成および合理化されます。

- 次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ブックを作成する方法を学習します。

  -- Narrative Reporting でのブックの作成.

  ブックを使用すると、1 つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一の PDF 出力を生成できます。このビデオでは、Narrative Reporting でブックを作成する方法を学習します。

- 次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ブック・セクションを操作する方法を学習します。

  -- Narrative Reporting でのブック・セクションの操作.

  ブックのセクションを使用して、複数のレポートおよびメンバー選択をループし、目次表示用にレポートを 1 レベルでグループ化できます。このビデオでは、Narrative Reporting でブック・セクションを操作する方法を学習します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- ブックについて
- ブックの作成
- ブック・デザイナについて

ブックの作成

ブックを作成するには、次のステップを実行します。

1. **「ブックの作成」**の**「フォルダの選択」**で、目的の**「ライブラリ」**フォルダを選択して、左側の**「使用可能」**ペインにリストされている文書を選択します。

   > **ノート**
   >
   > レポート、他のブック、Word 文書および PDF 文書がサポートされています。

2. 左ペインの**「使用可能」**リストから 1 つ以上の文書を選択し、**「右へ移動」**ボタン -  をクリックして、右側の**「選択済」**ペインに目的の文書を移動します。

   > **ノート**
   >
   > **「右へ移動」** -  および**「左へ移動」** -  ボタンを使用して、右側の**「選択済」**文書ペイン内の文書を追加または削除できます。

   - 最初に文書を選択した後に、必要に応じて同じ文書を複数回追加できます。
   - **「データ・ソース」**セクションには、選択したレポートおよびブックのデータ・ソースが表示されます。

3. ***オプション:*** **「セクション詳細」**で、**「デフォルト・セクションの作成」**を選択し、次に、選択したすべての文書をグループ化するセクションの**「名前」**を入力します。
4. ***オプション:*** POV ディメンションをデータ・ソースに追加するには、**「データ・ソース」**ドロップダウンから必要なデータ・ソースを選択し、**「ディメンションの選択」**をクリックして**「ディメンション・レイアウト」**をオープンし、**「セクション」**の目的の POV ディメンションを選択します。

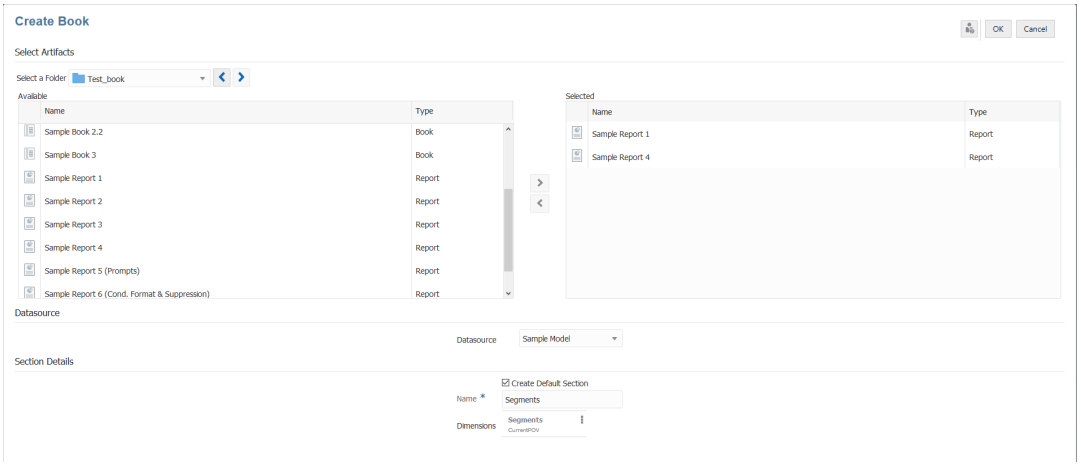
   > **ノート**
   >
   > **「ディメンションの選択」**または**「ディメンション・レイアウト」**で使用可能なディメンションは、**「データ・ソース」**ドロップダウンの選択肢に基づきます。

   セクションを使用して、複数の文書を 1 つの共通目次エントリにグループ化し、共通の視点に対してレポートを実行できます。
5. **「OK」**をクリックします。ページが**ブック・デザイナ**・ウィンドウに移動します。
   - ブック・デザイナを使用して、追加のセクションを作成できます。
   - **デフォルト・セクション**の POV は、後で**ブック・デザイナ**で定義できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> ブックに複数のデータ・ソースが含まれる場合は、ブック・デザイナで、「処理」メニューから「データ・ソースの管理」を選択してデータ・ソースを手動で追加する必要があります。そうしないと、追加のデータ・ソースがあるレポートまたはブックに対して、データ・ソース<data source name>は使用可能なデータ・ソースではありませんという検証エラーが発生します。データ・ソースの管理を参照してください。

たとえば、次のイメージでは、文書**「Sample Report 1」**と**「Sample Report 4」**が選択され、**「Segments」**というデフォルト・**セクション**がユーザー・インタフェースに定義されています。



レポートを選択した後に、**ブック・デザイナ**・ウィンドウを表示できます。

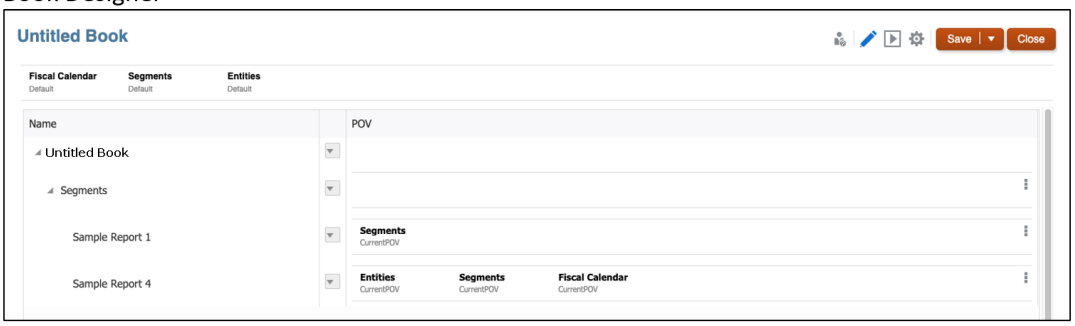
その結果、**ブック・デザイナ**のレイアウトには、**「Segments」**という**セクション**に、2 つのサンプル・レポートが子ノードとして表示されます。

ブック・デザイナで、**「Segments」**という**デフォルト・セクション**の POV を定義できます。

> **ノート**
>
> 文書をブックに追加すると、その文書はライブラリへのリンクを参照します。実際の文書はブックにコピーされません。
>
> ただし、目次定義はブックにコピーされ、ライブラリのソース文書にはリンクされません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Book Designer



次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ブックを作成する方法を学習します。

-- Narrative Reporting でのブックの作成.

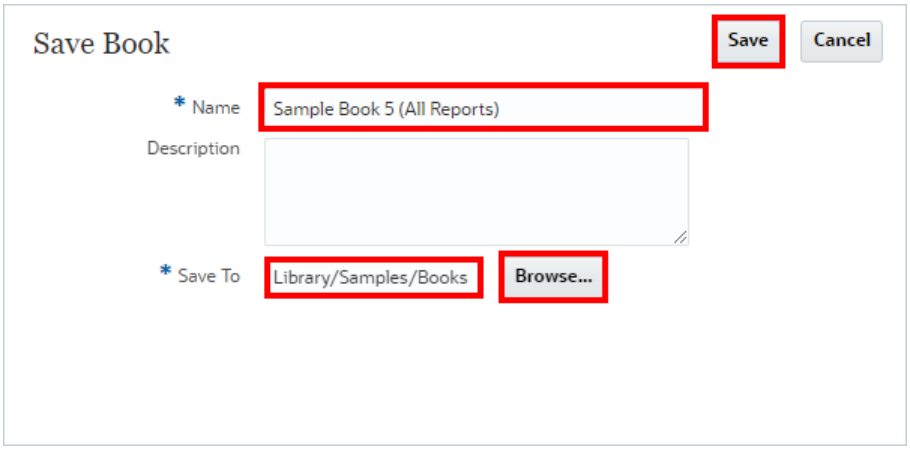
ブックを使用すると、1 つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一の PDF 出力を生成できます。このビデオでは、Narrative Reporting でブックを作成する方法を学習します。

ブック定義の保存

ブックのメタデータをそのまま保持するには、ブック定義を保存する必要があります。

ブック定義を保存するには:

1. **ブック・デザイナ・ツールバー**から**「保存」**または**「別名保存」**をクリックします
2. **「ブックの保存」**で、**名前**を入力し、**「参照」**をクリックしてブックをライブラリに保存します。



3. **「保存」**をクリックします。

ブック・デザイナについて

ブック・デザイナには、次の内容を表示できます。

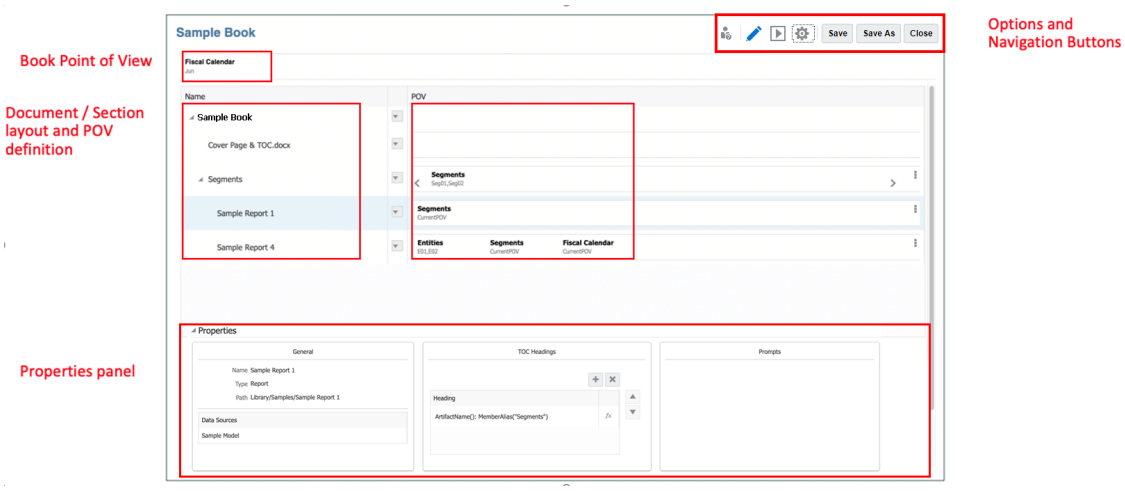
- 視点(POV)バー。ブックに対して実行するメンバーを選択できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- コンテンツ・ペイン。文書の追加、削除および移動に加えて、セクションおよびレポートの POV を定義できます。

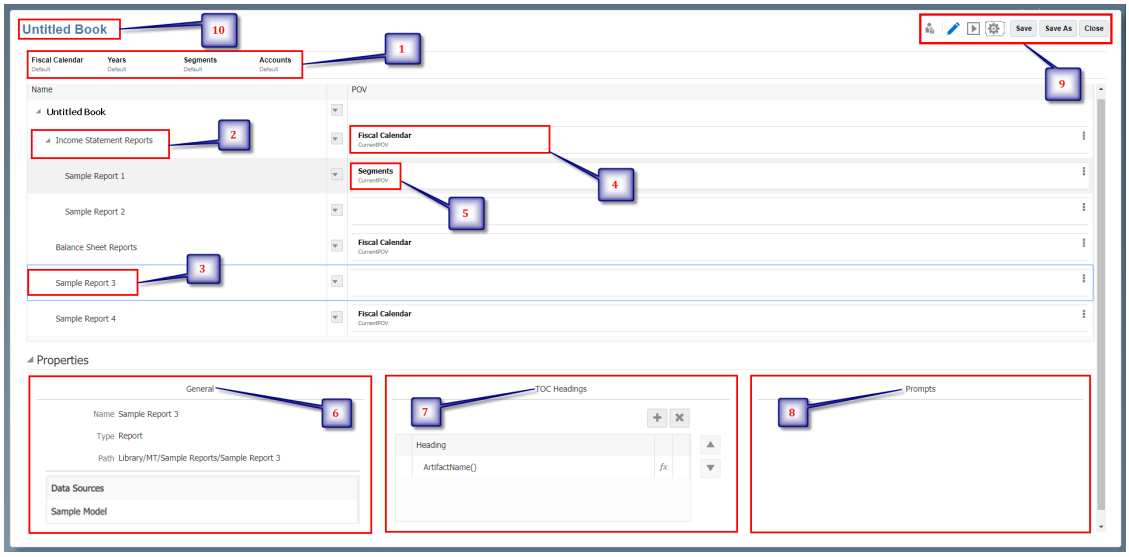
  ブックには次の文書タイプを挿入できます: レポート、他のブック、Microsoft Word 文書および PDF 文書。

- ブック・デザイナ・ツールバーを使用して、編集モードとプレビュー・モードの切替え、ブックの保存、**「ページ設定」**のオープン、およびブックのコンテンツの**検証**を実行できます。
- 「プロパティ」ペインを使用して、文書またはセクションの情報を表示し、文書またはセクションの目次表示を設定できます。



ブック・デザイナ・ウィンドウ内の移動

次の表に、**ブック・デザイナ**・ウィンドウの一般的なレイアウトを説明します。画面の番号付き要素は、「イメージ内のポインタ」列の番号に対応します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 13-1 ブック・レイアウト情報

イメージ内のポインタ	ブック・レイアウト情報	摘要
1	ブック視点	ブック視点(POV)は、レポート・グリッド、およびブックやセクション POV に定義されていないディメンションのメンバーを指定します。
2	ブック内のセクション	セクションを使用して、複数の文書を 1 つの共通目次エントリにグループ化し、オプションで共通の POV に対してレポートを実行できます。
3	セクション内の文書	セクション内に文書を追加できます。たとえば、*Sample Report 3* 文書が追加されます。
4	セクションの視点	セクションの POV ディメンションを表示できます。
5	文書の視点	*Sample Report 1* 文書には、文書の *セグメント* POV が表示されます。
6	「プロパティ」ペイン内の一般情報	選択したレポートまたはブックの情報を表示できます。
7	「プロパティ」ペイン内の目次	文書またはセクションの目次表示を設定できます。テキスト関数を使用して、1 行以上の見出しを定義し、選択した文書またはセクションに表示できます。
8	「プロパティ」ペイン内のプロンプト	ブックにプロンプトを使用するレポートが含まれる場合は、プロンプトに対する応答を設定します。
9	ブック・デザイナ・ツールバー	次の処理を実行できます: ブックの**編集**または**プレビュー**、**ページ設定**、**データ・ソースの管理**、**検証**、**保存**または**別名保存**、および**クローズ**。
10	ブック名	ブック名が表示されます。

ブック・デザイナ・ツールバーについて

ブック・デザイナ・ツールバーでは、次の操作を実行できます。

編集/プレビュー - 

「編集」および**「プレビュー」**を使用して、ブック・デザイナと、**「PDF」**または**「Excel」**書式のブック出力のプレビューを切り替えます。

プレビュー・モードでは、  -「処理」メニューを使用して、次の操作を実行できます。

- **「Excel」**または**「PDF」**書式間でプレビュー・モードを切り替えます。
- **PDF としてダウンロード** - ブックを**「PDF」**としてダウンロードできます。
- **Excel 形式でダウンロード** - ブックを**「Excel」**形式でダウンロードできます。

ブックの PDF プレビューには次の機能があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

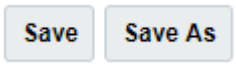
- サムネイル・サイドバーの切替え
- 文書内のテキストの検索
- 前/次のページへの移動
- 入力されたページ番号への移動
- 「ズーム・イン」/「ズーム・アウト」ボタン
- ズーム・レベルの選択(例: %s、**自動**、**「ページ幅」**など)
- プレゼンテーション・モードに切替え
- 文書の印刷
- 文書のダウンロード
- 他のナビゲーションおよび表示ツール

処理 - 

「処理」を使用して、次を行えます:

- **「ページ設定」**にアクセスして、ページ番号、マージンおよびヘッダーとフッターを定義できます。
- ブックのコンテンツを**検証**できます。
- ブックの**データ・ソースを管理**できます。

保存 / 別名保存 -



ブック定義をライブラリに保存します。

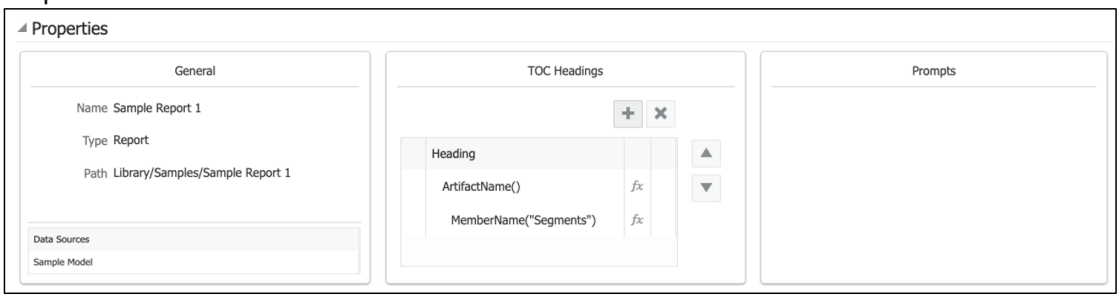
ブック・プロパティについて

ブック・プロパティ・ペインには、次の 3 つのセクションがあります。

- **一般**。文書またはセクション情報(レポート、ブックまたはセクションのデータ・ソースを含む)を表示できます。
- **目次見出し**。文書またはセクションの目次表示を設定できます。テキスト関数を使用して、1 行以上の見出しを定義し、選択した文書またはセクションに表示できます。
- **プロンプト**。ブックにプロンプトを使用するレポートが含まれる場合は、プロンプトに対する応答を設定します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Properties Pane



ブック・デザイナの操作

ブック視点について

ブック視点(POV)は、レポート・グリッド、レポート、ブックまたはセクション POV に定義されていないディメンションのメンバーを指定します。

ブック設計者は、次の操作を実行して、ブック参照者の POV を設定できます。

- ブックの実行時にブック参照者が選択するように、各ディメンションに 1 つ以上の POV メンバーを定義できます。
- ブック参照者に対して、ディメンションの任意のメンバーの選択を許可できます。
- ブック参照者に対して、ディメンションの選択を単一のメンバー選択にロックできます。
- ブック参照者に対して、1 つ以上のディメンションを非表示にできます。

ブックのプレビュー時に、POV を変更して、特定のメンバー選択に対してブックを実行できます。

ブック視点の設定

デフォルト設定: POV ディメンションに対してメンバー選択またはオプションが設定されていない場合のディメンションのデフォルト状態です。

複数のメンバーの選択: ブック編集モードでは、ディメンションに複数のメンバーを選択できます。関数を使用して、ブック参照者がブック実行時に選択するメンバーのリストを定義できます。たとえば、「`Total Entities` の子」です。

ユーザー選択のロックまたは制限: **「提案のみ表示」**または**「すべてのメンバーの許可」**オプションを使用して、ブック参照者が他のメンバーを選択できないように選択肢をロックするか、定義したメンバー以外のメンバーをブック参照者が選択できるようにします。

ディメンションの非表示: このオプションを使用して、ブック参照者に対して POV を非表示にできます。ディメンションごとに 1 メンバーを選択する必要があります。

ブック・デザイナの「処理」メニューの操作

「処理」メニューを使用して、次の操作を実行できます。

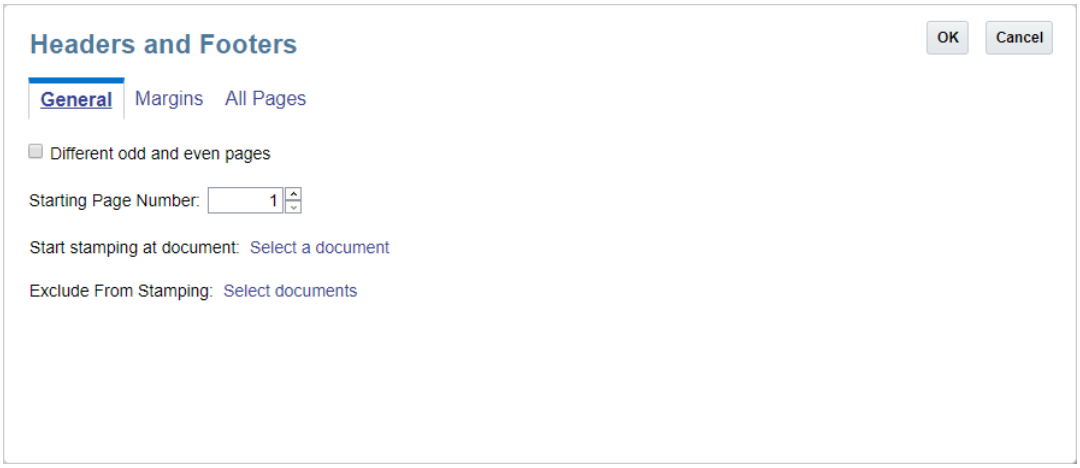
- **「ページ設定」**にアクセスして、ページ番号、マージンおよびヘッダーとフッターを定義できます。
- ブックのコンテンツを**検証**できます。
- ブックの**データ・ソースを管理**できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブックのページ設定

ブックのページ設定をオープンするには:

1. ブック・デザイナで、**「処理」** -  をクリックし、**「ページ設定」**を選択します。

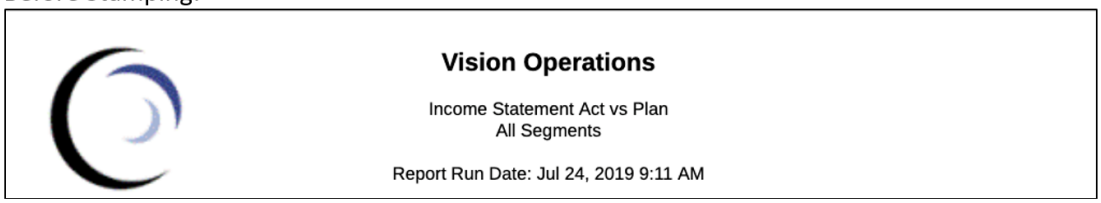


2. 設定を確認して、必要な変更を行います。終了したら、**「OK」**をクリックします。

ヘッダー情報のスタンプの適用前と適用後

スタンプによって、テキストやページ番号が重なって表示されることがあります。ブック内の各コンテンツでページ・サイズが異なる場合、ヘッダーおよびフッターのコンテンツの位置はページ脇のオフセットを使用してレイアウトされ、その位置は、端からのオフセットを最小にして、PDF 内のコンテンツに基づいて動的に決定されます。

Before Stamping:



After Stamping:



ヘッダーおよびフッターの一般プロパティの指定

ヘッダー、フッターおよびマージンに関する一般プロパティを指定するには:

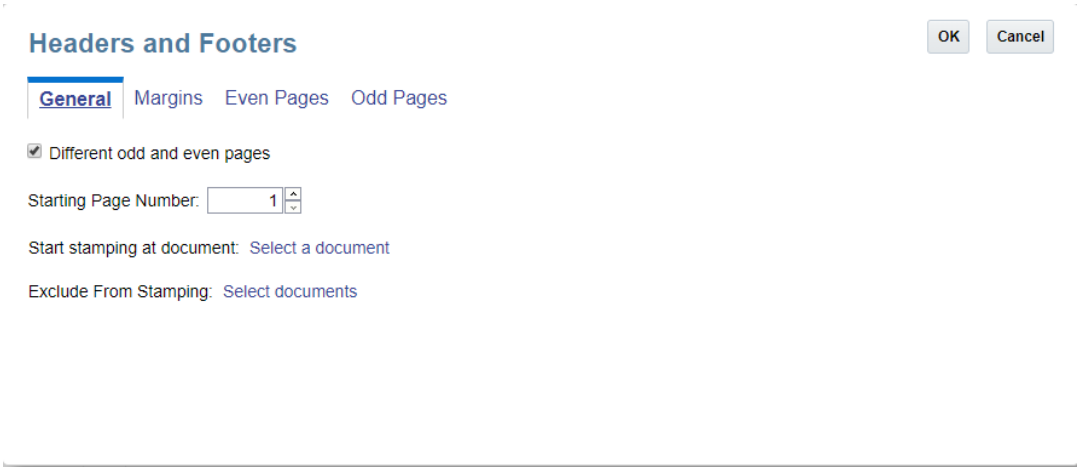
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. ブック・デザイナで、**「処理」** -  をクリックし、**「ページ設定」**を選択します。
2. デフォルトでは、ヘッダーとフッターはすべてのページに適用されます。偶数ページと奇数ページに異なるヘッダーおよびフッターを適用する場合は、**「異なる奇数ページと偶数ページ」**チェック・ボックスを選択して、**「偶数ページ」**および**「奇数ページ」**タブを表示します。

> **ⓘ ノート**
>
> このチェック・ボックスを選択すると、**「すべてのページ」**タブが**「偶数ページ」**タブおよび**「奇数ページ」**タブに置き換わります。

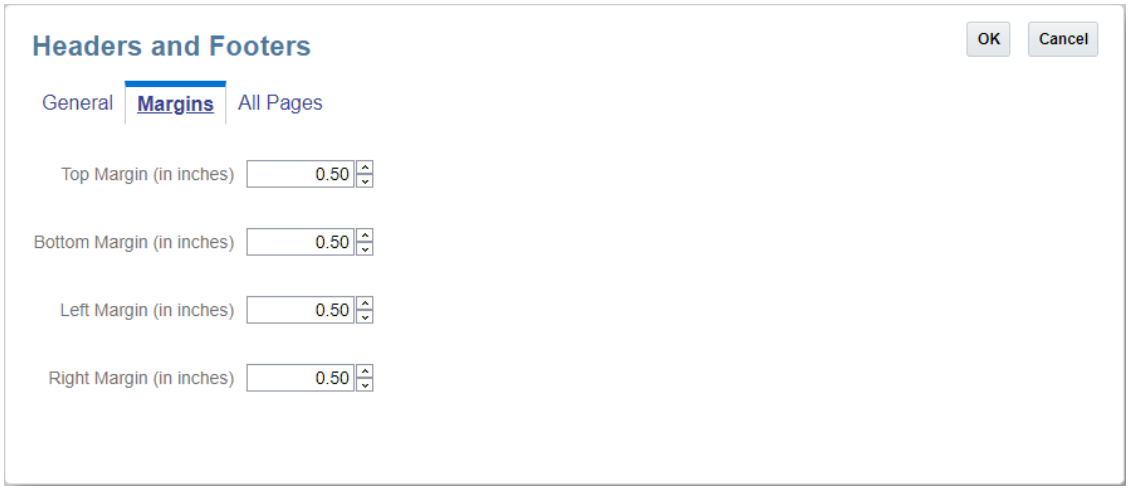
3. ヘッダーまたはフッターにページ番号を追加する場合、**「開始ページ番号」**に開始ページ番号を入力します。
4. **文書でのスタンプの開始**で、**「文書の選択」**をクリックして、ヘッダーとフッターの追加を開始する文書を選択します。たとえば、目次の後からヘッダーとフッターのスタンプを開始できます。
5. **「スタンプから除外」**で、**「文書の選択」**をクリックして、ヘッダーとフッターを追加しない文書をすべて選択します。たとえば、ヘッダーとフッターのスタンプの対象から表紙を除外できます。

> **ⓘ ノート**
>
> ブックを初めて作成するとき、選択できる文書はありません。文書を追加した後、ブック・プロパティを編集してこのダイアログ・ボックスに戻り、スタンプの対象から除外する文書を選択します。



マージン・サイズの指定

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



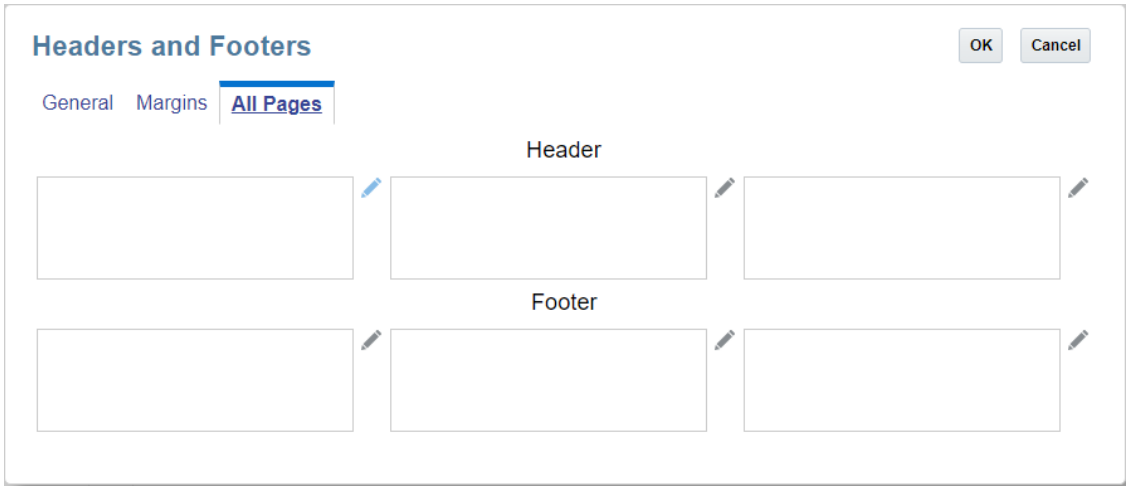
ページ・マージン・サイズを指定するには:

1. **「マージン」**をクリックします。
2. **「上」**、**「下」**、**「左」**および**「右」**のマージン・サイズを指定します。デフォルトでは、マージン・サイズはインチ単位で入力されます。**「オプションの定義」**で、これをセンチメートルに変更できます。

> ⓘ **ノート**
>
> 「マージン」フィールドでは、ヘッダーとフッターのみのマージン・サイズが指定されます。ソース PDF 文書自体のマージン・サイズは変更されません。

ヘッダーおよびフッター情報の入力

「すべてのページ」タブまたは**「偶数ページ」**タブと**「奇数ページ」**タブを使用して、ヘッダーとフッターに表示するテキストおよびイメージを入力します。ヘッダーとフッターの左、中央または右にテキストまたはイメージを入力できます。



ヘッダーとフッターにテキストおよびイメージを入力するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. テキストを追加するヘッダーまたはフッターの枠の横にある**「編集」** -  をクリックします。
2. 次の処理を実行します。
   - テキストを追加するには、**「テキストの追加」**をクリックし、**「コンテンツの編集」**ダイアログ・ボックスに表示するテキストを入力します。リッチ・テキスト・エディタを使用すると、テキストにボールド、下線、イタリックを指定し、フォントと色を変更できます。また、**「番号」**ボタン  をクリックして、現在のページ番号を返すテキスト関数を挿入することもできます。
   - テキストを追加するには、**「テキストの追加」**をクリックし、**「コンテンツの編集」**ダイアログ・ボックスに表示するテキストを入力します。現在のページ番号および合計ページ数を返すテキスト関数`&[Page] of &[Pages]`をクリックして挿入することもできます。
   - イメージを追加するには、**「イメージの追加」**をクリックし、**「参照」**をクリックして、アップロードするイメージを選択します。ローカル・コンピュータからイメージをアップロードする必要があります。クラウドの Narrative Reporting ライブラリの場所は参照できません。
3. 最初の行またはイメージの下に追加のテキストまたはイメージの行を追加するには、**「コンテンツの編集」**ダイアログ・ボックスから、**「テキストの追加」**または**「イメージの追加」**をクリックし、追加のテキストまたはイメージの行を入力します。
4. テキストおよびイメージの入力が終わったら、**「OK」**をクリックして変更を保存します。
5. 「OK」をクリックして保存した後でテキストまたはイメージを削除するには、削除する行の横にある**「削除」** -  をクリックします。

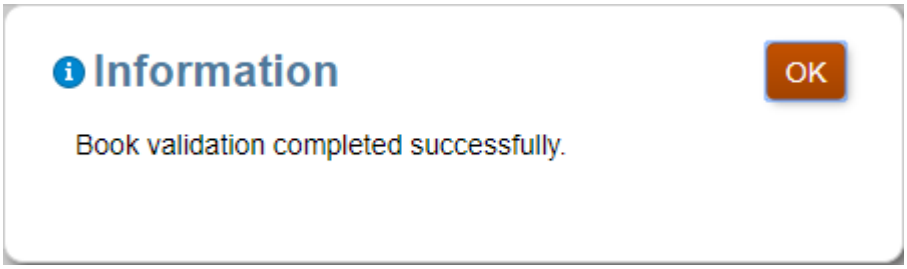
> **ノート**
>
> テキスト行を保存した後、編集することはできません。**「削除」** -  をクリックして、新しいテキスト行を入力します。

ブック設計の検証

「検証」処理によって、ブックに挿入されたレポートおよびブックがライブラリに存在すること、およびブック内のすべての POV 選択が有効であることが検証されます。

ブック設計の検証を実行するには:

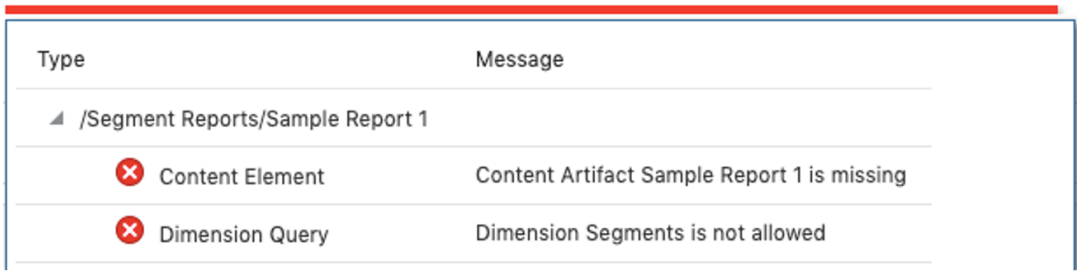
1. ブック・デザイナで、**「処理」** -  をクリックし、**「検証」**を選択します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. 検証が正常に完了した場合は、**「OK」**をクリックします。

   検証エラーが発生した場合は、**ブック・デザイナ**上部の赤枠のダイアログ・ボックスに、すべての検証エラーが表示されます。



> **ノート**
>
> すべての検証エラーを解決して、ブックを実行する前にブックが有効であることを確認する必要があります。

データ・ソースの管理

「データ・ソースの管理」を使用して、ブックにデータ・ソースを追加したり、ブックで使用する別名表を管理したり、ブックで使用するデータ・ソースを別のデータ・ソースに変更したり、共通ディメンションの POV に表示するのに使用するデータ・ソースの優先度を設定できます。詳細は、次のリンクを参照してください。

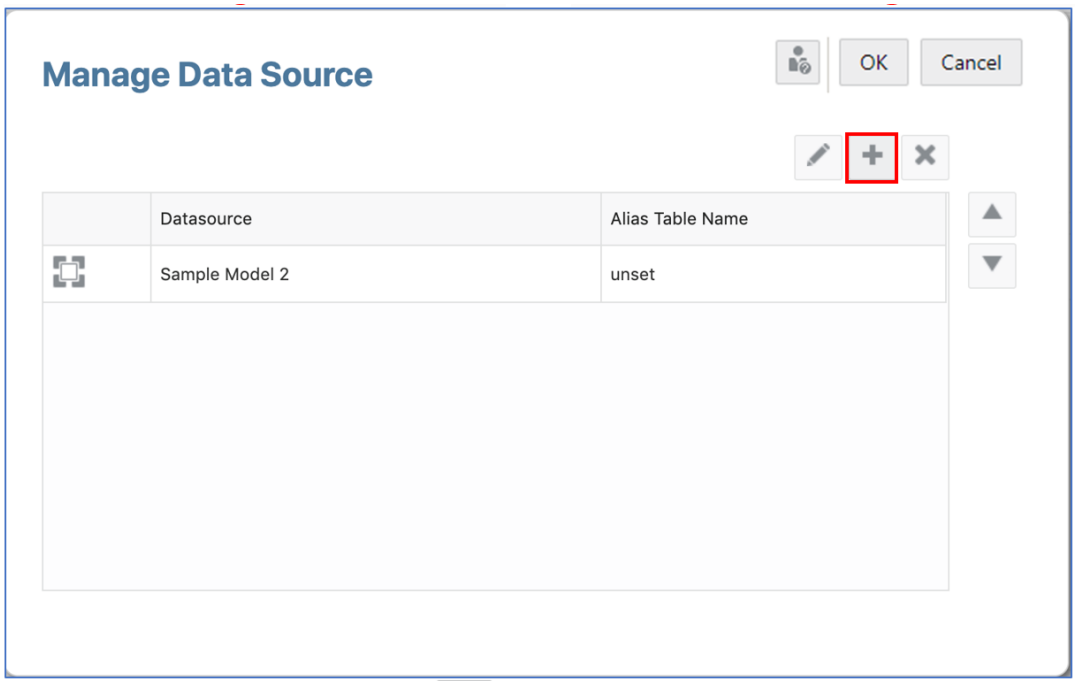
- データ・ソースの追加
- データ・ソースの並替え
- データ・ソースの変更
- ブック内の別名表の管理

データ・ソースの追加

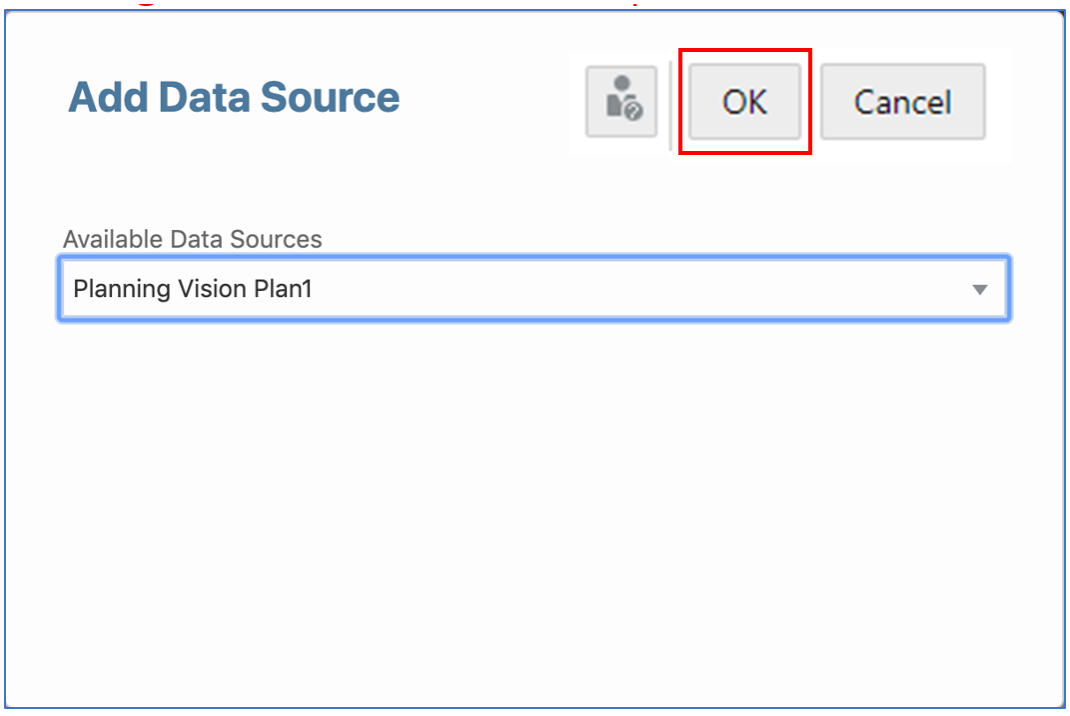
データ・ソースをブックに追加するには、追加のデータ・ソースを利用するレポートまたはブックを挿入するときに、次の処理を実行します。

1. ブック・デザイナで、**「処理」** - をクリックし、**「データ・ソースの管理」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



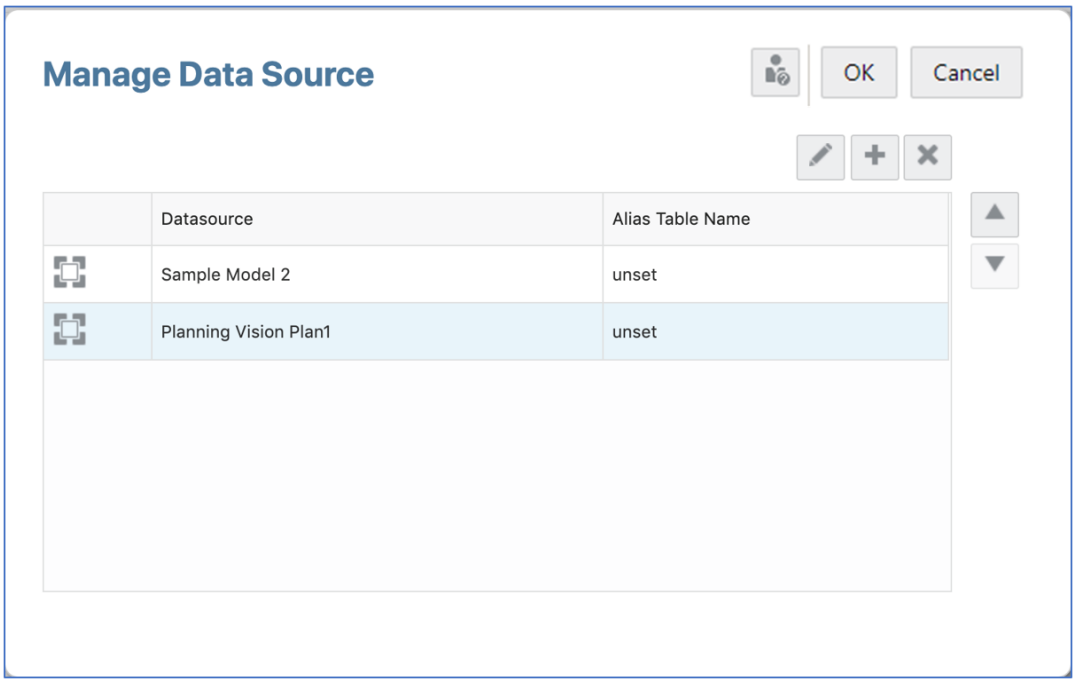
2. **「データ・ソースの管理」**で、 ✚ をクリックして**「データ・ソースの追加」**ダイアログをオープンします。



3. **「データ・ソースの追加」**で、使用可能なデータ・ソースのリストから目的のデータ・ソースを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4. **「OK」**をクリックして、**「データ・ソースの追加」**ダイアログをクローズします。追加されたデータ・ソースが**「データ・ソースの管理」**ダイアログに表示されます。**「OK」**をクリックします。

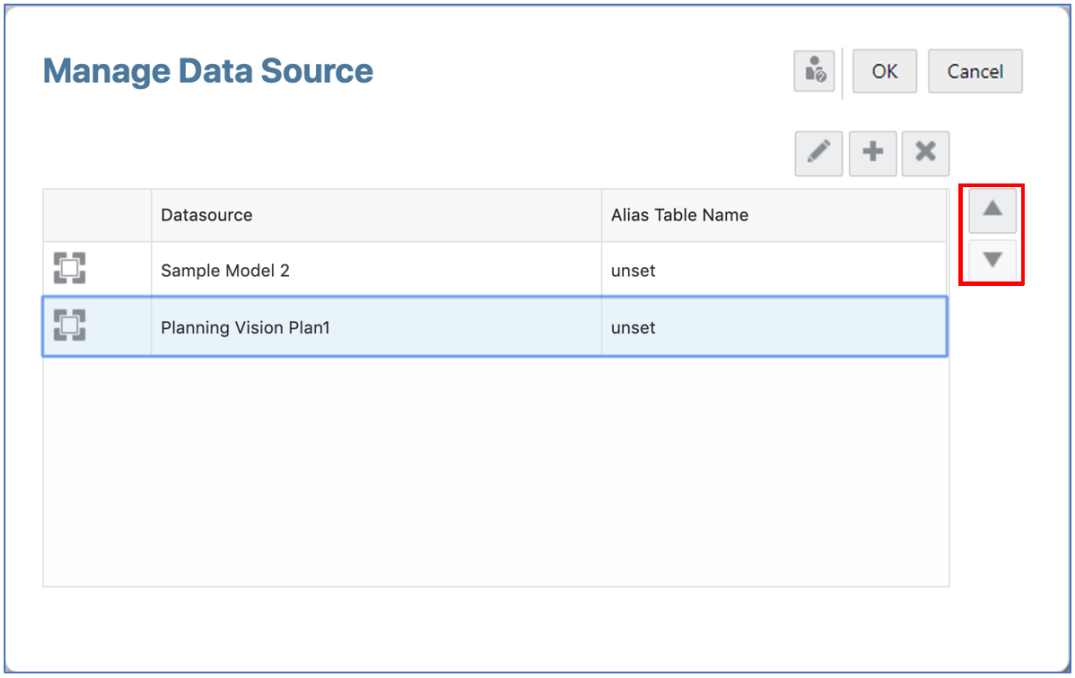


データ・ソースの並替え

データ・ソースがブック内で評価される順序を変更できます。データ・ソースの順序は、同じ名前の POV ディメンションのデフォルト・データ・ソースに影響を与え、ブック、レポート、挿入されたブックまたはセクションの結合された POV メンバー・セレクタに表示されます。

1. ブック・デザイナで、**「処理」** - をクリックし、**「データ・ソースの管理」**を選択します。
2. **「データ・ソースの管理」**で、並べ替える目的のデータ・ソースを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



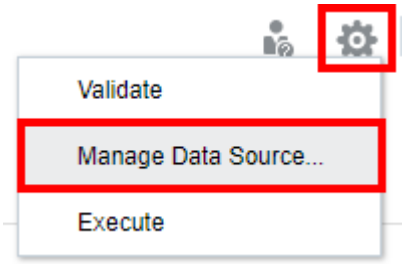
3.  または  をクリックして、データ・ソースを並べ替えます。**「OK」**をクリックします。

データ・ソースの変更

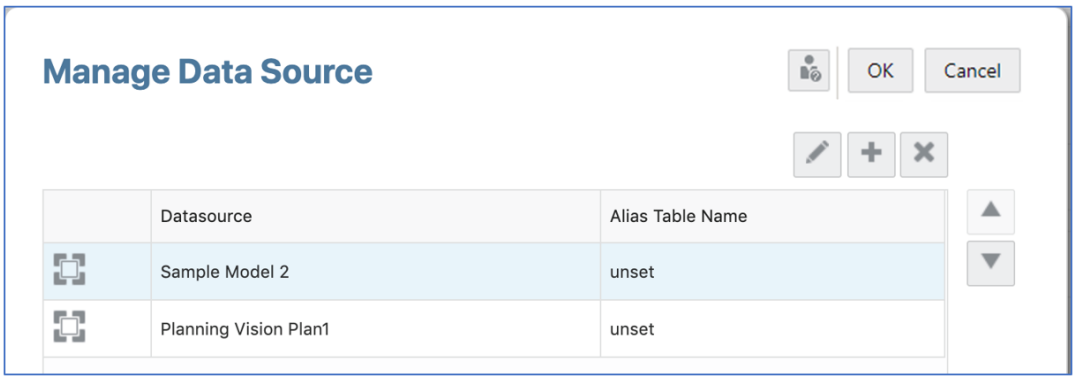
異なるデータ・ソースをポイントするように、ブック内のデータ・ソースを変更できます。

ブック内のデータ・ソースを変更するには、次の処理を実行します。

1. **「バースティング定義」**で、**「処理」**  をクリックし、**「データ・ソースの管理」**を選択します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



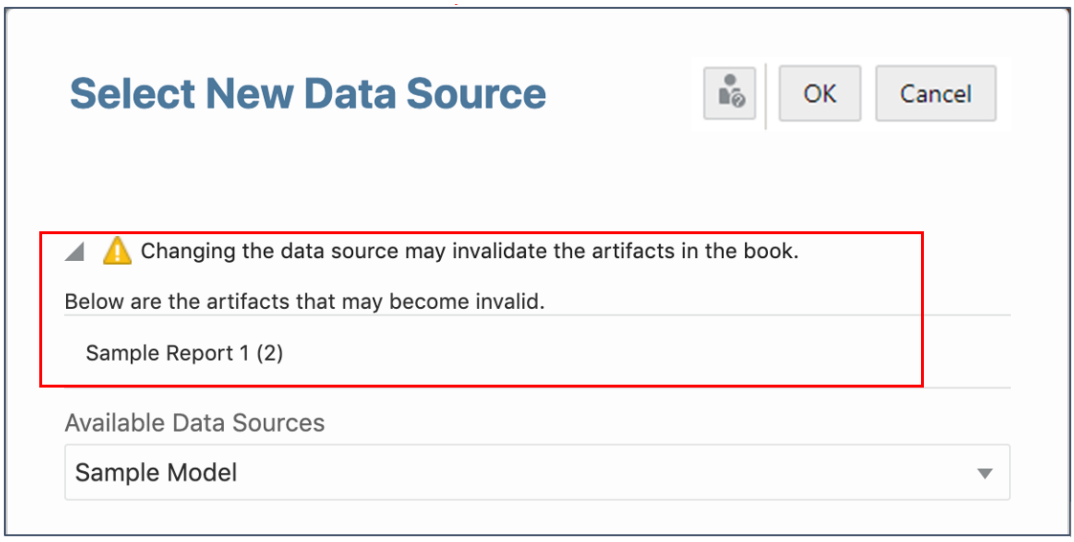
2. 変更するデータ・ソースを選択し、  をクリックします
3. **「新規データ・ソースの選択」**で、リストから目的のデータ・ソースを選択し、**「OK」**をクリックします。



> **ノート**
>
> データ・ソースを変更すると、ブックのデータ・ソースのみに影響を与えます。ブックに挿入された基礎となるレポートおよびブックは影響を受けません。

 をクリックして、データ・ソースの変更によって影響を受けるアーティファクトのリストを表示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

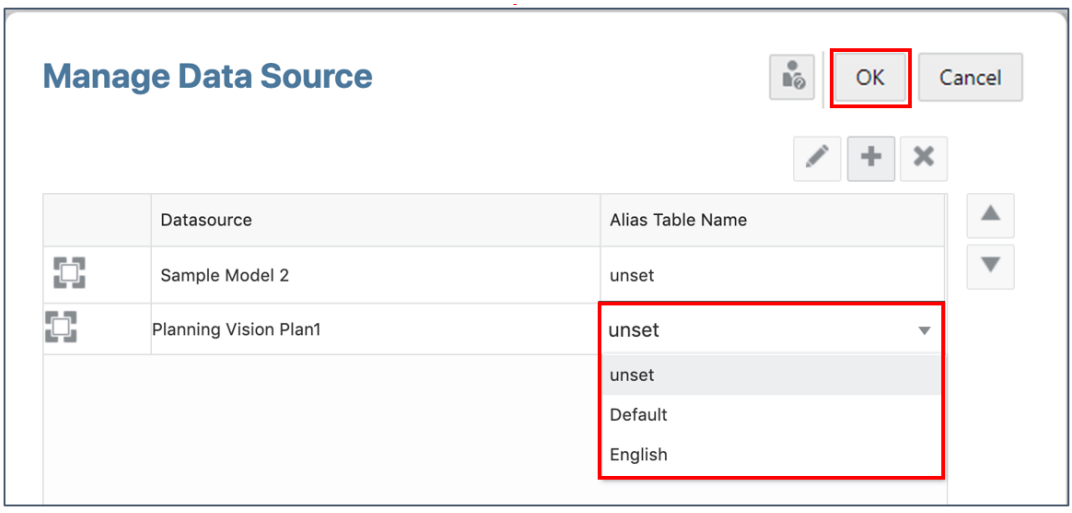


ブック内の別名表の管理

ブック、および別名表がハードコーディングされていない挿入されたレポートまたはブックの `MemberAlias` テキスト関数で使用される別名表を変更できます。

ブックで使用される別名表を管理するには、次の処理を実行します。

1. ブック・デザイナで、**「処理」** - をクリックし、**「データ・ソースの管理」**を選択します。
2. **「データ・ソースの管理」**ダイアログ・ボックスで、データ・ソースの**「別名表の管理」**をダブルクリックし、ドロップダウンから目的の別名表を選択します。



3. **「OK」**をクリックして変更内容を保存し、ダイアログ・ボックスをクローズします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブック視点の設定

ブック視点(POV)は、レポート・グリッド、レポート、ブックまたはセクション POV に定義されていないディメンションのメンバーを指定します。ブックに複数のデータ・ソースが含まれる場合は、単一の POV 選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体で共通のディメンションが組み合されます。詳細は、「ブック・デザイナの操作」を参照してください。

ブック視点を設定するには:

1. ブック・デザイナの編集モードでブックをオープンします。
2. ブック・デザイナの上部にある POV バーでディメンションのラベルをクリックし、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。
3. メンバー・セレクタで、メンバー名の横にあるチェック・マークをクリックして、ディメンションのメンバーを 1 つ以上選択します。個々のメンバーを選択するか、リストまたはメンバー選択関数を使用して複数のメンバーを選択できます。
4. ディメンションの POV オプションを設定するには、POV ディメンションの横にある**「処理」** - をクリックし、次のいずれかを選択します。
   - **ディメンションの非表示** - プレビュー・モードでディメンションを非表示にします。これは、ディメンションの複数選択が定義されていない場合にのみ使用可能になります。
   - **すべての選択の許可**と**「提案のみ表示」**の切替え — ブック参照者に対して、すべての選択を許可するか、または POV に指定されているメンバーのみを選択できるように制限します。ブック参照者は、このディメンションに他のメンバーを選択できません。
5. 残りの POV ディメンションに対して、メンバーの選択と POV オプションの設定を必要に応じて続行します。

ブックでの文書の管理

表 13-2 ブック内の文書およびセクションの管理

文書の管理に関するタスク	実行するサブタスク	詳細
セクションの追加	セクションを追加するには、次の処理を実行します。 • **「ブックの作成」**ウィンドウを使用して、セクションをブックに追加できます。 • **ブック・デザイナ**・ウィンドウを使用して、複数のセクションをブックに追加できます。	ブックへのセクションの追加
ブック内のセクションの移動	ブック内のセクションを再編成できます。	ブック内でのセクションの移動

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 13-2 (続き) ブック内の文書およびセクションの管理

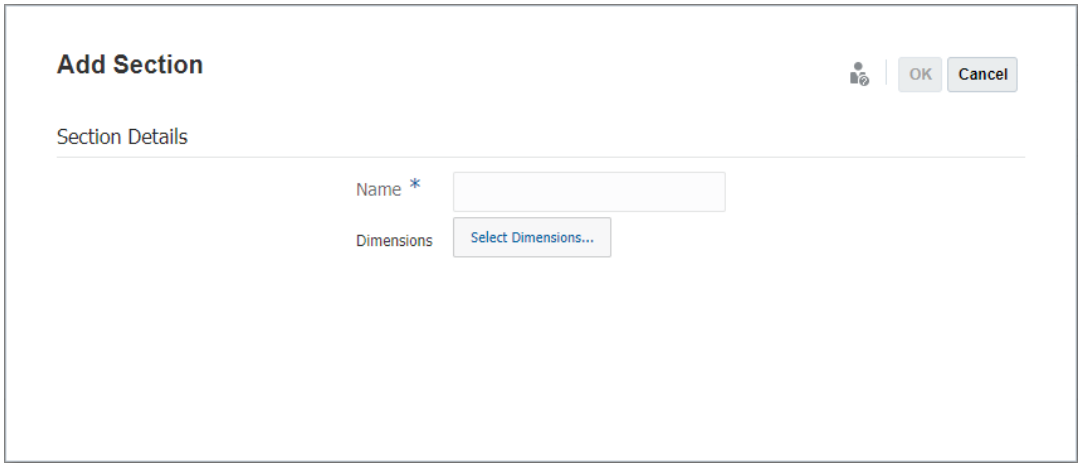
文書の管理に関するタスク	実行するサブタスク	詳細
文書の追加	文書を追加するには、次の処理を実行します。 • **「ブックの作成」**ウィンドウを使用して、文書をブックに追加できます。 • **ブック・デザイナ**・ウィンドウを使用して、文書をブックに追加できます。 • ブック内に目次文書を追加できます。	ブック・ノードの下への文書の追加 現在の選択の上または下への文書の追加
複数の文書の追加	複数の文書を追加するには、次の処理を実行します。 • **「ブックの作成」**ウィンドウを使用して、複数の文書をブックに追加できます。 • **ブック・デザイナ**・ウィンドウを使用して、複数の文書をブックに追加できます。	ブックへの複数の文書の追加
文書の移動	ブック内で文書を移動できます。	ブック内での文書の移動
ブック内のセクション、文書または目次文書の削除	ブック内のセクション、文書および目次文書を削除できます。 **ノート**: セクションを削除すると、そのセクションの下にあるすべてのレポートおよびブックが削除されます。	セクションの削除

ブックへのセクションの追加

ブックにセクションを追加するには:

1. **ブック・デザイナ**で次のいずれかを実行します。
   - 最上位のブック・ノードを選択して  をクリックし、**「子の追加」**を選択した後、**「セクション」**を選択します。
   - 既存のアーティファクトまたはセクションを選択して  をクリックし、**「上に追加」**または**「下に追加」**を選択した後、**「セクション」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



2. **「セクションの追加」**ダイアログ・ボックスで、セクションの**名前**を入力します。



3. ***オプション:*** **「セクション」**に対して POV を設定するには、**「ディメンションの選択...」**をクリックします。**「ディメンション・レイアウト」**の POV バーで**「追加」** - をクリックして、ドロップダウン・リストから必要なディメンションを選択し、**「OK」**をクリックします。

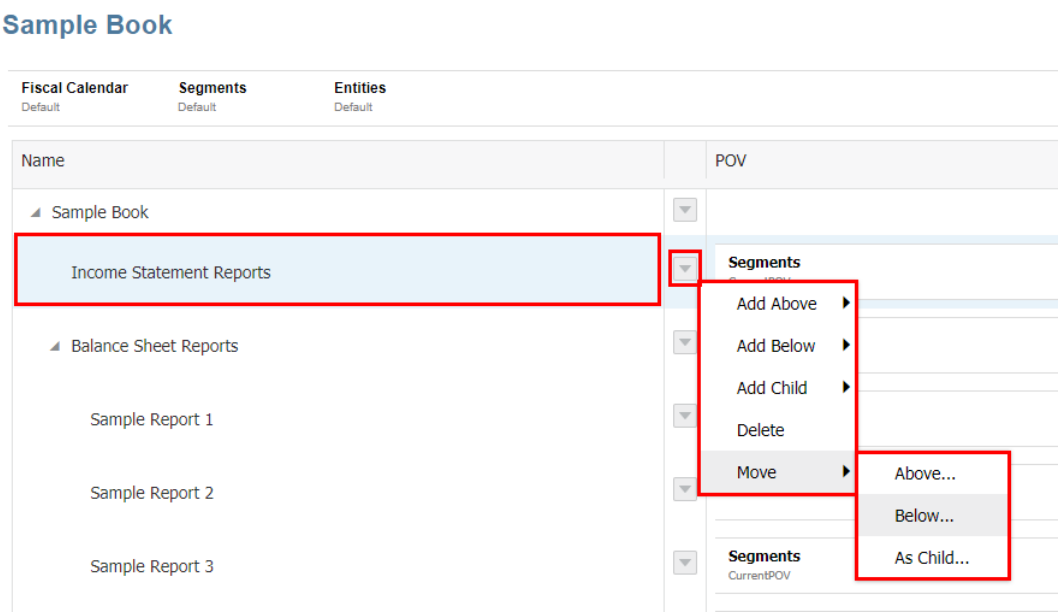
   複数のデータ・ソースを持つレポートがセクションに含まれる場合は、セクションの「処理」メニューでデータ・ソースを追加し、「データ・ソースの管理」を選択します。「ディメンション・レイアウト」で使用可能なディメンションは、「データ・ソースの管理」ダイアログに表示される最初のデータ・ソースに基づきます。
4. **「OK」**をクリックして、セクションをブックに追加します。

ブック内でのセクションの移動

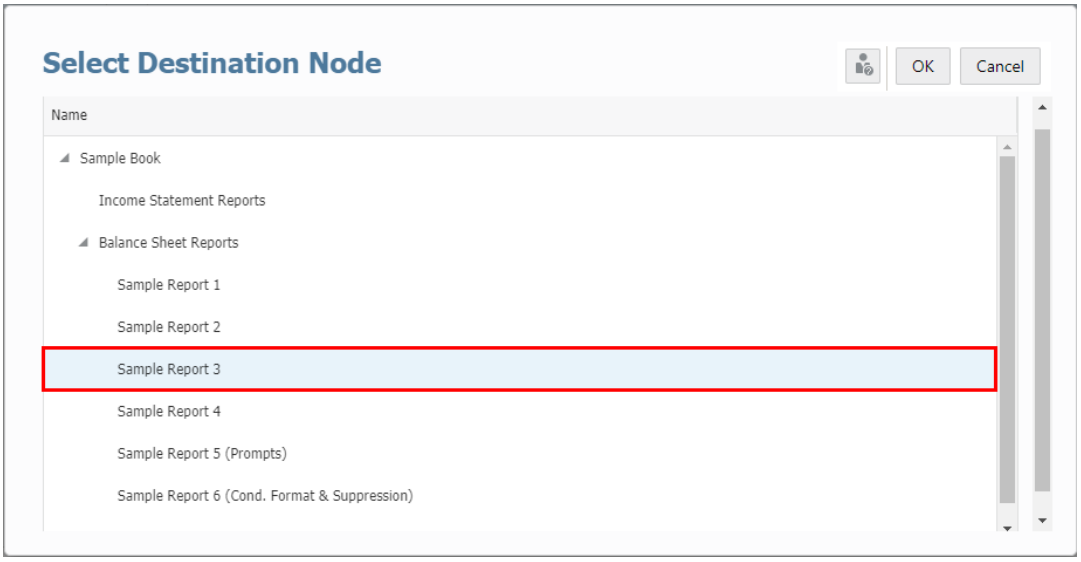
ブック内でセクションを移動するには:

1. **ブック・デザイナ**で**セクション**を選択して をクリックし、**「移動」**を選択した後、**「上」**、**「下」**または**「子として」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

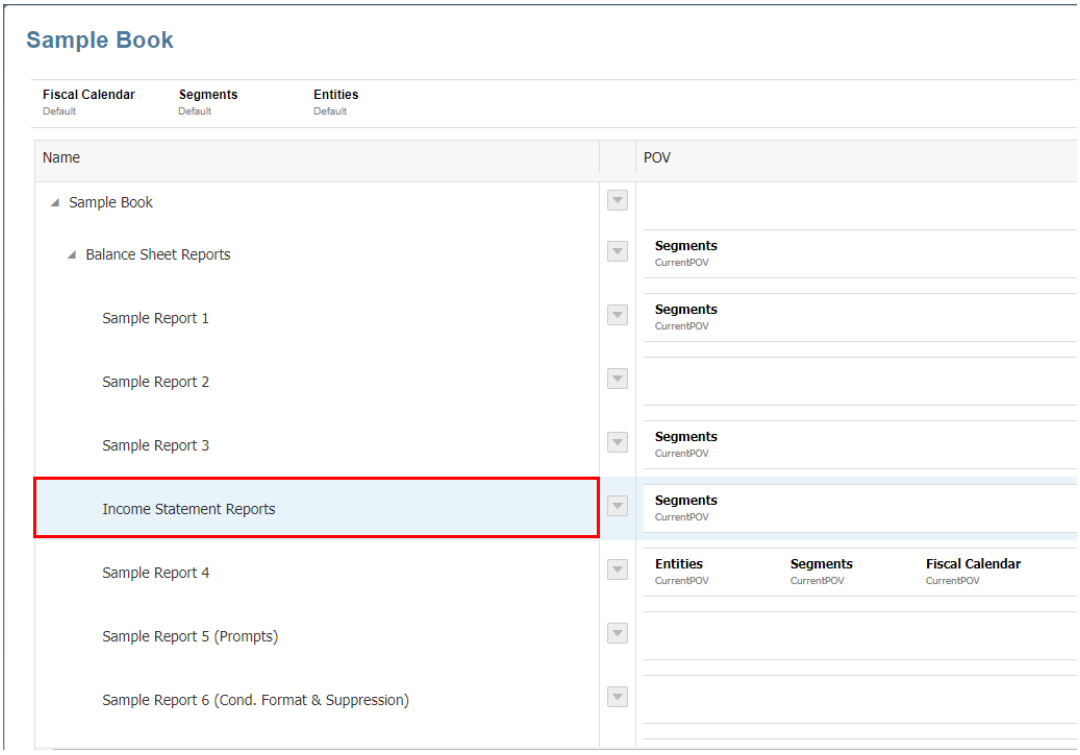


2. **宛先ノードの選択**ダイアログ・ボックスで、宛先の文書またはセクションを選択して、**「OK」**をクリックします。



3. 選択した宛先にセクションが移動されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **ノート**
>
> セクションは別のセクションの子としてのみ移動でき、別の文書のセクションとして追加することはできません。

セクションの削除

セクションを削除するには:

1. **ブック・デザイナ**で、削除するセクションを選択します。
2. をクリックし、**「削除」**を選択します。

> **ノート**
>
> セクションを削除すると、そのセクションの下にあるすべてのレポートおよび文書が削除されます。取り戻すことはできません。

ブック・ノードの下への文書の追加

ブック・ノードの下に文書を追加するには:

1. **ブック・デザイナ**で**「無題のブック」**ノードを選択してをクリックし、**「子の追加」**を選択した後、**「アーティファクト」**を選択します。
2. **「OK」**をクリックして、文書をブックに追加します。

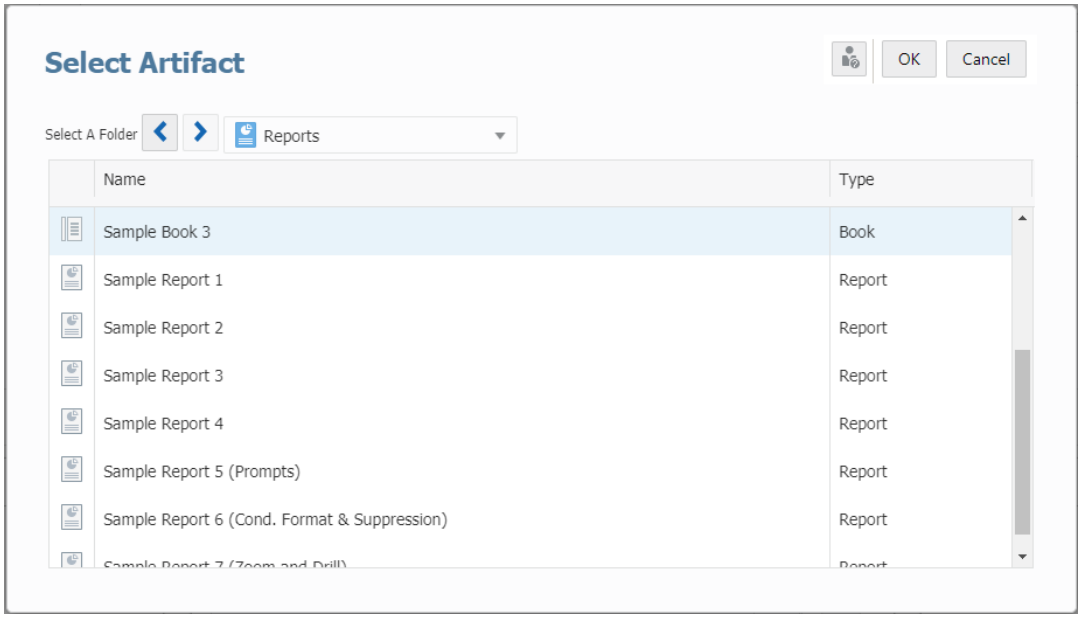
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> Word、PDF または Word ベースの目次などのサード・パーティ文書を挿入するときは、文書をリポジトリにアップロードする必要があります。Narrative Reporting デプロイメントの場合、文書を Narrative Reporting ライブラリからアップロードします。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合、文書を**「レポート」**カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)の**「文書」**タブからアップロードします。

現在の選択の上または下への文書の追加

現在の選択の上または下に文書を追加するには:

1. **ブック・デザイナ**で**文書**を選択して をクリックし、**「上に追加」**または**「下に追加」**を選択した後、**「アーティファクト」**を選択します。



2. **「OK」**をクリックして、文書をブックに追加します。

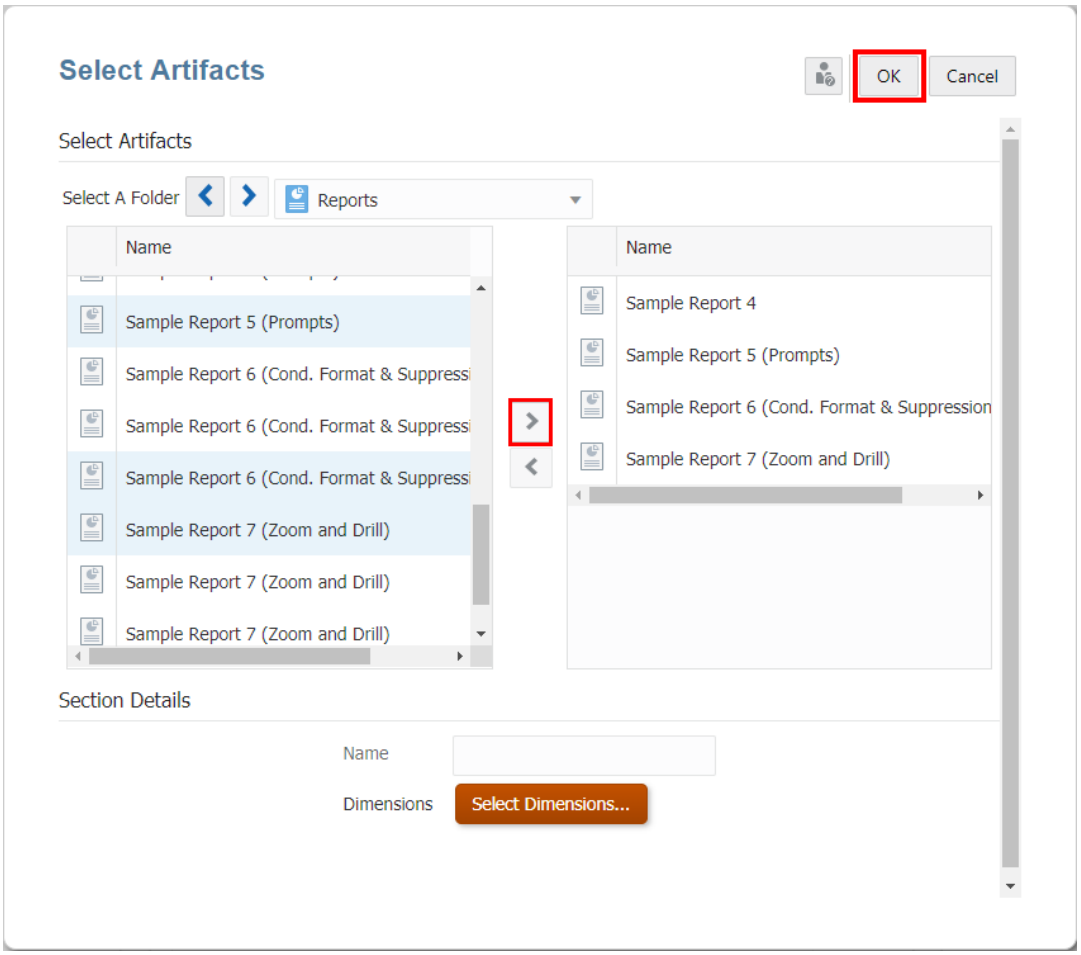
> **ノート**
>
> Word、PDF または Word ベースの目次などのサード・パーティ文書を挿入するときは、文書をリポジトリにアップロードする必要があります。Narrative Reporting デプロイメントの場合、文書を Narrative Reporting ライブラリからアップロードします。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合、文書を**「レポート」**カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)の**「文書」**タブからアップロードします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブックへの複数の文書の追加

複数の文書をブックに追加するには:

1. **ブック・デザイナ**で**文書**または**セクション**を選択してをクリックし、**「複数」**を選択した後、**「アーティファクト」**を選択します。



2. **「アーティファクトの選択」**ダイアログ・ボックスで、左ペインの**「使用可能」**リストから1 つ以上の文書を選択し、  ボタンをクリックして、右にある**「選択済」**文書ペインに目的の文書を移動します。

> **ノート**
>
> ブックに追加できる文書およびセクションの最大数は 50 です。
>
> 追加する Word 文書または PDF 文書の最大サイズは 5 MB です。

3. ***オプション:*** **セクション詳細**で、**デフォルト・セクションの作成**を選択し、次に、選択したすべての文書をグループ化するセクションの**名前**を入力します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

4. ***オプション:*** **「ディメンションの選択」**をクリックして**「ディメンション・レイアウト」**をオープンし、次に、**「セクション」**に対して必要な POV ディメンションを選択します。

   ブックに複数のデータ・ソースが含まれる場合、**「ディメンション・レイアウト」**で使用可能なディメンションは、ブックの**「データ・ソースの管理」**ダイアログに表示される最初のデータ・ソースに基づきます。

   セクションを使用して、複数の文書を 1 つの共通目次エントリにグループ化し、共通の POV に対してレポートを実行できます。

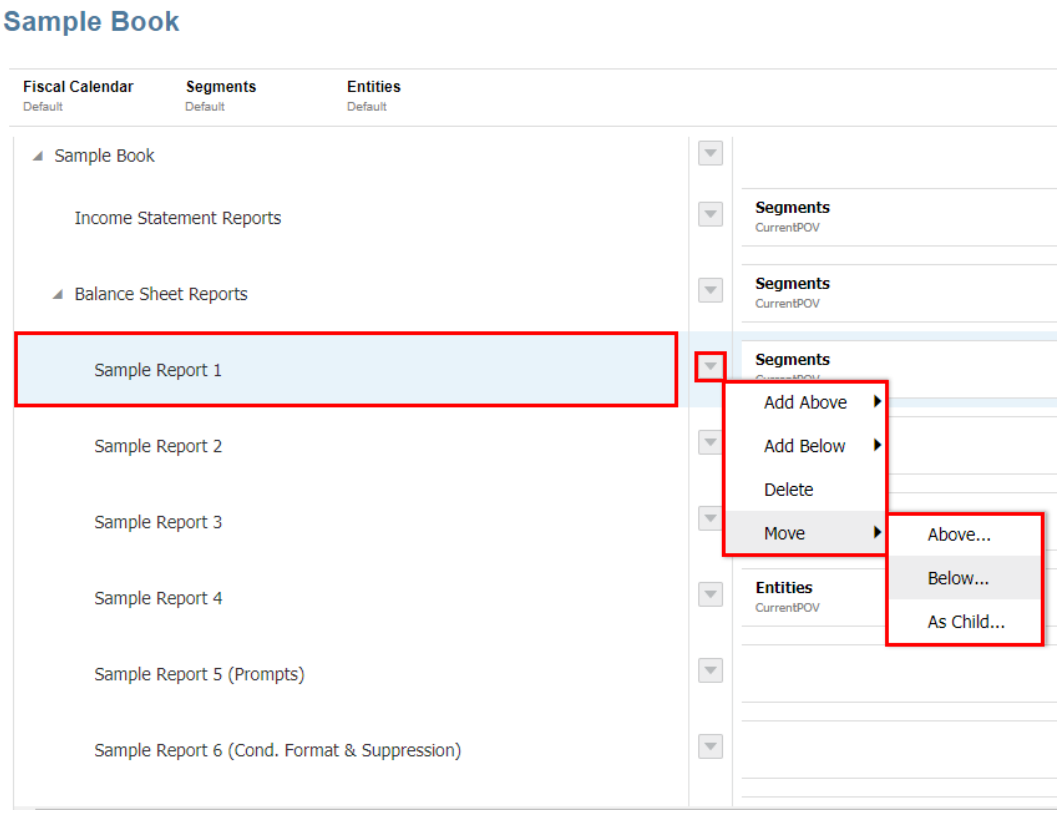
5. **「OK」**をクリックして、複数の文書をブックに追加します。

> **ⓘ ノート**
>
> Word、PDF または Word ベースの目次などのサード・パーティ文書を挿入するときは、文書をリポジトリにアップロードする必要があります。Narrative Reporting デプロイメントの場合、文書を Narrative Reporting ライブラリからアップロードします。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合、文書を**「レポート」**カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)の**「文書」**タブからアップロードします。

ブック内での文書の移動

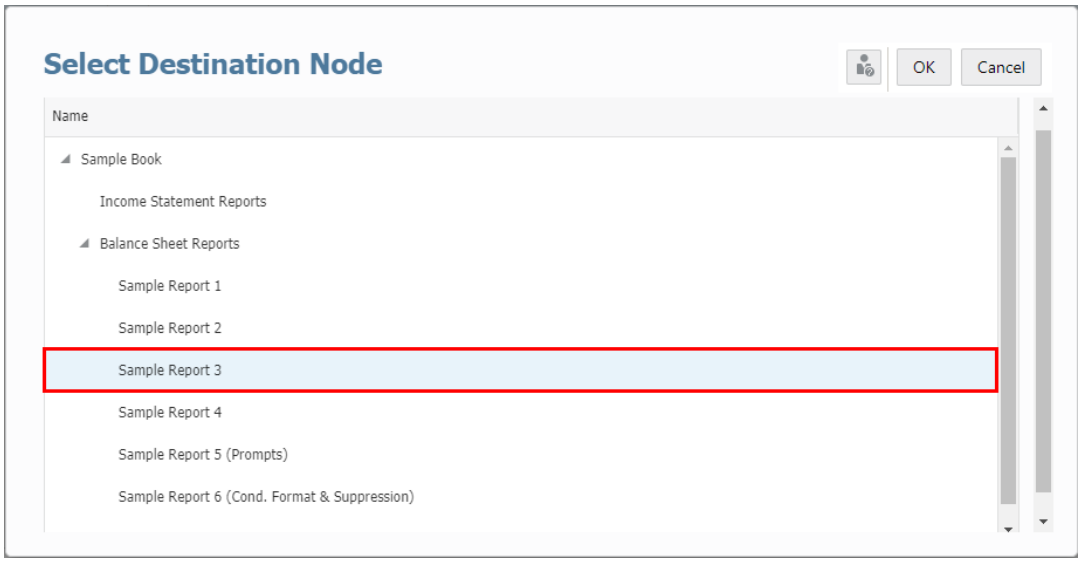
ブック内で文書を移動するには:

1. **ブック・デザイナ**で**文書**を選択してをクリックし、**「移動」**を選択した後、**「上」**、**「下」**または**「子として」**を選択します。

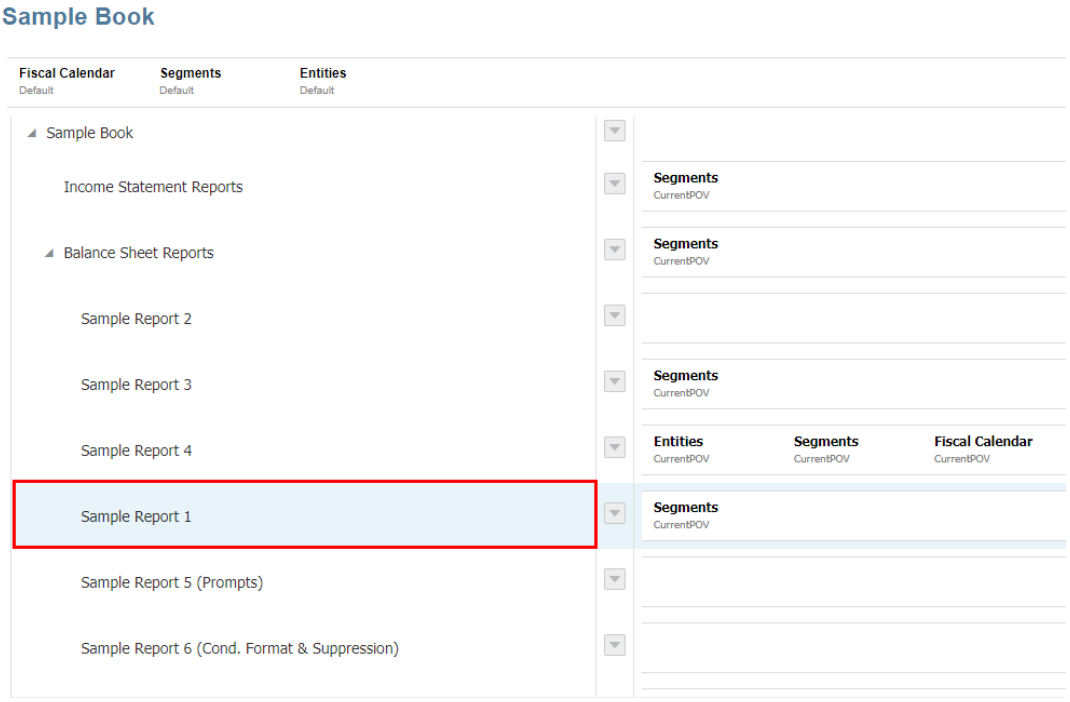


Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. **宛先ノードの選択**ダイアログ・ボックスで、宛先の文書またはセクションを選択して、**「OK」**をクリックします。



3. 選択した宛先に文書が移動されます。



文書の削除

文書を削除するには:

1. **ブック・デザイナ**で、削除する文書を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. をクリックし、**「削除」**を選択します。

> **ノート**
>
> 削除した文書は、ブックに復元できません。

レポート・プロンプト選択の定義

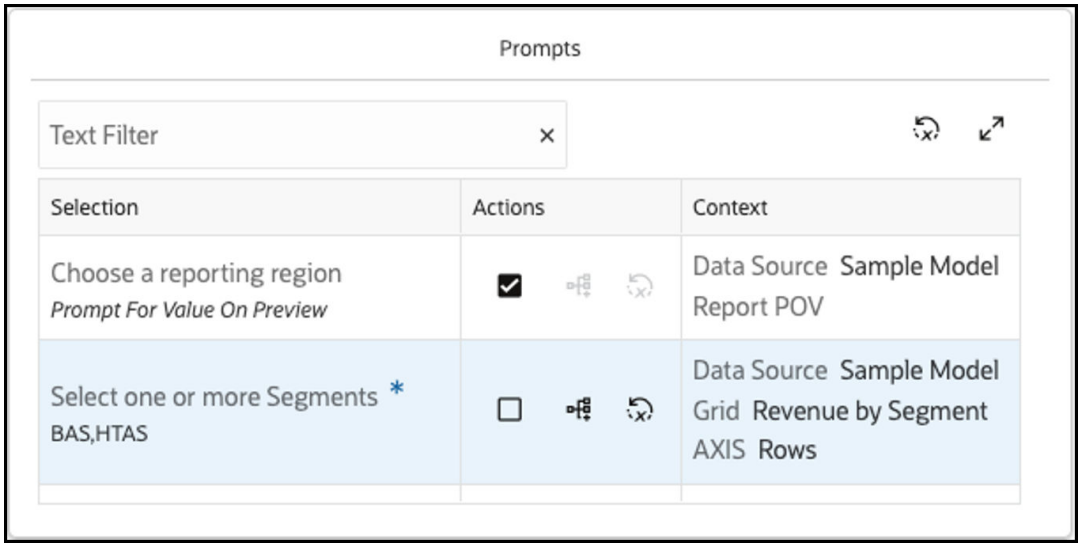
ブック内のレポートにプロンプトが含まれている場合、設計者レベルでプロンプトのメンバー選択を指定するか(**「プレビュー時の値のプロンプト」**が無効)、ブックの実行時にユーザーがプロンプトに応答できるようにする(**「プレビュー時の値のプロンプト」**が有効)ことができます。

ブックのプレビュー時にプロンプトに応答するときには、次のいずれかを使用できます:

- **「フル」モード**: すべてのレポートおよび挿入されたブックのすべてのプロンプトが別個に表示されます。
- **「コンパクト」モード**: レポート間で重複するプロンプト(同じデータ・ソースに対する同じディメンション、プロンプト・ラベル、選択リスト、デフォルトの選択、および「複数選択の許可」設定)が統合されます。

プロンプト選択を定義するには:

1. ブック・デザイナの**「編集」**モードでブックをオープンし、プロンプトの定義が必要なレポートを選択します。
2. 選択したレポートについて、プロンプト選択のリストが**「プロパティ」**ペインの**「プロンプト」**セクションに表示されます。



「プロンプト」では、次のことができます:

- **「テキスト・フィルタ」**ボックスにフィルタ基準テキストを入力して、プロンプト・リストをフィルタします。
- **「すべてのプロンプト選択のリセット」** をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットします。このことは、レポートの 1 つ以上

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

のプロンプトで**「プレビュー時の値のプロンプト」**が無効になっている場合にのみ該当します。

- **「展開」** をクリックして、「プロンプト」ウィンドウをフル・サイズに拡大します。

3. それぞれのプロンプトを構成できます:
   - **「選択」**列には、プロンプト・ラベルおよび選択が表示されます。
   - **「処理」**列を使用すると、**「プレビュー時の値のプロンプト」**を無効または有効にすることができ、有効にすると、ブックを実行するエンド・ユーザーにプロンプトが表示されます。無効にした場合は、ブック設計者が**「メンバーの選択」** をクリックしてメンバー・セレクタをオープンし、プロンプトの選択を指定します。
   - **「すべてのプロンプト選択のリセット」** をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットすることもできます。
   - **「コンテキスト」**列には、データ・ソースと、プロンプトがどこに適用されるか(グリッドの行、POV など)が表示されます。

   次の例では、最初のプロンプト(Choose a reporting region)の**「プレビュー時の値のプロンプト」**が**「処理」**列で有効になっており、このことが**「選択」**列にも反映されています。2 つ目のプロンプト(Select one or more **Segments**)の**「プレビュー時の値のプロンプト」**は**「処理」**列で無効になっています。**「選択」**列には、レポートのプロンプトからのメンバー選択"BAS"および"HTAS"が表示され、**「メンバーの選択」** をクリックするとメンバー・セレクタがオープンし、別のものを選択できます。

   この 2 つのプロンプトのみがレポートにあり、このレポートのみがブックにある場合、2 つ目のプロンプトの選択はブック設計者によってハードコードされているため、ブックの実行時には、最初のプロンプト(Choose a reporting region)のメンバーを選択することのみが必要になります。

Selection	Actions	Context
Choose a reporting region *Prompt For Value On Preview*	☑	Data Source Sample Model Report POV
Select one or more Segments * BAS,HTAS	☐	Data Source Sample Model Grid Revenue by Segment AXIS Rows

4. レポートのそれぞれのプロンプトを構成したら、必要に応じてブック内の別のレポートを選択し、前述の 1 から 3 までのステップを繰り返して、プロンプトを構成できます。

   詳細は、プロンプトを使用したメンバーの割当を参照してください。

ブックのプレビュー時にプロンプトに応答するには:

1. ライブラリでブックをクリックするか、ブックの編集時に**「プレビュー」** をクリックすることで、ブックをプレビューできます。

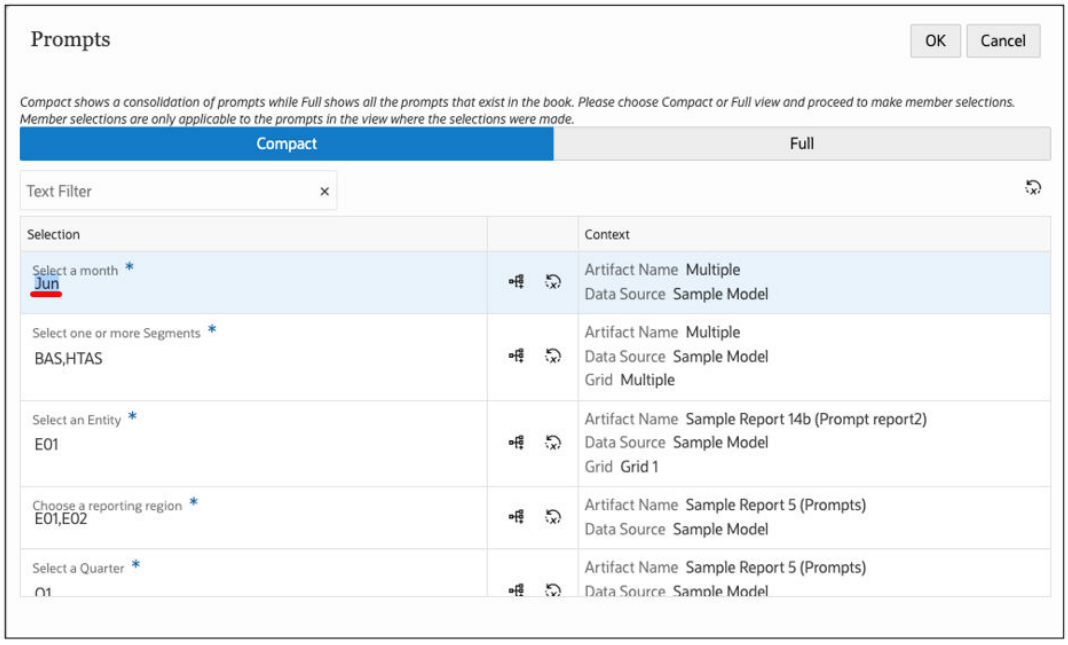
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. **「プレビュー時の値のプロンプト」**を有効にして構成されているレポートのプロンプトがブックにある場合、**「プロンプト」**ダイアログが表示されます。「プロンプト」ダイアログには、**「コンパクト」**と**「フル」**の 2 つのモードがあります。
3. **「コンパクト」**を選択して、レポート間で重複するプロンプト(同じデータ・ソースに対する同じディメンション、プロンプト・ラベル、選択リスト、デフォルトの選択、および「複数選択の許可」設定)を統合して表示します。

   または

   「フル」を選択して、すべてのレポートおよび挿入されたブックのすべてのプロンプトを別個に表示します。

> **ⓘ ノート**
>
> - 選択は、選択が行われたモード(**「コンパクト」**または**「フル」**)にのみ適用されます。
> - 挿入されたブックの「プロンプト」は"ノード"・レベルで公開され、挿入されたブックのすべてのプロンプトの**「コンパクト」**リストが常に表示されます。



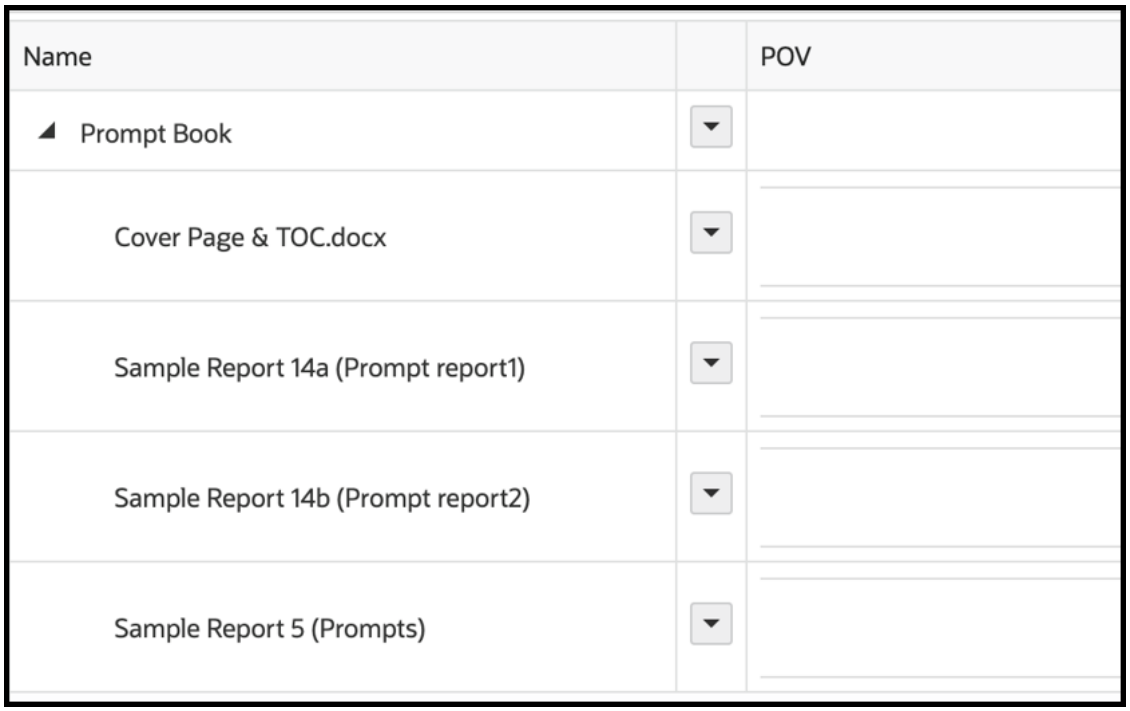
4. それぞれのプロンプトについて、**「メンバーの選択」** をクリックしてメンバー・セレクタをオープンし、必要な選択を行います。**「すべてのプロンプト選択のリセット」** をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットすることもできます。
5. すべてのプロンプトの選択が完了したら、**「OK」**をクリックしてブックのプレビューを続行します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ブック・プロンプトの例

ブック設計者およびプレビューの観点から、プロンプトのあるレポートをブック内で使用する例を次に示します。

このブックには、プロンプトのあるレポートが 3 つ含まれています。簡単にするために、いずれのレポートについても POV 選択は公開されていません。



3 つのレポートのプロンプトは次のように定義されています:

Sample Report 14a (Prompt report1)



Sample Report 14b (Prompt report2)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Selection	Actions	Context
Select an Entity *Prompt For Value On Preview*	☑	Data Source Sample Model Grid Grid 1 AXIS Rows
Select a month *Prompt For Value On Preview*	☑	Data Source Sample Model Grid Grid 1 AXIS Columns

Sample Report 5 (Prompts)

Selection	Actions	Context
Choose a reporting region * E01,E02	☐	Data Source Sample Model Report POV
Select one or more Segments *Prompt For Value On Preview*	☑	Data Source Sample Model Grid Revenue by Segment AXIS Rows
Select a Quarter *Prompt For Value On Preview*	☑	Data Source Sample Model Grid Revenue by Segment AXIS Columns

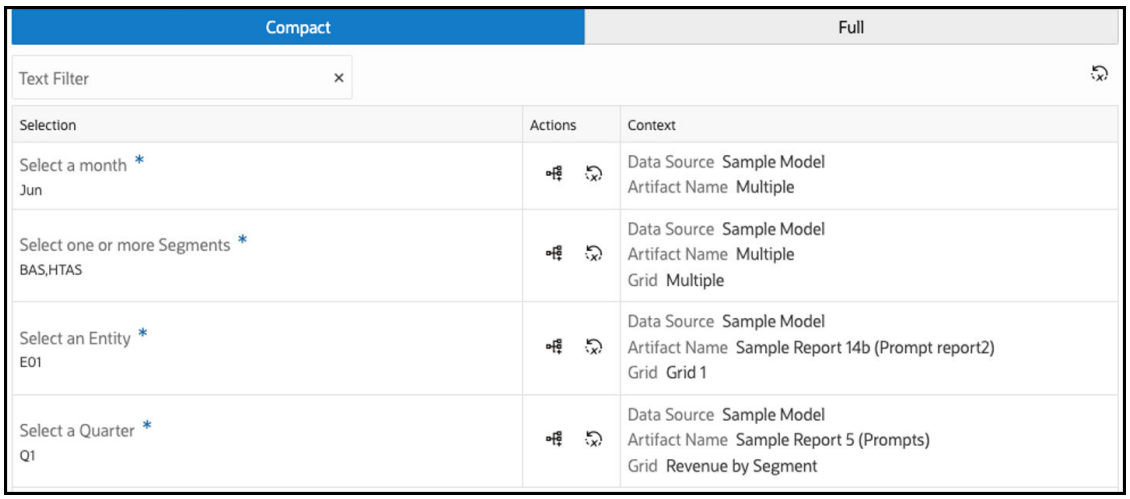
3 つのレポートすべてのプロンプトについて 次のことに注意してください:

- "Select a month"プロンプトは、**Sample Report 14a** と **Sample Report 14b** で同じです。
- "Select one or more Segments"プロンプトは、**Sample Report 14a** と **Sample Report 5 (Prompts)**で同じです。
- **Sample Report 5 (Prompts)**では、"Choose a reporting region"プロンプトで**「プレビュー時の値のプロンプト」**が無効になっており、ブックの実行時にプロンプトのデフォルトの選択(**E01** および **E02**)が使用されることを意味します。ブックをプレビューするユーザーはプロンプトに応答しません。
- 他のすべてのプロンプトでは**「プレビュー時の値のプロンプト」**が無効になっており、レポートをプレビューするユーザーがプロンプトに応答する必要があることを意味します。
- 次のプロンプトは 1 つのレポートに固有であり、複数のレポートにわたって表示されることはありません: **Sample Report 14b** の"Select an Entity"および **Sample Report 5 (Prompts)**の"Select a Quarter"。

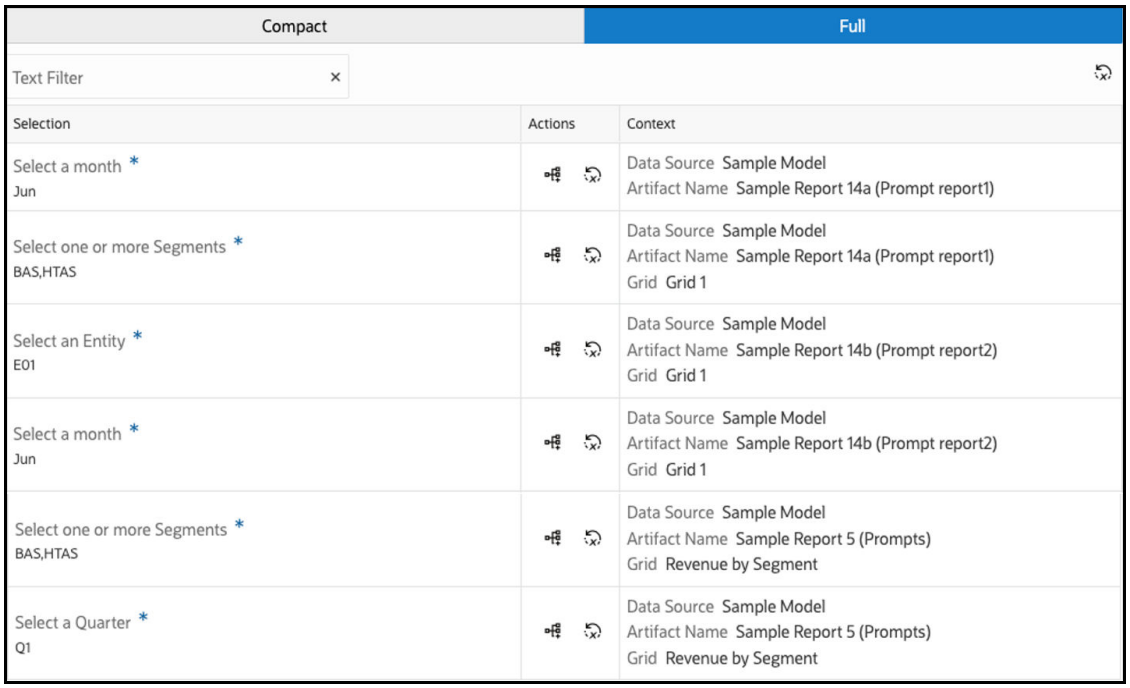
ブックをプレビューし、プロンプトに応答する際、**「コンパクト」**モードでは、4 つのプロンプトがリストされます。

最初の 2 つは複数のレポートに共通であり、最後の 2 つは 1 つのレポートに固有です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



「フル」モードでは、すべてのプロンプトが個々にリストされます:



レポート、ブックおよびセクションの視点選択の操作

レポート、ブックまたはセクションに対して POV を設定できます。レポート、ブックまたはセクションを実行できるメンバーのリストを定義できます。

複数のデータ・ソースを持つブックをプレビューするとき、単一の POV ディメンション選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体で共通のディメンションが組み合されます。ただし、共通ディメンションから選択可能なメンバーのリストは、ブック POV、レポート、挿入されたブックまたはセクション POV のブック・デザイナで定義する必要があります。共通 POV ディメンションの**「メンバー・セレクタ」**に表示されるメンバーは、ブック、レポート、挿入されたブックまたはセクションの**「データ・ソースの管理」**ダイアログに表示される最初のデータ・ソース用です。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **レポート**および**ブックの場合**: ブック POV にリストされたディメンションは、基礎となるレポートおよびブックに含まれる POV ディメンションです。

  たとえば、レポートで使用可能な POV ディメンションが**「Periods」**、**「Years」**および**「Entities」**のみの場合(残りのディメンションはグリッド内にあるか、非表示か、またはレポート POV でロックされている)、ブック・デザイナではこれら 3 つのディメンションのみがそのレポートに対して表示されます。

- **セクションの場合:** ブックのデータ・ソースから、使用可能な POV ディメンションを選択できます。すべてのデータ・ソース・ディメンションがリストされますが、選択したディメンションは、セクション内のレポートまたはブックで使用可能な POV ディメンションである必要があります(残りのディメンションはグリッド内にないか、非表示か、またはセクション POV でロックされている)。

> **ⓘ ノート**
>
> 同じメンバー選択を使用して複数のレポートをグループ化する場合は、セクション POV のみを定義する必要があります。

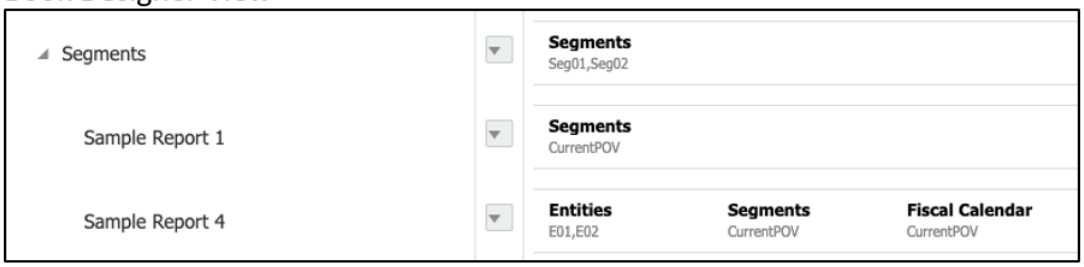
> **ⓘ ノート**
>
> - ブック視点の選択として代替変数およびユーザー変数を使用する場合、変数値は、システムがデータ・ソースに最初に接続するときに取得されます。メンバー・セレクタまたは POV(あるいはその両方)に変数の値が表示されます。ブックの実行時に、ブック内のレポートに対して最新の変数値が取得されます。ただし、ユーザーのセッション中に変数値が変更された場合、ユーザーがログアウトしてから再度ログインして新しいセッションに再接続するまで、変更はブックのメンバー・セレクタまたは POV に表示される変数値に反映されません。
> - メンバー・セレクタおよび POV での変数の使用の詳細は、代替変数およびユーザー変数の操作を参照してください。

POV を含むセクションと、POV を含まないセクションの 2 つの例を考えてみます。

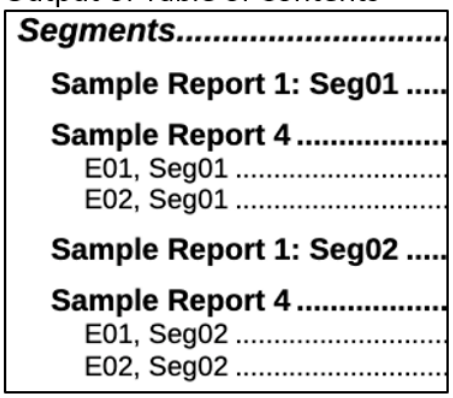
例: POV メンバー・セクションを含むセクション。 セクションには**「Segments」**・ディメンション・メンバー選択の**「Seg01」**と**「Seg02」**が含まれ、レポートには**「Segments」**・ディメンション・メンバーに対する**「Current POV」**が含まれます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Book Designer View



Output of Table of Contents

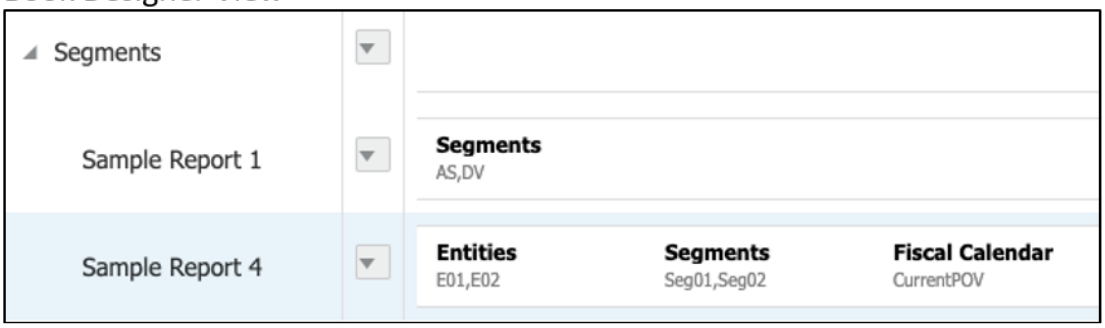


例: POV メンバー・セクションを含まないセクション。 セクションには POV メンバー選択は含まれず、レポートには**「Segments」**ディメンションに対する独自の POV 選択が含まれます。

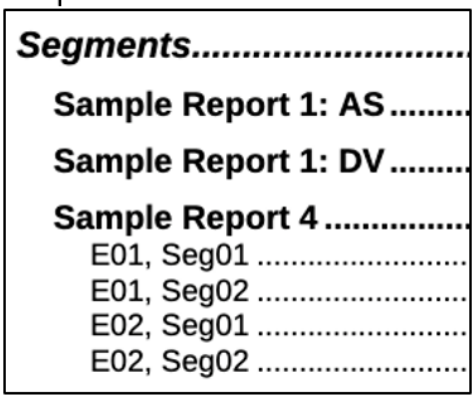
> **ⓘ ノート**
>
> レポートでセクションの POV を使用しない場合、レポートは各レポート固有の POV 選択に対して実行されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Book Designer View



Output of Table of Contents



レポートまたはブックの視点の設定

レポートまたはブックの POV を設定するには:

1. **ブック・デザイナ**の**「編集」**モードでレポートまたはブックを選択し、ディメンションのラベルをクリックして、そのディメンションの**メンバー・セレクタ**をオープンします。

   > ⓘ **ノート**
   >
   > レポートまたはブックに複数のデータ・ソースが含まれる場合、共通 POV ディメンションの**「メンバー・セレクタ」**に表示されるメンバーは、レポートまたはブックの**「データ・ソースの管理」**ダイアログに表示される最初のデータ・ソース用で、レポートまたはブックの**「処理」**メニューからアクセスできます。

2. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスのドロップダウン・リストから、**「メンバー」**、**「最近」**、**「代替変数」**または**「関数」**を選択して、選択したレポートまたはブックに割り当てます。

   メンバーを選択するには、次の規則を使用します。

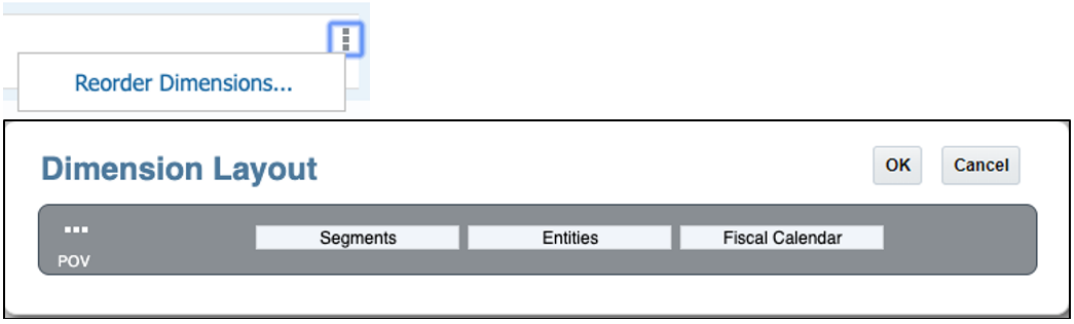
   - 親メンバーにドリルするには、**「展開」** - › をクリックします。
   - メンバーを選択および選択解除するには、**「選択」** - ✔ をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> 青色のチェックは、メンバーが現在選択されていることを示します。メンバーの上にマウスを置くと表示されるグレーのチェックは、そのメンバーが現在選択されていないことを示します。

- 関数を使用してメンバーを選択するには、メンバーの横にある**「関数」** - fx をクリックします。関数を使用したメンバーの割当を参照してください。
- メンバーをソートするには、セレクタ・ペインで**「処理」** - ⚙ をクリックします。

3. **「OK」**をクリックして、「メンバー・セレクタ」ダイアログをクローズします。
4. 残りの POV ディメンションに対して、メンバーの選択と POV オプションの設定を必要に応じて続行できます。
5. レポートまたはブック POV のディメンションを並べ替えるには: レポートまたはブック POV を選択して**「処理」** - ⋮ をクリックし、次に**「ディメンションの並替え」**を選択します。



6. **「OK」**をクリックします。

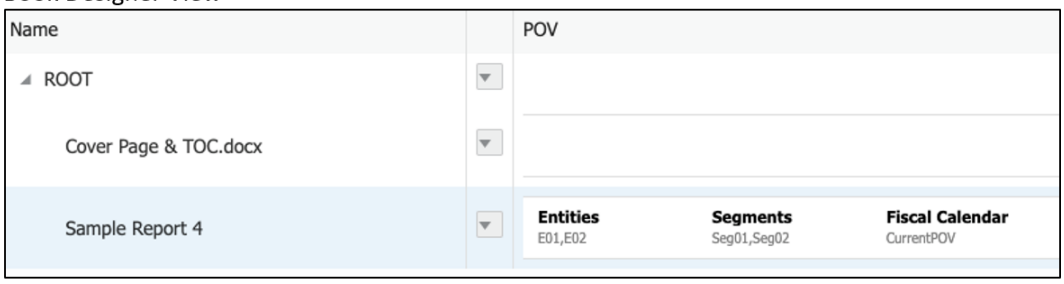
> **ノート**
>
> POV ディメンションの順序は、ブックがプレビューされたときにレポート・メンバーがどのようにグループ化されるかに影響します。

POV を含むセクションと、POV を含まないセクションの 2 つの例を考えてみます。

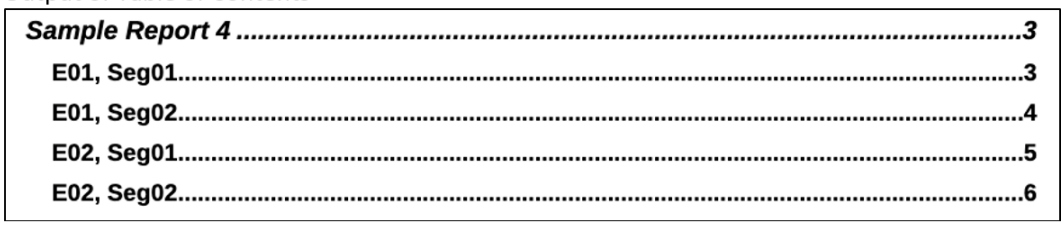
例 1: **「Entities」** POV ディメンションは、**「Segments」** POV ディメンションの前に表示されます。出力の結果は**「Entities」**でグループ化されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Book Designer View

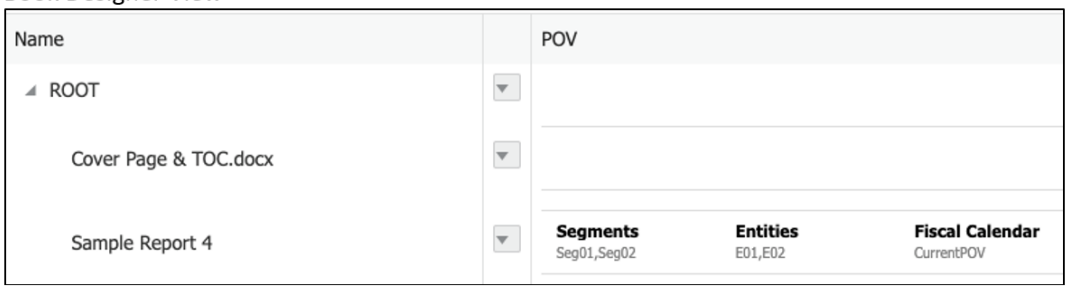


Output of Table of Contents

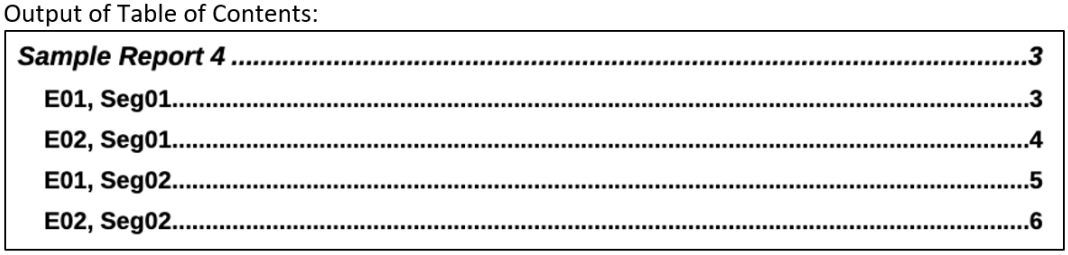


例 2: **「Segments」** POV ディメンションは、**「Entities」** POV ディメンションの前に表示されます。出力の結果は **「Segments」** でグループ化されます。

Book Designer View



Output of Table of Contents:



> **ⓘ ノート**
>
> レポートの目次定義では、**「Segments」** の前に **「Entities」** が表示されますが、レポートは、**「E01」** および **「E02」** を使用して **「Seg01」** が最初に実行され、次に **「E01」** および **「E02」** を使用して **「Seg02」** が実行されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

セクションの視点の設定

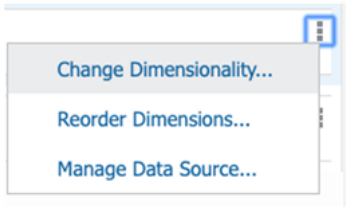
セクションを使用して、複数の文書を 1 つの共通目次エントリにグループ化し、オプションで共通の POV に対してレポートを実行できます。

セクションに対して選択した POV ディメンションは、複数のレポートおよびメンバー選択をループできます。たとえば、**「Entity」**ディメンションの選択したメンバーのセクション下にあるすべてのレポートを実行できます。

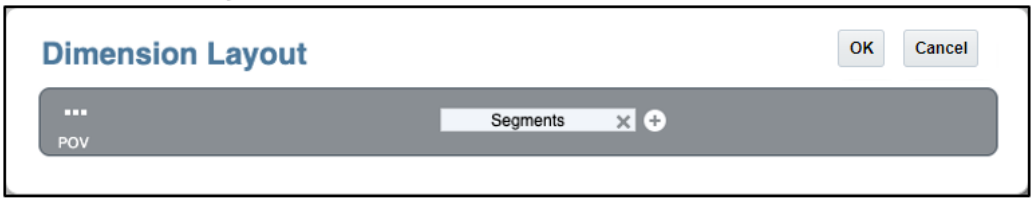
セクションの POV を設定するには:

1. **ブック・デザイナ**の**「編集」**モードで、**セクション**を選択します。
2. **セクション**の POV ディメンションを追加または変更するには、**「処理」** - 、**「ディメンションの変更」**の順に選択します。

Change Dimensionality and Reorder Dimensions Options



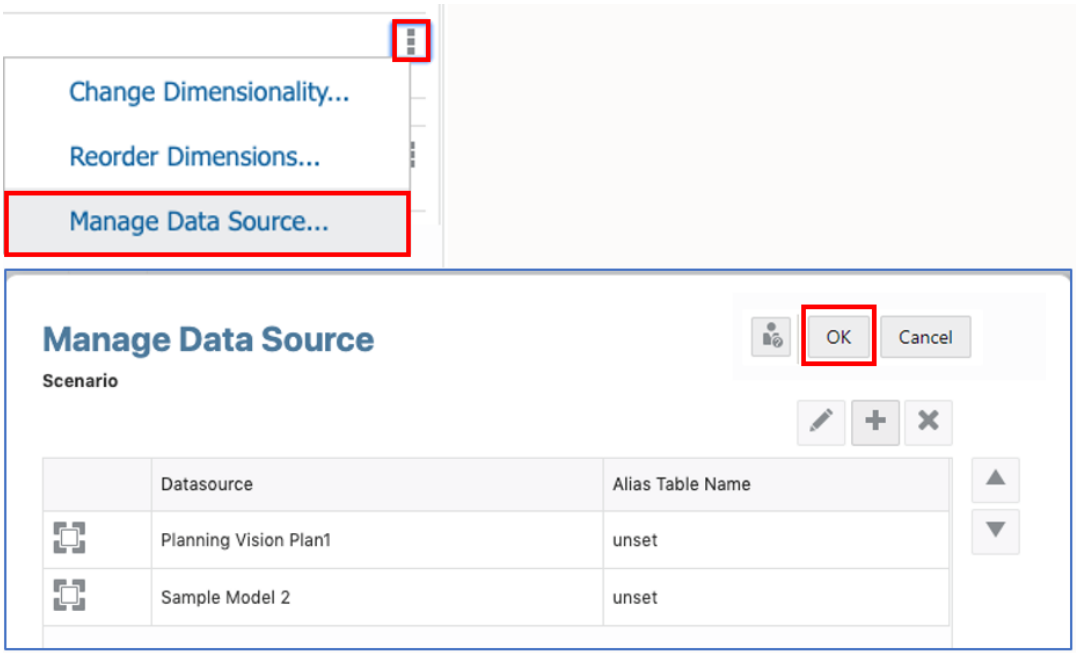
Dimension Layout View



3. **セクション**の POV ディメンションを並べ替えるには、**「処理」** - 、**「ディメンションの並替え」**の順に選択します。
4. **セクション**の POV ディメンションを追加するには、**「ディメンション・レイアウト」**の POV バーで**「追加」** - をクリックして、ドロップダウン・リストから必要なディメンションを選択し、**「OK」**をクリックします。

> **ノート**
>
> セクションに複数のデータ・ソースが含まれる場合、共通 POV ディメンションの**「メンバー・セレクタ」**に表示されるメンバーは、セクションの**「データ・ソースの管理」**ダイアログに表示される最初のデータ・ソース用で、セクションの**「処理」**メニューからアクセスできます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



5. **ブック・デザイナ**でディメンションのラベルをクリックして、そのディメンションの**メンバー・セレクタ**をオープンします。
6. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスのドロップダウン・リストから、**「メンバー」**、**「最近」**、**「代替変数」**または**「関数」**を選択して、選択したセクションに割り当てます。

   メンバーを選択するには、次の規則を使用します。

   - 親メンバーにドリルするには、**「展開」** - をクリックします。
   - メンバーを選択および選択解除するには、**「選択」** - をクリックします。

     > **ノート**
     >
     > 青色のチェックは、メンバーが現在選択されていることを示します。メンバーの上にマウスを置くと表示されるグレーのチェックは、そのメンバーが現在選択されていないことを示します。

   - 関数を使用してメンバーを選択するには、メンバーの横にある**「関数」** - をクリックします。関数を使用したメンバーの割当を参照してください。
   - メンバーをソートするには、**セレクタ**・ペインで**「処理」** - をクリックします。
7. **オプション:**「選択内容」リストで選択したメンバーの順序を変更するには、メンバーを選択して希望の位置にドラッグするか、右クリックして**「上に移動」**または**「下に移動」**を選択します。「選択内容」リストからメンバーを削除するには、そのメンバーを右クリックして**「削除」**をクリックします。また、右クリックして**「階層で表示」**を選択すると、そのメンバーの親メンバーを展開してメンバー階層で表示できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

8. **オプション:** 選択したメンバー関数のパラメータを編集するには、「選択内容」リストでメンバー関数を選択し、 をクリックします。たとえば、関数にそのメンバーを含めるには、メンバー関数で**「包含」**を選択します。
9. **「OK」**をクリックして、「メンバー・セレクタ」ダイアログをクローズします。

   「Segments」には、POV 選択が含まれた**セクション**が表示されます。



ブックでの目次の表示

目次の書式設定とレイアウトに加えて、ブック内の文書ごとに表示される情報もカスタマイズできます。

- 目次が挿入された Microsoft Word 文書を使用して、書式設定やレイアウトを定義できます。
- 目次を含む Word 文書を**ライブラリ**にアップロードできます。
  - Narrative Reporting では、目次を含む Word 文書のアップロードは**ライブラリ**を介して実行できます。
  - Cloud EPM プラットフォームでは、**「文書」**カードまたは**「タブ」**(Financial Consolidation and Close および Tax Reporting のタブ)を使用して、目次を含む Word 文書のアップロードを実行できます。
- **ブック・デザイナ**で、レポートのセクションまたはブックを選択した後、「プロパティ」ペイン内の目次見出しセクションで、テキスト関数またはハード・コード化されたテキスト(あるいはその両方)を利用して目次を定義できます。

  テキスト関数を使用すると、各レポートのブックやセクションに表示される目次を定義して構造化できます。

Word の目次テンプレートの設定

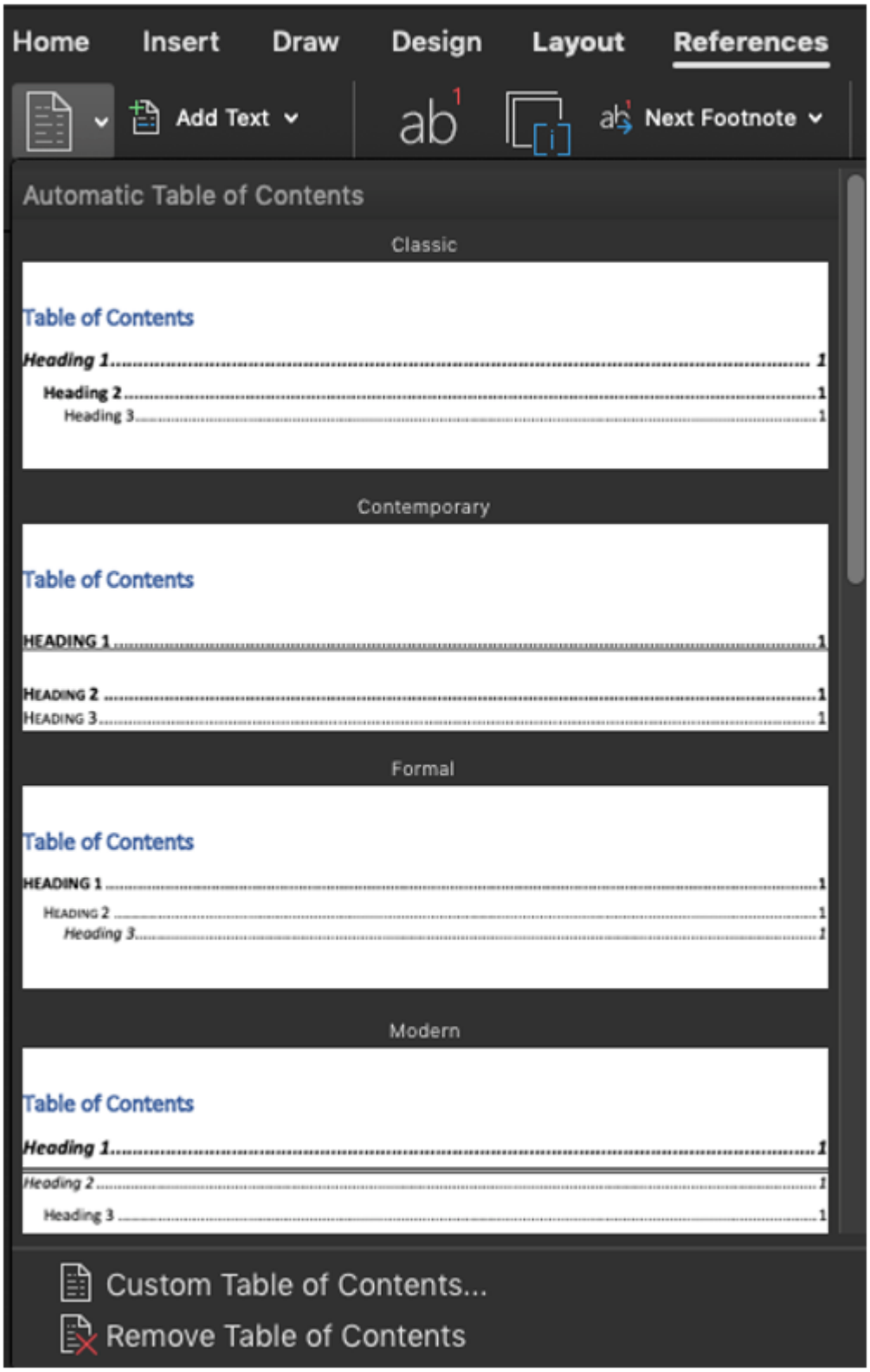
目次が定義された Microsoft Word 文書を挿入して、ブックの目次に必要な書式設定やレイアウトを反映できます。Word 文書では、カバー・ページや空白ページなど、コンテンツが含まれた追加ページを目次の前または後に含めることもできます。

目次を含む Word 文書を**ライブラリ**にアップロードできます。

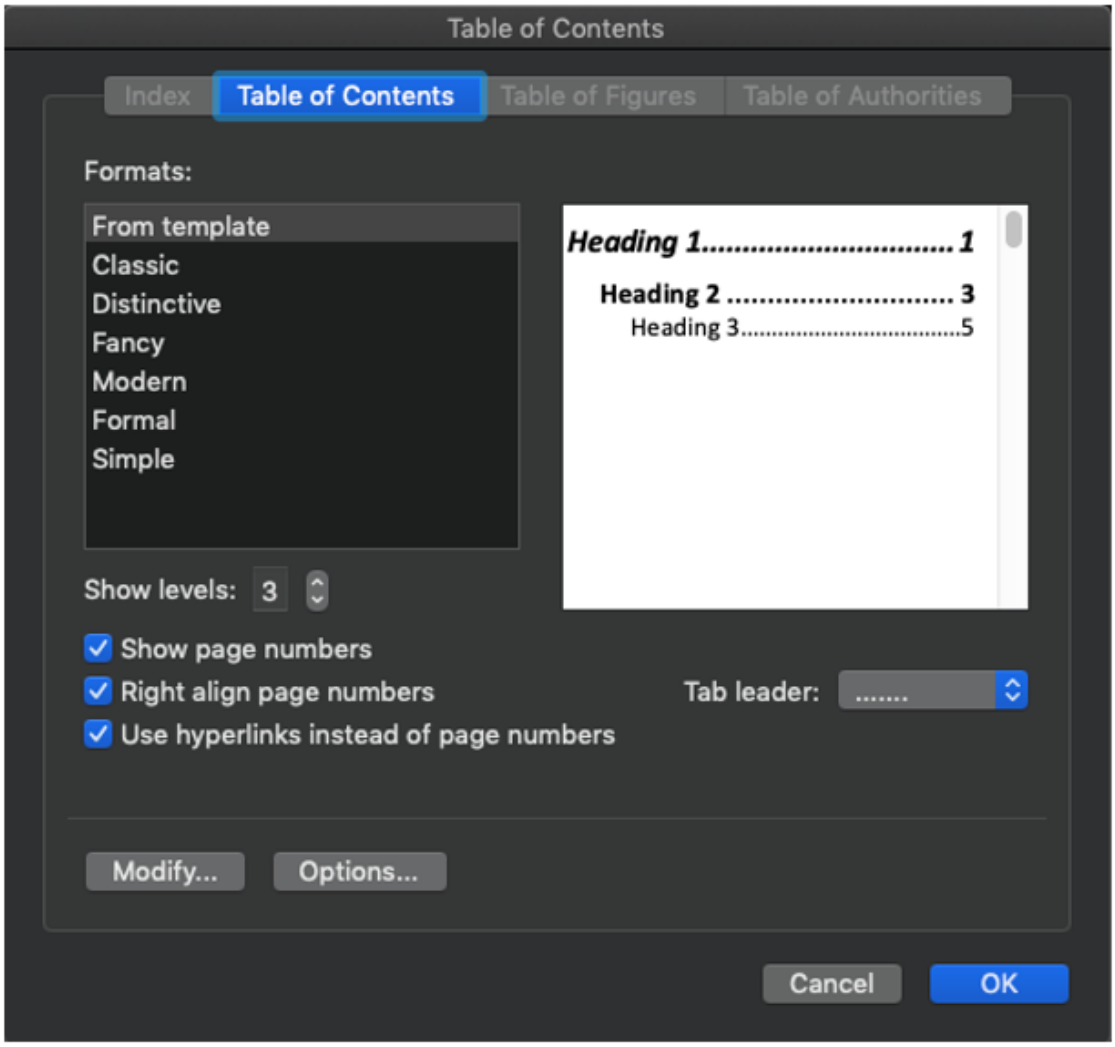
- Narrative Reporting では、目次を含む Word 文書のアップロードは**ライブラリ**を介して実行できます。
- Cloud EPM プラットフォームでは、**「文書」**カードまたは**「タブ」**(Financial Consolidation and Close および Tax Reporting のタブ)を使用して、目次を含む Word 文書のアップロードを実行できます。

Word の「参考資料」リボンで、使用する目次書式を選択できます。また、**「ユーザー設定の目次」**をクリックして、目次をさらにカスタマイズできます。ブックへの目次の Word 文書の挿入については、文書またはセクションの目次表示の設定を参照してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **ノート**
>
> **「レベルの表示」**オプションの数値を変更して、目次の見出しレベルの数を調整できます。

たとえば、Word から目次を挿入する場合、3 つのレベル(**見出し 1**、**見出し 2** および**見出し 3** など)が定義されています。

ブックのレベルでも 3 レベルのインデントが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

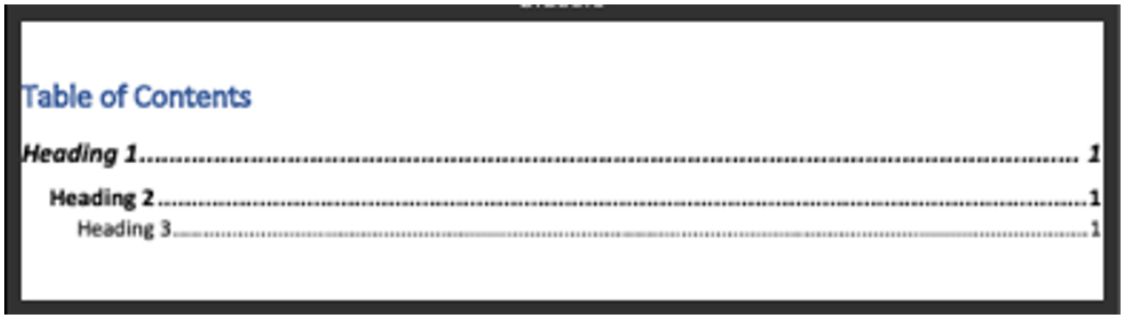
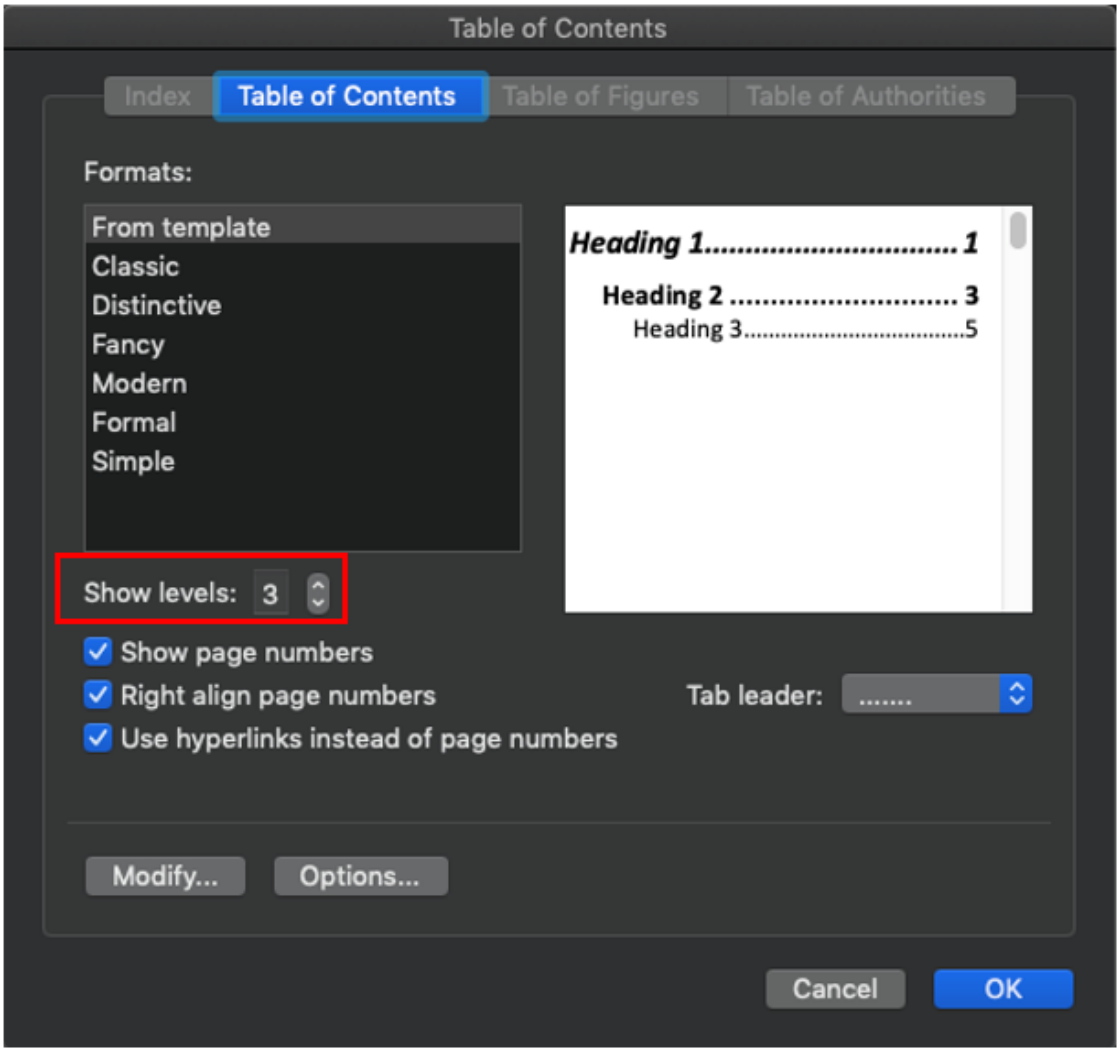


Table of Contents

Segments 1
Sample Report 1: Electronics 1
Sample Report 4 2
North America, Electronics 2
Latin America, Electronics 3
Sample Report 1: Services 4
Sample Report 4 5
North America, Services 5
Latin America, Services 6

追加レベルがあるブックの場合(たとえば、ブックにネストされた**セクション**が含まれる場合)、追加レベルを表示するように定義しないかぎり、追加コンテンツは目次に表示されません。**「レベルの表示」**オプションの値を大きくして、追加の目次コンテンツを表示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



文書またはセクションの目次表示の設定

レポート、セクションまたはブックの目次表示を変更および調整できます。ブック・デザイナで、レポート、セクションまたはブックを選択し、「プロパティ」ペイン内の目次見出しタブでテキスト関数を使用して目次を定義できます。

目次見出しセクションで、各目次見出し行に含める関数を選択し、行を追加できます。目次見出し用のテキスト関数には次が含まれます。

`ArtifactName()`は、文書またはセクションの名前を返します。

`MemberName(<dimension>)`は、指定したディメンションに対する現在の POV メンバー選択のメンバー名を返します。

`MemberAlias(<dimension>)`は、指定したディメンションに対する現在の POV メンバー選択のメンバー別名を返します。

レポート、セクションまたはブックの目次の設定

レポート、セクションまたはブックの目次見出しを設定するには:

1. **ブック・デザイナ**で、**レポート**、**セクション**または**ブック**を選択します。

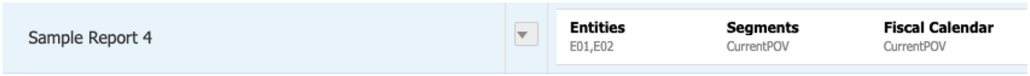
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. **「プロパティ」**ペイン内の目次見出しに、選択可能なデフォルト目次見出しが表示されます。

   デフォルト目次見出しには次が含まれます。

   - **セクション**の場合: `ArtifactName()` - セクション名を返します。セクション内では、レポートまたはブックの名前は取得できず、セクション名のみ返されます。
   - **レポート**または**ブック**の場合: `ArtifactName()`、`MemberName()`… - レポートまたはブックの名前の後に、レポートまたはブック POV の全ディメンションのメンバー名を返します(当初に定義された順序に基づく)。

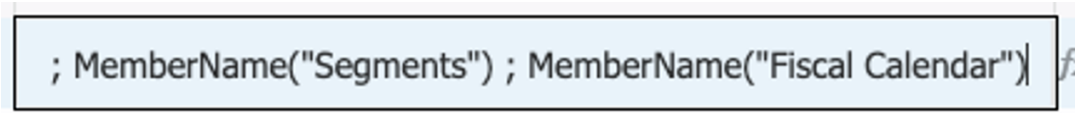
     たとえば、次に Sample Report 情報を示します。

     前述のイメージの Sample Report のデフォルト目次ヘッダーには、次のテキスト関数が含まれています: `ArtifactName()`、`MemberName("Entities")`、`MemberName("Segments")`、`MemberName("Fiscal Calendar")`

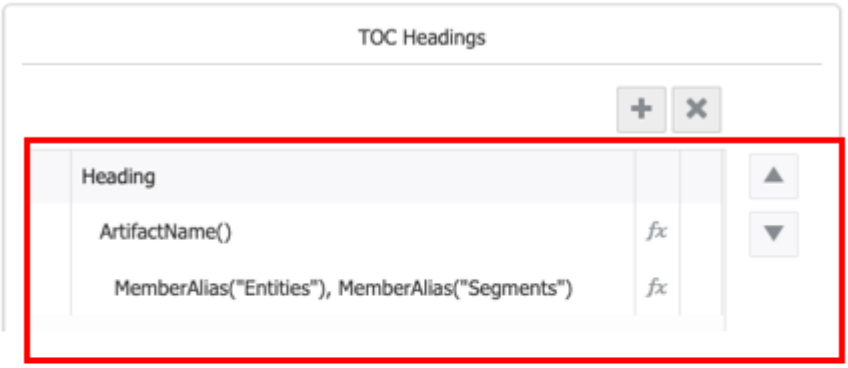
3. 既存のテキスト関数を編集するには、テキスト・フィールドをダブルクリックして、テキスト関数を手動で入力します。

   テキスト・ボックスには、次のイメージに示すような黒い境界線が表示されます。

4. テキストまたはテキスト関数をフィールドに手動で入力できます。また、**「関数」** - fx をクリックして、使用可能またはサポート対象のテキスト関数を挿入することもできます。
5. テキスト関数を入力した後に、**[Enter]**キーを押して編集モードを終了し、すべての更新を受け入れることができます。
6. **「追加」** - ＋ をクリックして目次ヘッダー行を追加し、階層的な目次ヘッダーを定義できます。たとえば、最初にレポート名を表示し、その後に POV メンバーを表示します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.





7. ***オプション***: 複数の目次ヘッダー行が存在する場合は、**「上へ移動」**または**「下に移動」**ボタンをクリックして、選択した行を上下に移動できます。



> ⓘ **ノート**
>
> 複数の行は常に、階層表示構造で表示されます。

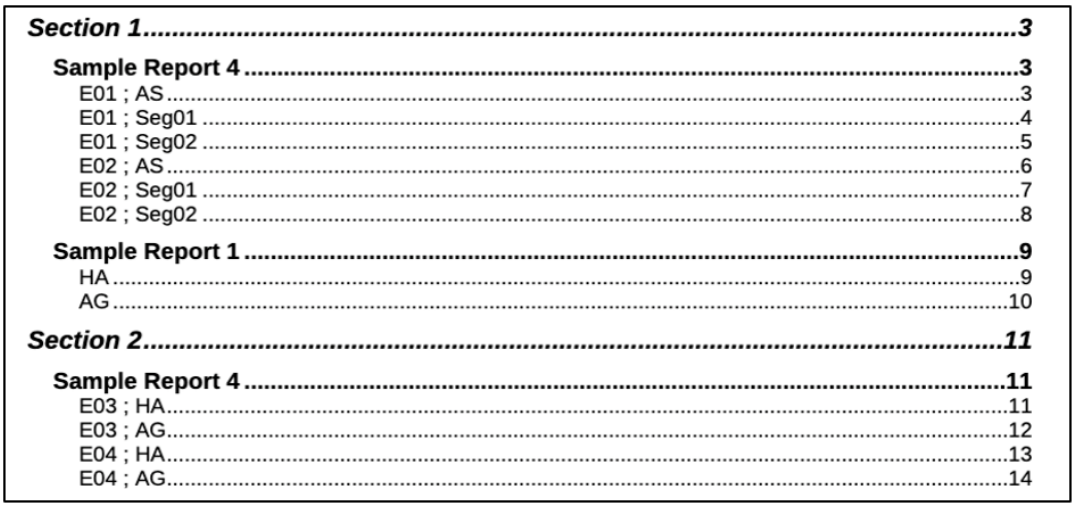
8. ***オプション***: 選択した行を削除するには、**「削除」** - ✖ をクリックします。

セクションの操作

次のシナリオで、ブックにセクションを挿入できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 1 つ以上の視点(POV)ディメンション間で共通のメンバー選択があるレポートのグループの場合。たとえば、100 の異なる部門に対して 3 つのレポートを実行する必要があります。
- 目次に表示する見出しテキストを指定します。
- 同じレベルでの目次表示のレポートのグループの場合。



> **ⓘ ノート**
>
> POV ディメンション階層または複数のディメンション間で異なるレポートを実行するために、複数のセクションをネストできます。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、ブック・セクションを操作する方法を学習します。

 -- Narrative Reporting でのブック・セクションの操作.

ブックのセクションを使用して、複数のレポートおよびメンバー選択をループし、目次表示用にレポートを 1 レベルでグループ化できます。このビデオでは、Narrative Reporting でブック・セクションを操作する方法を学習します。

セクションの操作:

- セクションを挿入するには、ブックでの文書の管理 を参照してください。
- セクションの視点を設定するには、セクションの POV を設定するにはを参照してください。
- セクションの使用例は、ブックの例を参照してください。

複数のデータ・ソースの操作

複数のデータ・ソースを持つレポート、ブックおよびセクションの場合、単一の POV 選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体で共通のディメンションが組み合されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

「ブック処理」メニューの**「データ・ソースの管理」**を使用して、ブックにデータ・ソースを追加したり、ブックで使用するデータ・ソースを別のデータ・ソースに変更したり、共通ディメンションの POV に表示するのに使用するデータ・ソースの優先度を設定できます。

セクション、レポートまたは挿入されたブックの「処理」メニューの**「データ・ソースの管理」**を使用して、データ・ソースを追加したり、使用するデータ・ソースを別のデータ・ソースに変更したり、共通ディメンションの POV に表示するのに使用するデータ・ソースの優先度を設定できます。

次に、共通 POV ディメンションを持つブックで複数のデータ・ソースを使用する例をいくつか示します。これらの例で使用されるデータ・ソースは次のとおりです。

- **Sample Model 2:** 変更された Narrative Reporting サンプル・モデルで、2 つのディメンション(シナリオおよびエンティティ)が Planning Vision Plan1 アプリケーション/キューブのディメンション名に一致するように名前が変更されています。

> **ⓘ ノート**
>
> Narrative Reporting サンプル・アプリケーションまたはモデルは、2020 年 7 月で、新規の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Narrative Reporting 顧客に対して使用できなくなりました。

- **Planning Vision Plan1:** Planning ビジネス・プロセスのサンプル・アプリケーションおよびキューブ。

次の例で使用されるレポートは次のとおりです。3 つすべてのレポートには、POV にシナリオおよびエンティティ・ディメンションがあります。シナリオ・ディメンションの選択肢は「実績」および「プラン」で、エンティティ・ディメンションの選択肢は「エンティティ 合計」です。両方のディメンションの POV 選択は、両方のデータ・ソースで有効です。

- **Sample Report 1 (Model 2)** – 「Sample Model 2」データ・ソースを使用します
- **Sample Planning** – 「Planning Vision Plan1」データ・ソースを使用します
- **Sample Multi Source Report** – 2 つのグリッドがあり、1 つは「Sample Model 2」データ・ソースを使用し、もう 1 つは「Planning Vision Plan1」データ・ソースを使用します。

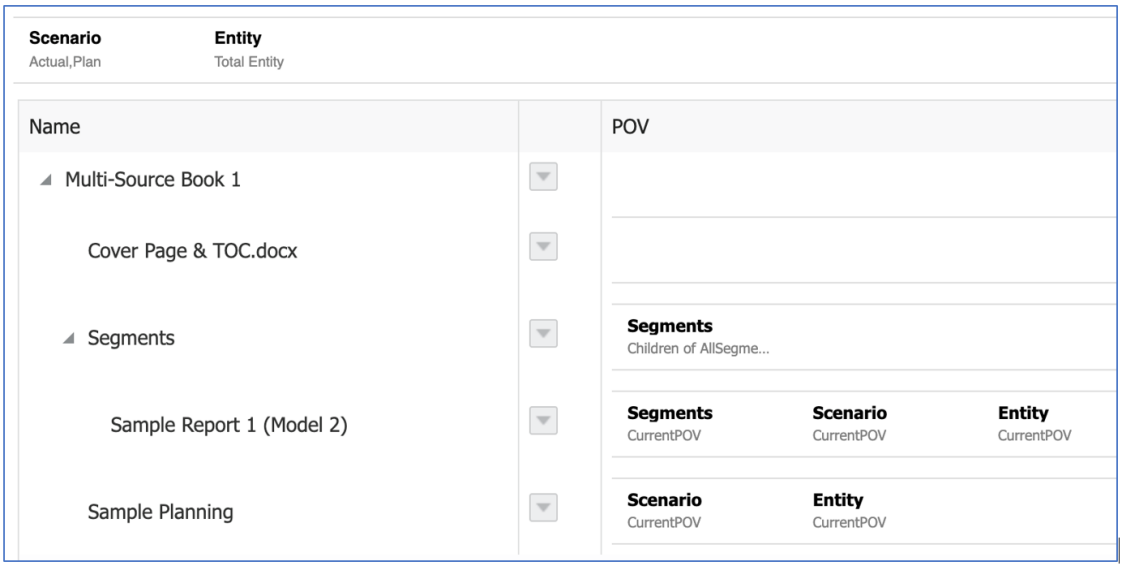
例 1

このブックには、Sample Report 1 (Model 2)および Sample Planning レポートが含まれています。Sample Report 1 (Model 2)はセクション(セグメント)に含まれます。

次の点に注意してください。

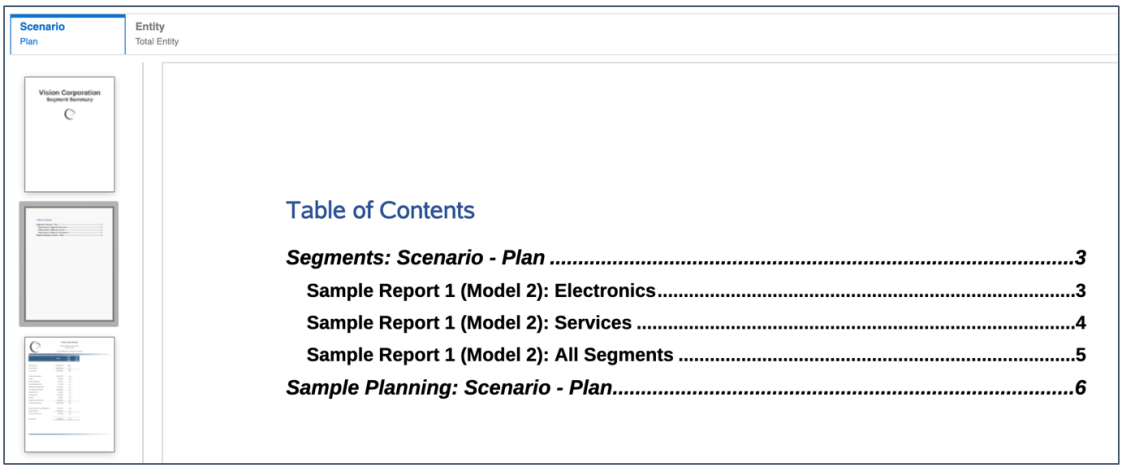
- **シナリオ**および**エンティティ**・ディメンションは両方ともブック POV に含まれます。
- 両方のレポートの POV ディメンション選択は、すべて**「Current POV」**に設定されます。これは、ブックまたはセクション POV 選択のいずれかに対して実行されることを意味します(該当する場合)。
- 「セグメント」セクションのカスケード POV 選択は**「Children of AllSegments, Inclusive」**です。**Sample Report 1 (Model 2)**は、セクション POV の各**「セグメント」**メンバー、ブック POV の**「シナリオ」**および**「エンティティ」**選択に対して実行されます。
- **Sample Planning** レポートは、ブック POV の「シナリオ」および「エンティティ」選択に対して実行されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **ノート**
>
> ブック・プレビューで、両方のレポートは、ブック POV で選択された「プラン」に対して実行されます。

「セクション」および **Sample Planning** レポートの目次見出しは、「シナリオ」POV 選択を表示するようにカスタマイズされました。



例 2

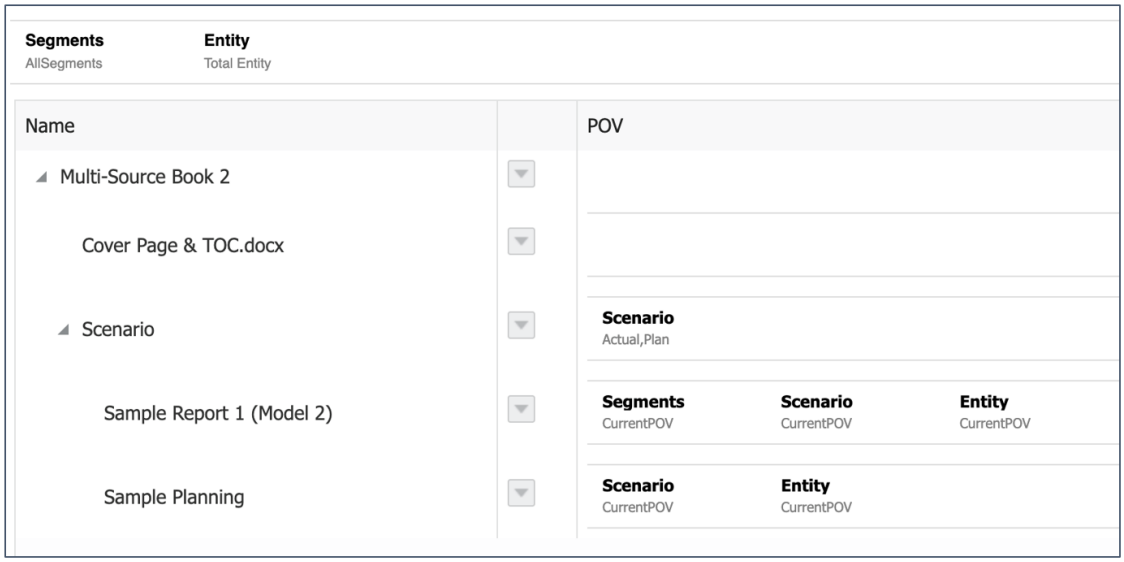
このブックには、**Sample Report 1 (Model 2)**および **Sample Planning** レポートが含まれています。両方のレポートはセクション(シナリオ)に含まれます。

次の点に注意してください。

- **セグメント**および**エンティティ**・ディメンションは両方ともブック POV に含まれ、単一選択用にハードコーディングされています。

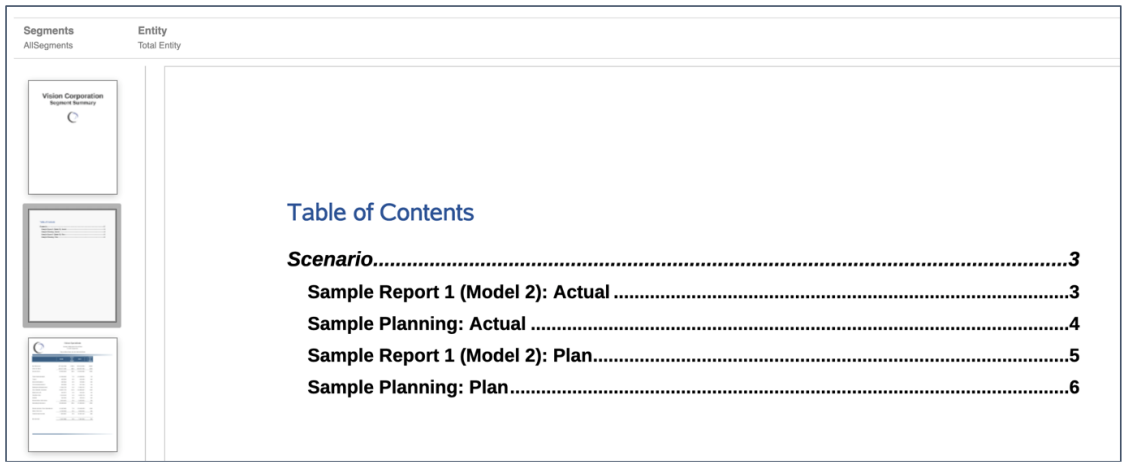
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 両方のレポートの POV ディメンション選択は、すべて**「Current POV」**に設定されます。これは、ブックまたはセクション POV 選択のいずれかに対して実行されることを意味します(該当する場合)。
- 「シナリオ」セクションのカスケード POV 選択は「実績」および「プラン」です。両方のレポートは、セクション POV の各**「シナリオ」**メンバー、ブック POV の「セグメント」(**Sample Report 1 - Model 2** のみ)および**「エンティティ」**選択に対して実行されます。



> **ⓘ ノート**
>
> ブック・プレビューで、両方のレポートは、セクションで定義された「実績」および「プラン」に対して実行されます。

両方のレポートの目次見出しは、「シナリオ」POV 選択を表示するようにカスタマイズされました。



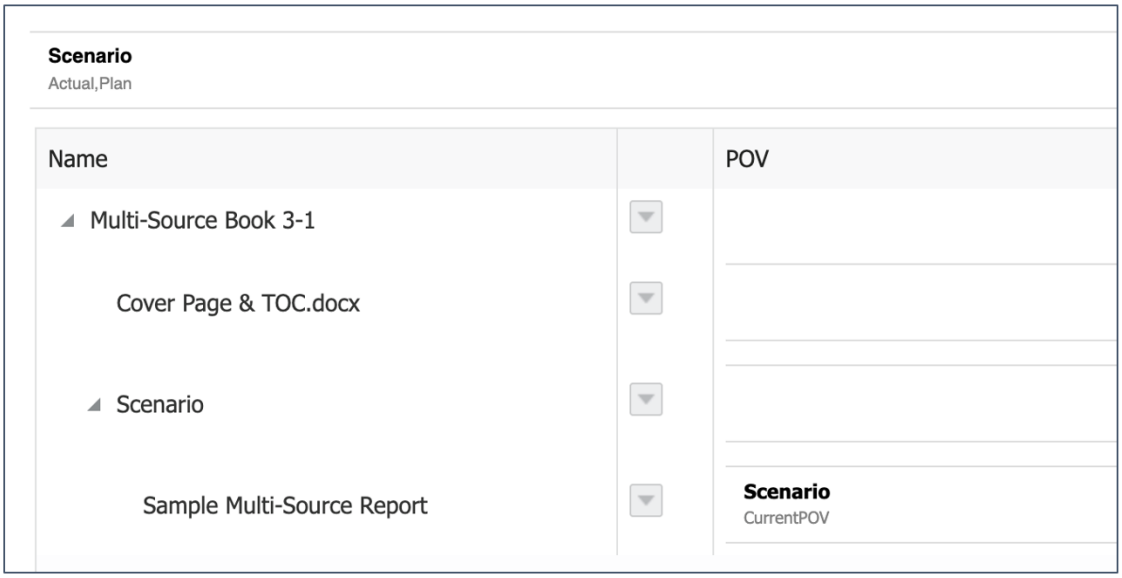
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

例 3

このブックには、セクション(シナリオ)に含まれる **Sample Multi-Source** レポートが含まれています。

次の点に注意してください。

- シナリオ・ディメンションはブック POV にあり、「実績」および「プラン」が選択されています。
- レポートの POV ディメンション選択は、**「Current POV」**に設定されます。これは、レポートがブック POV 選択に対して実行されることを意味します(セクション POV は定義されていないため)。



次のイメージには、ブック POV の「実績」が選択されたブック実行が表示されています。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

14

バースティングの操作

次も参照:

- バースティングについて
- 前提条件
- バースティング定義を作成するための簡単なステップ
- 新規バースティング定義の作成
- バースティング定義処理メニューの操作
- バースティング定義の作成に関する制限事項
  レポートでは、バースティング定義の作成に関する制限事項があります。
- バースティング定義でのプロンプトの使用
- 複数のデータ・ソースでのバースティング定義の使用
- バースティング定義に対するアクセス権限の設定
  この項では、ユーザーまたはグループ・ロールに基づくバースティング定義および機能に対するアクセス権限の制御について説明します。

バースティングについて

バースティングを使用すると、1 つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数のメンバーに対して単一のレポートまたはブックを実行し、各メンバーの出力を公開できます。

レポートまたはブックをバースティングすると、**「PDF」**または静的な(Smart View でリフレッシュ不可)**「Excel」**ワークブックのいずれかに公開できます

バースティングを使用して、公開された出力ファイルを指定の受信者リストに添付して E メールを送信できます。公開された出力ファイルをライブラリに保存することもできます。公開された出力ファイルの E メール送信とライブラリへの保存の両方を実行することもできます。

Narrative Reporting デプロイメントでは、バースティング定義のスケジュールは、Narrative Reporting ジョブ・コンソールまたは *EPM 自動化の操作*の Narrative Reporting のコマンド (*EPM 自動化の操作*の executeBurstDefinition)を介して実行されます。

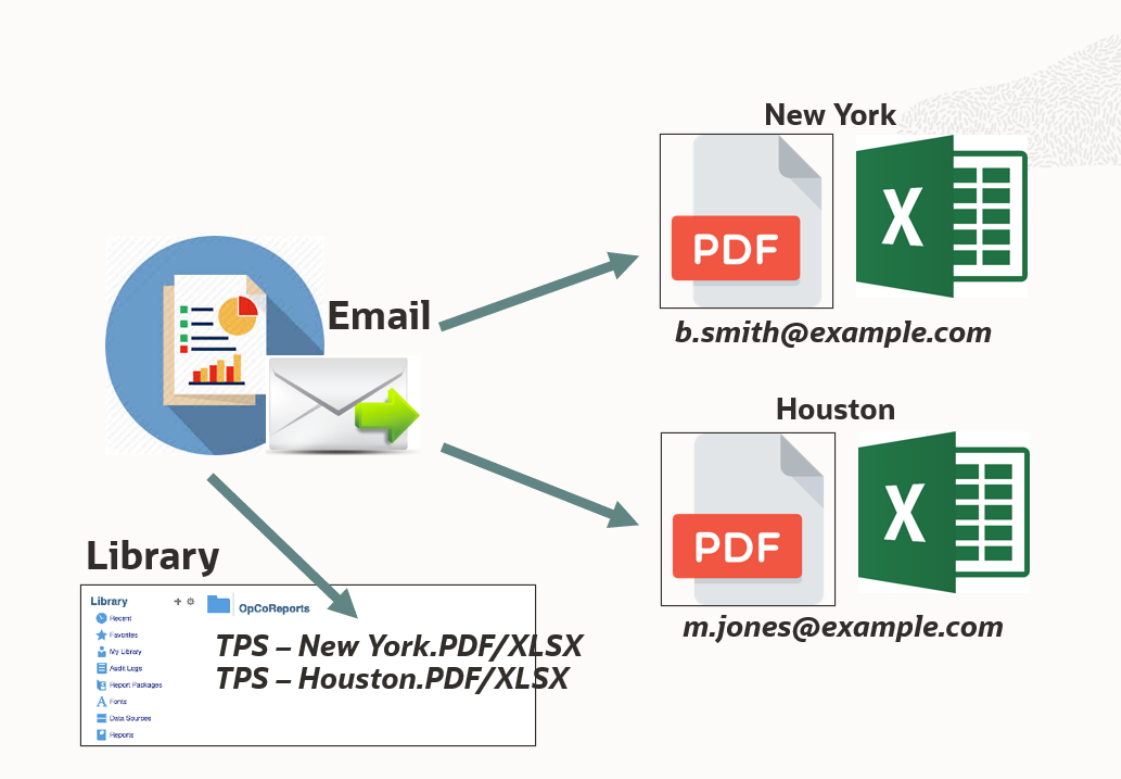
Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントでは、バースティング定義のスケジュールは、Cloud EPM プラットフォームのジョブ・スケジューラまたは *EPM 自動化の操作*の Narrative Reporting のコマンド (*EPM 自動化の操作*の executeBurstDefinition) を介して実行されます。

バースティングで、**New York** と **Houston** などの 2 つのエンティティに対して**「レポート」**または**「ブック」**を実行し、出力に公開する例を示します。

- 場所が **New York** の出力ファイルを特定の E メール受信者 `b.smith@example.com` に送信します。
- 同様に、場所が **Houston** の出力ファイルを特定の E メール受信者 `m.jones@example.com` に送信します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 生成された出力ファイルをライブラリに保存し、ユーザーの権限に基づいて、公開された出力文書を表示またはアクセスできます。



成功および失敗通知の E メールを構成し、バースティング実行ステータスの詳細を送信できます。

ターゲット配布ファイルを使用できます。これは、対応する E メール・アドレスおよびライブラリ権限に対するユーザーまたはグループとともに、バースティングするメンバーのリストを定義するカンマ区切り値(CSV)ファイルです。

ターゲット配布ファイルを使用して、次のいずれかを実行できます。

- 出力ファイルをシステム・ユーザーおよびグループと、外部 E メール・アドレスに送信します。
- システム・ユーザーおよびグループに対するライブラリ・アクセス権限を設定します。

バースティング出力は、次の 3 つの方法で生成できます。

- **ターゲット配布ファイル**(CSV)を使用して、個別の E メールおよび各メンバーの出力ファイルに対するライブラリ・アクセス権限を送信できます。

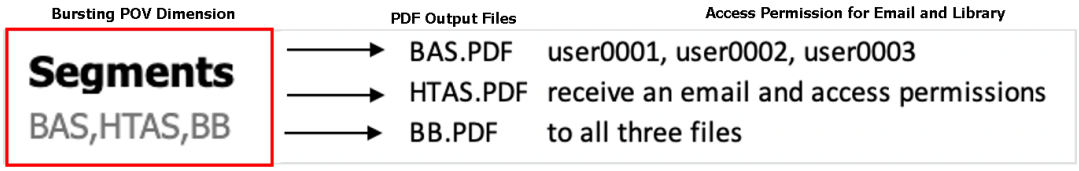
Targeted Distribution File (CSV)

member	user_names	user_emails
BAS	user0001	user0001
HTAS	user0002	user0002
BB	user0003	user0003

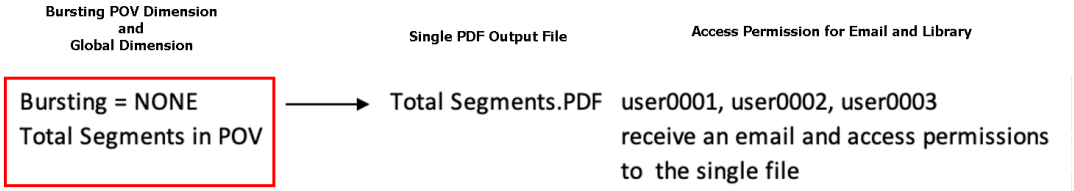
PDF Output Files	Access Permission for Email and Library
BAS.PDF	user0001: email and access permissions
HTAS.PDF	user0002: email and access permissions
BB.PDF	user0003: email and access permissions

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「E メール」**チャネルで**生成されたすべてのレポートを 1 つの E メールで送信**オプションを選択し、**ターゲット配布ファイル**は使用されません。



- **「バースティング POV ディメンション」**を**「なし」**に定義できます。これにより、単一の出力ファイルを指定のユーザーに E メールで送信し、出力ファイルをライブラリに公開できます。



E メール・チャネルを有効にしたターゲット配布ファイルの使用

ターゲット配布ファイルを選択した後、**「E メール」**のみを選択した、最初のユース・ケースを示します。

次のイメージは、ターゲット配布ファイルです。

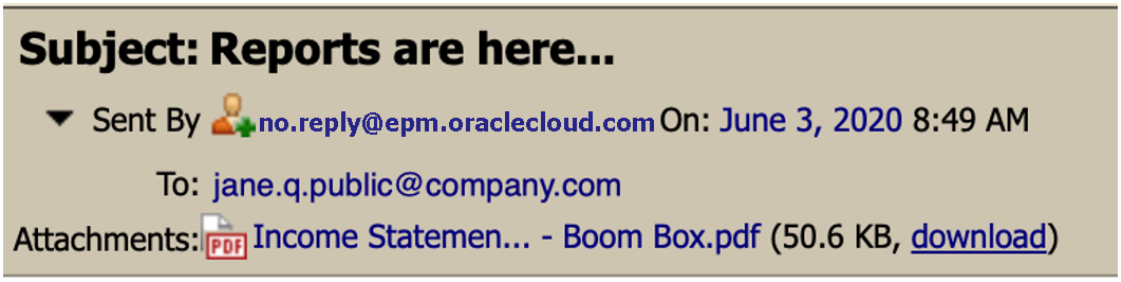
member	user_names	group_names	external_emails	user_emails	group_emails
BAS	user0001		jane.q.public@company.com	user0001	
HTAS	user0002		jane.q.public@company.com	user0002	
BB	user0003		jane.q.public@company.com	user0003	
PCD	user0004		zachary.smith@company.com	user0004	
MP3	user0005		zachary.smith@company.com	user0005	

バースティング POV ディメンションにメンバーが選択されています。



メンバーの出力ごとに個別の E メールが送信されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ライブラリ・チャネルを有効にしたターゲット配布ファイルの使用

ターゲット配布ファイルを選択した後、**「ライブラリ」**のみを選択した、2 つ目のユース・ケースを示します。

次のイメージは、ターゲット配布ファイルです。

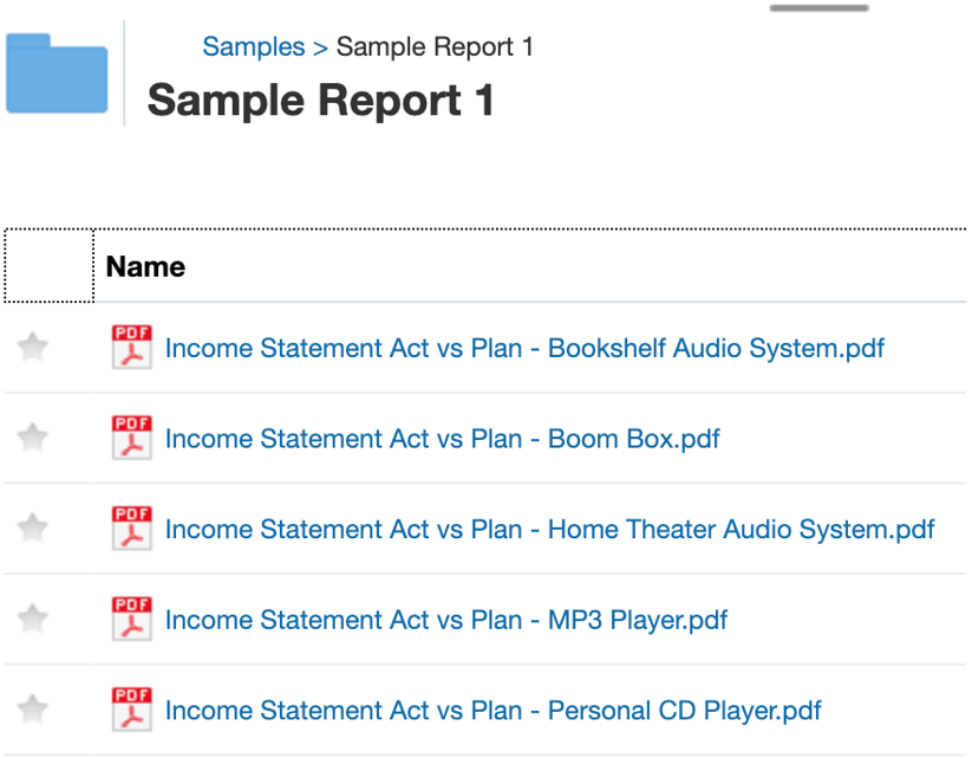
member	user_names	group_names	external_emails	user_emails	group_emails
BAS	user0001		jane.q.public@company.com	user0001	
HTAS	user0002		jane.q.public@company.com	user0002	
BB	user0003		jane.q.public@company.com	user0003	
PCD	user0004		zachary.smith@company.com	user0004	
MP3	user0005		zachary.smith@company.com	user0005	

次のイメージは、バースティング POV ディメンションにメンバーが選択されていることを示しています。



次のイメージは、Narrative Reporting ライブラリの出力ファイルを示しています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



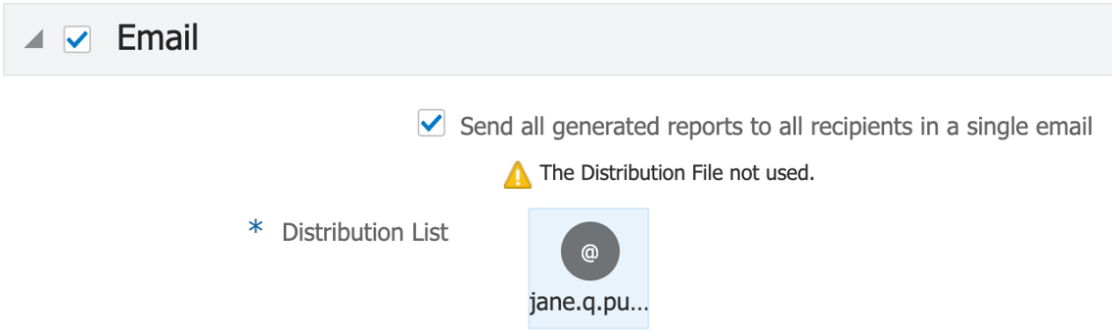
E メールとライブラリの両方のチャネルを有効にしたターゲット配布ファイルの使用

ターゲット配布ファイルを選択した後、**「E メール」**および**「ライブラリ」**の両方のオプションを選択した、最後のユース・ケースを示します。

ノート: **「E メール」**と**「ライブラリ」**の両方のチャネルを選択した場合は、**生成されたすべてのレポートを 1 つの E メールで送信**と、**配布リスト**および**ユーザー・リスト**が定義されている**生成されたレポートへの権限の割当**の両方を選択できます(逆の場合も同様です)。

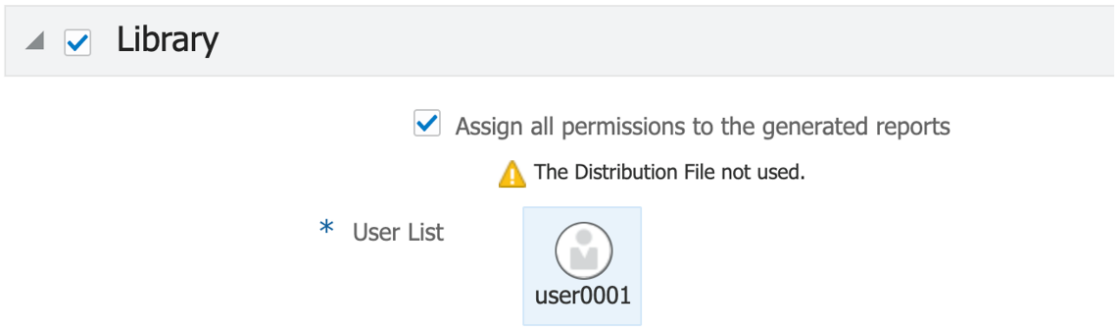
オプション 1: **生成されたすべてのレポートを 1 つの E メールで送信**と、**配布リスト**および**ユーザー・リスト**が定義されている**生成されたレポートへの権限の割当**の両方のオプションを選択します。

「E メール」で、**生成されたすべてのレポートを 1 つの E メールで送信**オプションを選択します。

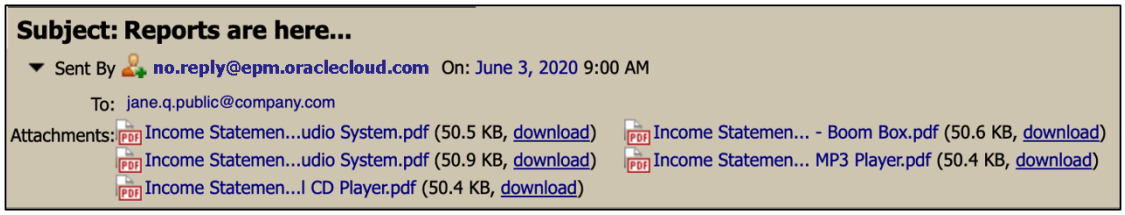


「ライブラリ」で、**生成されたレポートへの権限の割当**オプションを選択します。

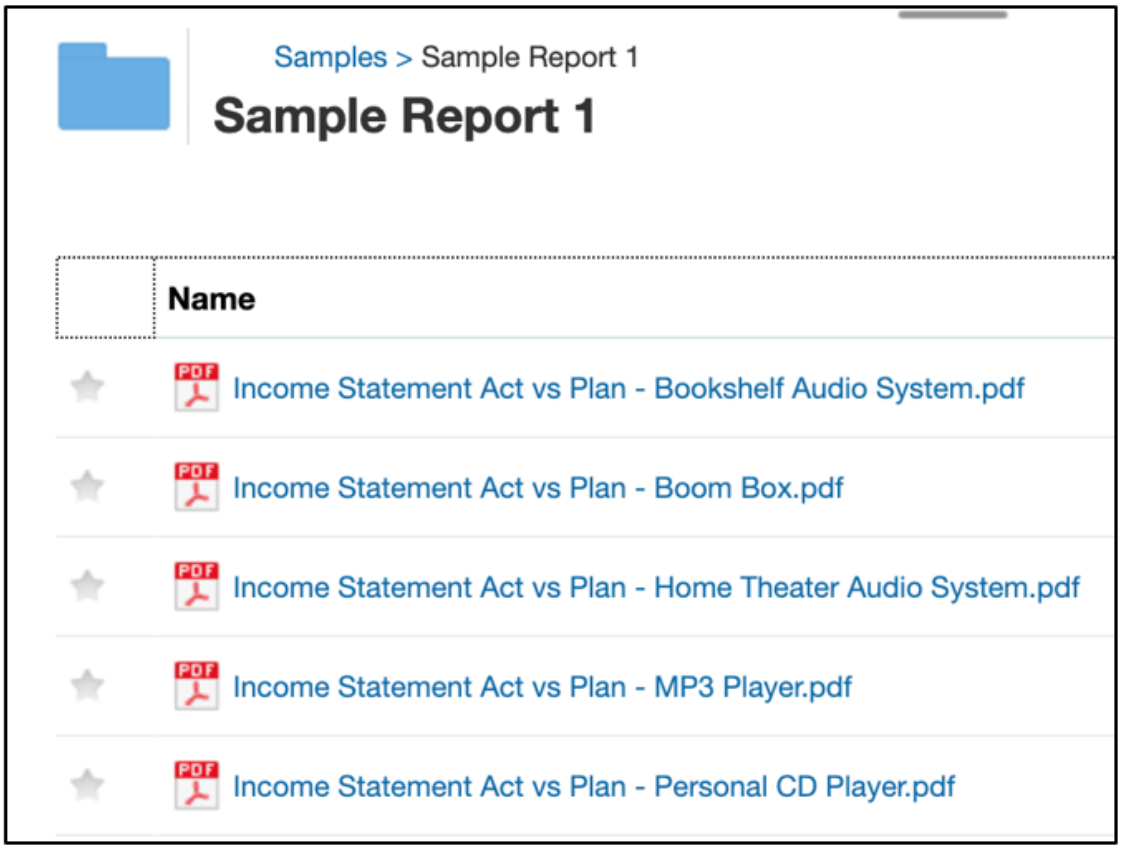
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



すべてのメンバーに対して単一の E メールが送信されます。

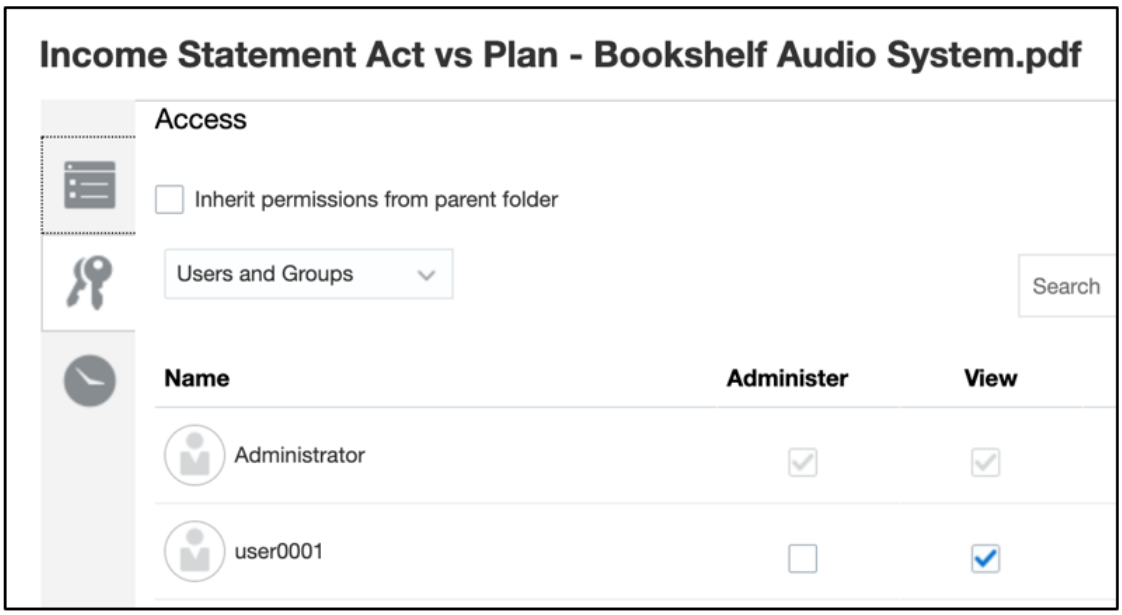


出力レポートは Narrative Reporting ライブラリに配置されます。



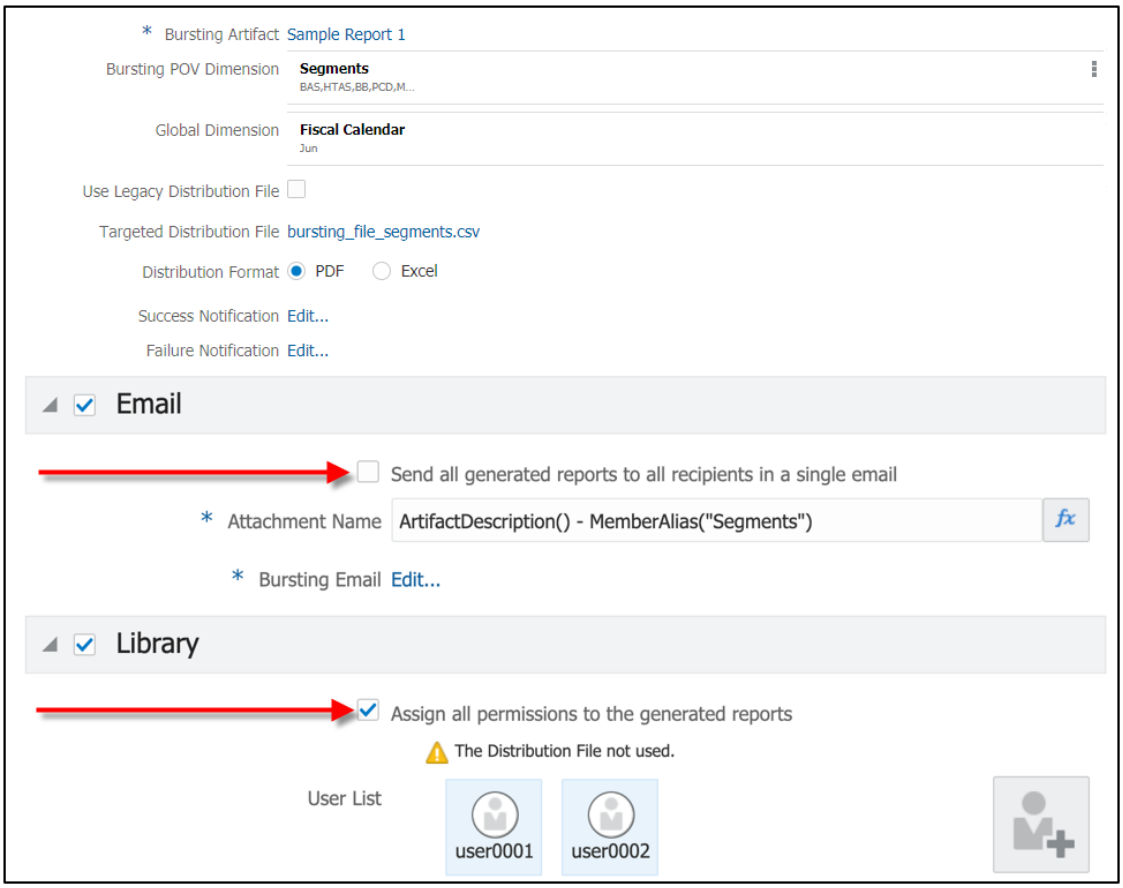
ユーザーの権限はすべての出力ファイルに対して設定されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



オプション 2: **「ライブラリ」**で、**配布リスト**と**ユーザー・リスト**が定義されている**生成されたレポートへの権限の割当**を選択します。

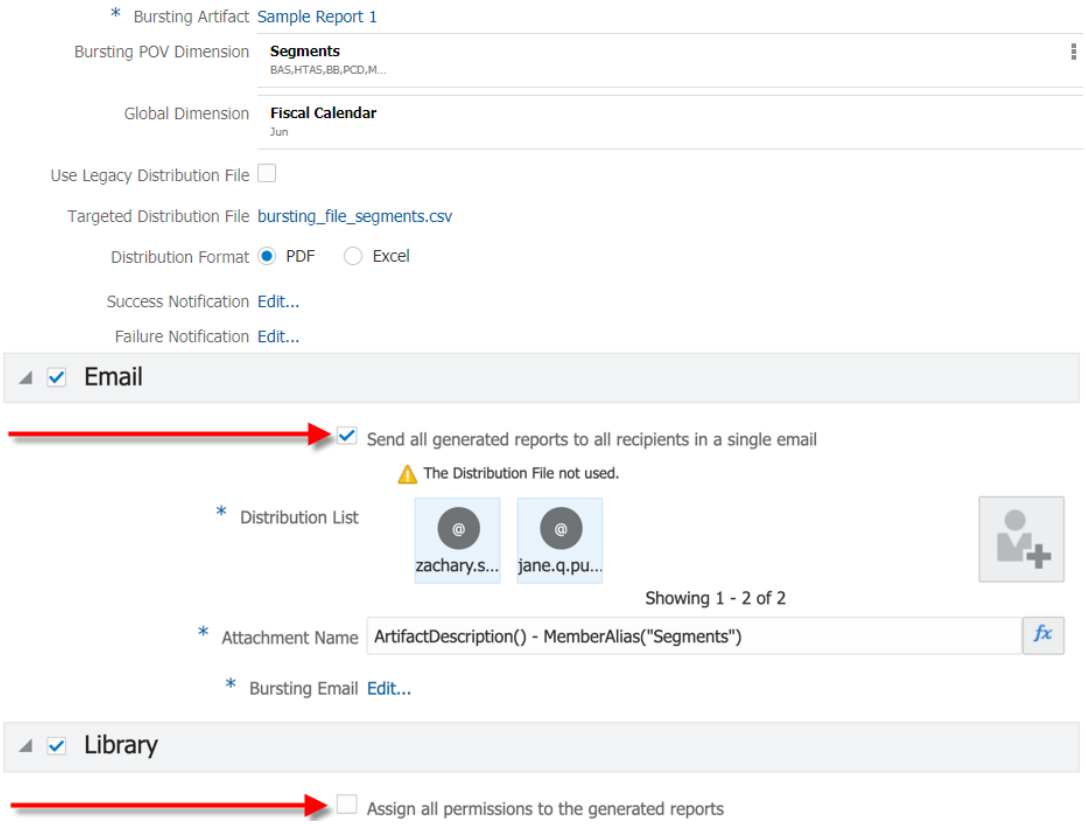
「E メール」チャネルで、**生成されたすべてのレポートを 1 つのメールで送信**を選択せずに、**「添付名」**や**「バースティング E メール」**などの他のオプションをすべて定義します。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

オプション 3:**「E メール」**チャネルで、**生成されたすべてのレポートを 1 つの E メールで送信**を選択し、**配布**リストを定義します。

「ライブラリ」チャネルで、**生成されたレポートへの権限の割当**を選択せずに、**「アーティファクト名」**、**「ルート・フォルダ」**、**「ユーザー・リスト」**などの他のオプションをすべて定義します。



詳細は、次のビデオおよびチュートリアルを参照してください。

- 次の概要ビデオを視聴して、バースティングの詳細を学習します。

  -- 概要: ターゲット・レポートおよび配布のための Narrative Reporting のバースティング.

  このビデオは、バースティング機能に注目します。新機能を使用して、同じディメンションの複数のメンバーに対する財務または管理レポートまたはブックを迅速に実行し、各メンバーの出力を PDF として公開し、PDF を E メールまたはライブラリの文書で様々な受信者に配布できます。

- 次のチュートリアル・ビデオを視聴して、バースティング定義を作成する方法を学習します。

  -- バースティング定義の作成.

  バースティング定義の作成方法を学習します。必要な選択および設定をすべて定義し、目的の POV メンバー選択を使用してレポートまたはブックの PDF 出力を生成および配布します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

前提条件

バースティング機能を使用する前に、次のことを確認する必要があります。

- バースティング定義で使用されるレポートまたはブックに、必要に応じてバースティング POV ディメンションとして使用できる POV ディメンションが公開されていること(変更可能)を確認する必要があります。
- 必要に応じて、ターゲット配布ファイルを作成します。Narrative Reporting デプロイメントでは、サンプル・バースティング・ファイル `bursting_file_empty.csv` は、レポート・サンプル内にあります。詳細は、*Narrative Reporting の管理*のサンプルのインストールを参照してください。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントでは、「ターゲット配布ファイルの使用」で説明されている形式を使用してバースティング・ファイルを作成します。

バースティング定義を作成するための簡単なステップ

表 14-1 バースティング定義の作成方法

タスク	実行するサブタスク	詳細
新規バースティング定義の作成	3 つの方法で新しいバースティング定義を作成できます。 • Narrative Reporting にログインします。**ライブラリ**のシステム以外のフォルダで**「追加」** ＋ をクリックし、メニューから**バースティング**を選択します。 • Narrative Reporting ホーム・ページで**バースティング**  をクリックします。 • Narrative Reporting の「ようこそ」パネルで**「作成」**をクリックし、**バースティング**を選択します。	新規バースティング定義の作成
バースティング・アーティファクトの選択	レポートまたはブックを選択できます。	バースティング・アーティファクトの選択
バースティング視点の設定	レポートまたはブックのバースティング POV ディメンションを設定できます。 バースティング POV を設定するには: • バースティング POV ディメンションでは、POV ディメンションおよびバースティング操作を実行するために必要なメンバーを選択できます。 • グローバル視点(POV)では、レポートまたはブック内で定義されているディメンションのメンバーを選択できます。	バースティング視点の設定

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 14-1 (続き) バースティング定義の作成方法

タスク	実行するサブタスク	詳細
ターゲット配布ファイルの使用	**ターゲット配布ファイル**は、対応する E メール・アドレスおよびライブラリ権限に対するユーザーまたはグループとともに、バースティングするメンバーのリストを定義するカンマ区切り値(CSV)ファイルです。 **ターゲット配布ファイル**を使用して、次のいずれかを実行できます。 • PDF 出力ファイルが添付された E メールを外部ユーザー、システム・ユーザーおよびグループに送信します。 • システム・ユーザーおよびグループに対するライブラリ・アクセス権限を設定します。 • **ローカル**・ファイル・システムから CSV ファイルをアップロードします。 • **サンプル**のターゲット配布ファイルを使用して、独自のターゲット配布ファイルを作成します。 • **ライブラリ**から CSV ファイルをアップロードできます。ターゲット配布 CSV ファイルをバースティング定義とともに保存するオプションがあります。それ以外の場合は、**ライブラリ**・ファイルにリンクされます。	ターゲット配布ファイルの選択
レガシー配布ファイルの使用	レガシー配布 CSV ファイルを使用して、Financial Reporting で以前に使用されていたレガシー・バースティング CSV ファイルを利用できます。 バースティング定義の**「レガシー配布ファイルの使用」**で、**ローカル**・ファイル・システムからレガシー CSV ファイルをアップロードできます。	レガシー配布ファイルの設定 Financial Reporting バースティング CSV ファイルの詳細は、Hyperion Financial Reporting ユーザーズ・ガイドを参照してください。
配布形式の選択	レポートをバースティングすると、PDF または静的な (Smart View でリフレッシュ不可) Excel ワークブックに公開できます。Excel または PDF の配布形式を指定します。	配布形式の選択
成功通知の定義	成功通知を使用して、バースティング定義が正常に実行されたことを特定の受信者に通知できます。 • システム・ユーザーおよびグループに E メールを送信できます。 • 指定された受信者に外部 E メールを送信できます。	成功通知の定義
失敗通知の定義	失敗通知を使用して、バースティング定義の実行が失敗したことを特定の受信者に通知できます。 • システム・ユーザーおよびグループに E メールを送信できます。 • 指定された受信者に外部 E メールを送信できます。	失敗通知の定義

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 14-1 (続き) バースティング定義の作成方法

タスク	実行するサブタスク	詳細
バースティング定義の E メール・チャネルの構成	生成された出力ファイルを **E メールで送信**するには、これらのステップを実行します。 • **ターゲット配布ファイル**を使用していない場合は、**配布リスト**を作成します。 • 出力ファイルが添付された E メールを送信するための一意の**添付名**を指定します。 • **件名**および**メッセージ**本文を使用して、指定された受信者への E メールを作成します。 • *オプション*で、受信者の**添付を連結**して 1 つの E メールにまとめ、**添付を ZIP** します。 • **ノート:** 生成されたレポート・ファイルを外部 E メール・アドレスに送信できます。	E メール・チャネルの構成
バースティング定義のライブラリ・チャネルの構成	出力ファイルを**ライブラリ**に公開するには、これらのステップを実行します。 • **ターゲット配布ファイル**を使用していない場合は、システム・**ユーザー・リスト**を作成します。 • 出力ファイルをライブラリに公開するための**アーティファクト名**を指定します。 • ライブラリで**ルート・フォルダ**を選択します。 • 公開された出力を格納する**パス階層**情報を設定します。	ライブラリ・チャネルの構成
ユーザーの管理	次の構成設定で、システム・ユーザーおよびグループを追加または除去できます。 • 成功通知 • 失敗通知 • E メール・チャネル • ライブラリ・チャネル **ノート:** **ライブラリ**・チャネルには、外部 E メール・アドレスを指定できません。	ユーザーの管理
バースティング定義の保存	すべての設定を確認し、必要な変更を追加して**「保存」**をクリックします。	バースティング定義の保存
バースティング定義処理メニューの操作	• バースティング定義の検証 • データ・ソースの管理 • バースティング定義の実行	バースティング定義処理メニューの操作
バースティング定義でのプロンプトの使用	プロンプトが含まれているレポートまたはブックを使用できます。	バースティング定義でのプロンプトの使用
複数のデータ・ソースでのバースティング定義の使用	複数のデータ・ソースが含まれているレポートまたはブックのバースティング定義を作成できます。 単一の POV 選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体に共通ディメンションが組み込まれます。	複数のデータ・ソースでのバースティング定義の使用
サンプル・バースティング定義ファイルのレビュー	サンプルをガイドラインとして使用して、独自のバースティング定義ファイルを作成します。	サンプル・バースティング定義ファイルのレビュー
バースティング定義に対するアクセス権限の設定	バースティング定義に対するロールおよびアクセス権を設定できます。	バースティング定義に対するアクセス権限の設定

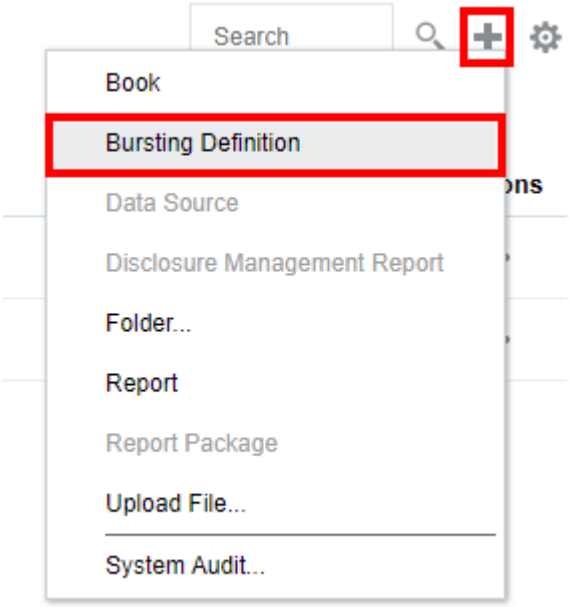
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

新規バースティング定義の作成

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

次の方法で、新しい**バースティング定義**を作成できます。

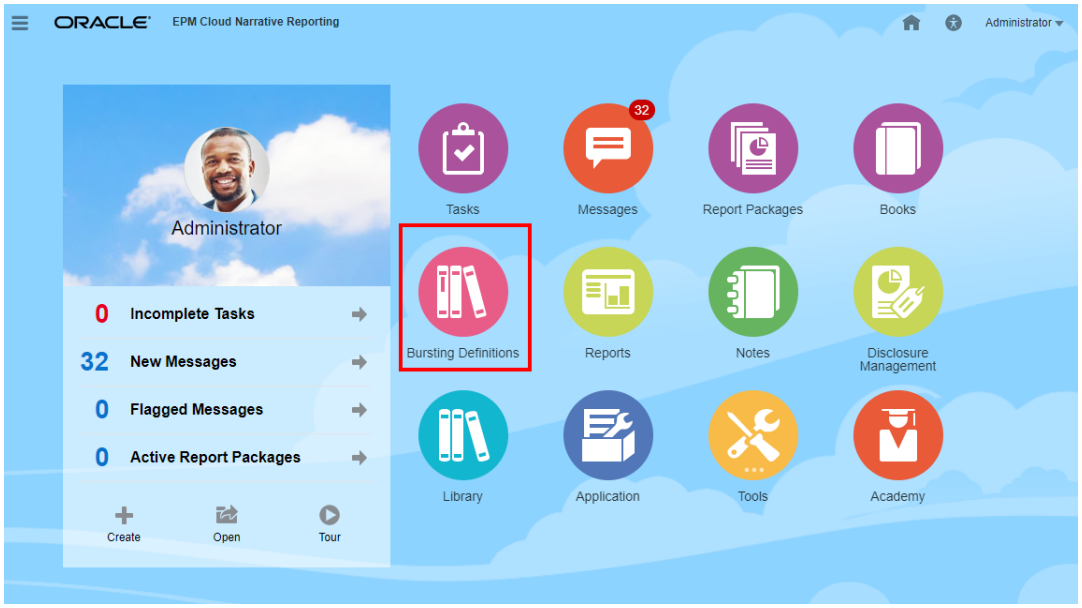
1. Narrative Reporting システム・フォルダまたはシステム以外のフォルダから新しいバースティング定義を作成するには、**「追加」** をクリックし、メニューから**「バースティング定義」**を選択します。



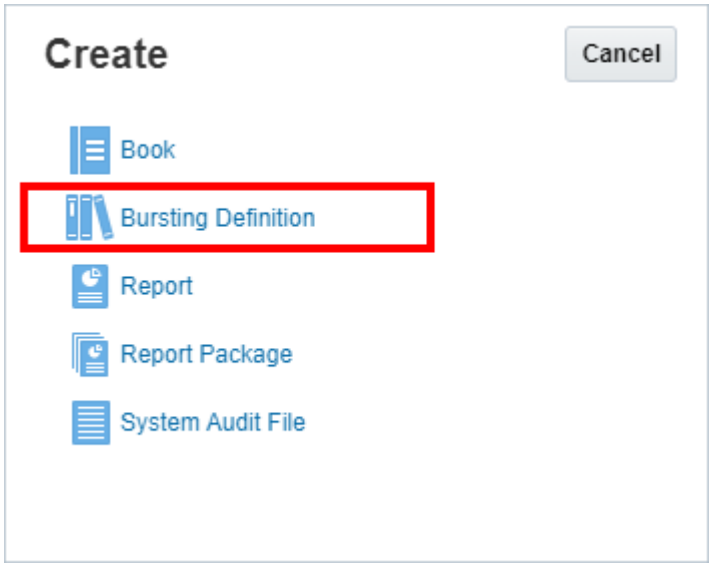
2. ホーム・ページで**「バースティング定義」**をクリックします。

   「バースティング定義」ペインで、**「追加」** をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



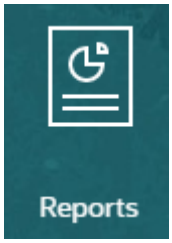
3. ホーム・ページで**「作成」**をクリックし、**「バースティング定義」**を選択します。



Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントの場合:

バースティング定義にアクセスします。

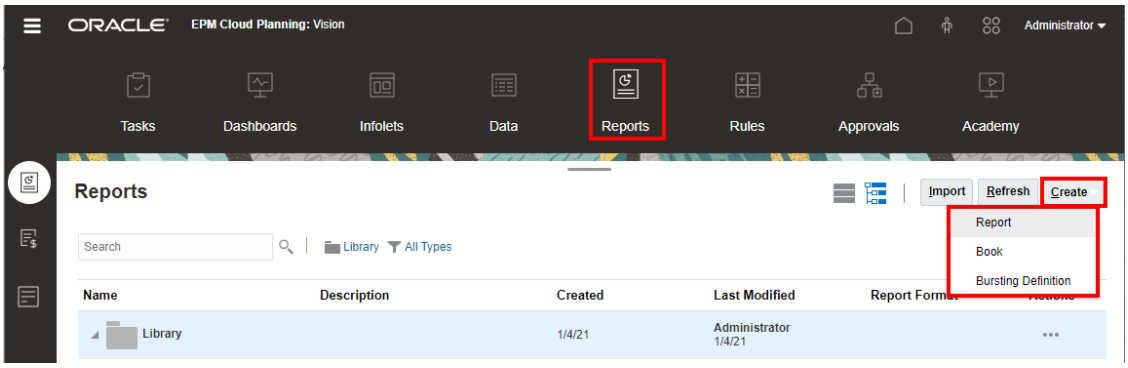
Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスから



「レポート」カードを選択し、左ペインから**「レポート」**アイコンを選択し、コンテンツ・ペイ

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ンの上部にある**「作成」**ドロップダウン・メニューをクリックして、**「バースティング」**をクリックして「バースティング定義」ウィンドウを起動します。



> **ⓘ ノート**
>
> Tax Reporting Cloud サービスの場合、**「ライブラリ」**にナビゲートし、**「レポート」**タブを選択する必要があります。

関連トピック:

- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

詳細は、次のビデオおよびチュートリアルを参照してください。

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、バースティング定義を作成する方法を学習します。

-- バースティング定義の作成.

バースティング定義の作成方法を学習します。必要な選択および設定をすべて定義し、目的の POV メンバー選択を使用してレポートまたはブックの PDF 出力を生成および配布します。

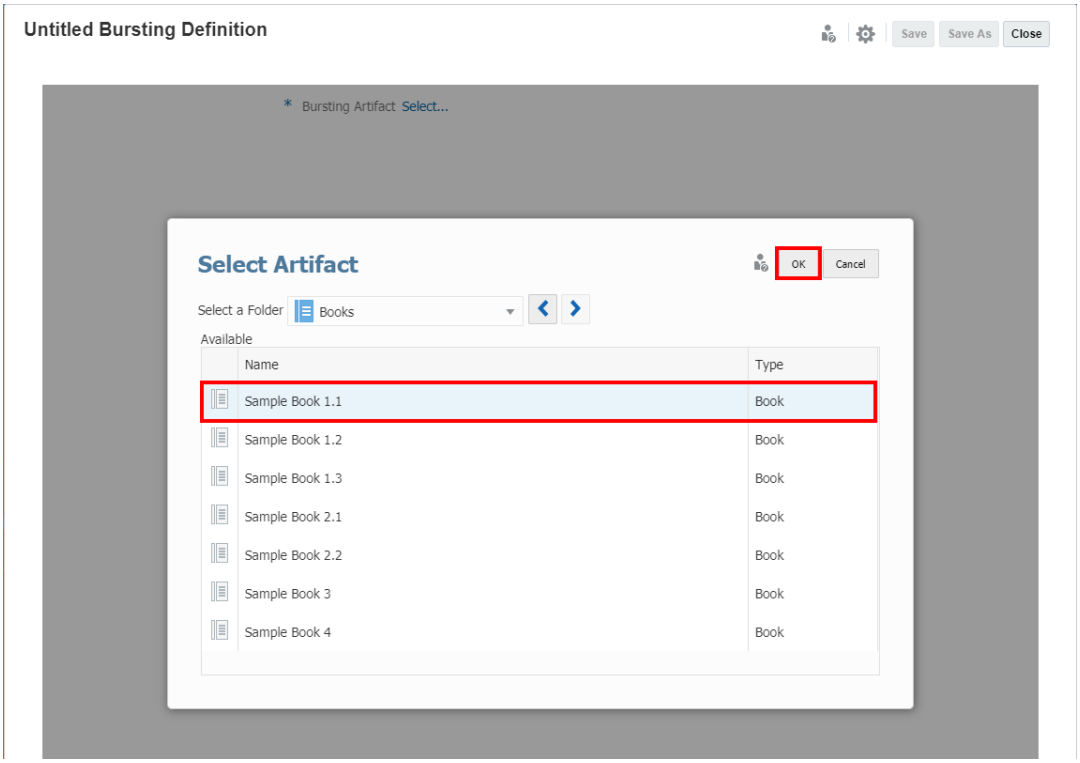
バースティング・アーティファクトの選択

バースティング・アーティファクトを選択するには、次のステップを実行します。

1. **バースティング・デザイナ**・ページで、**バースティング・アーティファクト**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

2. **「選択...」**をクリックし、目的の**ブック**または**レポート・**フォルダを選択します。
3. **「使用可能」**ペインで文書(ブックまたはレポート)を選択し、**「OK」**をクリックします。



関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

バースティング視点の設定

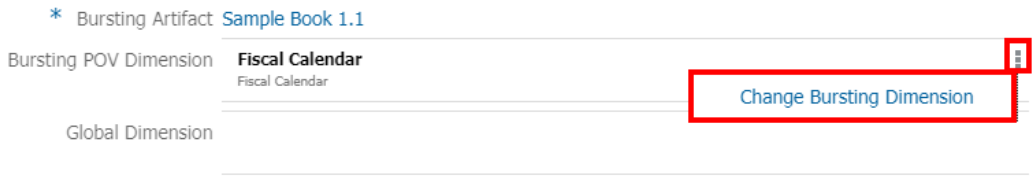
バースティング POV ディメンションでは、POV ディメンションおよびバースティング 操作を実行するために必要なメンバーを選択できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

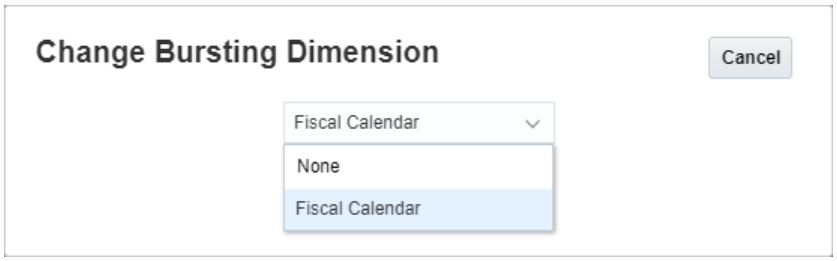
グローバル視点(POV)には、レポートまたはブック内で定義されているディメンションのすべてのメンバーが表示されます。

バースティング POV ディメンションを変更するには:

1. POV バーで**「処理」** をクリックし、**「バースティング・ディメンションの変更」**を選択します。



2. **「バースティング・ディメンションの変更」**ダイアログ・ボックスで、ドロップダウン・リストからディメンションを選択します。

> **ノート**
>
> 必要に応じて、バースティング POV ディメンションを**「なし」**に設定できます。バースティング定義で単一の出力ファイルが生成されます。
>
> 
>
>
> たとえば、レポートまたはブックの出力ファイルを自動化する場合、バースティング POV ディメンションを**「なし」**に設定すると、*EPM 自動化の操作の* Narrative Reporting のコマンドを介してスケジュール・タスクを実行できます。

バースティング POV ディメンションのメンバーを選択するには:

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **バースティング POV ディメンション**でディメンションのラベルをクリックして、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。
3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスで、ドロップダウン・リストから**「メンバー」**、**「最近」**または**「関数」**を選択して、選択されているレポートまたはブックに割り当てます。

   メンバーを選択するには、次の規則を使用します。

   - 親メンバーにドリルするには、**「展開」** をクリックします。
   - メンバーを選択および選択解除するには、**「選択」** をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> 青色のチェック・マークは、メンバーが現在選択されていることを示します。メンバーの上にマウスを置くと表示されるグレーのチェック・マークは、そのメンバーが現在選択されていないことを示します。

- 関数を使用してメンバーを選択するには、メンバーの横にある**「関数」**  をクリックします。関数を使用したメンバーの割当を参照してください。
- メンバーをソートするには、セレクタ・ペインで**「処理」**  をクリックします。

> **ノート**
>
> バースティング POV ディメンションのメンバー選択には、次のメンバー選択関数を使用できます。
>
> - Ancestors
> - Bottom
> - Children
> - Descendants
> - Except
> - Intersect
> - Match
> - Parent
> - Range
> - RelativeMembers
> - SameGeneration
> - SameLevel
> - Siblings
> - 代替変数

> **ノート**
>
> バースティング POV ディメンションのメンバー選択に、次のメンバー選択関数は使用できません。
>
> - Lists
> - Generation
> - Level

各グローバル・ディメンションのメンバーを選択するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **グローバル・ディメンション**でディメンションのラベルをクリックして、そのディメンションのメンバー・セレクタをオープンします。
3. **「メンバーの選択」**ダイアログ・ボックスで、ドロップダウン・リストから**「メンバー」**または**「最近」**を選択して、選択されているレポートまたはブックに割り当てます。

   メンバーを選択するには、次の規則を使用します。

   - 親メンバーにドリルするには、**「展開」** をクリックします。
   - メンバーを選択および選択解除するには、**「選択」** をクリックします。

   > **ノート**
   >
   > 青色のチェック・マークは、メンバーが現在選択されていることを示します。メンバーの上にマウスを置くと表示されるグレーのチェック・マークは、そのメンバーが現在選択されていないことを示します。

4. **「OK」**をクリックします。

> **ノート**
>
> 追加のグローバル・ディメンションに対して前述のステップを繰り返します。

> **ノート**
>
> - バースティング視点の選択として代替変数およびユーザー変数を使用する場合、変数値は、システムがデータ・ソースに最初に接続するときに取得されます。メンバー・セレクタまたは POV(あるいはその両方)に変数の値が表示されます。バースティング定義の実行時に、バースティング定義内のレポートに対して最新の変数値が取得されます。バースティング POV またはグローバル POV で変数が使用されており、ユーザーのセッション中に変数値が変更された場合、ユーザーがログアウトしてから再度ログインして新しいセッションに再接続するまで、変更はブックのメンバー・セレクタまたは POV に表示される変数値に反映されません。
> - メンバー・セレクタおよび POV での変数の使用の詳細は、代替変数およびユーザー変数の操作を参照してください。

バースティング視点設定について

デフォルト設定は、POV ディメンションに対してメンバー選択またはオプションが設定されていない場合のディメンションのデフォルト状態です。

複数のメンバーの選択: バースティング POV ディメンションには複数のメンバーを選択できます。関数を使用して、バースティング POV ディメンションのメンバーのリストを定義できます。例: `Children of Segments`。

関連トピック:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

ターゲット配布ファイルの選択

ターゲット配布ファイルは、対応する E メール・アドレスおよびライブラリ権限に対するユーザーまたはグループとともに、バースティングするメンバーのリストを定義する CSV ファイルです。

ターゲット配布ファイルを有効にするには、次の手順を実行します。

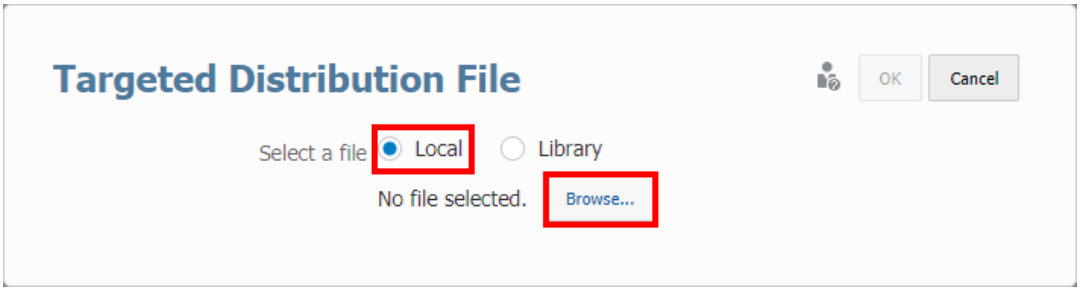
1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「ターゲット配布ファイル」**で、**「選択...」**をクリックします。

> **ノート**
>
> Narrative Reporting デプロイメントの場合、サンプル管理レポートには、次のサンプル・ターゲット配布ファイルが含まれています。
>
> - `bursting_file_segments.csv`
> - `bursting_file_empty.csv`
>
> Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントでは、「ターゲット配布ファイルの使用」で説明されている形式を使用してバースティング・ファイルを作成します。
>
> 詳細は、「サンプル・バースティング定義ファイルのレビュー」を参照してください。

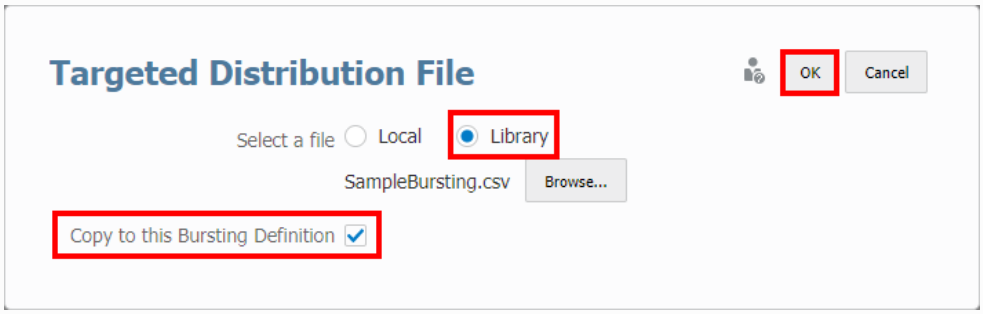
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> CSV ファイルがすでに含まれている既存の**バースティング定義**を編集すると、リンクには *ファイル名*が表示されます。
>
> CSV ファイルを変更する場合は、*ファイル名*をクリックして、**「参照」**をクリックし、**ローカル**または**ライブラリ**から別の CSV ファイルをアップロードし、**「OK」**をクリックします。

3. **「ターゲット配布ファイル」**で、**「参照」**をクリックし、**ローカル**または**ライブラリ**から CSV ファイルをアップロードし、**「OK」**をクリックします。



> **ⓘ ノート**
>
> ***(オプション)*ライブラリ**・パスから CSV ファイルをアップロードする場合は、**「このバースティング定義にコピー」**オプションを選択できます。



関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

ターゲット配布ファイルの使用

次に示すサンプル・ターゲット配布(CSV)ファイルの例には、**セグメント**・ディメンションの `level 0` メンバー、および架空の(実際にはない)ユーザー ID と E メール・アドレスが含まれています。

member	user_names	group_names	external_emails	user_emails	group_emails
BAS	user0001		jane.q.public@company.com	user0001	
HTAS	user0002		jane.q.public@company.com	user0002	
BB	user0003		jane.q.public@company.com	user0003	
PCD	user0004		zachary.smith@company.com	user0004	
MP3	user0005		zachary.smith@company.com	user0005	
DV1000					
DV2000					
DV3000					
DV4000					
DV5000					

次に、ターゲット配布ファイルの列見出しを示します。

表 14-2 ターゲット配布 CSV ファイル

列見出し	摘要
member	メンバー名
user_names	ライブラリ権限のあるユーザー ID
group_names	ライブラリ権限のあるグループ ID
external_emails	メーリング・リストの外部 E メール・アドレス
user_emails	メーリング・リストのユーザー ID
group_emails	メーリング・リストのグループ ID

単一のフィールドに複数のユーザー名、グループ名または E メール・アドレスを含めるには、複数の名前または E メール・アドレスをカンマで区切り、それらを二重引用符で囲みます。

例:

Excel ビュー:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 14-3 列ヘッダー情報を含む Excel ファイルのレビュー

member	user_names	group_names	external_emails	user_emails	group_emails
Seg01	user1		user1@company.com, user2@company.com	user1	
Seg02	user2		user4@company.com	user2	

CSV ビュー:

```
member,user_names,group_names,external_emails,user_emails,group_emails

Seg01,user1,, "user1@company.com,user2@company.com ",user1,
Seg02,user2,,user4@company.com,user2,
```

> **ノート**
>
> 前述のデータを **Excel** で編集し、**CSV** として保存すると、**Excel** によって自動的に単一セル内にカンマ文字が含まれるセルが二重引用符で囲まれます。

ターゲット配布ファイルは 3 つの方法で使用できます。E メールを送信するか、出力ファイルをライブラリに公開できます。**「E メール」**と**「ライブラリ」**の両方のオプションを実行できます。

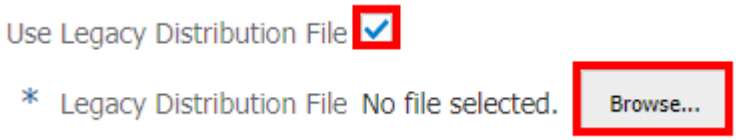
詳細は、バースティングについてを参照してください。

レガシー配布ファイルの設定

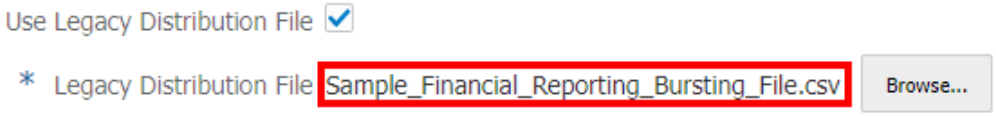
バースティング定義で**「レガシー配布ファイルの使用」**を選択することで、以前に Financial Reporting (FR)で使用されていたレガシー・バースティング CSV ファイルを利用できます。

レガシー配布ファイルを有効にするには、次の手順を実行します。

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「レガシー配布ファイルの使用」**オプションを選択します。



3. **「レガシー配布ファイル」**で、**「参照」**をクリックし、**ローカル・ドライブ**から Financial Reporting バースティング CSV ファイルをアップロードして**「OK」**をクリックします。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

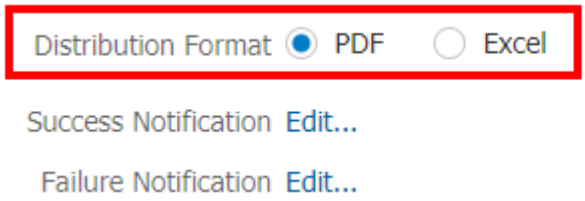
関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

配布形式の選択

レポートの**「配布形式」**を選択するには、次を実行します。

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「配布形式」**で、**「PDF」**または**「Excel」**を選択します。



関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

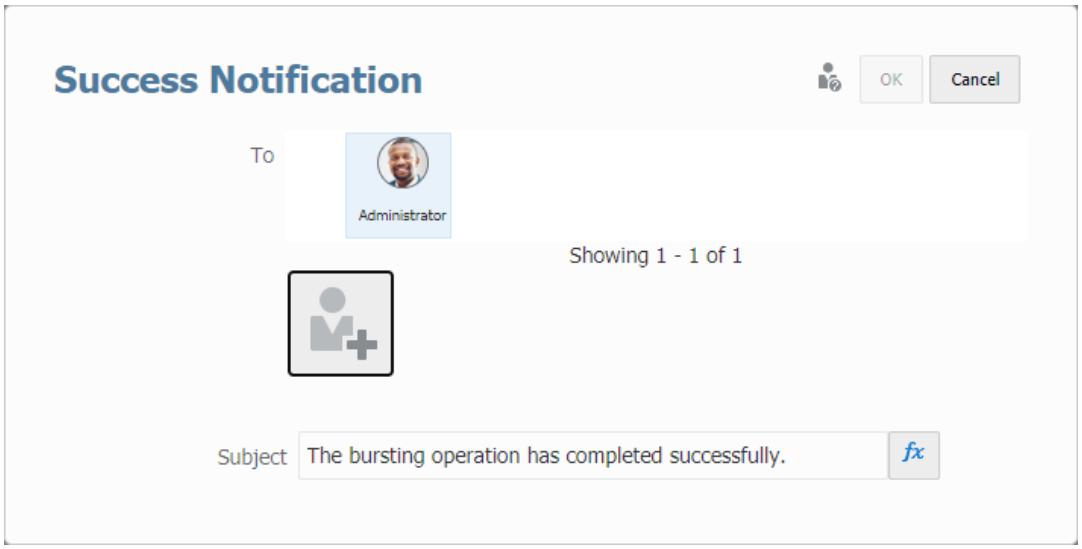
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

成功通知の定義

成功通知を使用して、定義されている受信者にバースティング実行ステータスの E メール通知を送信します。

成功通知を定義するには、次のステップを実行します。

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「成功通知」**で、**「編集...」**をクリックします。

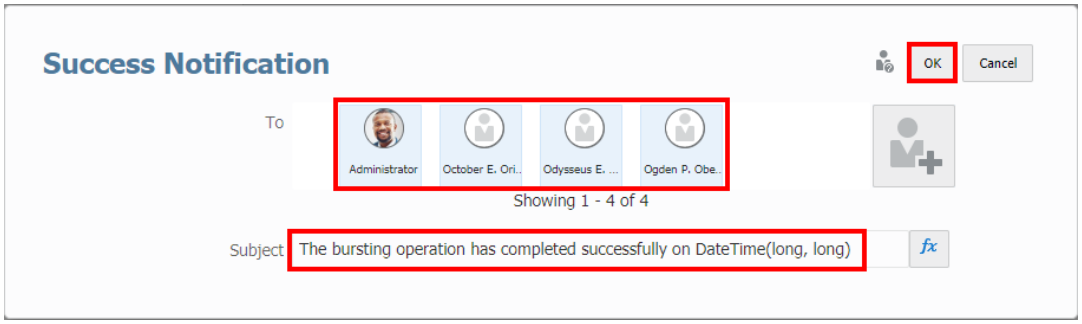


3. **「成功通知」**ダイアログ・ボックスで、  をクリックして**「ユーザーの管理」**ダイアログ・ボックスを起動します。

   システム・ユーザー、グループおよび外部 E メール・アドレスの定義の詳細は、ユーザーの管理のトピックを参照してください。
4. ***(オプション)*「件名」**で、テキストを変更したり、テキスト関数を追加できます。

   「件名」フィールドでは、`DateTime`、`ArtifactName` および `ArtifactDescription` の関数のみをサポートしています。
5. **「OK」**をクリックして「成功通知」ダイアログ・ボックスをクローズします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

失敗通知の定義

失敗通知を使用して、定義されている受信者にバースティング実行ステータスの E メール通知を送信します。

失敗通知を定義するには、次のステップを実行します。

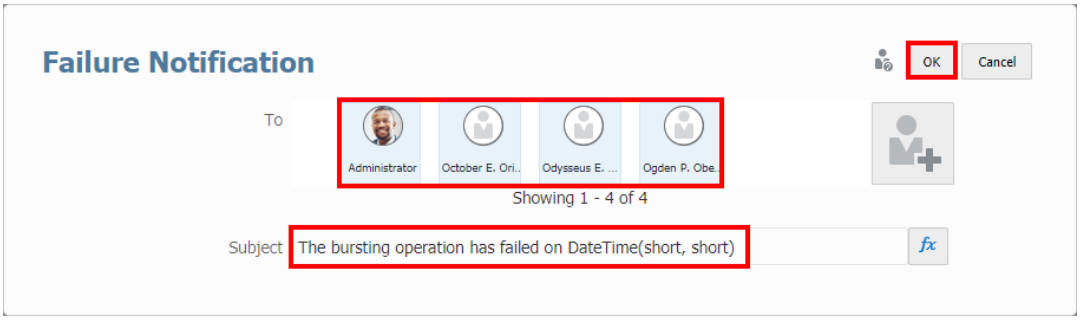
1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「失敗通知」**で、**「編集...」**をクリックします。
3. **「失敗通知」**ダイアログ・ボックスで、  をクリックして**「ユーザーの管理」**ダイアログ・ボックスを起動します。

   システム・ユーザー、グループおよび外部 E メール・アドレスの定義の詳細は、ユーザーの管理のトピックを参照してください。
4. **オプション**: **「件名」**で、テキストを変更したり、テキスト関数を追加できます。

   「件名」フィールドでは、`DateTime`、`ArtifactName` および `ArtifactDescription` の関数のみをサポートしています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

5. **「OK」**をクリックして「失敗通知」ダイアログ・ボックスをクローズします。



関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

E メール・チャネルの構成

「E メール」チャネルを使用して、添付(ファイル)名、バースティング E メールを定義し、必要な場合は選択したユーザー、グループおよび E メール・アドレスにすべての出力ファイルを送信するように選択できます。

E メールのオプションを設定するには、これらのステップを実行します。

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「E メール」**チャネル・チェック・ボックスを選択します。
3. 必要に応じて**「生成されたすべてのレポートを 1 つのメールですべての受信者に送信」**を選択して、ターゲット配布ファイルを使用せずに選択したユーザー、グループおよび E メール・アドレスにすべての出力ファイルを送信できます。
4. **「配布リスト」**で、  をクリックして**「ユーザーの管理」**ダイアログ・ボックスを起動します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

システム・ユーザー、グループおよび外部 E メール・アドレスの定義の詳細は、ユーザーの管理のトピックを参照してください。

5. **「添付名」**を定義するには、ハード・コード化されたテキストとテキスト関数の組合せを使用できます。

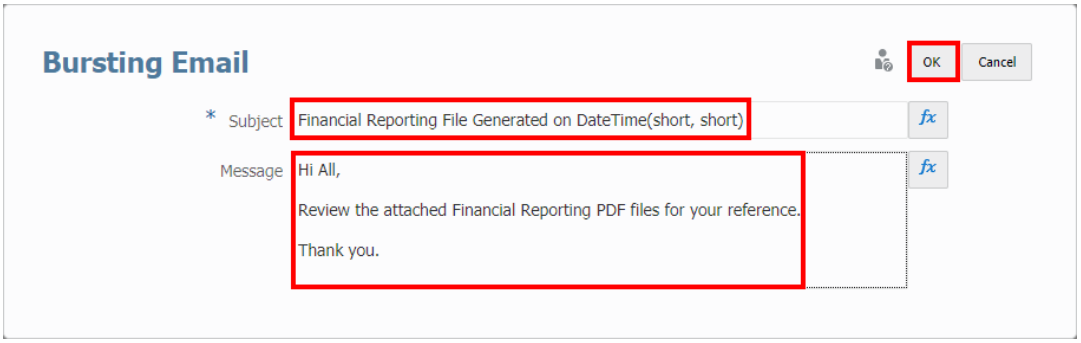
   - テキスト関数を挿入するには、fx をクリックします。次のテキスト関数がサポートされています。
     - `DateTime`
     - `MemberName`
     - `MemberAlias`
     - `ArtifactName`
     - `ArtifactDescription`

     テキスト関数の間には、**アンダースコア**や**ハイフン**などの特殊文字をセパレータとして入力できます。

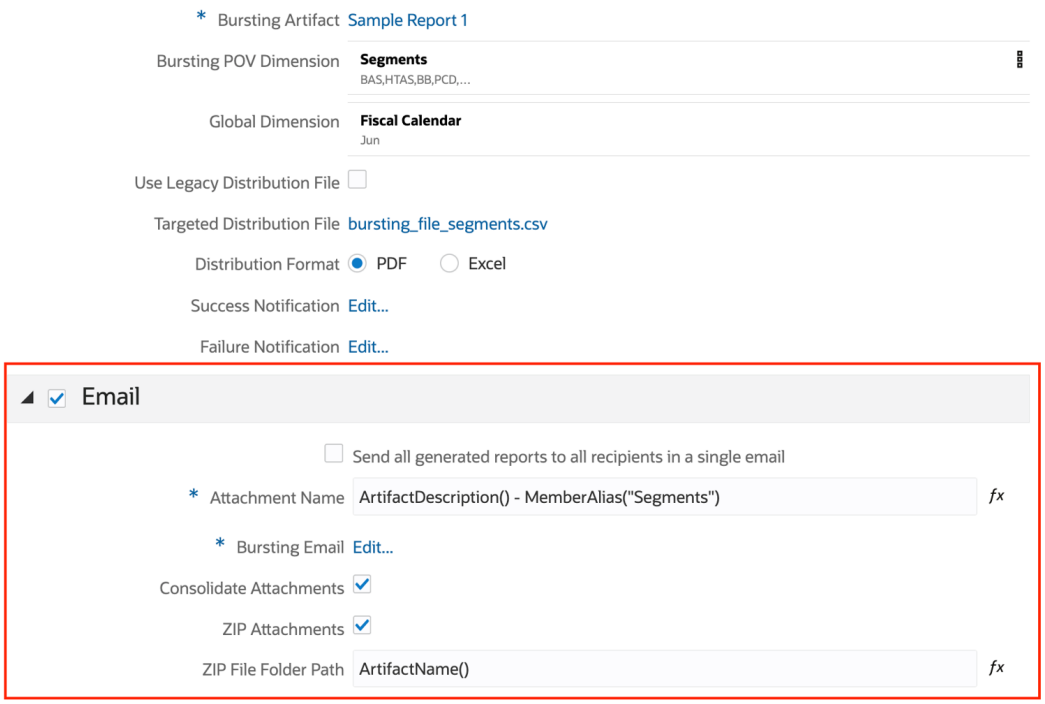
     たとえば、`ArtifactDescription()_MemberAlias("Fiscal Calendar")`を検討できます。
   - **「選択」**をクリックして**「テキスト関数」**ダイアログ・ボックスをクローズします。
6. **「バースティング E メール」**で、**「編集...」**を選択します。
7. **「バースティング E メール」**ダイアログで、**件名**および**メッセージ**本文をそれぞれのフィールドに入力し、**「OK」**をクリックします。

   ***(オプション)*件名**および**メッセージ**本文にテキスト関数を選択できます。

   `DateTime`、`ArtifactName` および `ArtifactDescription` のテキスト関数がサポートされています。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



8. *オプション*で、**「添付の連結」**を選択して、単一ユーザーに対するすべてのバースティング出力 E メール添付を 1 つの E メールに連結できます。新しく作成されたバースティング定義では、**「添付の連結」**はデフォルトで有効になり、表示されません。

   また、オプションで**「ZIP 添付」**を選択し、バースティング出力 E メール添付を ZIP ファイルに連結することもできます。**「ZIP ファイルのフォルダ・パス」**を指定して、ZIP ファイル内にフォルダを作成することもできます。

   「ZIP ファイルのフォルダ・パス」のテキストおよびテキスト関数の指定に関する情報は、前述の「ステップ 5」を参照してください。

> **ⓘ ノート**
>
> 重複するファイル名のバースティング出力は E メール用の ZIP ファイルにエクスポートされます。ファイル名には、(1)、(2)、(3)のように番号サフィクスが追加されます。これは**「ライブラリ」**チャネルの動作と異なり、**「上書き」**オプションが有効である場合に、重複するメンバー名が上書きされます。

関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

ライブラリ・チャネルの構成

ライブラリ構成を使用して、アーティファクト(ファイル)名を定義し、ライブラリ・ルート・フォルダおよびパス階層(フォルダ・パス)を選択し、必要に応じて、選択したユーザーおよびグループに出力ファイルに対するすべての権限を割り当てることを選択します。

ライブラリのオプションを設定するには、これらのステップを実行します。

1. 新しい**バースティング定義**を作成するか、編集モードで既存の**バースティング定義**を選択します。
2. **「ライブラリ」**チャネル・チェック・ボックスを選択します。
3. 必要に応じて**「生成されたレポートへのすべての権限の割当」**を選択して、ターゲット配布ファイルを使用せずに、選択したユーザーおよびグループにすべての 出力ファイルに対するライブラリ・アクセス権を割り当てます。
4. **「ユーザー・リスト」**で、  をクリックして**「ユーザーの管理」**ダイアログ・ボックスを起動します。

   システム・ユーザーおよびグループの定義の詳細は、ユーザーの管理のトピックを参照してください。

   外部 E メール・アドレスは指定できません。
5. **「添付名」**および**「パス階層」**を定義するには、ハード・コード化されたテキストとテキスト関数の組合せを使用できます。

   - テキスト関数を挿入するには、  をクリックします。次のテキスト関数がサポートされています。
     - `DateTime`
     - `MemberName`
     - `MemberAlias`
     - `ArtifactName`
     - `ArtifactDescription`

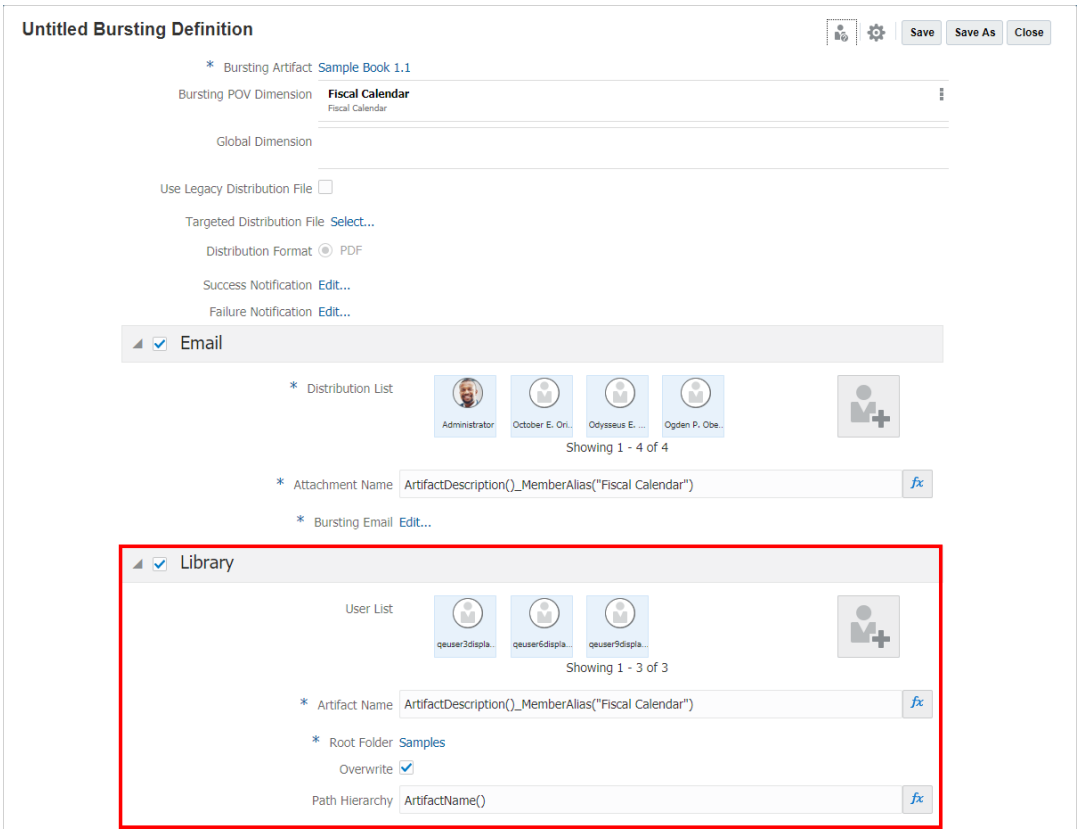
     例:

     - **添付名**の場合: `ArtifactDescription() - MemberAlias("Fiscal Calendar")`は、`Income Statement Act vs Plan - Boom Box.pdf` など、レポートの摘要と各セグメント・メンバーの別名を返します
     - **パス階層**の場合: **Report/ArtifactName()**は、**レポート**が**ルート・フォルダ**のサブフォルダで、レポート名がその下のサブフォルダになるフォルダ構造: `Report/Sample Report 1` を作成します

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「選択」**をクリックして**「テキスト関数」**ダイアログ・ボックスをクローズします。

6. **「ルート・フォルダ」**でフォルダを選択し、**「OK」**をクリックします。
7. **「上書き」**オプションを選択して、ライブラリの既存の出力ファイルを置換します。



関連トピック:

- 新規バースティング定義の作成
- バースティング・アーティファクトの選択
- バースティング視点の設定
- レガシー配布ファイルの設定
- ターゲット配布ファイルの選択
- 配布形式の選択
- 成功通知の定義
- 失敗通知の定義
- E メール・チャネルの構成
- ライブラリ・チャネルの構成
- ユーザーの管理
- バースティング定義の保存
- バースティング定義処理メニューの操作

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

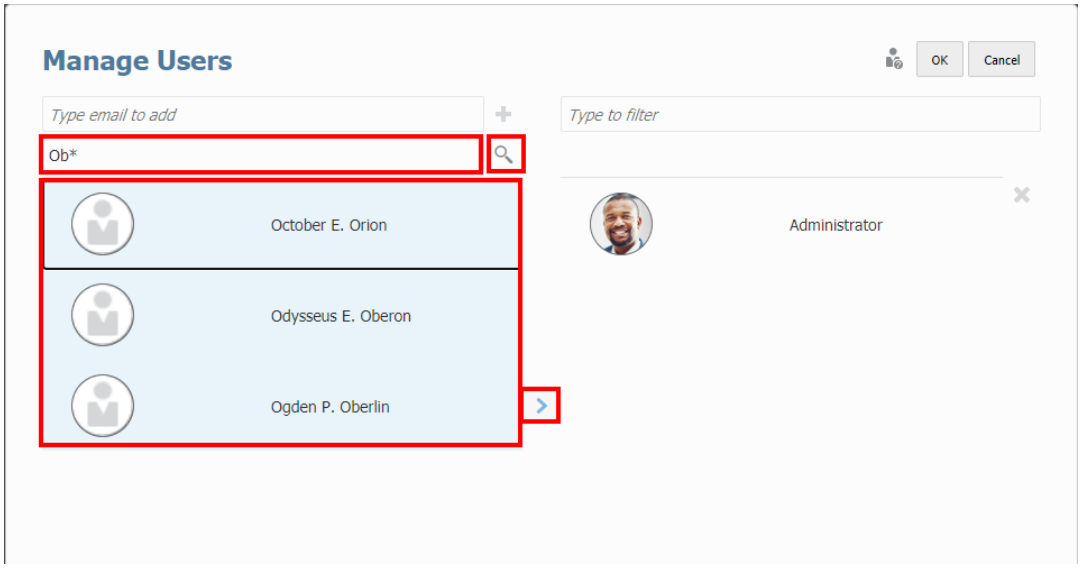
ユーザーの管理

検索オプション:

- システム・ユーザーまたはグループを検索できます。
- 関連するユーザーまたはグループを検索するには、少なくとも 1 文字を指定する必要があります。
- アスタリスク(*)を使用してワイルドカード検索を実行できます。たとえば、**「検索」**フィールドに 0b*という 3 文字を入力して、名前に 0b が含まれているすべてのユーザーを 検索できます。
- 外部 E メール・アドレスは、**ライブラリ**・チャネルでは指定できません。

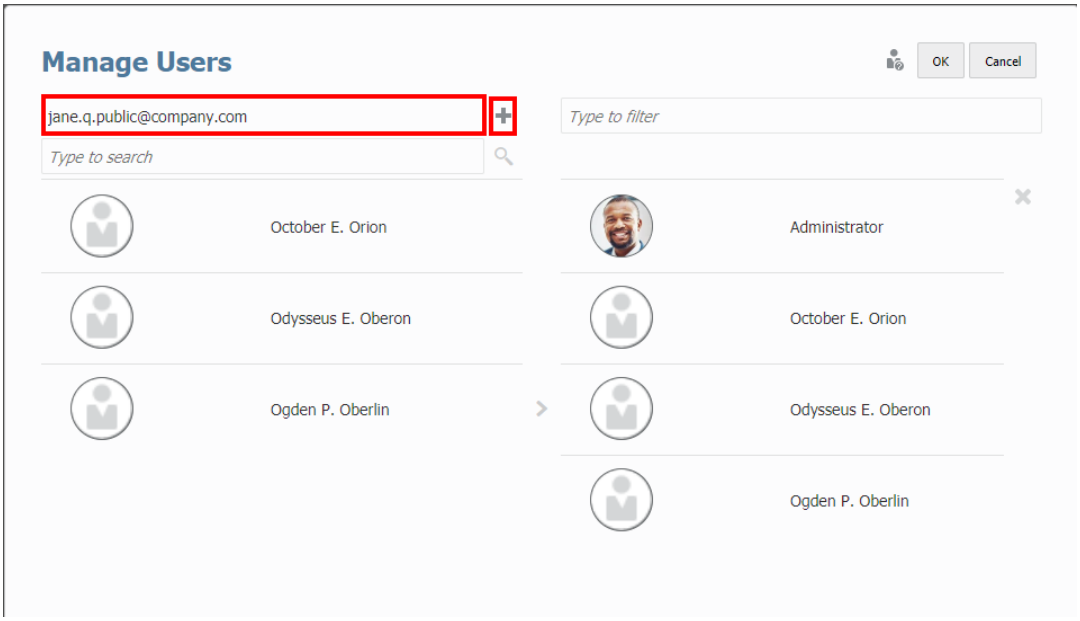
リストにユーザーを追加するには、これらのステップを実行します。

1.  をクリックして**「ユーザーの管理」**ダイアログ・ボックスを起動します。
2. **「ユーザーの管理」**で、左側のペインの**「使用可能」**リストから 1 人以上のユーザーを選択し、**「右へ移動」**ボタン  をクリックして、目的のユーザーまたはグループを右側の**「選択済」**ペインに移動します。

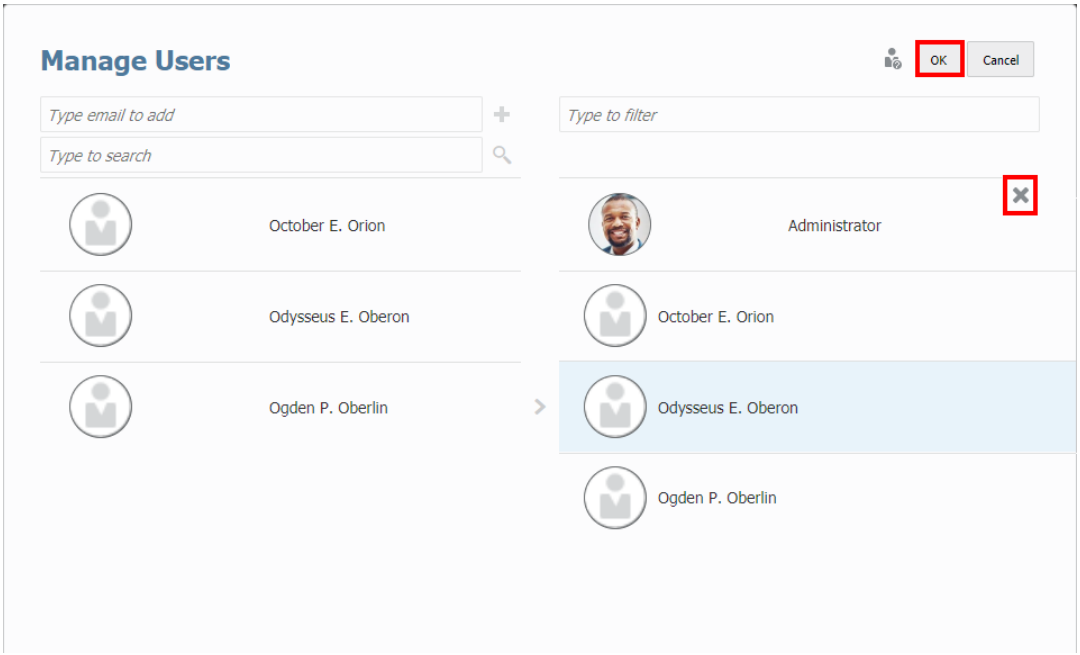


3. 外部 E メール・アドレスは、**E メール**・チャネルから指定できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. ***(オプション)***ユーザーを除去するには、ユーザーを選択し、✕をクリックします。



5. **「OK」**をクリックして「ユーザーの管理」ダイアログ・ボックスをクローズします。

バースティング定義の保存

バースティング定義を保存するには:

1. バースティング・エディタで**「保存」**または**「別名保存」**をクリックします。
2. **「バースティング定義の保存」**で、**名前**を入力し、**「参照」**をクリックしてバースティング定義をライブラリに保存します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



3. **「保存」**をクリックします。

バースティング定義処理メニューの操作

「処理」メニューを使用して、次の操作を実行できます。

- バースティング定義の構成設定を**検証**します。
- バースティング定義の**データ・ソースを管理**します。
- バースティング定義を**実行**します。

バースティング定義の検証

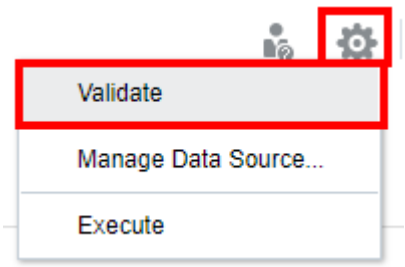
この処理は、バースティング定義の構成設定が有効であることを検証します。

たとえば、検証ルールでは次のことを検証します。

- バースティング定義のレポートまたはブックがライブラリに存在すること。
- バースティング定義のすべての POV 選択が有効であること。
- E メールおよびライブラリのチャネルの構成設定がすべて正しいこと。

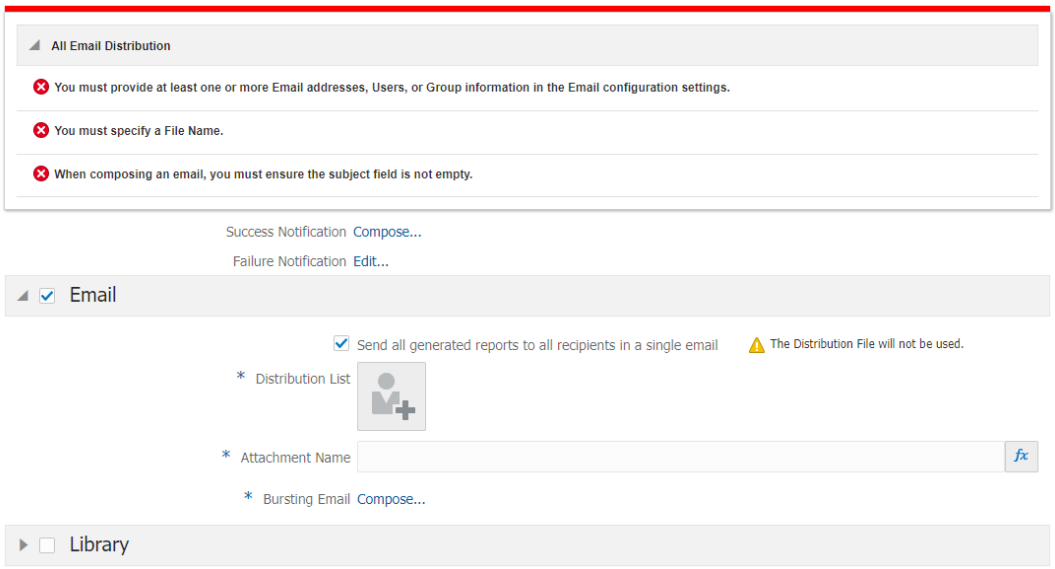
バースティングの検証を実行するには:

1. **「バースティング定義」**ページで、**「処理」** をクリックします。
2. バースティング定義内のすべてのプロンプトで、必要な選択を行ったことを確認します。
3. **「検証」**をクリックします。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

検証エラーが発生した場合は、**バースティング定義**上部の赤枠のダイアログ・ボックスに、すべての検証エラーが表示されます。



> **ノート**
>
> すべての検証エラーを解決して、バースティング定義を実行する前にブックが有効であることを確認する必要があります。

データ・ソースの管理

「データ・ソースの管理」では、次のタスクを実行できます。

- バースティング定義のデータ・ソースを並べ替えます。レポートまたはブックに複数のデータ・ソースがあるときに、データ・ソース間に一致するディメンションがある場合は、最初のデータ・ソースがバースティングおよびグローバル POV メンバーの選択に使用されます。
- バースティング定義で使用される別名表を管理します。別名表が選択されていない場合は、バースティング定義を実行するユーザーのデフォルトの別名表が使用されます。

詳細は、次のリンクを参照してください。

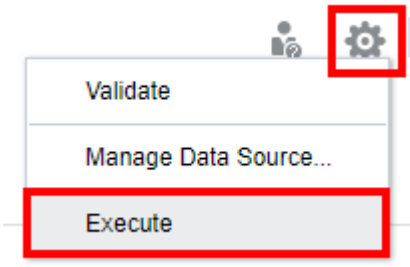
- データ・ソースの並替え
- バースティング定義での別名表の管理

バースティング定義の実行

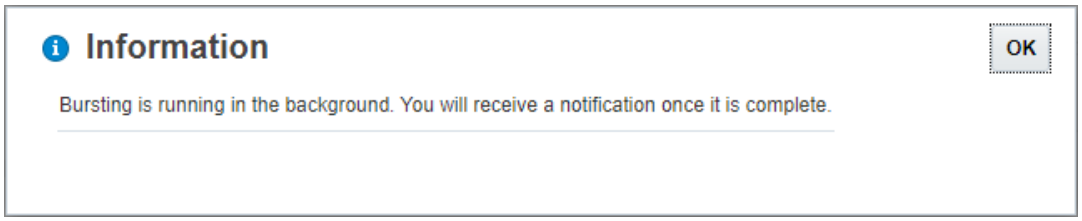
バースティング定義を実行するには:

1. **「バースティング定義」**ページで、**「処理」**  をクリックし、**「実行」**を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



2. **「情報」**ダイアログ・ボックスで、**「OK」**をクリックします。



3. **バースティング定義**を実行した後、**成功**または**失敗**の E メール通知を確認します。

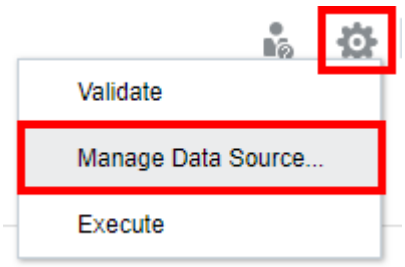
データ・ソースの並替え

データ・ソースがバースティングで 評価される順序を変更できます。データ・ソースの順序は、同じ名前の POV ディメンションのデフォルト・データ・ソースに影響を与え、選択したバースティング・アーティファクトの結合された POV メンバー・セレクタに表示されます。

共通ディメンションの POV での表示に使用されるデータ・ソースの順序を設定できます。

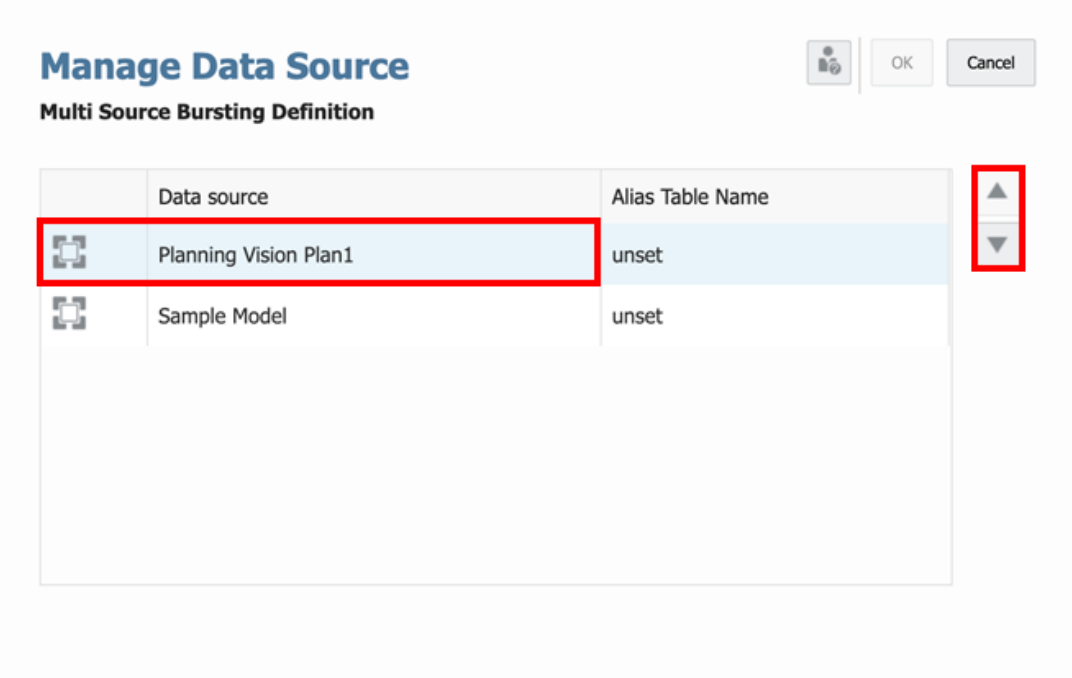
データ・ソースを並替えできます。

1. **「バースティング定義」**ページで、**「処理」** をクリックし、**「データ・ソースの管理」**を選択します。



2. **「データ・ソースの管理」**で、並べ替える目的のデータ・ソースを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



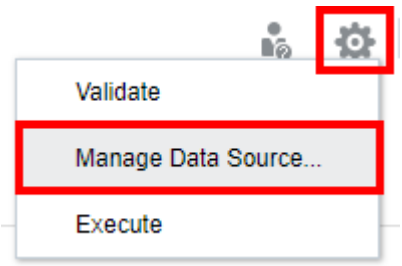
3.  または  をクリックして、データ・ソースを並べ替えます。**「OK」**をクリックします。

バースティング定義での別名表の管理

バースティング、および別名表がハードコーディングされていない挿入されたレポートまたはブックの `MemberAlias` テキスト関数で使用される別名表を変更できます。

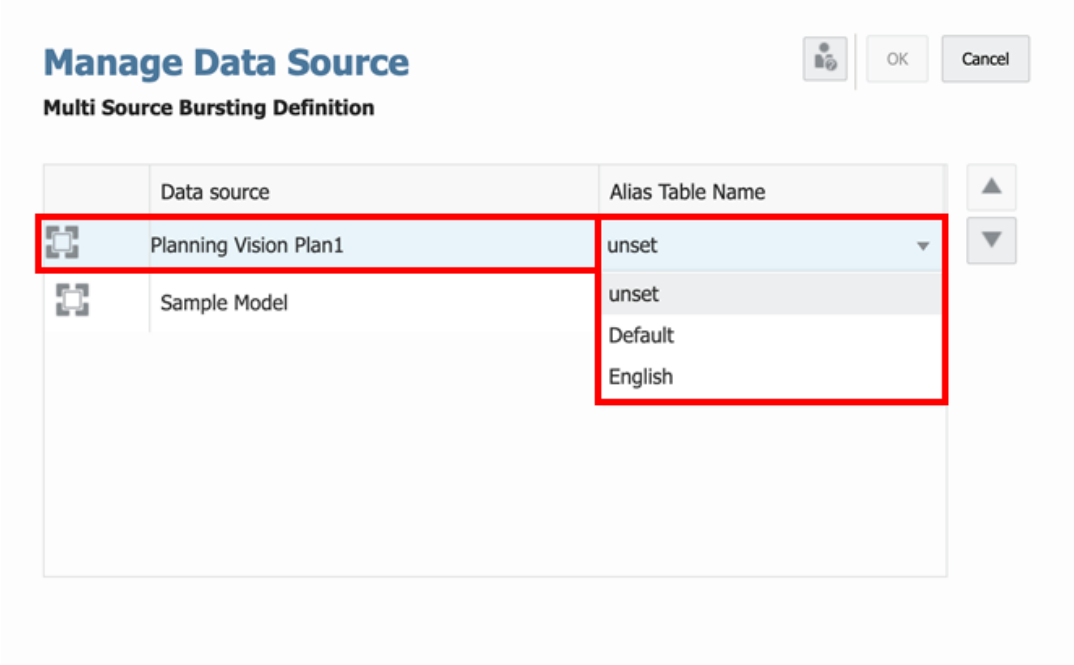
バースティング定義で使用される別名表を管理するには、次の処理を実行します。

1. **「バースティング定義」**ページで、**「処理」**  をクリックし、**「データ・ソースの管理」**を選択します。



2. **「データ・ソースの管理」**ダイアログ・ボックスで、データ・ソースの**「別名表の管理」**をダブルクリックし、ドロップダウン・リストから目的の別名表を選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



3. **「OK」**をクリックして変更内容を保存し、ダイアログ・ボックスをクローズします。

バースティング定義の作成に関する制限事項

レポートでは、バースティング定義の作成に関する制限事項があります。

バースティング定義の作成に関する次の制限事項に注意してください。

- バースティング定義では、1 つのレポートまたはブックのみがサポートされます。
- E メールの送信については、各 E メールに **10** MB のファイル添付制限があります。
- 現在、バースティング・ディメンション問合せのメンバーの最大制限は 1000 です。
- Financial Reporting のバッチまたはスケジュールされたバッチからの移行は、機能および基本的なアーキテクチャの相違により、サポートされていません。

バースティング定義でのプロンプトの使用

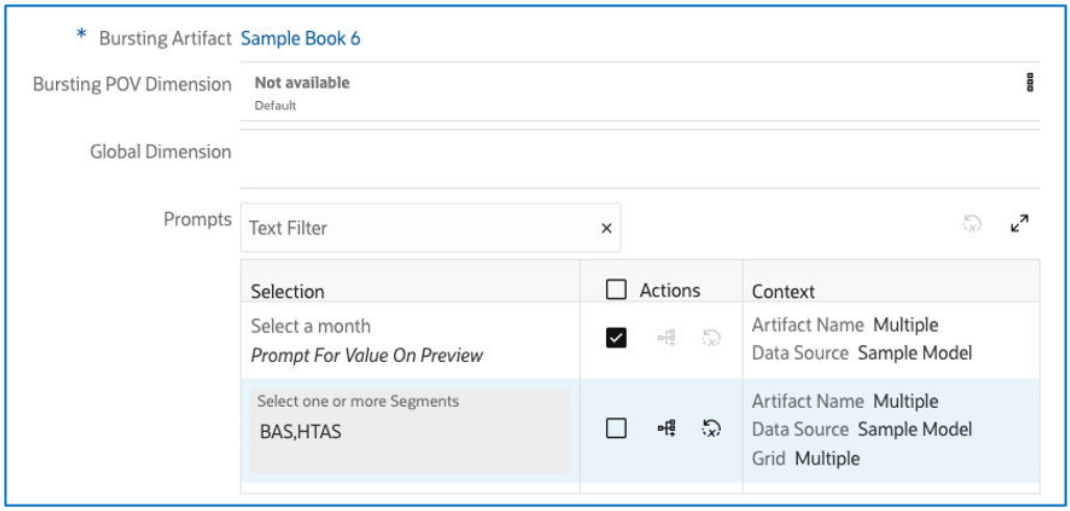
レポートまたはブックにプロンプトが含まれている場合、バースティング定義設計者レベルでプロンプトのメンバー選択を指定するか(**「プレビュー時の値のプロンプト」**が無効)、ユーザーがプロンプトに応答するためにバースティング定義を実行できるようにする(**「プレビュー時の値のプロンプト」**が有効)ことができます。

> ⓘ **ノート**
>
> バースティング定義内のプロンプトは常に**「コンパクト」モード**に表示され、このモードでは、レポート間で重複するプロンプト(同じデータ・ソースに対する同じディメンション、プロンプト・ラベル、選択リスト、デフォルトの選択、および「複数選択の許可」設定)が統合されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

プロンプト選択を定義するには:

1. バースティング定義で、プロンプト選択のリストが**「グローバル・ディメンション」**領域の下の**「プロンプト」**セクションに表示されます。



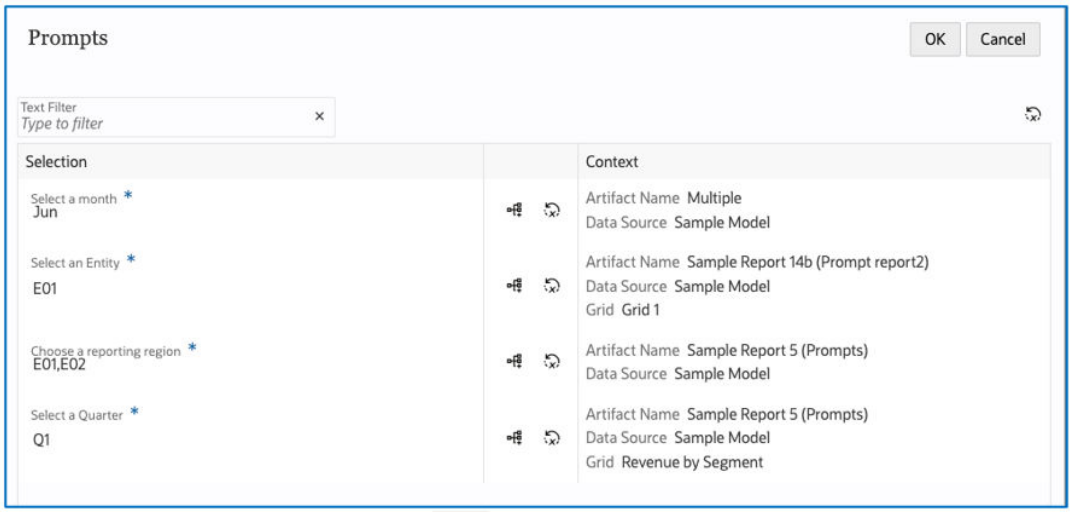
   - **「テキスト・フィルタ」**ボックスにフィルタ基準テキストを入力して、プロンプト・リストをフィルタします。
   - **「すべてのプロンプト選択のリセット」** をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットします。このことは、レポートの 1 つ以上のプロンプトで**「プレビュー時の値のプロンプト」**が無効になっている場合にのみ該当します。
   - **「展開」** をクリックして、「プロンプト」ウィンドウをフル・サイズに拡大します。
2. それぞれのプロンプトを構成できます:
   - **「選択」**列には、プロンプト・ラベルおよび選択が表示されます。
   - **「処理」**列を使用すると、**「プレビュー時の値のプロンプト」**を無効または有効にすることができ、有効にすると、バースティング定義を実行するユーザーにプロンプトが表示されます。無効にした場合は、設計者が**「メンバーの選択」** をクリックしてメンバー・セレクタをオープンし、プロンプトの選択を指定します。
   - **「すべてのプロンプト選択のリセット」** をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットすることもできます。
   - **「コンテキスト」**列には、データ・ソースと、プロンプトがどこに適用されるか(グリッドの行、POV など)が表示されます。

バースティング定義の実行時にプロンプトに応答するには:

1. **「プレビュー時の値のプロンプト」**を有効にして構成されているプロンプトがレポートにある場合、**「プロンプト」**ダイアログが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> バースティング定義内のすべてのプロンプトは、結合プロンプトとして「コンパクト」モードで表示されます。



2. それぞれのプロンプトについて、**「メンバーの選択」** をクリックしてメンバー・セレクタをオープンし、必要な選択を行います。**「すべてのプロンプト選択のリセット」** をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットすることもできます。
3. すべてのプロンプトの選択が完了したら、**「OK」** をクリックしてプレビューを続行します。

複数のデータ・ソースでのバースティング 定義の使用

複数のデータ・ソースが含まれているレポートまたはブックのバースティング 定義を作成できます。単一の POV 選択で複数のデータ・ソースが反映されるように、データ・ソース全体に共通ディメンションが組み込まれます。

- **バースティング POV ディメンション**では、共通メンバーを持つ共通ディメンションにより、共通ディメンションおよびメンバー全体の複数のデータ・ソースにバースティングが適用されます。
- **グローバル・ディメンション**では、共通メンバー選択のある共通ディメンションにより、複数のデータ・ソースに適用される共通 POV ディメンションのメンバー選択が保持されます。

共通 POV ディメンションを持つレポートで複数のデータ・ソースを使用し、出力に公開する例を示します。例で使用されるデータ・ソースは次のとおりです。

- **Sample Model 2:** 変更された Narrative Reporting サンプル・モデルで、3 つのディメンションが Planning Vision Plan1 アプリケーションまたはキューブのディメンション名に一致するように名前が変更されています。
- **Planning:** Planning ビジネス・プロセスのサンプル・アプリケーションおよびキューブ。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

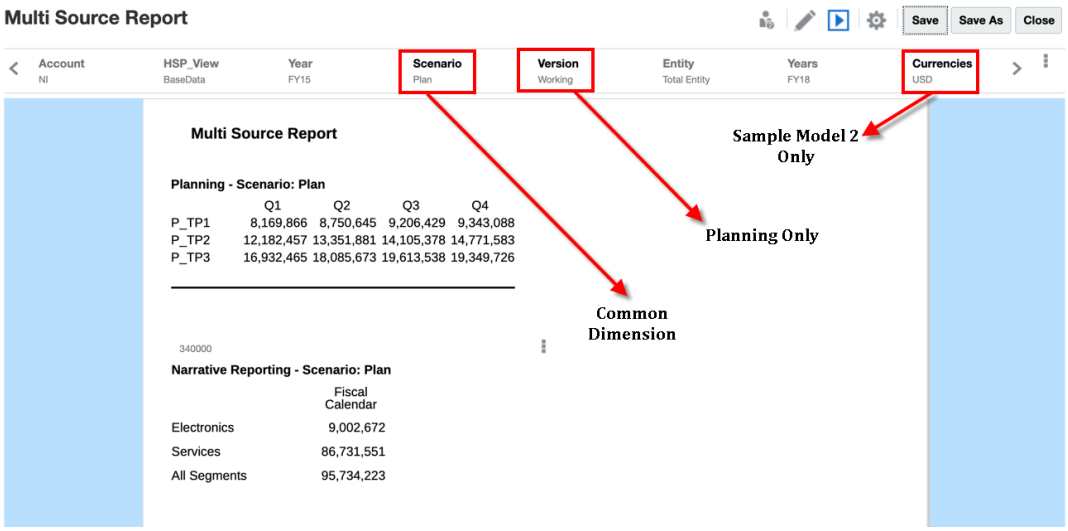
3 つの共通ディメンションは次のとおりです。

- **シナリオ**：**「実績」**および**「プラン」**メンバーが共通です。シナリオ・ディメンションは、**バースティング POV ディメンション**に使用されます。
- **エンティティ**：**「エンティティ 合計」**がデータ・ソース間の唯一の共通メンバーです。**選択のみ表示**が有効な状態で選択されています。したがって、レポートで選択可能な POV ディメンションやバースティング POV ディメンションではありません。
- **勘定科目**：勘定科目には共通メンバーはありません。レポートのグローバル POV で **NI** (Planning)が選択され、**Sample Model 2** グリッドのローカル POV に **340000** が選択されています。

Multi_Source_Report というレポートを示します。

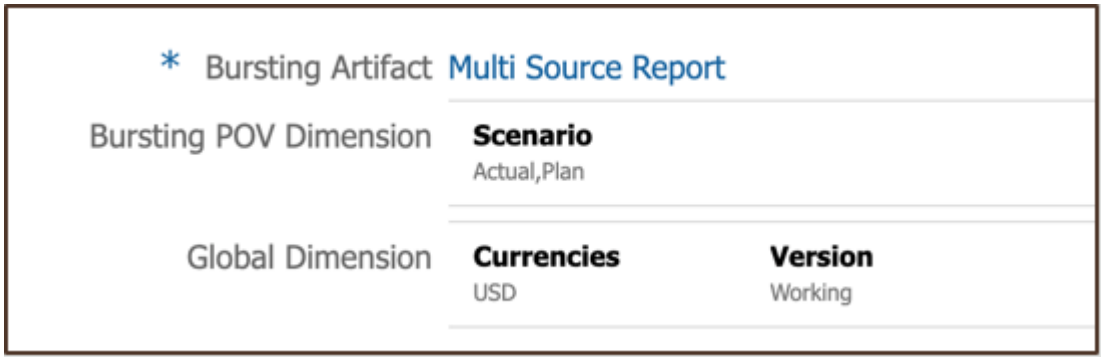
次の例で使用されるレポートは次のとおりです。

- **グリッド - Narrative レポート**は、「Sample Model 2」データ・ソースを使用します
- **グリッド - Planning レポート**は、「Planning」データ・ソースを使用します
- **Sample Multi Source Report** には 2 つのグリッドがあり、1 つは「Sample Model 2」データ・ソースを使用し、もう 1 つは「Planning」データ・ソースを使用します。



- **バースティング POV ディメンション**は、両方のデータ・ソースのシナリオ・メンバーごとにレポートを実行します。
- **グローバル・ディメンション**は、両方のデータ・ソースの残りの POV ディメンションのメンバー選択を定義します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

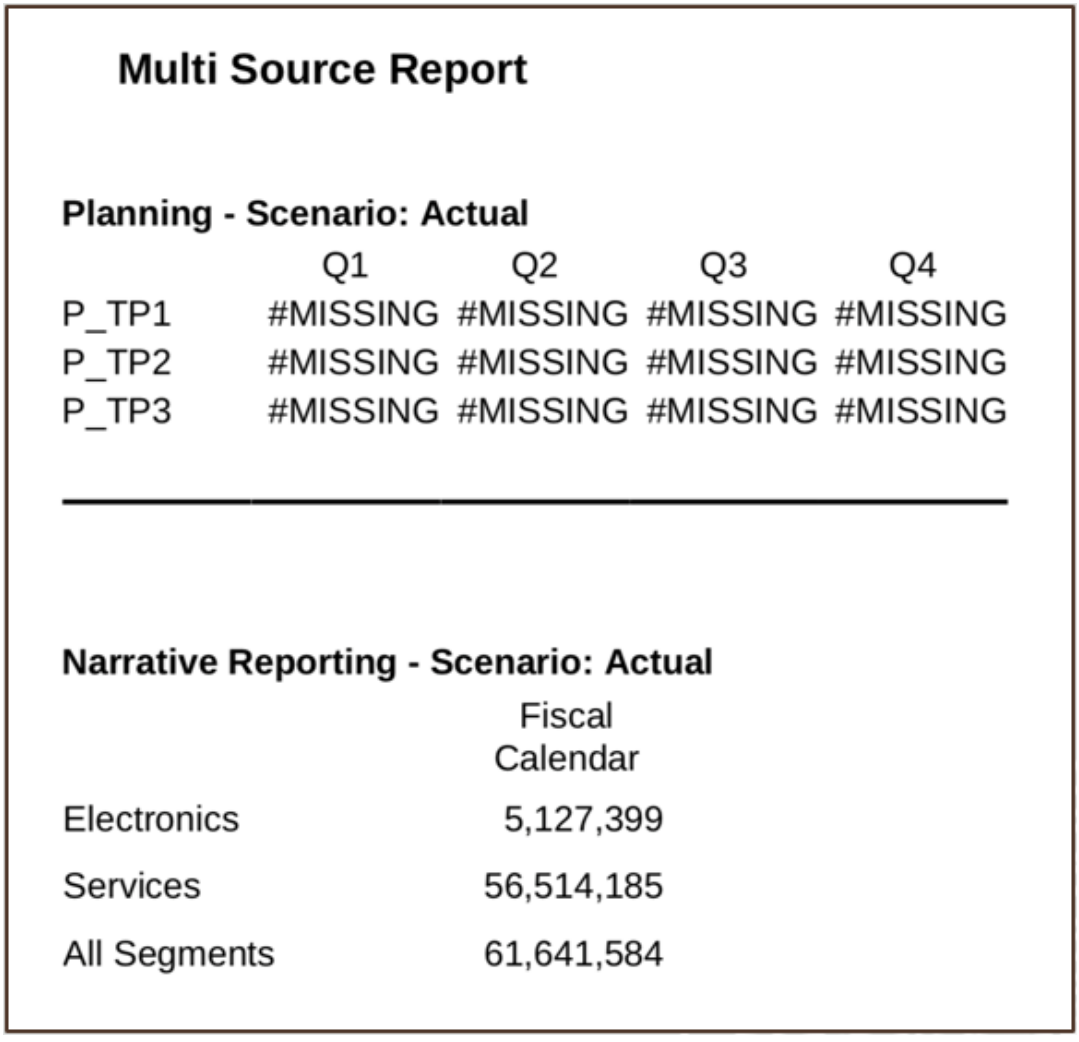


次の点に注意してください。

- バースティング POV ディメンションの選択は**シナリオ**に設定されており、シナリオ POV は**実績**および**プラン**に対して実行されます。
- **通貨**および**バージョン**・ディメンションは、どちらもグローバル POV ディメンションにあります。

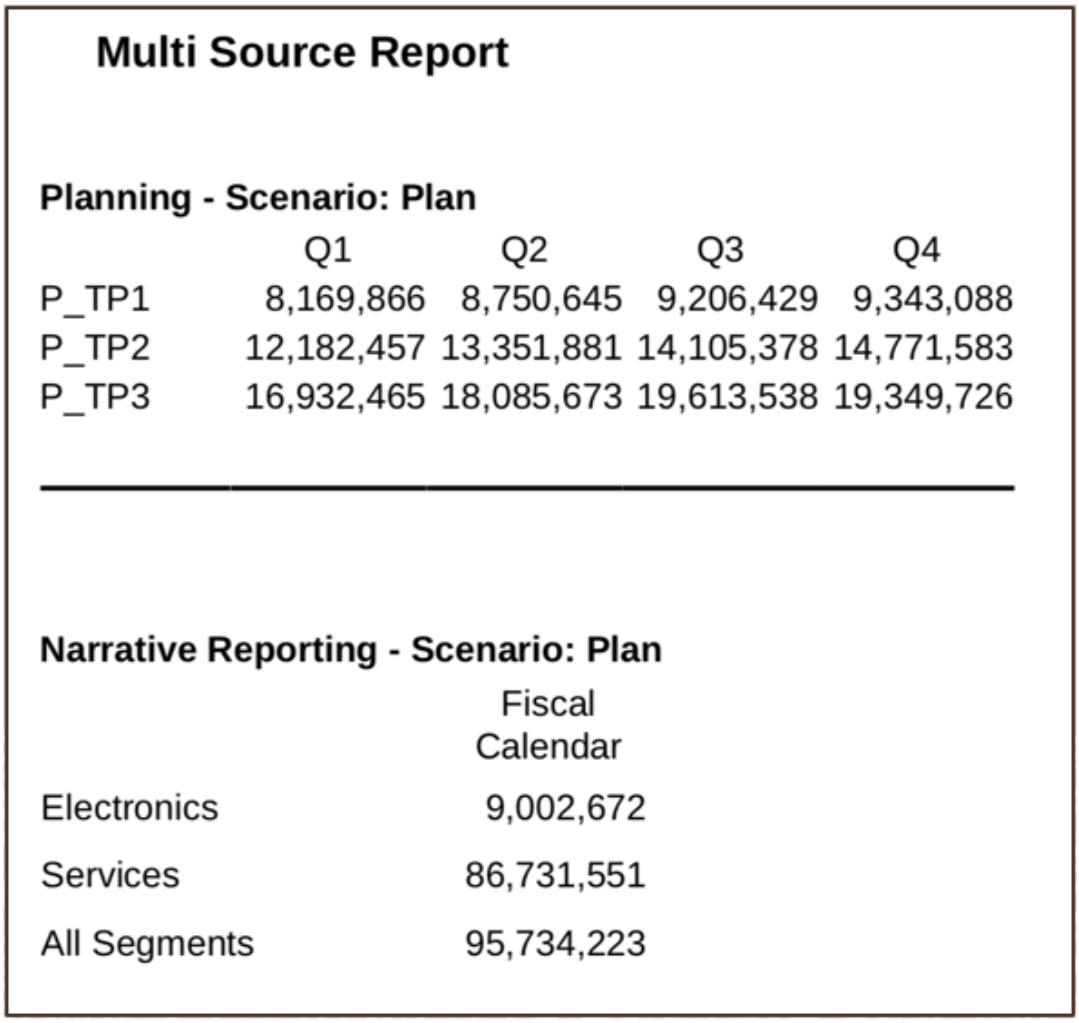
バースティング定義出力が表示されます。

- 次のイメージは、**シナリオ**：**実績**の統合された出力ファイルを示しています



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 次のイメージは、**シナリオ**：**プラン**の統合されたもう 1 つの出力を示しています



バースティング定義に対するアクセス権限の設定

この項では、ユーザーまたはグループ・ロールに基づくバースティング定義および機能に対するアクセス権限の制御について説明します。

システム管理者ロールは、すべてのバースティング 定義を表示および保守できます。ユーザーに割り当てることができる 3 つのタイプの権限があります。

表 14-4 バースティングに対するユーザー・ロールとそのタスクの定義

ユーザー・ロール	ユーザー・タスク
システムまたはサービス管理	• バースティング定義の作成 • バースティング定義のインポート、エクスポート、削除、更新および表示 • バースティング定義に対するユーザー割当の追加、表示、編集および削除 • バースティング定義の作成者には *管理*権限があります

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 14-4 (続き) バースティングに対するユーザー・ロールとそのタスクの定義

ユーザー・ロール	ユーザー・タスク
レポート管理者	• バースティング定義の作成 • レポートの削除、更新および表示
参照者	Narrative Reporting ライブラリでの公開された出力ファイルの表示

レポート管理者ロールおよびシステム管理者ロールは、レポートで新しいバースティング定義を作成できます。

アクセス権限グループ(APG)を使用して、レポート・ユーザーの管理のためのバースティング定義に対する権限を定義できます。

2 つのタイプの権限を定義できます。

- 読取り
- 書込み

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

15

レポートでの生成 AI の操作

生成 AI は、財務の意思決定を支援するレポートおよび分析にさらなるインテリジェンスをもたらすことができます。

レポートでは、生成 AI (GenAI)を使用して、次のことを実行できます。

- ナラティブ・サマリーをテキスト・ボックス、テキスト行またはテキスト列に生成します。
- テキスト・ボックスに、またはエンド・ユーザー処理として、ノートを要約します。

ナラティブ・サマリーの生成

ナラティブ・サマリーの生成は、次の 3 つのユース・ケースで使用できます:

- **例外の記述:** 条件を満たしたセルについて記述します。たとえば、レポート設計者が条件として定義した差異しきい値を満たすグリッド・セルです。
- **例外の因果関係の記述**: 条件を満たした関連セル・ディメンションの 1 つを調査し、その上位または下位のコントリビュータについて記述します。
- **比較分析の実行**: グリッドの列に以前の期間が含まれている場合に、セル値について以前の期間と比較して記述します。

> **Note**
>
> – **比較分析**のユース・ケースを適用できるのは**期間**ディメンションのみであり、その他のタイプのディメンションには適用できません。
>
> – **例外の因果関係の記述**および**比較分析**のユース・ケースは、データ・セルにのみ適用でき、式セルには適用できません。

レポート内のナラティブ・サマリーの生成は、条件付きテキスト・フレームワークと各ユース・ケースに対応する機械学習プロパティ・ファイル(プロンプト・テンプレート・プロパティ・ファイル)を通して公開されます。プロパティ・ファイルは、GenAI を介してテキストのナラティブを生成するための例を提供するものです。条件付きテキストは行、列またはセルに対して定義され、条件が満たされた場合に、GenAI サービスによって `ConditionalText` 関数を使用して結果のナラティブ・テキストが返されます。

条件付きテキスト・フレームワークの詳細は、「条件付き書式設定、テキストおよび抑制の操作」を参照してください。

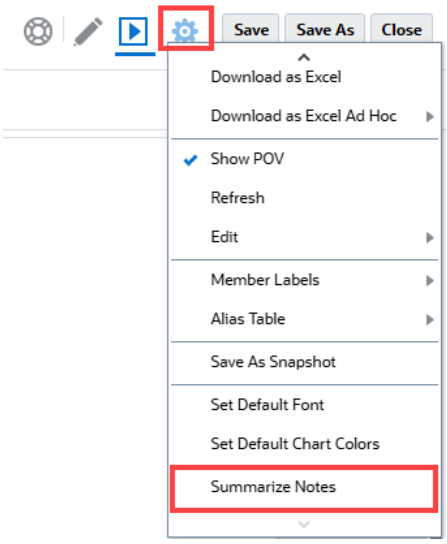
ナラティブ・サマリーを生成するためのレポートの設計の詳細は、ナラティブ・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成を参照してください。

ノートの要約

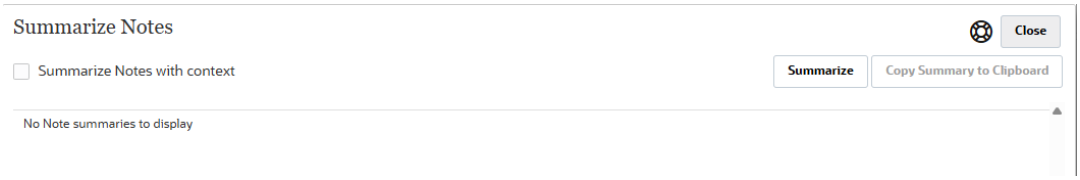
生成 AI を使用して、ノート・セグメントまたは「ノート」テキスト・ボックスのいずれかから取得したノートを要約できます。ノート・サマリーは、テキスト・ボックス(デザイナ設定)またはエンド・ユーザー処理としてのいずれかで使用できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **テキスト・ボックス**: `Notes` または `GridNotes` テキスト関数(追加パラメータを使用)または `SummarizeGridNotes` テキスト関数を使用して、レポート設計者は**ノート**を要約するように指定できます。
- **エンド・ユーザー処理**: レポートのプレビュー中に、**「処理」**メニューから**「ノートのサマリー」**を選択できます。

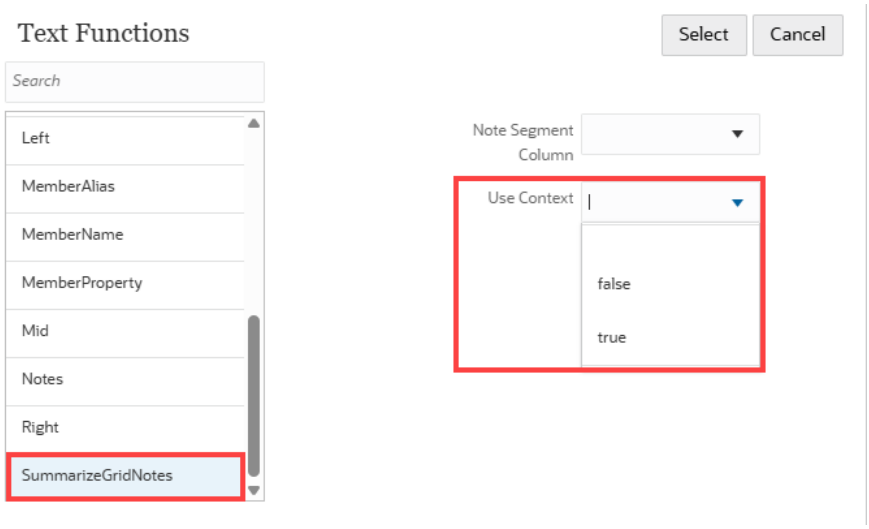


「ノートのサマリー」ダイアログを含むポップアップが表示されます。



`SummarizeGridNotes` 関数またはエンド・ユーザーの**「ノートのサマリー」**処理を使用する場合は、ノート・セグメントに関連付けられたメンバーのデータ値を含む**「コンテキストの使用」**を選択できます。例:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



他の購買および供給費用の増加の主な要因は、追加の契約者サービスであり、結果として Fees Outside Services に 0.53%の差異がありました。最終的に、施設のメンテナンス・コストがわずかに減少すると、Facilities Expenses の差異が 0.12%になりました。

ノートを要約するためのレポートの設計の詳細は、ナラティブ・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成を参照してください

Note

- レポートの GenAI 機能は現在、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Enterprise Narrative Reporting デプロイメントでのみ使用可能です。標準 Cloud EPM ライセンスの Oracle Enterprise Performance Management Cloud プラットフォーム・アプリケーション・デプロイメントや、レガシーの Enterprise Performance Reporting Cloud Service (EPRCS)では使用できません。
- Oracle AI の可用性は、すべての OCI リージョンではまだ提供されていません。使用可能なリージョンを表示するには、*オペレーション・ガイド*の生成 AI の可用性を参照してください。
- 最初のリリースでは、ナラティブは英語でのみ生成されます。
- レポートの GenAI 機能は意思決定支援ツールです。提供された情報の解釈については、エンド・ユーザーが最終的な判断を下す必要があります。AI はあくまでも意思決定支援ツールとして使用してください。AI によって生成されたコンテンツは必ず内容を精査し、正確であることを確認してから使用するようにしてください。

-- Narrative Reporting の GenAI 機能の概要

Narrative Reporting の GenAI 機能について学習します。条件付きテキストと、レポート GenAI 機能を使用して対応するナラティブを自動的にレンダリングする `AutoTextSummary` を使用して、レポートを設計します。

Related Topics

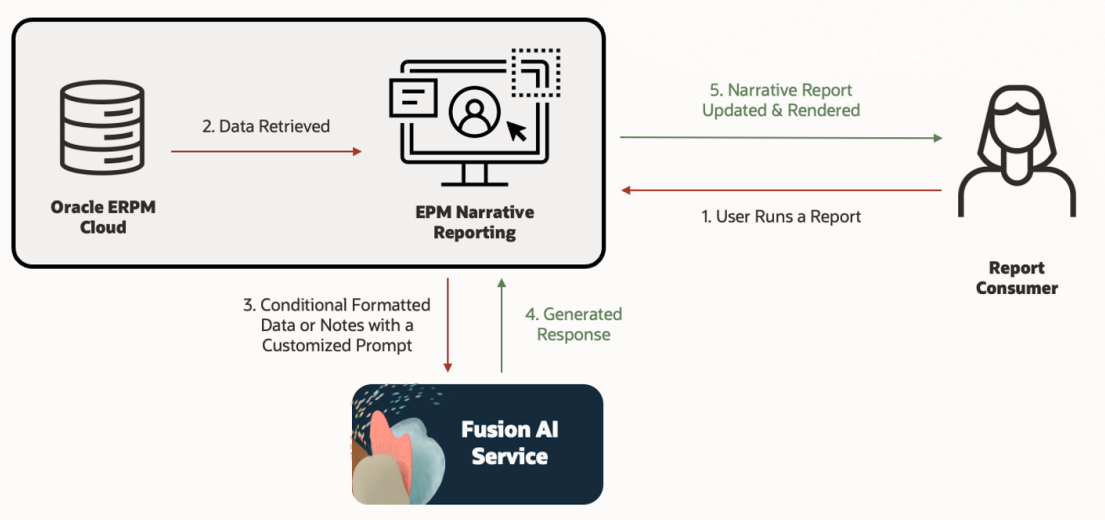
- アーキテクチャの概要

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Narrative Reporting での生成 AI の有効化
- ナラティブ・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成
- ズーム・サマリー・タイプの操作
- ノート・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成
- レポートでの生成 AI の操作
- 機械学習プロパティ・ファイルの操作
- 機械学習ファイルのプロパティ・ファイルへのアクセスおよび管理
- 機械学習ファイルのプロパティ・ファイルのカスタマイズ方法
- 生成 AI のガバナーおよび制限事項

アーキテクチャの概要

次に、レポートにおける生成 AI (GenAI)のアーキテクチャの概要を示します:



1. ユーザーが Narrative Reporting でレポートを起動します。このレポートには GenAI ベースの `AutoTextSummary` 関数を使用して定義された条件付きテキストが含まれているか、"ノート・サマリー"が有効になっています。
2. バックグラウンドで、レポートのデータ・ソースからデータが取得されます。
3. GenAI 機能について:
   - **ナラティブ・サマリーの生成**: 事前定義済条件を満たしたレポート・グリッド・データと、対応する Narrative Reporting 機械学習プロパティ・ファイルからのプロンプトが Fusion AI サービスに送信されます。
   - **ノートのサマリー**: レポート・グリッド・データ(**「コンテキストの使用」**が有効な場合)と**「ノート」**、および対応する Narrative Reporting 機械学習プロパティ・ファイルからのプロンプトが Fusion AI サービスに送信されます。
4. Fusion AI サービスによりレスポンスが生成され、Narrative Reporting インスタンスに返送されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

5. 生成されたレスポンスを使用してレポートが補強され、ユーザーにレンダリングされます。

> **Note**
>
> 必要となる追加の処理および Fusion AI サービス(Narrative Reporting とは別のインスタンスに存在)へのネットワーク・トラフィックにより、GenAI 機能を使用した場合、レポートの処理により多くの時間がかかります。条件付きテキストをレポート内の大量のセルに適用したり、GenAI レポートを**ブック**または**バースティング**に含めて複数の POV に対して実行することは、レポートの処理時間に悪影響を及ぼす可能性があります。徹底的なテストを実行し、プロセスがユーザーのレポート実行に対するサービス・レベル目標を達成していることを確認してください。

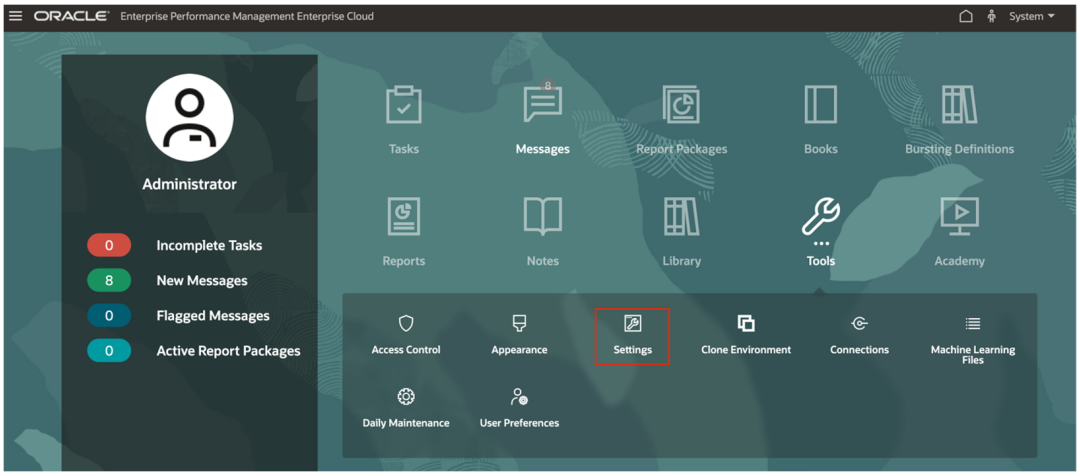
Narrative Reporting での生成 AI の有効化

現在、生成 AI (GenAI)サービスは一部のデータ・センターでのみ使用可能です。使用しているデータ・センターで GenAI を利用できる場合は、**「ツール」**>**「設定」**カードから有効化できます。

> **Note**
>
> 使用可能なリージョンを表示するには、*オペレーション・ガイド*の生成 AI の可用性を参照してください

GenAI を有効にするには、次のステップに従います:

1. **Narrative Reporting ホーム・ページ**で、**「ツール」**、**「設定」**の順に選択します。

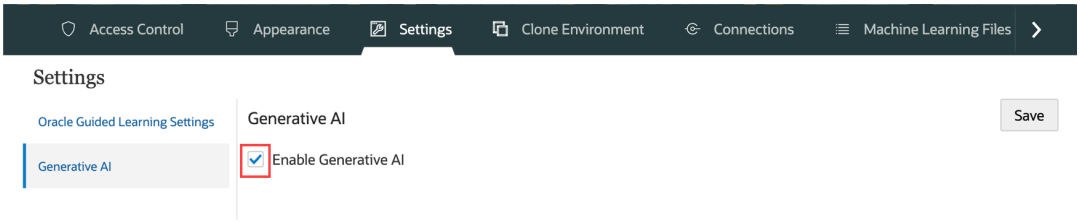


2. **「設定」**ウィンドウの左ペインで、**「生成 AI」**を選択します。

   ノート: 生成 AI を使用できないデータ・センターを使用している場合、「生成 AI」パネルに、生成 AI は使用不可と表示されます。

3. **「生成 AI 使用可能」**チェック・ボックスを選択し、**「保存」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



ナラティブ・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成

ナラティブ・サマリー用の生成 AI (GenAI)を使用するレポートを設計するには:

1. レポート・グリッドを編集し、条件付きテキストを適用する行、列またはセル(あるいはその両方)を選択します。

> **Note**
>
> 列ヘッダー・セルおよび列セルとカスタム見出しラベルをマージしたグリッドに条件付きテキストを定義できます。結果の生成 AI テキストは、基礎となる列メンバーの名前または別名を返します。

2. 選択した行、列またはセル(あるいはその両方)に条件付きテキストを適用する条件を作成します。

> **Note**
>
> - **例外の因果関係の記述**および**比較分析**のユース・ケースは、データ・セルにのみ適用でき、式セルには適用できません。条件の作成の詳細は、*『レポートの設計』*ガイドの「条件の作成」を参照してください。
> - **例外の因果関係の記述**ユース・ケースの条件定義では、条件の**「演算子」**フィールドに次のいずれかを指定する必要があります:「次より大きい」、「次以上」、「次より小さい」または「次以下」。その他の条件では、適切な結果が返されません。

- GenAI ユース・ケースが**例外の記述**の場合、目的の例外をテストする条件を定義できます。たとえば、「差異が **10%**を超える」というシナリオです。
- GenAI ユース・ケースが**例外の因果関係の記述**または**比較分析の実行**で、テストする特定の条件がない場合(条件を適用せずに GenAI でナラティブ・テキストを生成させる場合)、現在のメンバー名またはデータ値"0 と等しくない"をテストする条件を設定できます。

3. **「条件付きテキスト」**タブの**条件付き書式/テキストの追加**ダイアログで、 fx ボタンを使用して、`AutoTextSummary` 関数を選択します。
   - GenAI ユース・ケースが**例外の記述**の場合、**Summary Type** パラメータを空白のままにしておくことができます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- GenAI ユース・ケースが**例外の因果関係の記述**の場合、**Summary Type** パラメータを"ZOOM"に設定します。

  必要に応じて、"ZOOM" Summary Type の追加のテキスト関数パラメータを入力および選択します。詳細は、「ズーム・サマリー・タイプの操作」を参照してください。

- GenAI ユース・ケースが**比較分析の実行**の場合、**Summary Type** パラメータを"COMPARE"に設定します。

4. **「OK」**をクリックして、**条件付き書式/テキストの追加**ダイアログを閉じます。
5. GenAI ユース・ケースが**例外の因果関係の記述**で、ディメンションに内部的にズーム・インして関連するデータ値を取得する必要がある場合、**「条件付きプロパティ」**タブで**「分析ディメンション」**(通常これはグリッド内の行ディメンションです)を選択します。

> **Note**
>
> - **「分析ディメンション」**プロパティを使用するのは、**例外の因果関係**ユース・ケースの GenAI ナラティブ生成のみであり、その他のユース・ケースや機能ではいかなる場所でも使用しません。
> - 定義した条件によって、上位コントリビュータと下位コントリビュータのどちらが返されるかが決まります。
>   - 上位コントリビュータを返すには、**「次より大きい」**または**「次以上」**条件を使用します。
>   - 下位コントリビュータを返すには、**「次より小さい」**または**「次以下」**条件を使用します。

6. `ConditionalText` 関数をテキスト・ボックス、行、列またはセルに追加できます。

   `ConditionalText` 関数の詳細は、*『レポートの設計』*ガイドの「ConditionalText」を参照してください。

7. GenAI が生成したナラティブ・テキストに表示される POV メンバーを制限するには、表示しない POV ディメンションを非表示にすることで、POV ディメンションを含めるかどうかを制御できます。

> **Note**
>
> GenAI を使用してナラティブ・テキストを生成するレポートをプレビューするときに、結果テキストの正確性を自分自身で検証する必要があります。

ズーム・サマリー・タイプの操作

AutoTextSummary テキスト関数の場合、"ZOOM" **Summary Type** に Generative AI (GenAI)ナラティブ結果を調整するために定義できる追加パラメータがあります。

- Top/Bottom number: 返されるコントリビュータの数を定義します。

  このフィールドには数値を入力します。このパラメータが定義されていない場合、デフォルトの動作は **3** です。

- 自動テキスト・サマリー・ズーム・タイプ: コントリビュータを返すために **RELATIVEGENERATION** または **LEVEL** を使用するかどうかを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

このパラメータが定義されていない場合、デフォルトの動作は **CHILDREN** です。

- 自動テキスト・サマリー・レベル/自動テキスト・サマリー世代: コントリビュータを返すために使用する **RELATIVEGENERATION** または **LEVEL** 番号を定義します。**RELATIVEGENERATION** は、分析対象のメンバーの世代を基準とする世代番号です。

  たとえば、分析対象のメンバーが世代 **4** で、**RELATIVEGENERATION** に **2** を指定した場合、世代 **6** のコントリビュータが返されます。

Zoom Summary Type の追加パラメータを選択するには:

1. **「条件付き書式/テキストの追加」**ダイアログの**「条件付きテキスト」**タブで、 fx ボタンを使用して `AutoTextSummary` 関数を選択します。
2. **Summary Type** パラメータを"ZOOM"に設定します。
3. **オプション**: **「上位または下位」**で、このフィールドに数値を入力します。このフィールドが指定されていない場合は、デフォルトの **3** が使用されます
4. **オプション**: **「自動テキスト・サマリー・ズーム・タイプ」**で、**RELATIVEGENERATION** または **LEVEL** を選択します。このフィールドが指定されていない場合は、評価対象メンバーの子を使用してコントリビュータが決定されます。
5. **「自動テキスト・サマリー・ズーム・タイプ」**を選択した場合は、**「自動テキスト・サマリー・レベル」/「自動テキスト・サマリー世代」**番号を指定します。

ノート・サマリー用の生成 AI を使用したレポートの作成

`Notes` または `GridNotes` テキスト関数(追加パラメータを使用)または `SummarizeGridNotes` テキスト関数を使用して、テキスト・ボックス内でノートを要約できます。

Notes テキスト関数

Notes テキスト関数を使用してノートを要約するには:

1. 既存の**「ノート」**テキスト・ボックスを使用してレポートを編集するか、新規の**「ノート」**テキスト・ボックスをレポートに作成し、Notes テキスト関数で**「ノートのサマリー」**パラメータを**「True」**に設定できます。例: `Notes("P&L Named POV", "P&L Note Format", "P&L Variance", true)`
2. **「ノートのサマリー」** = `true` の場合、「ノート」テキスト・ボックスの結果のノートは、GenAI を使用して要約されます。

   「ノートのサマリー」 = `false` の場合、または**「コンテキストの使用」**パラメータが含まれていない場合、「ノート」テキスト・ボックスは、GenAI 要約なしで定義どおりに表示されます。

   例:

   - **ノートのサマリー** = `false`

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Fiscal Calendar: Jun, Years: FY26,
Segments: AS
Accounts: 410000
Last minute sales deal was postponed by the customer
Accounts: 450000
Unexpected increase in supplier pricing
Accounts: 501100
Variance was due to unplanned quarter end bonus promotion
Accounts: 501200
Additional bonus paid out due to quarter end sales promotion
Accounts: 502000
we saw an increase in travel fees related to higher airfare.
Accounts: 503000
Additional freight and shipping costs related to higher international shipping costs.
Accounts: 506000
Additional contractor services was a driving factor of higher other purchases and supplies expenses.
Accounts: 509000
Minor decrease in facilities maintenance costs

- **ノートのサマリー** = `true`

The June 2026 financial performance for the Audio Systems segment experienced variances due to several factors. A last-minute sales deal was postponed by the customer, impacting the Net Revenue with a variance of (0.44%). Unexpected increases in supplier pricing led to a 0.27% variance in Cost of Sales. Unplanned quarter-end bonus promotions resulted in a (0.12%) variance in Salaries and Wages, while additional bonuses paid out for the quarter-end sales promotion caused a (0.10%) variance in Taxes and Benefits. An increase in travel fees, particularly airfare, contributed to a 0.39% variance in Travel expenses. Higher international shipping costs led to additional freight and shipping costs, impacting General Supplies with a (0.10%) variance. The main driver of higher other purchases and supplies expenses was additional contractor services, resulting in a 0.53% variance in Fees Outside Services. Finally, a minor decrease in facilities maintenance costs led to a 0.12% variance in Facilities Expenses.

> **Note**
>
> ノートの基礎となるデータ値は使用できないため、ノート・テキスト関数を使用して要約されたノートに対して**「コンテキストの使用」**は使用できません。
>
> 「ノート」テキスト・ボックスおよび Notes テキスト関数の詳細は、次のトピックを参照してください。
>
> - ノート・テキスト関数の使用.
> - ノートテキスト関数の構文。

GridNotes テキスト関数

`GridNotes` テキスト関数を使用してノートを要約するには:

1. レポートのテキスト・セグメント(行または列)またはテキスト・ボックスを使用して、レポートを**編集**できます。既存の `GridNotes` テキスト関数を編集するか、新しいテキスト関数を挿入します。**「ノートのサマリー」**パラメータを `true` に設定します。

   例: `GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", true)`

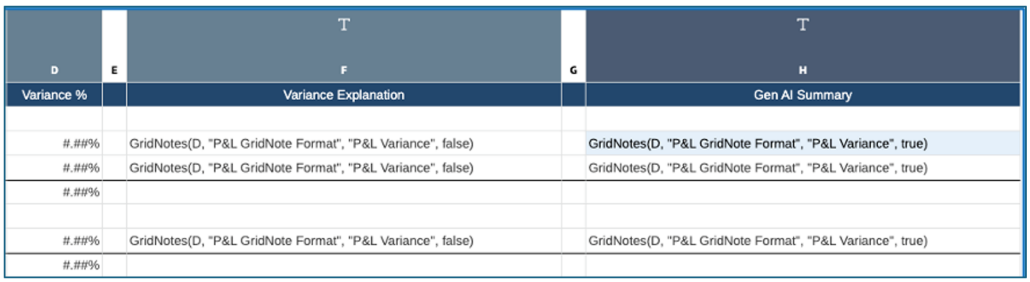
2. **ノートのサマリー** = `true` の場合、GenAI を使用して `GridNotes` 関数が要約されます。

   「ノートのサマリー」 = `false` の場合、または**「コンテキストの使用」**パラメータが含まれていない場合、`GridNotes` 関数は、GenAI 要約なしで単にノートを表示します。

   例:

   - **グリッド・デザイナ**・モード:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



D	E	F	G	H
Variance %		Variance Explanation		Gen AI Summary
#.##%		GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", false)		GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", true)
#.##%		GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", false)		GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", true)
#.##%				
#.##%		GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", false)		GridNotes(D, "P&L GridNote Format", "P&L Variance", true)
#.##%				

- **レポート・プレビュー**・モード:

Variance %	Variance Explanation	Gen AI Summary
(0.44%)		
0.27%	Unexpected increase in supplier pricing	The company is facing a challenge due to an unexpected increase in supplier pricing, which may impact its financial performance and operations.
(0.78%)		
(0.12%)	Increase in hourly cost for temporary staff.	The company has experienced an increase in hourly costs for temporary staff, which may impact overall operational expenses.
(0.10%)	Additional bonus payout for quarter end promotion	The company has implemented an additional bonus payout as part of a quarter-end promotion, which is expected to boost employee morale and performance.
0.39%	Ongoing increase in airfare expenses	The company is experiencing a continuous rise in airfare expenses, which is a cause for concern and may impact its financial performance.
(0.10%)	Ongoing increase of shipping and freight rates	The shipping and freight rates are experiencing a continuous increase.
(0.14%)	Minor increase due to additional web conference usage	The increase in revenue is attributed to the additional usage of web conferences, which has had a minor positive impact on the overall financial performance.
(0.07%)		
0.52%	Unplanned marketing promotion and related printing and advertising costs	The company incurred unexpected marketing promotion expenses, including printing and advertising costs, which were not initially planned for in the budget.

`GridNotes` テキスト関数の詳細は、GridNotes を参照してください。

SummarizeGridNotes テキスト関数

`SummarizeGridNotes` テキスト関数は、テキスト・ボックスに挿入して、グリッド内のノート・セグメントに表示されるノート(インライン・グリッド・ノート・エントリ)を要約するために使用できます。

この関数はテキスト・ボックスでのみ使用でき、テキスト行またはテキスト列では使用できません。また、ノート・セグメントを含むグリッドがレポートに存在する必要があります。

`SummarizeGridNotes` テキスト関数を使用してノートを要約するには:

- `SummarizeGridNotes` をレポートのテキスト・ボックスに挿入し、ノート・セグメントの行または列参照を指定し、パラメータ**「コンテキストの使用」**を追加するかどうかを指定します。
- 例: `SummarizeGridNotes(F, true)`、ここで **F** は**「ノート」**列を参照し、**「コンテキストの使用」**パラメータは `true` に設定されています。
- **レポート・プレビュー**・モード:

The June 2026 financial performance for the Audio Systems segment experienced variances due to several factors. A last-minute sales deal was postponed by the customer, impacting the Net Revenue with a variance of (0.44%). Unexpected increases in supplier pricing led to a 0.27% variance in Cost of Sales. Unplanned quarter-end bonus promotions resulted in a (0.12%) variance in Salaries and Wages, while additional bonuses paid out for the quarter-end sales promotion caused a (0.10%) variance in Taxes and Benefits. An increase in travel fees, particularly airfare, contributed to a 0.39% variance in Travel expenses. Higher international shipping costs led to additional freight and shipping costs, impacting General Supplies with a (0.10%) variance. The main driver of higher other purchases and supplies expenses was additional contractor services, resulting in a 0.53% variance in Fees Outside Services. Finally, a minor decrease in facilities maintenance costs led to a 0.12% variance in Facilities Expenses.

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- `SummarizeGridNotes` テキスト関数の詳細は、SummarizeGridNotes を参照してください。

レポートでの生成 AI の操作

Narrative Reporting には、各ユース・ケースに 1 つ、3 つの生成 AI (GenAI)サンプル・レポートが含まれています。このトピックでは、レポート設計と結果のレポート出力について説明します。

Narrative Reporting サンプルのデプロイの詳細は、*Narrative Reporting の管理*のサンプルのインストールを参照してください。

> **Note**
>
> サンプル・レポートを実行したときに生成されるナラティブ・テキストは実行のたびに微妙に異なることがあり、機械学習プロパティ・ファイルを編集した場合もテキストに相違が生じることがあります。Narrative Reporting インスタンスでレポートを実行して生成されるナラティブ・テキストは、次に示すサンプル・レポートのスクリーンショット内のナラティブ・テキストとは異なる場合があります。

Sample Report 13a について(GenAI - 例外の記述)

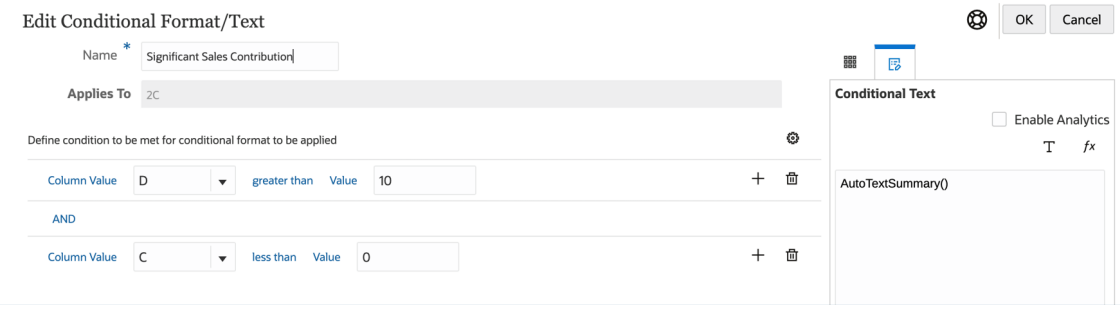
このレポートには、1 つのシンプルなグリッドが含まれており、行にリージョン(**「Entities」**)、列に**「Actual」**、**「Plan」**および**「Variance」**があります。さらに、非表示の"Percent of Sales"算式列と、GenAI ナラティブ・サマリーを表示するテキスト・ボックスがレポート内にあります。ナラティブ・サマリーの目的は、条件付きテキストの定義で指定される例外(販売率が合計の **10%**超えで、負の差異)を記述することにあります。

グリッド・ビュー:

		A	B	C	D
		Actual	Plan	t vs Plan Var	% of Total
1					
2	Intersect([Descendant	#	#	#.#%	=#.#%
3					
4	Total Entities	#	#	#.#%	=#.#%

条件付きテキストが、**「Total Entities」**を除くすべての **「Entity」**行と、**「Variance」**列に適用されています。条件は次のように定義されています:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

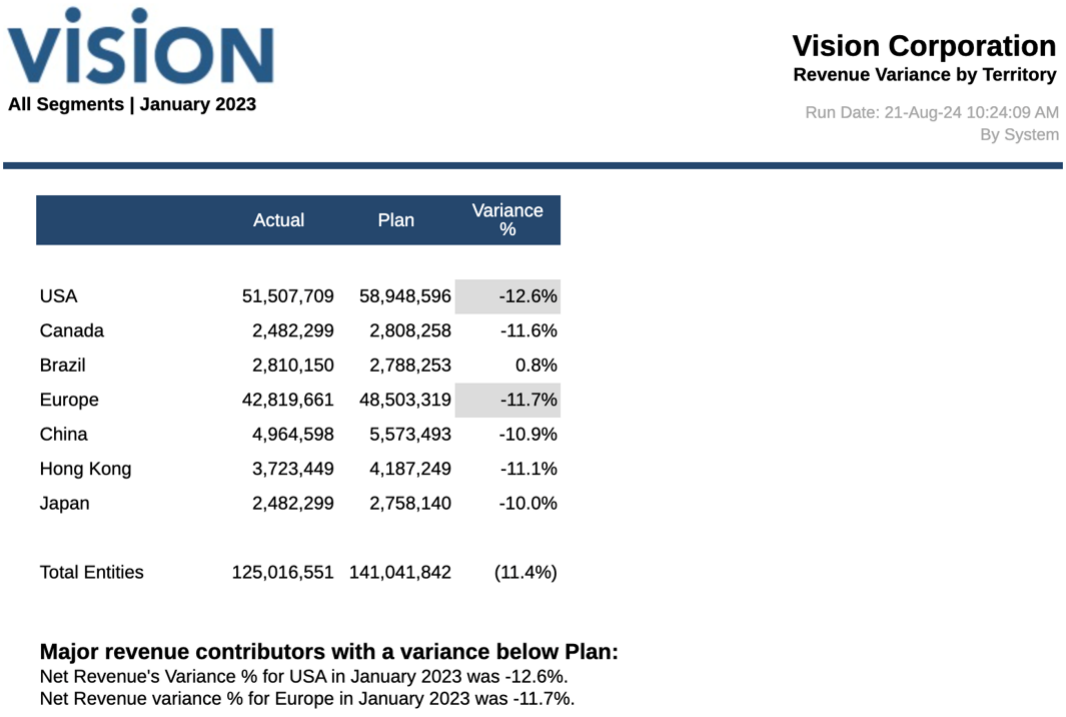


「Percent of Sales」(列 D)が **10%**より大きい、AND **「Variance」**(列 C)が負である場合、差異データ・セルの背景色が**灰色**に設定され(このスクリーンショットには表示されていません)、`AutoTextSummary()`関数が右側の**「条件付きテキスト」**パネルに挿入されます。

ユース・ケースが"例外の記述"であるため、テキスト関数の **Summary Type** パラメータは空白のままです。

レポートのプレビュー:

レポートを機械学習プロパティ・ファイルの例に基づいて実行すると、結果は次のようになります。**「USA」**および **「Europe」**の"Percent of Sales"値 AND 負の差異が定義した条件に一致します。そのため、データ値は灰色の色付きで表示され、グリッド下部のテキスト・ボックス内の条件付きテキストでは GenAI を使用して例外が記述されます。



	Actual	Plan	Variance %
USA	51,507,709	58,948,596	-12.6%
Canada	2,482,299	2,808,258	-11.6%
Brazil	2,810,150	2,788,253	0.8%
Europe	42,819,661	48,503,319	-11.7%
China	4,964,598	5,573,493	-10.9%
Hong Kong	3,723,449	4,187,249	-11.1%
Japan	2,482,299	2,758,140	-10.0%
Total Entities	125,016,551	141,041,842	(11.4%)

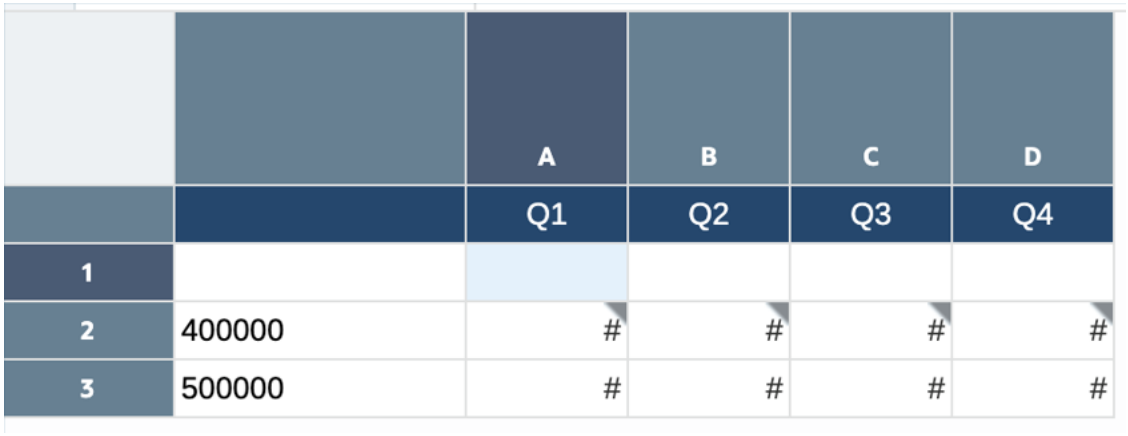
Major revenue contributors with a variance below Plan:
Net Revenue's Variance % for USA in January 2023 was -12.6%.
Net Revenue variance % for Europe in January 2023 was -11.7%.

Sample Report 13b について(GenAI - 比較分析)

このレポートには、1 つのシンプルなグリッドが含まれており、4 つの四半期にまたがる 2 つのサマリー損益計算勘定科目と、GenAI ナラティブ・サマリーを表示するためのテキスト・ボックスがあります。ナラティブ・サマリーの目的は、条件付きテキスト定義に指定されているとおり、**「Q1」**から **「Q4」**までの間で比較分析を実行することにあります。

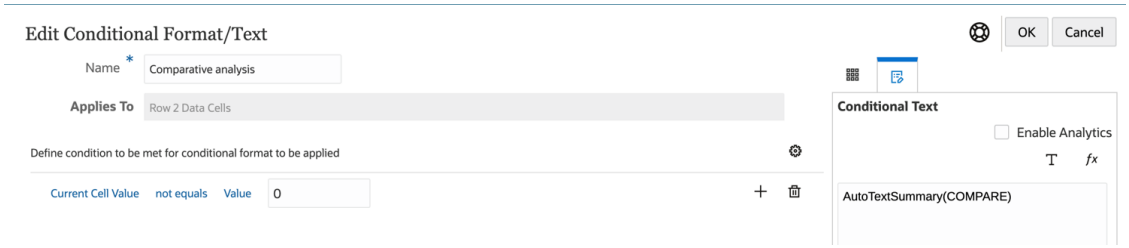
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

グリッド・ビュー:



		A	B	C	D
		Q1	Q2	Q3	Q4
1					
2	400000	#	#	#	#
3	500000	#	#	#	#

条件付きテキストが**「Gross Profit」**行と 4 つの四半期列すべてに適用されています。条件は次のように定義されています:



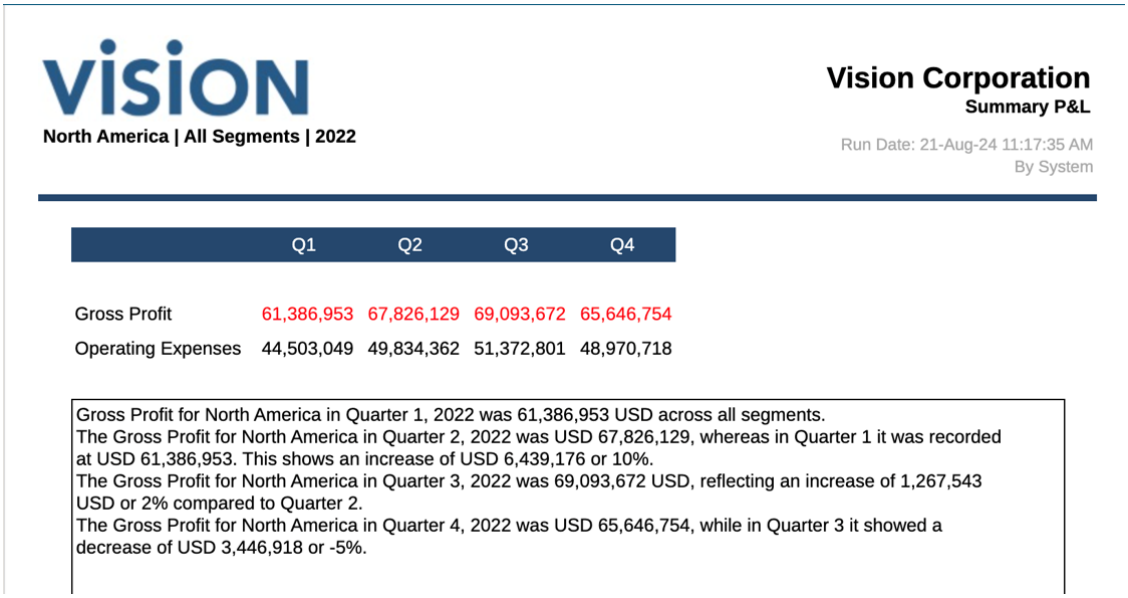
セル値が 0 に等しくない場合、テキスト・フォント色が**赤**に設定され(このスクリーンショットには表示されていません)、`AutoTextSummary(COMPARE)`関数が右側の**「条件付きテキスト」**パネルに挿入されます。

ユース・ケースが"比較分析"であるため、テキスト関数の **Summary Type** パラメータは"COMPARE"に設定されます。

レポートのプレビュー:

レポートを機械学習プロパティ・ファイルの例に基づいて実行すると、結果は次のようになります。**「Q1」**から**「Q4」**の**「Gross Profit」**データ値が"値が 0 に等しくない"の条件に一致します。そのため、データ値は赤で表示され、グリッド下部のテキスト・ボックス内の条件付きテキストでは GenAI を使用して例外が記述されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



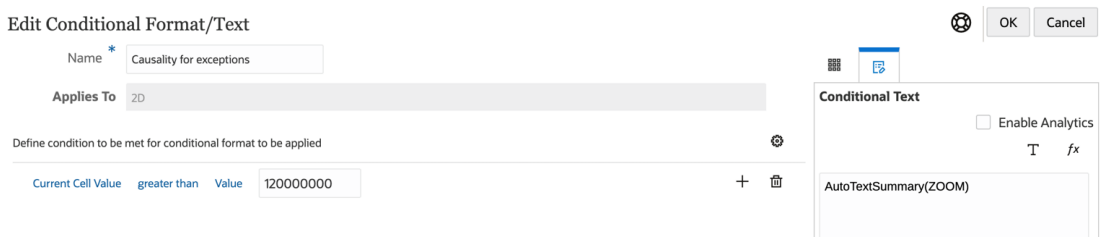
Sample Report 13c について (GenAI - 例外の因果関係)

このレポートには、1 つのシンプルなグリッドが含まれており、行には 4 つの四半期にまたがる**「Entity」**リージョン・メンバー、**勘定科目** POV としての **Net Revenue**、および GenAI ナラティブ・サマリーを表示するテキスト列があります。ナラティブ・サマリーの目的は、条件付きテキスト定義で指定される"例外の因果関係を記述"することにあります。

グリッド・ビュー:

		A	B	C	D
		Q1	Q2	Q3	Q4
1					
2	E01, E02, E03, E04	#	#	#	#

条件付きテキストがすべての**「Entity」**行と**「Q4」**列に適用されています。条件は次のように定義されています:



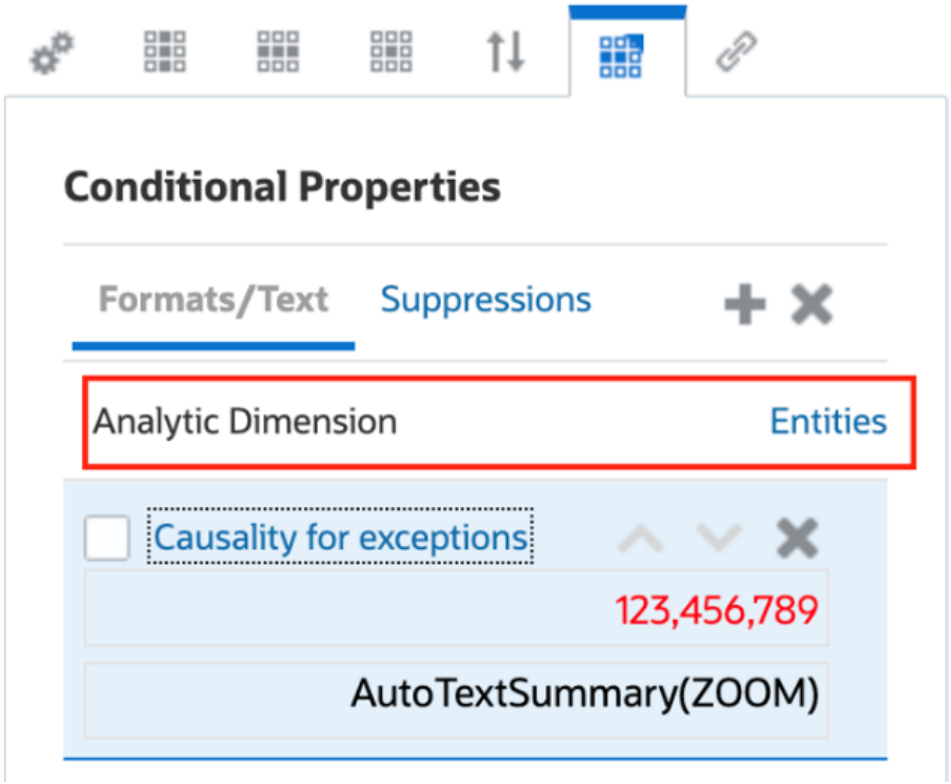
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

セル値が **120,000,000** より大きい場合、テキスト・フォント色が**赤**に設定され(このスクリーンショットには表示されていません)、`AutoTextSummary(ZOOM)`関数が右側の「条件付きテキスト」パネルに挿入されます。

ユース・ケースが"例外の因果関係"であるため、テキスト関数の **Summary Type** パラメータは"ZOOM"に設定されます。具体的には、このサンプルのテキスト関数パラメータは次のとおりです: `AutoTextSummary(ZOOM, 5, LEVEL, 0)`、ここで:

- **5** は、結果で返されるコントリビュータの数を定義する上位/下位の数です。
- **LEVEL** は、結果を返すためにレベル番号が使用されることを意味します。
- **0** は、結果を返すために使用されるレベル番号です。

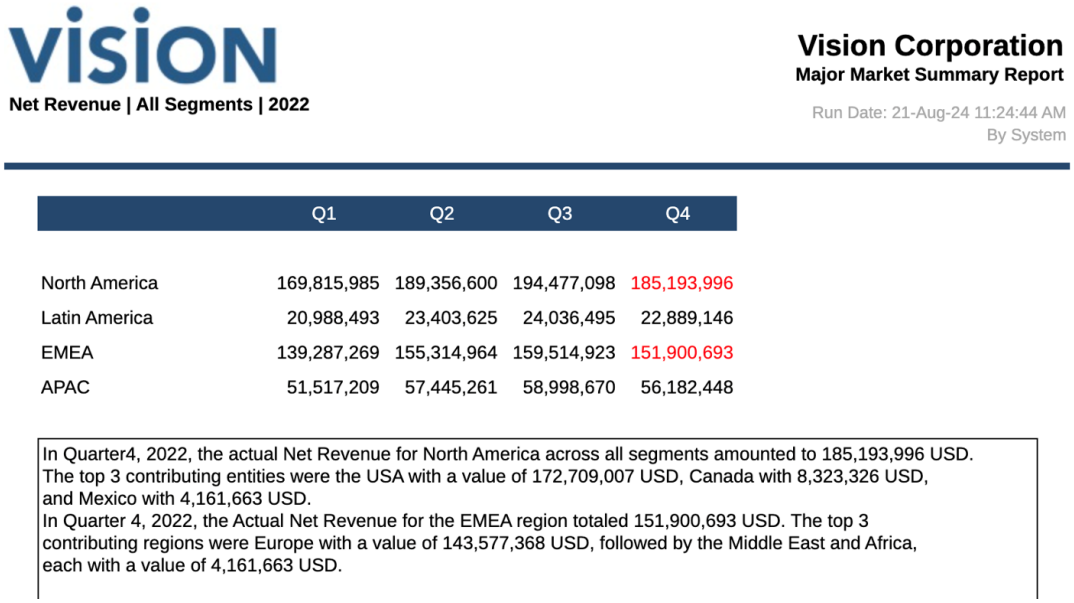
また、**「条件付きプロパティ」**では、**「分析ディメンション」**が**「Entities」**に設定されます。これが分析対象となるグリッド内の行ディメンションであるためです。



レポートのプレビュー:

レポートを機械学習プロパティ・ファイルの例に基づいて実行すると、結果は次のようになります。**「Q4」**の**「North America」**および**「EMEA」**のデータ値が"値が 120,000,000 より大きい"の条件に一致します。そのため、データ値は赤で表示され、グリッド下部のテキスト・ボックス内の条件付きテキストでは GenAI を使用して例外が記述されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



vision
Net Revenue | All Segments | 2022

Vision Corporation
Major Market Summary Report

Run Date: 21-Aug-24 11:24:44 AM
By System

	Q1	Q2	Q3	Q4
North America	169,815,985	189,356,600	194,477,098	185,193,996
Latin America	20,988,493	23,403,625	24,036,495	22,889,146
EMEA	139,287,269	155,314,964	159,514,923	151,900,693
APAC	51,517,209	57,445,261	58,998,670	56,182,448

In Quarter4, 2022, the actual Net Revenue for North America across all segments amounted to 185,193,996 USD. The top 3 contributing entities were the USA with a value of 172,709,007 USD, Canada with 8,323,326 USD, and Mexico with 4,161,663 USD.
In Quarter 4, 2022, the Actual Net Revenue for the EMEA region totaled 151,900,693 USD. The top 3 contributing regions were Europe with a value of 143,577,368 USD, followed by the Middle East and Africa, each with a value of 4,161,663 USD.

機械学習プロパティ・ファイルの操作

ナラティブ・サマリーを生成するための 3 つのユース・ケースのそれぞれに関連するファイルと、ノート・サマリー用の 1 つのファイルの、4 つの機械学習プロパティ・ファイルがあります。このファイルは、生成 AI (GenAI)のナラティブ生成を導く理想的な入力と出力の例を提供します。

機械学習プロパティ・ファイルは、**「ツール」**>**「機械学習ファイル」**で管理し、ここで各ファイルをダウンロード、変更(テキスト・エディタ)およびアップロードできます。各ファイルをデフォルトの出荷時バージョンにリセットすることもできます。

Related Topics

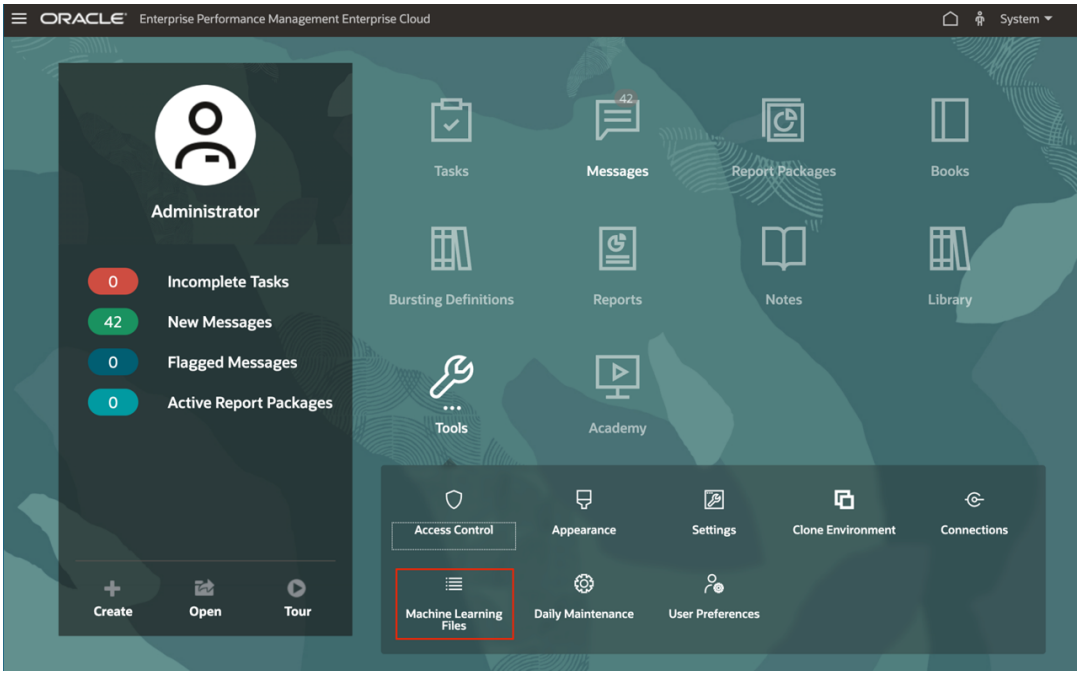
- 機械学習ファイルのプロパティ・ファイルへのアクセスおよび管理
- 機械学習ファイルのプロパティ・ファイルのカスタマイズ方法

機械学習ファイルのプロパティ・ファイルへのアクセスおよび管理

機械学習プロパティ・ファイルにアクセスするには:

1. Narrative Reporting **ホーム・**ページで、**「ツール」**、**「機械学習ファイル」**の順に選択します。

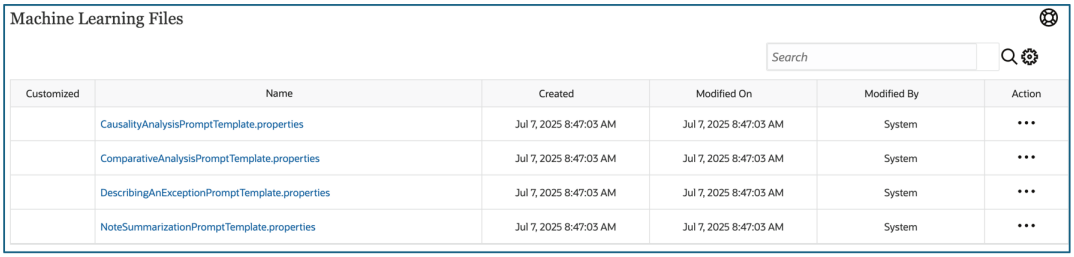
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



2. **「機械学習ファイル」**ページに 4 つのプロパティ・ファイルが、その作成日、変更日および**「変更者」**ユーザーとともにリストされ、そのファイルがデフォルトの状態から変更されたかを示す**「カスタマイズ済」**列もリストされます。

   "デフォルト"ファイルには、ナラティブ・サマリーを生成するための 3 つのユース・ケースとノート・サマリー用の 1 つのファイルのそれぞれの例が事前に移入されています。

   - `CausalityAnalysisPromptTemplate.properties`
   - `ComparativeAnalysisPromptTemplate.properties`
   - `DescribingAnExceptionPromptTemplate.properties`
   - `NoteSummarizationPromptTemplate.properties`



3. プロパティ・ファイルを選択し、**「処理」**メニューから次を実行できます:

   - **ダウンロード** – プロパティ・ファイルをローカル・マシンにダウンロードして表示し、テキスト・エディタで編集して、編集したファイルをアップロードしてサービスに戻します。
   - **アップロード** – 編集したプロパティ・ファイルをアップロードします。
   - **デフォルトにリセット** – プロパティ・ファイルを当初の"デフォルト"状態にリセットします。
   - **リフレッシュ** – **機械学習**ファイル・ページをリフレッシュします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

機械学習ファイルのプロパティ・ファイルのカスタマイズ方法

「機械学習ファイル」ページで、1 つ以上のプロパティ・ファイルをダウンロードしてテキスト・エディタで変更した後に、そのファイルをアップロードしてサービスに戻すことができます。

機械学習プロパティ・ファイルをカスタマイズする際は、次のガイドラインに従ってください:

- 質の高いレスポンスの例を 2-3 個含めます。
- ユース・ケースに関連する様々なシナリオを網羅する例を使用します。
- 可能であれば、機密情報を匿名化した現実に近いデータを使用してください。
- プロンプトで機密情報が提供されないようにします。
- **ノート**: ダウンロードしたファイルの名前は変更しないでください。アップロードするファイルとダウンロードしたファイルの名前が一致している必要があります。

ファイル・フォーマットの例

Example1:

データ:

```
<<Dimension/Headers/Keys>>

<<Members/data_values/Values>>
```

または

```
<<Dimension/Headers/Keys>>

<<Members/data_values/Values>>

<<Calculations>>
```

または

```
<<Dimension/Headers/Keys>>

<<Members/data_values/Values>>

<<Top Contributors data>>
```

レスポンス:

```
<<Expected Narrative>>
```

> **Note**
>
> - 機械学習プロパティ・ファイルのいずれかがカスタマイズされている場合は、以前に行った変更が含まれるように新しいデフォルト・プロパティ・ファイルを変更する必要があります。
> - 「機械学習ファイル」ウィンドウのプロパティ・ファイルの横に警告アイコンが付いた通知が表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

生成 AI のガバナーおよび制限事項

生成 AI (GenAI)によるナラティブ生成には、次の制限事項とガバナーが適用されます。

ガバナー

これらのガバナーを引き上げることはできません。

> **Note**
>
> 単一セル上での単一の条件付きテキストの GenAI 評価には、Fusion GenAI サービスの呼出しが 1 回必要になります。

- 単一のリクエストで最大 **150** の呼出しが許可されます。レポートで、グリッド内のセルに **150** を超える条件が適用されている場合、この制限に到達した時点で GenAI ナラティブ・テキストの生成は終了します。
- 最大 **5** 個のスレッドを Fusion GenAI サービスの呼出しで使用できます。大規模な**レポート**、**ブック**または**バースティング定義**が実行されてすべてのスレッドが使い尽くされると、スレッドが解放されるまで新たな**レポート**、**ブック**または**バースティング実行**は実行できません。

制限事項

- 比較分析のユース・ケースを適用できるのは**期間**ディメンションのみであり、その他のタイプのディメンションには適用できません。また、同じ**期間**ディメンション世代のメンバーでのみ使用でき(例: 月のみ、四半期のみ)、列内の月と四半期など、混在した世代では使用できません。これは、ズームが有効になっている**期間**ディメンション・メンバーにも当てはまり、**四半期**メンバーでズームが有効になっていると列内に四半期と月が含まれることになり、これはサポートされません。
- Fusion AI と実際のプロンプト・リクエスト・プロセス接続の両方に別々のタイムアウト・ガバナーがあります(両方とも 15000 ミリ秒)。リクエストがタイムアウトに到達した場合、生成テキストのかわりにデフォルトのエラー・メッセージがテキスト・ボックスに表示されます。
- **例外の因果関係の記述**および**比較分析**のユース・ケースは、データ・セルにのみ適用でき、式セルには適用できません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

16

レポートのジョブ・コンソールの操作

ジョブ・コンソールには、様々なジョブをスケジュールする機能があります。ジョブを使用すると、バースティング定義の実行やレポート・パッケージ・データ・ソースのリフレッシュの実行などのサービス・アクティビティを 自動化できます。

ジョブは、即時または後で実行するようにスケジュールできます。ジョブ・コンソールで保留中ジョブと最近のアクティビティを 表示および管理することもできます。

> **Note**
>
> **バースティング定義**は、同時に実行したり、連続して実行するようにスケジュールしないでください。サーバー・リソースの過剰な使用を防ぐためには、実行間の適切な待機時間が必要です。過剰な使用により、サービス・レスポンス時間が悪化する可能性があります(特に、処理時間が長いバースティング定義の場合)。また、同じユーザーによるパラレル・バースティング定義の実行は、実行間でリソースを共有しているため、パフォーマンスに影響します。

関連トピック:

- *Narrative Reporting の管理*のジョブ・コンソールへのアクセス
- *Narrative Reporting の管理*のジョブのスケジュール
- *Narrative Reporting の管理*のジョブの管理
- *Narrative Reporting の管理*のセキュリティ - ジョブ・コンソールのロールおよびアクセス権

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

A

ベスト・プラクティスとトラブルシューティングのトピック

Related Topics

- レポート設計の考慮事項
- レポート設計のベスト・プラクティス
  この表には、このガイドに含まれているベスト・プラクティス・トピックへのリンクが記載されています。
- FAQ およびトラブルシューティングのトピック
  この表は、Enterprise Performance Management (EPM)の使用中に発生する可能性のある問題のトラブルシューティング方法についてのガイダンスを示しています。

レポート設計の考慮事項

レポートを設計する際に、いくつか考慮する要素があります。

レポートおよびグリッドのデータ制限

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースではグリッドで返されるセルの最大数が決まっており、この最大数はフォームやアドホック・グリッドにも適用されます。セルの最大数は Cloud EPM ビジネス・プロセスによって異なる場合があります。グリッドまたはレポートのプレビュー時にこの制限に達すると、次のエラーが発生します:「問合せの実行中にエラーが発生しました。セルの数が最大数の<maximum amount>を超えています。」

レポート結果が大きすぎてブラウザにレンダリングできない場合は(グリッド・セル数の制限の **180000** がある HTML または PDF サイズ制限の **10MB**)、レポートを PDF としてダウンロードするように求めるプロンプトが表示されるため、ダウンロードする場合は**「OK」**を選択し、操作を終了する場合は**「取消」**を選択します。

チャート・オブジェクトのデータ・セット制限

チャート・データセットの最大限度は、50 行 X25 列、つまり 1,250 個の値です。

問合せにおける展開されるデータ・セグメントの使用と単一のデータ・セグメントの使用

データ・セグメントとは、データベースからデータを取得する行または列のことです。展開されるデータ・セグメントとは、展開可能な行または列であるため、結果のグリッドは表示される際に 2 つ以上の行または列に展開されます。通常、展開されるデータ・セグメントでは、*Children Of* または *Descendants Of* などの関数が使用されます。単一のデータ・セグメントとは、ビューアに表示される際に単一の行または列のままである行または列のことです。

展開されるデータ・セグメントと単一のデータ・セグメントの同じグリッドでの使用は通常は有効ですが、大量のデータがあるグリッドを設計する際には、単一のデータ・セグメントではなく展開されるデータ・セグメントの使用を検討してください。展開されるデータ・セグメントは、パフォーマンスの点で単一のデータ・セグメントよりある程度優れています。ただし、異なるデータ行または列で詳細な書式設定を生成する場合は、単一のデータ・セグメントを使用してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

欠落ブロックの抑制

> **ノート**
>
> 欠落ブロックを抑制する機能は、Cloud EPM 製品でのみ使用できます。

行または列に疎ディメンションが含まれている場合は、パフォーマンスを向上させるために欠落ブロックを抑制できます。欠落ブロックを抑制すると、大きい疎ディメンションを行に配置できると同時に、問合せの密度が低い場合のレスポンス時間を改善できます。データを含むブロックのみが取得されます。たとえば、数千のメンバーで構成される従業員ディメンションを行に配置し、ページまたは POV にエンティティを配置すると、選択したエンティティの従業員のみが取得されます。

欠落ブロックの抑制は、90%以上など、多数の行が抑制される場合に欠落データの抑制に役立ちます。ただし、抑制される欠落ブロックを含む行がないか少ない場合は、欠落ブロックの抑制を選択するとパフォーマンスが低下する可能性があります。また、特定の抑制ブロックでは、動的計算メンバーが無視される場合があります。

ディメンションおよびメンバーの名前変更

データ・ソース内のディメンションまたはメンバーの名前を変更する場合は、変更を反映するために、レポートの各レポートを手動で更新する必要があります。

パフォーマンスの考慮事項

- リレーショナルタイプのレポートの記述を回避する
  - リレーショナルタイプのレポートとは、複数の行ディメンションが含まれており、それらがメンバー選択関数(Descendants または Bottom レベルなど)を通じて拡張され、大量のメンバーが返されるようなものです。
  - 大規模なレポートは実行に多大な時間がかかる可能性があります。大規模なレポートとはセル数が数万個に至るようなレポートのことです。
  - レポートを大規模なデータ抽出ツールとして使用することは適切ではありません。
- 動的計算ストレージが BSO キューブ・データ・ソースの疎ディメンション親の上にある場合、計算と集約のパフォーマンスは向上しますが、取得のパフォーマンスに悪影響が生じる可能性があります。この影響は、複数のディメンションを使用している場合は顕著に現れます。このようなストレージ設定をデータ・ソース・レベルで実装している場合で、レポート取得速度が低下している場合は、ストレージ設定の使用法を再考することをお薦めします。
- レポートに多数のグリッドを挿入し、各グリッドのサイズが中から大の場合、レポート取得のパフォーマンスが低下する可能性があります。複数の大きいグリッドを含むレポートを複数のレポートに分割することをお薦めします。

その他の設計に関する考慮事項

レポートを設計する場合:

- 最適なパフォーマンスのために展開されるデータ・セグメントを使用します。
  - 個別の行または列に配置されていない展開されるデータ・セグメントで関数を使用します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - 個別の行または列に配置されていない展開されるデータ・セグメントで複数のメンバー選択を使用します。
  - 単一のデータ・セグメントは、書式設定または計算のために必要な場合にのみ使用します。
- 効率的な算式を作成します。
  - 可能な場合は、セル式ではなく行式または列式を使用します。
  - 参照プロパティを使用します。
  - 軸間参照ではなくセル参照を使用します。
  - 必要のないカッコは算式から削除します。
- レポートをグリッド・オブジェクトに限定しないようにします。
  - テキスト・ボックスに、特定の領域を強調表示する関数を追加します。
  - グラフィックのみを強調表示するためにレポート内のデータのグリッドを非表示にします。

別名表名と予約語

Cloud EPM プラットフォーム・データ・ソース内で、別名表の名前と内部で使用されているメンバー・プロパティ予約語("Name"、"Custom"、"DESCRIPTION"など)が同じである場合、**レポート**・グリッド結果に別名が返されません。この問題を解決するには、**別名**をより具体的な名前に変更します。

レポートでの丸め処理および計算

概要

データ値がスケーリング済として表示(たとえば、千でスケーリングした 173,545,723 は、丸められて 173,546 と表示)されるレポート・グリッドにデータ値を表示すると、スケーリングされた残高詳細の合計がレポート内の丸め処理された小計および合計にならない可能性があります。グリッド設計を変更し、差異を特定してそれを調整金額に含める行式または列式を使用して、丸め処理された値によって発生する計算の差異を修正できます。

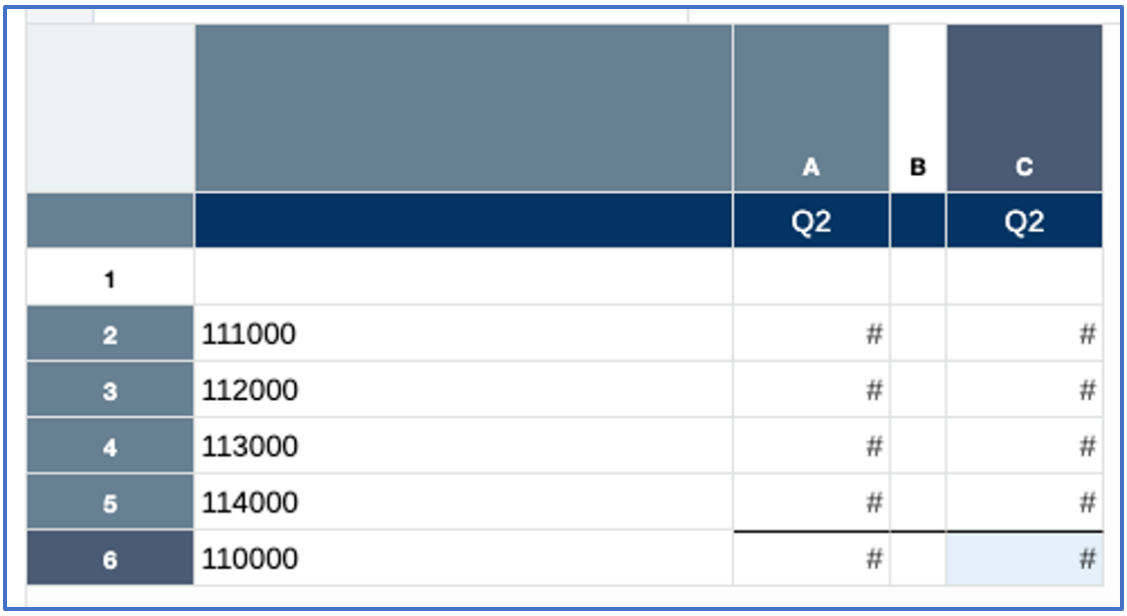
このトピックでは、*流動資産合計*メンバーへのスケーリングおよび丸め処理された*流動資産*ローリングを表示する単純なグリッドに必要な更新の例を示します。例では Narrative Reporting サンプル・アプリケーションを使用しています。

レポートの問題

次のグリッド設計では、個々の*流動資産*および*流動資産合計*が別々の行で選択されています。

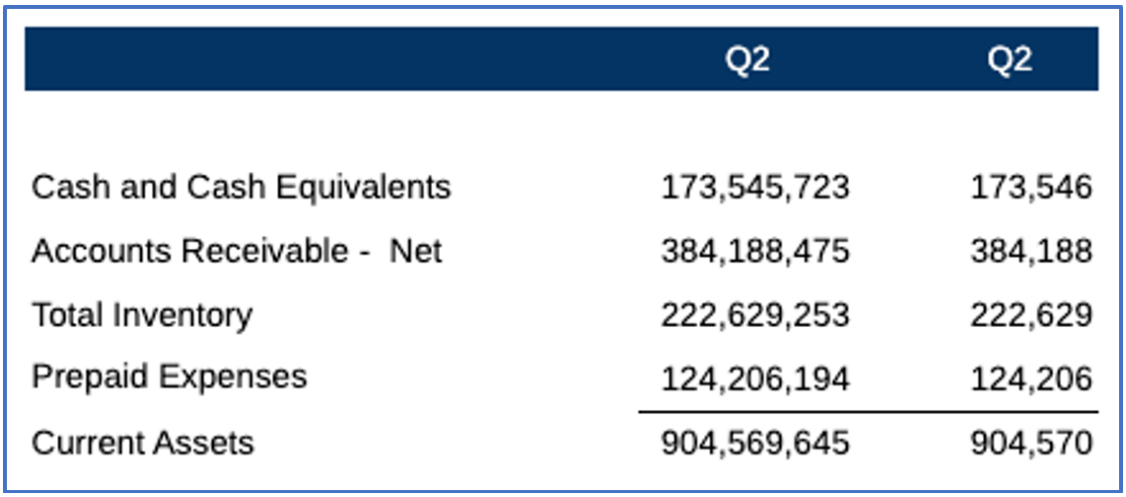
- 最初の列には、Q2 の元の、スケーリングされていないデータ値があります。
- 2 番目の列は、Q2 のセルの書式設定で千でスケーリングされています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



		A	B	C
		Q2		Q2
1				
2	111000	#		#
3	112000	#		#
4	113000	#		#
5	114000	#		#
6	110000	#		#

次はグリッド・プレビューです。2 番目の列のスケーリングされた値に注意してください。また、2 番目の列の値の合計は `904,569` になりますが、表示されているスケーリングされた合計の `904,570` とは"1"のスケール差異が発生します。



	Q2	Q2
Cash and Cash Equivalents	173,545,723	173,546
Accounts Receivable - Net	384,188,475	384,188
Total Inventory	222,629,253	222,629
Prepaid Expenses	124,206,194	124,206
Current Assets	904,569,645	904,570

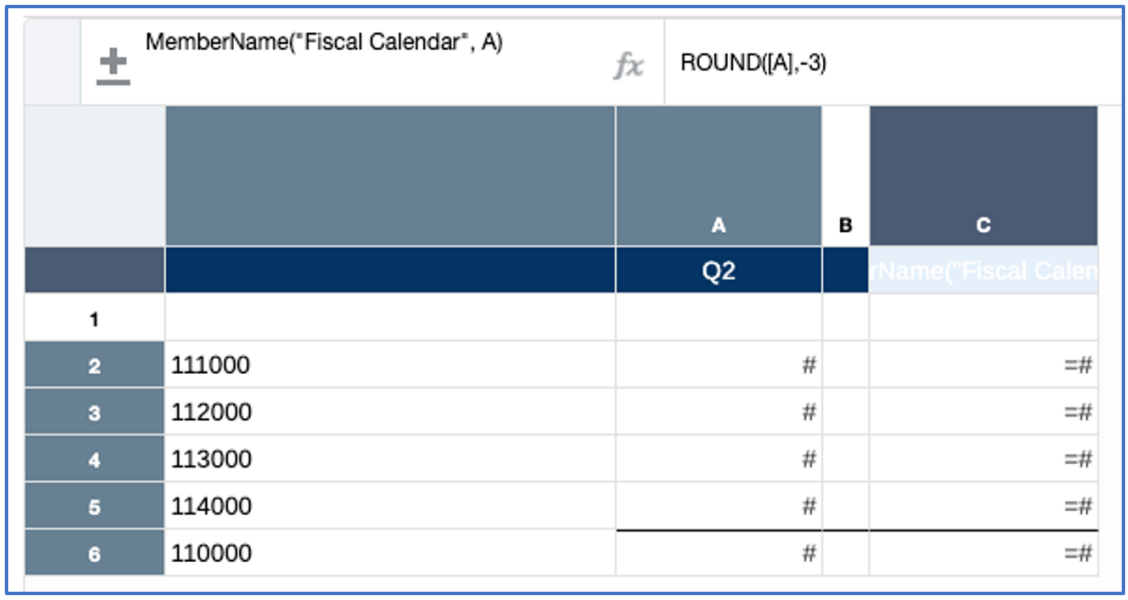
レポートのソリューション

ソリューションは、グリッドに式行を作成し、差異を計算してそれを調整金額として行の既存の勘定科目のいずれかに適用することです(例では*前払費用*)。調整金額の行式は*前払費用*データ行を置き換え、これは非表示になります。

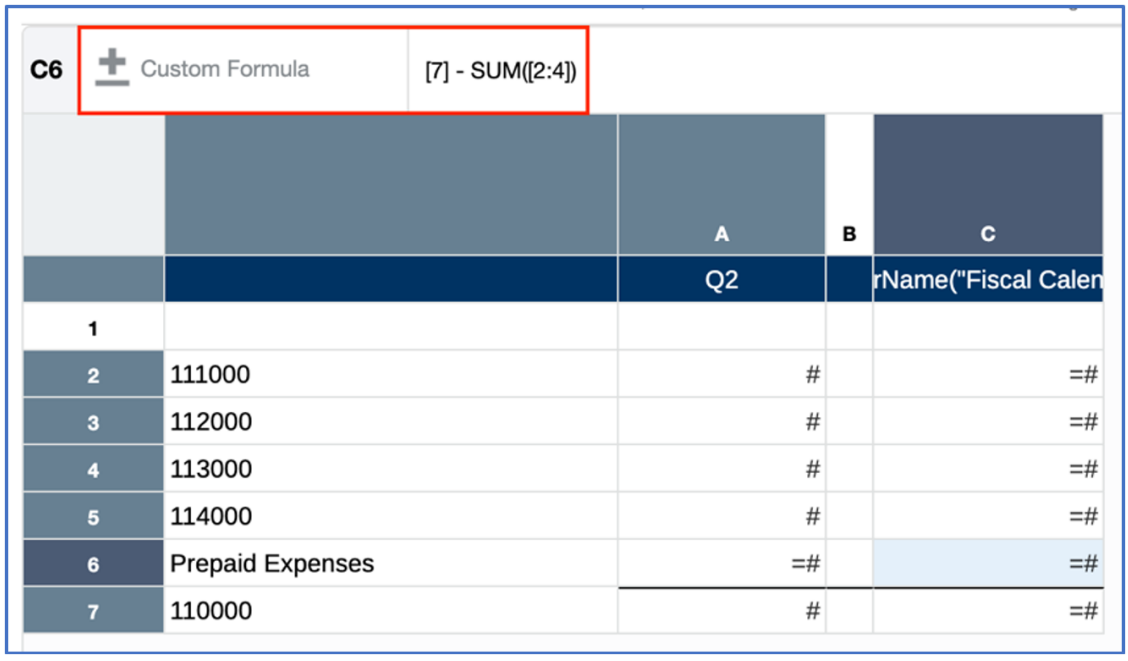
レポート・グリッド式では、表示されているスケーリングされた値ではなく、基礎となるスケーリングされていないデータ値が利用され(たとえば、最初のセルにあるスケーリングされていない `173,545,723` と千でスケーリングされた `173,546`)、データ値は、調整金額の行式を適用する前に、式列を介して丸め処理を適用する必要があります。元のデータ列は非表示になります。

次の変更された設計では、最初の列にスケーリングされていないデータ値が含まれたままで、2 番目の列は、次の列式を使用してデータ列の値を千で丸め処理する式列です:
`ROUND([A],-3)`。また、最初のデータ列のメンバー名を表示するために、式列でテキスト関数が使用されていることに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

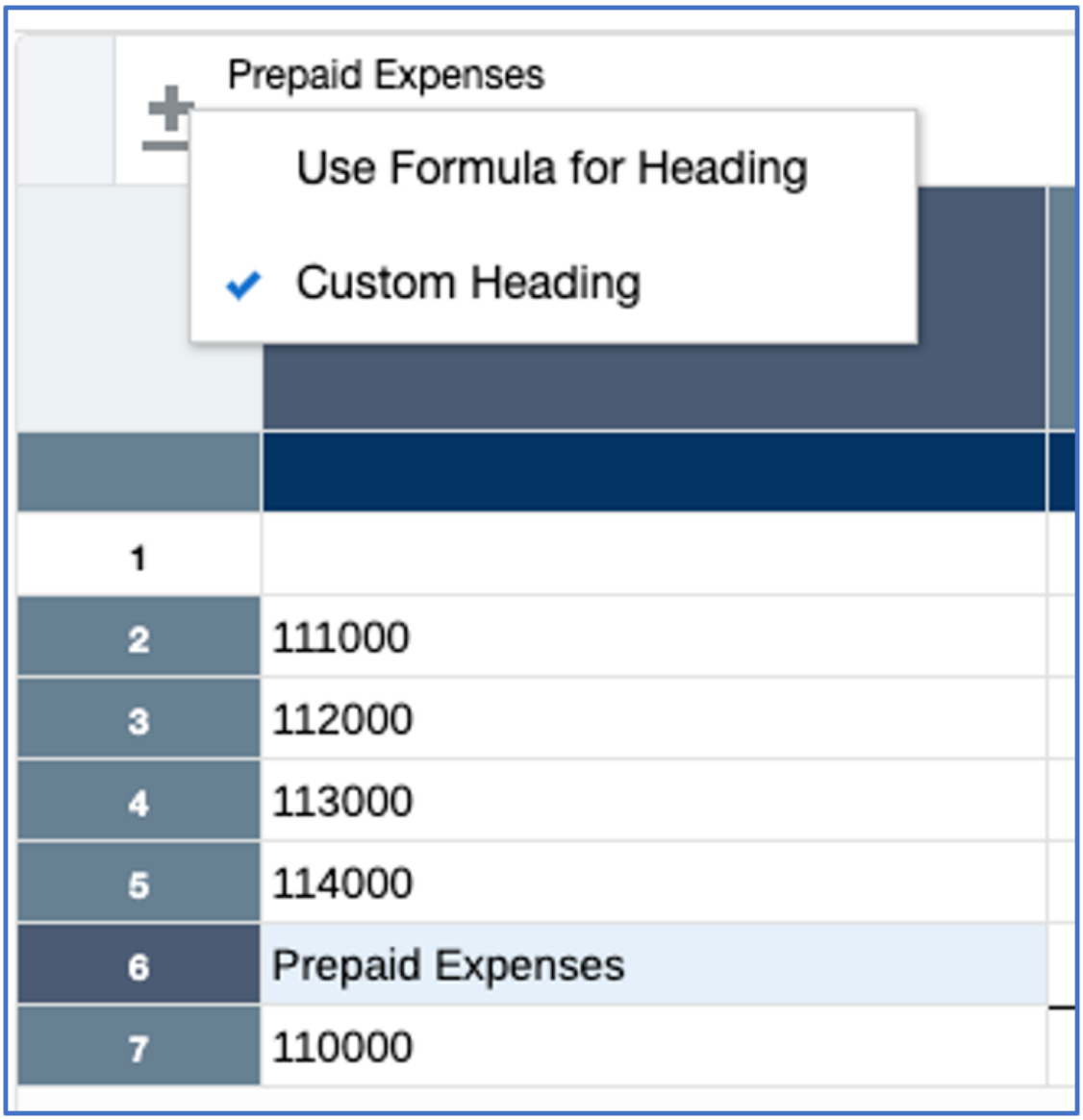


式行が*前払費用*データ行の直下に挿入され(メンバー名 `114000`)、*流動資産合計*メンバー(`110000`)と、行 5 の*前払費用*データ値を除く*流動資産*勘定科目の合計の差異を特定します: `[7] - SUM([2:4])`。カスタム算式が使用され、列または行全体ではなく、選択したセルにのみ式が適用されます。



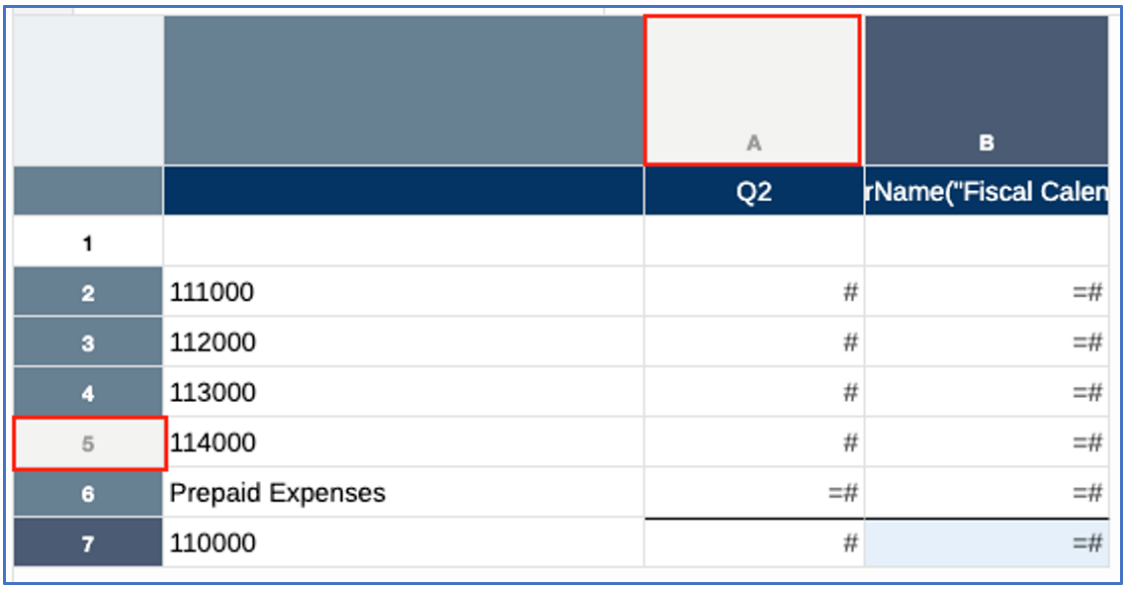
また、式行ヘッダーにカスタム見出しの*前払費用*が指定されました。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



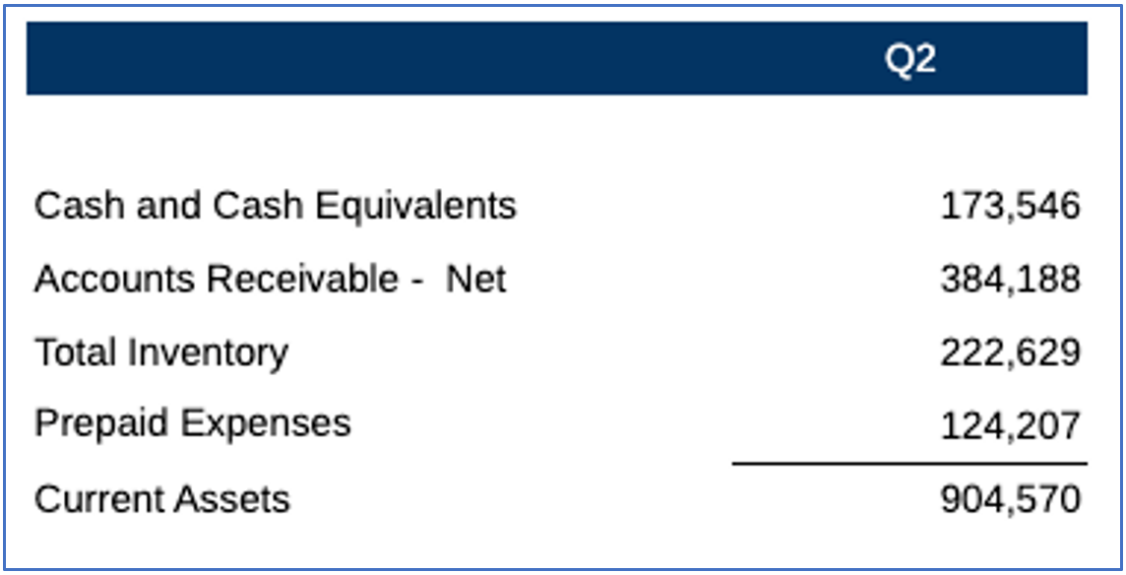
次に、**列 A** および行 5 が非表示になります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



		A	B
		Q2	rName("Fiscal Calen
1			
2	111000	#	=#
3	112000	#	=#
4	113000	#	=#
5	114000	#	=#
6	Prepaid Expenses	=#	=#
7	110000	#	=#

グリッド・プレビューでは、元の差異"1"が元の*前払費用*値 124,569 に対して調整されて値 124,570 になり、*流動資産合計*金額が正しく計算されるようになりました。



	Q2
Cash and Cash Equivalents	173,546
Accounts Receivable - Net	384,188
Total Inventory	222,629
Prepaid Expenses	124,207
Current Assets	904,570

レポート設計のベスト・プラクティス

この表には、このガイドに含まれているベスト・プラクティス・トピックへのリンクが記載されています。

このガイドで言及されている次のベスト・プラクティス・トピックをご覧ください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ベスト・プラクティスの対象	参照する項およびビデオ
ノートおよびノート・テンプレート (Narrative Reporting のみ)	ベスト・プラクティス (Narrative Reporting のみ)
	ノート・テンプレートの操作 -- ノート・テンプレートの作成および管理.
	ノートのインライン・グリッド・エントリの設定 -- ノートのインライン・グリッド・エントリの設定
	ノート・マネージャの操作 -- ノート・テンプレートの作成および管理. -- レポートでのノートの作成.
ブック	• ブックの作成 • ブックでの文書の管理 • セクションの操作 -- 概要: Narrative Reporting のブック. -- Narrative Reporting でのブックの作成. -- Narrative Reporting でのブック・セクションの操作.
バースティング定義	バースティング定義を作成するための簡単なステップ -- 概要: ターゲット・レポートおよび配布のための Narrative Reporting のバースティング. -- バースティング定義の作成.
サンプル・レポート・コンテンツ	サンプル・レポート・コンテンツの操作 (Narrative Reporting のみ) • サンプル・レポートのレビュー • サンプル・ブックのレビュー • サンプル・バースティング定義ファイルのレビュー

FAQ およびトラブルシューティングのトピック

この表は、Enterprise Performance Management (EPM)の使用中に発生する可能性のある問題のトラブルシューティング方法についてのガイダンスを示しています。

次のトラブルシューティング手法を参照してください。

カテゴリ	トラブルシューティング・トピックの対象	参照する項
ログイン	ログイン問題の解決	*オペレーション・ガイド*のログイン問題の解決
応答しないサーバー	サーバー停止時の環境の管理	*オペレーション・ガイド*のダウンした環境への対処
環境のクローニング	クローニングの問題	*オペレーション・ガイド*の環境のクローニングの問題
EPM 自動化	EPM 自動化問題の解決	*オペレーション・ガイド*の EPM 自動化の問題の解決
REST API	REST API 問題の特定	*オペレーション・ガイド*の REST API の問題の診断

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

カテゴリ	トラブルシューティング・トピックの対象	参照する項
アクセス制御	ユーザー、ロールおよびグループ管理に関する問題の解決	*オペレーション・ガイド*のユーザー、役割およびグループ管理の問題の解決
レポート・パフォーマンスの問題	レポートに関するパフォーマンスの問題	*オペレーション・ガイド*のレポートの問題のトラブルシューティング
Smart View	Smart View に関する問題の解決	*オペレーション・ガイド*の Smart View の問題の修正

Cloud EPM に関するよくある質問

この FAQ には、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが記載されています

*『Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド』*の Cloud EPM のよくある質問(FAQ)

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

B

Financial Reporting からのレポートの移行

Financial Reporting で作成されたレポートをレポートに移行できます。レポートを移行するとき、元のレポートから可能なかぎり多くの要素がレポートの同等の要素に変換されることに注意してください。ただし、2 つのソリューションには相違があり、すべての要素が両方のソリューションに存在するわけではありません。Financial Reporting には、レポートに存在しない機能や、実装および公開方法が異なる機能がある場合があります。2 つのソリューションの相違を考慮すると、移行プロセスで Financial Reporting (FR)レポート機能および設計の **100%**が移行されない場合があります。レポートの移行後に特定の要素を変更し、元のレポートと同等または近いレポートを生成する必要がある場合があります。Financial Reporting とレポートの相違を参照してください

> **ⓘ ノート**
>
> - Financial Reporting (動的)レポートのみをレポートに移行できます。Financial Reporting (FR)スナップショット・レポートの移行は現在サポートされていません。
> - レポートのブックおよびバースティング定義は、Financial Reporting のブック、バッチおよびスケジュールされたバッチとアーキテクチャや 機能が異なるため、ブックおよびバースティング定義をレポートに移行することはできません。レポート内で、ブックとバースティング定義の両方を再作成する必要があります。
> - 完全に書式設定された Financial Reporting レポートがインポートまたはエクスポートされている Excel ワークブックをレポートに接続してリフレッシュすることはできません。Financial Reporting レポートをレポートに移行し、そのレポートを Excel にインポートまたはエクスポートして使用する必要があります。

Narrative Reporting デプロイメントの場合、レポートを Financial Reporting からエクスポートしてレポートにインポートします。

保存済オブジェクト(グリッド、テキストボックス、イメージ)も Financial Reporting からレポートに移行できます。Financial Reporting のチャート・オブジェクトにはチャート定義や関連するグリッド情報は含まれないため、これらのレポートへの移行はサポートされません。移行された各 Financial Reporting オブジェクトは、共有レポートに移行されます

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合、すべてまたは個別のレポートを移行できるインプレース移行を使用するか、または「リポジトリの検索」からローカルにエクスポートされた Financial Reporting レポート・ファイルをインポートして移行できます。

Narrative Reporting での Financial Reporting の移行

Financial Reporting で作成したレポートおよび保存済オブジェクトを、Financial Reporting からエクスポートしてレポートにインポートすることにより、レポートに移行できます。レポートおよびオブジェクトがレポートにインポートされると、Financial Reporting の要素はレポー

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

トで使用可能な同等の要素に変換されます。Financial Reporting とレポートの相違を参照してください。

> **ⓘ ノート**
>
> - Financial Reporting Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management、およびオンプレミス・バージョン 11.1.2.4 以降で作成されたレポートおよびオブジェクトを移行できます。
> - Financial Reporting (動的)レポートのみをレポートに移行できます。Financial Reporting (FR)スナップショット・レポートの移行は現在サポートされていません。

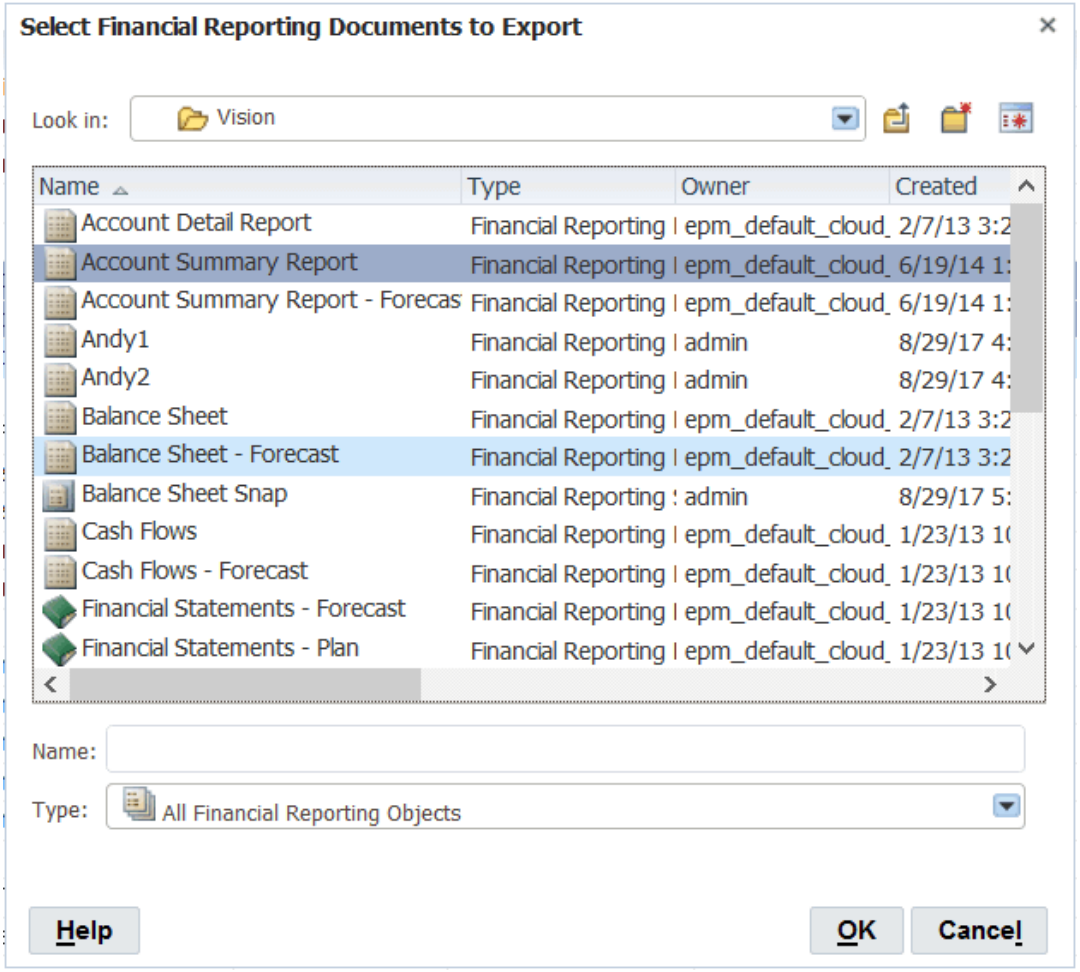
レポートのエクスポート

Financial Reporting のレポートおよび保存済オブジェクトは一度に 1 つずつ、または一括でエクスポートできます。1 つのレポートをエクスポートすると、そのレポートは DES (レポート用)に抽出されます。1 つの保存済オブジェクトをエクスポートすると、オブジェクトはそのネイティブ・ファイル形式: ROG (グリッド)、ROI (イメージ)または ROT (テキスト・ボックス)にエクスポートされます。複数のレポートまたは保存済オブジェクト(あるいはその両方)を抽出すると、それらは `Reports.ZIP` ファイルに抽出されます。Financial Reporting のチャート・オブジェクトにはチャート定義や関連するグリッド情報は含まれないため、これらのレポートへの移行はサポートされません。

Financial Reporting からレポートおよびオブジェクトをエクスポートするには:

1. 次の処理を実行します。
   - Financial Reporting をサポートする Enterprise Performance Management クラウド・サービス(たとえば、Planning モジュール)から、**「ナビゲータ」**、**「リポジトリの検索」**の順に選択し、移行可能な Financial Reporting のレポートおよびオブジェクトを表示します。
   - オンプレミスの Enterprise Performance Management ワークスペースのインスタンスから、**「エクスプローラ」**モジュールにナビゲートし、移行可能な Financial Reporting のレポートおよびオブジェクトを参照します
2. リポジトリから、**「ファイル」**、**「エクスポート」**の順に選択します。
3. 移行するレポートおよびオブジェクトを選択し、**「OK」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. **「ファイルの保存」**を選択し、**「OK」**をクリックします。
5. ファイルを保存する場所を参照し、**「OK」**をクリックします。

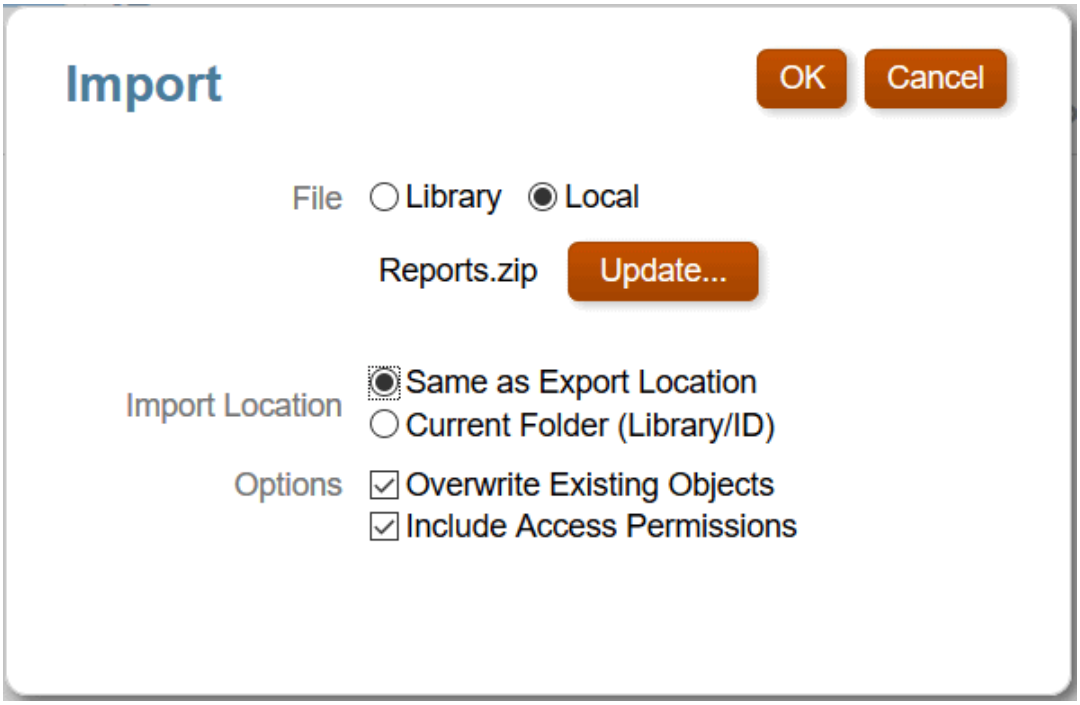
   レポートが DES (レポート用)ファイルに保存され、オブジェクトが ROG、ROI、ROT のいずれかのネイティブ・ファイル形式に保存され、複数レポートおよびオブジェクトの場合は `Reports.ZIP` に保存されます。

レポートのインポート

Financial Reporting レポートおよびオブジェクトをレポートにインポートするには:

1. Narrative Reporting で、ライブラリにナビゲートします。
2. 「ライブラリ」フォルダで  をクリックし、**「インポート」**を選択します。
3. 「インポート」ダイアログ・ボックスで、次の処理を実行します。
   a. 「ファイル」で、**「ローカル」**を選択します。
   b. **「参照」**をクリックし、ローカル・マシン上の以前にエクスポートしたファイルを特定します。
   c. ファイルをインポートする場所を選択します。
   d. **「OK」**をクリックします。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. インポートが実行されていることを示すメッセージに対して**「OK」**をクリックします。

5. インポートの結果を参照するには、 をクリックして**「リフレッシュ」**を選択します。

   移行されたレポートが表示されます。レポートの名前をクリックしてレポートにオープンします。

> ⓘ **ノート**
>
> - レポートでは、レポート名が 80 文字に制限されます。これより長いレポート名は切り捨てられます。
> - Financial Reporting の保存済オブジェクトがレポートの共有レポートに移行されます。
> - 挿入済共有オブジェクトがある Financial Reporting レポートを移行する場合、最初にソース共有オブジェクトをインポートしてから、保存済オブジェクトを利用するレポートをインポートする必要があります。
> - 現在、Financial Reporting のチャート・オブジェクトをインポートすると、チャート・オブジェクト・エクスポート・ファイルにチャート定義が含まれない Financial Reporting のバグのため、レポートに空のチャート・オブジェクトができます。

Cloud EPM での Financial Reporting の移行

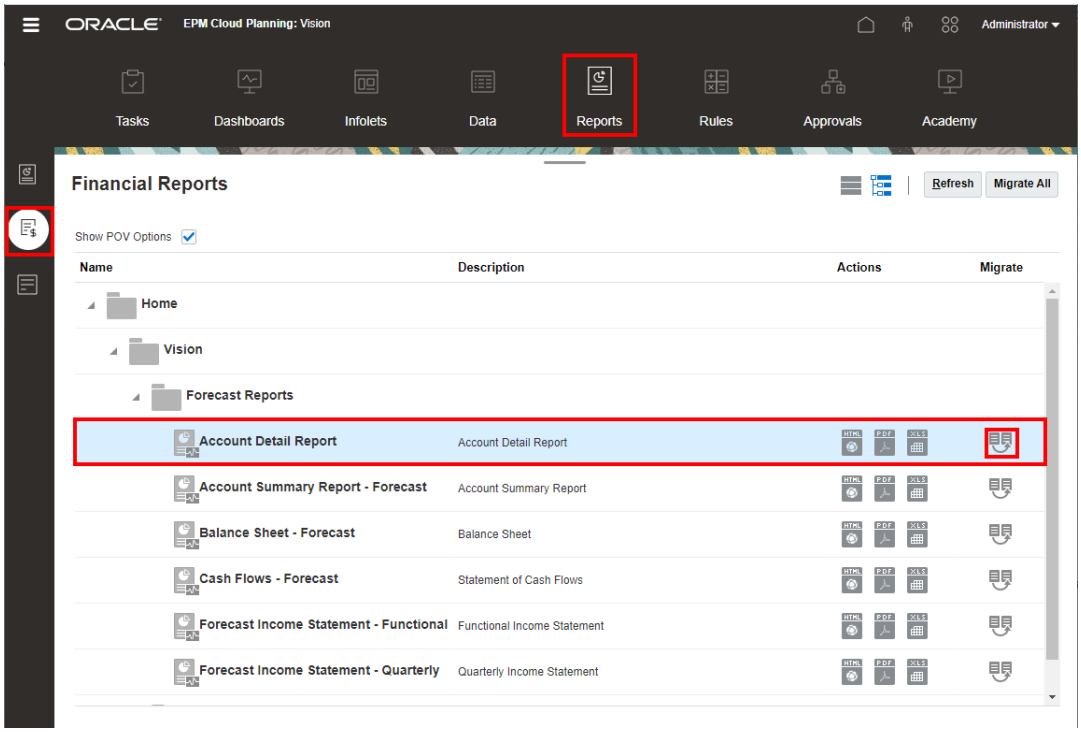
すべてまたは個別のレポートを移行できるインプレース移行を使用するか、または「リポジトリの検索」からローカルにエクスポートされた Financial Reporting レポート・ファイルをインポートして移行できます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ⓘ ノート**
>
> - インプレース移行は、1 つ以上の財務レポートをレポートに単純に移行します。移行された財務レポートはそれぞれのリポジトリに保持されます。
> - Financial Reporting レポートをレポートに移行するには、サービス管理者ロールが必要です。パワー・ユーザー・ロールには移行アクセス権がありません。
> - Financial Reporting (動的)レポートのみをレポートに移行できます。Financial Reporting (FR)スナップショット・レポートの移行は現在サポートされていません。

Financial Reporting からインプレース移行を実行するには:

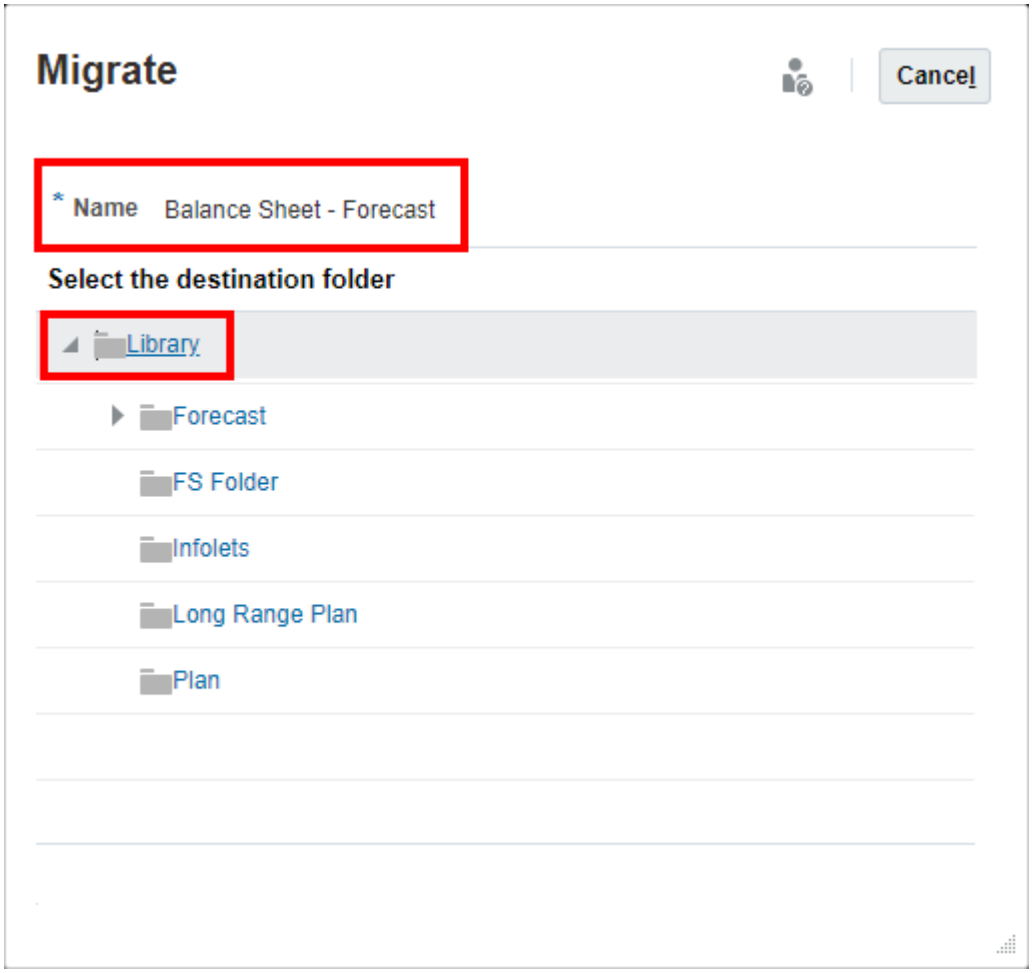
1. Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスから、**「レポート」**カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択します。Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Planning および Planning モジュールで、左ペインから**「Financial Reporting」**アイコンを選択します。Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから**「財務レポート」**を選択します。



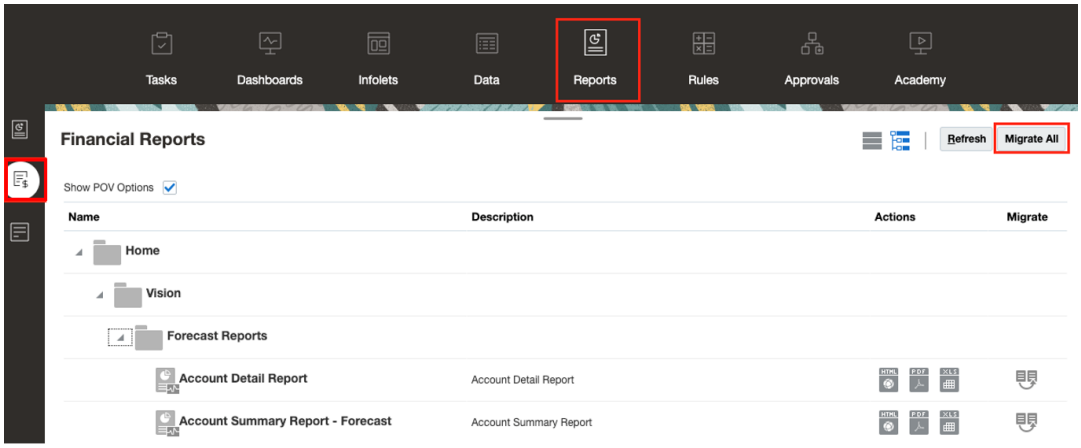
2. 個々のレポートを移行するには、リポジトリから移行するレポートを選択し、 **「財務レポートの移行」**アイコンをクリックします。

   「移行」ダイアログから、オプションでファイル名を入力し、レポートを移行する宛先フォルダを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

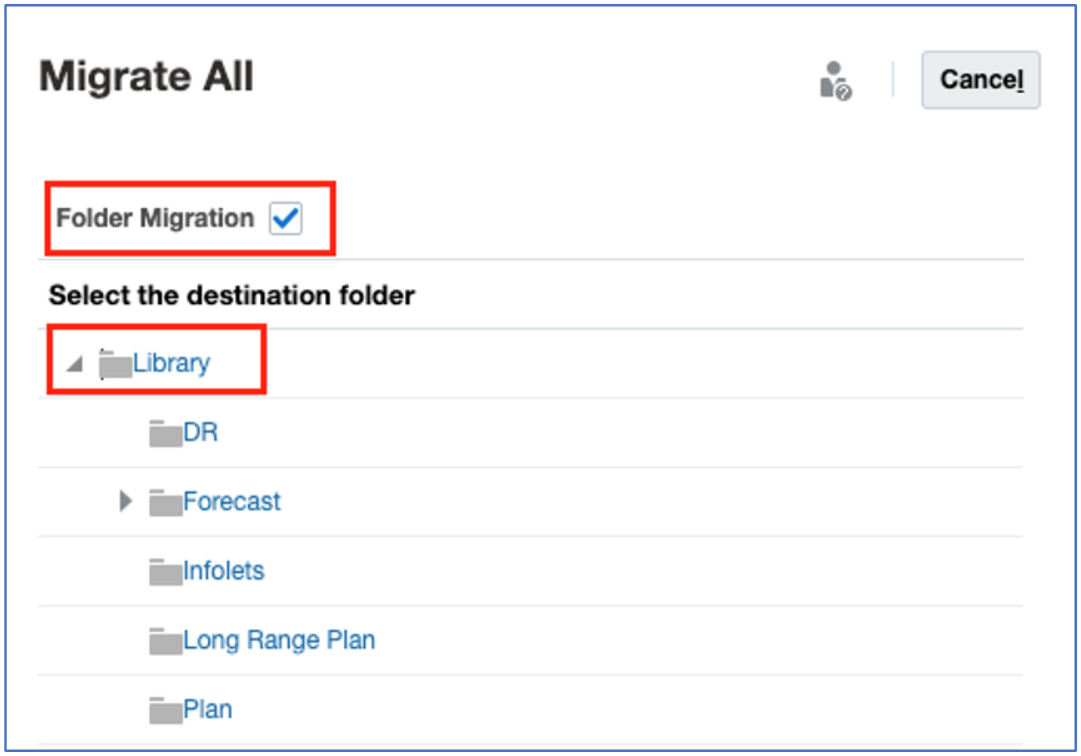


3. すべてのレポートを移行するには、パネルの右上にある**「すべて移行」**をクリックします。



「すべて移行」ダイアログから、オプションでフォルダ構造も移行するための**「フォルダの移行」**を選択し、レポートを移行する宛先フォルダを選択します。

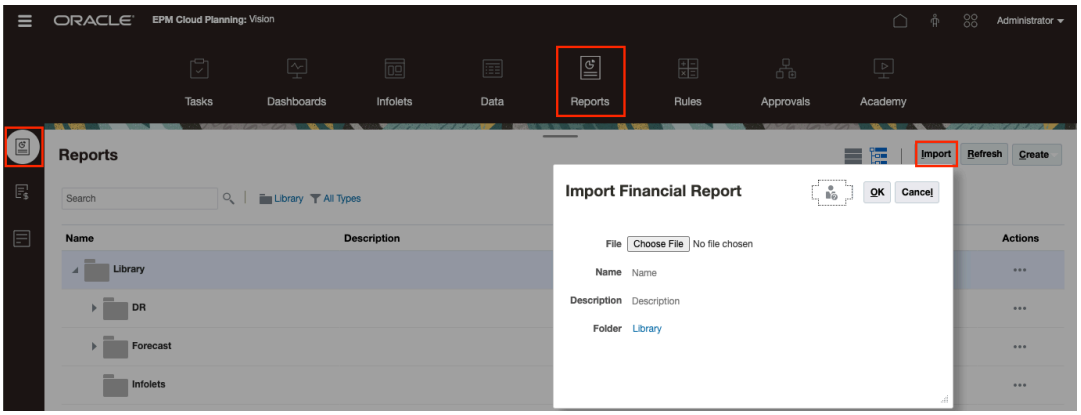
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



4. 移行されたレポートがそれぞれの場所に保存されます。

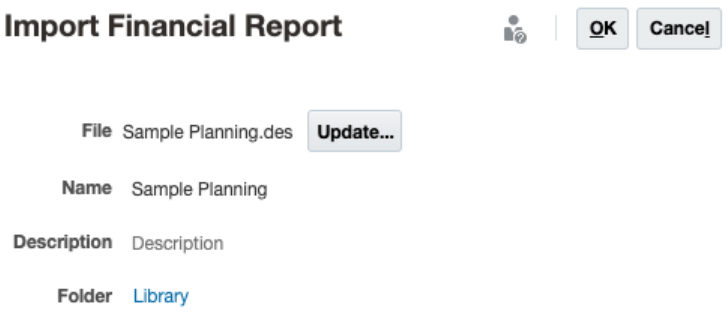
「リポジトリの検索」からローカルにエクスポートされた Financial Reporting レポート・ファイルをインポートするには:

1. Oracle Enterprise Performance Management Cloud サービスから、**「レポート」**カード(Tax Reporting の**「ライブラリ」**カード)を選択します。Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Planning および Planning モジュールで、左ペインから**「レポート」**アイコンを選択します。Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから**「レポート」**を選択します。
2. 右上の**「インポート」**を選択します。**「財務レポートのインポート」**で、**「ファイルの選択」**をクリックして、前にエクスポートした DES ファイルをローカル・ファイル・システムから選択します。



3. オプションで、ファイル名および摘要を入力し、レポートを移行する宛先フォルダを選択します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



> **ノート**
>
> 現在、単一の DES ファイルのみをインポートでき、複数のレポートを含む ZIP ファイルはインポートできません。

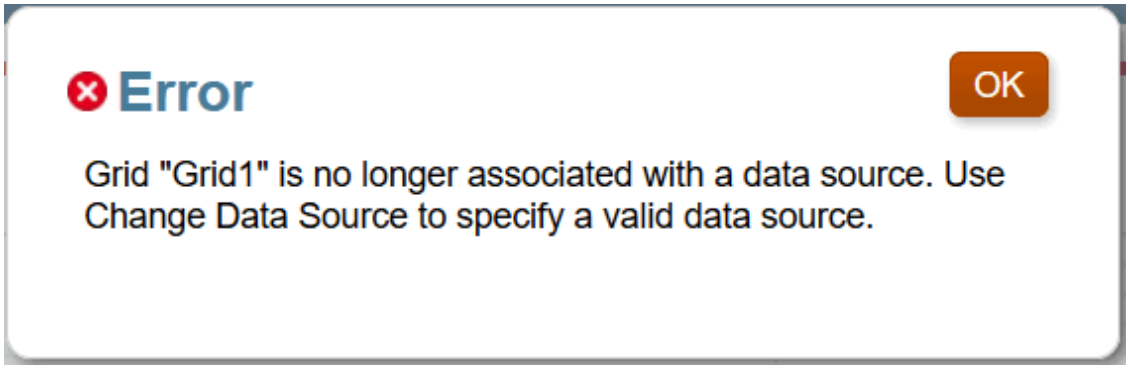
4. 「**OK**」をクリックします。

移行検証エラーの解決

移行されたレポートをオープンすると、移行プロセスで発生したエラーが表示されます。これらのエラーは、レポートの移行を妨げるものではありません。ただし、レポートを正しく表示するには、それらを解決する必要があります。

Narrative Reporting でのデータ・ソースのエラーの解決:

Narrative Reporting での最も一般的な検証エラーは、レポートのデータ・ソース名が Financial Reporting のデータ・ソース名と異なる場合です。移行したレポートをオープンすると、次のエラーが表示されます。



Financial Reporting の名前と同じ名前のレポートにデータ・ソースがない場合は、レポートでデータ・ソースへの接続を作成し、そのデータ・ソースを使用するようにレポートを編集する必要があります。データ・ソース接続の作成と編集を参照してください。ライブラリで同時に複数のレポートのデータ・ソースを変更できます。

レポートのデータ・ソースを変更するには:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

1. ライブラリから、データ・ソースを変更するレポートを選択します。
2. 右クリックし、**「データ・ソースの変更」**を選択します。
3. データ・ソースを選択し、**「OK」**をクリックします。

Financial Reporting 製品とレポート製品の相違のために、検証エラーが表示される原因となる、その他の多くの変換要素があります。これらのエラーを理解するのに役立つ情報は、Financial Reporting とレポートの相違を参照してください。

欠落フォントのエラーの解決:

Financial Reporting レポートを移行した後、欠落フォントに関して、または PDF プレビューで #(シャープ記号)などがエラーになって正しくレンダリングされないことについて、検証エラーを受け取った場合、これは、Financial Reporting レポートで当初定義されたフォントが、Financial Reporting とは異なる方法でフォントを格納している Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サーバー・ライブラリに存在しないことを意味します。この検証エラーを解決するには、欠落フォントをアップロードする必要があります。

- Narrative Reporting でフォントをアップロードするには、*Narrative Reporting の管理*の追加フォントのアップロードを参照してください。
- Cloud EPM プラットフォームでフォントをアップロードするには:
  - *Planning の操作*のフォントのアップロード
  - *Financial Consolidation and Close の管理*のフォントのアップロード
  - *Tax Reporting の管理*のフォントのアップロード

ドリル・スルー・コンテンツのエラーの解決

関連するコンテンツへのリンクが含まれている Financial Reporting レポートをレポートに移行する場合は、関連するコンテンツのターゲット・ファイルが指定の場所に存在している必要があります。元の Financial Reporting レポートで参照されている関連コンテンツのターゲット・ファイル(レポートまたはサード・パーティ・ファイルのいずれか)が、Narrative Reporting ライブラリ内の同じフォルダ・パスに存在しない場合は、レポートの移行時に検証エラーが表示され、レポートをプレビューするユーザーには、レポートのドリル・スルー・リンクが表示されません。検証エラーを解決するには、Narrative Reporting ライブラリ・フォルダの正しいパスに、ターゲット文書が存在していることを確認します。

オブジェクトのサイズ変更および位置合せのエラーの解決

Financial Reporting では、ページ・サイズとマージン・サイズを比較した、オブジェクトのサイズ変更と位置合せの検証は実行されません。レポートはレイアウト関連の検証を実行します。レポートでインポートした Financial Reporting のレポートをオープンした後に、オブジェクトの重なりや適合しないという検証エラーが発生した場合は、オブジェクトを手動でサイズ変更するか移動して、エラーを解決します。

メンバーが見つからないエラーの解決

"メンバーが見つかりません"という検証エラーを受け取った場合、それはメンバーがソース・キューブにすでに存在しないためです。

エラーを解決するには、グリッド設計を編集し、問題となるメンバーをグリッドから除去します。

共有メンバー参照に関する検証エラーを受け取った場合、それは次のためです。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- レポートに移行された Financial Reporting (FR)レポートは、メンバーが共有メンバーを持っていない場所で当初定義されました(メンバー選択が完全修飾メンバー・プリフィクスがないベース・メンバーを参照しました)。
- これらのメンバーの共有メンバーは、レポートが定義された後に追加されました。Financial Reporting (FR)レポートは共有メンバーを検証しないためエラーなしで実行できます。
- 共有メンバーのために存在するようになった完全修飾メンバーではなく、当初のメンバーをレポート定義が探していたため、"メンバーが見つかりません"というエラーになる余分なレイヤーの検証がレポートにあります。
- レポートは、検証エラーを自動的に修正するためにメンバーのどの共有インスタンスを選択するかを推測しません。顧客がそのメンバーの特定のインスタンスを必要とする場合があるためです。
- ユーザーは検証エラーなしで引き続きレポートを実行できますが、レポート・デザイナは共有メンバー検証エラーに対処する必要があります。メンバー・セレクタの左パネルでメンバーを右クリックして**「階層で表示」**を選択すると、レポートが一致を表示し("メンバーが見つかりません"というエラーが表示された後、メッセージをクリック・スルーすると引き続きメンバーが表示されます)、そこで再選択できます。または、「メンバー・セレクタ」ダイアログでメンバーの検索を実行して、適切な共有インスタンスを選択できます。

Financial Reporting とレポートの相違

Financial Reporting からレポートにレポート・アーティファクトを移行すると、元のレポート・アーティファクトから可能なかぎり多くの要素がレポートの同等の要素に変換されます。ただし、Financial Reporting とレポートには相違があり、すべての要素が両方に存在するわけではありません。移行されたレポート・アーティファクトは Financial Reporting をレポートに変換するための出発点と考えて、元のレポート・アーティファクトと同等のレポートを作成するために、レポート・アーティファクトの移行後に特定の要素を変更する必要があります。このトピックは、移行されたレポート・アーティファクトを必要に応じて変更できるように、Financial Reporting とレポートとの相違を理解するのに役立ちます。

Financial Reporting の関数およびその同等のレポートの関数

次の項では、Financial Reporting で使用可能な関数と、レポートで使用可能な場合のその同等の関数について説明します。

> ⓘ **ノート**
>
> 2 つの製品では、テキスト関数の構文が異なります。Financial Reporting には、関数を囲む<<および>>のブラケットが必要です(例: `<<MemberName()>>`)。レポートではブラケットは不要です。

表 B-1 Financial Reporting の関数および同等のレポートの関数

Financial Reporting の関数	同等のレポート
Annotation	
CalcStatus	
CellText	CellText
Data source	

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 B-1 (続き) Financial Reporting の関数および同等のレポートの関数

Financial Reporting の関数	同等のレポート
Date	DateTime
GetCell	CellValue
GetHeading	HeadingValue
GridDimension	
HFMCurrency	
LabeledCellText	
ListOfCellDocuments	
MemberName	MemberName
MemberAlias	MemberAlias
MemberDescription	MemberProperty
MemberProperty	MemberProperty
MemberQualifiedName	MemberName
Page	PageNumber
PageIndex	PageNumber
PageCount	PageCount
PlanningAnnotations	
ProcessManagementStatus	
ReportAuthor	ReportAuthor
ReportCreated	ReportCreateOn
ReportDesc	ReportDescription
ReportFolder	ReportLocation
ReportModified	ReportModifiedOn
ReportModifiedBy	ReportModifiedBy
ReportName	ReportName
ReportRunBy	ReportRunBy

ⓘ ノート

レポートのテキスト関数 DateTime には、日付と時間の 2 つのパラメータがあり、Financial Reporting の Date 関数には 1 つのパラメータ書式文字列のみがあります。移行する Financial Reporting のレポートで Date 関数を使用し、時間も指定している場合は、レポートに移行された関数を変更して、パラメータ none を追加する必要があり、そのようにしないと、時間の結果が繰り返されます。たとえば、移行された DateTime("dd-MMM-yy h:mm:ss a")というテキスト関数は、手動で DateTime("dd-MMM-yy h:mm:ss a", none)に変更する必要があります

Financial Reporting では、テキスト関数に cur、curr または current を使用して、現在の行、列またはグリッドを示すことができます。レポートでは curr がサポートされていません。かわりに、curr が使用されていた場所に、オプションのパラメータを使用できます。

たとえば、Financial Reporting の関数<<MemberName("curr", "curr", "Product", "curr")>>で、"curr"要素はグリッド名、行、列またはページを表しますが、"curr"要素はレポートには必要ありません。レポートでは、MemberName("Product")が同等になります。グリッドは、関数が挿入されているグリッドにデフォルト設定されます(または、テキスト関数がテキスト・オブ

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

ジェクト内にあり、グリッドが単一の場合は、その唯一のグリッド)。複数のグリッドがあり、テキスト関数がテキスト・オブジェクト内にある場合は、`gridname` パラメータが必要です。

視点(POV)の相違

Financial Reporting とレポートでは、POV を管理する方法に相違があります。

- Financial Reporting では、デフォルトでグリッド POV には"ユーザー視点"の値があります。レポートでは、デフォルト値は"デフォルト"です。
- Financial Reporting では、グリッドとユーザー POV の両方に選択リストがあります。レポートでは、このリストは"提案リスト"と呼ばれます。視点の設定を参照してください。
- Financial Reporting では、レポート設計者は、グリッド POV で使用する初期メンバーを選択できます。グリッド POV のディメンションに選択がある場合、この選択は、レポートが実行されるたびに、グリッド POV のそのディメンションの初期メンバーとして機能します。レポートでは、レポート設計者は、レポートの実行時にローカル POV で使用する初期メンバーを選択できません。提案リストが定義されている場合、レポート実行時にローカル POV には、ディメンションに最後に選択されたグローバル POV メンバーが初期メンバーとして使用されます。ただし、提案リストが単一メンバー選択として定義されている場合、POV ディメンションは、レポート実行時にそのメンバーを初期メンバーとして使用し、提案が表示されてもオプションは選択されません。
- 「ユーザー視点」が選択された Financial Reporting のグリッド POV ディメンションを移行して、レポートでグローバル POV を使用します。このレポートに複数のデータ・ソースが含まれている場合は、最初のデータ・ソースのディメンションのみがグローバル POV に移行されます。Financial Reporting の他のすべてのグリッド POV ディメンションは、レポートのローカル POV に移行されます。
- Financial Reporting では、グリッドにページ軸を使用できます。レポートでは、ページ軸の機能は、POV のディメンションの「すべての選択の印刷」オプションを介してサポートされます。メンバー選択にプロンプトが含まれている場合は、レポートのグローバル POV ディメンションとして移行されます。
- Financial Reporting では、グリッド・エディタに、グリッド POV のディメンションに対するユーザー POV の値が表示されます。レポートでは、デフォルトまたは提案リストのメンバーのみが表示されます。

グリッド・オブジェクトの相違

グリッド・オブジェクトを操作する際は、次の点を考慮してください。

- レポートでは、グリッド・ヘッダーはデフォルトで固定されています。
- レポートでは、エンティティ 短縮名の見出しタイプはサポートされていません。
- レポートには**「グリッドの非表示」**プロパティはありません。非表示のグリッドはすべて、**「非表示のシート」**で管理されます。Financial Reporting の非表示のグリッドは、レポートでは**「非表示のシート」**に移動され、ここで編集および管理が可能です。**「非表示のシート」**に含まれるグリッドはすべて、レポート出力には表示されません。
- レポートでは、上端の前に改ページを配置する行/列プロパティはサポートされていません。行/列の改ページは、常に次のページの同じ位置に表示されます。
- Financial Reporting では、行レベルで「サポート詳細の表示」単項演算子が設定されます。レポートでは、グリッド・レベルで設定されます。Financial Reporting レポートで、別の行の「サポート詳細の表示」に異なるプロパティ値が設定されている場合は、移行エラーが表示されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- グリッド・オブジェクトのページ軸メンバー選択が現在の視点に設定されている場合は、選択がディメンション名メンバーで置換されます。ページ軸メンバー選択がグリッド POV ディメンションの提案リストに移行されるため、この条件はレポートでは無効になります。移行のログには、「グリッド・オブジェクト"Grid1"で、ページ軸のメンバー選択に有効でない"現在の視点"参照があります。」が表示されます。
- Financial Reporting のページ軸メンバー選択に複数のプロンプトが含まれている場合、レポートでは、メンバー選択が単一のプロンプトに移行されます。
- レポートの場合、単一グリッドでは複数のデータ・ソースを参照できません。Financial Reporting のグリッドが複数のデータ・ソースを参照している場合は、移行エラーが表示されます。
- レポートのグリッドにはページ軸がないため、Financial Reporting のグリッドにページ軸でのソートが含まれていると、移行ログに移行エラーが表示されます。
- セルのシェード付けがデフォルトで白色(FFFFFF)に設定される Financial Reporting のレポートを移行した場合は、行バンディングのグリッド・プロパティを使用するために、レポートのセルのシェード付けを透過に設定する必要があります。そうではない場合、セルのシェード付けに既存の書式が適用されたと認識され、行バンディングが適用されません。
- レポートでは、Financial Reporting の「セルのフォーマット」、「配置」、「世代ごとのインデントの幅」の条件付き書式がサポートされていません。「世代別にインデント」は、インポート後にセル・プロパティとして適用できます。
- ユーザーが Financial Reporting で見出しセルとデータ・セルをマージした場合に、このレポートをレポートにインポートすると、インポートにより、マージされたセルがマージされた見出しセルとマージされたデータ・セルに分割されます。これにより、レポートの外観と動作が変わるため、ユーザーはレポートを変更する必要があります。
- レポートでは、グリッド内の空の式行または列がサポートされておらず、空の式行または列を含む Financial Reporting (FR)レポートをインポートすると、警告メッセージが表示されます。レポート設計者は、何も表示する必要がない場合、レポートのグリッド式を編集して、式を設定し「0」と入力するか、式行または列をセパレータ行または列で置き換える必要があります。
- 隣接する見出しセルへの浮動見出しセル値はサポートされていません。Financial Reporting レポートの視点でルック・アンド・フィールのために、セルのマージなど、手動によるすべての調整が必要な可能性があります。
- Financial Reporting では、グリッド・レベルのプロパティ・シートを使用すると、ユーザーは"欠落/エラー/ゼロの抑制"を有効化できました。ただし、このプロパティをグリッド・レベルで有効化すると、グリッドのすべての行および列のプロパティが有効化されました。

  プロパティの有効化はグリッドに適用されたのではなく、すべての行を選択してプロパティを有効にしてから、すべての列を選択してプロパティを有効にすることのショートカットでした。
- レポートでは、グリッド・レベルのプロパティを使用すると、ユーザーは"データなし/エラー/ゼロの抑制"プロパティを有効化でき、これらのプロパティはグリッド・レベルで設定および保存されます。1 つ以上の行/列を選択して、グリッド・レベルの設定にデフォルト設定するのではなく、それらの行/列に対する抑制プロパティを有効化/無効化することもできます。これが、行/列のレベルで抑制プロパティが 3 つのオプション: "グリッド設定"、True および False を持つ理由です。グリッド設定プロパティ値は、グリッド・レベルでのプロパティ設定に従います。Financial Reporting にはこの機能がありませんでした。

  これらの相違のために、Financial Reporting (FR)レポートをレポートに移行すると、Financial Reporting (FR)レポートのすべての行および列で抑制プロパティが有効化されていないかぎり、Financial Reporting (FR)レポートの行および列レベルのプロパティのみが

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポートに移行されます。グリッド・レベルのプロパティは、すべての行および列で同じ抑制プロパティが有効化されていない場合は、デフォルト(False)のまま保持されます。

さらに、Financial Reporting (FR)では基本抑制および条件付き抑制に丸められた値/スケールされた値が常に使用されますが、レポートではデフォルトで使用されません。**「条件式」**、**「スケールされた値/丸められた値の使用」**の下に**グリッド一般**プロパティがあり、デフォルトで**「False」**に設定されています。Financial Reporting (FR)とレポートに適用された抑制に相違がある場合、このプロパティを**「True」**に設定できます。

- Financial Reporting では、相対世代が単一の設計時の行からのすべてのメンバー組合せに対するものとなるように、セグメントごとに"相対世代別にインデント"が計算されました。レポートでは、"相対世代別にインデント"は軸全体に基づいて計算されます。つまり、相対的なインデントの計算時にすべての行メンバーの組合せの相対世代が使用されます。

  以前 Financial Reporting で使用可能であった結果を**レポート**で達成するには、特定の世代(世代 3 など)に条件付き書式設定の式を設定し、書式設定は特定の金額によってインデントします。次に、別の特定の世代(世代 4 など)に別の条件付き書式設定を定義し、書式設定で別の金額によるインデントを行います。

- レポートで、**「繰り返しの見出し」**グリッド、行および列プロパティが**「非表示」**に設定されている場合、同じ値を持つ隣接する行または列のセルは繰返し値の対象になります。Financial Reporting では、行および列見出しの最も内側のレイヤーは繰返し値に関して考慮されません。この結果、行および列の最も内側のレイヤーに対して、レポートと Financial Reporting の間で繰返し値の処理およびレンダリングが異なります。

- Financial Reporting でグリッド・プロパティ**「HTML のグリッド枠線の非表示」**が「false」に設定されている場合(これがデフォルトです)、レポート設計者が枠線に他の書式設定を指定している場合を除き、明るい灰色のセル枠線が HTML プレビューに表示されます。この枠線スタイルはレポート書式設定またはレポート定義の一部ではないため、レポートに移行されません。そのため、レポートに移行したときに、HTML プレビューのデフォルトの明るい灰色のセル枠線はレンダリングされません。

イメージ・オブジェクトの相違

Financial Reporting では、イメージの伸縮オプションがサポートされています。レポートでは、伸縮やクロップはサポートされていません。かわりに、イメージのサイズは正しい縦横比になります。

テキスト・オブジェクトの相違

Financial Reporting では、テキスト・オブジェクトに AutoSize プロパティがあります。レポートでは、高さのサイズ・オプションは次のとおりです。

- 固定(AutoSize=Off に相当)
- 合せる(AutoSize=On に相当)
- 最小

チャート・オブジェクトの相違

Financial Reporting の次のチャート・プロパティは、レポートのチャートではサポートされていません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> コンボ・チャートを含む Financial Reporting のレポートをインポートすると、レポートのチャート線の色が Financial Reporting の色と一致しません。

- **フォントの角度:** チャートの書式設定ダイアログ・ボックスのテキストのフォント設定すべてに対するフォントの角度
- **チャートの書式設定:**
  - 外観:
    - タイトル・ボックスの色
    - タイトル・ボックスの境界線の色、タイプおよび幅
    - グリッドの深さ
  - 凡例:
    - 繰返しラベルの抑制
    - 背景の境界線のタイプおよび幅
  - 軸:
    - X 軸の背景色
    - X 軸の境界線の色、タイプおよび幅
    - Y 軸の背景色
    - Y 軸の境界線の色、タイプおよび幅
    - Y 軸の数値の上書き書式
    - Y2 軸のタイトル・ボックス
    - Y2 軸の数値の上書き書式
  - 円のオプション:
    - 円ラベルの位置
    - 円スライスの角度

位置合せおよびレイアウトの相違

- Financial Reporting では、オブジェクトを上/左/下および左/右/中央に位置合せできます。ただし、オブジェクトはページの適切な端に(マージンおよびヘッダー/フッターの高さを考慮して)位置合せされます。レポートでは、同じ位置合せオプションがサポートされています。ただし、オブジェクトは適切な端からの一定の距離に位置合せできます。これは、「インデント」位置合せプロパティを介してサポートされています。
- Financial Reporting では、ページ・サイズとマージン・サイズを比較した、オブジェクトのサイズ変更と位置合せの検証は実行されません。レポートはレイアウト関連の検証を実行します。レポートでインポートした Financial Reporting のレポートをオープンした後に、オブジェクトの重なりや適合しないという検証エラーが発生した場合は、オブジェクトを手動でサイズ変更するか移動して、エラーを解決します。

メンバー選択の相違

グリッド・オブジェクトを操作する際は、次の点を考慮してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- 同じセグメントでメンバーの重複は許可されず、削除されます。
- Financial Reporting の AND、UNION、OR および NOT などの拡張メンバー選択演算子は、レポートのメンバー選択関数 Intersect (複数のメンバーおよび関数を結合、Financial Reporting の以前の AND 演算子)および Except (メンバーまたは関数を別の関数から除外、Financial Reporting の以前の NOT 演算子)に変換されます。Financial Reporting の OR および UNION 演算子は同じ操作を実行し、メンバー選択のデフォルトであるため、この 2 つの演算子については、レポートに追加で何も指定する必要はありません。NOT 演算子には、移行の相違が 2 つあります。
  - レポートのメンバー選択では、ネストされた Not 文の移行はサポートされていません。たとえば、"member-selection1 and not member-selection2"は移行されますが、"member-selection1 and not not member-selection2"は移行されません。
  - レポートのメンバー選択では、最初のメンバー選択での Not 文の移行はサポートされていません。たとえば、"member-selection1 and not member-selection2"は移行されますが、"not member-selection1 and member-selection2"は移行されません。
- Financial Reporting では、メンバー選択で SuppressSharedMembers がサポートされています。レポートでは、共有メンバーの抑制は既存のメンバー選択のオプション(メンバー選択メニューから追加)としてサポートされています。
- レポートでは、メンバー・セレクタにユーザー定義のメンバー・リストを作成できません。このリストは複数のレポートで再利用できるもので、Financial Reporting では、オンプレミスの Oracle Essbase を使用して作成されていました。
- Financial Reporting の次のメンバー選択関数は、レポートではサポートされていません。
  - MatchEX
  - TopOfHierarchy
  - LSiblings
  - RSiblings
  - Top
  - AllMembers
- Financial Reporting では、system-member-list は名前付きラベルまたは名前付き世代のいずれかです。基礎となるデータ・ソースでは、デフォルトで Lev<n>,<dimension name>または Gen<n>,<dimension name>の形式でこれらの名前を提供します。ただし、データ・ソース管理者がレベルまたは世代にユーザー指定の名前を指定することもできます(たとえば、SKU や国)。system-member-list がデフォルト名の 1 つである場合は、LevelMembers または GenerationMembers メンバー選択関数に変換されます。system-member-list にデフォルト以外の名前が指定されている場合は、データ・ソースに接続しないと使用可能な名前のリストを判断できません。そのため、移行エラーが表示され、メンバー選択がディメンション親メンバーに変換されます。
- メンバーの移行時には、$ (代替変数を意味する)のプリフィクスが付いた Financial Reporting のメンバー名が、代替変数に変換され、レポートでは&のプリフィクスが付きます。
- Financial Reporting Web Studio では、グリッド内の重複したプロンプト・ラベルが許可されています。レポートでは、重複したプロンプト・ラベルは許可されていません。複数の場所におけるプロンプト定義の再利用が必要である場合、プロンプトに対して保存済選択を作成する必要があり、複数の場所から**「保存済選択」**を選択します。Financial Reporting Web Studio レポートに重複したプロンプト・ラベルが含まれ、あるプロンプト定義において複数のメンバーの選択が許可されており、同じラベルを持つ別のプロンプト定義がメンバー選択関数で単一の選択(子(プロンプト)など)として使用されている場合、レポートへの

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

移行時に、レポート設計者は、検証エラーが発生した重複するプロンプト・ラベルを手動で調整する必要があります。

- Financial Reporting Web Studio では、プロパティ・メンバー選択関数は、メンバー名、メンバーの別名、属性メンバーおよび UDA に対して機能します。レポートでは、メンバー名および別名の使用はサポートされていません
- レポートでは、「動的時系列」のメンバー選択で、単一のメンバーまたは CurrentPOV の選択のみがサポートされます。メンバー選択関数は動的時系列関数のパラメータとしてサポートされていません。Financial Reporting では、動的時系列で RelativeMember 関数の使用がサポートされていました。
- Financial Reporting では、プロンプトを別のメンバー選択関数のパラメータ(子や子孫など)として使用するときに、複数メンバーのエンド・ユーザー選択が許可されていました。レポートでは、**「子」**、**「子孫」**および**下位**メンバー選択関数のパラメータとしてプロンプトが使用されている場合にのみ、複数選択プロンプトがサポートされます。

条件付き書式と抑制の違い

- Financial Reporting Web Studio では、条件付き書式設定と抑制条件により、#missing データ値がゼロであるかのように評価されます。

  たとえば、条件式'`value == 0`'の場合、これはゼロ値と#missing 値の両方に対して true になります。

  レポートでは、条件は#missing データ値のみをデータなしとして評価します。

  たとえば、条件式'`value == 0`'の場合、これはゼロ値に対してのみ true で、#missing 値に対して true ではありません。

  したがって、レポートでは、ゼロまたは**#missing** のいずれかをチェックするときは、個別の条件を定義する必要があります。
- Financial Reporting Web Studio では、"自動計算"および"自動計算のグループ見出し"をテストする条件付き書式設定の条件を定義できます。これらの条件はいずれも、グループ化を含むレポートではサポートされません。
- 複数のセルに適用される同じ条件付き書式設定定義を含む Financial Reporting (FR)レポートの移行時に、重複する条件付き書式が移行され、レポートの単一の条件付き書式にマージされます。
- Financial Reporting (FR)では、基本抑制(データなし、ゼロまたはエラーの抑制)は常に条件付き抑制と結合され、いずれかの条件が満たされた場合、行または列が抑制されます(基本抑制または条件付き抑制が適用されます)。

  レポートでは、基本抑制は条件付き抑制とは別に動作します。レポートでは、両方の条件が満たされた場合のみデータを抑制するか、またはいずれかの条件が満たされた場合にデータを抑制するかに関係なく、基本抑制(データなしまたはゼロまたはエラー)が条件式でどのように動作するかをユーザーが決定できます。これにより、Financial Reporting (FR)と比較して、より柔軟でカスタマイズ可能な抑制動作が可能になります。

グループ化および自動計算の相違

Financial Reporting の自動計算(Auto-Calc)は、同等のレポート・グループに移行され、次の考慮事項および相違があります。

- Financial Reporting では、Auto-Calc 式は固定で、ダイアログ・ボックスで定義されました。これらは、同等の式行または式列に移行されます。
- Financial Reporting の Auto-Calc が指定されたディメンション・レイヤーは、レポートのグループ化されたディメンション・レイヤーと異なります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

  - Financial Reporting のレイヤー 0 は、計算の総計タイプと見なされていました。これは、単にすべての Auto-Calc ディメンション組合せの合計であるため、実際の値は追加されません。レポートでは、これは、グループ化された行または列を参照する、グループ化されていない行/列と同等です。このようにして、レイヤー 0 Auto-Calc が移行されます。
  - レイヤー 1+ Auto-Calc は、レポートでは、Financial Reporting のレイヤー– 1 のグループに移行されます。したがって、レイヤー 1 の Auto-Calc はグループ・レイヤー 0 のようになります。
- Financial Reporting では、**「自動計算の後に改ページを許可」**プロパティが、該当するディメンションのグリッド・レベルの**「グループ改ページ」**プロパティに移行されます。ただし、Financial Reporting では、このプロパティは各 Auto-Calc で指定でき、グリッド内で変更できました。これは、レポートのグリッド・レベルのプロパティで、グリッド内の特定ディメンションのすべてのグループに 適用されます。
- Financial Reporting では、**「改ページの挿入の許可」**プロパティがグリッド・レベルの**「グループ内の改ページなし」**プロパティに移行されます。これは、レポートのグリッド・レベルのプロパティで、グリッド内の特定ディメンションのすべてのグループに 適用されます。
- Financial Reporting では、Auto-Calc の非データ・セグメントの書式設定は条件付き書式設定を使用して実行されました。レポートでは、グループ内の非データ・セグメントはグリッドに含まれ、直接書式設定できるため、これは不要です。Financial Reporting レポートの条件付き書式設定は、レポートの同等のセグメントに移行されます。

レポートで使用できない機能

Financial Reporting の次の機能は、レポートではサポートされていません。

- プランニング・ユニットの注釈
- 注釈

  Narrative Reporting のノート機能では、基礎となるフレームワークおよび機能として Financial Reporting の注釈の場合とは異なるものが利用されているため、注釈は Narrative Reporting のノートに移行されません。
- 行/列のテンプレート
- **FRExecute** を使用して Microsoft Word に Financial Reporting レポートを埋め込んでいるブックの Microsoft Word 文書
- **「すべての選択の印刷」**が有効になっている POV ディメンションは、すべてのメンバーを含む単一のワークシートではなく、常に各メンバーに対する異なるワークシートで **Excel** に出力されます。

フォントの相違

Financial Reporting のフォントがカスタム・フォントとしてアップロードされている場合を除き、Financial Reporting の次のデフォルト・フォントは同等のレポートのフォントに変換されます。

表 B-2 Financial Reporting のフォントおよび同等のレポートのフォント

Financial Reporting のデフォルト・フォント	同等のレポートのフォント
Microsoft Sans Serif	Liberation Serif
Arial	Liberation Sans

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 B-2 (続き) Financial Reporting のフォントおよび同等のレポートのフォント

Financial Reporting のデフォルト・フォント	同等のレポートのフォント
Times New Roman	Liberation Serif
Courier	Liberation Mono

> **ノート**
>
> Financial Reporting Web Studio には、追加のロケール(レポートでは表示されなかった特定のフォント)が含まれます。

Narrative Reporting でフォントをアップロードするには、*Narrative Reporting の管理*の追加フォントのアップロードを参照してください。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォームでフォントをアップロードするには:

- *Planning の操作*のフォントのアップロード
- *Financial Consolidation and Close の管理*のフォントのアップロード
- *Tax Reporting の管理*のフォントのアップロード

その他の相違

レポートの移行時には、次の点を考慮してください。

- コンテンツへのドリルを使用して、Essbase のリンク・レポート・オブジェクトまたは Narrative Reporting のセル・ファイル添付をソースとするセル・ファイル添付にドリルできません。
- リンクされたローカル・オブジェクトは、グリッドやチャートなどのレポート・オブジェクトであり、リポジトリに保存されてレポートに挿入されますが、レポートではサポートされていません。移行対象の Financial Reporting のレポートにリンクされたオブジェクトが見つかった場合は、移行エラーが表示されます。
- 勘定科目タイプによる条件付き書式設定または抑制(たとえば、勘定科目タイプが収益の行を抑制)を使用して Cloud EPM のレポート(たとえば、Planning モジュール)を移行する場合は、正しく適用されるために条件式を更新する必要があります。これは、Financial Reporting では、タイプが費用または費用外の場合にのみ勘定科目タイプの条件式がチェックされ、レポートでは、勘定科目タイプが資産、負債、資本、収益、費用または費用外であるかどうかがチェックされます。結果的に、実際の勘定科目タイプを確認するために条件式を更新する必要があります。たとえば、レポートの移行後に収益の実際の勘定科目タイプを抑制するために、収益勘定科目タイプ(Financial Reporting では費用外とみなされる)を抑制する式を更新する必要があります。
- レポートでは、カスタム用紙フォーマットのサイズがサポートされていません。移行で、このサイズはレターに変換されます。
- レポートでは、スーパー A3 用紙フォーマットのサイズがサポートされていません。移行で、このサイズはレターに変換されます。
- Financial Reporting では、ユーザーは MemberOverride を CellText 関数に追加できます。レポートでは、これは現在サポートされていません。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- Financial Reporting のライブラリ・フォルダへの関連コンテンツのリンクは、レポートへのインポート中に削除されます。
- Financial Reporting で、レポートに 2 つのグリッド(例: Grid1 と Grid2)が含まれており、Grid1 には各ページにグリッドを出力するページ・ディメンションがあり、Grid2 には出力可能なページを含むページ・ディメンションがないとします。この場合、次のようになります:
  - Financial Reporting が PDF に生成する出力: Grid1 については、POV メンバーを個別のページに含めた Page1...Page n として出力し、その後に Grid2 を出力します。
  - レポートで、同じシナリオ(Grid1 の POV で**「すべての選択の印刷」**を有効化)の出力を PDF に生成した場合: Page1: Grid1 (第 1 POV メンバー)、Page2: Grid2、Page3: Grid1 (第 2 POV メンバー)、Page4: Grid2 のように生成します。
- Financial Reporting グリッド書式設定の継承機能は、レポートではサポートされず、移行されません。Financial Reporting で継承を使用して定義した書式設定の場合は、移行後のレポートで手動調整が必要になります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

C

レポートと Excel にインポートされたレポートの相違

このトピックは、レポートと Excel にエクスポートまたはインポートされたレポートの相違を理解するのに役立ちます。

- レポート・デザイナでは、「境界スタイル」および「境界線の幅」プロパティの組合せを使用して、境界線書式設定スタイルを定義できます。「境界スタイル」には、「実線」、「点線」、「破線」および「二重」があります。「境界線の幅」は 1 から 5 の値を取ることができます。Excel にインポートすると、Excel では別の幅の設定がサポートされていないため、境界スタイルは次のようにマップされます:

レポート	**Excel**
実線、Width_1	細線
実線、Width_2	実線
実線、Width_3、Width_4、Width_5	太線
点線、任意の幅	点線
破線、Width_1	破線
破線、Width2、Width3、Width_4、Width5	中線(破線)
二重、任意の幅	二重線

- セルが透過のフォント色で定義されている場合、Excel ではサポートできません。レポートでの回避策は、「テキストの置換」プロパティを使用し、空の値に置換テキストを設定することです。
- レポートに書式を適用すると、グリッド全体の書式が最初に適用され、グリッド・タイトルの書式が最後に適用されます。Excel では、最後に適用された境界によって、それより前に適用された境界が上書きされます。Excel の結果がレポートの HTML または PDF バージョンの結果と一致しない場合があります。
- レポートが Excel にインポートされると、行バンディングはサポートされません。
- プリフィクス/サフィクス位置合せ: %を他の文字またはスペースと 組み合せることはできません。そのように書式設定すると、Excel に正しくない数値が表示されることがあります。プリフィクスを位置合せすると、Excel では、セルの左端にプリフィクスの文字が配置されます。負数のサフィクスを指定し、正数のサフィクスを指定せず、サフィクスの位置合せを設定した場合、余分なスペースが 正数の後に表示されることがあります。
- レポートに、異なる列幅の垂直に積み上げられた複数のグリッドがある場合、エクスポートしたレポートの Excel での列幅は、レポートの一番上のグリッドの列幅に基づきます。その結果、残りのグリッドは、Web 内のレポートと比較して、同じようには整列しないか、異なる列幅を持つ可能性があります。これは、Excel では、スプレッドシートのすべての行に対して列幅が一定のままであるためです。

  同様に、レポートに行の高さが異なる水平に配置された複数のグリッドがある場合、エクスポートしたレポートの Excel での行の高さは、レポートの左端のグリッドの行の高さに基づきます。その結果、残りのグリッドは、Web 内のレポートと比較して、同じようには

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

整列しないか、異なる行の高さを持つ可能性があります。これは、Excel では、スプレッドシートのすべての列に対して行の高さが一定のままであるためです。

- セル・プロパティにインデントが指定されている場合、インデントのサイズは、設定されている書式設定ユーザー・プリファレンスに応じて(例: "0.25"は"インチ"でインデント)、レポート・デザイナによってインチまたはセンチメートルで定義されます。レポートを Excel にダウンロードすると、Excel で同等のインデントの作成が試行されます。Excel でのインデントは、標準フォントおよびフォントサイズのスペース 文字の幅を計算することによって行われます

  詳細は、Microsoft のトラブルシューティングのページを参照してください。

  インデントの量を計算する様々な方法は、レポートと Excel の間で同一ではない場合があります。この結果、レポート・プレビュー(PDF または HTML)では折り返していなかったセル内のテキストが、Excel 文書では折り返す場合があります。Excel 文書の列幅が、その列のセルに値を表示するには十分ではなくなる場合もあります。例: セルに表示するにはセル値が大きすぎるため、Excel がセル値に"#"を表示する場合があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

D

サンプル・レポート・コンテンツの操作

Narrative Reporting では、レポート、ブックおよびバースティング定義の使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。

Related Topics

- サンプル・レポートのレビュー
  Narrative Reporting では、レポートの使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。
- サンプル・ブックのレビュー
  Narrative Reporting では、ブックの使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。
- サンプル・バースティング定義ファイルのレビュー
  Narrative Reporting では、バースティング定義の使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。

サンプル・レポートのレビュー

Narrative Reporting では、レポートの使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。

> ⓘ **ノート**
>
> **この項は Narrative Reporting デプロイメントにのみ適用されます。**

サービス管理者によってサンプル・ファイルがインストールされ、サンプル・レポートをレビューした後(*Narrative Reporting の管理*のサンプルのインストールを参照)、次のサンプル・レポートを操作できます。

表 D-1 すべてのサンプル・レポートのリスト

レポート名	摘要
Sample Report 0 (エグゼクティブ・サマリー)	棒グラフおよびドーナツ・グラフの基準となる 2 つの非表示のグリッドと、いくつかの勘定科目の要約済データ・ポイントを返すテキスト・ボックスのテキスト関数が含まれています。例としてテキスト・ボックスに静的ナラティブが表示され、この目的のためにノートを使用することもできます。
Sample Report 1	損益計算書勘定科目を示す行、Scenarios を示す列のあるグリッドが含まれ、行の勘定科目ごとに"純売上高に対する割合(%)"を表示する 2 つの式列も示されます。
Sample Report 2a (基本チャート)	非表示のグリッドの基準となる円、棒および折れ線グラフが含まれています。
Sample Report 2b (拡張チャート)	非表示のグリッドの基準となるウォーターフォール、バブル、ツリーマップおよびサンバースト・チャートが含まれています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 D-1 (続き) すべてのサンプル・レポートのリスト

レポート名	摘要
Sample Report 2c (ゲージ・チャート)	単一のデータ・セルがある非表示のグリッドに基づく *9* 個のゲージ・チャートが含まれています。 レポートには、3 つのゲージ・チャート・タイプ(**「円形」**、**「水平」**および**「垂直」**ゲージ)のすべてと、3 つのしきい値タイプ(**「しきい値」**、**「基準線」**および**「なし」**)のすべてが表示されます。
Sample Report 3	グリッドおよびチャートが含まれ、グリッドの行に Entities、列に Scenarios が示されます。このチャートは、表示されるグリッドによって決まります。
Sample Report 4a (RelativeMember)	行に損益計算書勘定科目、列に Scenarios ディメンションと Fiscal Calendar ディメンションが示されるグリッドが含まれています。グリッドには、Range および RelativeMember メンバー選択関数の組合せを使用した、Scenarios 全体のローリング・レポートが表示されます。 • 実績データの POV には、FY17 年 1 月から現在選択されている月(デフォルトでは 6 月)が含まれています。 • プラン・データには、FY18 年現在の POV + 1 (デフォルトでは 7 月)から 12 月が含まれています。 • POV を変更して、別の月を選択できます。これらの列では、現在の POV、範囲および相対メンバー選択関数を組み合せて使用します。 • POV に 12 月が選択されたときに実際のデータのみを表示するために、列 B および C の条件付き抑制定義に使用される 3 つ目の非表示データ列(C)があり、POV 選択が 12 月の場合にプラン・データが抑制されます。
Sample Report 4b (PeriodOffset)	行に貸借対照表勘定科目、列に Years ディメンションと Fiscal Calendar ディメンションが示されるグリッドが含まれています。グリッドには、Range および PeriodOffset メンバー選択関数の組合せを使用した、Years 全体の 12 か月のローリング・レポートが表示されます。 • Years は現在の POV に基づきます。 • Fiscal Calendar は、"CurrentPOV – 5 の PeriodOffset"で始まり"CurrentPOV – 6 の PeriodOffset"で終わる Range 関数に基づきます。
Sample Report 5 (プロンプト)	次の指定を求めるプロンプトが表示されるグリッドが含まれています。 • 行の 1 つ以上のセグメント • 列で選択した四半期の子 • 印刷可能ページが有効になっている POV の 1 つ以上のエンティティ。
Sample Report 6 (条件付き書式と抑制)	行に Entities および列に Scenarios があり、次の内容が適用されたグリッドが含まれています。 • セルの背景色がセル値によって赤、緑または黄になる、実績とプランの差異列に対する条件付き書式設定。 • 評価されている正または負のデータ値に基づいて指示的な語句とともにメンバー名とデータ値を返す、前述の赤および緑の条件付き書式に基づく条件付きテキスト。 • 値が 1,000,000 未満のすべての行を抑制する、エンティティ行に対する条件付き抑制。
Sample Report 7 (ズームとドリル)	行に Accounts および列に Scenarios があり、次のズームおよびドリル定義が設定されたグリッドが含まれています。 • "Gross Profit"および"Net Income"の子に対するズーム。 • 対応する Wikipedia ページへのリンクがある、総利益および純利益の行ヘッダーの URL へのドリル • 実績列の総利益および純利益のデータ・セルに対するサンプル・レポート 3 へのドリル。勘定科目の POV はターゲット・レポートに渡されます。 **ノート:** "Sample Report 3"へのドリル定義によって、このレポートが"Samples\Reports"フォルダに存在することが要求されます。サンプル・レポートを別のフォルダに移動する場合は、ドリル・リンクが正常に機能するように、ドリル定義を新しい場所に更新する必要があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 D-1 (続き) すべてのサンプル・レポートのリスト

レポート名	摘要
Sample Report 8 (グループ化)	行に **Accounts**、**Entities** および **Segments**、列に **Scenarios** が示されるグリッドが含まれています。 • グループ化は、**勘定科目**ディメンションおよび**エンティティ**・ディメンションに対して定義されています。 • グループの見出しおよび合計または小計を表示するために、グループ内に追加の**テキスト**、**式**およびセパレータの行があります。 詳細は、このレポートの簡易バージョンを利用してレポート設計の詳細と手順を示している複数のグループ化を使用したグループ化の例を参照してください。
Sample Report 9a (ノート・ボックス入力)	**Performance Summary** および **Variance Summary** の 2 つのノート・テンプレートが挿入されている簡単なグリッドおよびチャートが含まれています。**Entities** および **Segments** ディメンションは POV で変更可能であり、一部のサンプル・ノートは両方のノート・テンプレートに入力されています。このレポートの目的は、様々な POV 選択でレポートのノート・エントリに使用されるノート・テンプレート/ボックスの例を提供することです。
Sample Report 9b (ノート・テキスト・ボックス)	簡単なグリッドと、ノート・テキスト関数を含むデータ・ソース対応のテキストボックスが含まれています。テキスト関数では、**Entities** ディメンションが**「テキスト POV による制御」**に設定されている名前付き POV (Named POV 1) と、ノート・フォーマット(Text Box Note Format)を使用します。**Entities** ディメンションは POV で変更可能であり、次の処理を許可するセカンダリ POV がテキスト・ボックス内にあります。 • レポートのグローバル POV での **Entities** メンバーの選択。 • レポートのグローバル POV で選択された **Entities** メンバーに適用されるメンバー選択関数(例: 下位、子など)の選択。 このレポートの目的は、POV 選択に基づくノートを表示および集計する例を提供することです。
Sample Report 9c (インライン・グリッド・ノート・エントリ)	**Entity Variance Description** ノート・テンプレートを使用するノート列セグメントが示される簡単なグリッドが含まれています。**Segments** ディメンションは POV で変更可能です。いくつかのサンプル・ノートがノート・テンプレートに入力されています。このレポートの目的は、エンド・ユーザーがグリッドにノートをインラインで入力する方法を示すことです。
Sample Report 9d (GridNotes Text Function)	GridNotes テキスト関数を含むテキスト列が示される簡単なグリッドが含まれています。テキスト関数は列 A に添付されているノードを参照し、ノート・フォーマット(Grid Cell Note Format)を使用して、**Performance Summary** ノート・テンプレートのノートを返します。**Entities** ディメンションは POV で変更可能です。
Sample Report 10 (バタフライ・レポート)	行に Accounts、列に Fiscal Calendar があるグリッドが含まれています。**「前に行見出し」**グリッド・プロパティが列 C に対して設定され、ここで勘定科目行のラベルが列 B と C の間に表示され、**バタフライ・レポート**になります。また、勘定科目メンバー・ラベルは表示目的で中央揃えされます。
Sample Report 11 (保存済選択)	列に **Fiscal Calendar** ディメンションがある 2 つの列が含まれています。ここで、メンバー選択は**保存済選択**を基準とします。**保存済選択**には月のプロンプトが含まれています。最初のグリッドには、月、月の QTD および月の YTD の列があります。2 つ目のグリッドには、**「シナリオ」**選択の **Actual**、**Plan** および **Variance** の 3 つの列があります。3 つの列はすべて、**Fiscal Calendar** の月の選択によって決まります。
Sample Report 12a (共有レポート)	2 枚のシートにわたる 2 つのグリッドおよび 1 つのチャートが含まれており、ヘッダーに 3 つのテキスト・ボックスおよび 1 つのイメージ・オブジェクトも含まれています。レポートは共有レポートとして保存されます。共有レポート内のすべてのオブジェクトは、他のレポートへの挿入に使用できます。sample reports 12b および 12c には、このレポートから挿入された共有オブジェクトがあります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表 D-1 (続き) すべてのサンプル・レポートのリスト

レポート名	摘要
Sample Report 12b (サブスクライブ・レポート 1)	**Sample Report 12a** からのすべての共有ヘッダー・オブジェクトおよび 1 つの共有グリッドが含まれています。ソース共有レポートでオブジェクトに加えられた変更は、このサブスクライブ・レポート内の挿入済共有オブジェクトにも反映されます。
Sample Report 12c (サブスクライブ・レポート 2)	**Sample Report 12a** からのすべての共有ヘッダー・オブジェクト、1 つの共有グリッドおよび 1 つの共有チャートが含まれています。ソース共有レポートでオブジェクトに加えられた変更は、このサブスクライブ・レポート内の挿入済共有オブジェクトにも反映されます。
Sample Report 13a (GenAI - 例外の記述)	このレポートには、1 つのシンプルなグリッドが含まれており、行にリージョン(**「Entities」**)、列に**「Actual」**、**「Plan」**および**「Variance」**があります。さらに、非表示の"Percentage of Sales"算式列と、GenAI ナラティブ・サマリーを表示するテキスト・ボックスがレポート内にあります。 ナラティブ・サマリーの目的は、条件付きテキストの定義で指定される例外("Percentage of Sales"が合計の **10%**超えで、負の差異)を記述することにあります。 詳細は、「レポートでの生成 AI の操作」のトピックを参照してください。
Sample Report 13b (GenAI - 比較分析)	このレポートには、1 つのシンプルなグリッドが含まれており、4 つの四半期にまたがる 2 つのサマリー損益計算勘定科目と、GenAI ナラティブ・サマリーを表示するためのテキスト・ボックスがあります。 ナラティブ・サマリーの目的は、条件付きテキスト定義に指定されているとおり、**「Quarter 1」**から**「Quarter 4」**までの間で比較分析を実行することにあります。 詳細は、「レポートでの生成 AI の操作」のトピックを参照してください。
Sample Report 13c について (GenAI - 例外の因果関係)	このレポートには、1 つのシンプルなグリッドが含まれており、行には 4 つの四半期にまたがる**「Entity」**リージョン・メンバー、勘定科目 POV としての"Net Revenue"、および GenAI ナラティブ・サマリーを表示するテキスト列があります。 ナラティブ・サマリーの目的は、条件付きテキスト定義で指定される例外の因果関係を記述することにあります。 詳細は、「レポートでの生成 AI の操作」のトピックを参照してください。
Sample Report 14a (Prompt report1) **Sample Report 14b (Prompt report2)**	両方のレポートに、2 つのプロンプトが表示される単一グリッドが含まれています。どちらのレポートも **Sample Book 6** で使用され、プロンプト機能に対するエンド・ユーザー応答を示しています。

サンプル・ブックのレビュー

Narrative Reporting では、ブックの使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。

ノート: この項は Narrative Reporting デプロイメントにのみ適用されます。

レポート、セクション、ページ設定の操作を練習し、レポートおよびセクションの様々な目次定義を調べるために、ブック・サンプルが用意されています。この項では、サンプルおよびブック出力プロセスについて説明します。

サービス管理者によってサンプル・コンテンツがデプロイされた後、サンプル・ブックをレビューできます。詳細は、*Narrative Reporting の管理*のサンプルのインストールを参照してください。

サンプルをガイドラインとして使用して、独自のブックおよびレポート構造を作成します。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

表紙と目次の概要

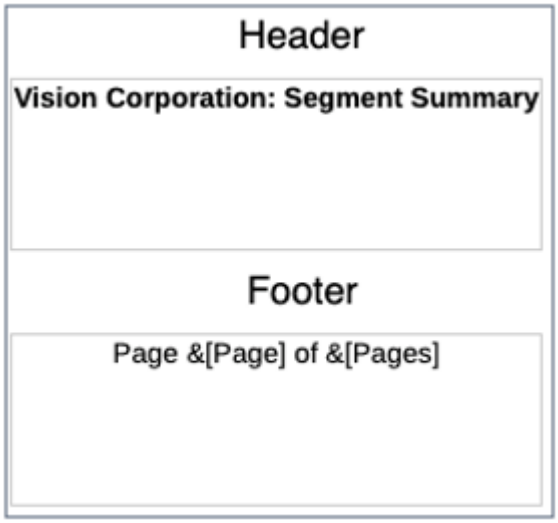
文書をブックに追加すると、その文書はライブラリへのリンクを参照します。実際の文書はブックにコピーされません。Word 文書には、架空の例である Vision コーポレーション用の静的な表紙があります。目次は、Word のテンプレートに目次定義として挿入されています。挿入された目次定義は、最初は文書に空白で表示されますが、ブック出力が実行されるか、ブックがプレビューされると値が移入されます。

「ページ設定」オプションについて

すべてのブック・サンプルには、ヘッダーやフッターなどの共通のページ設定定義が含まれています。

ヘッダーとフッターのスタンプは、レポートの最初のページで始まるように定義されており、ブックの各レポートに表示されます。

「ページ設定」オプションを使用して、ヘッダーとフッターの定義を変更できます。



Sample Book 1.1、1.2 および 1.3

Sample Book 1.1、1.2 および 1.3 には、同じ POV 設定を持つ同じレポートが含まれていますが、各レポートは、ブック内の各レポートに**セクション**や異なる TOC ヘッダー定義を使用することにより、表示が異なります。

Sample Book 1.1 について

このブックには、**「Segment Reports」**という**セクション**があり、**「Sample Report 1」**、**「Sample Report 3」**および**「Sample Report 4」**の各レポートが含まれています。

- **Sample Report 1**:

  「POV」の**「Segments」**に**「Seg01」**および**「Seg02」**が選択されています。

  目次ヘッダー: `ArtifactName(): MemberAlias("Segments")`

  レポート名の後に、セグメント POV のメンバーの別名が続いています。

- **Sample Report 3**:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

「POV」の**「Segments」**に**「Children of Seg01」**および**「Children of Seg02」**が選択されています。

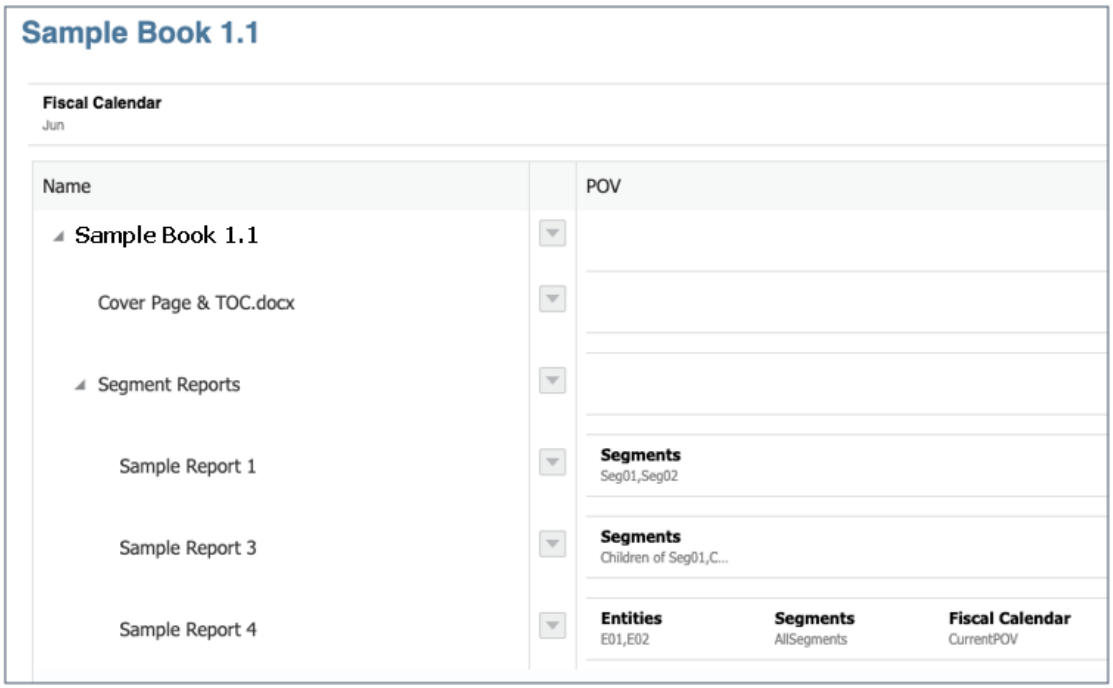
目次ヘッダー: `ArtifactName(): MemberAlias("Segments")`

- **Sample Report 4**:

  「POV」の**「Entities」**に**「E01」**および**「E02」**が、**「Segment」**に**「AllSegments」**が選択されています。**「Fiscal Calendar」**ディメンションには**「Current POV」**が選択されており、これはブック POV で定義されていることを意味します。

  TOC ヘッダー: `ArtifactName(): MemberAlias("Entities"), MemberAlias("Segments")`

Book Designer View



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

TOC Preview

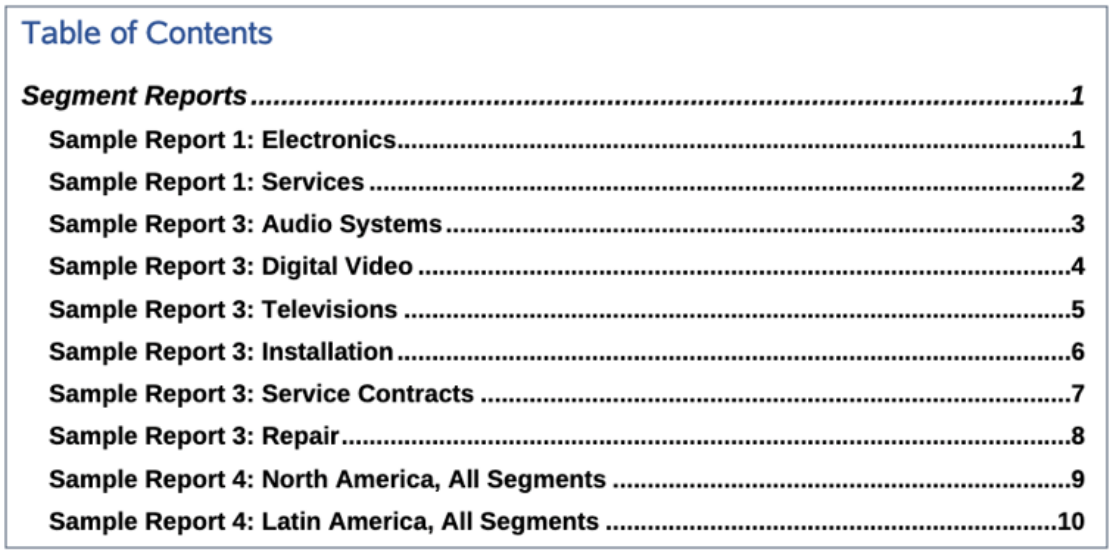


Table of Contents

Segment Reports *1*
Sample Report 1: Electronics 1
Sample Report 1: Services 2
Sample Report 3: Audio Systems 3
Sample Report 3: Digital Video 4
Sample Report 3: Televisions 5
Sample Report 3: Installation 6
Sample Report 3: Service Contracts 7
Sample Report 3: Repair 8
Sample Report 4: North America, All Segments 9
Sample Report 4: Latin America, All Segments 10

Sample Book 1.2 について

このブックには、**「Sample Report 1」**、**「Sample Report 3」**および**「Sample Report 4」**の各レポートが含まれています。このブックは **Sample Book 1.1** に似ていますが、**セクション**がありません。

- **Sample Report 1**:

  「POV」の**「Segments」**に**「Seg01」**および**「Seg02」**が選択されています。

  目次ヘッダー: `ArtifactName(): MemberAlias("Segments")`

  レポート名の後に、セグメント POV のメンバーの別名が続いています。

- **Sample Report 3**:

  「POV」の**「Segments」**に**「Children of Seg01」**および**「Children of Seg02」**が選択されています。

  目次ヘッダー: `ArtifactName(): MemberAlias("Segments")`

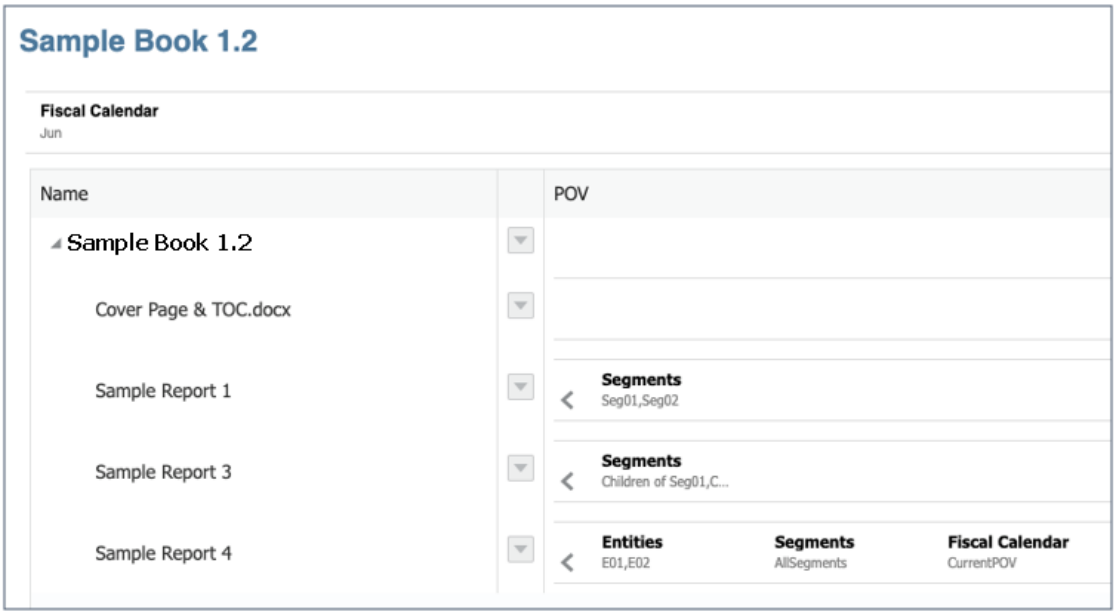
- **Sample Report 4**:

  「POV」の**「Entities」**に**「E01」**および**「E02」**が、**「Segment」**に**「AllSegments」**が選択されています。**「Fiscal Calendar」**ディメンションには**「Current POV」**が選択されており、これはブック POV で定義されていることを意味します。

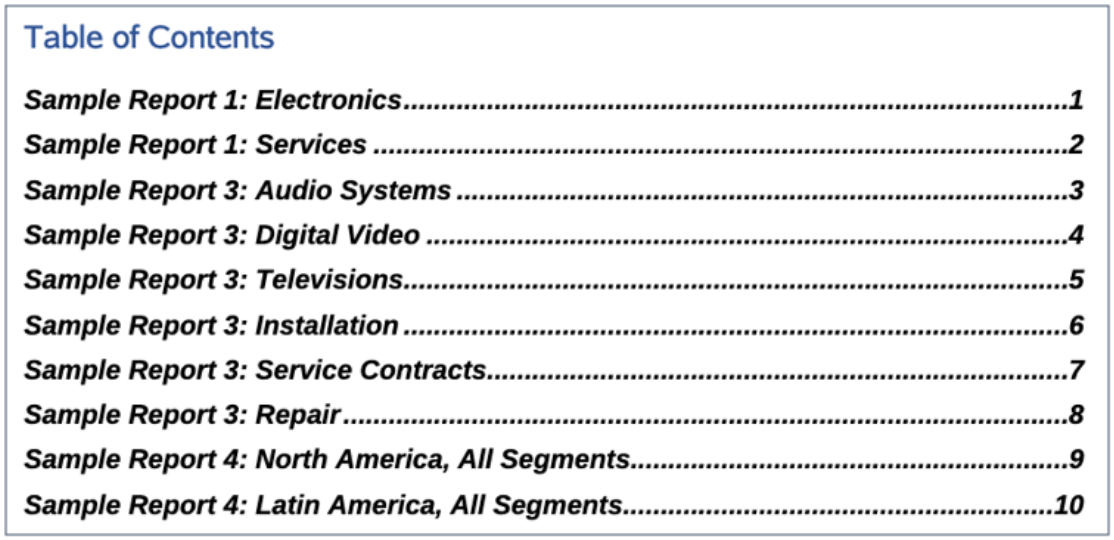
  TOC ヘッダー: `ArtifactName(): MemberAlias("Entities"), MemberAlias("Segments")`

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Book Designer View



TOC Preview



Sample Book 1.3 について

このブックには、**「Sample Report 1」**、**「Sample Report 3」**および**「Sample Report 4」**の各レポートが含まれています。このブックは **Sample Book 1.2** に似ていますが、レポート名の後に POV 選択を表示するための、複数の目次ヘッダー定義レベルが含まれています。

- **Sample Report 1**:

  「POV」の**「Segments」**に**「Seg01」**および**「Seg02」**が選択されています。

  目次ヘッダー:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

```
ArtifactName():

MemberAlias("Segments")
```

レポート名の後に、セグメント POV のメンバーの別名が続いています。

- **Sample Report 3**:

  「POV」の**「Segments」**に**「Children of Seg01」**および**「Children of Seg02」**が選択されています。

  目次ヘッダー:

  ```
  ArtifactName():

  MemberAlias("Segments")
  ```

- **Sample Report 4**:

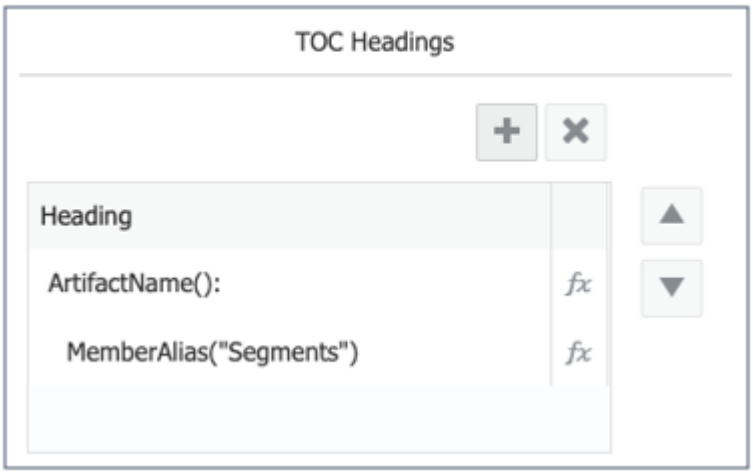
  「POV」の**「Entities」**に**「E01」**および**「E02」**が、**「Segment」**に**「AllSegments」**が選択されています。**「Fiscal Calendar」**ディメンションには**「Current POV」**が選択されており、これはブック POV で定義されていることを意味します。

  目次ヘッダー:

  ```
  ArtifactName():

  MemberAlias("Entities"),MemberAlias("Segments")
  ```

Example of TOC Headings for Sample Report 1 and Sample Report 3



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

TOC Preview

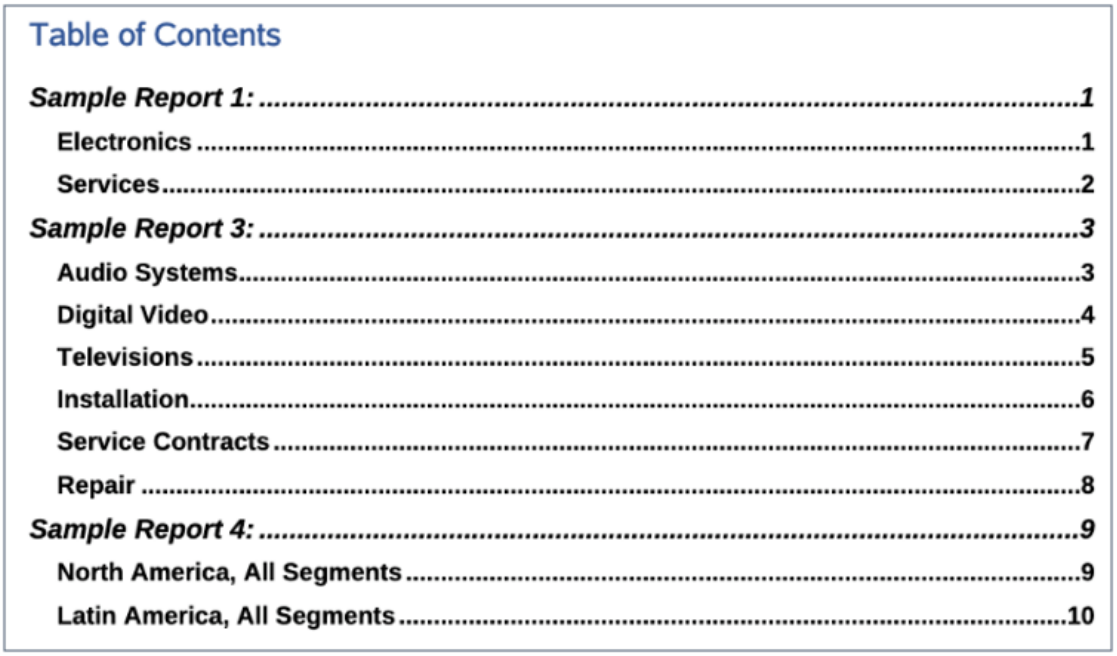


Table of Contents

Sample Report 1: *1*
Electronics 1
Services 2
Sample Report 3: *3*
Audio Systems 3
Digital Video 4
Televisions 5
Installation 6
Service Contracts 7
Repair 8
Sample Report 4: *9*
North America, All Segments 9
Latin America, All Segments 10

Sample Book 2.1 について

このブックには、**「Sample Report 1」**および**「Sample Report 4」**が含まれる、**「Segments」**という**セクション**があります。

セクションには、**「Seg01」**および**「Seg02」**のセグメント POV 定義が含まれる一方、2 つのレポートのセグメント POV 選択は**「Current POV」**です。これは、両方のレポートに定義された**セクション POV** が、基本的に各**セグメント・**メンバーにカスケードされ、それに対して各レポートが実行されることを意味します。

「Sample Report 4」には、**「Entities」**に**「E01」**および**「E02」**が、**「Fiscal Calendar」**ディメンションに**「Current POV」**が選択された POV があります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

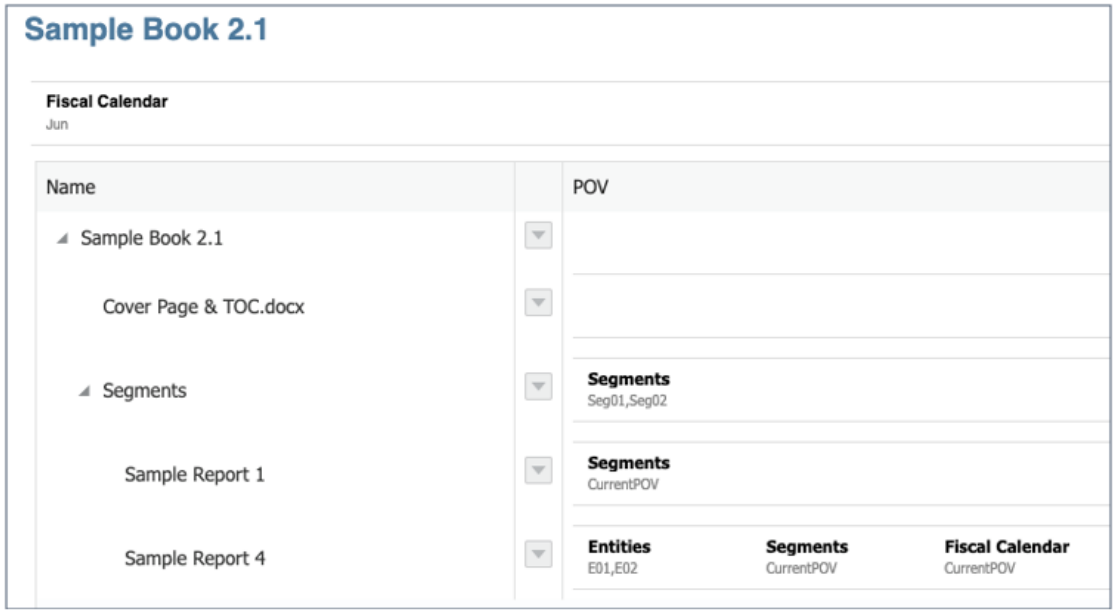
Sample Report 1

Heading	
ArtifactName(): MemberAlias("Segments")	fx

Sample Report 4

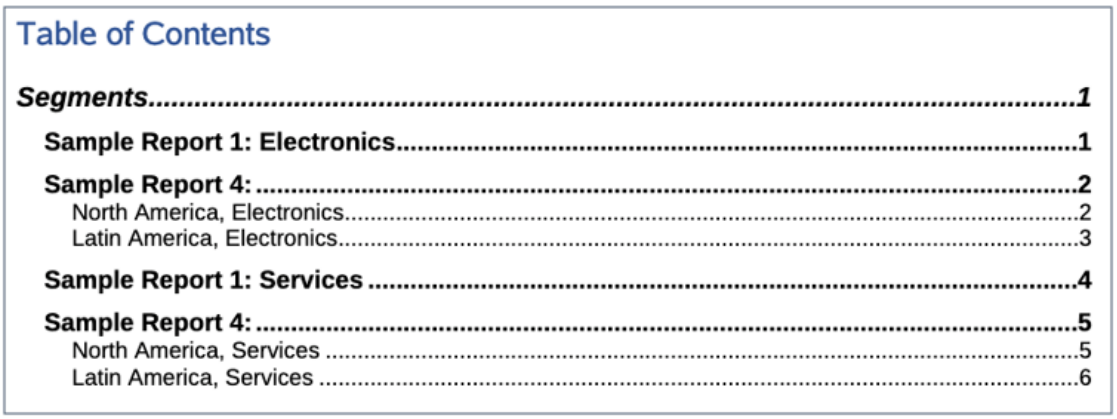
Heading	
ArtifactName()	fx
MemberAlias("Entities"), MemberAlias("Segments")	fx

Book Designer View



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

TOC Preview

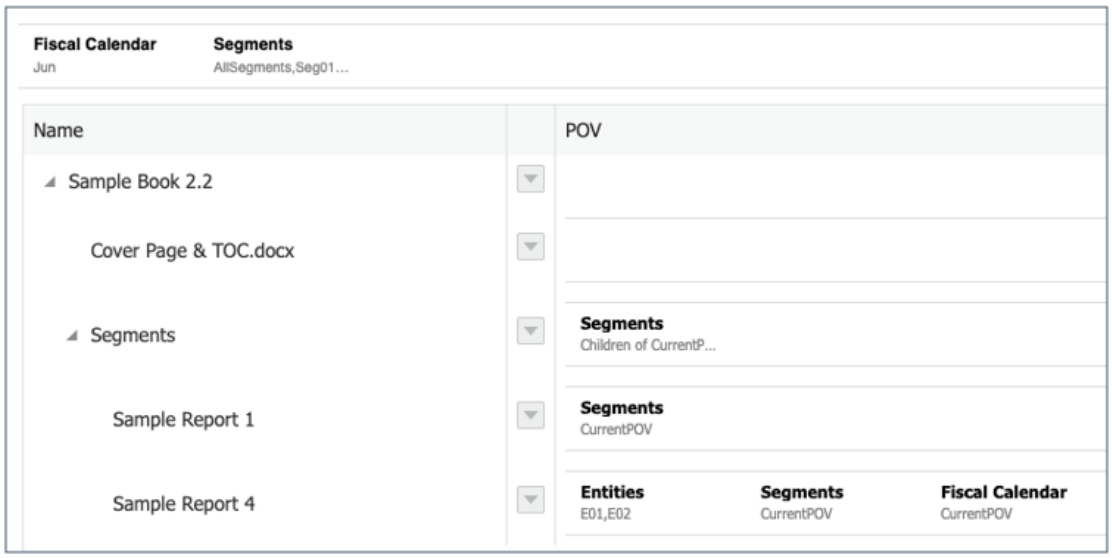


Sample Book 2.2 について

このブックは **Sample Book 2.1** に似ていますが、**セクション** POV が**「Children of Current POV」**に設定され、**「Sample Report 1」**および**「Sample Report 4」**が含まれています。ブック POV 選択は、**「Segments」**ディメンションのいくつかの親メンバーに設定されています。

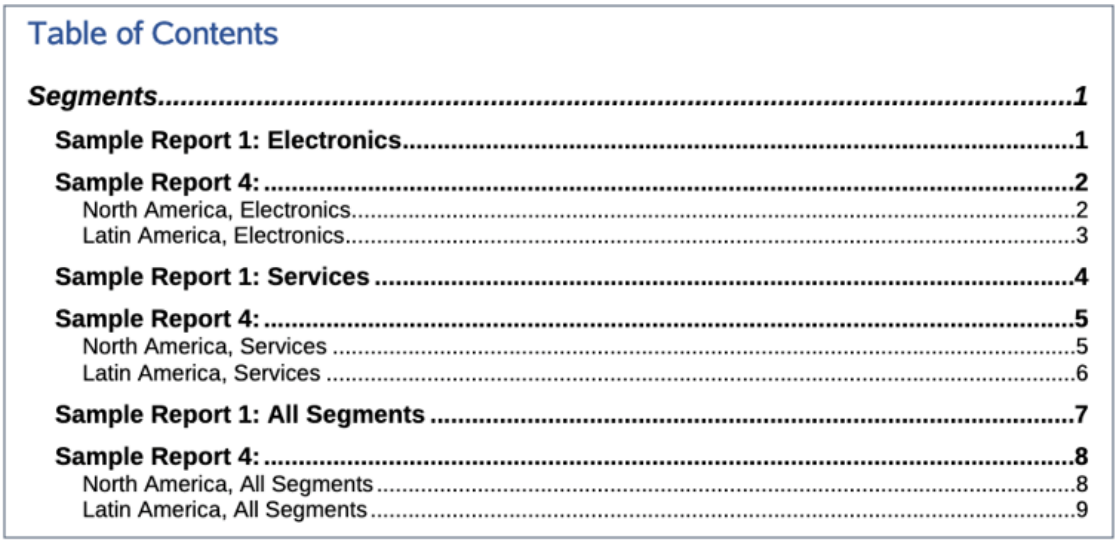
このブック・サンプルは、ブック POV 選択によってレポートのカスケードがどのように決まるかを示しています。

Book Designer View



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

TOC Preview with **AllSegments** selected in the Book POV



Sample Book 3 について

このブックには、**「Segments」**、**「SKU」**および**「Item」**という名前のネストされた**セクション**があります。

レポートの目次ヘッダーは次のとおりです。

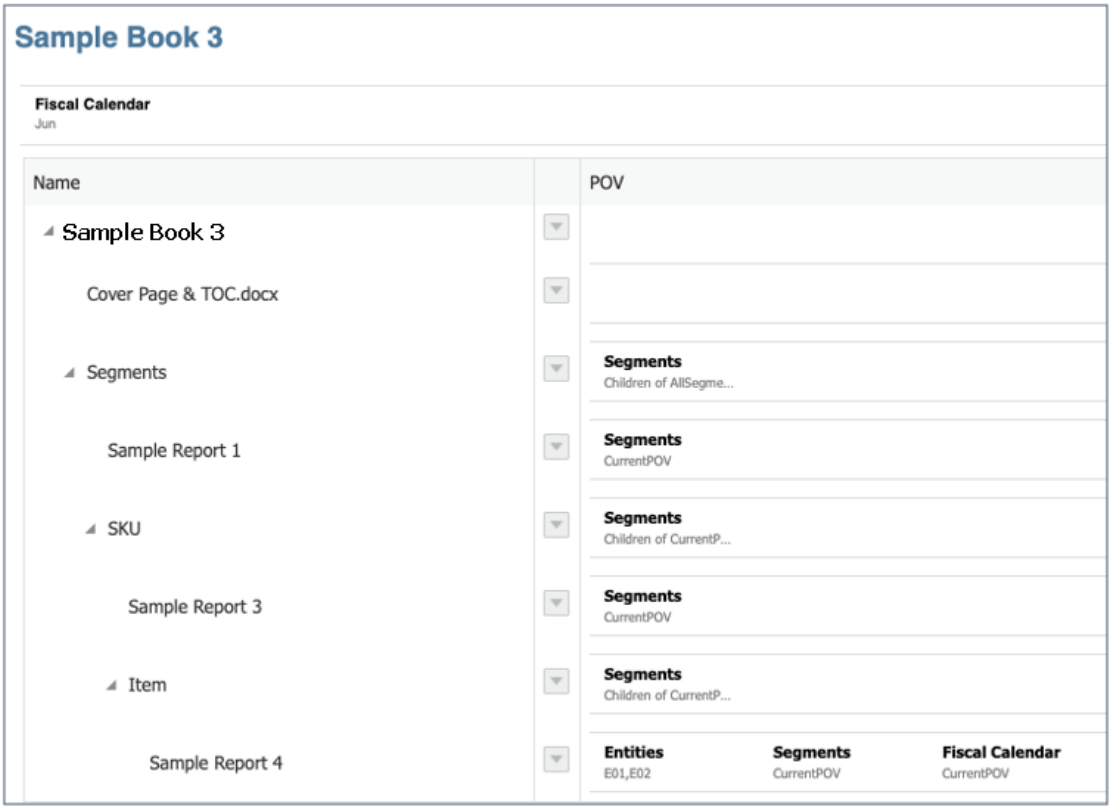
Sample Report 1: `ArtifactName(): MemberAlias("Segments")`

Sample Report 3: `ArtifactName(): MemberAlias("Segments")`

Sample Report 4: `ArtifactName(): MemberAlias("Entities"), MemberAlias("Segments")`

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Book Designer View



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

TOC Preview

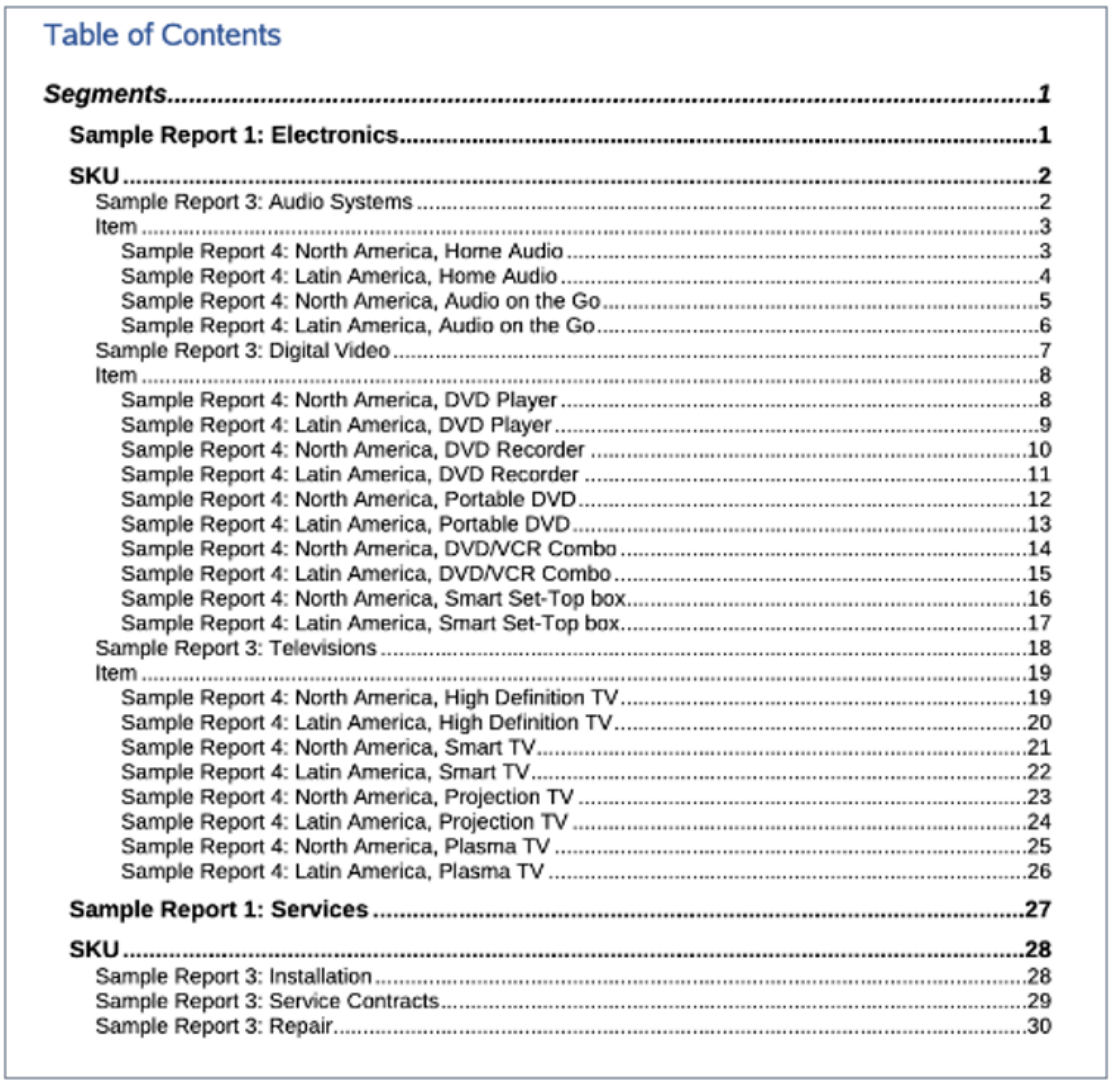


Table of Contents

Segments ***1***

Sample Report 1: Electronics **1**

SKU **2**
Sample Report 3: Audio Systems 2
Item 3
Sample Report 4: North America, Home Audio 3
Sample Report 4: Latin America, Home Audio 4
Sample Report 4: North America, Audio on the Go 5
Sample Report 4: Latin America, Audio on the Go 6
Sample Report 3: Digital Video 7
Item 8
Sample Report 4: North America, DVD Player 8
Sample Report 4: Latin America, DVD Player 9
Sample Report 4: North America, DVD Recorder 10
Sample Report 4: Latin America, DVD Recorder 11
Sample Report 4: North America, Portable DVD 12
Sample Report 4: Latin America, Portable DVD 13
Sample Report 4: North America, DVD/VCR Combo 14
Sample Report 4: Latin America, DVD/VCR Combo 15
Sample Report 4: North America, Smart Set-Top box 16
Sample Report 4: Latin America, Smart Set-Top box 17
Sample Report 3: Televisions 18
Item 19
Sample Report 4: North America, High Definition TV 19
Sample Report 4: Latin America, High Definition TV 20
Sample Report 4: North America, Smart TV 21
Sample Report 4: Latin America, Smart TV 22
Sample Report 4: North America, Projection TV 23
Sample Report 4: Latin America, Projection TV 24
Sample Report 4: North America, Plasma TV 25
Sample Report 4: Latin America, Plasma TV 26

Sample Report 1: Services **27**

SKU **28**
Sample Report 3: Installation 28
Sample Report 3: Service Contracts 29
Sample Report 3: Repair 30

Sample Book 4 について

このブックには、**「Segment Summary」**および**「Summary and Closing comments」**という名前の 2 つの**セクション**があります。

レポートおよびブックの目次ヘッダーは次のとおりです。

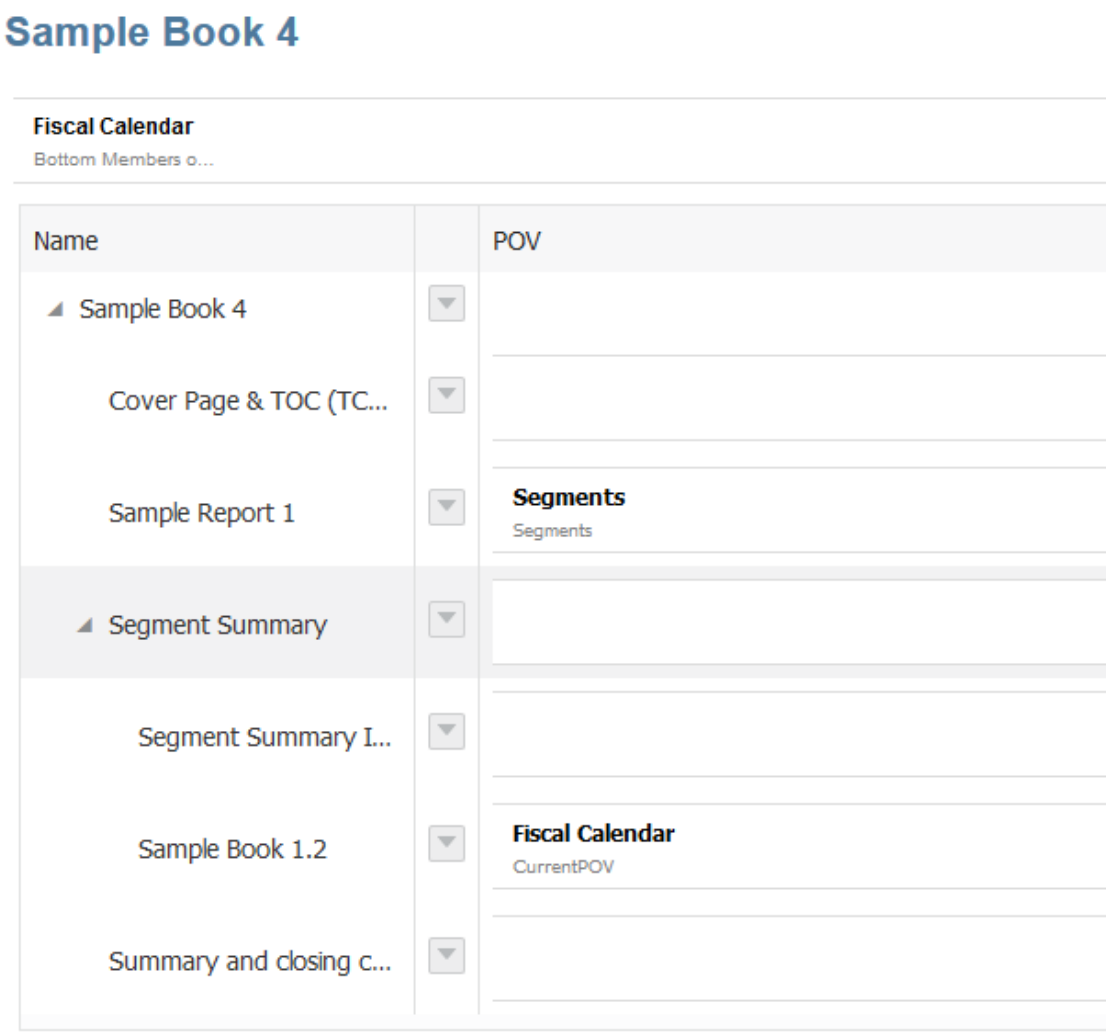
Sample Report 1: `ArtifactName()`

Segment Summary Introduction: `ArtifactName()`

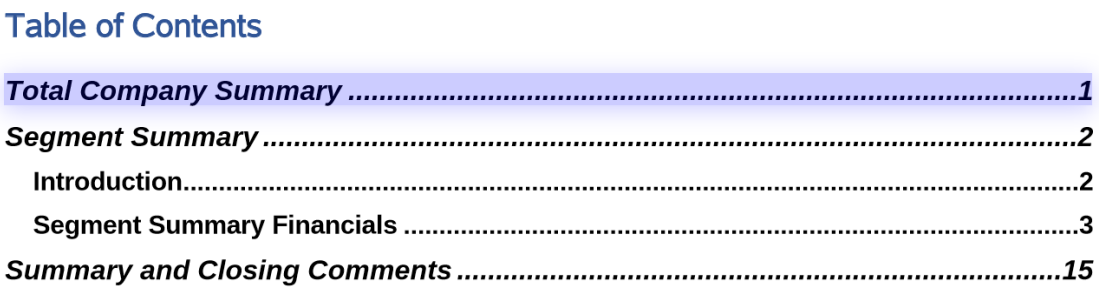
Sample Book 1.2: `ArtifactName()`

ブック・デザイナ・ビュー:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



目次表示:



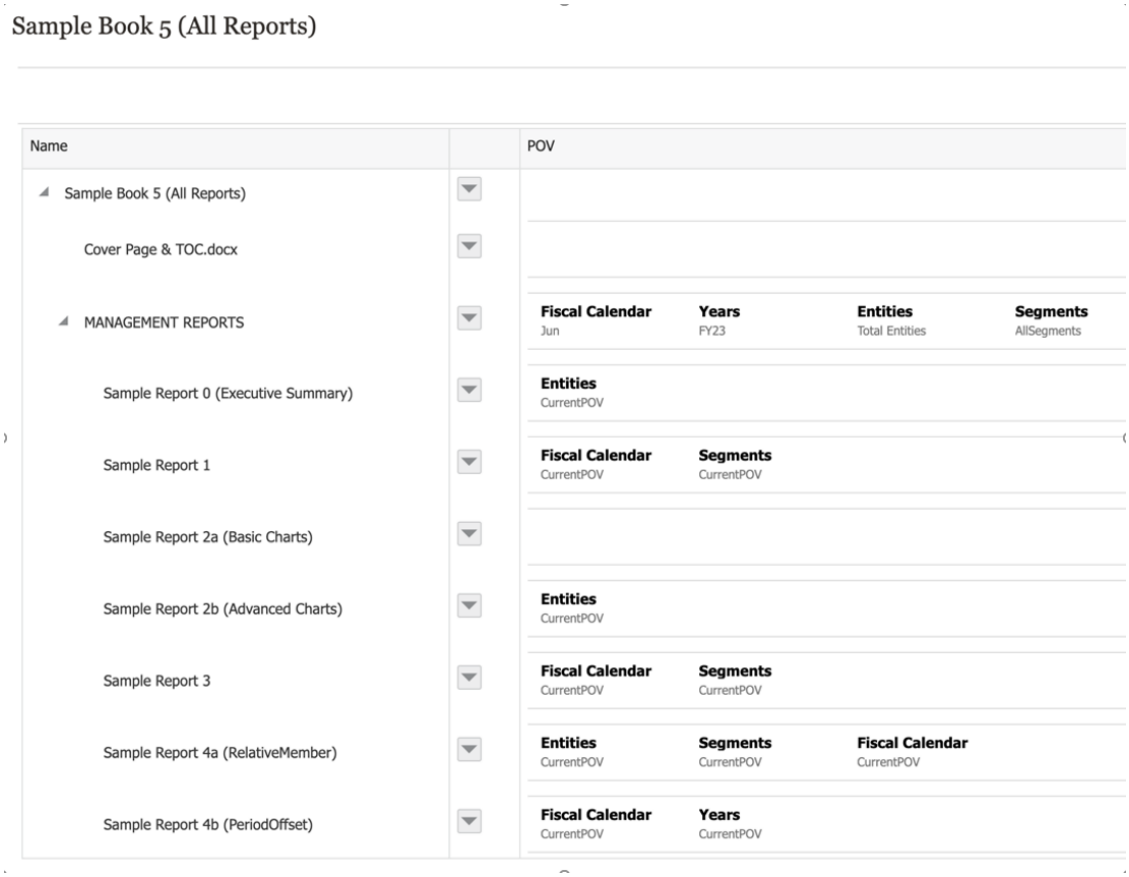
Sample Book 5 について

このブックでは、すべてのサンプル・レポートが 1 つのブックに含まれています。2 つの**セクション**が含まれており、2 種類のサンプル・レポート(**「Reports」**と**「Notes Reports」**)をグループ化しています。

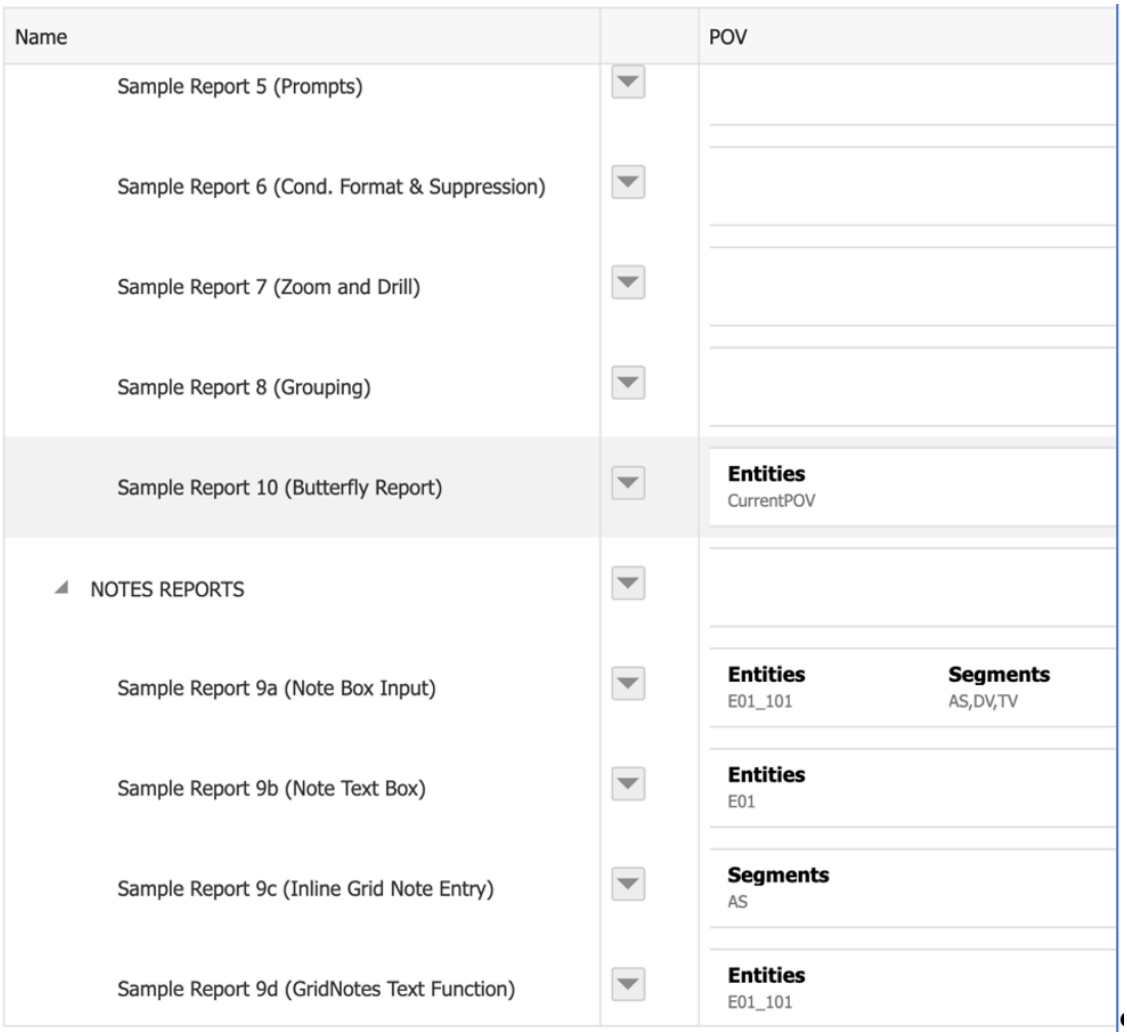
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

レポートの目次ヘッダーには、主に、ArtifactName()関数によるレポート名が表示されます。一部のレポートでは、レポート・ディメンションの 1 つまたは 2 つのメンバー別名も表示されます。

ブック・デザイナ・ビュー:



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



目次表示:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

Table of Contents

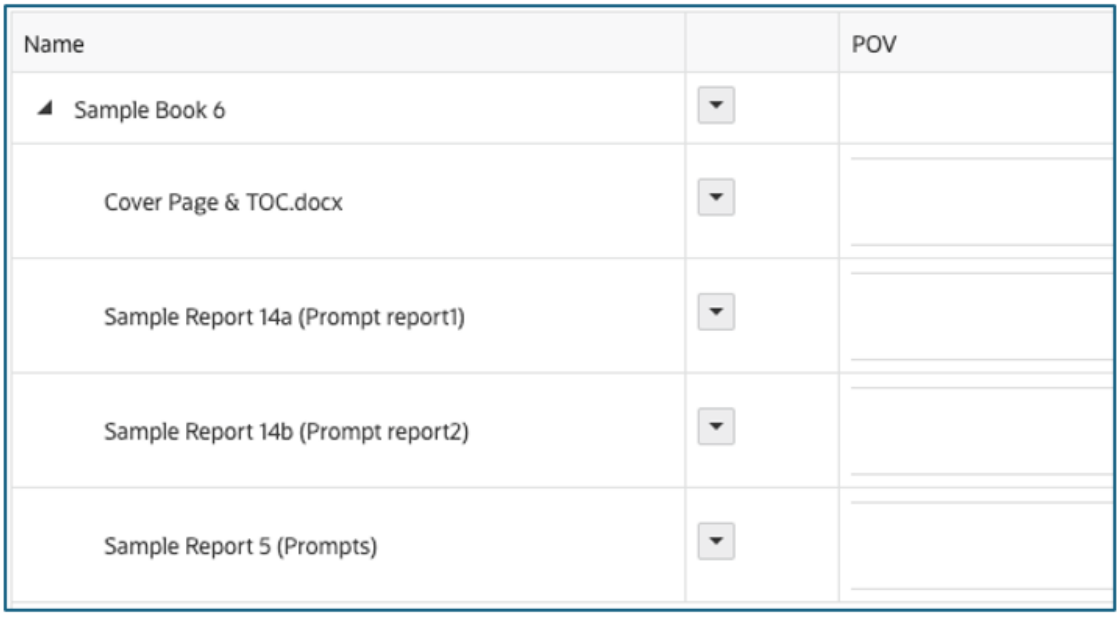
MANAGEMENT REPORTS *3*
Sample Report 0 (Executive Summary) 3
Sample Report 1 4
Sample Report 2a (Basic Charts) 5
Sample Report 2b (Advanced Charts) 6
Sample Report 3 9
Sample Report 4a (RelativeMember) 10
Sample Report 4b (PeriodOffset) 11
Sample Report 5 (Prompts) 12
Sample Report 6 (Cond. Format & Suppression) 14
Sample Report 7 (Zoom and Drill) 15
Sample Report 8 (Grouping) 16
Sample Report 10 (Butterfly Report) ; Total Entities 19
NOTES REPORTS *20*
Sample Report 9a (Note Box Input): USA, Audio Systems 20
Sample Report 9a (Note Box Input): USA, Digital Video 21
Sample Report 9a (Note Box Input): USA, Televisions 22
Sample Report 9b (Note Text Box): North America 23
Sample Report 9c (Inline Grid Note Entry): Audio Systems 24
Sample Report 9d (GridNotes Text Function): USA 25

Sample Book 6 について

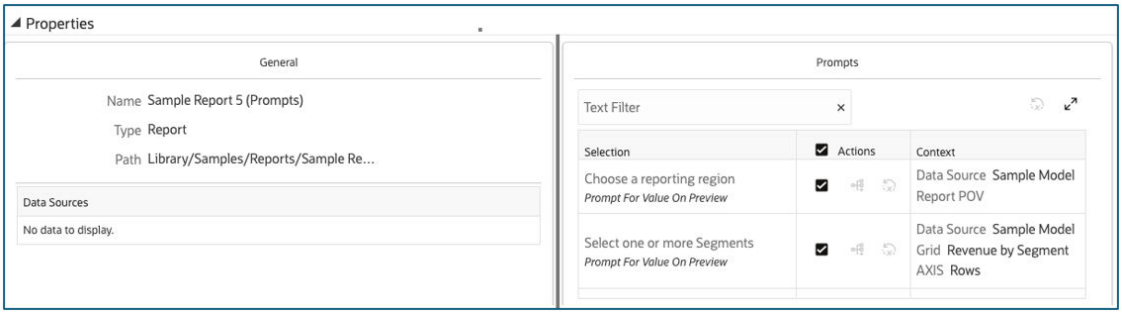
このブックにはプロンプトを使用する 3 つのレポートが含まれており、このブックを使用して、プロンプト機能に対するエンド・ユーザー応答を示しています。

ブック・デザイナ・ビュー:

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



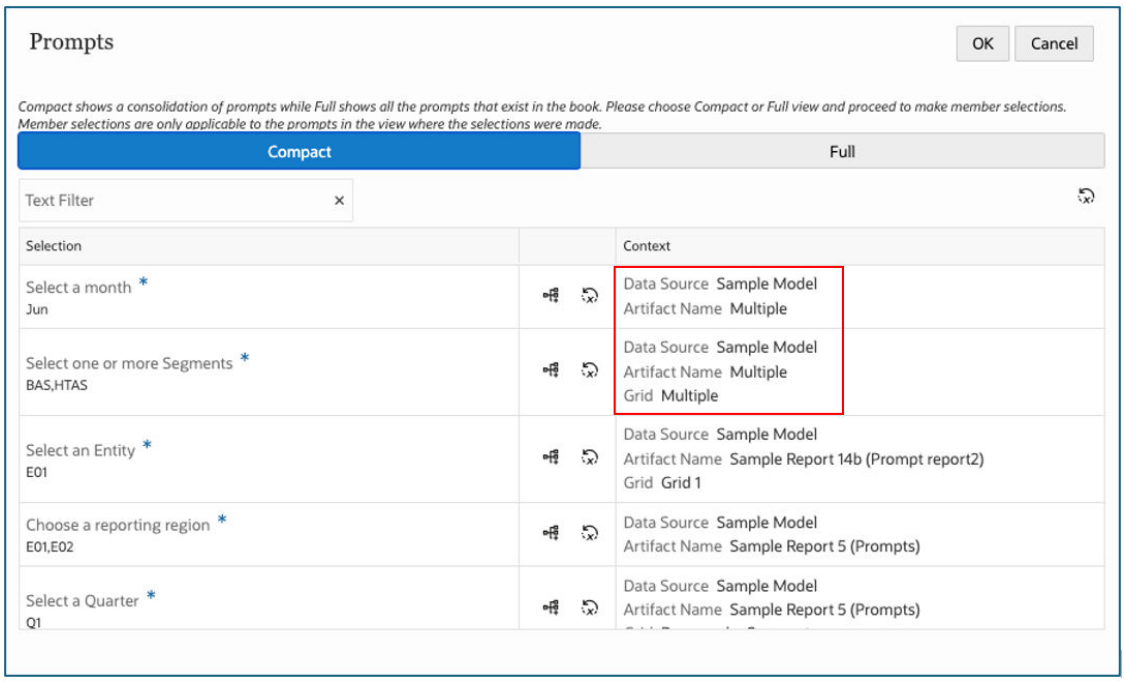
> **ノート**
>
> すべてのレポートのすべてのプロンプトで 、**「プレビュー時の値のプロンプト」**が有効になっています。



プレビュー:

プレビュー時に、「プロンプト」ダイアログの**「コンパクト」**モードでは、レポート間で共通のプロンプトが組み合されることに注意してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



サンプル・バースティング定義ファイルのレビュー

Narrative Reporting では、バースティング定義の使用方法の学習に役立つサンプルが提供されています。

ノート: この項では、サンプル・バースティング CSV ファイルへの参照は、Narrative Reporting デプロイメントでのみ使用できます。

サービス管理者によってサンプル・コンテンツがデプロイされた後、サンプル・バースティング定義をレビューできます。詳細は、*Narrative Reporting の管理*のサンプルのインストールを参照してください。

サンプルをガイドラインとして使用して、独自のバースティング定義を作成します。

サンプル・バースティング・ファイルには、次のものがあります。

- サンプル・ターゲット配布ファイル:
  - `bursting_file_segments.csv`

    サンプル・バースティング定義 1 で使用されるこのターゲット配布 CSV ファイルには、**セグメント**・ディメンションの `level 0` メンバー、および最初の 5 つのメンバーの架空の(実際にはない)ユーザー ID と E メール・アドレスが含まれています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

member	user_names	group_names	external_emails	user_emails	group_emails
BAS	user0001		jane.q.public@company.com	user0001	
HTAS	user0002		jane.q.public@company.com	user0002	
BB	user0003		jane.q.public@company.com	user0003	
PCD	user0004		zachary.smith@company.com	user0004	
MP3	user0005		zachary.smith@company.com	user0005	
DV1000					
DV2000					
DV3000					
DV4000					
DV5000					
TVHDTV					
SmartTV					
ProjTV					
PLTV					
IN					
SC					
RP					
NoSegment					

  - `bursting_file_empty.csv`

    このターゲット配布 CSV ファイルには列見出しのみが含まれているため、新しい**ターゲット配布**ファイルを作成するための開始ポイントとして使用できます。

member	user_names	group_names	external_emails	user_emails	group_emails

- サンプル・バースティング定義ファイル:
  - **サンプル・バースティング定義 1**
  - **サンプル・バースティング定義 2**
  - **サンプル・バースティング定義 3**

サンプル・バースティング定義

これらのサンプル・バースティング定義は、**成功**および**失敗**を伝える通知に架空の(実際にはない)E メール・アドレスを使用し、ライブラリに公開されるすべての出力ファイルの**ルート・フォルダ**として **Samples** フォルダを利用します。

すべてのサンプル・バースティング定義ファイルは、フォルダ・パスに `ArtifactName()`というテキスト関数を使用し、ファイルは**ルート・フォルダ**の下に作成され、すべての出力ファイルが格納されます。

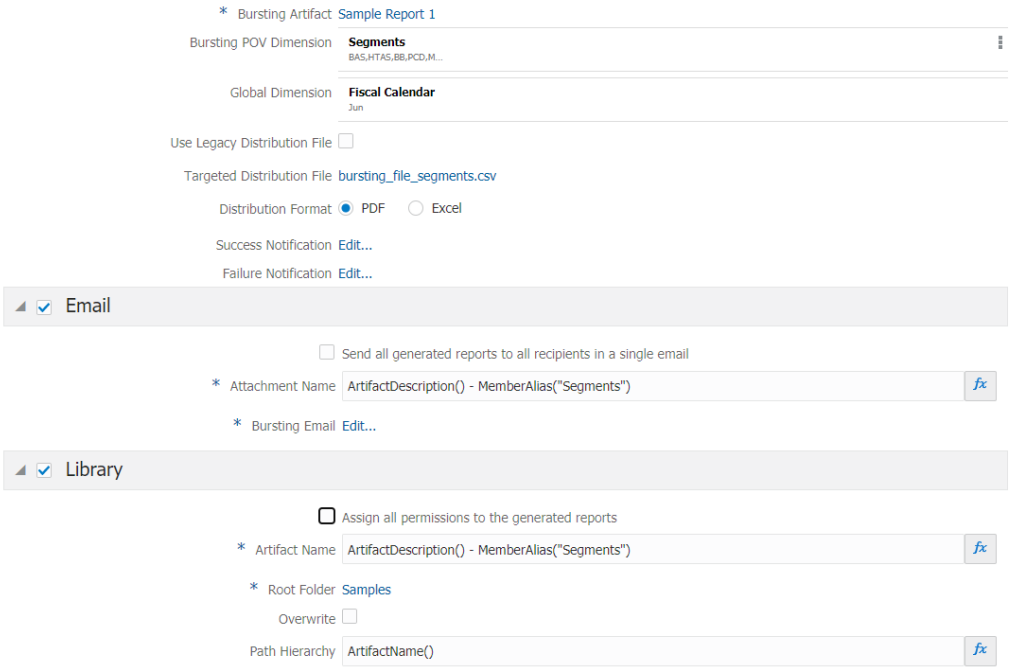
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

サンプル・バースティング定義 1

サンプル・バースティング定義 1 には、**セグメント**・ディメンション全体でレポートの出力をバースティングするための**ターゲット配布ファイル**が含まれており、出力ファイルをそれぞれのユーザーに E メールで送信し、出力ファイルをライブラリに公開します。

このバースティング定義は、**Sample Report 1** をバースティング・アーティファクトとして使用し、`bursting_file_segments.csv` ファイルを**ターゲット配布**ファイルとして利用し、**バースティング POV ディメンション**で 5 つの**セグメント**・メンバーが選択されています。

サンプル・バースティング定義 1 の選択を示した、次のイメージを確認してください。



次の例を見てみましょう。

- **会計カレンダ**・ディメンションは**グローバル・ディメンション**で、**「6 月」**が選択されています
- **「E メール」**と**「ライブラリ」**の両方のチャネルが選択され、次の情報が指定されています
  - **「E メール」**の**「添付名」**フィールドに、`ArtifactDescription() - MemberAlias("Segments")`というテキストが表示されています。
  - **「ライブラリ」**の**「アーティファクト名」**フィールドに、`ArtifactDescription() - MemberAlias("Segments")`というテキストが表示されています。
- 結果の PDF ファイル名は、**レポートの摘要**と**セグメント・メンバー名**に基づいて表示されます。例: `Income Statement Act vs Plan - Bookshelf Audio System.pdf`

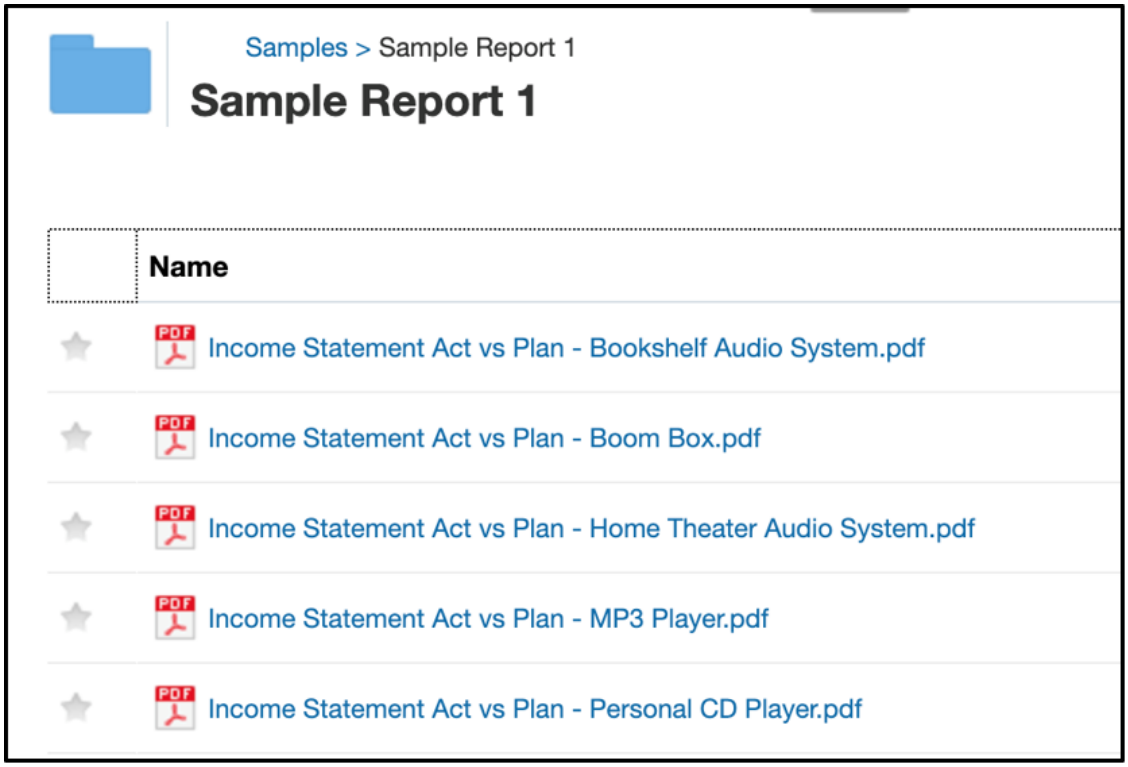
サンプル・バースティング定義を実行すると、次のようになります。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- バースティング POV ディメンションで選択されている 5 つの**セグメント**について出力ファイルが生成されます。
- **「E メール」**チャネルでは、external_emails と user_emails の両方の列の各メンバーにリストされている配布ファイルの E メール・アドレスで、それぞれのユーザーに、対応する出力ファイルが E メールで送信されます。

  たとえば、**BAS** メンバーの場合は、jane.q.public@example.com および user0001 に結果の出力が E メールで送信されます。
- **「ライブラリ」**チャネルでは、5 つの出力ファイルはすべて(**「アーティファクト名」**および**「パス階層」**で使用されるテキスト関数の結果として)**ルート・フォルダ** - **Samples** の **Sample Report 1** サブフォルダの下のライブラリに公開されます。

  ライブラリへのアクセス権限は、user_names 列の配布ファイルに基づいて出力ごとに付与されます。たとえば、**BAS** メンバーの場合は、user0001 に結果の出力へのアクセス権が付与されます。
- **「成功通知」**に指定されている E メール・アドレス(jaime.sommers@example.com)に、バースティング定義の成功した実行の情報が記載された E メールが送信されます。



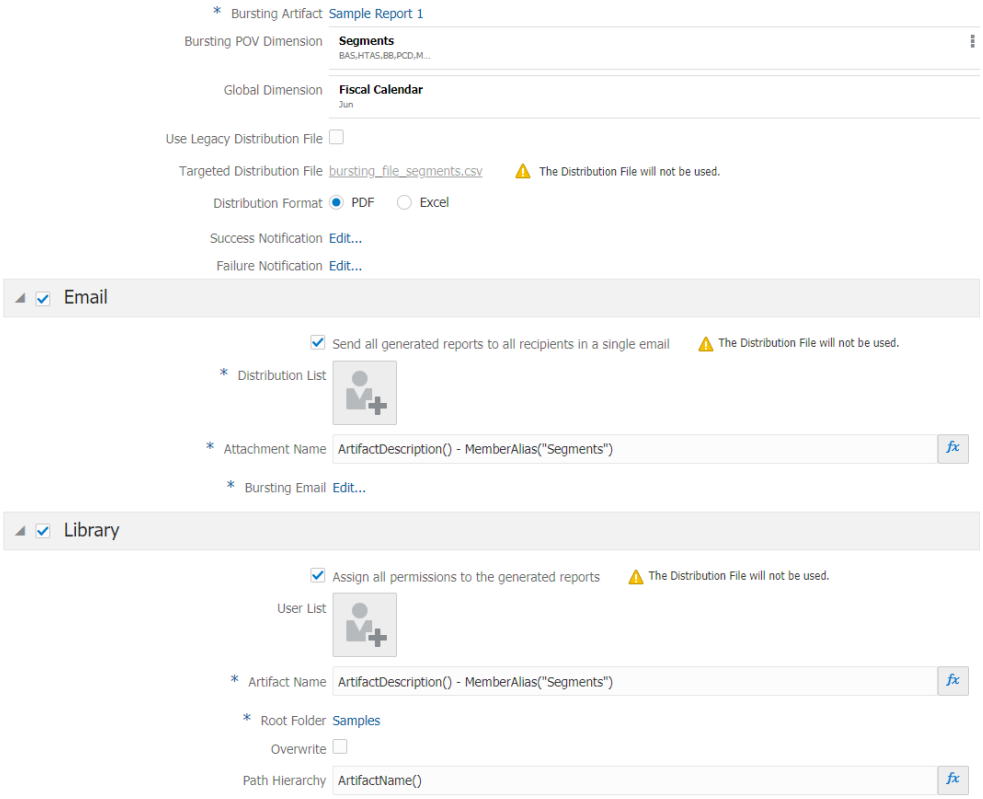
サンプル・バースティング定義 2

このサンプル・バースティング定義は、**ターゲット配布**ファイルなしで**セグメント**・ディメンション全体でレポートの出力を生成し、出力ファイルを指定のユーザーに E メールで送信し、出力ファイルをライブラリに公開します。

このバースティング定義では、**Sample Report 1** をバースティング・アーティファクトとして使用し、**バースティング POV ディメンション**で 5 つの**セグメント**・メンバーが選択されています。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

サンプル・バースティング定義 2 の選択を示した、次のイメージを確認してください。



次の例を見てみましょう。

- **会計カレンダ**・ディメンションは**グローバル・ディメンション**で、**「6 月」**が選択されています
- **「E メール」**と**「ライブラリ」**の両方のチャネルが選択され、次の情報が指定されています
  - **「E メール」**の**「添付名」**フィールドに、`ArtifactDescription() - MemberAlias("Segments")`というテキストが表示されています。
  - **「ライブラリ」**の**「アーティファクト名」**フィールドに、`ArtifactDescription() - MemberAlias("Segments")`というテキストが表示されています。
- 結果の出力ファイル名は、**レポートの摘要**と**セグメント・メンバー名**に基づいて表示されます。例: `Income Statement Act vs Plan - Bookshelf Audio System.pdf`

サンプル・バースティング定義を実行すると、次のようになります。

- バースティング POV ディメンションで選択されている 5 つの**セグメント**について出力ファイルが生成されます。
- **「E メール」**チャネルでは、**「生成されたすべてのレポートを 1 つのメールですべての受信者に送信」**オプションが選択され、**「配布ファイル」**は使用されず、**「配布リスト」**に指定されている 2 人のユーザーの E メール(`zachary.smith@example.com` と `jane.q.public@example.com` の両方)に、5 つの出力ファイルすべてが添付された E メールが送信されます。

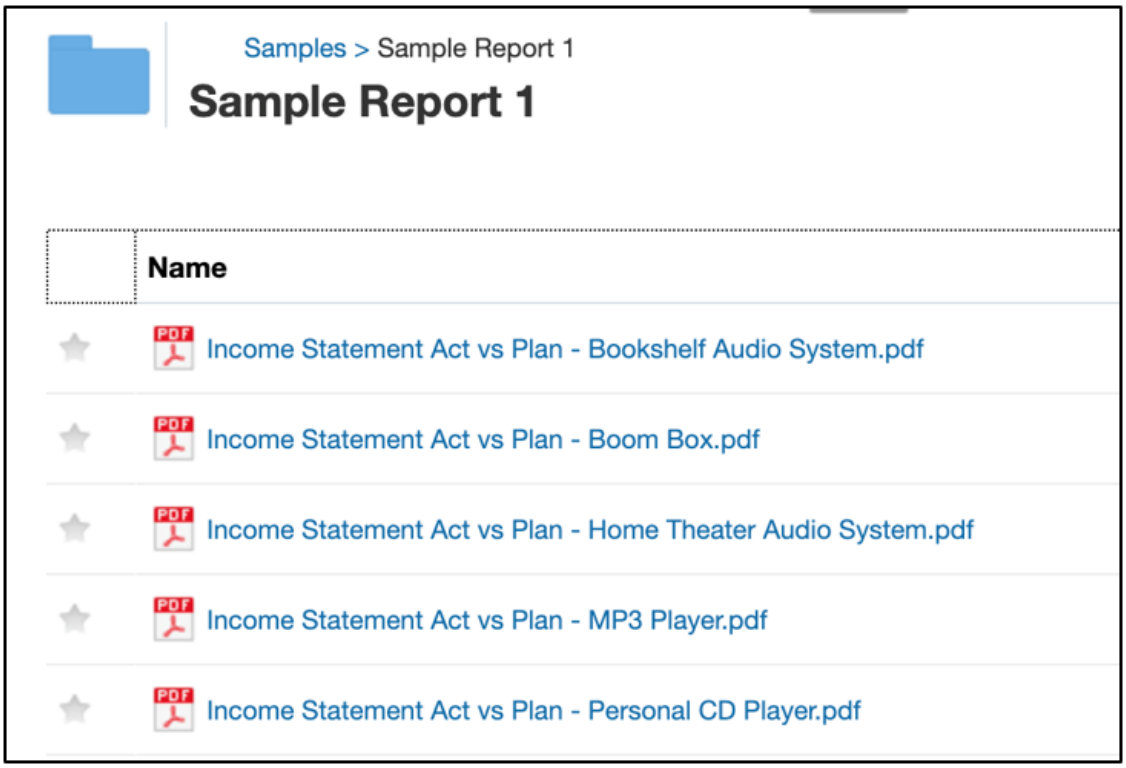
Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

- **「ライブラリ」**チャネルでは、**「生成されたレポートへのすべての権限の割当」**オプションが選択され、**「配布ファイル」**は使用されません。**「ユーザー・リスト」**に指定されているユーザーにのみ、結果の出力ファイルへの権限が付与されます。

> **ⓘ ノート**
>
> これはサンプル・バースティング・ファイルであり、各顧客のシステムには異なるユーザーがいるため、**「ユーザー・リスト」**にシステム・ユーザーはいません。

5 つの出力ファイルはすべて(**「アーティファクト名」**および**「パス階層」**で使用されるテキスト関数の結果として)**ルート・フォルダ** - **Samples** の **Sample Report 1** サブフォルダの下のライブラリに公開されます。

- **「成功通知」**に指定されている E メール・アドレス(`jaime.sommers@example.com`)に、バースティング定義の成功した実行の情報が記載された E メールが送信されます。



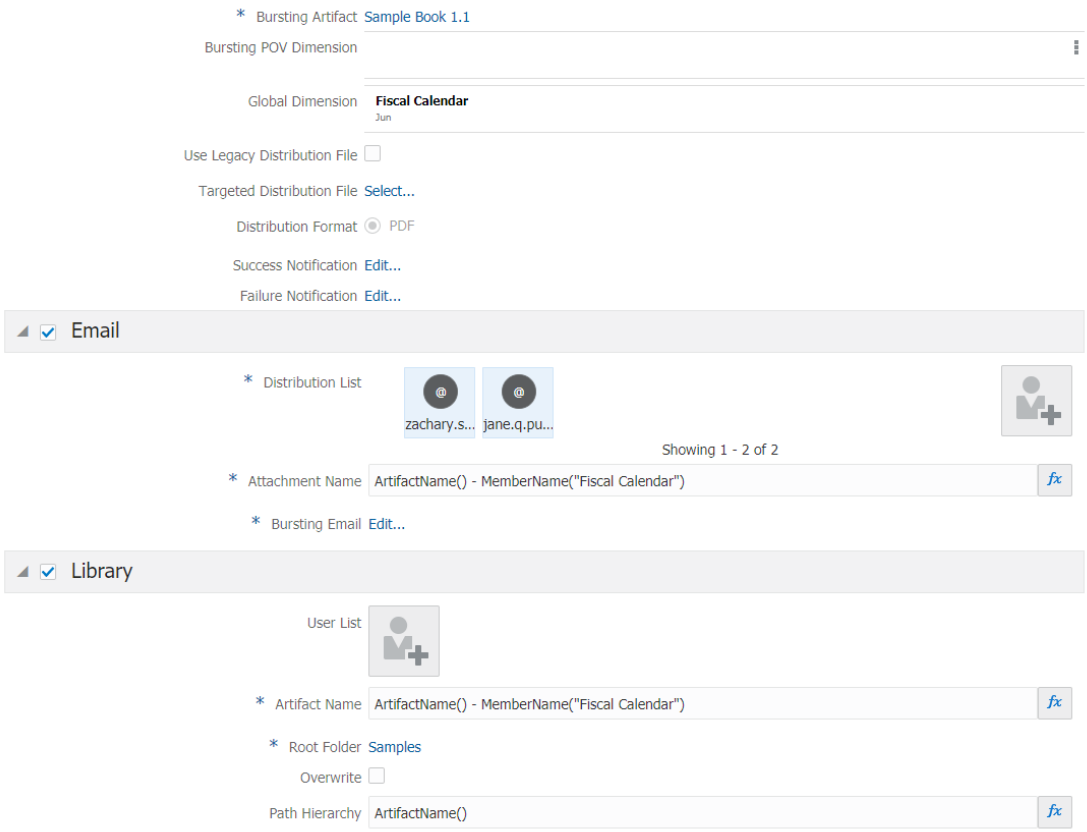
サンプル・バースティング定義 3

このサンプル・バースティング定義は、ディメンション全体でのバースティングなしでブックの単一の出力を生成し、指定されたユーザーに結果の出力ファイルを E メールで送信し、出力ファイルをライブラリに公開します。

このバースティング定義では、**Sample Book 1.1** をバースティング・アーティファクトとして使用し、バースティング POV ディメンションを**「なし」**に設定しているため、1 つの出力ファイルのみが生成され、*ターゲット配布ファイルは使用されません。*

サンプル・バースティング定義 3 の選択を示した、次のイメージを確認してください。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.



次の例を見てみましょう。

- **会計カレンダ**・ディメンションは**グローバル・ディメンション**で、**「6 月」**が選択されています
- **「E メール」**と**「ライブラリ」**の両方のチャネルが選択され、次の情報が指定されています
  - **「E メール」**の**「添付名」**フィールドに、`ArtifactName() - MemberName("Fiscal Calendar")`というテキストが表示されています。
  - **「ライブラリ」**の**「アーティファクト名」**フィールドに、`ArtifactName() - MemberName("Fiscal Calendar")`というテキストが表示されています。
- 結果の出力ファイル名は、**ブック名**と**会計カレンダ・メンバー名**に基づいて表示されます。例: `Sample Book 1.1 – June.pdf`

サンプル・バースティング定義を実行すると、次のようになります。

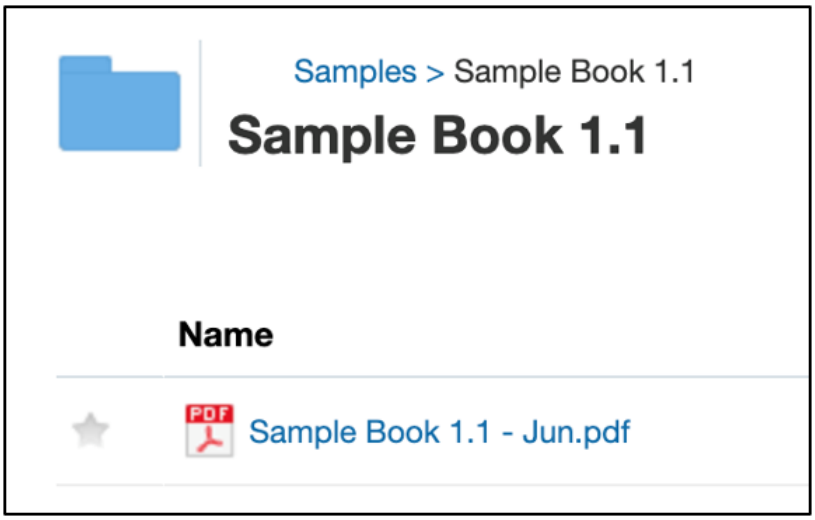
- 「バースティング POV ディメンション」が**「なし」**に設定され、複数のメンバー間でのバースティングが使用できないため、1 つの出力ファイルが生成されます。
- **「E メール」**チャネルでは、**「配布ファイル」**は使用されないため、**「配布リスト」**に指定されている 2 人のユーザーの E メール(`zachary.smith@example.com` と `jane.q.public@example.com` の両方)に、1 つの出力ファイルのみが添付された E メールが送信されます。
- **「ライブラリ」**チャネルでは、**「配布ファイル」**は使用されず、**「ユーザー・リスト」**に指定されているユーザーにのみ、結果の出力ファイルへの権限が付与されます。

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

> **ノート**
>
> これはサンプル・バースティング・ファイルです。各顧客のシステムには異なるユーザーがいるため、**「ユーザー・リスト」**にシステム・ユーザーはいません。

出力ファイルは(**「アーティファクト名」**および**「パス階層」**で使用されるテキスト関数の結果として)**ルート・フォルダ** - **Samples** の **Sample Book 1.1** サブフォルダの下の**ライブラリ**に公開されます。

- **「成功通知」**に指定されている E メール・アドレス(`jaime.sommers@example.com`)に、バースティング定義の成功した実行の情報が記載された E メールが送信されます。



Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.